２０２６年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）

星槎道都大学
SEISA DOHTO UNIVERSITY

目　　次

1401000 哲学　尾崎　有紀 ３Ｑ ・・・ 1
5102100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職(専門)　上原　正希 ３Ｑ ・・・ 3
5201000 美術学概論Ⅰ　竹内　美帆 ３Ｑ ・・・ 5
6209201 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（M）　井坂　肇 後期 ・・・ 7
6209202 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（S）　蝦名　美穂 後期 ・・・ 9
6209203 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（D）　北嶋　洋一 後期 ・・・ 11
6209204 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（A）　伊藤　裕康 後期 ・・・ 13
6331000 ボールパークプログラム　信濃・安藤 後期 ・・・ 15
7706000 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論　山本　一彦 ３Ｑ ・・・ 17
7824000 絵画　浩而　魅論 後期 ・・・ 19
2102001 情報基礎演習Ⅱ（M-A）　薦田　勇智 後期 ・・・ 21
2102002 情報基礎演習Ⅱ（S）　薦田　勇智 後期 ・・・ 23
2102003 情報基礎演習Ⅱ（D）　薦田　勇智 後期 ・・・ 25
2102004 情報基礎演習Ⅱ（A）　伊藤　裕康 後期 ・・・ 27
3202101 ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ（M）　河田　一郎 ４Ｑ ・・・ 29
3202102 ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ（S・D・A）　河田　一郎 ４Ｑ ・・・ 31
4102001 健康科学（M）　石井　祐治 ４Ｑ ・・・ 33
4102002 健康科学（S）　尾西　則昭 ４Ｑ ・・・ 35
4102003 健康科学（D・A）　石井　祐治 ４Ｑ ・・・ 37
5103100 社会保障Ⅰ　上原　正希 ３Ｑ ・・・ 39
5202000 美術学概論Ⅱ　寺嶋　弘道 ３Ｑ ・・・ 41
5302000 建築設計製図　佐々木　哲之 後期 ・・・ 43
7211001 専門演習ＩＢ　由水　伸 後期 ・・・ 45
7211002 専門演習ＩＢ　信濃　吉彦 後期 ・・・ 47
7211003 専門演習ＩＢ　河野　善文 後期 ・・・ 49
7211008 専門演習ＩＢ　青山　浩之 後期 ・・・ 51
7211009 専門演習ＩＢ　石山　玄幸 後期 ・・・ 53
7211010 専門演習ＩＢ　天野　雅斗 後期 ・・・ 55
7211011 専門演習ＩＢ　石井　祐治 後期 ・・・ 57
7211012 専門演習ＩＢ　篠原　諒介 後期 ・・・ 59
7211015 専門演習ＩＢ　岩立　顕一郎 後期 ・・・ 61
7211016 専門演習ＩＢ　薦田　勇智 後期 ・・・ 63
7211017 専門演習ＩＢ　守屋　俊甫 後期 ・・・ 65
7211064 専門演習ＩＢ　藤根　収 後期 ・・・ 67
7211070 専門演習ＩＢ　西野　克俊 後期 ・・・ 69
7211071 専門演習ＩＢ　畠山　明子 後期 ・・・ 71
7211074 専門演習ＩＢ　堀川　厚志 後期 ・・・ 73
7211075 専門演習ＩＢ　宮﨑　剛司 後期 ・・・ 75
7211076 専門演習ＩＢ　松下　守邦 後期 ・・・ 77
7211077 専門演習ＩＢ　千葉　聡美 後期 ・・・ 79
7211078 専門演習ＩＢ　蝦名　美穂 後期 ・・・ 81
7211079 専門演習ＩＢ　柳内　景太 後期 ・・・ 83
7305201 基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　林　春生 ４Ｑ ・・・ 85
7385160 専門研究ＩＢ　北嶋　洋一 後期集中 ・・・ 87
7385161 専門研究ＩＢ　北嶋　洋一 後期集中 ・・・ 89
7385164 専門研究ＩＢ　安田　祐造 後期集中 ・・・ 91
7385165 専門研究ＩＢ　林　春生 後期集中 ・・・ 93
7385166 専門研究ＩＢ　梅田　力 後期集中 ・・・ 95
7385168 専門研究ＩＢ　三上　いずみ 後期集中 ・・・ 97
7385170 専門研究ＩＢ　竹内　美帆 後期集中 ・・・ 99
7385171 専門研究ＩＢ　浩而　魅論 後期集中 ・・・ 101
7514000 建築設計演習Ⅱ　君　興治 後期 ・・・ 103
7543000 建築表現Ⅱ　安藤　淳一 後期 ・・・ 105
7624061 建築研究Ⅱ　安藤　淳一 後期集中 ・・・ 107
7624062 建築研究Ⅱ　伊藤　裕康 後期集中 ・・・ 109
7624063 建築研究Ⅱ　佐藤　善太郎 後期集中 ・・・ 111
7624066 建築研究Ⅱ　長森　正 後期集中 ・・・ 113
7624067 建築研究Ⅱ　小笠原　健 後期集中 ・・・ 115
7624068 建築研究Ⅱ　君　興治 後期集中 ・・・ 117
7624069 建築研究Ⅱ　向井　正伸 後期集中 ・・・ 119
7624071 建築研究Ⅱ　赤木　良子 後期集中 ・・・ 121
1405001 経済学（S）　河野　善文 ４Ｑ ・・・ 123
1405002 経済学（M・D・A）　阪東　峻一 ４Ｑ ・・・ 125
2103300 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ基礎　薦田　勇智 ３Ｑ ・・・ 127
5104100 社会保障Ⅱ　上原　正希 ４Ｑ ・・・ 129
5304000 建築ｼｽﾃﾑ論　向井　正伸 ４Ｑ ・・・ 131
5406001 ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論　守屋　俊甫 ４Ｑ ・・・ 133
6102061 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　竹内　美帆 後期 ・・・ 135
6102062 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　後藤　啓倫 後期 ・・・ 137
6102063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　戸佐　晃一 後期 ・・・ 139
6102068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　三嶋　康嗣 後期 ・・・ 141
6102069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　井坂　肇 後期 ・・・ 143
6102071 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　石井　祐治 後期 ・・・ 145
6102072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　篠原　諒介 後期 ・・・ 147
6102074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　杉本　大輔 後期 ・・・ 149
6102075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　横田　肇 後期 ・・・ 151
6102076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　櫻井　美帆子 後期 ・・・ 153
6102077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　湯浅　頼佳 後期 ・・・ 155
6102078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　尾西　則昭 後期 ・・・ 157
6102079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　西崎　毅 後期 ・・・ 159
6102081 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　宮嶋　達也 後期 ・・・ 161
6102085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　向井　正伸 後期 ・・・ 163
6102086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　佐藤　恵利 後期 ・・・ 165
6102089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　河田　一郎 後期 ・・・ 167
6102090 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　大島　康雄 後期 ・・・ 169
6102093 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　木村　浩紀 後期 ・・・ 171
6102094 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　薦田　勇智 後期 ・・・ 173
6102095 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　佐藤　雅一 後期 ・・・ 175
6102097 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ(再)　河田　一郎 後期 ・・・ 177
6102098 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　安田　祐造 後期 ・・・ 179
6102101 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　浩而　魅論 後期 ・・・ 181
6102102 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　赤木　良子 後期 ・・・ 183
6102103 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　伊藤　裕康 後期 ・・・ 185

6102104 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ　岡田　武志 後期 ・・・ 187
7711001 経済学概論　河野　善文 ３Ｑ ・・・ 189
7726001 基礎統計演習（Ｍ）　河野　善文 後期 ・・・ 191
7726002 基礎統計演習（Ｓ）　杉本　大輔 後期 ・・・ 193
7726003 基礎統計演習（Ｄ・Ａ）　伊藤　裕康 後期 ・・・ 195
2103500 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　薦田　勇智 後期 ・・・ 197
3104101 英語入門Ⅱ（Ｍ）　岡島　徳昭 ４Ｑ ・・・ 199
3104102 英語入門Ⅱ（Ｓ）　横田　肇 ４Ｑ ・・・ 201
3104103 英語入門Ⅱ（Ｄ・Ａ）　宮嶋　達也 ４Ｑ ・・・ 203
3204101 中国語入門Ⅱ　孫　暢 ４Ｑ ・・・ 205
5105100 社会学と社会ｼｽﾃﾑ　松下　守邦 ４Ｑ ・・・ 207
5207001 ﾃﾞｯｻﾝⅡ（Ｄ-Ｍ）　山本　真紀 後期 ・・・ 209
5207002 ﾃﾞｯｻﾝⅡ（Ｄ-Ｗ）　山本　真紀 後期 ・・・ 211
5308000 建築構造力学Ⅱ　齊藤　透 ３Ｑ ・・・ 213
6333000 防災・治水プログラム　安藤　淳一 後期 ・・・ 215
7213001 専門演習ⅡＢ　由水　伸 後期集中 ・・・ 217
7213002 専門演習ⅡＢ　信濃　吉彦 後期集中 ・・・ 219
7213003 専門演習ⅡＢ　河野　善文 後期集中 ・・・ 221
7213006 専門演習ⅡＢ　岡島　徳昭 後期集中 ・・・ 223
7213008 専門演習ⅡＢ　青山　浩之 後期集中 ・・・ 225
7213009 専門演習ⅡＢ　石山　玄幸 後期集中 ・・・ 227
7213010 専門演習ⅡＢ　天野　雅斗 後期集中 ・・・ 229
7213011 専門演習ⅡＢ　石井　祐治 後期集中 ・・・ 231
7213012 専門演習ⅡＢ　篠原　諒介 後期集中 ・・・ 233
7213064 専門演習ⅡＢ　藤根　収 後期集中 ・・・ 235
7213069 専門演習ⅡＢ　吉江　幸子 後期集中 ・・・ 237
7213070 専門演習ⅡＢ　西野　克俊 後期集中 ・・・ 239
7213071 専門演習ⅡＢ　畠山　明子 後期集中 ・・・ 241
7213074 専門演習ⅡＢ　松下　守邦 後期集中 ・・・ 243
7213075 専門演習ⅡＢ　堀川　厚志 後期集中 ・・・ 245
7213077 専門演習ⅡＢ　宮﨑　剛司 後期集中 ・・・ 247
7213079 専門演習ⅡＢ　蝦名　美穂 後期集中 ・・・ 249
7304000 立体構成Ⅱ　梅田　力 後期 ・・・ 251
7305600 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅱ　佐藤　正人 後期 ・・・ 253
7389068 専門研究ⅡＢ　三上　いずみ 後期集中 ・・・ 255
7389161 専門研究ⅡＢ　林　春生 後期集中 ・・・ 257
7389164 専門研究ⅡＢ　安田　祐造 後期集中 ・・・ 259
7389165 専門研究ⅡＢ　北嶋　洋一 後期集中 ・・・ 261
7389166 専門研究ⅡＢ　梅田　力 後期集中 ・・・ 263
7389172 専門研究ⅡＢ　浩而　魅論 後期集中 ・・・ 265
7389173 専門研究ⅡＢ　北嶋　洋一 後期集中 ・・・ 267
7389174 専門研究ⅡＢ　堤　美穂子 後期集中 ・・・ 269
7626061 建築研究Ⅳ　安藤　淳一 後期集中 ・・・ 271
7626062 建築研究Ⅳ　伊藤　裕康 後期集中 ・・・ 273
7626063 建築研究Ⅳ　佐藤　善太郎 後期集中 ・・・ 275
7626064 建築研究Ⅳ　佐々木　哲之 後期集中 ・・・ 277
7626066 建築研究Ⅳ　長森　正 後期集中 ・・・ 279
7626067 建築研究Ⅳ　小笠原　健 後期集中 ・・・ 281
7626068 建築研究Ⅳ　君　興治 後期集中 ・・・ 283
7626069 建築研究Ⅳ　向井　正伸 後期集中 ・・・ 285
7626071 建築研究Ⅳ　赤木　良子 後期集中 ・・・ 287
7719000 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅰ　篠原　諒介 ３Ｑ ・・・ 289
7823000 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾂｰﾙ　伊藤　裕康 後期集中 ・・・ 291
3301001 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（Ｍ）　岡島　徳昭 ４Ｑ ・・・ 293
3301002 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（Ｓ）　信濃　吉彦 ４Ｑ ・・・ 295
3301003 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（Ｄ・Ａ）　宮嶋　達也 ４Ｑ ・・・ 297
5106100 心理学と心理的支援　柳内　景太 ３Ｑ ・・・ 299
6104063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　戸佐　晃一 後期 ・・・ 301
6104065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　佐藤　和裕 後期 ・・・ 303
6104068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　三嶋　康嗣 後期 ・・・ 305
6104069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　井坂　肇 後期 ・・・ 307
6104072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　篠原　諒介 後期 ・・・ 309
6104073 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　後藤　啓倫 後期 ・・・ 311
6104074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　杉本　大輔 後期 ・・・ 313
6104075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　横田　肇 後期 ・・・ 315
6104076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　櫻井　美帆子 後期 ・・・ 317
6104077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　湯浅　頼佳 後期 ・・・ 319
6104078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　尾西　則昭 後期 ・・・ 321
6104079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　西崎　毅 後期 ・・・ 323
6104082 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　宮嶋　達也 後期 ・・・ 325
6104085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　向井　正伸 後期 ・・・ 327
6104086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　佐藤　恵利 後期 ・・・ 329
6104089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　大島　康雄 後期 ・・・ 331
6104092 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　竹内　美帆 後期 ・・・ 333
6104093 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　千葉　聡美 後期 ・・・ 335
6104096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　河田　一郎 後期 ・・・ 337
6104097 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　木村　浩紀 後期 ・・・ 339
6104099 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　薦田　勇智 後期 ・・・ 341
6104100 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　石井　祐治 後期 ・・・ 343
6104102 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　安田　祐造 後期 ・・・ 345
6104103 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　塩﨑　大輔 後期 ・・・ 347
6104104 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　浩而　魅論 後期 ・・・ 349
6104105 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　堤　美穂子 後期 ・・・ 351
6104106 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　赤木　良子 後期 ・・・ 353
6104107 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　伊藤　裕康 後期 ・・・ 355
6104108 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　佐藤　雅一 後期 ・・・ 357
6104109 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡＢ　岡田　武志 後期 ・・・ 359
6334000 イラスト・マンガプログラム　佐藤正・三上 後期 ・・・ 361
7038000 発達心理学Ⅱ　蝦名　美穂 ３Ｑ ・・・ 363
7214001 卒業論文　由水　伸 後期集中 ・・・ 365
7214002 卒業論文　信濃　吉彦 後期集中 ・・・ 367
7214003 卒業論文　河野　善文 後期集中 ・・・ 369
7214006 卒業論文　岡島　徳昭 後期集中 ・・・ 371
7214008 卒業論文　青山　浩之 後期集中 ・・・ 373
7214009 卒業論文　石山　玄幸 後期集中 ・・・ 375
7214010 卒業論文　天野　雅斗 後期集中 ・・・ 377
7214011 卒業論文　石井　祐治 後期集中 ・・・ 379
7214012 卒業論文　篠原　諒介 後期集中 ・・・ 381
7214064 卒業論文　藤根　収 後期集中 ・・・ 383
7214069 卒業論文　吉江　幸子 後期集中 ・・・ 385

7214070 卒業論文　西野　克俊 後期集中 ・・・ 387
7214071 卒業論文　畠山　明子 後期集中 ・・・ 389
7214074 卒業論文　松下　守邦 後期集中 ・・・ 391
7214075 卒業論文　堀川　厚志 後期集中 ・・・ 393
7214078 卒業論文　宮﨑　剛司 後期集中 ・・・ 395
7214080 卒業論文　蝦名　美穂 後期集中 ・・・ 397
7390061 卒業制作・研究　林　春生 後期集中 ・・・ 399
7390064 卒業制作・研究　安田　祐造 後期集中 ・・・ 401
7390065 卒業制作・研究　北嶋　洋一 後期集中 ・・・ 403
7390066 卒業制作・研究　梅田　力 後期集中 ・・・ 405
7390068 卒業制作・研究　三上　いずみ 後期集中 ・・・ 407
7390071 卒業制作・研究　浩而　魅論 後期集中 ・・・ 409
7390072 卒業制作・研究　北嶋　洋一 後期集中 ・・・ 411
7390073 卒業制作・研究　堤　美穂子 後期集中 ・・・ 413
7627061 卒業研究　安藤　淳一 後期集中 ・・・ 415
7627062 卒業研究　伊藤　裕康 後期集中 ・・・ 417
7627063 卒業研究　佐藤　善太郎 後期集中 ・・・ 419
7627064 卒業研究　佐々木　哲之 後期集中 ・・・ 421
7627066 卒業研究　長森　正 後期集中 ・・・ 423
7627067 卒業研究　小笠原　健 後期集中 ・・・ 425
7627068 卒業研究　君　興治 後期集中 ・・・ 427
7627069 卒業研究　向井　正伸 後期集中 ・・・ 429
7627071 卒業研究　赤木　良子 後期集中 ・・・ 431
7720000 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅱ　篠原　諒介 ４Ｑ ・・・ 433
7724000 経営戦略論　信濃　吉彦 ３Ｑ ・・・ 435
7846000 財務分析論　石山　玄幸 ４Ｑ ・・・ 437
9113000 社会科・公民科教育法Ⅱ　松下　守邦 後期 ・・・ 439
1406000 社会学（S・D・A）　松下　守邦 ３Ｑ ・・・ 441
1406001 社会学（M）　山本　一彦 ３Ｑ ・・・ 443
3402000 日本語Ⅱ　佐藤　恵利 ４Ｑ ・・・ 445
5110101 児童・家庭福祉　杉本　大輔 ４Ｑ ・・・ 447
5204001 平面構成Ⅱ　北嶋　洋一 後期 ・・・ 449
5209000 西洋美術史Ⅱ　竹内　美帆 ４Ｑ ・・・ 451
6104098 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB（再）　河田　一郎 後期 ・・・ 453
7012200 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習　上原　正希 後期 ・・・ 455
7332000 漫画Ⅱ　三上　いずみ 後期 ・・・ 457
7542000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅠ　伊藤　裕康 後期 ・・・ 459
7712000 日本経済史　阪東　峻一 ３Ｑ ・・・ 461
9108000 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ　塩﨑　大輔 後期 ・・・ 463
9125100 生徒・進路指導論　髙井　雅一 ３Ｑ ・・・ 465
3404000 日本語Ⅳ　佐藤　恵利 ４Ｑ ・・・ 467
7307000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ　堤　美穂子 ４Ｑ ・・・ 469
7713000 西洋経済史　阪東　峻一 ３Ｑ ・・・ 471
7734000 会社法　青山　浩之 ４Ｑ ・・・ 473
7738000 ｽﾎﾟｰﾂ医学　黒川　泰任 ４Ｑ ・・・ 475
9105000 教育課程論　西崎　毅 ４Ｑ ・・・ 477
1403000 外国史　横田　肇 ３Ｑ ・・・ 479
5207201 ﾃﾞｯｻﾝⅣ　橘　春香 後期 ・・・ 481
7085000 保育内容総論　佐藤　慶知 ３Ｑ ・・・ 483
7590000 CAD演習Ⅲ　伊藤　裕康 後期 ・・・ 485
7741000 ｽﾎﾟｰﾂ指導論　髙井　雅一 ３Ｑ ・・・ 487
5108100 権利擁護を支える法制度　神内　秀之介 ３Ｑ ・・・ 489
7311000 工芸実習Ⅱ　楠本　祐弘 後期 ・・・ 491
7544000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅡ　向井　正伸 後期 ・・・ 493
7553000 CAD演習Ⅰ　伊藤　裕康 後期 ・・・ 495
7751001 ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論　尾西　則昭 ３Ｑ ・・・ 497
7860000 観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄⅠ　五ノ井　壽一 ３Ｑ ・・・ 499
9117100 道徳教育の指導法　加藤　隆 後期集中 ・・・ 501
5107100 貧困に対する支援　上原　正希 ３Ｑ ・・・ 503
5404000 経営管理論　信濃　吉彦 ３Ｑ ・・・ 505
6336000 海外研修プログラム　信濃　吉彦 後期 ・・・ 507
7291000 造形表現Ⅰ　浩而　魅論 ４Ｑ ・・・ 509
7568000 建築表現Ⅳ　安藤　淳一 後期 ・・・ 511
9114000 美術科教育法Ⅱ　竹内　美帆 後期 ・・・ 513
5113100 保健医療と福祉　宮﨑　剛司 ３Ｑ ・・・ 515
6337001 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ英語ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（ｻﾌﾞﾒｼﾞｬｰ）　岡島　徳昭 後期集中 ・・・ 517
7289000 音楽表現Ⅰ　小黒　万里子 ３Ｑ ・・・ 519
7365000 彫刻Ⅱ　梅田　力 後期 ・・・ 521
9132000 教育実習Ⅰ　天野　雅斗 後期集中 ・・・ 523
7742000 管理会計論　岩立　顕一郎 ４Ｑ ・・・ 525
9133000 教育実習Ⅱ　天野　雅斗 後期集中 ・・・ 527
9143000 美術科教育法Ⅳ　三上　いずみ 後期 ・・・ 529
7335000 ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　田中　靖之 後期 ・・・ 531
7539100 ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ演習　安藤　淳一 後期 ・・・ 533
9134000 教職実践演習(中・高)　天野　雅斗 後期 ・・・ 535
5115100 社会福祉調査の基礎　杉本　大輔 ４Ｑ ・・・ 537
7569000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅢ　小笠原　健 ４Ｑ ・・・ 539
7581000 鋼構造　長森　正 ３Ｑ ・・・ 541
7751200 障がい者ｽﾎﾟｰﾂⅡ　荒井　秀樹 後期集中 ・・・ 543
7847000 ICTスキル演習Ⅰ（A）　由水　伸 ３Ｑ ・・・ 545
7847001 ICTスキル演習Ⅰ（B）　由水　伸 ３Ｑ ・・・ 547
7058000 知的障害者の心理・生理・病理　堀川　厚志 ４Ｑ ・・・ 549
7319100 ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　北嶋　洋一 後期 ・・・ 551
7583000 建築生産　小笠原　健 ３Ｑ ・・・ 553
9128000 保健体育科教育法Ⅱ　森　靖明 後期 ・・・ 555
7011100 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ　畠山　明子 ４Ｑ ・・・ 557
7571000 建築設計演習Ⅳ　君　興治 後期 ・・・ 559
7753000 ｽﾎﾟｰﾂと栄養　湯浅　頼佳 ４Ｑ ・・・ 561
9129000 保健体育科教育法Ⅲ　髙井　雅一 後期 ・・・ 563
7062000 視覚障害教育総論　木村　浩紀 ３Ｑ ・・・ 565
7319200 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　林　春生 後期 ・・・ 567
7818000 ｺｰﾁﾝｸﾞ方法論　伊藤　博 ４Ｑ ・・・ 569
9131000 保健体育科教育法Ⅳ　髙井　雅一 後期 ・・・ 571
7782400 地域政策論　石山　玄幸 後期 ・・・ 573
9137000 特別な教育的ﾆｰｽﾞの理解とその支援　木村　浩紀 ４Ｑ ・・・ 575
7014100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅱ　上原　正希 後期 ・・・ 577
7573100 建築環境Ⅱ　伊藤　裕康 ３Ｑ ・・・ 579
7822000 写真表現Ⅱ　林　春生 後期 ・・・ 581
7016100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅰ　大島　康雄 後期 ・・・ 583
7059000 肢体不自由教育Ⅰ　千葉　聡美 ３Ｑ ・・・ 585

7586000 建築法規Ⅲ　佐藤　善太郎 ３Ｑ ・・・ 587
7733500 ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論　 ３Ｑ ・・・ 589
7820000 ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅱ　竹内　美帆 後期 ・・・ 591
9139000 介護等体験指導　木村　浩紀 ４Ｑ ・・・ 593
7588000 建築法規Ⅳ　佐藤　善太郎 ４Ｑ ・・・ 595
7028100 精神保健福祉制度論　大島　康雄 ４Ｑ ・・・ 597
7337000 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅡ　浩而　魅論 後期 ・・・ 599
7849000 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ　河野　善文 ３Ｑ ・・・ 601
7022100 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ　上原　正希 ３Ｑ ・・・ 603
7607000 測量学　長森　正 ３Ｑ ・・・ 605
7850000 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅡ　河野　善文 ４Ｑ ・・・ 607
7332100 ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　三上　いずみ ４Ｑ ・・・ 609
7521000 施工管理技士演習Ⅰ　小笠原　健 ４Ｑ ・・・ 611
7851000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅠ　石山　玄幸 ４Ｑ ・・・ 613
7370001 漫画Ⅳ　五十嵐 優美子 後期 ・・・ 615
7557000 応用数学　横山　哲也 ３Ｑ ・・・ 617
7853000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁ演習Ⅰ　石山　玄幸 ３Ｑ ・・・ 619
9138000 総合的な学習の時間の指導法　西崎　毅 ４Ｑ ・・・ 621
7593002 職業指導（A）　横山　哲也 ３Ｑ ・・・ 623
7341000 ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　安藤　淳一 ３Ｑ ・・・ 625
7380000 彫刻Ⅳ　国松・梅田力 後期 ・・・ 627
7856000 ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅡ　阿部　裕樹 ３Ｑ ・・・ 629
7369001 工芸実習Ⅳ（ﾃｷｽﾀｲﾙ）　三上　いずみ 後期 ・・・ 631
7369002 工芸実習Ⅳ（金工）　梅田　力 後期 ・・・ 633
7369003 工芸実習Ⅳ（染色）　中島　義博 後期 ・・・ 635
7369004 工芸実習Ⅳ（版表現）　鳴海　伸一 後期 ・・・ 637
7295000 乳児保育Ⅱ　吉江　幸子 ４Ｑ ・・・ 639
7542300 一級対策製図Ⅱ　小笠原　健 後期 ・・・ 641
7290000 音楽表現Ⅱ　小黒　万里子 ３Ｑ ・・・ 643
7374000 東洋・日本美術史Ⅱ　苫名　真 ３Ｑ ・・・ 645
7482000 保育の計画と評価　吉江　幸子 ３Ｑ ・・・ 647
7296000 子どもの健康と安全　宮崎　剛司 ４Ｑ ・・・ 649
7354000 映像表現Ⅱ　北嶋　洋一 後期 ・・・ 651
7532400 一級建築士演習Ⅲ　小笠原　健 ３Ｑ ・・・ 653
7791000 運動学(運動方法学を含む。)　天野　雅斗 ３Ｑ ・・・ 655
7484000 保育内容演習Ⅱ(人間関係)　松下　守邦 ４Ｑ ・・・ 657
7532500 一級建築士演習Ⅳ　赤木　良子 ４Ｑ ・・・ 659
7322300 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ　林　春生 後期 ・・・ 661
7292000 造形表現Ⅱ　浩而　魅論 ３Ｑ ・・・ 663
7542500 二級対策製図Ⅱ　佐藤　善太郎 後期 ・・・ 665
7293000 言語表現　太田　俊一 ３Ｑ ・・・ 667
7102000 肢体不自由教育Ⅱ　千葉　聡美 ４Ｑ ・・・ 669
7806000 精神保健Ⅱ　上原　正希 ３Ｑ ・・・ 671
7103000 知的障害教育Ⅰ　藤根　収 ３Ｑ ・・・ 673
7337200 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅣ　佐藤　正人 後期 ・・・ 675
7522400 二級建築士演習Ⅲ　佐藤　善太郎 ３Ｑ ・・・ 677
7319600 ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅠ　梅田　真紀 ３Ｑ ・・・ 679
7522500 二級建築士演習Ⅳ　佐藤　善太郎 ４Ｑ ・・・ 681
7319700 ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅡ　梅田　真紀 ４Ｑ ・・・ 683
7098000 自然地理学Ⅱ　鈴木　正章 後期集中 ・・・ 685
7801100 水泳　戸佐　晃一 後期集中 ・・・ 687
7616000 建築学特講Ⅲ　柿沼　博彦 後期 ・・・ 689
7018100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅲ　大島　康雄 後期 ・・・ 691
7318300 WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　山腰　雅樹 ３Ｑ ・・・ 693
7617000 建築学特講Ⅳ　柿沼　博彦 後期 ・・・ 695
7019100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅰ　大島　康雄 後期集中 ・・・ 697
7319300 WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　山腰　雅樹 ４Ｑ ・・・ 699
7794100 球技Ⅲ(ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ)　戸佐　晃一 後期 ・・・ 701
7020100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅱ　大島　康雄 後期集中 ・・・ 703
7026100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ　西野　克俊 ４Ｑ ・・・ 705
7803100 球技Ⅴ(ﾗｸﾞﾋﾞｰ)　佐藤　和裕 後期 ・・・ 707
7807100 ﾀﾞﾝｽ　是枝　亮 後期 ・・・ 709
7790100 柔道　三嶋　康嗣 後期 ・・・ 711
7120000 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　大島　康雄 後期 ・・・ 713
7297000 社会的養護Ⅱ　中瀬　陽一 ３Ｑ ・・・ 715
7487000 保育内容演習Ⅴ(表現)　笠見　康大 ３Ｑ ・・・ 717
7142000 障害児保育Ⅱ　坂上　俊樹 ４Ｑ ・・・ 719
7798000 ｽﾎﾟｰﾂ生理学　天野　雅斗 ３Ｑ ・・・ 721
7140000 保育実習Ⅰ　湯浅　頼佳 後期集中 ・・・ 723
7377000 美術学特講Ⅲ　北嶋　洋一 ３Ｑ ・・・ 725
7378000 美術学特講Ⅳ　北嶋　洋一 ４Ｑ ・・・ 727
7121000 社会心理学　松下　守邦 ４Ｑ ・・・ 729
7732000 国際政治論　後藤　啓倫 ３Ｑ ・・・ 731
7730000 国際経済論　小早川　俊哉 ４Ｑ ・・・ 733
7782300 金融論　阪東　峻一 ３Ｑ ・・・ 735
7810000 倫理学概論　尾崎　有紀 ４Ｑ ・・・ 737
7031100 社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント　上原　正希 ３Ｑ ・・・ 739
7176100 精神医学と精神医療Ⅱ　伊東　隆雄 後期 ・・・ 741
7168000 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ　大島　康雄 後期 ・・・ 743
7172000 精神保健福祉援助実習Ⅲ　大島　康雄 後期集中 ・・・ 745
7284000 ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習　上原　正希 後期集中 ・・・ 747
7179000 保育実習Ⅱ　吉江　幸子 後期集中 ・・・ 749
7180000 保育実習Ⅲ　湯浅　頼佳 後期集中 ・・・ 751
7299000 保育実践演習　吉江　幸子 後期 ・・・ 753
7194000 特別支援教育実習　木村　浩紀 後期集中 ・・・ 755
7192000 特別支援教育実習(事後指導)　後期 ・・・ 757
7144002 人文地理学Ⅱ　塩崎　大輔 ４Ｑ ・・・ 759
7103110 社会福祉事業史　小早川　俊哉 ４Ｑ ・・・ 761
7190000 国際法　細川　光法 ４Ｑ ・・・ 763
7832000 地誌Ⅰ　塩崎　大輔 ３Ｑ ・・・ 765
7833000 地誌Ⅱ　塩崎　大輔 ４Ｑ ・・・ 767
7835000 福祉士試験対策基礎講座Ⅱ　上原　正希 後期 ・・・ 769
7837000 福祉士試験対策基礎講座Ⅳ　上原　正希 後期 ・・・ 771

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年、経営学科・2年、デザイン学科・２		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　尾崎　有紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

主に英米系の分析哲学においてこれまで論じられてきた主題と、哲学における議論の仕方についての知識を得る。このことにより、論理的思考力と表現力を高め、社会における幅広い問題について主体的に思索し、他者と意見を交わすために必要な多様な能力を身につける。この際、学生主体の学びを意識し、実践的に学習する。これらのことによって、大学生に求められる一般常識や態度を学習面・生活面で活用できるスチューデントスキル、また、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できるスタディスキルを取得する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

これまで哲学において論じられてきた主題と主要な考え方について説明することができる。論理的思考力と表現力に基づいたコミュニケーション能力によって、他者と協調することができる。大学生に求められる一般常識や態度を学習面・生活面で活用でき、また、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できる。

授業全体の内容と概要

はじめに、英米系の分析哲学の議論について知る上で基礎となる、論理学について概説する。ここで、「前提」や「結論」、「演繹」や「帰納」などの、推論に関する基礎概念について解説する。これに基づいて、認識論や存在論、意味論、心の哲学などのトピックを紹介していく。この際、伝統的・古典的な主題を紹介することに加え、人工知能など現代的な主題との関連性を扱う。

授業の方法

授業は板書とパワーポイント資料を用いた講義形式で行う。また、確認テスト、グループワーク（１回）、レポート課題（１回）を実施する。確認テストとレポート課題については、フィードバックとして、回収後に解説と講評を行う。不測時における授業や補講等で、オンラインにて授業を実施する場合がある。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語を禁止する。レポートは、「関連文献が適切に押さえられているか」、「論理的な破綻がないか」、「オリジナルな考察が見られるか」、の３点から評価する。優先順位もこの順とする。講義で扱っていない内容や、自分の主観的な考えのみを書いたものには点数を与えない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
推論や論証に関する基礎概念の習得	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、これらを用いて自ら論証の具体例をつくることができ、実践に応用することができた。	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、これらを用いて自ら論証の具体例をつくることができた。	推論や論証に関する基礎概念をよく理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できなかった。
哲学的主題の理解	哲学的主題を深く理解でき、当該主題について自ら独創的な考察をすることができた。	哲学的主題を深く理解でき、当該主題について自ら批判的な考察をすることができた。	哲学的主題をよく理解できた。	哲学的主題を理解できた。	哲学的主題を理解できなかった。
現代的主題との関連づけ	哲学的な問題意識と現代的主題を深く関連付けることができ、現代的主題について考える新たな視点と自らの見解を得ることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題を深く関連付けることができ、現代的主題について考える新たな視点を得ることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題をよく関連付けることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題を関連付けることができた。	哲学的な問題意識と現代的主題を関連付けることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	高い意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができ、発言などを通じて自らの意見を表現し、他者と議論することができた。	高い意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができ、発言などを通じて自らの意見を表現することができた。	意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができた。	意欲と関心を持って授業に参加することができた。	意欲と関心を持って授業に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年、経営学科・2年、デザイン学科・２		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　尾崎　有紀　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『省察』	ルネ・デカルト	筑摩書房	２００６年	978-4480089656	
2	『プロレゴメナ』	イマニュエル・カント	岩波書店	１９７７年	978-4003362631	
3	『言語哲学入門』	服部裕幸	勁草書房	２００３年	978-4326153695	
4	『哲学の道具箱』	ジュリアン・バッジーニ	共立出版	２００７年	978-4320005730	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	講義内容の復習（９０分）
2	哲学の例－確率の意味論－	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	帰納法と「帰納法の正当化問題」	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	演繹法と仮説演繹法	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
5	多義性と概念的問題	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
6	反駁	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
7	知識の分類と認識論	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
8	言語と存在論	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
9	言語哲学と意味論（１）問題の端緒	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
10	言語哲学と意味論（２）様々な意味論の問題点１	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
11	言語哲学と意味論（３）様々な意味論の問題点２	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
12	中間まとめ	これまでの授業内容について復習しておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
13	確率の意味論（１）	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
14	確率の意味論（２）	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
15	心の哲学	主題について事前に調べておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）
16	まとめ 授業関連のフィードバックおよび科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業内容について復習しておく（９０分）	授業内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職(専門) （科目ナンバリング：SWS111002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

概要

履修目標

１．社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。
２．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。
３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。
４．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。
※厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室「社会福祉士養成課程カリキュラム(令和２年３月６日）」より

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

１．社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。
２．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。
３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。
４．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．社会福祉士の職域と求められる役割について学ぶ。
２．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について学ぶ。
３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について学ぶ。
４．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について学ぶ。
５．社会福祉士などから、お話を聞き学ぶ。
６．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．社会福祉士などの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．社会福祉士等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。
６．スポーツなどの大会などへの参加で授業に欠席する場合は事前にご相談ください。
７．交通機関などの運休・遅延など生じた場合も事前・事後にご相談ください。
８．何らかの問題が生じた場合などはTeamsのチャット機能や授業のチームに連絡事項を掲載しますので、見ておくようにしてください。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・学生個人、親、教員、スクールカウンセラーからの情報などを得て、対応を行う。
・具体的には「参考資料」、「板書やパワーポイント」の量や文字の大きさ、スピードへの対応を行う。
・体調不良時などはオンラインやオンデマンドの対応も行う。
・講義中の録音、録画、撮影などの対応にも配慮する。
・必要に応じて座席や教室の出入りなどの対応にも配慮する。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程(選択)

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。
社会福祉士に係る専門職の概念と範囲について理解する。	社会福祉士に係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	社会福祉士に係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士に係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	社会福祉士に係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	社会福祉士に係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
社会福祉士に必要な、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。	社会福祉士に必要な、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	社会福祉士に必要な、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士に必要な、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	社会福祉士に必要な、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	社会福祉士に必要な、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
社会福祉士に必要な、総合的かつ包括的な支援について理解する。	社会福祉士に必要な、総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	社会福祉士に必要な、総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士に必要な、総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	社会福祉士に必要な、総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	社会福祉士に必要な、総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
社会福祉士に必要な、多職種連携の意義と内容について理解する。	社会福祉士に必要な、多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	社会福祉士に必要な、多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士に必要な、多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	社会福祉士に必要な、多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	社会福祉士に必要な、多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職(専門) （科目ナンバリング：SWS111002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図解でわかるソーシャルワーク』	鈴木 孝典・鈴木 裕介	中央法規	2023年	9784805889589	価格 /2,420（本体 /2,200）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・初回の授業ということでガイダンスとして、シラバスを示し、授業現在の流れや成績評価について説明を行う。 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 ・科目を修了して『身に付く力』についての説明 ・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅰ「ソーシャル	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
2	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅱ 「社会福祉士の職域」、「福祉行政等における専門職」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
3	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅲ 「民間の施設・組織における専門職」、「諸外国の動向」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅠ 「ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅡ 「ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅢ 「ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅣ 「ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅤ 「ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
9	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容Ⅰ「ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容ー多機関による包括的支援体制」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
10	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容Ⅱ「ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容ーフォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
11	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容Ⅲ「ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容ーソーシャルサポートネットワーキング」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
12	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容Ⅳ「ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容ー多職種連携及びチームアプローチの意義」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容Ⅴ「ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容ー機関・団体間の合意形成と相互関係」について 第１回～第１３回までのまとめ	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容Ⅵ「ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容ー利用者、家族の参画」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
15	試験の実施 ※通常試験時間６０分、配慮の必要な学生９０分などで対応	試験勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
16	授業全体の振り返り、フィードバック（解説） 試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業アンケートの実施 最後の授業ということで、出席状況や成績評価について学生が確	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　竹内　美帆　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学に関する多様な視点を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化におけるの美術の意義や歴史、美術に関して問われてきたことを学び、多様な視点を理解する。
美術に関する表現活動を行う者として、芸術文化一般についての視野を広げ、批評的な考え方を持つことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

美術に関するこれまでの論点を理解できる。
美術作品を制作し鑑賞するための、基礎能力を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまで美術に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、社会における美術作品の意義を捉えなおし、美術について多様な視点から考える力を養う。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修　高・美術

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	０%	３０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211001　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学に関する多様な視点を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋美術史入門』	池上英洋	ちくまプリマー新書	2012	9784480688767	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業のオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 美術／芸術とは何か。なぜ美術を学ぶ必要があるのか	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	美術作品とは何か　美術作品を「読む」ということ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	美術の技法とジャンル（１）技法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	美術の技法とジャンル（２）ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	社会と美術（１）美術の社会的役割　社会を見るための窓	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	社会と美術（２）美的価値と社会	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	美術と文化　「文化」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	小テスト（１） 美術における「作者」とは何か　近代美術における「作者」の誕生	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	美術における「オリジナリティー」とは何か 小テストの結果について授業内でコメントしてフィードバックする	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	モダニズムとポストモダニズム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	美術館（１）美術館とは何か　美術館の役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	美術館（２）美術館の歴史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	美術館（３）美術館の現在的課題（日本的課題）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	美術とジェンダー　女性作家の問題　女性の表象	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	定期試験 試験のフィードバックはTeamsにより模範解答例を提示する	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	これまでの授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：SOE011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員	研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員　研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　経営学科・キャリア支援委員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業やオンデマンド授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
出席確認は開始５分以内に実施し、それ以降は遅刻とみなす。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
指定された座席に着席していない場合は、欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上とキャリタスUCに登録すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：SOE011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員	研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員　研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　経営学科・キャリア支援委員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリタスUCの登録　（全学科合同） ・シラバスの説明、この科目の内容と目的の理解・評価方法 ・科目を修了して「身に付く力」の説明含む ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・キャリタスUC登録	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	企業講演 ・公務員のお仕事について	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業意識講座 ・働くことについて考える授業	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	企業講演 ・飲食業界のお仕事について	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	GPS-Academic、フィードバックガイダンス ・GPS-Academicの見方について	当該範囲のシラバスの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	企業講演 ・企業によるトークセッションを実施	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	リフレクションワーク ・将来の設計図を描くには	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	１分間スピーチ ・事業で考えた「長所」をもとにスピーチをしてみよう	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	学科別業界研究 ・学科別に分かれ、就職活動知識や業界研究を実施	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別業界研究 ・学科別に分かれ、就職活動知識や業界研究を実施	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別業界研究 ・学科別に分かれ、就職活動知識や業界研究を実施	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	就職情報サイト登録 ・マイナビ２０２８登録 ・My CareerStudy活用方法	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	表現力講座 ・日常で使えるプレゼン力「プレ伝！」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	企業講演 ・「やりたいことだから頑張れる」～今こそ「好き」を見つける行動を～	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	２年生に向けて ・２年生のイメージをしてみよう～これまでの自分、これからの自分～	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	総括によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	全授業内容整理（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0E011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師・キャリア支援委員）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。
続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。
これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
出席確認は、授業開始5分以内に実施し、それ以降は遅刻とみなす。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
指定された座席に着席していない場合は、欠席とみなす。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0E011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師・キャリア支援委員）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業アンケート結果の反映の説明 当該科目を修了して「身に付く力」について説明 オリエンテーション・キャリタスUCに登録	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	企業講演:公務員のお仕事について	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業意識講座：「働くことについて考える授業」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	企業講演：飲食業界のお仕事について	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	GPS-Academicの見方について	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	企業講演：企業によるトークセッション	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	リフレクションワーク:～将来の設計図を描くには～	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	1分間スピーチ:授業で考えた「長所」をもとにスピーチしてみよう	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	学科別業界研究1	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別業界研究2	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別業界研究3	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	就職情報サイト登録 ・マイナビ2028登録 ・ My CareerStudy活用方法	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	表現力講座:　日常で使えるプレゼン力「プレ伝！」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	企業講演：「やりたいことだから頑張れる～今こそ「好き」を見つける行動を」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	2年生の自分をイメージしてみよう ～これまでの自分、これからの自分～	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	総評によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容整理（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：SOE011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　キャリア支援委員（デザイン学科）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
出席確認は開始5分以内に実施し、それ以降は遅刻とみなす。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
指定された座席に着席していない場合は欠席とみなす。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は13回以上。
キャリタスUCへの登録が完了していること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：SOE011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　キャリア支援委員（デザイン学科）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 オリエンテーション・キャリタスUC登録 「科目の内容と目的の理解・評価方法等」 「キャリタスUC登録」	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	企業講演：公務員の仕事について	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業意識講座：働くことについて考える授業	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	企業講演：飲食業界のお仕事について	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	GPS-Academicの見方について	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	企業講演：企業によるトークセッション	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	リフレクションワーク：将来の設計図を描くには	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	1分間スピーチ：授業で考えた「長所」を基にスピーチしてみよう。	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	「学科別業界研究」１	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	「学科別業界研究」２	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	「学科別業界研究」３	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	マイナビ2028登録・My Career Studyの活用法	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	表現力講座：日常で使えるプレゼン力「プレ伝！」	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	企業講演：「やりたいことだから頑張れる」～今こそ「好き」を見つける行動を	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	2年生の自分をイメージしてみよう ～これまでの自分　これからの自分～	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（４５分）	学習の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：SOE011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
出席確認は開始5分以内に実施し、それ以降は遅刻とみなす。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
指定された座席に着席していない場合は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、建築学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：SOE011009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 オリエンテーション・キャリタスUC登録	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	企業講演：公務員のお仕事について	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業意識講座：働くことについて考える授業	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	企業講演：飲食業界のお仕事について	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	GPS-Academicの見方について	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	企業講演：企業によるトークセッション	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	リフレクションワーク：将来の設計図を描くには	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	1分間スピーチ：授業で考えた「長所」をもとにスピーチしてみよう	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	学科別業界研究１	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別業界研究２	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別業界研究３	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	マイナビ2028登録 ・ My CareerStudy活用方法	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	表現力講座：日常で使えるプレゼン力「プレ伝！」	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	企業講演：「やりたいことだから頑張れる」　～今こそ「好き」を見つける行動を～	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	2年生の自分をイメージしてみよう　～これまでの自分、これからの自分～	当該範囲の内容をリサーチ（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	総評によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラム （科目ナンバリング：APT091055　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一(建築・教授)、信濃　吉彦（経営・教授）、石山　玄幸（経営・准教授）、畠山　明子	研究室等所在	2号館6階（信濃）　他　各教員の研究室を確認すること		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各担当教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。				

概要

履修目標

履修学生は，我が街に在るボールパーク（エスコンフィールド北海道およびFビレッジ）に関する学び・調査・分析・講演を通して知識を獲得する。さらに、北広島市の発展に寄与することも視野に入れている。各回の担当教員の専門域を通じてボールパークを総合的に分析し、街の発展に寄与できる知識やアイディア提案をするための素地を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP4、DP５に対応する。

到達目標

ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

授業全体の内容と概要

本講座は座学と見学、講演の3本柱で構成される。座学は6名の教員が担当する。見学と講演会を正当な理由なく欠席した場合は単位認定しない。
最低出席回数は13回とし、その他に課題やレポートを義務づける。

授業の方法

授業回数は15回そのほかに見学会と講演会を実施予定。未知の言葉や理論に出会った時には必ず調べてから教員に確認のうえノートにまとめること。手ぶらでの出席は欠席とする。単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。現場100回という言葉を胸にボールパークのセミプロを目指してあらゆる情報を貪欲に収集してもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業回数は15回そのほかに見学会と講演会を実施予定。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と戴帽は厳に禁止する。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。未知の言葉や理論に出会った時には必ず調べてから教員に確認のうえノートにまとめること。手ぶらでの出席は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談によって、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポート行う。従って、該当すると思われる学生は必ず経営学科信濃教授まで事前相談に伺うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と戴帽は厳に禁止する。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１５%	０%	０%	７０%	１５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	ボールパークおよび周辺の状況を詳しく理解し、事例に対応した理想的な提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を十分に理解し、事例に対応した新たな提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解し、学習事例を理解できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解していた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解できていなかった。
思考力・判断力・表現力	ボールパーク特にFビレッジの現状を完全に理解し、現状改善に向けた持論を展開できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を十分に理解し、現状改善の在り方を提示できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解し、現状改善の考え方を理解できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解していた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解できていなかった。
主体性	学生の視点から本講座の目的を完全に理解し、クラスメートに対しても様々な意見を提案できた。	学生の視点から本講座の目的を十分に理解し、意見の展開を試みることができた。	学生の視点から本講座の目的を理解し、意見を提示できた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行っていた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行う事ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラム （科目ナンバリング：APT091055　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一(建築・教授）、信濃　吉彦（経営・教授）、石山　玄幸（経営・准教授）、畠山　明子	研究室等所在	2号館6階（信濃）　他　各教員の研究室を確認すること		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各担当教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　担当：信濃・鈴木　シラバスの説明，授業計画 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して「身に付く力」について説明 BP創造　米国のボールパークとは（理念・米国のBP）　担当：信濃	シラバスを読み込み、ノートを準備し初回の学習内容に関する情報の収集を開始する。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
2	BPと夢・幸福・平和　日本のボールパークの状況（目標設定） 担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
3	BPマーケティング（顧客創造、デザイン） 担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
4	BPとイノベーション（オペレーション、デザイン） 担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
5	BPとホスピタリティ　担当：畠山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
6	BPとヘルスケア　担当：湯浅	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
7	BPと環境（SDGs）　担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
8	講演　ファイターズのスポーツビジネス 演者　株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント担当部署	講演予定の内容に沿った情報収集に努め、質問事項や確認事項をノートにまとめる。（９０分）	講演の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
9	BP建設までの経緯と現状　北海道日本ハムファイターズの場合 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
10	BP提案　北海道日本ハムファイターズへの提案（学生のアイディア）　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
11	BP概要#1　北海道日本ハムファイターズBP　敷地計画，建築概要 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
12	BP概要#2　北海道日本ハムファイターズBP　建築概要，周辺エリア，避難施設計画　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
13	BPファイナンス（財務・マネー）　BPと北広島市のまちづくり#1 担当：石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
14	BPと地域のwin win（地域マネジメント）　BPと北広島市のまちづくり#2　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
15	BPと未来の街（行政マネジメント）　担当：石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
16	総括＆これからの北広島　担当：安藤・信濃 授業改善アンケート結果反映の検証とフィードバック 授業改善アンケートの実施	本講座を振り返って、確認事項や満足度をノートにまとめ、質問事項や確認事項をまとめておく。（９０分）	自分なりに本講座の感想をまとめてノートに記録すること。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目　展開科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 （科目ナンバリング：SOC412014，SOC512008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コミュニケーションという人間行動の意味を知り、小集団・組織から社会全体にいたるまで、さまざまな場面での社会的相互作用としてのコミュニケーションについて考察し、理解する力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

コミュニケーションの理論について単に知識を習得するだけでなく、日々の生活場面におけるコミュニケーション行動のもつ意味と、コミュニケーションをめぐる現代的な問題について自ら考える姿勢をもてるようになることができる。

授業全体の内容と概要

まず、コミュニケーションの原理、形式、過程、メディアに目を向ける。次に組織コミュニケーション、とりわけネットワークおよびリーダーシップとフォロワーシップに焦点を当て、経営組織をコミュニケーションの視点から考察する。最後に、広く社会的コミュニケーションをとり上げ、特にオーディエンスの権利はどうあるべきかを追究し、合わせて現代社会のコミュニケーション問題を考える。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合の評価はＣとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	同部分が８０%以上９０%未満の正答であった。	同部分が７０%以上８０%未満の正答であった。	同部分が６０%以上７０%未満の正答であった。	同部分の正答が６０%に届かなかった。
思考力・判断力等	コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
コミュニケーション問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマである組織ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ中心に、さまざまなｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目　展開科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 （科目ナンバリング：SOC412014，SOC512008　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　山本　一彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	科目ガイダンス‥‥全体概要，目的とねらい，履修上の注意，評価方法，シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、前年度授業アンケートの結果概要説明	シラバス内容の事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習・確認(９０分)
2	Ⅰ.人間行動としてのコミュニケーション ‥‥コミュニケーションとはどのような営みか	コミュニケーション概念についての事前考察(９０分)	コミュニケーションが人と人との社会的相互作用であることの復習・理解(９０分)
3	Ⅱ.コミュニケーションの形式と過程 ‥‥類型とモデル	人間の社会的相互作用にどのような型があるかについての事前考察(９０分)	コミュニケーションについての学問的な「類型とモデル」の復習・理解（９０分）
4	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ １．フォーマル･コミュニケーションとインフォーマル･コミュニケーション	組織と基礎集団におけるコミュニケーションの違いについての事前考察(９０分)	組織のフォーマルとインフォーマルの両面性についての復習・理解（９０分）
5	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ ２．コミュニケーション･ネットワークと集団の効果性 ‥‥ネットワークのタイプとその特徴	組織の中にあるネットワークの種類についての事前考察(９０分)	ネットワークの種類とその機能的特徴についての復習・理解（９０分）
6	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ ３．コミュニケーションとリーダーシップ （1）マネジメントとリーダーシップ	組織コミュニケーションでのリーダーシップについての事前考察(９０分)	良いマネジメントを超える対人的影響力についての復習・理解(９０分)
7	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ ３．コミュニケーションとリーダーシップ （2）リーダーシップ理論の変化	リーダーシップをとらえる視点についての事前考察（９０分）	古典的リーダーシップ理論の特質・限界についての復習・理解(９０分)
8	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ ３．コミュニケーションとリーダーシップ （2）リーダーシップ理論の変化	「個人的属性」に根拠を求めないリーダーシップ理論についての事前考察（９０分）	集団・組織機能向上とリーダーシップの関係についての復習・理解(９０分)
9	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ ４．リーダーシップとフォロワーシップ	組織メンバーの行動とフォロワーシップについての事前考察（９０分）	リーダーシップとフォロワーシップの不可分性についての復習・理解(９０分)
10	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ ４．リーダーシップとフォロワーシップ	フォロワーシップにはどのようなタイプ゛があるかについての事前考察(９０分)	フォロワーシップが組織機能に不可欠であることについての復習・理解(９０分)
11	Ⅳ.社会的コミュニケーション １．コミュニケーションとメディア	コミュニケーションにとってメディアとは何かについての事前考察　（９０分）	メディア類型についての復習・理解　　（９０分）
12	Ⅳ.社会的コミュニケーション ２．メディアと社会的現実	われわれにとっての社会的現実とは何かについての事前考察（９０分）	メディア環境と社会的現実の構成のされ方との関係についての復習・理解(９０分)
13	Ⅳ.社会的コミュニケーション ３．オーディエンスの権利 ‥‥「知る権利」と「アクセス権」	現代のオーディエンスにとって必要となる権利についての事前考察　（９０分）	メディア環境とオーディエンスの権利の関係についての復習・理解　（９０分）
14	Ⅴ.現代コミュニケーションの特質と諸問題	人々の社会的相互作用に生じている問題についての事前考察（９０分）	社会的技術的変化によるコミュニケーション問題についての復習・理解　（９０分）
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重要事項のチェック(９０分)	試験対応のための復習・理解(９０分)
16	試験および解説 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	試験対応準備 （９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	絵画 （科目ナンバリング：AEA22117　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、教育現場に於ける美術科目の意味や役割を考え、絵画分野の課題に取り組む活動を経てより深く理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

学生が、ロールプレイを通して生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考える。人を育てるという意味を考える。
学生が、ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組む。
学生が、多様な生徒たちに如何様にも対応できる引き出しを持つ心構えを持つ。
学生が、課題制作を通して、現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を習得する。

授業全体の内容と概要

教師は中学校、高校の教育現場について説明し、学生はそれを踏まえ必要となる素養を考える。教師が生徒作品例を提示し、学生はロールプレイを行い、必要となる素養に気づく（問題点を見出す）。ディスカッションで解決の糸口を探し、自らに必要な素養について確信を持つ。実際に札幌市の教育現場で行われている単元に基づき課題を制作する。その過程において学生は画材の特徴を身を持って学び取る。生徒がつまづきやすいポイントは何かに注意を払いながら課題作品を制作する。講評会に於いて、学生はそれらの行程の中での気づき及び完成作品についてプレゼンテーションを行う。教師はフィードバックを行う。

授業の方法

教師が自らの札幌市公立学校での教員経験を活かし、実践的な授業展開をする。授業は口頭、板書、パワーポイント、パネル教材などを適宜用いる。生徒作品参考例を教材に、先生役と生徒役によるロールプレイを行う。ディスカッションにより学びを深める。教育現場で実際に行われている教材を、課題として実技していく中で、画材の特徴や生徒がつまずきやすいポイントを身をもって知る。そこから得た気づきをプレゼンテーションなどで全体に共有する。講評会においてフィードバックする。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具（F6（またはA3）のスケッチブックまたはクロッキー帳、透明水彩絵の具、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで５種類くらい）、Ｆ１２張キャン、アクリルガッシュ（または油絵の具）｝は各自が用意する。
準備学習・事後学習を欠かさず行うことがは大前提。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２６回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を習得する。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を十分に習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能をおよそ習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を最低限習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を習得できなかった。
思考・判断　生徒作品を見て、生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考える。人を育てるという意味を考える。課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択をする。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択が十分にできた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択ができた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択がややできた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択が最低限できた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択ができなかった。
ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組む。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが十分出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことがやや出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが最低限出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	絵画 （科目ナンバリング：AEA22117　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスを読む（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
2	学校現場（札幌公立小中高校）について　教職について	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
3	課題１水彩画１　ロールプレイ　ディスカッション	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
4	課題１水彩画２　問題点・課題・心構え	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
5	課題１水彩画３　モチーフデッサン	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
6	課題１水彩画４　下描き	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
7	課題１水彩画５　透明水彩絵の具の基本	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
8	課題１水彩画６　透明水彩絵の具の基本	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
9	課題１水彩画７　三原色で色付け	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
10	課題１水彩画８　三原色で色付け	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
11	課題１水彩画９　三原色で色付け	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
12	課題１水彩画１０　三原色で色付け	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
13	課題１水彩画１１　完成　提出	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
14	課題１水彩画１２　講評会に向けてプレゼンテーションの資料作り	授業内容の継続　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
15	課題１水彩画１３　講評会（フィードバック）プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
16	課題１水彩画１４　講評会（フィードバック）プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題２自画像１　ロールプレイ　ディスカッション	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
18	課題２自画像２　問題点・課題・心構え	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
19	課題２自画像３　デッサン	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
20	課題２自画像４　下描き	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
21	課題２自画像５　アクリル絵の具の使い方	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
22	課題２自画像６　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
23	課題２自画像７　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
24	課題２自画像８　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
25	課題２自画像９　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
26	課題２自画像１０　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
27	課題２自画像１１　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
28	課題２自画像１２　制作	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
29	課題２自画像１３　完成　提出	授業内容の継続　課題（４５分）	授業内容の継続　課題（４５分）
30	課題２自画像１４　講評会に向けてプレゼンテーションの資料作り	授業内容の継続　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
31	課題２自画像１５　講評会を行う（フィードバック）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
32	授業改善アンケート実施　当該科目の第１回目に示した「身につく力」の検証	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	振り返り（４５分）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M-A） （科目ナンバリング：SOF061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教	研究室等所在	１号館２階（佐藤）・２号館７階（薦田）・１号館２階（由水）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本的な操作方法を習得し、データの整理や計算、視覚的な表現を行うスキルを身につけることを目指す。
・Excelは、ビジネスや学術研究、日常業務など幅広い分野で活用されており、本授業では実践的な課題を通じて、実務に応用できる知識を習得する。
・基本的な関数やデータの可視化手法を学び、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立つスキルを養う。
・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・Excelの基本操作（セルの入力・編集、オートフィル、書式設定、印刷設定など）を理解し、適切に使いこなせる。（スタディスキル）
・基本的な関数（ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦなど）を習得し、データ分析や簡単な集計ができる。（アカデミックスキル）
・データの整理・並び替え・フィルタリングを適切に行い、視覚的にわかりやすい表を作成できる。（アカデミックスキル）
・グラフ作成機能を活用し、データを効果的に可視化できる。（アカデミックスキル）
・実践的な課題を通じて、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを身につける。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本操作を学び、データの整理や分析、可視化のスキルを身につける。
・セルの入力・編集、書式設定、オートフィルなどの基本操作を習得し、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦ、ＶＬＯＯＫＵＰなどの関数を活用したデータ処理を学ぶ。
・データの並び替えやフィルタリング、ピボットテーブルを用いた分析手法を実践し、グラフ作成によるデータの可視化も行う。
・最終的には、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを習得し、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に活かすことを目標とする。初心者にも分かりやすく、演習課題を通して実践力を高める。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・対面授業とオンデマンドによる授業のハイブリッド型で行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習目標の達成度	各回の学習目標を完全に理解し、適切に応用できる。全ての課題を積極的に取り組み、課題に対して創造的なアプローチを示した。	学習目標はほぼ理解し、課題に対して適切なアプローチを取る。多少の工夫が見られ、概ね課題をこなしている。	学習目標は理解しているが、適用が不完全である。課題への取り組みがやや消極的であるが、基礎的な部分は達成している。	学習目標の理解に差があり、課題の一部に苦戦している。基礎的な理解が不足しており、応用が難しい。	学習目標がほとんど理解できていない。課題に対する取り組みが少なく、学習内容に大きなギャップがある。
反復学習と自己改善の態度	毎回積極的に復習を行い、理解度の向上に努めた。誤りを素早く修正し、自分の理解を深めるために積極的に努力した。	定期的に復習し、自己改善を意識して学習に取り組んだ。誤りに気づくことができ、改善しようとする意欲を示した。	時々復習を行い、誤りの修正も試みたが、自己改善のための意識が少し弱い。	復習の頻度が少なく、誤りの修正が遅れがち。自己改善に対する意識が弱く、積極性に欠ける。	復習がほとんど行われておらず、誤りの修正ができていない。自己改善に対する努力が見られない。
実践力と問題解決能力	学んだ内容を自分の作業に即座に応用し、問題解決を積極的に行った。複雑な課題も工夫して解決し、他者に説明できるレベルの理解を示した。	学んだ内容を実践に落とし込み、問題解決に積極的に取り組んだ。課題解決が概ねスムーズに進んだが、一部工夫が必要だった。	学んだ内容を実践するが、いくつかの問題解決に時間がかかる。解決方法が単純であるが、概ね課題をクリアした。	実践において学んだ内容の適用が遅れ、問題解決が難しい。必要なステップを見落とし、解決方法に誤りがあった。	学んだ内容を実践することができず、問題解決に苦しむ。課題に取り組んでいない、または解決策を見出せなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M-A） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・2号館7階（薦田）・1号館2階（由水）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ・授業の進め方の確認 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	Ｅｘｃｅｌの基本操作を試す（４５分）
2	◇情報の整理 ・Ｅｘｃｅｌの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定、計算式	Ｅｘｃｅｌを起動し基本操作を確認（４５分）	操作手順を復習し実践（４５分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、データの区切りの使い方、表の整理	データ整理の方法を調査（４５分）	自作データで整理を試す（４５分）
4	◇情報の整理 ・表作成、基本関数① ・数式、条件付き書式、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ関数等の活用	教科書で関数の基礎を確認（４５分）	簡単な表を作成し計算（４５分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・ＩＦ関数を用いた条件分岐	ＩＦ関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・ＸＬＯＯＫＵＰ関数の利用	ＸＬＯＯＫＵＰの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの活用	ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法、ＡＮＤ、ＯＲ関数の活用	ネスト関数の基本を学習（４５分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（４５分）
9	◇情報の整理 ・ＩＦ関数の応用	可視化のメリットを調べる（４５分）	実データに適用してみる（４５分）
10	◇情報の整理 ・ＸＬＯＯＫＵＰの応用	書式設定の基本を確認（４５分）	さまざまな表を作成（４５分）
11	◇情報の整理 ・名前の定義の活用	グラフの種類を調べる（４５分）	異なるグラフを作成（４５分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（４５分）	複数のグラフを作成（４５分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（４５分）	自作データで基本的な集計を実施（４５分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（４５分）	ピボットテーブルの応用を実践（４５分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施 ・科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの課題を振り返る（４５分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（４５分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（４５分）	試験結果を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（S） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（宮﨑）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本的な操作方法を習得し、データの整理や計算、視覚的な表現を行うスキルを身につけることを目指す。
・Excelは、ビジネスや学術研究、日常業務など幅広い分野で活用されており、本授業では実践的な課題を通じて、実務に応用できる知識を習得する。
・基本的な関数やデータの可視化手法を学び、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立つスキルを養う。
・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・Excelの基本操作（セルの入力・編集、オートフィル、書式設定、印刷設定など）を理解し、適切に使いこなせる。（スタディスキル）
・基本的な関数（ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦなど）を習得し、データ分析や簡単な集計ができる。（アカデミックスキル）
・データの整理・並び替え・フィルタリングを適切に行い、視覚的にわかりやすい表を作成できる。（アカデミックスキル）
・グラフ作成機能を活用し、データを効果的に可視化できる。（アカデミックスキル）
・実践的な課題を通じて、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを身につける。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本操作を学び、データの整理や分析、可視化のスキルを身につける。
・セルの入力・編集、書式設定、オートフィルなどの基本操作を習得し、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦ、ＶＬＯＯＫＵＰなどの関数を活用したデータ処理を学ぶ。
・データの並び替えやフィルタリング、ピボットテーブルを用いた分析手法を実践し、グラフ作成によるデータの可視化も行う。
・最終的には、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを習得し、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に活かすことを目標とする。初心者にも分かりやすく、演習課題を通じて実践力を高める。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・対面授業とオンデマンドによる授業のハイブリッド型で行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習目標の達成度	各回の学習目標を完全に理解し、適切に応用できる。全ての課題を積極的に取り組み、課題に対して創造的なアプローチを示した。	学習目標はほぼ理解し、課題に対して適切なアプローチを取る。多少の工夫が見られ、概ね課題をこなしている。	学習目標は理解しているが、適用が不完全である。課題への取り組みがやや消極的であるが、基礎的な部分は達成している。	学習目標の理解に差があり、課題の一部に苦戦している。基礎的な理解が不足しており、応用が難しい。	学習目標がほとんど理解できていない。課題に対する取り組みが少なく、学習内容に大きなギャップがある。
反復学習と自己改善の態度	毎回積極的に復習を行い、理解度の向上に努めた。誤りを素早く修正し、自分の理解を深めるために積極的に努力した。	定期的に復習し、自己改善を意識して学習に取り組んだ。誤りに気づくことができ、改善しようとする意欲を示した。	時々復習を行い、誤りの修正も試みたが、自己改善のための意識が少し弱い。	復習の頻度が少なく、誤りの修正が遅れがち。自己改善に対する意識が弱く、積極性に欠ける。	復習がほとんど行われておらず、誤りの修正ができていない。自己改善に対する努力が見られない。
実践力と問題解決能力	学んだ内容を自分の作業に即座に応用し、問題解決を積極的に行った。複雑な課題も工夫して解決し、他者に説明できるレベルの理解を示した。	学んだ内容を実践に落とし込み、問題解決に積極的に取り組んだ。課題解決が概ねスムーズに進んだが、一部工夫が必要だった。	学んだ内容を実践するが、いくつかの問題解決に時間がかかる。解決方法が単純であるが、概ね課題をクリアした。	実践において学んだ内容の適用が遅れ、問題解決が難しい。必要なステップを見落とし、解決方法に誤りがあった。	学んだ内容を実践することができず、問題解決に苦しむ。課題に取り組んでいない、または解決策を見出せなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（S） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（宮崎）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ・授業の進め方の確認 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	Ｅｘｃｅｌの基本操作を試す（４５分）
2	◇情報の整理 ・Ｅｘｃｅｌの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定、計算式	Ｅｘｃｅｌを起動し基本操作を確認（４５分）	操作手順を復習し実践（４５分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、データの区切りの使い方、表の整理	データ整理の方法を調査（４５分）	自作データで整理を試す（４５分）
4	◇情報の整理 ・表作成、基本関数① ・数式、条件付き書式、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ関数等の活用	教科書で関数の基礎を確認（４５分）	簡単な表を作成し計算（４５分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・ＩＦ関数を用いた条件分岐	ＩＦ関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・ＸＬＯＯＫＵＰ関数の利用	ＸＬＯＯＫＵＰの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの活用	ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法、ＡＮＤ、ＯＲ関数の活用	ネスト関数の基本を学習（４５分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（４５分）
9	◇情報の整理 ・ＩＦ関数の応用	可視化のメリットを調べる（４５分）	実データに適用してみる（４５分）
10	◇情報の整理 ・ＸＬＯＯＫＵＰの応用	書式設定の基本を確認（４５分）	さまざまな表を作成（４５分）
11	◇情報の整理 ・名前の定義の活用	グラフの種類を調べる（４５分）	異なるグラフを作成（４５分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（４５分）	複数のグラフを作成（４５分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（４５分）	自作データで基本的な集計を実施（４５分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（４５分）	ピボットテーブルの応用を実践（４５分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施 ・科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの課題を振り返る（４５分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（４５分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（４５分）	試験結果を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（D） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（佐藤）・２号館７階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本的な操作方法を習得し、データの整理や計算、視覚的な表現を行うスキルを身につけることを目指す。
・Excelは、ビジネスや学術研究、日常業務など幅広い分野で活用されており、本授業では実践的な課題を通じて、実務に応用できる知識を習得する。
・基本的な関数やデータの可視化手法を学び、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立つスキルを養う。
・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・Excelの基本操作（セルの入力・編集、オートフィル、書式設定、印刷設定など）を理解し、適切に使いこなせる。（スタディスキル）
・基本的な関数（ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦなど）を習得し、データ分析や簡単な集計ができる。（アカデミックスキル）
・データの整理・並び替え・フィルタリングを適切に行い、視覚的にわかりやすい表を作成できる。（アカデミックスキル）
・グラフ作成機能を活用し、データを効果的に可視化できる。（アカデミックスキル）
・実践的な課題を通じて、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを身につける。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本操作を学び、データの整理や分析、可視化のスキルを身につける。
・セルの入力・編集、書式設定、オートフィルなどの基本操作を習得し、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦ、ＶＬＯＯＫＵＰなどの関数を活用したデータ処理を学ぶ。
・データの並び替えやフィルタリング、ピボットテーブルを用いた分析手法を実践し、グラフ作成によるデータの可視化も行う。
・最終的には、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを習得し、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に活かすことを目標とする。初心者にも分かりやすく、演習課題を通じて実践力を高める。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・対面授業とオンデマンドによる授業のハイブリッド型で行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習目標の達成度	各回の学習目標を完全に理解し、適切に応用できる。全ての課題を積極的に取り組み、課題に対して創造的なアプローチを示した。	学習目標はほぼ理解し、課題に対して適切なアプローチを取る。多少の工夫が見られ、概ね課題をこなしている。	学習目標は理解しているが、適用が不完全である。課題への取り組みがやや消極的であるが、基礎的な部分は達成している。	学習目標の理解に差があり、課題の一部に苦戦している。基礎的な理解が不足しており、応用が難しい。	学習目標がほとんど理解できていない。課題に対する取り組みが少なく、学習内容に大きなギャップがある。
反復学習と自己改善の態度	毎回積極的に復習を行い、理解度の向上に努めた。誤りを素早く修正し、自分の理解を深めるために積極的に努力した。	定期的に復習し、自己改善を意識して学習に取り組んだ。誤りに気づくことができ、改善しようとする意欲を示した。	時々復習を行い、誤りの修正も試みたが、自己改善のための意識が少し弱い。	復習の頻度が少なく、誤りの修正が遅れがち。自己改善に対する意識が弱く、積極性に欠ける。	復習がほとんど行われておらず、誤りの修正ができていない。自己改善に対する努力が見られない。
実践力と問題解決能力	学んだ内容を自分の作業に即座に応用し、問題解決を積極的に行った。複雑な課題も工夫して解決し、他者に説明できるレベルの理解を示した。	学んだ内容を実践に落とし込み、問題解決に積極的に取り組んだ。課題解決が概ねスムーズに進んだが、一部工夫が必要だった。	学んだ内容を実践するが、いくつかの問題解決に時間がかかる。解決方法が単純であるが、概ね課題をクリアした。	実践において学んだ内容の適用が遅れ、問題解決が難しい。必要なステップを見落とし、解決方法に誤りがあった。	学んだ内容を実践することができず、問題解決に苦しむ。課題に取り組んでいない、または解決策を見出せなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（D） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（佐藤）・２号館７階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ・授業の進め方の確認 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	Ｅｘｃｅｌの基本操作を試す（４５分）
2	◇情報の整理 ・Ｅｘｃｅｌの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定、計算式	Ｅｘｃｅｌを起動し基本操作を確認（４５分）	操作手順を復習し実践（４５分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、データの区切りの使い方、表の整理	データ整理の方法を調査（４５分）	自作データで整理を試す（４５分）
4	◇情報の整理 ・表作成、基本関数① ・数式、条件付き書式、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ関数等の活用	教科書で関数の基礎を確認（４５分）	簡単な表を作成し計算（４５分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・ＩＦ関数を用いた条件分岐	ＩＦ関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・ＸＬＯＯＫＵＰ関数の利用	ＸＬＯＯＫＵＰの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの活用	ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法、ＡＮＤ、ＯＲ関数の活用	ネスト関数の基本を学習（４５分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（４５分）
9	◇情報の整理 ・ＩＦ関数の応用	可視化のメリットを調べる（４５分）	実データに適用してみる（４５分）
10	◇情報の整理 ・ＸＬＯＯＫＵＰの応用	書式設定の基本を確認（４５分）	さまざまな表を作成（４５分）
11	◇情報の整理 ・名前の定義の活用	グラフの種類を調べる（４５分）	異なるグラフを作成（４５分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（４５分）	複数のグラフを作成（４５分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（４５分）	自作データで基本的な集計を実施（４５分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（４５分）	ピボットテーブルの応用を実践（４５分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施 ・科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの課題を振り返る（４５分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（４５分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（４５分）	試験結果を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（A） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）、佐藤　雅一（経営学科・専任講	研究室等所在	２号館８階（伊藤）・２号館７階（薦田）・１号館２階（佐藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本的な操作方法を習得し、データの整理や計算、視覚的な表現を行うスキルを身につけることを目指す。
・Excelは、ビジネスや学術研究、日常業務など幅広い分野で活用されており、本授業では実践的な課題を通じて、実務に応用できる知識を習得する。
・基本的な関数やデータの可視化手法を学び、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立つスキルを養う。
・スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への 円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・Excelの基本操作（セルの入力・編集、オートフィル、書式設定、印刷設定など）を理解し、適切に使いこなせる。（スタディスキル）
・基本的な関数（ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦなど）を習得し、データ分析や簡単な集計ができる。（アカデミックスキル）
・データの整理・並び替え・フィルタリングを適切に行い、視覚的にわかりやすい表を作成できる。（アカデミックスキル）
・グラフ作成機能を活用し、データを効果的に可視化できる。（アカデミックスキル）
・実践的な課題を通じて、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを身につける。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

・本授業では、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌの基本操作を学び、データの整理や分析、可視化のスキルを身につける。
・セルの入力・編集、書式設定、オートフィルなどの基本操作を習得し、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ、ＩＦ、ＶＬＯＯＫＵＰなどの関数を活用したデータ処理を学ぶ。
・データの並び替えやフィルタリング、ピボットテーブルを用いた分析手法を実践し、グラフ作成によるデータの可視化も行う。
・最終的には、業務や研究に活用できるＥＸＣＥＬスキルを習得し、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に活かすことを目標とする。初心者にも分かりやすく、演習課題を通じて実践力を高める。
・本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｔｅａｍｓを利用して課題提示、提出を求める。
・対面授業とオンデマンドによる授業のハイブリッド型で行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートＰＣを使用する場合は、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｏｆｆｉｃｅを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	0%	５０%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習目標の達成度	各回の学習目標を完全に理解し、適切に応用できる。全ての課題を積極的に取り組み、課題に対して創造的なアプローチを示した。	学習目標はほぼ理解し、課題に対して適切なアプローチを取る。多少の工夫が見られ、概ね課題をこなしている。	学習目標は理解しているが、適用が不完全である。課題への取り組みがやや消極的であるが、基礎的な部分は達成している。	学習目標の理解に差があり、課題の一部に苦戦している。基礎的な理解が不足しており、応用が難しい。	学習目標がほとんど理解できていない。課題に対する取り組みが少なく、学習内容に大きなギャップがある。
反復学習と自己改善の態度	毎回積極的に復習を行い、理解度の向上に努めた。誤りを素早く修正し、自分の理解を深めるために積極的に努力した。	定期的に復習し、自己改善を意識して学習に取り組んだ。誤りに気づくことができ、改善しようとする意欲を示した。	時々復習を行い、誤りの修正も試みたが、自己改善のための意識が少し弱い。	復習の頻度が少なく、誤りの修正が遅れがち。自己改善に対する意識が弱く、積極性に欠ける。	復習がほとんど行われておらず、誤りの修正ができていない。自己改善に対する努力が見られない。
実践力と問題解決能力	学んだ内容を自分の作業に即座に応用し、問題解決を積極的に行った。複雑な課題も工夫して解決し、他者に説明できるレベルの理解を示した。	学んだ内容を実践に落とし込み、問題解決に積極的に取り組んだ。課題解決が概ねスムーズに進んだが、一部工夫が必要だった。	学んだ内容を実践するが、いくつかの問題解決に時間がかかる。解決方法が単純であるが、概ね課題をクリアした。	実践において学んだ内容の適用が遅れ、問題解決が難しい。必要なステップを見落とし、解決方法に誤りがあった。	学んだ内容を実践することができず、問題解決に苦しむ。課題に取り組んでいない、または解決策を見出せなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 II （A） （科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）、佐藤　雅一（経営学科・専任講	研究室等所在	２号館８階（伊藤）・２号館７階（薦田）・１号館２階（佐藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ・授業の進め方の確認 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	Ｅｘｃｅｌの基本操作を試す（４５分）
2	◇情報の整理 ・Ｅｘｃｅｌの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定、計算式	Ｅｘｃｅｌを起動し基本操作を確認（４５分）	操作手順を復習し実践（４５分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、データの区切りの使い方、表の整理	データ整理の方法を調査（４５分）	自作データで整理を試す（４５分）
4	◇情報の整理 ・表作成、基本関数① ・数式、条件付き書式、ＳＵＭ、ＡＶＥＲＡＧＥ関数等の活用	教科書で関数の基礎を確認（４５分）	簡単な表を作成し計算（４５分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・ＩＦ関数を用いた条件分岐	ＩＦ関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・ＸＬＯＯＫＵＰ関数の利用	ＸＬＯＯＫＵＰの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの活用	ＣＯＵＮＴＩＦ、ＳＵＭＩＦの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法、ＡＮＤ、ＯＲ関数の活用	ネスト関数の基本を学習（４５分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（４５分）
9	◇情報の整理 ・ＩＦ関数の応用	可視化のメリットを調べる（４５分）	実データに適用してみる（４５分）
10	◇情報の整理 ・ＸＬＯＯＫＵＰの応用	書式設定の基本を確認（４５分）	さまざまな表を作成（４５分）
11	◇情報の整理 ・名前の定義の活用	グラフの種類を調べる（４５分）	異なるグラフを作成（４５分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（４５分）	複数のグラフを作成（４５分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（４５分）	自作データで基本的な集計を実施（４５分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（４５分）	ピボットテーブルの応用を実践（４５分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施 ・科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの課題を振り返る（４５分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（４５分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（４５分）	試験結果を振り返る（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門II （M） （科目ナンバリング：GER051035 ）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営科目のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ（Ｍ） （科目ナンバリング：GER051035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『気分はドイツ　（改訂版）』	渡辺徳夫/黒瀬志保(他)	三修社	２０２１	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明　この科目を受講することで、初級ドイツ語文法の理解と、簡単な日常会話を身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
2	［話法の助動詞について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
3	［話法の助動詞の用法について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
4	［ヒアリング練習］　ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
5	［形容詞について］　ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
6	［形容詞の比較・副詞的用法について］　比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
7	［分離動詞について］　分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
8	［動詞の３基本形について］　動詞の３基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
9	［過去形の変化について］　過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
10	［完了形について］　ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
11	［完了形の用法について］　完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
12	［関係代名詞について］　関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
13	［受動態について］　受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
14	［zu不定詞について］　不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
15	［接続法について］　接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
16	［定期試験］　試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、試験を通して確認する。	試験に向け全体を復習すること。（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建築学科・３		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門II （S・D・A） （科目ナンバリング：GER051035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　河田　一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターを身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。
建築学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建築学科・３		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『気分はドイツ　（改訂版）』	渡辺徳夫/黒瀬志保(他)	三修社	２０２１	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明　この科目を受講することで、初級ドイツ語文法の理解と、簡単な日常会話を身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
2	［話法の助動詞について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
3	［話法の助動詞の用法について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
4	［ヒアリング練習］　ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
5	［形容詞について］　ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
6	［形容詞の比較・副詞的用法について］　比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
7	［分離動詞について］　分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
8	［動詞の３基本形について］　動詞の３基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
9	［過去形の変化について］　過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
10	［完了形について］　ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
11	［完了形の用法について］　完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
12	［関係代名詞について］　関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
13	［受動態について］　受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
14	［zu不定詞について］　不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
15	［接続法について］　接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
16	［定期試験］　試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、試験を通して確認する。	試験に向け全体を復習すること。（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学（M） （科目ナンバリング：HSS031028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）　守屋　俊甫（経営学科・特任講師）石井　祐治（経営学科・特	研究室等所在	１号館２階（三嶋）　未定（守屋） １号館２階（石井）　１号館２階（岡田）		
単位数	2　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯教育の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けての望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

人間の健康や体力の向上に向けて、科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できる力を身につける。

授業全体の内容と概要

授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義について、および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は、生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。
「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

４名の教員がオムニバス形式で行う。各教員ともパワーポイントや板書による講義形式で行うが、進展に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。
各教員が担当したテーマにおいて小テストも実施する。小テストの実施方法や評価等については各教員から改めて連絡する。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語は慎むとともに、携帯電話等の電源は必ず切ること。
授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。
健康に関する知識と能力を身につけたか試験等で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	４０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康及び体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。さらに人間の健康観において歴史的変遷も理解していた。体力の概念についても免疫や筋について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力、防衛体力について深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康の概念や体力の構成要素については理解した。	人間の健康観や体力についての知識や理解力がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動及び栄養に関する専門的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであり、実践する上での処方も理解できた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かになった。	健康な生活における運動及び栄養に関する基本的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識や関心がほとんど得られなかった。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、専門的な深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識もえられた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識は得られた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する知識、意識、関心がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学（M） （科目ナンバリング：HSS031028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）　守屋　俊甫（経営学科・特任講師）石井　祐治（経営学科・特	研究室等所在	１号館２階（三嶋）　未定（守屋） １号館２階（石井）　１号館２階（岡田）		
単位数	2　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林、小島、尾西、小山、佐藤、中川、米野、石井、天野、	三和書籍	2023	7984862514875	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、健康の概念 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	体力の概念	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	運動と健康（運動と身体変化）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	栄養と生活（栄養素）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	栄養と生活（食生活）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	栄養と生活（エネルギー代謝）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
7	運動やスポーツに伴う身体の変化	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	現代人の身体と運動	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
9	現代人の身体と運動（生涯スポーツ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
10	スポーツ外傷	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
11	スポーツ障害	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
12	救急処置	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	最近の健康問題（生活習慣病）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	最近の健康問題（中毒）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	最近の健康問題（感染症、精神の病気）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学（S） （科目ナンバリング：HSS031028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本学および専門学校において、健康科学の授業を担当した経験を活かして指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯学習の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を身に付けさせる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１,DP２、DP５に対応する。

到達目標

人間の健康や体力の向上に向け、科学的な知識を身に付ける。
自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できるようになる。

授業全体の内容と概要

授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。

授業の方法

授業はパワーポイントや板書よる講義形式で行うが、進展に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。終了後、振り返りシートに理解できたこと、あるいは理解できなかったことを書いてもらい次回の講義で解説する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
授業に臨む際に求められる態度、姿勢、授業に集中して聞くこと。
授業中の私語は慎んでください。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	20%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
:健康および体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念や体力の構成要素について深く知識を理解することができた。	WHOの健康の概念や体力の構成要素についておおむね理解できた。	WHOの健康の概念や体力の構成要素についての基礎的な知識が比較的理解できた。	WHOの健康概念や体力の構成要素について多少理解できた。	WHOの健康概念や体力の構成要素についてほとんど理解できなかった。
運動および栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識を深く理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識をおおむね理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が比較的理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する基本的な知識が多少理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が理解できなかった。
現代の健康問題に対する知識と感心	生活習慣病や健康問題についての知識を深く理解できた。	生活習慣病や健康問題についておおむね理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識が比較的理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識が多少理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学（S） （科目ナンバリング：HSS031028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　尾西　則昭　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本学および専門学校において、健康科学の授業を担当した経験を活かして指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林、小島、尾西、小山、佐藤、中川、米野、石井、天野、	三和書房	2023年	978-4-86251-487-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果反映と、本科目を修了して「身に付く力」について説明する。学生報告の役割分担を確認する。 健康の概念	事前にシラバスを読んで確認する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	体力の概念	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	運動と健康①（運動と身体変化）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	運動と健康②　（運動の効果）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	運動と健康③　（運動の処方）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	栄養と生活①　（栄養素） 小テスト①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
7	栄養と生活②　（食生活） ビデオ鑑賞	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	運動と身体①（トレーニングの原理）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
9	運動と身体②　（運動とエネルギー）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
10	運動と身体③　（スポーツと怪我）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
11	スポーツ外傷とスポーツ傷害について	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
12	スポーツと救急処置	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	健康問題①　（生活習慣病） 小テスト②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	健康問題②（薬物・喫煙）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	健康問題③（アルコール）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	自己研究の健康科学の理解と生活習慣の理解の総括。授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身につく力」について検証、授業改善アンケートを実施する。 定期試験	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学（D・A） （科目ナンバリング：HSS031028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）　守屋　俊甫（経営学科・特任講師）石井　祐治（経営学科・特	研究室等所在	１号館２階（三嶋）　未定（守屋） １号館２階（石井）　１号館２階（岡田）		
単位数	2　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め，将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて，望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯教育の一環として，健康やスポーツについての基礎的かつ化学的知識を深めさせるとともに，将来の社会生活における健全な生活実践へ向けての望ましい健康観を確立し，豊かな人間性を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。
建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

人間の健康や体力の向上に向けて，科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って，生涯の健康づくりに留意できる力を身につける。

授業全体の内容と概要

授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義について、および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は、生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。
「ＳＤＧ　３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

４名の教員がオムニバス形式で行う。各教員ともパワーポイントや板書による講義形式で行うが、進展に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。
各教員が担当したテーマにおいて小テストも実施する。小テストの実施方法や評価等については各教員から改めて連絡する。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語は慎むとともに，携帯電話等の電源は必ず切ること。
授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので，欠席しないようにすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は，１３回以上。
健康に関する知識と能力を身につけたか試験等で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	４０％	５０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康及び体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。さらに人間の健康観において歴史的変遷も理解していた。体力の概念についても免疫や筋について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力，防衛体力について深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康の概念や体力の構成要素については理解した。	人間の健康観や体力についての知識や理解力がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動及び栄養に関する専門的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであり，実践する上での処方も理解できた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かになった。	健康な生活における運動及び栄養に関する基本的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識や関心がほとんど得られなかった。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物，飲酒などの健康問題に対して，専門的な深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物，飲酒などの健康問題に対して，比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物，飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識も得られた。	生活習慣病や薬物，飲酒などの健康問題に対する基本的な知識は得られた。	生活習慣病や薬物，飲酒などの健康問題に対する知識，意識，関心がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学（D・A） （科目ナンバリング：HSS031028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）　守屋　俊甫（経営学科・特任講師）石井　祐治（経営学科・特	研究室等所在	１号館２階（三嶋）　未定（守屋） １号館２階（石井）　１号館２階（岡田）		
単位数	2　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め，将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて，望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林，小島，尾西，小山，佐藤，中川，米野，石井，天野，	三和書籍	2023	978-4-86251-487-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、健康の概念 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	体力の概念	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	運動と健康（運動と身体変化）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	栄養と生活（栄養素）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	栄養と生活（食生活）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	栄養と生活（エネルギー代謝）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
7	運動やスポーツに伴う身体の変化	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	現代人の身体と運動	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
9	現代人の身体と運動（生涯スポーツ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
10	スポーツ外傷	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
11	スポーツ障害	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
12	救急処置	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	最近の健康問題（生活習慣病）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	最近の健康問題（中毒）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	最近の健康問題（感染症、精神の病気）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅰ （科目ナンバリング：SWS111003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

概要

履修目標

１．社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。
２．現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。
３．社会保障制度の財政について理解する。
４．公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
※厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室「社会福祉士養成課程カリキュラム(令和２年３月６日）」より

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。

到達目標

１．社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解することができる。
２．現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解することができる。
３．社会保障制度の財政について理解することができる。
４．公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて学ぶ。
２．現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について学ぶ。
３．社会保障制度の財政について学ぶ。
４．公的保険制度と民間保険制度の関係について学ぶ。
５．「SDG1．貧困をなくそう」，「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．社会福祉士や精神保健福祉士などの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．社会福祉士や精神保健福祉士のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。
６．スポーツなどの大会などへの参加で授業に欠席する場合は事前にご相談ください。
７．交通機関などの遅休・遅延など生じた場合も事前・事後にご相談ください。
８．何らかの問題が生じた場合などはTeamsのチャット機能や授業のチームに連絡事項を掲載しますので、見ておくようにしてください。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・学生個人、親、教員、スクールカウンセラーからの情報などを得て、対応を行う。
・具体的には「参考資料」、「板書やパワーポイント」の量や文字の大きさ、スピードへの対応を行う。
・体調不良時などはオンラインやオンデマンドの対応も行う。
・講義中の録音、録画、撮影などの対応にも配慮する。
・必要に応じて座席や教室の出入りなどの対応にも配慮する。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程(選択)

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。	履修目標を越えて少子高齢社会の課題について理解できた。	社会保障がかかえている問題と課題について理解できた。	今日における社会保障の意義を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できなかった。
現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。	経済社会の変化を踏まえた今後の社会保障の見直しの是非について考えることができた。	少子高齢社会における社会保障の課題について対応策を考えることができた。	社会保障の理念の変化と社会保障の保障水準の関係について考えることができた。	社会保障の理念の変化について説明することができた。	社会保障の理念の変化について説明することができなかった。
我が国における、社会保障制度の財政や民間制度の関係について理解する。	我が国における、社会保障制度の財政や民間制度の関係について理解できた。	我が国における、社会保障制度の財政や民間制度が直面する諸課題について対応策を考えることができた。	我が国における、社会保障制度の財政や民間制度の関係が直面する諸課題の解決に関心を寄せることができた。	我が国における、社会保障制度の財政や民間制度が直面している諸課題に関心を示すことができた。	我が国における、社会保障制度の財政や民間制度が直面している諸課題に関心を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅰ （科目ナンバリング：SWS111003　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座７　社会保障　第２版』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２５年	978-4-8243-0150-5	3,410円(税込)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・初回の授業ということでガイダンスとして、シラバスを示し、授業現在の流れや成績評価について説明を行う。 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 ・科目を修了して『身に付く力』についての説明 ・現代社会における社会保障制度の現状について－概論	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
2	現代社会における社会保障制度の現状について－人口動態の変化－少子高齢化、人口減少社会	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
3	現代社会における社会保障制度の現状について－経済環境の変化－正規雇用と非正規雇用、労働関係法規、ワーク・ライフ・バランスについて	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
4	社会保障の概念や対象及びその理念－社会保障の概念と範囲について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
5	社会保障の概念や対象及びその理念－社会保障の役割と意義（セーフティネット）について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
6	社会保障の概念や対象及びその理念－社会保障の理念について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
7	社会保障の概念や対象及びその理念－社会保障の対象について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
8	社会保障の概念や対象及びその理念－社会保障制度の展開について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
9	社会保障の財政－社会保障の財源（一般会計・地方経費・社会保険料・利用者負担　・財政調整 ）について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
10	社会保障の財政－社会保障給付費（内訳・動向）について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
11	社会保障の財政－社会保障給付費（国民負担率・社会保障と経済）について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
12	社会保険と社会扶助の関係－社会保険の概念と範囲について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
13	社会保険と社会扶助の関係－社会扶助の概念と範囲について 第１回～第１３回までのまとめ	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
14	公的保険制度と民間保険制度の関係－公的保険と民間保険の現状	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
15	試験の実施 ※通常試験時間６０分、配慮の必要な学生９０分などで対応	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
16	授業全体の振り返り、フィードバック（解説） 試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業アンケートの実施 最後の授業ということで、出席状況や成績評価について学生が確	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	寺嶋　弘道　（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　寺嶋　弘道　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長としての経験に基づき、創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導する。		
オフィスアワー	事前にチャットまたはメール連絡により調整し、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人間の創造性と感性の所産である美術について、東西の多様な表現に触れながらそこに表された思想、信条、感覚、感情などを考察し、視覚芸術である美術の本質と文化所産の伝播と影響の実相を探究する。
また、学修者自身が美の所在を考え自らの言葉で表現し、またはその内容を他者に伝えることができるようになることをめざす。
もって、創造性の発現を促す美的体験の重要性を理解し、創作活動やさまざまな生産・製作活動の分野で社会に貢献できるクリエイティブな思考力を醸成する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP３、DP４に対応する。

到達目標

1　東西の美術の諸相を理解し、様式や表現に関する基礎用語を適切に用いることができる。
2　さまざまな美術作品の特質について理解を深め、具体的な事例をあげて美の所在を説明できる。
3　芸術文化の創造と伝播、技術や技法の発案と継承について着目し、視覚芸術をめぐるさまざまな視点から考察することができる。
4　文化財の保護や美術研究の場としての美術館の役割を理解し、その機能と活動を説明できる。

授業全体の内容と概要

古今東西の美は、人類の創造力の証として世界各地の文化財や美術作品にその姿を現している。
本授業では、地域と時代を俯瞰して人類の美の所産をめぐりつつ、その表現様式や美術潮流などの基礎知識を学ぶとともに、特徴的なテーマや造形的な特質について時間と空間を往来しながら作家や作品にアプローチし、美術文化の創造と受容の過程を理解する。
さらにこれらの美術作品が美術館や博物館において文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に大きな役割を果たしていることにも理解を深める。
「SDGs9．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連項目

授業の方法

・各回の授業では作品画像をパワーポイントで提示しながら、講義形式で授業を進める。
・対面授業の実施を基本とするが、課題の提出やパワーポイントのデータ、参考資料の配布は所定の学内WEBシステムを介して行うので、ＩＣＴ環境を整えておくこと。
・授業の内容に応じて、テーマに対するディスカッション、フリートーク、動画の視聴を併用する場合がある。
・ほぼ毎回の授業で、授業テーマまたは履修目標に関連したミニレポート、調査学習を伴うセルフワークを課題として提示する。本授業ではこれらの課題作成・考察内容を重視するので、期限までに作成し提出すること（期末評価物のため期限を越えても必ず提出のこと。遅延は減点対象）。
・ミニレポート、セルフワークは必要に応じ、提出期限後の授業で解説・評価・指導内容を例示し、または学内WEBシステムを活用してフィードバックする。また、Teams、chatなどにより学修支援を行う。
・各回の学習終了後は、受講確認票を兼ねた「おすすめアート報告書」を提出すること。この報告書は学内WEBシステムを利用して行う事後アンケートだが、期末評価の対象であるので忘れずに提出すること。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・教科書は使用しない。各回授業の都度、適宜、資料を配布する。参考図書は授業内で紹介する。
・各回の授業終了後は配布データ・資料、ノート、参考図書等を読み返し、講義テーマを復習すること。
・予習として、次回授業のタイトルをもとにテーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、画集、図書、インターネット等で下調べをしておくこと。
・美術文化関係の展覧会や画集、テレビ番組、映画等を普段から積極的に見るほか、観覧が有用な美術展については授業内において紹介するので、実作品を鑑賞し自学自習に取り組むこと。
・やむをえず欠席、遅刻する場合は、事前もしくは事後にチャットまたはメールで担当教員まで連絡すること。その事由によっては、課題の提出をもって出席とみなす場合がある。規則によって手続きが必要な欠席については学務課に届け出ること。
・２コマ続きの時間割の場合、それぞれのコマごとに事前学習及び事後学習が必要となるため、相応の自宅学習時間を確保すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定には、全１６回の授業のうち期末の定期試験を除く計１５回の三分の二以上の出席が必要（１０回以上）。これに満たない者には期末定期試験の受験資格を付与しない。
・成績評価は、期末の定期試験またはレポート試験２０%、ミニレポート及びセルフワーク等の課題６０%、中間テスト１０%、平常時のおすすめアート報告書（受講確認票）１０%の比率で点数を配分し、それらの提出状況と記述内容を評点して総合判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２０%	０%	６０%	１０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
さまざまな表現様式・思潮・美術用語の理解	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いて論考をまとめることができた。	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相を理解し、基礎的な美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相に関心を持ち、基礎的な美術用語を用いることができた。	美術の諸相への関心や基礎的な美術用語への学びが不十分だった。
美術の本質や文化の伝播・影響に関する多角的探究	芸術や文化に内在する美の本質を論理的に考察し、自らの言葉で多角的視点から的確に論述することができた。	芸術や文化に内在する美の本質を考察し、自らの言葉で多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に内在する美の有り様を考察し、多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に現れた美の有り様に気づき、説明することができた。	芸術や文化の美の有り様について、十分に考察するには至らなかった。
多様な芸術や文化に対する独創性・創造性の考察	芸術文化の創造、技術の継承について理解を深め、そのオリジナリティをさまざまな視点から分析し考察することができた。	芸術文化の創造、技術の継承について理解し、そのオリジナリティを分析し考察することができた。	芸術文化の継承について理解し、そのオリジナリティを考察することができた。	芸術文化の継承について関心を持ち、そのオリジナリティに気づくことができた。	芸術文化の継承やそのオリジナリティについて十分に考察するには至らなかった。
文化財の保護活用と芸術の社会包摂に関する理解	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を深く理解し、批評文・意見文などで自分の考えをの確に論述することができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、批評文・意見文などで自分の考えをまとめることができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、説明文・感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能に関心を持ち、感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能を理解するには至らなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	寺嶋　弘道　（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　寺嶋　弘道　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長としての経験に基づき、創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導する。		
オフィスアワー	事前にチャットまたはメール連絡により調整し、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	美と美術と美術館と－迷宮の入り口で ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。 文化財へのアプローチ（1） 世界遺産探訪－もう一人の平山郁夫とその美術館	シラバスを読んでおくこと。講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
2	文化財へのアプローチ（2） 岡本太郎の縄文発見！@東京国立博物館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
3	文化財へのアプローチ（3） 世界のロイヤルコレクション－ルーヴル・故宮・正倉院	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
4	文化財へのアプローチ（4） 憧れの古代ギリシャ・ローマ－西洋美術の原点	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
5	視覚芸術の相克（1） 栄光のルネサンス－画家ダ･ヴィンチ VS 彫刻家ミケランジェロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
6	視覚芸術の相克（2） 運慶・快慶、見参！－もののふの時代を生きる道	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
7	視覚芸術の相克（3） アングルに学べ！美術アカデミー－受け継がれる美の規範	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
8	視覚芸術の相克（4） モダニズムと印象派の画家たち―同時代へのまなざし 中間テスト（到達目標の点検・確認）	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
9	視覚芸術の相克（5） 神々の黄昏－ロダンとガウディをめぐるシン彫刻史 中間テストのフィードバック（解答例への講評）	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
10	オリジナリティとは（1） 厚岸・正行寺：「よみがえった襖絵」から探る美の真相	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
11	オリジナリティとは（2） 渓斎英泉と浮世絵の図像学－江戸庶民の美意識	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
12	オリジナリティとは（3） 神さま仏さま－クローン仏像に手を合わせるココロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
13	オリジナリティとは（4） 近代ニッポン－文明開化150年の光と影	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
14	文化の伝播と創造（1） パフォーミングアート：茶の湯－もてなしの心としつらえ 期末試験の実施方法と対策	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
15	文化の伝播と創造（2） ホワイトキューブのジレンマ－ポップカルチャー時代の美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等の課題を作成し提出すること（120分）
16	文化の伝播と創造（3） 文化の複製：中心と周縁－森村泰昌『まねぶ美術史』から 期末試験の実施、授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証、授業に係る講評・解説によるフィードバック	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。期末試験に向けて全期の復習を行うこと（120分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認し、全期のノートを整理すること。期末試験の不明点を再点検し、最終レポートの作成・提出を確認すること（120分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 （科目ナンバリング：APT311002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）、向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階、２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

積雪寒冷地における木造と鉄筋コンクリート造について，技術と製図の基本を修得することを目標としている。木造では軸組構法が主となるが，構造・構法の考え方や高断熱・高気密の建築技術を学ぶ。鉄筋コンクリート構造では，壁構造とラーメン構造の構造計画，外壁・地下室・屋上防水等の詳細図，積雪寒冷地の外装計画等を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１，ＤＰ３，ＤＰ４に対応する。

到達目標

時間内に課題を完成させることができ，期日を守ることの重要性を身に付ける。木造，鉄筋コンクリート造，鉄骨構造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って，正しく表現できる。

授業全体の内容と概要

木造，鉄筋コンクリート造，鉄骨構造の各種設計図の表現方法を学ぶ。課題は授業計画に従い，毎週提示され授業時間内に完成させ提出することを原則とする。課題により次回の提出を認めている。課題は採点の後返却される。

授業の方法

課題解説，製図，およびそれらの指導は，すべて製図室にて行われる。したがって，指定された製図道具を各自必ず持参し，授業に臨むこととなる。また，課題ごとに配布する資料と板書による説明をし，そののち製図を始める。再提出や追加課題に備えて，自宅に製図板，製図道具等を揃えておくことが不可欠である。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当日の製図課題の説明は授業開始直後に行うので，遅刻してきた場合の説明は他の学生が製図に着手した後となるので，遅刻はかなりのハンディキャップとなるので注意をする。課題は全課題提出が原則である。
３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻４回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２コマ連続実技なので，単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上，かつ全課題提出とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本技術について①寸法とスケール②図面の表示記号③線の種類と描き方④建築図面の理解⑤空間の理解	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について表現が作品によっては不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について表現が不十分であった。	①～⑤について理解できていたが表現が部分的に不十分であった。	①～⑤について理解，表現とも不十分であった。
木造軸組み工法の各種図面において①柱の位置②線種の使い分け③部材の寸法④図面のレイアウト⑤部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていた。しかし⑤は理解できていたが表現が不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について理解，表現とも不十分であった。	①～⑤の項目の過半ついて理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	①～⑤について理解，表現とも不十分であった。
鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において①柱割②線種の使い分け③部材の寸法④図面のレイアウト⑤部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていた。しかし⑤は理解できていたが表現が不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について理解，表現とも不十分であった。	①～⑤の項目の過半ついて理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	①～⑤について理解，表現とも不十分であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 （科目ナンバリング：APT311002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）、向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階、２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス1　授業計画の説明と履修指導	シラバスにより次回の部分を予習すること（４５分）	授業計画の内容と履修内容を復習すること（４５分）
2	ガイダンス2　製図のルール，作図方法	製図のルール，作図方法を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
3	寒冷地の木造建築－１a平面図（柱の配置，軸組構法）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
4	寒冷地の木造建築－1b平面図（壁の断熱と大壁・真壁）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
5	寒冷地の木造建築－２a 展開図の描き方，建具表の表現	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
6	寒冷地の木造建築－２b 展開図と建具表の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
7	寒冷地の木造建築－３a 基礎の断熱，寒冷地の１階床組	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
8	寒冷地の木造建築－３b 基礎伏図と１階床伏図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
9	寒冷地の木造建築－４a ２階荷重の伝播，小屋組の造り方	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
10	寒冷地の木造建築－４b ２階床伏図と小屋伏図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
11	寒冷地の木造建築－５a 矩計図に表現される事項	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
12	寒冷地の木造建築－５b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
13	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－１a 柱スパンと柱の断面寸法，外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
14	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－１b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
15	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－２a 断面の考え方，表現方法	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
16	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－２b 断面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－３a 梁・スラブと階高，断熱方法，天井の構法	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
18	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－３b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
19	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－４a 防水（屋上防水，地下室の防水と断熱	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
20	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－４b 防水（屋上防水，地下室の防水と断熱）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
21	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－５a外装 コンクリート打放し，カーテンウォール	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
22	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－５b 立面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
23	鉄筋コンクリート造壁構造－１a 壁式構造とは耐力壁の壁量と配置	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
24	鉄筋コンクリート造壁構造－１b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
25	鉄筋コンクリート造壁構造－２a 断熱材と開口部と納まり	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
26	鉄筋コンクリート造壁構造－２b 平面詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
27	鉄骨構造－１a 柱スパンと柱の断面寸法，外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
28	鉄骨構造－１b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
29	鉄骨構造－２a 床・屋根スラブの造り方，壁下地と仕上げ材　次回の製図内容を予習すること（90分）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
30	鉄骨構造－２b 部分詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
31	講評会-1	講評会にむけて，今までの製図課題を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，課題図面を見直すこと（４５分）
32	講評会-2 授業改善アンケートの実施	講評会にむけて，今までの製図課題を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，課題図面を見直すこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　由水 伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ICTの専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿って討議や調査を行うなどで、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。
最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。
原則としてＳ評価は全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得は概ね十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んでいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組む姿勢がうかがえた。	疑問点を積極的に質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	聞き手に回りがちであったか、授業はこなしていた	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：	由水 伸	）	CAP制 ○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学習上の注意点、授業改善アンケート結果反映の説明 ・業務とICT	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	◇ IoTを活用した業務のDX科の研究 IoTとは 活用事例を通したIoTとDXの理解	IoTについて予習（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	◇IoTを支える技術（1） 情報ネットワーク　インターネット　クラウドコンピューティング 電子デバイスの基礎知識　電子工学　電気工学	コンピューターネットワークとインターネット（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	◇IoTを支える技術（2） 各種センサーとその応用	センサーの種類と特徴（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	◇IoT機器の理解（1） 電子工作の基礎知識　電気の特性　交流と直流 LEDの利用を通して電子デバイスを理解する	電子デバイスの理解（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	◇IoT機器の理解（2） 電子工作の基礎知識 簡単な電子工作	指示された予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	◇IoT機器の理解（3） センサーを用いた機器の製作	指示された予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	◇IoT機器の理解（4） 無線操作可能なIoT機器の製作	指示された予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	◇市販のIoT機器と応用利用（1） インターネットを利用したIoT機器の利用 温度計とスイッチ	市販のIoT機器の調査（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	◇市販のIoT機器と応用利用（2） センサーを利用したIoT機器の利用	市販のIoT機器の調査（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	◇市販のIoT機器と応用利用（3） 複数のセンサーやデバイスを組み合わせたセキュリティシステムの考案	指示された予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	◇市販のIoT機器と応用利用（4） 複数のセンサーやデバイスを組み合わせたセキュリティシステムの製作	指示された予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	◇IoT機器を活かした業務のDX化のあり方の研究（1） IoT機器を活かして仮想の業務をDX化する 調査と考察	DXについて予習（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	◇IoT機器を活かした業務のDX化のあり方の研究（2） IoT機器を活かして仮想の業務をDX化するには 設計とシステム構築	指示された予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	◇IoT機器を活かした業務のDX化のあり方の研究（3） IoT機器を活かして仮想の業務をDX化するには（前回からの続き 発表資料作成	指示された予習課題（４５分）	発表資料作成（４５分）
16	◇発表会 「IoT機器を活かした業務のDX化」 講評と採点 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科各教員	研究室等所在	各研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　各教員　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢，学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　各教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えにもとづいたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

まず経済学の基本となる重要概念を学ぶ。学んだことを知識としてただ理解するだけでなく、経済学の考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりまぜて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえて集団討論による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１０％	０％	９０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてある程度とらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的な観点を適用できなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的解答を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取りくめた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（４５分）	シラバス等の確認とまとめ（４５分）
2	経済学演習（1） 経済学の考え方について（時間割引等）	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
3	経済学演習（1） 事例演習（時間割引等）：集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
4	経済学演習（1） 事例演習（時間割引等）：個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
5	経済学演習（1） 発表とまとめ（時間割引等）	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
6	経済学演習（2） 経済学の考え方について（バイアス等）	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
7	経済学演習（2） 事例演習（バイアス等）：集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
8	経済学演習（2） 事例演習（バイアス等）：個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
9	経済学演習（2） 事例演習（バイアス等）の発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
10	経済学演習（3） 経済学の考え方について（ゲーム理論等）	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
11	経済学演習（3） 事例演習（ゲーム理論等）：集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
12	経済学演習（3） 事例演習（ゲーム理論等）：個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
13	経済学演習（3） 事例演習（ゲーム理論等）の発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
15	演習課題等の講評・解説（フィードバック）	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う（４５分）	演習ノートの整理（４５分）
16	後期学生生活・修学の振り返り 科目を修了して「身に付く力」の検証	後期の学生生活について振り返る（４５分）	振り返りをまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。
法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「ＳＤＧ８.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。
※不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※補講はオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・演習科目なので、積極的な出席が必要
・私語などの迷惑行為は厳禁
・講義中スマホの操作は厳禁

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	３０％	０％	７０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
2	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）事例研究 大学の学びとキャリア（１） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
3	株式会社の経営体制－骨格と役割（８）事例研究 大学の学びとキャリア（２） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
4	株式会社の経営体制－責任（１）役員 大学の学びとキャリア（３） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
5	株式会社の経営体制－責任（２）役員 大学の学びとキャリア（４） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
6	株式会社の経営体制－責任（３）事例研究 大学の学びとキャリア（５） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
7	株式会社の経営体制－責任（４）事例研究 大学の学びとキャリア（６） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
8	株式会社の経営体制－責任（５）事例研究 大学の学びとキャリア（７） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
9	株式会社の経営体制－骨格と役割（５）指名委員会等・監査等委員会・執行役 大学の学びとキャリア（８） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（６）監査役・監査役会 大学の学びとキャリア（９） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
11	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）会計参与・会計監査人 就職活動の準備（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
12	株式会社の経営体制－骨格と役割（８）事例研究 就職活動の準備（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（９）事例研究 就職活動の準備（３）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（１０）事例研究 就職活動の準備（４）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
15	株式会社の経営体制－骨格と役割（１１）事例研究 就職活動の準備（５）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
16	個別面談・履修登録チェック 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	前期全体の振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。科目を修了して、社会人基礎力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩｂはＩａ同じ手法で進めるが、専門演習Ｉａでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバックを行う。科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を身につける。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚ではなく客観的事実（データ）から評価できる。その過程を通して、①保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識が説明できる、②様々な人々と協調して一緒に仕事ができる、③マネジメント力を発揮しプロジェクトを遂行できる、④社会人基礎力を向上させ学んだ知識を現場に適用し有効に活用することができる。ことを目標とする。

授業全体の内容と概要

①スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。②調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案（Excel，Word，Power Pointなどを使用）について学ぶ。③グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。調査結果等のプレゼンテーションには質疑応答の機会を設けてフィードバックを行う。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践経験（体験活動）に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力を身につける）。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	研究計画の立案①先行研究の文献調査（文献検索の方法、読み方）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	研究計画の立案②研究方法、研究倫理について	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究計画の立案③実験・調査依頼文の作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	実験・調査依頼	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	アンケート調査	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	スポーツパフォーマンス測定調査①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	スポーツパフォーマンス測定調査②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	スポーツパフォーマンス測定調査③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	スポーツパフォーマンス測定調査④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査結果のデータ分析①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査結果のデータ分析②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	調査結果報告資料作成①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	調査結果報告資料作成②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	調査結果報告発表①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	調査結果発表（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力が身についたか検証）、調査結果に対する講評をし、フィードバックを行う。授業改善アンケートの実施。	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を検証する。
・トレーニング内容を確立する。
陸上競技に知識と技能を身につけ指導する力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

データ分析，パワーポイント，ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い，より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・新たなトレーニング方法の検証
・レース分析　　SDG4 質の高い教育目標　科学的トレーニングの導入
・簡単な動作分析　など
陸上競技の基礎的な知識と技能を身につけさせる。

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め，スケジュールを組み取り組んでいく。
途中経過をゼミで発表し，意見交換を行う。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自状態によってトレーニング内容が変わってくるため，日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニングおよびレース内容をもとに評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。
陸上競技の大会等結果から知識と技能を身につけたか評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	２５％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけた。	陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけた。	おおむね陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけた。	陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけていないカ所がある	全く陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけていない。
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 身に付ける力の内容と授業内容とシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	ガイダンス （45分）	学習内容の復習（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング⑤	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング⑥	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして検証 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成 （45分）	学習内容の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。
・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

データ分析，パワーポイント，ワードでのまとめ方を覚える．
統計処理まで行い，より詳しい分析方法やデータ処理を身につける．

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・ゲーム分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
・途中経過をパワーポイントで発表し，意見交換を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	２５％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　篠原　諒介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	論文発表①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	論文発表②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	論文発表③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	論文発表④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	プレ測定①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	プレ測定②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	プレ測定③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	プレ測定④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	プレ測定⑤	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
15	プレ測定⑥	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成（４５分）	学習内容の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、金融支援やマネジメント業務に従事する他、キャリアコンサルタントとして活動した様々な経験やネットワークに基づき、自己理解及び社会理解を深めつつ、フィールドワークで地域の起業家コミュニティや事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

自己の理解についてアントレプレナーシップマインドを通して深めるとともに、さらに社会への理解を深めることで、自分の衝動を社会に接続させることをねらいとする。
そのため、日常のあらゆる事象に対し、好奇心をもって理解を深める姿勢を重視するとともに、理論だけではなく、実践知、身体知といった体験する姿勢を尊重する。
また、グループディスカッションやフィールドワークにおいては積極的な姿勢で参加するとともに、「相手を尊重する」「まずは受け止める」「気づきを促す問いを発する」という姿勢を大切にする。これにより将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、「相手を尊重する」「まずは受け止める」「気づきを促す問いを発する」という姿勢を通して、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

当ゼミナールは、アントレプレナーシップマインド（文献）を学ぶことから始める。その後は、自己理解や社会理解を深めるために必要となる思考法の基本を学び、テーマに基づいてレポートを作成する。また、考え方や価値観の異なるメンバー間とのディスカッションを通して学びを深めていく。

授業の方法

当ゼミナールは、グループ対話を中心に進める。卒論を見据えた基本姿勢の習得とテーマ設定の一環として、課題図書の該当箇所について、要約と自分の気になった箇所の引用とその理由、全体所感をレポートとしてまとめ、プレゼン発表できるようにする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、金融支援やマネジメント業務に従事する他、キャリアコンサルタントとして活動した様々な経験やネットワークに基づき、自己理解及び社会理解を深めつつ、フィールドワークで地域の起業家コミュニティや事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	企業家精神講義（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	企業家精神講義（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	企業家精神講義（実践）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	企業家精神講義（実践）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	企業家精神講義（実践）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	企業家精神講義（ディスカッション）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	企業家精神講義（実践）の総括	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	卒論テーマを考える	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	卒論テーマを考える（対象図書の選定）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	対象図書のレポート作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	対象図書のレポート作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	対象図書レポートの発表・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	対象図書レポートの発表・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	対象図書レポートの発表・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、ｅスポーツを題材として、情報を収集・整理・分析し、根拠に基づいて論理的に考察する力を身につけることを目標とする。具体的には、記事や統計データ、学術文献を読み取り、事実と解釈・意見を区別しながら主張の妥当性を検討する批判的思考力を養う。また、ＩＭＲＡＤ形式をはじめとする論理的構成を理解し、問題提起から考察までを一貫した構造で表現できる力を育成する。さらに、信頼できる資料を適切に検索・引用する調査力と、研究倫理やAIツールの適切な活用方法を理解し、学術的態度を身につけることを目指す。最終的には、自らの考えを根拠とともに明確に伝えられる表現力・発表力を獲得する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・ｅスポーツを題材とした諸課題に対し、信頼できる情報やデータを自ら収集し、その妥当性を検討したうえで論理的に分析できるようになる。（アカデミックスキル）
・記事・統計・学術文献を読み取り、事実と解釈・意見を区別しながら主張と根拠を明確に整理できること、問題提起から考察までを一貫した構成で文章化・発表できることを目指す。（スチューデントスキル）
・適切な引用と研究倫理を守り、AIツールを補助的かつ責任ある形で活用できる姿勢を身につける。（スタディスキル）
・経営学的視点も踏まえてｅスポーツ産業を多角的に捉え、自らの見解を根拠とともに説得的に示せる水準に到達する。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

ｅスポーツを題材として、情報の収集・読解・分析・表現までを一体的に学ぶ。まず、記事や統計データを用いて主張と根拠の関係を整理し、事実と解釈を区別する批判的読解の基礎を身につける。次に、学術データベースの活用方法や文献検索の手法を学び、信頼できる資料に基づいて考察する力を養う。あわせて、ＩＭＲＡＤ形式などの論理構成を理解し、問題提起から結論までを一貫した構造で文章化する方法を実践する。さらに、研究倫理やＡＩツールの適切な活用についても扱い、学術的態度を形成する。最終的には、経営学的視点も踏まえてeスポーツ産業を多角的に捉え、自らの見解を根拠とともに明確に表現・発表できる力の育成を目指す。

授業の方法

主に対面授業で行う。状況によってはオンラインで対応する可能性もある。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
・ノートパソコンを持ってくること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

積極的なゼミ活動への参加姿勢、努力の幅を評価する。
単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上 。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
批判的思考・分析力	事実・解釈・推測を厳密に区別し、複数の立場や前提を比較検討しながら、根拠に基づく高度で一貫した論理分析ができている。	事実と意見を区別し、複数の根拠を用いて論理的に分析できている。視点の広がりも概ね確保されている。	主張と根拠を整理し、一定の論理性をもって分析できているが、検討の深さにやや課題がある。	主張は示されているが、根拠の妥当性や分析の十分さに課題が見られる。	意見の提示が中心で、根拠や論理的な分析がほとんど見られない。
構造化・論理構成力	目的・方法・結果・考察が明確に整理され、段落間のつながりも自然で、全体として高度に一貫した構成となっている。	ＩＭＲＡＤ等の基本構成に沿い、論旨が明確で一貫した文章・発表ができている。	基本構成は押さえており、概ね整理されているが、一部に論理の飛躍や接続の弱さがある。	構成は意識されているものの、段落間の関係が不十分で論旨がやや不明瞭である。	構成が不明確で、論理の流れが整理されておらず理解が困難である。
情報収集・調査力	複数の信頼性の高い資料・統計・学術文献を収集し、出典を適切に示した上で比較検討し活用できている。	課題に適した信頼できる資料を選択し、出典を明示して適切に活用できている。	必要な資料は収集しているが、資料の質や出典表示、比較検討にやや課題がある。	資料はあるが量や信頼性の検討が不十分で、活用が限定的である。	資料収集が不十分、または出典が示されておらず信頼性に課題がある。
表現力・発表力	内容を論理的に整理し、聞き手・読み手を強く意識した明瞭かつ説得力の高い説明や文章表現ができている。	要点を適切に整理し、分かりやすく筋道立てた説明や文章作成ができている。	内容は概ね整理されており、基本的な説明はできているが、表現の明確さに改善の余地がある。	説明や文章は成立しているが、要点が曖昧で伝わりにくい部分が目立つ。	説明や文章表現が不十分で、意図や内容が十分に伝わらない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 夏季課題の成果発表	夏季課題に取り組む(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
2	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
3	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
4	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
5	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
6	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
7	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	担当となった章を精読し、章の要点・重要概念・著者の主張を簡潔にまとめた発表用資料を作成し、次回の発表に向けて提出する。(４５分)
8	書籍の内容整理と発表力の養成	担当範囲を読み要点を箇条書き整理し、発表の準備をする(４５分)	これまでの発表内容をまとめる(４５分)
9	研究テーマ調査	自分が興味のあるテーマを探す(４５分)	フィードバックを受けて調査を開始する(４５分)
10	先行研究調査	自分が興味のあるテーマの先行研究を調べる(４５分)	フィードバックを受けて調査を続行する(４５分)
11	先行研究調査	自分が興味のあるテーマの先行研究を調べる(４５分)	フィードバックを受けて調査を続行する(４５分)
12	先行研究調査	自分が興味のあるテーマの先行研究を調べる(４５分)	フィードバックを受けて調査を続行する(４５分)
13	研究の問い	何を明らかにしたいかを考えてくる(４５分)	フィードバックを受けて修正する(４５分)
14	研究方法	明らかにしたいことについてどう調査を進めるかを調べてくる(４５分)	フィードバックを受けて修正する(４５分)
15	研究計画	研究計画を立てる(４５分)	フィードバックを受けて修正する(４５分)
16	研究テーマ発表会 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	自分の研究したいテーマに調べて発表できるようまとめる(４５分)	フィードバックを受けて修正する(４５分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	守屋　俊甫（経営学科・特任講師）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　守屋　俊甫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北広島市の地域に根ざしたスポーツを通じた人材開発プログラムへ従事しており、積極的なフィールドワークを行いながら、自治体および民間事業者等への訪問やプログラム運営および体験学習を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

"地域をキャンパス" にすることを前提に、フィールドワークや地域人材とのグループディスカッションを積極的に行う。当ゼミ活動は学生自らが問いを立てて、課題解決を行う機会を通して、変化の多い社会の中で自立・自律した人材として活躍できることを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ゼミはチームです。社会に出ても常にチームの中に所属しながら生きていきます。一人では成し遂げられないこともチームであれば達成できることがあります。当ゼミでは、チームの仲間と共助し、互いの強みや弱みを理解し、成果に向けて前向きに取り組む姿勢を持つことを大切にします。そのためにも、自分とは何者か？自分の特性や資質は何なのか？あらゆる体験学習を通じて自分と向き合い続けることを諦めないで取り組みます。

授業全体の内容と概要

最大のテーマは「自分と向き合う」です。大学生である今も、社会人となった未来も、個人であろうが組織に所属する一人であろうが、常に意思決定の連続の中に生きています。自分が何者か、自分の強みは何か、弱みは何かをあらゆる体験学習の中から気づき・発見を生み出します。ゼミ活動では、地域人材と協力しあう場面や、あらゆる社会で活躍する人材の講話を聞く機会、学校教育現場の児童・生徒たちと交流する機会を積極的に設けていきます。

授業の方法

当ゼミは、地域をキャンパスに、教材にすることを基本として、フィールドワークや、地域交流、地域人材とのグループワーク・ディスカッションを行います。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合もあります。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミは「① 自分に正直に、自分の本音を語ること」「② 仲間を大切に、常に互いを尊重し、協力すること」を大切にしています。
そして、基本的な行動として「提出物等の期限を守る」「あらゆる情報をMECEに伝える」「無断欠席をしない」「積極的に発言・参加する」ことを重視しています。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分との向き合い	あらゆる環境での体験学習に取り組み、環境の変化による自分の資質や特性を理解し、言語化することができる。積極的に自分と向き合う姿勢があること。	あらゆる環境での体験学習に取り組み、環境の変化による自分の資質や特性を理解し、言語化することができる。	あらゆる環境での体験学習に取り組み、環境の変化による自分の資質や特性を理解している。	あらゆる環境での体験学習に取り組んでいる。	体験学習に全く取り組んでいない。
チームビルディング	仲間と共に活動することに意欲的であり、互いの資質を踏まえてチームを積極的に前へ動かす姿勢があること。仲間への発言は正直であり、常に協力する相手をリスペクトすること。	仲間と共に活動することに意欲的であり、互いの資質を踏まえてチームを積極的に前へ動かす姿勢があること。	仲間と共に活動することに意欲的であり、チームを前へ動かす姿勢があること。	仲間と共に活動することに意欲的であること。	仲間との活動に意欲がなく、非協力的であること。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	守屋　俊甫（経営学科・特任講師）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　守屋　俊甫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北広島市の地域に根ざしたスポーツを通じた人材開発プログラムへ従事しており、積極的なフィールドワークを行いながら、自治体および民間事業者等への訪問やプログラム運営および体験学習を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	地域をキャンパスに！自ら問いを立てるためのブレインストーミング①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	地域をキャンパスに！自ら問いを立てるためのブレインストーミング②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践① / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践② / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践③ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践④ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践⑤ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践⑥ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践⑦ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践⑧ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践⑨ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	地域をキャンパスに！フィールドワーク実践⑩ / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	地域でのフィールドワークまとめ① / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	地域でのフィールドワークまとめ② / 振り返り	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1	（単位認定責任者：　　藤根　収　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　第4版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2025	9784863717138	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 「特別支援学校教育についてのディスカッション」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２ 「後期の演習及び研究についての説明と協議」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２ 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３ 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４ 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 専門演習ＩＢのまとめ（発表）　演習の講評・フィードバック	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。
②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。
③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。
④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①現場のSW話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。
②状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。
③個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。
④終盤には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	現場見学（福祉サービス事業所） シラバスの説明、科目を終了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	現場見学（福祉サービス事業所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	現場見学（精神科診療所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	現場見学（精神科診療所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	現場見学（地域活動支援センター）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	現場見学（地域活動支援センター）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	現場見学振り返り（福祉サービス事業所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	現場見学振り返り（精神科診療所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	現場見学振り返り（地域活動支援センター）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	まとめ	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括、講義のフィードバック（科目を修了して『身に付く力』についての検証）	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習ＩＢ」の目的は、知的トレーニングを積み重ねてくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
・個々の学生がそれぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ＩＡ」の教員が継続して担当する。４年次の「専門演習ＩＩＡＢ」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動（ネット、文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、そのための章立てができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に着けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の意見を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	調査活動準備①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	調査活動準備②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	調査活動実施①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	調査活動実施②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	調査活動実施③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	調査活動実施④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	調査活動振り返り①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	調査活動振り返り②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	調査活動振り返り③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	調査活動振り返り④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	調査活動振り返り⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	調査活動まとめ①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	調査活動まとめ②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	調査活動まとめ③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	調査報告会、総括 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野を中心に、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する科目

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表のスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
「専門演習ＩＡ」を担当した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	４０％	０％	５０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（活動の目的、方法、活動計画等） 前期の活動のまとめと反省によりフィードバックする 後期の活動予定と取組方針を確認する	所属研究室選択資料の確認 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
2	前期の活動のまとめと反省によりフィードバックする 各自の追究するテーマ、内容等（概要）の確認１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
3	各自の追究するテーマ、内容等（概要）の確認２ 調査研究等の各自の研究デザイン（期間、内容、方法等）の確認１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
4	調査研究等の各自の研究デザイン（期間、内容、方法等）の確認２ 各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、整理１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
5	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、整理２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
6	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、整理３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
7	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、整理４	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
8	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、整理５	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
9	文献研究と情報収集、整理した内容等の全体報告資料の作成１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
10	文献研究と情報収集、整理した内容等の全体報告資料の作成２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
11	文献研究と情報収集、整理した内容等の全体報告資料の作成３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
12	プレゼン資料による全体報告会１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
13	プレゼン資料による全体報告会２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
14	後期の活動のまとめと反省によるフィードバックする 今後の取組への方針	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
15	今後のまとめに向けた確認１	後期の活動の改善点とまとめ （４５分）	今後のまとめに向けた確認 （４５分）
16	今後のまとめに向けた確認２	後期の活動の改善点とまとめ （４５分）	今後のまとめに向けた確認 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
各自が関心を持つ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理や要約の仕方について、自ら積極的に取り組む。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

・各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
・Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
・「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
・大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
・後期の「専門演習ＩＩＢ」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 専門演習ＩＢのまとめ（発表） 科目を修了して「身につける力」の検証 講評をし、フィードバックする	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授	研究室等所在	1号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備（アカデミック･シンキング）の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

・専門ゼミ初年度の１年間を通して、アカデミック・シンキングを学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
・次の①から④について段階的理解をすすめる。
①学術論文のスタイルを確認する。
　（書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ）
②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて
　図書情報館レファレンスサービスをうけ取寄せる。
③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
　社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
　（定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける ）

授業の方法

社会福祉学科Teams「２０２５年度　専門演習Ｉ履修方法」（２０２５年２月投稿）には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」がある。アカデミック・シンキングのための文献講読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。
コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料など、以下のものをまとめたものである。
　準備学習に必要となる教材（論文コピー、報告書など）、　課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料）
　授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報、　授業者への相談質問のための案内

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べており、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼確認の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなく、改善の余地があった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心･意欲･態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第３版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０１９		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	２０１５		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	２０１３		
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明)	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック･シンキング基礎1（学術文献の種類）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
3	アカデミック･シンキング基礎２（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
4	アカデミック･シンキング基礎３（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
5	アカデミック･シンキング基礎４（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
6	アカデミック･シンキング基礎５	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
7	アカデミック･シンキング基礎６	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
8	アカデミック･シンキング基礎７	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
9	アカデミック･シンキング基礎８	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
10	文献講読１（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
11	文献講読２（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
12	文献講読３（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
13	文献講読４（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
14	文献講読４（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
15	文献講読５（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
16	まとめ（授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明）	資料の読解（４５分）	次年度への課題設定（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　千葉聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援教育、教育学、障害のある子供の教育的対応、保護者心理等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障害のある子供の教育的対応を中心とする関連分野について、教育科学、心理学、社会科学の方法論を文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの手法を活用し、論文作成の知識を取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP３、DO4、DP5に対応する科目

到達目標

自分の関心あるテーマを探求し、研究を裏付けるために必要な文献、先行研究、資料の活用方法を習得する。
各々の研究テーマを探求するための研究方法を理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に係るスキルを身に付ける。
論文執筆に係る倫理的な制限を理解し、遵守する。
ディスカッションを通して、他者の意見を尊重しながら建設的な討議をする力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

教育問題全般から特別支援教育、障害のある子供の教育等、関連する内容や今日的な課題について調査、整理、発表、狭義を行う。
各々が興味関心を抱いたテーマについて、整理、問題点の抽出、他者の意見などを取り入れながら、研究の方向性を固めていく。
文献調査、先行研究調査、他必要な情報収集の方法を相談し、まとめ方について主体的に考察する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

研究室での集合形式で実施し、テーマの決め方、論文のまとめ方を資料提示して研究の手法について講義する。
ブレインストーミングやディスカッションを通して思考力を高め、適宜グループワークを導入する。
随時自分の調査や思考の結果をプレゼンテーションソフトでまとめ、発表することで研究の枠組みを作っていく。
学生からの質問等には随時対応し、研究の相談はオフィスアワーやchat機能を活用してフィードバックする。
マイクロソフト社のteams等のアプリを活用して、意見交換、感想、質問等の共有を図る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介をよく読んだ上で所属を希望すること。
前期「専門演習ＩＡ」を担当した教員が、後期「ゼミナールＩＢ」を担当する。
教育問題全般から特別支援教育、障害のある子供の教育等、関連する内容や今日的な課題について、関心のある者とする。
不測に事態が生じた際の授業や補講等は、オンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	40%	０％	50%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
さまざまな情報収集の方法を知り、調査した内容を整理して発表することができる。	課題について、適切な調査方法を選択し、複数のソースから調査した内容を精査し、要点をおさえて発表することができる。	課題について、適切な調査方法を選択し、複数のソースから調査した内容をまとめ、発表することができる。	課題について、調査方法を選択し、調査した内容を発表することができる。	課題について、webを使って調査した内容を発表することができる。	課題について、情報収集のしかたやまとめを指示されてもできない。
研究論文、レポートの書き方を理解し、自分の問題意識を文章化することができる。	研究論文、レポートの書き方を習得し、その方法に沿ってレポートを書き、自分の考察を客観的な視点や根拠を明らかにして書くことができる。	研究論文、レポートの書き方を習得し、その方法に沿ってレポートを書き、自分の考察を他者に伝わるように書くことができる。	研究論文、レポートの書き方を理解し、その方法に沿って自分の考察をレポートを書くことができる。	研究論文、レポートの書き方を理解し、自分の考えをレポートを書くことができる。	研究論文、レポートの書き方の理解が不十分で、考えをまとめることができない。
興味関心を広く持ち、多様なテーマにも積極的に自らの視点で意見交換できる。	自分の研究テーマのみならず、他学生の研究内容に関心を持ち、積極的にディスカッションに参加し、多様な視点を与えて研究を深化させることができる。	自分の研究テーマのみならず、他学生の研究内容に関心を持ち、積極的にディスカッションに参加して研究を深化させることができる。	自分の研究テーマのみならず、他学生の研究内容に関心を持ち、積極的にディスカッションに参加できる。	自分の研究テーマの発表を行い、他学生とのディスカッションで自分の考えを述べることができる。	自分の研究テーマに対しての質問に自分の考えを述べることができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1	（単位認定責任者：　千葉聡美　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援教育、教育学、障害のある子供の教育的対応、保護者心理等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（スケジュール確認、研究内容、方法など） 前期の振り返りと後期の取り組みの確認	夏季休業中の課題（45分）	配布資料の確認(45分)
2	夏季休業中の課題と各自の研究テーマの進捗発表	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
3	夏季休業中の課題と各自の研究テーマの進捗発表	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
4	研究テーマに沿った研究の現在地と明らかにしたい課題の発表	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
5	研究テーマに沿った文献、調査、データ収集等	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
6	研究テーマに沿った文献、調査、データ収集等	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
7	研究テーマに沿った文献、調査、データ収集等	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
8	研究テーマに沿った文献、調査、データ収集等	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
9	研究テーマに沿った文献、調査、データ収集等	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
10	研究のフレームに沿って調査研究した内容を肉付け 研究の概要をプレゼンテーションに作成	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
11	研究のフレームに沿って調査研究した内容を肉付け 研究の概要をプレゼンテーションに作成	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
12	研究のフレームに沿って調査研究した内容を肉付け 研究の概要をプレゼンテーションに作成	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
13	研究のフレームに沿って調査研究した内容を肉付け 研究の概要をプレゼンテーションに作成	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
14	研究のフレームに沿って調査研究した内容を肉付け 研究の概要をプレゼンテーションに作成	予習課題（45分）	配布資料の確認(45分)
15	プレゼンテーションの発表と討議 個々の研究計画に対する講評とフィードバック	1年の振り返り(45分)	振り返りと今後のまとめの確認（45分）
16	プレゼンテーションの発表と討議 個々の研究計画に対する講評とフィードバック 授業改善アンケートの実施	1年の振り返り(45分)	振り返りと今後のまとめの確認（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

「専門演習ＩB」の目的は，知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし，さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して，
学生個々の独創性を磨き，独自の研究テーマを設定する視点とそれを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらび「勉学・研究テーマ」を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する科目。

到達目標

・自分の課題をみつけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかむことができる。

・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。

・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し，的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩAから継続して、卒業論文のテーマに関わる文献検索を行う。
その結果をまとめて、発表する。
「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。したがって，大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し，レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換，質問，教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ＩA」の教員が継続して担当する。４年次の「専門演習ⅡAB」についても原則としてこの科目の教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ，それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスをネット資料，参考文献を提示しながら説明でき，且つ今後のプロセスについて指針を持つことができる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスをネット資料，参考文献を提示しながら説明できる。	自分の研究テーマの端緒を掴むため，今現在自分が行っている活動（ネット，文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており，そこに至ったプロセスを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて，論証するための執筆スキルを身につけており，それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて，論証するための執筆スキルを身につけており，それを章立てできた。	研究テーマについて，論証するための執筆スキルを身につけることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身につけることができた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で，自分のテーマを明確に発表でき，周囲を納得させることができ，且つ他者の発表を尊重し，双方向の発表の中で他者の意見からヒントを得て，他者にもヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で，自分のテーマを明確に発表でき，周囲を納得させることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で，自分のテーマを明確に発表でき，他者の研究を尊重することができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
2	論文執筆に関して	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	卒業論文テーマ設定について	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	研究計画の作成①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	研究計画の作成②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	研究計画の作成③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	研究計画の作成④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	研究計画の作成⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	研究計画の作成⑥	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	研究計画の作成⑦	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	発表準備①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	発表準備②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	発表準備③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	発表準備④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	発表	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括、講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り　（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	栁内　景太（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　栁内　景太（社会福祉学科・専任講師）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童相談所等での経歴があり、その経験を生かして指導を行います。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学の視点から、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、調査、実験、ディスカッションなど通して獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「研究テーマ」の糸口をつかむ。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

この授業では、各自が決めた研究テーマに基づき研究を進めていく。毎回、進捗状況の報告や研究成果（先行研究のレビュー等）の発表を行い、全員でディスカッションをする。
質問には随時対応し、提出された文章に対しては添削やコメントによるフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配信される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩＡ」に所属した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できた	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート路執筆できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	柳内　景太（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　柳内　景太（社会福祉学科・専任講師）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童相談所等での経歴があり、その経験を生かして指導を行います。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜紹介します。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜紹介します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　科目を修了して「身に付く力」の説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ生による発表とディスカッション１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	ゼミ生による発表とディスカッション２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	ゼミ生による発表とディスカッション３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	ゼミ生による発表とディスカッション４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	ゼミ生による発表とディスカッション５	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	ゼミ生による発表とディスカッション６	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	ゼミ生による発表とディスカッション７	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	ゼミ生による発表とディスカッション８	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	ゼミ生による発表とディスカッション９	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	ゼミ生による発表とディスカッション１０	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	ゼミ生による発表とディスカッション１１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	ゼミ生による発表とディスカッション１２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	ゼミ生による発表とディスカッション１３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	ゼミ生による発表とディスカッション１４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括（卒業研究に向けて、各学生の研究進捗状況への個別のフィードバック） 科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習,実習,実技	必修・選択	必修/高・美
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES211017　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。 グラフィックデザイン、プロダクトデザインとは何か！実践を踏まえて理解します。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。
頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
また、自己レベル認識を持てるようにする。前半はグラフィックデザイン、後半はプロダクトデザインを行う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事が出来る。ユーザーをイメージして課題の問題点を解決し、自分オリジナルな切り口を持ってデザイン出来る。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々なロゴや製品のデザインを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）スケッチを行い、完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。
SDG12,　つくる責任、使う責任に準じる。

授業の方法

課題のテーマに沿って、テーマが第三者に伝わる様にデザインする。感情を表現し、使い勝手を考慮して美しいデザインを考えていく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
三菱鉛筆のハイユニの4H～4Bを使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチし、その上に色彩を施す。
A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と色鉛筆、マーカー、消しゴム、カルトンを用意してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	イメージを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	イメージを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	イメージを正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	イメージを捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	イメージを捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
課題テーマを正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。（グラフィック）	課題テーマを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	課題テーマを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	課題テーマを正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	課題テーマを捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	課題テーマを捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
オリジナルアイデア、問題解決、斬新な切り口を持って商品デザインをし、手を通して紙に表現出来る事。	オリジナルデザインが出来、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	オリジナルデザインが出来、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	オリジナルデザインが出来、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	オリジナルデザインが何とかでき、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	オリジナルデザインが出来ない、頭の中に描くことができない。それを絵として表現できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習,実習,実技	必修・選択	必修/高・美
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES211017　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。 グラフィックデザイン、プロダクトデザインとは何か！実践を踏まえて理解します。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 デザインとは？授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 基本形1　鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
2	課題1　グラフィック　デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
3	課題1ロゴ　デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
4	課題2ロゴ　デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
5	課題2ロゴ　デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
6	課題3ロゴ　デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
7	課題3ロゴ　デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
8	課題3ロゴ　デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
9	課題プロダクト1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
10	課題プロダクト1　鉛筆デザイン	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
11	課題プロダクト1　鉛筆デザイン	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
12	課題プロダクト2　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
13	課題プロダクト2　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
14	課題プロダクト3　鉛筆デザイン	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
15	課題プロダクト3　鉛筆デザイン	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
16	プレゼンテーション、デザイン概念　総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（９０分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて必要とされるであろう各種視覚情報メディアについて、その効果的な利用法と高度な演出を学び、実際のビジネス案件に携わる能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数運用し、効果的な情報提供を行うための企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

効果的なメディアミックスを企画立案し、設計・制作し発表する。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された作品の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に関した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された作品の完成度を高めるために必要な視覚効果と演出が意図して十分に取り入れられ成功している。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が意図して十分に取り入れられている。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が取り入れられている。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が不十分である。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が見られない。
主体性・多様性・協働性「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	提出された作品が社会性・公共性を意図しておりユーザビリティを考えた設計に至っており、成功している。	提出された作品が社会性・公共性を意図しておりユーザビリティを考えた設計に至っている。	提出された作品が社会性・公共性を意図しており、ユーザビリティを考えた部分が見られる。	提出された作品が社会性・公共性を意図しきれておらず、ユーザビリティに対する考え方が不十分である。	提出された作品に社会性や公共性が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩB （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	専門研究ＩAの内容を再確認。（４５分）
2	専門研究ＩAからの引継ぎ事項について ・再構成の検討 ・再案の検討	シラバスの確認。（４５分）	専門研究ＩAの内容を再確認。（４５分）
3	専門研究ＩAからの引継ぎ事項について ・年間計画（後期）作成。（４５分）	年間計画（後期）作成。（４５分）	授業内容の整理。（４５分）
4	専門研究ＩAからの引継ぎ事項について ・年間計画（後期）の完成	年間計画（後期）作成。（４５分）	授業内容の整理。（４５分）
5	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
6	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
7	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
8	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
9	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
10	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
13	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
14	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
15	中間発表③	発表準備。（４５分）	情報の視覚化についての考察（４５分）
16	中間発表③	発表準備。（４５分）	情報の視覚化についての考察（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
18	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
19	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
20	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
21	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
22	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
23	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
24	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
25	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
26	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
27	最終発表	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
28	最終発表	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
29	次年度の研究テーマについて ・構想と仮設計②	研究内容の記録と整理。（４５分）	研究内容の記録と整理。（４５分）
30	次年度の研究テーマについて ・構想と仮設計①	研究内容の記録と整理。（４５分）	研究内容の記録と整理。（４５分）
31	専門研究Ｉのまとめと次年度の課題	次年度構想。（４５分）	次年度構想。（４５分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	次年度構想。（４５分）	次年度構想。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーターとしての実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代メディアにおけるイラストレーションについて学び、社会で必要とされる多種多様な作画に対応できる基礎知識と技術を学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて必要とされるであろうイラストレーションについて見識を広げ、実践を想定した制作が可能な能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視したイラストレーションの制作を行う。
「ＳＤＧ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

始めにイラストレーションを正しく認識させるための事前学習と共に年間計画を作成する。
制作や見学などを通じ、イラストレーションに関する知識と技術の幅を広げる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「イラストレーションを分野として正しく認識できている」	提出された課題がイラストレーションを正しく理解した内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された課題がイラストレーションを正しく理解した内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された課題がイラストレーションを正しく理解した内容である。	提出された課題がイラストレーションを正しく理解した内容としては不十分である。	提出された課題がイラストレーションを正しく理解した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力「イラストレーションの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションとして成功している。	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションである。	提出された課題は効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションではあるが成功してはいない。	提出された課題に視覚効果に対する意識が希薄であり、プレゼンテーションとして不完全である。	提出された課題に視覚効果に対する意識が殆ど見られず、プレゼンテーションとして成立していない。
主体性・多様性・協働性「イラストレーション分野としての特性を基にしたプレゼンテーションが行える」	完成提出された課題を基に効果的なプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題を基にプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題とプレゼンテーションの融合が不完全である。	完成提出された課題とプレゼンテーションの内容が分離している。	完成提出された課題によるプレゼンテーションができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーターとしての実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	研究テーマの試案。（４５分）
2	ガイダンス 研究室の方針について 年間計画（後期）の作成	年間計画の試案。（４５分）	研究テーマの試案。（４５分）
3	研究テーマの選定①	研究テーマの試案。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
4	研究テーマの選定②	研究テーマの試案。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
5	研究テーマ発表準備	研究テーマの試案。（４５分）	年間計画の完成。（４５分）
6	研究テーマの発表①	発表準備。（４５分）	研究テーマの考察。（４５分）
7	研究テーマの発表②	発表準備。（４５分）	研究テーマの考察。（４５分）
8	具体的な研究内容の提出①	提出準備。（４５分）	進行確認。（４５分）
9	具体的な研究内容の提出②	提出準備。（４５分）	進行確認。（４５分）
10	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
11	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
12	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
13	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
14	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
15	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
16	研究内容の中間発表①	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究内容の中間発表①	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
18	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
19	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
20	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
21	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
22	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
23	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
24	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
25	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
26	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
27	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
28	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
29	研究内容の中間発表②	発表準備（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
30	研究内容の中間発表②	発表準備（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
31	前期研究内容のフィードバック 後期の研究についての確認	前期研究内容のまとめ（４５分）	後期研究のための準備（４５分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前期研究内容のまとめ（４５分）	後期研究のための準備（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩB （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査員歴任等		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1,2年次に身につけた基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを作品に展開すること。授業の展開の仕方は、専門研究ＩAと変わりがないが、復習をしながら、さらに深く研究することを目標とする。専門研究ＩBにおいて制作する作品は新たなものとする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを、専門研究ＩAで創り上げた作品より、さらに表現力のある作品として示すこと。

授業全体の内容と概要

基礎的な点についての復習を行いながら、各々の履修者の感性や思いを表現するに最も相応しい技法や材料について、さらに深く模索し作品にまとめ上げること。
また、それらの作品を外部に、積極的に発表し、第三者による評価を受け、各々のそれからの制作の糧とすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドヴァイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を創り上げること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	30%	70%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	社会状況を把握し自らの願いや理想について充分に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてほぼ表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてある程度に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想について不充分ながら表現できている。	社会状況を把握して居ず自らの願いや理想について表現できていない。
技法や材料について	自らの表現意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をほぼ的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確というには難があるものの自らの判断で選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確に選択した制作をしていない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等を充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を不充分ながら捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　安田祐造　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査員歴任等		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション―授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をとおす。(45分)	1,2年次までに修得した技法や材料等について復習する。(45分)
2	作品の構想の練り方について	構想の練り方について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し構想の方法を検討する。(45分)
3	構想の取りまとめについて―大きさや形を主に	表現の意図に照らし相応しい支持体の大きさとかたちについても検討する。	本時の授業での講義も参照し支持体の大きさとかたちについて確定する(45分)
4	構想の取りまとめについて―構図を主に	構図について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、構図についても検討する。
5	構想の取りまとめについて―色彩調和を主に	表現の意図に照らし、色の感情について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、表現の意図に相応しい配色を検討する。(45分)
6	構想の取りまとめについて―質感を主に	質感の表現法について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	様々の情報をもとに、自らの作品の構想を取りまとめる。(45分)
7	転写の仕方について	構想を下絵として取りまとめ、転写の方法について、他者の方法を参照しながら、最も相応しいものを検討する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、転写の方法についても検討する。(45分)
8	転写作業について	転写に必要な用材をあらかじめ準備する。(45分)	本時の授業での作業に不備がないかを点検する。(45分)
9	転写作業の仕上げについて	前時の授業での作業に不備がないかを点検し、あればその箇所を明確化する。(45分)	本時の授業で終えた転写作業に不備がないかを点検する。(45分)
10	下描きの仕方について	表現の意図に照らし、最も相応しい用材を予め用意する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作に最も相応しい下描きの方法を検討する。(45分)
11	下描き―大まかな面の把握を主に	大づかみの描写、面の把握について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	細部にこだわり過ぎていないか、作品の骨格が捉えられているかを点検する。(45分)
12	下描き―立体感や空間感の表現を主に	立体感や空間感の表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	立体感や空間感の表現について、不備がないかを点検する。(45分)
13	下描き―本描きに及ぼす効果を主に	絵画は、いくつもの絵具の層によって形成され、下層が上層に影響を及ぼす点について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	下描きに用いた絵具が、本描きの絵具の層に及ぼす影響を勘案し、自作について点検する。(45分)
14	下描き―本描きに及ぼす効果－とりわけ色彩を主に	それぞれの絵具の被覆力や透明性について、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、上描きに用いる絵具について検討する。(45分)
15	下描き―本描きに及ぼす効果－とりわけ質感を主に	絵具の粘度や厚みや筆触等による質感表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作での質感表現について計画を立てる。(45分)
16	下描き―仕上げ	下描きの本描きに及ぼす影響を総合的に考え下描きの仕上げに備える。(45分)	下描きを上描きにどのように活かすかについて計画を立てる。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	中間発表会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	教師や他の学生からのアドヴァイスを参照し、これからの制作にどのようにそれらを反映させるかについて計画を立てる。(45分)
18	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に1	絵具の被覆力や透明性を勘案し自らの表現意図に相応しい絵具を予め用意する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な個所がないかを点検する。(45分)
19	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に2	細部にこだわることなく、大きな骨格を捉えることについて、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な個所がないかを点検する。(45分)
20	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に3	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	それぞれの面の明度とそれら相互の差ーコントラストーについて点検する。(45分)
21	本描き―立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に4	色価ーヴァルールーについて、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	画面に飛び出て見える箇所がないか、穴が開いて見える箇所がないかについて点検する。(45分)
22	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に5	それぞれのモティーフの前後関係や隔たり感が的確に表現されつつあるかを点検する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な個所がないかを点検する。(45分)
23	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―大まかな面の把握を主に6	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
24	中間発表会2	教師や他の学生から、どの点についてのアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
25	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら―細部の描出を主に1	他の技法も取り入れた混合技法について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	技法だけでなく、絵具の濃度や展色剤に手を入れる方法についても学習する。(45分)
26	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に2	べた塗り、点描、ハッチング等の筆触―タッチーについても他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	質感を表現する上で、筆触や絵具の厚み等の及ぼす効果について検討する。(45分)
27	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に3	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な個所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
28	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に4	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
29	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に5	作品に込めたものを表現できつつあるかを点検する(45分)	表現の意図をゆがめたり阻害したりする箇所の有無を点検する。(45分)
30	本描き立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながらー細部の描出を主に6	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点はないかを点検する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
31	合評会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
32	合評会2、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	絵画作品を制作することの意義について感がる。(45分)	他の学生たちのそれぞれの作品の良さについて、また、自らの作品とこれまでの制作について文章化する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩB （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社＿デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年　　国際企業で得た、経験、実績を持ってプロダクトデザイン全般を指導します。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プロダクトデザイナーに成る事。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2,DP3、DP4に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの本質を見極める力、問題点や改善点を探求する力、それらを見直して自らオリジナルの解答（デザイン）を創造できる力、自分のデザインを第三者に伝える力を身に着ける。

授業全体の内容と概要

現状の問題点摘出の為、マーケットリサーチを行い、気づき、切り口を持って、オリジナルのデザインを行う。それらを第三者に伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける。第三者からのフィードバックを受けて、更にデザイン改良を行う。
写真機材も使用して表現を拡げる。

授業の方法

各種マーカー、PMパッドA3,鉛筆、色鉛筆、サインペン、白鉛筆、PC（フォトショップ、イラストレーター）ICT利用。
写真機材

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の為の最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを充分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩB （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社　デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年　　国際企業で得た、経験、実績を持ってプロダクトデザイン全般を指導します。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 自分自身の課題を再認識	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。45分	市場調査を行う。45分
2	自分調査、まとめ	市場調査を行う。45分	市場調査を行う。45分
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。45分	市場調査を行う。45分
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる 就活を行う	市場調査を行う。45分	市場調査を行う。45分
5	仮説が正しいか、まとめる	仮説をまとめる。45分	仮説をまとめる。45分
6	発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。45分	第三者からの意見を考察する。45分
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。45分	アイデアを考察。45分
8	デザインスケッチ、アイデア出し	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
12	デザインプレゼンテーション１	アイデアを考察。45分	第三者からの意見を取り入れる。45分
13	デザインスケッチ、写真等使用して効果的に構成する。	第三者からの意見を取り入れる。45分	アイデアを考察。45分
14	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
15	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
16	デザインプレゼンテーション２	アイデアを考察。45分	第三者の意見を考察。45分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザインスケッチ、写真撮影	第三者の意見を考察。45分	第三者の意見を考察。45分
18	デザインスケッチ、写真撮影	第三者の意見を考察。45分	アイデアを構築。45分
19	デザインスケッチ、写真撮影	アイデアを構築。45分	アイデアを構築。45分
20	レンダリングスタート	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
21	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
22	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
23	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
24	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
25	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
26	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
27	プレゼンパネル作成、写真撮影	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
28	プレゼンパネル作成、写真等を効果的に使用する。	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
29	プレゼンテーション	まとめ45分	まとめ45分
30	プレゼンテーション	まとめ45分	まとめ45分
31	プレゼンテーション、バックアップ	まとめ45分	第三者の意見を聞く、まとめる45分
32	総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	まとめ45分	振り返りまとめ45分

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
自律して制作を行う事が出来る。

授業全体の内容と概要
彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究１Bでも、引き続き自らスケジュールを管理して、制作を行う事が目標である。

授業の方法
学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
研究ノートを提出する事。
作品を１点以上完成させる事。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を２つ、または１つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週２回（８時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週１回（４時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスをよく読んでおく事（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
2	活動計画	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
3	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
4	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
5	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
6	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
7	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
8	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
9	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
10	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
11	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
12	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
13	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
14	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
15	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
16	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
18	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
19	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
20	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
21	チュートリアル３	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
22	チュートリアル３	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
23	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
24	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
25	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
26	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
27	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
28	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
29	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
30	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
32	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	プレゼンテーション準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業出版や展覧会経験を踏まえ、展示設計・見せ方・運用の観点から実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ＩＡで見いだした方向性を検証・拡張し、実効性のある計画へと高める。
制作の前提（方法・体制・資源）を整え、4年次の本格制作につながる基礎を固める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

ＩＡの成果を踏まえて方向性の妥当性を説明できる。
研究計画（目的・方法・スケジュール・評価の枠組）を作成できる。
方法・素材・技法の試行を行い、再現性と安全性の観点から見直せる。
中間共有（フィードバック）を通じて課題を抽出し、修正計画を立案できる。
4年次に向けた制作体制と準備（必要資源／手順）を整えられる。

授業全体の内容と概要

ＩＡでの「関心整理→リサーチ→制作試行→共有」を継続しつつ、計画文書の整備（計画の構成・細部）、方法の検証、準備の具体化に比重を置く。

授業の方法

個別相談＋共有を中心に進行。
PowerPoint・Teamsを用いた計画・資料の共有と保管を行う。
アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作記録の継続と中間共有への積極的参加を求める。
著作権・研究倫理を遵守する。
材料・機材の準備や手配は各自の責任で行う。
必要に応じて教員が助言する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は８割以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性（計画・行動・記録・改善）	計画→実行→記録→改善のサイクルを自律的に回し、次の行動を自ら設定できる。制作記録が整理され、思考の変化や判断理由が明確である。	計画と実行を概ね自走できる。記録・振り返りも継続され、改善点の把握ができている。	計画や記録にムラがあるが、必要な場面では自分で行動できる。改善は部分的。	行動が受動的になりがちで、計画・記録が点在し、継続が不足している。改善が曖昧。	計画・実行・記録がほとんどできず、自律した学修・制作が成立していない。
協働性（共有・対話・反映）	共有の場で積極的に発言し、他者の示唆を自作に具体的に反映できる。対話の質が高く、ゼミ全体に良い影響を与える。	共有・対話に安定して参加し、要点を受け止めて反映できる。フィードバックの理解も適切。	参加はしているが発言・反映が部分的。関わり方にばらつきがある。	共有の場での発言が少なく、反映も限定的。対話が学修に十分つながっていない。	共有・協働への参加がほとんどなく、他者の意見を取り入れようとする姿勢が見られない。
表現力（意図の説明・作品の見せ方・整理力）	制作意図・背景・方法・結果を簡潔に整理し、言語・ビジュアルともに整合した説明ができる。他者に伝わり、議論を生むレベル。	言語とビジュアルの説明が概ね整理され、意図が明確に伝わる。説明に不足は軽微。	説明はできるが、整理が不十分で要点が散漫。意図や方法との整合に弱さがある。	説明が曖昧で、意図が十分に伝わらない。情報整理が弱く、まとめに難がある。	意図や内容を説明できず、作品との関係が不明瞭。伝達に大きな支障がある。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業出版や展覧会経験を踏まえ、展示設計・見せ方・運用の観点から実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業の概要説明 研究倫理とコンプライアンスの確認	シラバスを呼んでおくこと（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	夏季休暇中のリサーチ報告	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
3	方向性の再確認	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
4	方向性の再確認	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
5	方向性の再確認	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
6	方向性の再確認	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
7	報告	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
8	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
9	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
10	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
11	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
12	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
13	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
14	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
15	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
16	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
18	発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
19	研究計画書作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
20	研究計画書作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
21	研究計画書作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
22	研究計画書作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
23	報告	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
24	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
25	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
26	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
27	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
28	報告	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
29	研究計画書改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
30	研究計画書改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	完成後の考察（４５分）
31	卒業制作に向けて	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
32	講評、授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

論文執筆に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を、文献講読、調査、ディスカッション等実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自分の研究テーマに関する専門用語などの知識や、論文を作成するための基礎的な学力（分析・調査能力など）を身につける。
自分の興味関心から研究テーマを深め、研究計画を作成する力を身につける。
自分の考えを適切に他者に伝えられる論文を執筆する表現力を身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

授業では文献講読やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

その他のデザイン学科のゼミとは異なり、卒業論文執筆を目指す学生のためのゼミである。オリエンテーション時の説明を聞いたうえで、事前の面談により所属を決定する。
研究内容に合わせて、講読する文献を選び分析・調査方法の検討を行う。
自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。
個人発表では、自らの研究テーマについて短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２２回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究計画の作成	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点からテーマを考察し、研究計画を作成できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分なりの研究計画を作成できた。	研究計画を作成することができた。	研究計画を作成することができなかった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（論文執筆能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点を提示し、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を記述し他者と意見交換をすることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか？』	吉岡洋、岡田暁生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』	山田奨治	ミネルヴァ書房	2017	9784623079421	
3	『マンガ・スタディーズ』	吉村和真、ジャクリーヌ・ベルント編	人文書院	2020	9784409001134	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	研究計画（1）：テーマを考える	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
3	研究計画（2）：題材を考える	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
4	研究計画（3）：研究方法を考える	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
5	研究計画（4）：研究のスケジュールを検討する	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
6	先行研究の調査・文献講読（1）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
7	先行研究の調査・文献講読（2）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
8	先行研究の調査・文献講読（3）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
9	先行研究の調査・文献講読（4）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
10	先行研究の調査・文献講読（5）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
11	先行研究の調査・文献講読（6）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
12	先行研究の調査・文献講読（7）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
13	題材に関する調査・分析（1）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
14	題材に関する調査・分析（2）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
15	題材に関する調査・分析（3）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
16	題材に関する調査・分析（4）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	題材に関する調査・分析（５）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
18	題材に関する調査・分析（６）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
19	題材に関する調査・分析（７）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
20	ディスカッション／個別指導（1）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
21	ディスカッション／個別指導（2）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
22	ディスカッション／個別指導（3）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
23	ディスカッション／個別指導（4）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
24	論文の書き方（1）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
25	論文の書き方（2）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
26	論文の書き方（3）	学習内容に沿って事前準備を行う（４５分）	各自研究を進める（４５分）
27	論文の書き方（4）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
28	個人発表（1）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
29	個人発表（2）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
30	個人発表（3）	個人発表の準備をする（45分）	各自研究を進める（４５分）
31	個人発表のフィードバック　研究計画を再考する	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	これまでの授業の復習をおこなう（４５分）
32	まとめ　専門研究ⅡAに向けて　授業アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	これまでの授業の復習をおこなう（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、自己表現のための知識と技術を幅広く習得し多様化する現代社会に於いて、作品制作を通して問題解決能力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得する。

授業全体の内容と概要

探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行う。

授業の方法

授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見通しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習と事後学習を欠かさず行うこと

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２４回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなすことができたか。美術の基礎基本を強固にできたか。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが十分できた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することができた。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することがややできた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが不完全だった。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが出来なかった。
思考力・判断力・表現力　テーマを最大限に活かせる画材、ジャンルを選択、表現できたか	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが十分に出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来なかった。
主体性・多様性・協働性　研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＢ （科目ナンバリング：SEM233089　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスの確認（４５分）	課題（４５分）
2	専門研究ＩＡからの引継ぎ事項について	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
3	研究１試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
4	研究２試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
5	研究３試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
6	研究４試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
7	研究５試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
8	研究６試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
9	中間報告書作成１	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
10	中間報告１プレゼンテーション　ディスカッション	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
11	中間報告２　修正	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
12	研究７試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
13	研究８試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
14	研究９試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
15	研究１０試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
16	研究１１試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究１２試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
18	研究１３試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
19	研究１４試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
20	研究１５試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
21	研究１６試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
22	研究１７試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
23	研究１８試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
24	研究１９試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
25	研究２０試作、習作、実験、作品　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
26	研究２１完成　提出	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
27	研究報告書作成	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
28	研究報告書作成	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
29	研究報告書修正	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
30	研究報告書提出	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
31	講評会　フィードバック　プレゼンテーション	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
32	専門研究Ｉまとめ　次年度の課題　当該科目の第１回目に示した身につく力の検証	授業内容継続　課題（４５分）	専門研究ＩＩに向けて準備（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 II （科目ナンバリング：APT312004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　野村　和也（建築学科・特任講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP1.DP3.DP4に対応する科目

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイヤグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」
狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭においた設計を指導する。

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 II （科目ナンバリング：APT312004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　野村　和也（建築学科・特任講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「コンパクト建築設計資料集成　第３版」　日本建築学会編』	村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山　繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明　授業ガイダンス 科目を修了して、根拠やいろいろなデータをもとに人や社会を考えた設計主旨や計画を考えることができる力が身につくことを説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	即日課題１　住宅とは 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　住宅とはについて考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
3	即日課題２　敷地と家の関係 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　敷地と家の関係について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	即日課題３　これからの家族について 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　これからの家族についてについて考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	即日課題４　地域と家族 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題　地域と家族について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
6	設計課題　住宅計画　木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
7	中間指導① コンセプトと全体計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
8	中間指導② コンセプトと全体計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導③ 全体計画とランドスケープ （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導④ ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導⑤ 平面計画と断面構成 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑥ 平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や計画への助言を書き、返却したり、授業内での指導を行うことで、フィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑦　模型とプレゼンテーション （模型の造り方　レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑧ プレゼンテーション （レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会 発表への講評や指導を行い、フィードバックする。	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導　プレゼンテーションの指導 これまでの内容を踏まえ、総講評として、各学生にコメントをし、フィードバックする。 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅱ （科目ナンバリング：AHD321040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は，図面や模型などの表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのためには，考え出された建築をどのように，どのような方法で表現するかということがとても重要となる。履修学生は，空間表現や建築図面表現に必要な立体系の基礎的能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDFP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

立体系の建築表現に必要となる材料の特徴，道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分，期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

基礎的練習課題とその作品の講評会を２週ごとおこなう。前半はキーワードをもとに発想した空間の立体表現，後半では建築模型の基礎的課題に取り組む。課題製作は，原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成し提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし，課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８５％	０％	１５％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得するための練習に取組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をおおむね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず，使い方を習得することができなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。	スケジュール管理ができなかった。
立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにすること，そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅱ （科目ナンバリング：AHD321040　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	使用する道具と材料・使い方の説明	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	立体構成１（壁）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	立体構成２（床）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（壁・床）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	立体構成３（タワー）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	立体構成４（スカイハウス）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（タワー・スカイハウス）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	立体構成５（サイコロの製作）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	立体構成６（建築模型の製作１）　建築模型とは	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	立体構成６（建築模型の製作２）　建築模型の作り方	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
12	講評会（建築模型）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
13	プレゼンテーション（建築模型の写真撮影）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	プレゼンテーション （プレゼンテーションパネルの製作）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（プレゼンテーションパネル）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評）　授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究II （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究II」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられる。履修学生は，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括　フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅱ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究Ⅱ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　長森　正　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括 授業最終回において講評をし、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門演習科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究II （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究II」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
BIMを活用した講義が基本となるため、各自PCを持参すること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。4年次のゼミ在籍条件は、「一級建築士特別養成コース」であることが、所属条件となっているため、3年次に実施される二級建築士模擬試験による一級建築士特別養成コースの所属条件をクリアすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門演習科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究II （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究II」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献･資料収集の手順等を身に付け、研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に、論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1.DP2.DP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究II （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井 正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究II」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井 正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　指導教員　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

「建築研究Ⅱ」は，建築学修得の集大成，および卒業後の進路に大きく関わる４年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ，各自が興味･関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって，「卒業研究」を意識したプログラムの下に，研究テーマの選択，既往研究や事例の検索，文献･資料収集の手順等を身に付け，研究･調査･実験に着手できる環境を整えると共に，論考･提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し，各自が進めるべく研究テーマを明確にすること，そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗情況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅱ （科目ナンバリング：SEM333085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　指導教員　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスののの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（S） （科目ナンバリング：ECT161176　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河野　善文　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済事象を解釈して自分なりに説明することができる。

授業全体の内容と概要

経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ（質問・対話）と演習問題をおこなう。また、授業の復習という目的もかねて、演習やリアクションペーパーに対する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方を用いて経済事象を的確に説明できた。	経済学の考え方を用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方を用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方に関する基礎的な考え方や図・式を書くことができた。	経済学の考え方を関する基礎的な考えを書くことができなかった。
経済事象の理解	経済のニュースや資料を読み、その内容について自分の考えを的確に述べることができた。	・経済のニュースや資料を読み、内容について自分なりに考えを述べることができた。	経済のニュースや資料を調み、内容について説明ができた。	経済のニュースや資料を調み、内容についてある程度の説明ができた。	経済のニュースや資料を読み取ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（S） （科目ナンバリング：ECT161176　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河野　善文　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第４版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	センゲージ・ラーニング株式会社	２０２５	9784807918119	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	経済学とは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	経済学とは何かを考える（９０分）	経済学とは何かノートにまとめる（９０分）
2	日本の景気について： ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる（９０分）	景気を調べる方法についてノートにまとめる（９０分）
3	国内総生産からみた世界経済： ・国内総生産（ＧＤＰ）とは ・世界の国内総生産（ＧＤＰによる世界地域比較）	国内総生産について調べる（９０分）	地域比較で気付いたことをノートにまとめる（９０分）
4	希少な資源と生産活動： ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる（９０分）	生産要素と生産活動についてノートにまとめる（９０分）
5	経済成長とは： ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる（９０分）	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる（９０分）
6	経済成長と国民所得： ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる（９０分）	経済成長についてノートにまとめる（９０分）
7	実質値と名目値： ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる（９０分）	実質値と名目値の違いをまとめる（９０分）
8	需要と供給の作用： ・価格と需要量、供給量の関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる（９０分）	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる（９０分）
9	市場経済と価格： ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる（９０分）	供給の市場価格への影響をノートにまとめる（９０分）
10	１０ 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさと幸福	経済的厚生の問題について考える（９０分）	経済的厚生の問題のまとめ（９０分）
11	通貨と中央銀行： ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる（９０分）	中央銀行と通貨についてノートにまとめ（９０分）
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは　・日銀と資金供給	金利について調べる（９０分）	日銀の政策と金利についてノートにまとめ（９０分）
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは　・信用創造とは	通貨供給量について調べる（９０分）	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる（９０分）
14	日銀と金融政策 ・金融政策にかんするニュース　・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる（９０分）	日銀の金融政策をノートにまとめる（９０分）
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ これまでの演習にかんする解説・コメント（フィードバック）	ノート見直しと不明点の確認（９０分）	ノートの整理（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦（９０分）	わからなかった試験問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（M・D・A） （科目ナンバリング：ECT461146 ECT361124 ）				
授業担当者 （所属・職名）	小林大州介(経営学科・准教授)	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2 （単位認定責任者： 小林 大州介 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボードに示す。				

概要

履修目標

近年世界経済は、中国の台頭やコロナ問題、ウクライナ情勢などといった不確実な情勢に対し大いに影響を受け、大変動の時期を迎えていると言える。ニュースや新聞などでも、こうした変動を示す文言を目にする事が多くなった。こうした世界情勢や大規模な経済変動を伝えるニュースに対し、学門の「分析的」で「冷静」な目をもって接することがますます重要になってきている。本講義では、学門としての経済学の基礎を学び、しっかりとした知識を構築する事により、日々伝えられるニュースを良く理解し、自分で分析し、判断出来る様にすることを身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２に対応する。
デザイン学科のＤＰ２に対応する。
建築学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方、概説的な日本経済史などを学び、日常で起きている経済問題について理解、説明できるようにする。

授業全体の内容と概要

ミクロ経済学(交換・取引、均衡分析・余剰分析)、マクロ経済学(ケインズ経済学・経済成長)、ゲーム理論(囚人のジレンマ・交互ゲーム)、日本経済史といった各領域を、テキストに即して説明する。

授業の方法

PPTを使った講義形態が主。毎回演習問題を行い、自分の理解度をチェックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず携帯する事。毎回きちんと内容を把握する事。講義の最後に毎回演習問題を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための最低出席回数11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学について	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。また、ミクロ経済学における分析の限界も説明することが出来る。	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。	「市場」のメカニズムを良く理解し、その均衡状態について説明することが出来る。	「市場」のメカニズムについて、一定の理解がある。	「市場」のメカニズムについて、理解が見られない。
マクロ経済学について	総需要管理政策の意味を深く理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その政策の問題点や、経済成長論についての理解がある。	総需要管理政策の意味を理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その問題点を挙げることが出来る。	総需要管理政策の意味を理解し、計算問題を解くことが出来る。	総需要管理政策がどういうものかについて説明できる。	総需要管理政策についての理解が見られない。
ゲーム理論について	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームや交互ゲームの解を示すことが出来る。	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームを含む同時ゲームの解を示すことが出来る。	囚人のジレンマゲームを含む、同時ゲームの解を示すことが出来る。	同時ゲームの解を示すことが出来る。	ゲームの均衡解についての理解が見られない。
日本経済史について	戦後の日本経済の歴史について深く理解し、マクロ経済学的含意を使った説明が出来る。	戦後の日本経済史について深く理解し、その転換点についての説明が出来る。	戦後の日本経済史を理解し、説明できる。	戦後の日本経済の流れをある程度説明できる。	戦後の日本経済の流れを説明できる。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（M・D・A） （科目ナンバリング：ECT461146 ECT361124 ）				
授業担当者 （所属・職名）	小林大州介(経営学科・准教授)	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボードに示す。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経済学概論』	矢口和宏、坂本直樹	株式会社みらい	２０１６		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 講義内容（シラバスの説明）と到達目標(身に付く力)について説明する。 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の序章を良く読んでおく(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
2	経済活動における選択と意思決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
3	経済学の基礎/取引とは何か	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
4	ミクロ経済学基礎①市場価格と取引量の決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
5	ミクロ経済学基礎②市場均衡と余剰分析	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
6	ミクロ経済学応用編①企業の価格設定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
7	ミクロ経済学応用編②市場の失敗	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
8	マクロ経済学入門①国家の経済について	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
9	マクロ経済学入門②物価・失業とマクロ経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
10	マクロ経済学入門③政策で経済は成長するか	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
11	ゲーム理論とは何か？新しい経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
12	ゲーム理論・応用編	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
13	取引と選択決定・ミクロ経済の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
14	マクロ経済学・ゲーム理論の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
15	試験に向けて総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
16	期末試験 試験前に簡単に全講義を通じた講評を行う。 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまでの講義を良く復習しておく。	これまでの講義を通じて行ってきたことを良く復習する。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ基礎 （科目ナンバリング：STS061074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本授業では、データサイエンスの基礎的な概念や手法を学び、データを活用した課題解決力を養うことを目的とします。そのために、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキルの向上を履修目標とする。
まず、スチューデントスキルとして、データサイエンスの基礎知識を習得し、チームで協力しながら問題解決に取り組む力を身につける。
次に、スタディスキルとして、Excelを用いたデータの収集・整理・可視化の方法を学び、統計的手法や機械学習の基本を理解する。
さらに、アカデミックスキルとして、分析結果を論理的に整理し、適切なグラフや表を用いて説明する力を養うとともに、レポートを通じて発信する力を高める。
本授業を通じて、理論と実践を融合し、データを活用する力を総合的に身につけることを目標とします。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・データサイエンスの基礎知識を理解し、チームで協力しながら問題解決に取り組むことができる。（スチューデントスキル）
・Excelを用いてデータの収集・整理・可視化を行い、基本的な分析を実施できる。（スタディスキル）
・統計的手法や機械学習の基礎を理解し、簡単なデータ分析を自ら進められる。（スタディスキル）
・データ分析の結果を論理的に整理し、適切なグラフや表を用いて説明できる。（アカデミックスキル）
・分析結果に基づいた考察を文章としてまとめ、レポートを通じて発信できる。（アカデミックスキル）
・データサイエンスの知識とスキルを活かし、現実の課題に対して適切なアプローチを考えられる。（スチューデントスキル）

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・ＡＩの利活用について、知識だけではなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学習する。教科書・オンライン教材（動画・テキスト）を使った学習により基礎知識の習得を目指し、複数回Ｅｘｃｅｌを使った演習を行うことで、データ処理の基本的な技術の習得を目指す。なお、分析演習の課題では、組織の課題解決に資するデータ分析を行い、より現実感のある分析手法を学ぶ。

本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）の関連授業科目である。

本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
・「SDG 4.質の高い教育をみんなに」
・「SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」
・「SDG12.つくる責任　つかう責任」

授業の方法

本科目では、教員によりプロジェクター及び大型モニターに教材（スライド資料等）または教員のパソコン画面を提示しながら解説を行う。なお、習熟度を測定するため、各授業回最後に確認テストの実施、及びExcel分析演習課題の提出を複数回求めるので、必ず受験・提出すること（評価の対象とする）。オンライン教材は、自宅からでも視聴可能であるため、準備・事後学習に役立てること。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。また、最後にノートの提出を求めるため、毎授業ごとにまとめておくこと。

習熟度に関して個人差が大きくなる可能性があるため、次の学習支援を実施する。
・授業はハイフレックス型授業を行う。
・授業時間外において質問などがあれば、Ｔｅａｍｓチャットにて受け付ける。
・提示した教材は、ＬＭＳにて公開・配信する。
・習熟度に応じて、個別指導（補講）を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・自己所有のノートパソコンを使用する場合は、Ｅｘｃｅｌのインストールが必要である（大学から無償提供あり）。
・課題は、自分で考え作成したものを提出することとし、第三者が作成した著作物等の盗用（剽窃）が認められた場合は、提出を無効とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から２０％減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	0%	４０％	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・ＡＩの理解	データ・ＡＩ活用領域の広がりを具体的に理解し、データ・ＡＩを活用する価値について事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりを具体的に理解し、データ・ＡＩを活用する価値について事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・ＡＩを活用する価値について事例を用いて説明できた。	データ・ＡＩ活用領域の広がりを理解し、データ・ＡＩを活用する価値を説明できた。	データ・ＡＩ活用領域の広がりを理解し、データ・ＡＩを活用する価値を説明できなかった。
データ・ＡＩ利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解でき、自分ごととして考えた上で、事例を基に詳しく説明できた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解でき、事例を見つけることができた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解できた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解できなかった。
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ基礎 （科目ナンバリング：STS061074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『データサイエンス入門』	竹村彰通・姫野哲人・高田政治他	学術図書	２０２４	978-4-7806-0729-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、データサイエンスとは 授業改善アンケート結果反映の説明 当該科目を修了して「身に付く力」について説明	データサイエンスの定義について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
2	社会で起きている変化	データサイエンスによる起きている身近な変化を調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
3	社会で活用されているデータ 情報収集（文献検索・データベース活用法等）	社会で活用されているデータについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
4	データ・ＡＩの活用領域	ＡＩについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
5	データ・ＡＩ利活用のための技術	ＡＩの事例について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
6	データ活用とは 小テスト	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
7	データ・ＡＩ利活用の現場	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
8	データ・ＡＩ利活用の最新動向	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
9	データ・ＡＩを扱う上での留意事項①（ＥＬＳＩ、不正行為、個人情報）	個人情報について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
10	データ・ＡＩを扱う上での留意事項②（バイアス、AIの正しい活用）	バイアスについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
11	データを読む①（データの種類、データの代表値、データのばらつき）	平均値・中央値・最頻値について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
12	データを読む②（相関と因果、母集団と抽出、統計情報の正しい理解）、組織の課題解決に資するデータ分析演習 小テスト	相関と因果の違いについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
13	データを説明する 情報の整理（ワープロ・表計算）	Ｅｘｃｅｌの操作方法について復習する（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
14	データを扱う 情報発信（レポート・プレゼンテーション技法等）	Ｅｘｃｅｌグラフの作成方法について復習する（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
15	データを守る上での留意事項とまとめ 定期試験の準備、フィードバック	情報セキュリティについて調べる（９０分）	フィードバックを基に確認テストの内容を復習する（９０分）
16	定期試験、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全ての確認テストを復習する（９０分）	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅱ （科目ナンバリング：SWS111004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

概要

履修目標

１．社会保障制度の体系と概要について理解する。
２．諸外国における社会保障制度の概要について理解する。
※厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室「社会福祉士養成課程カリキュラム(令和２年３月６日）」より

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。

到達目標

１．社会保障制度の体系と概要について理解できる。
２．諸外国における社会保障制度の概要について理解できる

授業全体の内容と概要

１．社会保障制度の体系と概要について学ぶ。
２．諸外国における社会保障制度の概要について学ぶ
３．「SDG1．貧困をなくそう」，「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．社会福祉士や精神保健福祉士の、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．社会福祉士等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。
６．スポーツなどの大会などへの参加で授業に欠席する場合は事前にご相談ください。
７．交通機関などの遅休・遅延など生じた場合も事前・事後にご相談ください。
８．何らかの問題が生じた場合などはTeamsのチャット機能や授業のチームに連絡事項を掲載しますので、見ておくようにしてください。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・学生個人、親、教員、スクールカウンセラーからの情報などを得て、対応を行う。
・具体的には「参考資料」、「板書やパワーポイント」の量や文字の大きさ、スピードへの対応を行う。
・体調不良時などはオンラインやオンデマンドの対応も行う。
・講義中の録音、録画、撮影などの対応にも配慮する。
・必要に応じて座席や教室の出入りなどの対応にも配慮する。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程(選択)

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険・介護保険・年金保険・生活保護という社会保障制度の体系と概要について理解する。	医療保険・介護保険・年金保険・生活保護という社会保障制度の体系と概要について認識できた。	医療保険・介護保険・年金保険・生活保護という社会保障制度の体系と概要について説明できた。	医療保険・介護保険・年金保険・生活保護という社会保障制度の体系と概要について理解できた。	医療保険・介護保険・年金保険・生活保護という社会保障制度の体系と発展過程について説明できた。	医療保険・介護保険・年金保険・生活保護という社会保障制度の体系と発展過程について説明できなかった。
労災保険・雇用保険・社会手当・社会福祉という社会保障制度の体系と概要について理解する。	労災保険・雇用保険・社会手当・社会福祉という社会保障制度の体系と概要について認識できた。	労災保険・雇用保険・社会手当・社会福祉という社会保障制度の体系と概要について説明できた。	労災保険・雇用保険・社会手当・社会福祉という社会保障制度の体系と概要について理解できた。	労災保険・雇用保険・社会手当・社会福祉という社会保障制度の体系と発展過程について説明できた。	労災保険・雇用保険・社会手当・社会福祉という社会保障制度の体系と発展過程について説明できなかった。
諸外国における社会保障制度の概要について理解できる	国際化が求められる日本社会と社会保障のあり方について関心を示した。	安定的な社会保障体制の構築に向けて自らの考えを示すことができた。	社会保障制度のあり方について自らの考えを示す意欲を持った。	今後の社会保障の方向性について関心を寄せることができた。	今後の社会保障の方向性について関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅱ （科目ナンバリング：SWS111004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　7　社会保障　第２版』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２５年	978-4-8243-0150-5	3,410円（税込）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・初回の授業ということでガイダンスとして、シラバスを示し、授業現在の流れや成績評価について説明を行う。 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 ・科目を修了して『身に付く力』についての説明 ・わが国における社会保障制度の展開（1）「社会保障制度の生	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
2	社会保障制度の体系ー医療保険制度等の概要ー制度の目的、対象について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
3	社会保障制度の体系ー医療保険制度等の概要ー給付内容、財源構成・公費負担医療について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
4	社会保障制度の体系ー介護保険制度の概要ー制度の目的、対象について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
5	社会保障制度の体系ー介護保険制度の概要ー給付内容、財源構成について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
6	社会保障制度の体系ー年金保険制度の概要ー制度の目的、対象について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
7	社会保障制度の体系ー年金保険制度の概要ー給付内容、財源構成について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
8	社会保障制度の体系ー労災保険制度と雇用保険制度の概要ー制度の目的、対象、給付内容、財源構成について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
9	社会保障制度の体系ー生活保護制度の概要ー制度の目的、対象、給付内容、財源構成について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
10	社会保障制度の体系ー社会手当制度の概要ー制度の目的、対象、給付内容、財源構成について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
11	社会保障制度の体系ー社会福祉制度の概要ー制度の目的、対象について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
12	社会保障制度の体系ー社会福祉制度の概要ー給付内容、財源構成について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
13	諸外国における社会保障制度ー諸外国における社会保障制度の概要ー先進諸国の社会保障制度の歴史と概要について 第１回～第１３回までのまとめ	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
14	諸外国における社会保障制度ー社会保障制度の国際比較ー高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付費の内訳について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
15	試験の実施 ※通常試験時間６０分、配慮の必要な学生９０分などで対応	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
16	授業全体の振り返り、フィードバック（解説） 試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業アンケートの実施 最後の授業ということで、出席状況や成績評価について学生が確	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築ｼｽﾃﾑ論 （科目ナンバリング：BSM311014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボート等を参照				

概要

履修目標

この授業では、建築における様々な構造や部材の役割と名称を理解することを目的とする。大学で建築学を修得する上において、さらには建築に関わるあらゆる職種において必要な基礎的知識として、各種建築構造の特徴や部材に関する知識を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP１、DP３、DP４に対応する。

到達目標

各種建築構造の構造原理及び特徴、非構造部材を含む建築の各部位・部材の名称や役割などが理解できる。

授業全体の内容と概要

建築の代表的な構造形式である木造，鉄筋コンクリート構造，鉄骨構造、膜構造の構造原理や特徴ついて講義する。合わせて、各構造種別における建築の非構造部材の役割と名称についても学び、建物の専門家としての基礎的知識を身につける。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布資料、必要に応じて動画を用いた講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料により講義を進めるので，休まず出席すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目，建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	３０%	０%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の部位・部材の名称	全ての構造物の部位・部材名称を理解し、他の人に説明できた。	全ての構造物の部位・部材名称を理解できた。	基本的な構造物に対して名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できなかった。
建築物各構造の特徴・構造原理	構造物の特徴・構造原理が全て理解でき、他の人に説明できた。	構造物の特徴・構造原理が全て理解できた。	基本的な構造物の特徴・構造原理が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できなかった。
建築構造形式の理解力	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を図・表などを示しながら記述することができた。	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を記述することができた。	建築構造形式の内容を理解し、基本的な内容を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築ｼｽﾃﾑ論 （科目ナンバリング：BSM311014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボート等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい建築一般構造』	建築構造システム研究会編	学芸出版社	2009	9784761524777	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1		会編				
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明、各種構造システム、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して，授業内容を予習する（９０分）	授業内容を整理して，復習する（９０分）
2	荷重の種類　について	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
3	木系構造システム-構造部材	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
4	木系構造システム-構造部材	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
5	木系構造システム-非構造部材	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
6	荷重　及び　木系構造システム　中間テスト	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
7	コンクリート系構造システム -材料	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
8	コンクリート系構造システム -各部名称	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
9	コンクリート系構造システム-基礎	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
10	鉄骨系構造システム -材料・構造システム	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
11	鉄骨系構造システム -各部材名	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
12	鉄骨系構造システム -接合方法	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
13	コンクリート及び鉄骨系構造システム　中間テスト	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
14	混構造・膜構造システム	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
15	中間テスト結果について授業内でコメントをしフィードバック	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
16	授業改善アンケートの実施、定期試験、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理して，試験に備える（９０分）	授業内容全体について資料を整理する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング：SPS422060，SPS512009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	守屋　俊甫（経営学科・特任講師）	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　守屋　俊甫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本講義では、スポーツとは何か？マネジメントとは何か？を理解し、スポーツがもたらす社会的価値について学びます。特に北広島市の地域に根ざしたスポーツマネジメント事例を深く考察し、実際に展開されているサービスに触れながら、スポーツマネジメントとは何か？組織の意思決定とは何か？を理解し、言語化することを目指します。また、日本や世界的な規模のスポーツマネジメント事例にも着目し、マクロおよびミクロな視点で経済を捉える資質を養う。
講義内でのインプットだけで終わるのではなく、アウトプット（発言、テキスト化、レポート化、身体表現など）を行うことを重視します。授業での気づきや発見から自分自身の夢や目標、キャリアにどう展開していけるのか、自分の変化を感度高く感じられるかなどを振り返ることも重視します。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

社会の課題を抽出し、解決策を考え、未来のより良い社会づくりを創造できる力を身につける。
未来からのバックキャスティングを行い、自分が何を為すべきかを振り返り、具体なアクションプランを立てることができる。
ケーススタディを通じて、なぜうまくいったのか、なぜ失敗したのか、具体的な要素を因数分解し、起きた事象を分析できる力を身につける。

授業全体の内容と概要

毎回の授業でテーマに沿ったケーススタディを提示し、学生らがその事例に対して問いを立て、グループでディスカッションを行いながら探求し深掘りする時間を設けます。「課題解決未来」というフレームに則り、ケーススタディごとの課題という仮説をたて、その解決策を創造し、どのような未来を描くのかを授業内での一連のワークとします。
また、毎回の授業では小レポートを提出することで出席したこととみなし、最終レポートではスポーツマネジメントの事例を自ら見つけ、その課題解決未来をまとめます。背景情報の整理、引用元の明示、社会に対するインパクトを考慮しながら、創造的で未来志向、独創的で先駆的な発想も高く評価します。

授業の方法

ケーススタディ：実際のスポーツマネジメントの事例をもとにグループワークを実施する
ディスカッション：各トピックに対する意見交換や対話を行う
ピッチ：思考を整理し、言語化する上で、短時間の発表の場を設ける
ゲスト講義（予定）：実務家やスポーツビジネス関係者を招いた特別講義の機会を設ける
フィールドワーク（予定）：地域で展開されているスポーツマネジメント現場に足を運び、体験学習を行う
授業の振り返り：授業を受ける前と後での自分の変化を見つめ、自分自身の気づきを深める
毎回の授業レポートの提出方法：Googleフォームへの入力を行うことを提出方法とする
※なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを通じて、自らの考えを発表し、他者の意見を尊重することが重要です。スポーツマネジメントへの課題に対して探求する姿勢や、自分から表現することを重視します。発言、テキスト化、身体表現など、あらゆる表現が尊く、それにどのような意図を込めたのかを言語化できることが重要です。最終レポートでは、自ら立てた問いに対して自由に自主的に取り組み、意図や意思を持ったアウトプットをすることを重視します。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	80%	０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
毎回の授業時に提出する小レポートへの取り組む姿勢や、レポートとしてまとめた内容に対して自分の気づきや発見を言語化しているかどうか	レポート内容として自分の気づきや発見を言語化しており、さらに自らが問いを立て、自主的に探求する姿勢がある	レポート内容として自分の気づきや発見を言語化している	レポートへの積極的に取り組む姿勢がある	レポートへの取り組む姿勢がある	レポートを提出しない
講義における学習態度	意欲的に学習に取り組み、講師からの問いかけに対して積極的に発言し、インプット・アウトプット両面で言語化できており、学生同士のグループワーク等でリーダーシップを発揮している	意欲的に学習に取り組み、講師からの問いかけに対して積極的に発言し、能動的なアウトプットをしている	講師からの問いかけに対して発言しており、講義内容で理解したことを自分なりにノート等にまとめている	講義に参加している	規定の出席回数を満たしていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング：SPS422060，SPS512009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	守屋　俊甫（経営学科・特任講師）	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　守屋　俊甫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本講義の目的、授業全体の説明、問いと気づきについて、評価方法、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバス内の「授業全体の内容と概要」を読んでおくこと（９０分）	レポート作成（９０分）
2	スポーツとは？マネジメントとは？スポーツマネジメントとは？	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
3	地域に根ざしたスポーツマネジメント事例①「スポーツとアントレプレナーシップ」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
4	地域に根ざしたスポーツマネジメント事例②「スポーツとインタープレナーシップ」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
5	地域に根ざしたスポーツマネジメント事例③「スポーツと地域活性」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
6	地域に根ざしたスポーツマネジメント事例④「スポーツと人材開発プログラム」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
7	地域に根ざしたスポーツマネジメント事例⑤「スポーツと教育旅行」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
8	地域に根ざしたスポーツマネジメント事例⑥「スポーツとエリアマネジメント」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
9	日本規模のスポーツマネジメント事例①「部活動地域展開と地域クラブ化」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
10	日本規模のスポーツマネジメント事例②「イベント・祭り」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
11	日本規模のスポーツマネジメント事例③「産官学連携プロジェクト」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
12	世界規模のスポーツマネジメント事例①「WBC（World Baseball Classic）戦略と放映権」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
13	世界規模のスポーツマネジメント事例②「世界のスポーツチームと資産価値」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
14	世界規模のスポーツマネジメント事例③「グルーバルスポーツの『カネ』と『戦略』」	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
15	過去講義の振り返り 最終レポート課題づくり	事前資料を読む（９０分）	レポート作成（９０分）
16	最終レポート課題のピッチ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	事前資料を読む（９０分）	最終レポート作成（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学年・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

マンガ、アニメをを中心とする表現の特性、産業としての側面や、専門用語などの知識を身に着け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。
表現・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養いながら、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。
「SDGs16．平和と公正をすべての人に」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学年・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	産業としてのマンガ（1）雑誌文化と新しいビジネスモデル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	産業としてのマンガ（2）マンガ制作と流通　マンガ家の位置づけ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	「マンガ家」という仕事（1）制作方法の特殊性（他メディアと比較して）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	「マンガ家」という仕事（2）制作方法の多様性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
6	「マンガ家」という仕事（3）マンガ家の仕事の現場	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	マンガと社会（1）戦争を語るメディアとしての マンガ　中沢啓治「はだしのゲン」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	マンガと社会（2）戦争を語るメディアとしてのマンガ　こうの史代『この世界の片隅に』読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
9	マンガと社会（3）戦争を語るメディアとしてのマンガ　こうの史代『この世界の片隅に』　映画版との比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
10	プレゼンテーションの方法 レポートのまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
11	個人発表（1）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（2）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（3）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	個人発表（4）	個人発表の準備をする（45分）	レポートを作成する（45分）
15	期末レポートの提出 まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学修の基礎になる、文献の読み方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションの仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告とディスカッション（１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告とディスカッション（２）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告とディスカッション（３）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告とディスカッション（４）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告とディスカッション（５）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告とディスカッション（６）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告とディスカッション（７）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告とディスカッション（８）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告とディスカッション（９）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告とディスカッション（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告とディスカッション（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（２）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

前期に学習した人体の構造や機能について具体的な内容の理解を深め、、食生活（栄養）・運動実践・睡眠などの生活習慣を見直すことに生かし、健康的な学生生活を身につける。
また、生涯にわたって運動習慣（軽スポーツ）を継続することを身につけ、高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。

授業全体の内容と概要

各自自分自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。
各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。
各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。

授業の方法

DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。
グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。
Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩA受講者

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	30%	30%	０％	40%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
栄養素の働きの理解	栄養素の働きを良く理解している	栄養素の働きをほぼ理解している	栄養素の働きをある程度理解している	栄養素の働きを理解している	栄養素の働きを理解していない
内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を良く理解している	内臓臓器の構造や機能をほぼ理解している	内臓臓器の構造や機能をある程度理解している	内臓臓器の構造や機能を理解している	内臓臓器の構造や機能を理解していない
運動の効果の理解	運動の効果を良く理解している	運動の効果をほぼ理解している	運動の効果をある程度理解している	運動の効果を理解している	運動の効果を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンス内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（前期成績・取得単位数・学生生活）	前期成績・取得単位数を確認しておく（４５分）	前期成績・取得単位数を把握しておく（４５分）
3	個人面談（前期成績・取得単位数・学生生活）	前期成績・取得単位数を確認しておく（４５分）	前期成績・取得単位数を把握しておく（４５分）
4	栄養素の働きの理解Ⅰ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
5	栄養素の働きの理解Ⅱ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
6	栄養素の働きの理解Ⅲ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
7	栄養素の働きの理解Ⅳ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
8	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅰ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
9	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅱ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
10	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅲ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
11	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅳ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
12	運動の効果の理解Ⅰ	運動の効果を確認しておく（４５分）	運動の効果を理解しておく（４５分）
13	運動の効果の理解Ⅱ	運動の効果を確認しておく（４５分）	運動の効果を理解しておく（４５分）
14	運動の効果の理解Ⅲ	運動の効果を確認しておく（４５分）	運動の効果を理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力をみにつける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	グループディスカッション （スポーツの価値）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	グループディスカッション （アマチュアスポーツとプロスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	グループディスカッション （日本でのスポーツの発展）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	グループディスカッション （学生スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	ミニプレゼンテーションの準備　１ 身近なスポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	ミニプレゼンテーションの準備　２ 身近なスポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	ミニプレゼンテーション　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	ミニプレゼンテーション　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	ミニプレゼンテーション　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	グループディスカッション　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	グループディスカッション　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーションと質疑応答　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーションと質疑応答　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーションと質疑応答　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再確認する。（４５分）	評価等の内容を確認しておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不足の事態の際にオンライン授業やオンデマンド授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業やオンデマンド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	トレーニングデータの収集④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	データ解釈のグループワーク④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング、論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	データ解釈のグループワーク⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	エビデンスに基づいたトレーニング、論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	面談	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	データ解釈のグループワーク⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	エビデンスに基づいたトレーニング、論文の読み方⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングの実践⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	面談	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ（科目を修了して「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解して、知識と技能を身につけさせる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

陸上競技（駅伝）を通じて、個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持ってことができる。
陸上競技の知識と技能を身につけさせる。

授業全体の内容と概要

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明して身につけさせる。　　SDG4 質の高い教育目標　科学的トレーニングの導入

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。
不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「２０分以上の遅刻は欠席とします。」
「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上
陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	８０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を深く理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝とて、健康について基礎的な知識をおおむね理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を多少理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解して身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」 身に付けるべき力の内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認するする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	陸上（駅伝）と、健康についての調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	陸上（駅伝）と、健康についての調査②　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	陸上（駅伝）と、健康についての調査③　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	陸上（駅伝）と、健康についての調査④　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑤　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑥　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑦　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑧　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑨　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑩　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑪　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑫　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑬　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	陸上（駅伝）と、健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	陸上（駅伝）と、健康調査全体のまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 学習内容を身に付ける事ができたかをフィードバックして検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　篠原　諒介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

「パフォーマンスを向上させたい」、「オーバーリーチングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために、科学的なエビデンスに基づいた情報、また、エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が、成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する。

授業全体の内容と概要

すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ、最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ。

授業の方法

・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施する．
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　篠原　諒介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）（国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する）及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	リカバリーの実践① スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	リカバリーの実践② スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	リカバリーの実践③ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	リカバリーの実践④ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	リカバリーの実践⑤ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	リカバリーの実践⑥ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	リカバリーの実践⑦ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ フィードバック（国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解できたか確認）及び授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」の検証	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールではキリスト教・仏教・イスラム教・儒教の教義内容とその特色を概観し、各々を構造神学的に比較したうえで、それらを振興する人々のエートス（行動様式）の生成と、そこから導き出された現代国際社会の諸相を分析し、併せて日本社会における宗教の影響と、日本人のエートスについての思考を深めるようにする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，DP２，DP５に対応する。

到達目標

・キリスト教、仏教、イスラム教、儒教の基本的協議を理解できる。
・上記宗教のから導き出されるエートスを理解し、現代社旗への影響を理解できる。
・現代日本社会における「宗教」とその機能を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『日本人のための宗教原論ーあなたを宗教はどう助けてくれるかー』（徳間書店）を基本参考文献とし（講義ごとに購読パートを教員がコピーする）、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、の著書を参考に、音読しながら購読し、必要に応じてディスカッションを行う。

授業の方法

・各講義ごとに参考文献を音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加える。また、ディスカッションも行う。
・ゼミで使用するプリントは前の週に配布する。熟読することが望ましい。
・学生の要望には可能な限り応じるが、教育上問題ありと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

チャット、ライン等に「欠席理由」のしんこくがない、あるいは校間等の連絡がない場合は欠席とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席数１０回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	３０％	７０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キリスト教・仏教・イスラム教・儒教の基本的協議を理解する。	ゼミナールで行った内容について説明できる。ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	高校のテキストにおける「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
各宗教から導き出されるエートス（行動様式）を理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	マックス・ウェーバーの「エートス」の概念を理解できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
現代日本社会における宗教的機能について理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	小室直樹・山本七平の「日本教」について」説明できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校の世界史の復習（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
2	宗教のアウトライン１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
3	宗教のアウトライン２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
4	キリスト教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
5	キリスト教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
6	キリスト教３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
7	キリスト教４	前回資料の読み込み（９０分）	配布資料の熟読（９０分）
8	仏教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
9	仏教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
10	イスラム教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
11	イスラム教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
12	儒教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
13	儒教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
14	日本人と宗教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
15	日本人と宗教２。前回までの授業内容の小試験を実施、講評・評価によるフィードバック。	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
16	日本人と宗教３ 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールＩAの継続として、
１）学生が世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識と考え方を身につける。
２）学生がコミュニケーションの基礎を身につける。
３）文章作成の基礎を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

1）受講者において、世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、理解できていること。
２）コミュニケーションの基礎が習得できていること。文章作成の基礎が習得できていること。

授業全体の内容と概要

日本、特に北海道とも近い東北の歴史と文化を地域ごとに考察する。松尾芭蕉『奥の細道』のルートに沿って考察していきたい。教員による現地取材も提供、活用する。

授業の方法

１）教員による短い講義（資料、映像、動画を併用）。
２）１）に基づく受講生全員による討論。
３）教員によるフィードバック。
毎回、１）から３）をくりかえす。ときどき、簡単な体験学習を取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート作成のための情報収集・調査能力	多様で正確な情報収集と編集・整理ができ、的確に発信できた。	正確な情報収集と整理ができ、的確に発信できた。	情報収集と整理の基礎が身に付いており、発信の基本ができていた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、発信の基本ができていた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論、明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎が身に付いており、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎ができていた。	指示によって議論、プレゼンテーションが適切に遂行できた。	指示による議論、プレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	日本の歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	日本の歴史と文化に関する的確な理解ができており、発展的な学習が期待できた。	日本の歴史と文化に関する基本的な理解ができており、深めることが期待できた。	指示によって日本の歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示による日本の歴史と文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明。シラバスの説明。 この科目で身に付ける力についての説明。 日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。北関東地方の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
2	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北関東地方の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
3	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
4	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
5	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
6	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。南東北の歴史と文化。 履習範囲の確認のためのミニレポートの作成とコメント等によるフィードバック。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
7	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
8	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
9	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
10	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
11	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
12	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
13	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分
14	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
15	期末レポートの作成。	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
16	期末レポートの作成。コメント等によるフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証と説明。	レポート作成の準備（４５分）	レポートの仕上げ （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い語を学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する科目。

到達目標

①用語と各々の意味を覚えるとともに、自分に適した暗記方法を身につけることができる。
②チームワークに必要なコミュニケーションの初歩的なスキルを身につけることができる。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で用いられることが多い基礎的な用語（主にカタカナの用語）と基礎的な意味について学ぶ。
②実践的なコミュニケーションについて学ぶ。
「SDGｓ1．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時事質問を行うので、答えること。
③随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業毎に使用する資料を配布する。
⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①30分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語を理解できる。	カタカナ語に該当する日本語を示すことができた。	カタカナ語の意味を答えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
実践的なコミュニケーションをロールプレイで展開できる。	適切な態度や言葉を用いてロールプレイができた。	ロールプレイでは、相手を尊重した姿勢をとることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して身に付く力の説明 福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語①	入学後、福祉の授業の中で知ったア行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
2	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語②	入学後、福祉の授業の中で知ったカ行とサ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
3	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語③	入学後、福祉の授業の中で知ったタ行とナ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
4	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語④	入学後、福祉の授業の中で知ったハ行とマ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
5	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語⑤	入学後、福祉の授業の中で知ったヤ行とラ行とワ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
6	気をつけなければならない言葉や話し方	自分の言葉や話し方の特徴について箇条書きで整理する。（４５分）	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。（４５分）
7	コミュニケーションの意義・目的	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートに整理をする。（４５分）
8	中間まとめ	1回から７回の内容を振り返り、疑問点や再度説明を希望する部分をまとめる。（４５分）	1回から７回までで理解が不十分だった点を復習する。（４５分）
9	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
10	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
11	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。③	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
12	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける①	9回～11回での学びを振り返る。（４５分）	関わった人たちのコミュニケーションスタイルの良い点をまとめる。（４５分）
13	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける②	9回～11回での学びを振り返る。（４５分）	関わった人たちのコミュニケーションスタイルの良い点をまとめる。（４５分）
14	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける③	9回～11回での学びを振り返る。（４５分）	関わった人たちのコミュニケーションスタイルの良い点をレポートにまとめ提出する。（４５分）
15	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける④ 添削したレポートを返却し、フィードバックする	クラスメイトから受けた助言をもとに、自分のコミュニケーションの特徴を整理する。（４５分）	クラスメイトと教員からの助言をもとに自分のコミュニケーションの課題を整理する。（４５分）
16	まとめと科目を修了して身に付く力』についての検証をする。 授業最終回で講評を行う	１回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。（４５分）	この授業で学んだ事を振り返り、2年生へ向けた自己の課題を明確化する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
・「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解させ、併せて快適な学生生活を送ることが出来る様指導する。
・提示したテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力を高める工夫をし、また、「学びの方法」も修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP1、ＤＰ２、ＤＰ5に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質問には随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
「ＳＤＧ．３　すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（３分の２以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持に食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15～14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13～12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11～10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える。「身に着く力」について考察する。（４５分）
2	「食生活の重要性を考えるＩＢ」①テーマの見つけ方(新聞・図書・雑誌等)	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるＩＢ」②プレゼンテーションテーマの見つけ方(ニュース・ネット等)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるＩＢ」③プレゼンテーション資料の作成について	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるＩＢ」④プレゼンテーション以外のテーマについて(フィールドワーク等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑤プレゼンテーション以外のテーマについて(調理実習等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑥プレゼンテーションとディスカッション(発表順１・２番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑦プレゼンテーションとディスカッション(発表順３・４番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑧プレゼンテーションとディスカッション(発表順５・６番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
10	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑨プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑩プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑪プレゼンテーションとディスカッション(発表順７・８番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑫プレゼンテーションとディスカッション(発表順９・１０番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑬プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるＩＢ」⑭プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施	まとめの準備を行う。（４５分）	1年間のゼミについて振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持たせる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「２０分以上の遅刻は欠席とします。」
「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	90%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認するする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	健康についての調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	健康についての調査②　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	健康についての調査③　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	健康についての調査④　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	健康についての調査⑤　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	健康についての調査⑥　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	健康についての調査⑦　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	健康についての調査⑧　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	健康についての調査⑨　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	健康についての調査⑩　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	健康についての調査⑪　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	健康についての調査⑫　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	健康についての調査⑬　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証、授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能，思考力・判断力・表現力等及び主体的な学修態度を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

教育の現状（全国・全道・地域）や教育制度等を理解することができる。
教育の諸問題について，自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現することができる。
教員になるために必要な事項を理解することができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸問題についての探究的な学修
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申の学修
教員に求められる基本的資質の獲得（漢字，一般教養等）
教職啓発事業及び学校体験活動等への参加
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」関連科目

授業の方法

各回のテーマに基づいて，探究的な学修（自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現する等）を行う。
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申を通読する。
教員に求められる基本的資質を獲得するための演習を行う。（漢字，一般教養等）
教職啓発事業や学校体験活動等の成果を発表・共有する。
毎時間，事前事後課題を課す。
課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換，質問対応，小テスト，教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある 。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○以下を履修条件とする。
・教職課程に登録し，大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意志を持つこと。
・担当教員の教職の授業において必ず自発的に発表すること。
・サブメジャー・プログラムの「教員採用試験対策プログラム」を履修すること。
・担当教員が紹介する教職啓発事業及び学校体験活動等に必ず参加すること。
・事前事後学修に真剣に取り組むこと。
・漢字検定に真剣に取り組むこと。（受検級に合格するまで毎回確実に受検すること。）
・各自，B5版のノートを用意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。
部活動の対外試合、法定伝染病、法事等についての欠席で、客観的に証明することが可能で所定の手続きを行ったものについてのみ補講の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） ＩＡの反省，決意表明	シラバスを熟読してくること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	北海道における学力向上策を考える。（思考・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	北海道における学力向上策を発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	教員に求められる資質・能力について考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	教員に求められる資質・能力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	教員に求められる資質・能力について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	教員育成指標について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	教員育成指標について発表する。（発表・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	生徒指導とは何か考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	生徒指導の目的，定義について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	生徒指導の構造について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	生徒指導の構造について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	問題行動等とは何か（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	問題行動等の状況（全道・全国）について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	問題行動等の状況について発表する。（発表，質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	１年間の反省及び今後の決意 演習のフィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。

自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。

昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ピクトグラム制作、
企業へのＰＯＰ制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

（1）制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
（2）様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
（3）各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講定員15名
受講条件
本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４０％	３０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高い コミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期の活動においての確認とフィードバック シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	地域課題の理解 ゼミの目的と年間の流れを共有し、地域連携の意義やSDGsとのつながりを簡潔に確認する。あわせて、主体的に学ぶ姿勢を意識しながら、行政・企業・学校などが抱える地域課題の具体例に触れ、今年度の活動イメージをつかむ。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	リサーチ方法の基礎 課題発見のための観察・ヒアリングといった基本的なリサーチ方法を確認し、情報を集めて整理するスタディスキルを意識しながら、チーム編成と役割分担を行う。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	地域フィールドワーク① 地域の施設や企業、行政担当者から話を聞き、現地の状況や、地域が抱える課題やニーズを把握する。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	地域フィールドワーク② 調査内容など写真やメモで記録し、後の分析や共有に活かせるよう、アカデミックスキルとして適切な記録方法を身につける。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	課題設定と企画立案 調査結果をもとに解決すべき課題を明確にし、複数の企画案を比較しながら方向性を検討する。あわせて、企画書づくりに必要な基本構成を学びながら、実現可能な企画へとまとめていく。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	企画プレゼン 各チームが企画案を発表し、教員や学生同士で意見を交わしながら改善点を共有する時間とする。	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	デザインリサーチ（事例分析・参考資料収集） パッケージ、ポスター、ピクトグラム、ロゴなどの事例研究 デザインの要素分析（色・形・情報設計）	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	アイデア展開（Creative） スケッチ、ラフ案制作 チーム内でアイデアの取捨選択	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	デザイン制作①（ビジュアル構築） パッケージ、ポスター、ロゴ、POPなど制作開始	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	デザイン制作②（ブラッシュアップ） 制作プロセスの記録（アカデミックスキル）	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	デザイン制作③（ブラッシュアップ） フィードバックを受けて改善	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	デザイン制作④（最終調整） 印刷・出力を見据えたデータ調整 実践に向けた整経確認 作品の意図を言語化する準備	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	成果発表会Ⅰ（プレゼンテーション） 制作物・企画の最終発表 SDGsへの貢献、地域への価値を説明 アカデミックスキル：発表・質疑応答	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	成果発表会Ⅱ（プレゼンテーション） 制作物・企画の最終発表 SDGsへの貢献、地域への価値を説明 アカデミックスキル：発表・質疑応答	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	ゼミ全体の総括 1年間の活動における総括とフィードバック 学生自身の今後の学び・キャリアへの接続 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計の実務経験を活かし、建築や空間表現に関する実践的な視点から、作品の見方や表現方法について指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術学部の建築学科における教養として手を使った演習と、さまざまな美術作品・建築作品に触れ、美的、造形的素養や批判的思考力を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

美術作品や建築作品に触れ、感性を高め、その作品について深く理解できる。
手を使った演習を通して、表現できる。
物事を多角的な視点から問い直す批判的思考ができる。

授業全体の内容と概要

描画、スケッチ、作品制作を通じて手によるスキルアップを行う。
美術作品や建築作品を実際に鑑賞し、それに関連する作品制作を行う。発表会にてお互いの作品を鑑賞し合う。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」、「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」、「SDGs12．つくる責任　つかう責任」の関連科目

授業の方法

資料は適宜指示、配布する。授業形態は、演習、グループワーク、実習などを含む。学生同士で相談などしても良い。課題に対するフィードバックは適宜行う。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具が必要となるため、ガイダンスにて指示する。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術鑑賞を通じて作品を理解し、説明できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作品制作に必要な道具を使って基本的な芸術表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
物事を多角的の捉え、批判的思考ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計の実務経験を活かし、建築や空間表現に関する実践的な視点から、作品の見方や表現方法について指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：授業の説明、シラバス説明、 当該科目を修了して身に付く力の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	スケッチチェック、課題説明	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築作品・美術作品　予習・事前準備	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築作品・美術作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築作品・美術作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築作品・美術作品鑑賞3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	建築作品・美術作品鑑賞4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	スケッチチェック、作品発表会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　恵利　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を身につける。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。
多文化との交流を積極的に楽しみ、異国（日本）での生活、大学生活をより豊かなものにする。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明) 自己紹介 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
16	後期学習範囲の総括（身につく力の検証） および反省・最終課題の提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック	最終課題提出の準備（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】授業の進め方・シラバスの説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	【プレゼンテーション】　これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「研究テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
　不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
前期の「基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ」の授業内容も含まれる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って章立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『無縁介護単身高齢社会の老い・孤立・貧困』	山口道宏	現代書館	2012	9784768435205	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業15	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	授業内フィードバック 総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP５に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバス」、「ゼミの進め方」、「科目を修了して身に付く力」の説明	前期の課題を整理すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教育の諸課題の解決策を考える④１ ・いじめについて 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○教育の諸課題の解決策を考える④２ ・いじめについて 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○教育の諸課題の解決策を考える⑤１ ・虐待について 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教育の諸課題の解決策を考える⑤２ ・虐待について 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○教育の諸課題の解決策を考える④⑤３ ・いじめ・虐待について 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○教育の諸課題の解決策を考える⑥１ ・家庭・地域との連携 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○教育の諸課題の解決策を考える⑥２ ・家庭・地域との連携 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○教育の諸課題の解決策を考える⑥３ ・家庭・地域との連携 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○教育の諸課題の解決策を考える⑦１ ・教師をめぐる課題 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○教育の諸課題の解決策を考える⑦２ ・教師をめぐる課題 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○教育の諸課題の解決策を考える⑦３ ・教師をめぐる課題 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○教育の諸課題の解決策を考える⑧１ ・自由課題 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○教育の諸課題の解決策を考える⑧２ ・自由課題 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○教育の諸課題の解決策を考える⑧３ ・自由課題 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	後期の学修の総括及び反省（フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証） 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	後期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

・ただの趣味ではなく、学問の一つとしてｅスポーツを捉えることが出来るようになる。
・適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。
・視野（選択肢）を広く持つことが出来るようになる。
・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となる多様な能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学という環境に早く慣れる
・ｅスポーツとは何なのかを知る

授業全体の内容と概要

・履修登録や授業、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ関係等新しく扱うものについて学ぶ。（スタディスキル）
・日本、全世界でプレイされているｅスポーツタイトルについて学ぶ。（アカデミックスキル）
・ｅスポーツプレイヤーを取り囲む環境について知り、それを体感する。（アカデミックスキル）
・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。（スチューデントスキル）

授業の方法

・不測の事態が無い限り対面にて行う。
・ＬＭＳにて課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
・遊びではなく学習の場であることを理解する。
・自身のPC（できればデスクトップＰＣ）を持っていることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報を集めて考える力	ｅスポーツに関する多角的な調査を行い、データや事例を適切に活用し、根拠に基づいた深い考察ができていた。	しっかりと調査し、データや事例を用いた分析ができていたが、一部深掘りが不足していた。	基本的な調査は行われており、論理的な考察があったが、やや浅い部分があった。	調査の範囲が限定的で、分析に一貫性がなかった。論拠が弱かった。	調査が不十分で、主観的な意見が多く、論理的な分析ができていなかった。
チームで取り組む力	チームワークを重視し、積極的に役割を果たし、ゼミの成果に大きく貢献していた。	チーム内での役割を果たし、協力的な姿勢を持っていた。	最低限の役割は果たしていたが、積極的な貢献は少なかった。	グループ活動への関与が少なく、受け身の姿勢が目立っていた。	グループ活動にほとんど参加せず、貢献が見られなかった。
考えを整理して伝える力	ｅスポーツに関する考察を論理的にまとめ、構成も明確で説得力があった。	ｅスポーツのテーマについて論理的にまとめていたが、一部整理不足が見られた。	基本的な内容は書かれていたが、論理的な展開や構成が弱かった。	内容が断片的で、論理的な構成になっていない部分が多かった。	文章がまとまっておらず、考察も浅く、論理的な説明ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 ・前期の復習	シラバスを読む（４５分）	前期に何を行ったのか復習する（４５分）
2	・ｅスポーツと企業	ｅスポーツ事業について調べる（４５分）	レポート提出（４５分）
3	・ｅスポーツと法律	ｅスポーツに関する法律について調べる（４５分）	レポート提出（４５分）
4	・ｅスポーツと教育	ｅスポーツを用いた教育について調べる（４５分）	レポート提出（４５分）
5	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
6	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
7	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
8	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
9	・個人発表 ・発表のフィードバック	発表練習する（４５分）	フィードバックを受けて改善点をまとめる（４５分）
10	・チームの作成 ・グループワークを行う	チームワークのテーマを考えておく（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
11	・グループワークを行う	グループで意見をまとめる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
12	・中間発表	発表練習する（４５分）	フィードバックを受けて改善点をまとめる（４５分）
13	・グループワークを行う	グループで意見をまとめる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
14	・グループワークを行う	グループで意見をまとめる（４５分）	調べた内容をまとめてレポートを提出（４５分）
15	・最終発表 ・発表のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	発表練習する（４５分）	フィードバックを受けて改善点をまとめる（４５分）
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	授業の進捗によって実地指導講師として小中学校の教諭を招聘する		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」（主体性・働きかけ力・実行力）・「考え抜く力」（課題発見力・計画力・創造力）・「チームで働く力」（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めずに、最後まで前向きに取り組むことができる。
・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。
・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

授業全体の内容と概要

グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」・「プレゼンテーション」・「デザイン制作物（ポスター・チラシ・Ｗｅｂサイトデザイン・ムービー）」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。
本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業である。
・「ＳＤＧ　８．働きがいも経済成長も」
・「ＳＤＧ　９．産業と技術革新の基盤をつくろう」
・「ＳＤＧ１６．平和と公正をすべての人に」
・「ＳＤＧ１７．パートナーシップで目標を達成しよう」
※その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法

グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったＰＤＣＡサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。
・授業時間外において質問及び相談があれば、Ｔｅａｍｓチャットまたは音声通話にて受け付ける。
・提示した教材は、全てＴｅａｍｓにて公開・配信する。
・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
・本科目内で最低１回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・所属学科の制限は設けない。
・課題制作（デザイン制作）を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。
・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。
・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

CompTIA IT Fundamentals

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	０%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	授業の進捗によって実地指導講師として小中学校の教諭を招聘する		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	[オリエンテーション] シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	[ビギナーズセミナーⅡ①] 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
3	[ビギナーズセミナーⅡ②] 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	[コンセンサスゲーム・演習課題①] グループディスカッションの練習を行う。	グループディスカッションのコツについて調べる（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
5	[コンセンサスゲーム・演習課題②] グループディスカッションの練習を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
6	[学内プロジェクト活動①] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
7	[学内プロジェクト活動②] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
8	[学内プロジェクト活動③] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
9	[学内プロジェクト活動④] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
10	[学内プロジェクト活動⑤] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
11	[学内プロジェクト活動⑥] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
12	[学内プロジェクト活動⑦] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
13	[学内プロジェクト活動⑧] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
14	[学内プロジェクト活動⑨] 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
15	[学内プロジェクト活動⑩（成果発表会）] グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	反省点をまとめる（４５分）
16	[まとめ・総評] 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容をまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・２年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ（再） （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河田　一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナールIB再履修者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・２年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ（再） （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】授業の進め方・シラバスの説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	【プレゼンテーション】　これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

あえて、基礎ゼミナールＩＡと同様の内容で授業を展開し、習熟度を高めることを狙いとする。
絵画の基本 - 様々な用材の性質や取り扱い方について、さらに、絵画の果たすべき役割や意義について学修する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し身に着ける。

授業全体の内容と概要

10号程度の支持体に、それぞれの履修生が求めるものをエッグテンペラや油彩の技法で制作する。

授業の方法

事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	0％	80%	0％	20%	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　安田　祐造　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明、古今の作品について（構図を主に）	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材の性質について	洋画作品の構造と用材、木材の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作木材の裁断、木工具の取り扱い方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。(90分)
4	支持体製作地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを検討する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	ッグテンペラの展色剤の処方について予習する。(90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油彩絵具の透明性や被覆力等について予習する。(90分)	油彩絵具の透明性や被覆力等について復習する。(90分)
8	油彩による上描き　1大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き　2色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き　3立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。(90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　3	筆触・タッチ・について予習する。(90分)	意図どおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　5	色価・バルール・に狂いのある個所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。(90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。(90分)	合評会で得られた、他者の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動している教師がその経験と実績を活かして実践的な授業を展開する。公立学校での教諭経験を生かし、一人ひとりに寄り添い学習を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを制作するために必要となる素養を考え、身につけるための活動を通し、大学での学修に必要な基礎的知識、協働の姿勢、学修態度を学び取るとともに、基本的な技術、技能の習得方法を考え、実践的な姿勢や方法をより一層学び取る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

準備学習、事後学習をしっかりと行い、主体性を持って協同して学ぶ態度をより一層身につける。
大学生活で学ぶ全般と本ゼミに於いて学ぶ技能、技術を統合してイラストレーション制作により一層反映する。
プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など大学で学ぶための素養をより一層身に付ける。

授業全体の内容と概要

授業はイラストレーションを中心とした題目についての講義やディスカッション、課題制作などを行い、イラストレーション全般についての知識や技能を学び取れるよう展開していく。物の見方、形のとらえ方といった美術全般に渡る基礎基本の習得には特に力を入れる。慣れてきた大学生活に於いての不安や戸惑いなどを解消させ、主体的に学修できるよう一人一人との対話を重視した授業を展開する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで行う。必要に応じてDVDなど視聴覚メディアを適宜使用。説明後、課題制作。講評会に於いてフィードバックを行う。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

描写力を付けたい人、美術教師を目指す人、画家やイラストレーターを目指す人などを対象とする。授業の内容は履修の学生の素養に合わせ適宜変更する可能性がある。無遅刻無欠席は社会人としての素養であることを理解できていること。毎回画材を持参（F6（またはA3）以上のクロッキー帳またはスケッチブック、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで5種類ほど）、カッター、色鉛筆（あれば水性と油性））SまたはFの50号のキャンバスが木製パネル持参。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定などに基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学修態度・姿勢	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。協働して学ぶ姿勢が十分身に付いた	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。協働して学ぶ姿勢が身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてある程度身についた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身につかなかった
描写力・技術力	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につき、自分の作品に十分に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につき、自分の作品に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身についた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がある程度身についた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につかなかった。
表現力（プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力）	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身につき、周囲の士気を挙げることができた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層十分に身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がある程度は身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身につかなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動している教師がその経験と実績を活かして実践的な授業を展開する。公立学校での教諭経験を生かし、一人ひとりに寄り添い学習を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション［シラバスの説明、当該科目を修了して身につく力について、準備学習・事後学習の説明］	シラバスを読む（４５分）	課題（４５分）
2	マインドマップ作成	課題（４５分）	課題（４５分）
3	構想1	課題（４５分）	課題（４５分）
4	構想２	課題（４５分）	課題（４５分）
5	エスキース（着彩）	課題（４５分）	課題（４５分）
6	支持体準備	課題（４５分）	課題（４５分）
7	支持体へ転写	課題（４５分）	課題（４５分）
8	制作１	課題（４５分）	課題（４５分）
9	制作２	課題（４５分）	課題（４５分）
10	制作３	課題（４５分）	課題（４５分）
11	制作４	課題（４５分）	課題（４５分）
12	制作５	課題（４５分）	課題（４５分）
13	制作６　完成	課題（４５分）	課題（４５分）
14	制作７　額装	課題（４５分）	課題（４５分）
15	講評会（フィードバック）プレゼンテーション、ディスカッション、	課題（４５分）	課題（４５分）
16	当該科目第１回目に示した「身につく力」の検証	課題（４５分）	講評会で得られた意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

美術学部の建築学科における教養として手を使った演習と、さまざまな美術作品・建築作品に触れ、美的、造形的素養や批判的思考力を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

美術作品や建築作品に触れ、感性を高め、その作品について深く理解できる。
手を使った演習を通して、表現できる。
物事を多角的な視点から問い直す批判的思考ができる。

授業全体の内容と概要

描画、スケッチ、作品制作を通じて手によるスキルアップを行う
美術作品や建築作品を実際に鑑賞し、それに関連する作品制作を行う。発表会にてお互いの作品を鑑賞し合う。
□SDGs３.すべての人に健康と福祉を　□SDGs１１.住み続けられるまちづくりを　□SDGs１２.つくる責任　つかう責任

授業の方法

資料は適宜指示、配布する。授業形態は、演習、グループワーク、実習などを含む。学生同士で相談などしても良い。課題に対するフィードバックは適宜行う。不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具が必要となるため、ガイダンスにて指示します。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術鑑賞を通じて作品を理解し、説明できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作品制作に必要な道具を使って基本的な芸術表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
物事を多角的の捉え批判的思考ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　赤木　良子　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：授業の説明、シラバス説明 、 当該科目を修了して身に付く力の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	スケッチチェック、課題説明	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築作品・美術作品　予習・事前準備	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築作品・美術作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築作品・美術作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築作品・美術作品鑑賞3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	建築作品・美術作品鑑賞4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	スケッチチェック、作品発表会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術学部の建築学科における教養として手を使った演習と、さまざまな美術作品・建築作品に触れ、美的、造形的素養や批判的思考力を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

美術作品や建築作品に触れ、感性を高め、その作品について深く理解できる。
手を使った演習を通して、表現できる。
物事を多角的な視点から問い直す批判的思考ができる。

授業全体の内容と概要

描画、スケッチ、作品制作を通じて手によるスキルアップを行う。
美術作品や建築作品を実際に鑑賞し、それに関連する作品制作を行う。発表会にてお互いの作品を鑑賞し合う。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」、「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」、「SDGs12．つくる責任　つかう責任」の関連科目

授業の方法

資料は適宜指示、配布する。授業形態は、演習、グループワーク、実習などを含む。学生同士で相談などしても良い。課題に対するフィードバックは適宜行う。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具が必要となるため、ガイダンスにて指示する。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術鑑賞を通じて作品を理解し、説明できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作品制作に必要な道具を使って基本的な芸術表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
物事を多角的の捉え、批判的思考ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：授業の説明、シラバス説明、 当該科目を修了して身に付く力の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	スケッチチェック、課題説明	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築作品・美術作品　予習・事前準備	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築作品・美術作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築作品・美術作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築作品・美術作品鑑賞3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	建築作品・美術作品鑑賞4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	スケッチチェック、作品発表会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡田　武志　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に着ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＢ （科目ナンバリング：BAS001004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡田　武志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	グループディスカッション （スポーツの価値）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	グループディスカッション （アマチュアスポーツとプロスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	グループディスカッション （日本でのスポーツの発展）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	グループディスカッション （学生スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	ミニプレゼンテーションの準備　１ 身近なスポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	ミニプレゼンテーションの準備　２ 身近なスポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	ミニプレゼンテーション　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	ミニプレゼンテーション　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	ミニプレゼンテーション　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	グループディスカッション　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	グループディスカッション　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーションと質疑応答　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーションと質疑応答　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーションと質疑応答　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再確認する。（４５分）	評価等の内容を確認しておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経済学概論 （科目ナンバリング：ECT122136，ECT412011，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済動向にかんするニュースや記事を理解するために必要な経済用語の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象を理解・考察するための基礎力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

経済の動向を知るために必要な基礎的な経済用語や経済学の考え方を述べることができる。経済成長や市場機構について基礎的な説明ができる。現在の経済政策の動向について述べることができる。

授業全体の内容と概要

経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法

各回の計画にそって板書やスライドによる講義と演習問題とを組みあわせた授業をおこなう。演習問題の実施にあたっては、ノートの活用のほかに、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的でリアクションペーパーやMicrosoft Forms等のWebフォームも利用する。また、授業の復習という目的もかねて、演習やリアクションペーパーに対する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。
　なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方を用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方を用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済事象の理解	経済の出来事に関するニュースや資料を読み取って自分なりの意見を述べることができた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べて説明できた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べてある程度説明できた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べて読むことができた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経済学概論 （科目ナンバリング：ECT122136，ECT412011，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第4版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	センゲージ・ラーニング株式会社	2025	9784807918119	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	経済学とは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスをよく読み、経済学とは何かについて考える（９０分）	経済学とは何かノートにまとめる（９０分）
2	日本の景気について： ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる（９０分）	景気を調べる方法についてノートにまとめる（９０分）
3	国内総生産からみた世界経済： ・国内総生産（ＧＤＰ）とは ・世界の国内総生産（ＧＤＰによる世界地域比較）	国内総生産について調べる（９０分）	地域比較で気付いたことをノートにまとめる（９０分）
4	希少な資源と生産活動： ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる（９０分）	生産要素と生産活動についてノートにまとめる（９０分）
5	経済成長とは： ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる（９０分）	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる（９０分）
6	経済成長と国民所得： ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる（９０分）	経済成長についてノートにまとめる（９０分）
7	実質値と名目値： ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる（９０分）	実質値と名目値の違いをまとめる（９０分）
8	需要と供給の作用： ・価格と需要量、供給量の関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる（９０分）	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる（９０分）
9	市場経済と価格： ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる（９０分）	供給の市場価格への影響をノートにまとめる（９０分）
10	経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさと幸福	経済的厚生の問題について考える（９０分）	経済的厚生の問題のまとめ（９０分）
11	通貨と中央銀行： ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる（９０分）	中央銀行と通貨についてノートにまとめ（９０分）
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは　・日銀と資金供給	金利について調べる（９０分）	日銀の政策と金利についてノートにまとめ（９０分）
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは　・信用創造とは	通貨供給量について調べる（９０分）	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる（９０分）
14	日銀と金融政策 ・金融政策にかんするニュース　・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる（９０分）	日銀の金融政策をノートにまとめる（９０分）
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ これまでの演習課題等にかんする講評・解説	ノート見直しと不明点の確認（９０分）	ノートの整理（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦（９０分）	わからなかった試験問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（M） （科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　河野　善文　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

複数の基本統計量とそれを組み合わせたデータの読みかたを理解することで、統計にだまされない能力を身につける。また、統計的有意性や推測統計の考え方を理解することで、統計分析の結果が意味することを理解する力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

複数の基本統計量を組み合わせて、データの特性について述べることができる。
正規分布に従う分布について、統計的有意性を判断できる。
推測統計の考え方の基礎的な用語を書ける。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス教育の関連授業科目であり、各種データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、代表値などの基本統計量やヒストグラムによるデータの要約・整理、基本統計量を応用したデータ分析、推測統計学の考え方などについて学ぶ。また、統計量の定義や統計の理論を学ぶだけでなく、チームスポーツ競技の試合結果や過去の気象データ、株価データなどを用いた演習を行う。
・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目

授業の方法

各回の計画にそって、板書による講義とノートをもちいた演習を組み合わせた授業をおこなう。講義では、現実データも使用しながら基本統計量や推測統計の考え方について解説をおこなう。演習では、実際にノートを使って統計量を計算したり・グラフを描いたりする。さらに、得られた計算結果やグラフに関する自分なりの解釈も検討する。また、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的で、受講生に対する質問やリアクションペーパー、Microsoft Forms等のWebフォームを利用する。また、授業の復習という目的もかねて、演習やリアクションペーパーに対する解説や講評を次回以降の授業のなかでおこなう。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データにかんする意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本統計量・グラフの理解	複数の基本統計量とグラフとを比較・組み合わせてデータを分析できた。	複数の基本統計量やグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	ひとつの基本統計量もしくはグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	データから基本統計量を求める・グラフを描くことができた。	基本統計量を求めることができなかった。グラフが描けなかった。
統計学の考え方の理解	推測統計の考え方を理解していて、かつ正規分布に従う分布の事例で統計的有意性の判断ができた。	推測統計の考え方を理解、または正規分布に従う分布の事例をもとに統計的有意性を判断できた。	統計的有意性の意味や推測統計の考え方を説明できた。	推測統計の基礎的な考え方をある程度説明できた。	推測統計の考え方を説明できなかった。
統計学の用語の理解	事例をあげて統計学の基礎的な用語を説明できた。	事例をあげて統計学の基礎的な用語をある程度説明できた。	統計学の基礎的な用語を説明できた。	推測統計の基礎的な用語を書くことができた。	推測統計の用語を書けなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（M） （科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　河野　善文　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『完全独習 統計学入門』	小島　寛之	ダイヤモンド社	２００６	4478820090	
2	『数学ガールの秘密ノート やさしい統計』	結城　浩	ＳＢクリエイティブ	２０１６	4797387122	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画　シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	統計とは何か調べる（９０分）	この授業で学ぶことについてノートにまとめる（９０分）
2	データを代表する値： ・中央値と平均値　・最頻値と平均値	代表値とは何か調べる（９０分）	授業で学んだ代表値のまとめと演習問題（９０分）
3	データの分布と代表値 ・範囲(レンジ)と最大値・最小値　・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる（９０分）	範囲のまとめと演習問題（９０分）
4	度数分布表によるデータの整理 ・度数分布表とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて調べる（９０分）	度数分布表・ヒストグラムのまとめと演習問題（９０分）
5	グラフによるデータの直感的理解： ・範囲・四分位範囲と分布 ・箱ひげ図と価格変動分析	範囲・四分位範囲を調べる（９０分）	グラフと分布との関係のまとめと演習問題（９０分）
6	データのバラツキを知る ・バラツキの代表値：標準偏差	標準偏差について調べる（９０分）	標準偏差の計算のまとめと演習問題（９０分）
7	バラツキとリスク ・変動係数とは ・バラツキによるビジネス・リスクの分析	変動係数について調べる（９０分）	変動係数とバラツキのリスクに関するまとめ、演習問題（９０分）
8	バラツキの事例と演習 ・リターンとリスクの資産運用分析	標準偏差とは何か調べる（９０分）	標準偏差の計算のまとめと演習問題（９０分）
9	統計でもっとも重要な分布 ・正規分布の特徴　・正規分布を描いてみる	正規分布について調べる（９０分）	正規分布の演習問題（９０分）
10	統計的有意性と正規分布 ・身長の平均・標準偏差と分布　・標準偏差と統計的有意性	正規分布と統計的有意性の関係について調べる（９０分）	標準偏差と統計的有意性のまとめと演習問題（９０分）
11	推測統計の考え方	推測統計とは何かについて調べる（９０分）	推測統計の考え方のまとめ（９０分）
12	推測統計と標本調査： ・母集団と標本	母集団と標本について調べる（９０分）	標本調査の考え方のまとめ（９０分）
13	信頼区間と推定の考え方 ・推定の考え方と例	推定とは何かについて調べる（９０分）	推定の考え方のまとめ（９０分）
14	検定の考え方 ・仮説検定の考え方と例	仮説検定とは何かについて調べる（９０分）	仮説検定の考え方のまとめ（９０分）
15	推測統計のまとめ これまでの演習にかんする解説・講評（フィードバック） 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでに学んだことを復習する（９０分）	推測統計についてまとめる（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験にでた問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（S） （科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

量的調査における記述統計（最大値・最小値、分散、歪度　標準偏差　平均値　範囲）と多変量解析、重回帰分析、因子分析、ロジスティック回帰分析の理論と基本的な算出方法、計算方法を身に着ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP４に対応する科目

到達目標

記述統計を説明することかできる。
積分応用の意味を説明することができる。
各種多変量解析の方法論を説明することができる

授業全体の内容と概要

データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。各種社会調査の統計データを使い、その分析方法と算出方法を演習形式で行い、最終的には、社会科学で扱うデータ分析の理論をマスターする。
数理・データサイエンス教育の関連授業科目

授業の方法

各回の講義プリントを教員が配布し、量的調査における記述統計、分析方法の概念と数式を説明したうえで、実際のデータを使い、学生が各種数式を使って計算を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データに関する意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計の理解	平均値、標準偏差、最大・最小値、中央値、最頻値、歪度の概念と理論を理解でき、その算出方法を習得した。	平均値、標準偏差、分散、の概念について理解でき、その計算方法を習得した。	中央と、最頻値、平均値の関係を理解し、正規分布上の置ける意味を理解できた。	最大値と最小値、範囲について理解できた。	記述統計について何一つ理解できなかった。
相関についての理解	正・負の相関、相関係数についの概念と算出方法を理解し、相関係数を使って数値を算出できた。	相関係数を使って、数値を算出できた。	正・負の相関と相関係数の概念について理解できた。	正・負の相関の概念について理解できた。	相関について理解できなかった。
多変量解析についての理解	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析の方法について理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解できた。	回帰分析、重回帰分析の方法を理解できた。	多変量解析について何も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（S） （科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	統計とは何か調べる（９０分）	統計とは何かとこの授業で学ぶことについてノートにまとめる（90分）
2	記述統計 ・中央値と平均値　・最頻値と平均値	記述統計とは何か調べる（９０分）	授業に出てきた代表値のまとめと演習問題（９０分）
3	データの分布と代表値との関係； ・範囲(レンジ)と最大値・最小値　・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる（９０分）	範囲のまとめと演習問題（９０分）
4	平均値と分散	分散とは何か調べる（９０分）	平均値と分散のまとめと演習問題（９０分）
5	分散と標準偏差 レポートの添削をし、編曲してフィードバック	標準偏差とは何か調べる（９０分）	平均値と分散と標準偏差のまとめと演習問題（９０分）
6	正の相関、負の相関	相関とは何かを調べる（９０分）	正・負の相関のまとめと演習問題（９０分）
7	相関係数①	相関係数について調べる（９０分）	正・負の相関と相関係数の関係のまとめ（９０分）
8	相関係数②	相関係数とは何か調べる（９０分）	ピアソンの相関係数の計算のまとめと演習問題（９０分）
9	回帰分析	回帰分析について調べる（９０分）	回帰分析と相関に関するまとめ、演習問題（９０分）
10	重回帰分析	重回帰分析の特徴について調べる（９０分）	重回帰分析に関する演習問題（９０分）
11	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析について調べる（９０分）	ロジスティック回帰分析の演習問題（９０分）
12	因子分析	因子分析について調べる（９０分）	因子分析のまとめと演習問題（９０分）
13	全数調査と標本調査	標本調査とは何かについて調べる（９０分）	サンプリングの考え方のまとめ（９０分）
14	サンプリングの方法（1） ーサンプリングの理論ー	サンプリングの方法について調べる（９０分）	サンプリングの考え方のまとめ（９０分）
15	サンプリングの方法（２） ー演習問題ー 授業改善アンケートの実施	サンプリングの種類について調べる（９０分）	サンプリングの各種算出方法のまとめ（９０分）
16	定期試験に代わるレポートを添削し、Eメールにより返却してフィードバックする。 科目を修了して『身に付く力』についての検証	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験にでた問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（D・A） （科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、観測したい事象のすべてを網羅的に観測できない場合がある。ここでは、一部のデータ（標本）からデータ全体（母集団）の特性を推測する標本調査をあつかい、推定および検定という推測統計の手法について学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP4に対応する。
建築学科のDP1、DP2、DP4に対応する。

到達目標

標本平均についての中心極限定理を理解し、推定手法と検定手法についてはそれぞれの考え方を説明できる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
推測統計の中で比較的簡単に求められる内容を扱うための基礎統計演習である。統計量と標本分布については自由度と標本分布表の使い方を理解する。推測統計では、推定手法および検定手法の考え方と処理手順について理解する。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業は教科書及びパワーポイントで実施し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。データ処理には表計算ソフトExcelを使用する。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「統計学入門」の履修・修得を履修の前提とする。
・コンピュータ室を利用するため、受講者数を50名に制限する。50名以上の申込があった場合には抽選し決定する。
Excelを用いた演習には大学のPCまたは自分のノートPCを用いること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
統計量と標本分布についての理解	不偏分散と標本分散について理解し、自由度と標本分布について理解できた。	不偏分散の考え方について理解できた。	さまざまな標本分布表の使い方を理解できた。	中心極限定理について理解できた。	中心極限定理について理解できなかった。
推定手法についての理解	与えられた条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができて、区間推定の信頼区間も導出できた。	信頼係数に対応する限界値と信頼限界の幅についての導出方法を理解できた。	与えられた統計データの条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができた。	推定手法の考え方を理解できた	推定手法の考え方を理解できなかった。
検定手法についての理解	限界値と実現値を計算して、帰無仮説が棄却されるかどうかを判断できた。	有意水準に対応する限界値と、検定統計量の実現値を求める方法を理解できた。	検定統計量の分布を定めることができた。	検定手法の考え方を理解できた。	検定手法の考え方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（D・A） （科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、情報モラル及び情報セキュリティ、データの整理	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
2	標本平均の分布と中心極限定理	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
3	推測統計に用いられる標本分布	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
4	推定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
5	母平均の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
6	母分散の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
7	母比率の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
8	母相関係数の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
9	推定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
10	検定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
11	母平均の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
12	母平均の差の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
13	分散比の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
14	母分散の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
15	検定の演習問題 授業改善アンケートの実施	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ （科目ナンバリング：STS062075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）・近澤　潤（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	2号館7階または１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。または、事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

・数理・データサイエンス・ＡＩの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を利活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する。
・学生間のコミュニケーションを通して、分析・考察をより深め、プロジェクトを完遂する。
・ＰＢＬ（Ｐｒｏｊｅｃｔ Ｂａｓｅｄ Ｌｅａｒｎｉｎｇ／プロジェクト型学習）を通して、アカデミックスキル（プロジェクト管理能力、ディスカッションスキル、設計力、計画力）、スタディスキル（プレゼンテーションスキル、ドキュメント作成スキル）、スチューデントスキル（コミュニケーションの向上）を図り、複合・応用的なスキルを習得する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・経営の各分野（マーケティング、財務、組織管理など）における生成AIの活用事例を分析できる（アカデミックスキル）
・オープンデータや実際の企業データを用いたＡＩ分析を実施し、レポートとしてまとめることができる（スタディスキル）
・チームで課題解決型プロジェクトを進め、適切な役割分担と協力を行うことができる（スチューデントスキル）
・授業で学んだ知識を活かし、自分の興味のある分野におけるAI活用の可能性を探究できる（スタディスキル）
・データサイエンスの基本概念（統計学、機械学習、データ可視化など）を理解し、適切に説明できる（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０や、データ駆動型社会などと称される現在において、文理問わず、幅広い分野においてデータサイエンス・ＡＩやＩＣＴの利活用できる基礎的素養を習得し、課題の発見・解決のために利活用できる能力が必要となる。本科目では、将来、幅広い分野でデータサイエンスやＩＣＴを実際に利活用できるよう、これまで習得した知識・技術を応用し、オープンデータや実際の企業データ等を活用しながら、自分たちの身の回りにある課題の発見と解決に挑戦する。データの収集・整理・分析・可視化・考察までの一連のプロセスを実践的に経験することで、理論と実務を結びつける力を養う。

本科目は、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）の関連授業科目である。

本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業である。
・「ＳＤＧ　８．働きがいも経済成長も」
・「ＳＤＧ　９．産業と技術革新の基盤をつくろう」
・「ＳＤＧ１１．住み続けられるまちづくりを」

授業の方法

本科目は、プロジェクト形式にて行うため、学生間のコミュニケーションやディスカッション、グループワークなど主体的に取り組む姿勢が重要となる。プロジェクトの開始にあたり、地域社会が抱える課題や、その背景、最終目標などについて資料等を、プロジェクター及び大型モニターに提示しながら、解説する。その後、ディスカッションなどを行いながら課題解決に向け、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、分析、制作、発表、自己評価・改善といったＰＤＣＡサイクルを軸とした一連の工程を行う。担当教員は、都度アドバイスやフィードバックを行い、プロジェクトが円滑に進むようサポートする。

円滑なコミュニケーションが図れるよう、次の学習支援を実施する。
・授業時間外において質問及び相談があれば、Ｔｅａｍｓチャットまたは音声通話にて受け付ける。
・提示した教材は、全てＴｅａｍｓにて公開・配信する。
・一連の活動において、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

≪受講条件あり≫
・本科目は「情報基礎演習Ⅰ」「データサイエンス基礎」で習得した知識を踏まえた高度な技術と、データサイエンスに関して高い関心を持ち主体的な取り組みが必要であることから、成績評価が「情報基礎演習Ⅰ」は「Ｓ（秀）・Ａ（優）」かつ「データサイエンス基礎」は「Ｓ（秀）・Ａ（優）・Ｂ（良）」のいずれかであることを条件とする。
・本科目受講を希望する場合は、必ず第１回授業に出席すること。
・本科目はプロジェクト形式にて行うため、積極的に他の学生とのコミュニケーションを図ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・評価については、プロジェクトでの取り組みの姿勢や態度、貢献度を重視する。
・取り組みの中で「失敗した」としても減点しない。あくまでも、「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	１００%	0%	０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を利活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を適切かつ工夫を講じて独自の視点で利活用でき、他の学生にその方法を共有できた。	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を適切に利活用でき、他の学生にその方法を共有できた。	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を適切に利活用できた。	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を利活用できた。	数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を利活用できなかった。
地域社会への関心・課題への主体的な取り組み	地域社会に非常に高い関心を持ち、リーダーシップを発揮して、課題に主体的に最後まで取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に高い関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持てず、課題に主体的に取り組むことができなかった。
課題解決のために考え抜く姿勢	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、考え抜くことができた。	課題解決に向け、考え抜くことができた。	途中で考えることを諦めてしまった。
柔軟な視点と発信力	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信でき、活発なディスカッションにできた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚できず、意見を発信できなかった。
プロジェクト活動への理解とスキルの習得	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。また、そのスキルを他の学生に共有できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、必要なスキルを概ね習得できた。	プロジェクトとは何かを理解し、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができた。	プロジェクトとは何かを理解できず、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ （科目ナンバリング：STS062075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）・近澤　潤（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	2号館7階または１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。または、事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教養としてのデータサイエンス』	北川 源四郎・竹村 彰通	講談社	２０２１	9784065238097	
2	『データサイエンスの基礎』	濵田 悦生	講談社	２０１９	9784065170007	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［オリエンテーション］ シラバス（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）・授業改善アンケート結果反映の説明、本科目の受講条件の確認。	シラバスを読む（９０分）	プロジェクトについて調べる（９０分）
2	［プロジェクトマネジメント入門］ プロジェクトとは何か、求められるスキルと姿勢について解説する。	プロジェクトの進め方について調べる（９０分）	メモ・ノートを整理する（９０分）
3	［プロジェクトテーマの説明］ 地域社会の課題について説明する。その後、理解を深めるためにディスカッションを行う。	北広島市について調べる（９０分）	説明の内容について理解できなかった点について調べる（９０分）
4	［リサーチ・データ分析］ 課題解決に向けて、情報収集（文献検索･データベース活用法等）を行い、データを分析する。	前回のディスカッションの内容を復習する（９０分）	データの分析結果の改善点を見つける（９０分）
5	［企画立案］ 課題解決に向けて、データ分析の結果をもとに企画を立案し、提案に向けて準備を行う。	データ分析結果を復習する（９０分）	文書作成・プレゼンテーションについて復習する（９０分）
6	［提案練習］ プレゼンテーション資料を作成し、教員に対して提案の練習をする。	プレゼンテーションのコツについて復習する（９０分）	自分の役割を全うできるよう練習する（９０分）
7	［提案］ 教員に対してプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。	自分の役割を全うできるよう練習する（９０分）	教員からのフィードバックを整理する（９０分）
8	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	教員からのフィードバックを整理する（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
9	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
10	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
11	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
12	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
13	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
14	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
15	［取り組みの自己評価・まとめ］ 自分たちの取り組みについて、教員からの評価や反省点をまとめる。	実行した結果についてまとめる（９０分）	反省点をどのように改善したらよいかを考えまとめる（９０分）
16	［講評・まとめ］ 教員より講評を行う 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートを実施する	自己評価について確認する（９０分）	講評の内容について、今後活用できるかたちに整理する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（Ｍ） （科目ナンバリング：ENL042032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室等で対応。研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を復習し、コミュニケーション能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身につける。

授業全体の内容と概要

目次に書かれている文法事項にそって学習し、英語の基礎を身に付ける。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とし、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意し、予習をしてくること。前期開講「英語入門Ⅰ」からの継続のため、「英語入門Ⅰ」を履修済みであること。教科書も同じものを使用する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０％	０％	０％	４０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業（語彙・文法・音声変化）の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすると訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文翻訳）の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（Ｍ） （科目ナンバリング：ENL042032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室等で対応。研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法授業ノート』	北村　孝一郎	神田外語大学出版局	2021	978-4-8315-3011-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 形容詞　①	テキストp.74～75 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
2	形容詞　②　③	テキストp.76～79 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
3	副詞　①　②	テキストp.80～83 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
4	副詞　③　④　⑤	テキストp.84～89 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
5	動詞　①　②	テキストp.90～93 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
6	受動態　①　②	テキストp.96～99 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
7	受動態　③	テキストp.100～101 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
8	復習 中間試験	テキストp.73～74 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
9	文型　①　②	テキストp.102～105 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
10	文型　③　④	テキストp.106～109 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
11	原形不定詞	テキストp.110～111 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
12	完了形　①　②	テキストp.112～115 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
13	完了形　③　④	テキストp.116～119 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
14	完了形　⑤　⑥	テキストp.120～123 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
15	期末試験レビュー	期末試験準備 （９０分）	期末試験準備 （９０分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	期末試験準備 （９０分）	期末試験内容復習 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（S） （科目ナンバリング：ENL042032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

受講者が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を習得する。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力が身に付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができている。
特に英文法の基礎的な知識が身に付いており、基礎的な読解力が身に付いている。

授業全体の内容と概要

この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。
毎回、英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。
授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答（フィードバック）を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、１）その回の説明、２）英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、３）その後に解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材（コピー）を配布、使用する。
解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。
授業の最後にまとめと質問の時間（フィードバック）を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	４０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほとんど解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題が大体解けた。	テキストの説明が大体理解されており、テキストの問題の主要な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されており、テキストの問題がいくらか解けた。	英文法の初歩が理解されていなかった。
英文読解・作文の能力	テキストの英文が完全に理解され、基本的な英文がしっかりと書けた。	テキストの英文がほぼ理解され、基本的な英文が書けた。	テキストの英文が大体わかり、単純な英文が書けた。	簡単な英文が大体わかり、単純な英文が大体書けた。	簡単な英文がわからず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解されており、応用的な展開ができた。	テキストの英会話文がほぼ理解され、応用ができた。	テキストの英会話文が大体わかり、若干の応用ができた。	簡単な英会話文が理解でき、少し応用できるた。	簡単な英会話文が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（S） （科目ナンバリング：ENL042032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照.。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『English Once More!』	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明，シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読む。（９０分）	Unit7の予習（９０分）
2	Unit7：名詞・冠詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit7の予習（９０分）	Unit7の復習（９０分）
3	Unit7：名詞・冠詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit7の予習（９０分）	Unit7の復習（９０分）
4	Unit8：代名詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit8の予習（９０分）	Unit8の復習（９０分）
5	Unit8：代名詞の使い方（2）　説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit8の予習（９０分）	Unit8の復習（９０分）
6	Unit9：形容詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit9の予習（９０分）	Unit9の復習（９０分）
7	Unit9：形容詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit9の予習（９０分）	Unit9の復習（９０分）
8	Unit10：副詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit10の予習（９０分）	Unit10の復習（９０分）
9	Unit10：副詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit10の予習（９０分）	Unit10の復習（９０分）
10	Unit11：比較の使い方（1）　説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit11の予習（９０分）	Unit11の復習（９０分）
11	Unit11：比較の使い方（2） 説明と練習。	Unit11の予習（９０分）	Unit11の復習（９０分）
12	Unit12：前置詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit12の予習（９０分）	Unit12の復習（９０分）
13	Unit12：前置詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit12の予習（９０分）	Unit12の復習（９０分）
14	Unit13：受動態の使い方 説明と練習。	Unit13の予習（９０分）	Unit13の復習（９０分）
15	Unit14：現在完了形の使い方 説明と練習。	Unit14の予習（９０分）	Unit14の復習（９０分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。この科目で身に付いた力の検証。フィードバック	Unit7から14を通読する（９０分）	Unit7から14を通読する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力・コミュニケーション力を養う。初年次教育科目として、大学での学修に必要なスチューデントスキルの基礎を培う。講義および演習（ペアワーク・グループワーク）を通して英語コミュニケーションを実践的に学び、主体的に学ぶ力や協働する力などのスタディスキルを身につける。あわせて、将来のキャリア形成や継続教育に役立つ語彙・表現を修得し、論理的に発信するアカデミックスキルの基礎を養い、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP5に対応する。
建築学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

英会話への自信を裏付けるため、スピーキングおよびリスニング能力の向上を目的とする。相手と円滑かつ快適にコミュニケーションを図るための応答やリアクションなど、実践的なコミュニケーション技法を修得する。
ペアワークを中心とした活動を通して、パターンプラクティス等により定型表現を身につけ、実際の対話に活用できる力を養う。また、協働的に学ぶ態度や主体的に取り組む姿勢といったスチューデントスキルを培い、
反復練習や振り返りを通して学修方法を身につけるスタディスキルを強化する。さらに、論理的に考え適切に表現するアカデミックスキルの基礎を養い、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に　既存の英語知識を活用させ，スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し，表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	０%	４０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Project English』	Vivian Morooka	南雲堂	2023	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語で他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明、スチューデントスキル（主体的学習態度・時間管理）の重要性を理解する。	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Unit 6 when is your report due ? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
3	Unit 6 Cardinal and Ordinal Number Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
4	Unit 7 How was your weekend? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
5	Unit 7 Past Tense Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
6	Unit 8 What time is your first class? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
7	Unit 8 Time Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
8	Unit 9 Have you ever been to Kyoto? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
9	Unit 9 Present Perfect Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
10	Unit 10 Can I ask you a favor? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
11	Unit 10 Auxiliary Verbs Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
12	Unit 11 I'm going to visit my grandparents. Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
13	Unit 11 Future Tense Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
14	Unit 12 I'm on the train Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。　（４５分）
15	Unit 12 Prepositions Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
16	Final Exan.　試験終了後，フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（４５分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅱ （科目ナンバリング：CHI051037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るよう会話能力を身に付ける。中検準4級程度のレベルに到達することを目指す。
（中国語検定試験（「中検」）は，主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。
「中検」は，中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。
「HSK」は，中国語による設問に中国語で答えることを求め，中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。
したがって，中検は日本の企業での活躍を目指す方，HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。）

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

中国語を通して、中国の文化を理解し日中友好に寄与することができる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」、「基本文法」、「会話文」、「入れ替え練習と応用」、「新出単語」、「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。中国語の学習を通して、中国の文化や歴史等も理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「中国語入門Ⅰ」の単位を修得済みであることが履修条件となります。
・履修者の上限は30名とします。（履修登録人数が定員を超えた場合、「中国語入門Ⅰ」の成績順で履修資格を付与します。）
・本科目では会話を特に重視します。聞き取った中国語を中国語で理解し、即座に反応して中国語で答えられる能力を身につけるよう努力してください。
・ペア練習やグループワークを多く取り入れます。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は11回以上
課題を期限内に提出すること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字語彙・文法・読解等）	期末テストで９割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで８割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで７割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで６割以上、語彙・文法の誤りが若干あって理解できていない部分があった。	期末テストで６割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（聴解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ボーッとしている・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅱ （科目ナンバリング：CHI051037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義ガイダンス：今学期の目標、「中国語入門Ⅰ」の復習（ピンイン、基本あいさつ等） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容確認（４５分）	教科書の確認（４５分）
2	第１課 基本文法の復習、指示代名詞「これ」「あれ」	教科書P58～P59の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
3	第２課 文法：動詞述語文、構造助詞「的」、時間詞	教科書P60～P63/P74～P75の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
4	第３課 文法：形容詞述語文	教科書P64～P65の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
5	第４課 文法：所有・所在・存在表現	教科書P66～P69の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
6	第５課 文法：疑問文（「なに」「どこ」）	教科書P70～P73の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
7	第６課 文法：願望の助動詞（～したい）	教科書P78～P79の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
8	第７課 文法：必要・義務の助動詞（しなければならない）	教科書P80～P79の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
9	第８課 文法：可能の助動詞（できる）	教科書P82～P85の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
10	第９課 文法：好きなことを言う時の表現	教科書P86～P87の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
11	第１０課 文法：人を何かを「授ける、もらう」時の表現	教科書P88～P89の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
12	第１１課 文法：現在進行形（～している）	教科書P92～P93の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
13	第１２課 文法：過去形（～しました）	教科書P98～P99の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
14	第１３課 文法：様態補語（動作の様子や評価を述べる）	教科書P94～P95の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
15	第１４課 文法：丁寧な依頼（どうぞ～してください）	教科書P96～P97の予習（４５分）	授業内容の復習・練習（４５分）
16	期末テスト 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	テスト勉強（４５分）	テストへの反省など（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会ｼｽﾃﾑ （科目ナンバリング：SOC111005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業のねらい（目標）は、社会学の概念を使い、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会、社会問題の理解を学修する。
授業内容は、つぎの５つの項目を扱うことなる。
①社会学の視点、②社会構造と変動、③市民社会と公共性、④生活と人生、⑤自己と他者。本科目では、社会学の学術概念を使い、社会的事象の課題について説明記述ができること。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

①社会学の基本になる学術用語の説明ができる、②社会学応用領域における社会問題について、社会学の学術概念、理論と社会統計を用いて、課題を把握し考察ができる。
下記のルーブリック、到達目標は、合格最低レベル（C）であるので、上位段階の履修目標になるよう、ベストを尽くすこと。成績は、履修状況により相対性と絶対性が勘案されるので留意する。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会学の扱う対象は広いといえるが、本授業では現代社会論、家族、地域社会の領域に関する基礎的学修する。社会学の学術用語、基礎的理論を確認し、社会的事象の理解を深めていく。

授業の方法

授業の方法は、講義法、ＰＢＬ、ワークシート作成、学術論文読解により実施する。
授業計画と学習内容の講義は、シラバス準拠法であり、テキストの目次順にすすめる教科書準拠法を採用していない。
ＰＢＬ（問題基盤型学習）の第８回と第１５回は、社会福祉士、公務員採用試験の過去問題の解題作業、知識の外化作業をおこなう。
映像像科視聴は、学術概念を使い説明記述するワークシート作成がある。
課題提出後の授業にて模範回答例を紹介、フィードバックをおこなう機会がある。
配布資料は欠落することのないようにファイリングする。ノートは、授業の再現ができるよう、取材メモとして作成する。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネルを利用する。授業資料のファイルボックス、関連サイト紹介など、コースパケット学修利用をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
質問相談は、随時、対応するので、授業中、研究室来室など、気軽に相談してほしい。学生から教員へのチャット、メール等連絡は、教員が他の授業、面談などでは対応がむずかしい。学校事務扱い時間を確かめ、夜間、休日の連絡は緊急をのぞき、学校登校日に相談してほしい。
社会福祉士新カリキュラム対応テキスト準拠型授業（テキスト目次記載順）とシラバス準拠型授業（シラバス授業計画）を併用し学習する。
学習は、高校の学修スキルが基礎になるが、高等教育であるから広く深く学ぶこと、学術の多面的理解が重要である。
飯間浩明氏（国語辞書編集者）資料参照。https://twitter.com/IIMA_Hiroaki/status/586525324088774657　（2026.02.25確認）

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格課程科目、教職課程（社会・公民）選択科目、保育士養成課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要である。
各授業の作業課題を提出することは基本要件になる。
授業1-7、授業9-14の学習理解を確認するために、小作業①（授業8）、小作業②（授業15）を実施する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、いくつかの例をあげて、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶ学術用語について、例証はなく、充分ではないが、自分の言葉で説明をこころみていた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業は難しかった。新しく学ぶ学術用語について、説明することはまったくできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけながら、論理的に社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら、社会的事象の分析表現ができた。	文献資料を選び、信頼性について改善の余地はあるが、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、充分ではないが、社会的事象の分析表現を試みることができた。	文献資料を選び、引用することについて、信頼性の確保が難しかった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析がまったくできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、本人が理解して行動することは難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会ｼｽﾃﾑ （科目ナンバリング：SOC111005　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会学と社会システム 』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１	9784805882337	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『エッセンシャル社会学事典』	日本社会学会	丸善出版	２０２５	9784621311868	
2	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	２０１９	9784833423113	
3	『社会福祉士養成課程のカリキュラム社会学と社会システム教育に含むべき事項（内容）　』	厚生労働省　福祉人材確保対策室		２０２０		https://www.mhlw.go.
4	『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　社会学分野』	日本学術会議		２０１４		http://210.149.141.38
5	『社会学の力　改訂版』	友枝敏雄ほか	有斐閣	２０２３	9784641174818	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （授業改善アンケート結果反映の説明、シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明） 授業と授業外学習ノートつくり、テキスト、そのほかの教材（プリント、図書情報館蔵書の専門辞書、辞典、学術参考書、関係す	シラバスをあらかじめ確認する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	社会学の考え方－１(社会化、社会的地位、役割)	テキスト1章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
3	社会学の考え方－２(重要な他者、属性主義、業績主義)	テキスト1章「学習のヒント」を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
4	家族社会－１（家族類型、家族機能）	テキスト２章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
5	家族社会－２（家族形態、親族関係）	テキスト３章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
6	社会学の基本的概念、家族社会のまとめ	テキスト４章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。(９０分)
7	現代社会の捉え方（ライフコース、ジェンダー、性別役割規範、社会文化的性差）	テキスト４章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	小作業①（学習理解の確認作業、ＰＢＬ）	授業１－７の学習内容をふりかえり整理する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	地域社会－１（都市化、都市的生活様式、過疎化）	テキスト１０章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
10	地域社会－２（第一次的関係、パーソナル・ネットワーク、地域社会の人口変動）	テキスト１０章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
11	少子化と高齢化―１（人口転換、出生力、死亡力）	テキスト１１章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
12	少子化と高齢化―２（人口の地域間移動）	テキスト１１章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
13	人口問題（人口問題のまとめ）+自我の社会学	テキス１２章+関連資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
14	学術論文読解（三色線引き読み、応用社会学）	三色線引き読み資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
15	小作業②（学習理解の確認作業、ＰＢＬ）	授業９－１４回学習のふりかえり整理する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。(９０分)
16	本科目のまとめ （授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明、授業改善アンケート実施）	全授業のまとめを準備する。（９０分）	全体のふりかえりを行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝII （D-M） （科目ナンバリング：AEA211007 ）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　真紀		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本　真紀 ）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員がその経験を基に指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

・前期で学んだ基礎的なデッサンスキル（形態・光と影・質感）を活かし、応用力を養いながら、実践的なデッサン技術を習得することを目指す。
・石膏像・静物構成・細密描写・人物デッサン・クロッキーを取り入れ、現場で即戦力となる表現力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

・構図を意識しながら、複雑な静物や人物を描く力を養う。
・質感（ガラス・金属・布・肌・水など）を描き分ける技術を習得する。
・遠近法や光の影響を深く理解し、空間の奥行きを表現できるようになる。
・短時間のクロッキーを通じて、素早く対象を捉える観察力を高める。
・デザイン・イラスト・建築・映像などの実務に活かせるスキルを習得する。
・作品としての完成度を高め、ポートフォリオ制作などに活かす。

授業全体の内容と概要

・授業は2コマ連続で行い、石膏デッサン・静物構成・細密画・人物デッサンなどの課題にじっくり取り組む。
・クロッキーを挟みながら、短時間での観察力向上も図る。
・構成力・遠近感・空間表現・質感の描き分けを重点的に学び、最終的にポートフォリオなどにも活かせる完成度の高い作品を制作する。

授業の方法

対面で行う

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・課題を提出すること。
・教室マナーとして、お互いの集中を妨げないよう制作すること。後片付けを徹底すること。
・不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２６回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術・表現力	形の正確さ、遠近感、質感の描き分けが優れ、豊かな表現力がある。	基礎技術が安定し、バランスの取れたデッサンができる。	基本を理解し、安定した表現ができるようになっている。	表現の幅が広がりつつあり、今後の成長が期待できる。	基礎を学ぶ段階。
成長度・創造力	作品の質が向上し、独自の発想や表現力が際立っている。	技術が向上し、表現の幅が広がっている。	安定した成長が見られ、前向きに取り組んでいる。	自分なりの表現を模索し、着実に前進している。	学びの基盤を築いている最中で、新しい挑戦が期待される。
実践力・課題遂行能力	課題の仕上がりが高水準で、実践的なスキルが身についている。	課題をしっかり仕上げ、スピードとクオリティの両立ができている。	課題を計画的にこなし、一定の完成度を保っている。	時間をかけながらも、着実に課題に取り組んでいる。	自分なりの取り組み方を見つけ、習慣化に挑戦している。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅡ（D-M） （科目ナンバリング：AEA211007　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　真紀		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　真紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員がその経験を基に指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」観察力、構成力、空間の把握、質感などの表現力に加え、対応し実践する力を養う。単なる描画技術だけでない自身の表現の土台を築く。	シラバスの確認（45分）	情報の整理（45分）
2	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 普段から物をよく観察するようにする（45分）	課題の制作（45分）
3	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
4	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
5	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
6	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
7	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
8	講評　全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）
9	細密画① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 シラバスの確認（45分）	課題の制作（45分）
10	細密画② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
11	細密画③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
12	細密画④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
13	細密画⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
14	細密画⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
15	細密画⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
16	講評　全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	クロッキー①（人体） 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	動きのあるポーズの特徴を観察する（45分）	課題の制作（45分）
18	クロッキー②（人体） 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
19	人物デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
20	人物デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
21	人物デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
22	人物デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
23	クロッキー①(手) 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
24	クロッキー②(手) 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
25	人物（自画像）デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 シラバスの確認（45分）	課題の制作（45分）
26	人物（自画像）デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
27	人物（自画像）デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
28	人物（自画像）デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
29	人物（自画像）デッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
30	人物（自画像）デッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
31	人物（自画像）デッサン⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
32	講評　全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝII （D-W） （科目ナンバリング：AEA211007 ）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　真紀		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本　真紀 ）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員がその経験を基に指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

・前期で学んだ基礎的なデッサンスキル（形態・光と影・質感）を活かし、応用力を養いながら、実践的なデッサン技術を習得することを目指す。
・石膏像・静物構成・細密描写・人物デッサン・クロッキーを取り入れ、現場で即戦力となる表現力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

・構図を意識しながら、複雑な静物や人物を描く力を養う。
・質感（ガラス・金属・布・肌・水など）を描き分ける技術を習得する。
・遠近法や光の影響を深く理解し、空間の奥行きを表現できるようになる。
・短時間のクロッキーを通じて、素早く対象を捉える観察力を高める。
・デザイン・イラスト・建築・映像などの実務に活かせるスキルを習得する。
・作品としての完成度を高め、ポートフォリオ制作などに活かす。

授業全体の内容と概要

・授業は2コマ連続で行い、石膏デッサン・静物構成・細密画・人物デッサンなどの課題にじっくり取り組む。
・クロッキーを挟みながら、短時間での観察力向上も図る。
・構成力・遠近感・空間表現・質感の描き分けを重点的に学び、最終的にポートフォリオなどにも活かせる完成度の高い作品を制作する。

授業の方法

対面で行う

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・課題を提出すること
・教室マナーとして、お互いの集中を妨げないよう制作すること。後片付けを徹底すること。
・不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２６回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術・表現力	形の正確さ、遠近感、質感の描き分けが優れ、豊かな表現力がある。	基礎技術が安定し、バランスの取れたデッサンができる。	基本を理解し、安定した表現ができるようになっている。	表現の幅が広がりつつあり、今後の成長が期待できる。	基礎を学ぶ段階。
成長度・創造力	作品の質が向上し、独自の発想や表現力が際立っている。	技術が向上し、表現の幅が広がっている。	安定した成長が見られ、前向きに取り組んでいる。	自分なりの表現を模索し、着実に前進している。	学びの基盤を築いている最中で、新しい挑戦が期待される。
実践力・課題遂行能力	課題の仕上がりが高水準で、実践的なスキルが身についている。	課題をしっかり仕上げ、スピードとクオリティの両立ができている。	課題を計画的にこなし、一定の完成度を保っている。	時間をかけながらも、着実に課題に取り組んでいる。	自分なりの取り組み方を見つけ、習慣化に挑戦している。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅡ（D-W） （科目ナンバリング：AEA211007　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　真紀		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　真紀　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員がその経験を基に指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」観察力、構成力、空間の把握、質感などの表現力に加え、対応し実践する力を養う。単なる描画技術だけでない自身の表現の土台を築く。	シラバスの確認（45分）	情報の整理（45分）
2	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 普段から物をよく観察するようにする（45分）	課題の制作（45分）
3	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
4	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
5	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
6	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
7	石膏像と複数の素材を組み合わせたデッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
8	講評　全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）
9	細密画① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 シラバスの確認（45分）	課題の制作（45分）
10	細密画② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
11	細密画③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
12	細密画④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
13	細密画⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
14	細密画⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
15	細密画⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
16	講評　全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	クロッキー①（人体） 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	動きのあるポーズの特徴を観察する（45分）	課題の制作（45分）
18	クロッキー②（人体） 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
19	人物デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
20	人物デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
21	人物デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
22	人物デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
23	クロッキー①(手) 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
24	クロッキー②(手) 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
25	人物（自画像）デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 シラバスの確認（45分）	課題の制作（45分）
26	人物（自画像）デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
27	人物（自画像）デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
28	人物（自画像）デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
29	人物（自画像）デッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
30	人物（自画像）デッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
31	人物（自画像）デッサン⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
32	講評　全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築構造力学Ⅱ （科目ナンバリング：BSM312013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	齊藤　透（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　齊藤　透　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	構造設計一級建築士として建設会社の管理建築士に従事した実務経験をもとに講義を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

建築構造力学Ⅰの内容を基礎にして、静定トラス・断面の力学特性・応力度・ひずみ度・部材の設計など項目について特徴や解法を学習する。
物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し，それらを応用する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP１、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージすることができる。弾性状態における応力とひずみの関係を説明することができ計算できる。
断面の力学特性を理解し、断面諸量を計算できる。
建築施工管理技士及び建築士程度の問題が解けるようになる。

授業全体の内容と概要

静定力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形などである。
静定トラスの軸力・部材断面の諸量・ひずみ度・応力度・などの事項について、演習問題を解きながら講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書及びパワーポイントにて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。
参考資料無しで演習を解けるように説明する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要である。
講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習（反復練習）が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は原則認めない。理由がある場合事前相談すること。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	２０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
静定トラス・断面諸量の知識	様々なトラスの解法（節点法・切断法）及び面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	様々なトラスの解法（節点法・切断法）及び面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法（節点法・切断法）及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	基本的なトラスの解法（節点法・切断法）及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法（節点法・切断法）及び断面諸量の計算ができなかった。
ひずみ度・応力度・部材設計	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算でき、他の人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができ、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	級建築士問題（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	級建築士問題（構造部門）を解答できた。	建築施工管理技士（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	建築施工管理技士（構造部門）を解答できた。	建築施工管理技士問題（構造部門）を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築構造力学Ⅱ （科目ナンバリング：BSM312013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	齊藤　透（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　齊藤　透　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	構造設計一級建築士として建設会社の管理建築士に従事した実務経験をもとに講義を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野　清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1			学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 静定トラス（1）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（９０分）	授業内容を整理して、演習問題を復習する（９０分）
2	静定トラス（2）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
3	静定トラス（3）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
4	静定トラス（4） 小テスト（1）・小テストの結果について授業内でコメントしてフィートバックする	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
5	断面の力学的特性（1）図心・断面１次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
6	断面の力学的特性（2）図心・断面１次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
7	断面の力学的特性（3）断面２次モーメント・断面係数	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
8	断面の力学的特性（4）断面２次モーメント・断面係数	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
9	断面の力学的特性（5）断面２次半径 小テスト（2）・小テストの結果について授業内でコメントしてフィートバックする	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
10	ひずみと応力度（1）軸応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
11	ひずみと応力度（2）曲げ応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
12	ひずみと応力度（3）せん断応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
13	ひずみと応力度（4）組合せ応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
14	座屈	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理する（９０分）	授業内容全体について資料を整理して確認する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラ	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	防災・治水プログラム （科目ナンバリング：NDD092058　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生は北広島市の地域防災を講義とフィールドワークから学びことにより，万が一，自然災害発生時に遭遇した際，状況をどのように判断し，どのような行動をとるべきか等の理解と認識を身につけ，日ごろの行動に反映させられるようになれる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自然災害の恐ろしさの理解と防災・治水に関する基礎的な知識を身につけ，万が一の自然災害発生時に自己判断で的確な行動がとれることを目指す。

授業全体の内容と概要

前半は講義と自然災害を想定したシミュレーションゲームを中心に進める。後半はFW（フィールドワーク）を中心に進める。FWは指定地点から指定避難所までの避難経路の踏破から，経路上の危険要因等の抽出等の記録をおこない，そのデータをもとに防災マップを作成する。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

前半は教室にてPPやシミュレーション用の教材を使用しての授業をおこない，後半は実際に指定した北広島市内を踏破（FW）し，観察調査をおこない，そこから得られた情報を防災マップとして作成，そして学習成果をプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に着席表を配布し氏名の記入をおこなう。したがって，着席表回収後の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の受講態度もチェックするので留意すること。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義，実技，FWなど多様な授業形態をとるので，原則毎回出席すること。ただし正当な理由がある場合に限り出席回数12回を認める。授業はもとより実技，FWには積極的に取り組む姿勢を求める。防災マップの評価と制作の態度等（課題作品），FWの参加（その他），FW等のレポート（レポート）で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	３0%	50%	0%	0%	２0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然災害という事象について客観的に理解することができる。	多様な自然災害の事象と発生する被害を客観的に理解できた。	多様な自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の概要を理解できた。	自然災害を理解できなかった。
自然災害が発生した状況を想定でき，その際にどのような行動が求められるかを判断できる。	多様な自然災害に対し，状況により求められる行動の多様性を判断できた。	多様な自然災害に対し，行動の多様性を理解できた。	自然災害の状況に対し求められる行動が理解できた。	自然災害の状況を理解できた。	求められる行動が判断できなかった。
FWから避難経路の問題点を明らかにし，研究成果として防災マップにまとめることができる。	避難経路に隠された問題点や避難に有効な要素を見つけ出し，防災マップにまとめることができた。	避難経路に隠された問題点を見つけ出し，防災マップにまとめることができた。	避難経路上の問題を防災マップにまとめることができた。	防災マップにまとめることができた。	成果をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラ	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	防災・治水プログラム （科目ナンバリング：NDD092058　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　授業計画，シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についてのい説明，防災の基礎知識について	シラバスの確認（45分）	授業計画の振り返り（45分）
2	北広島市の地域防災	配布資料の確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
3	DIG（Disaster Imagination Game）の取り組み	配布資料の確認（45分）	DIGの取り組みのレポート作成（45分）
4	北広島市庁舎の見学	配布資料の確認（45分）	見学レポート作成（45分）
5	DO HUG（Hinanjyo Unei Game 北海道版）の体験１	配布資料の確認（45分）	DO HUGの振り返り（45分）
6	DO HUG（Hinanjyo Unei Game 北海道版）の体験２	配布資料の確認（45分）	DO HUGのレポート作成（45分）
7	避難経路の検証（FW）の解説	配布資料の確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
8	避難経路の検証１（積雪なし）の場合	配布資料の確認（45分）	検証の振り返り（45分）
9	北広島市指定避難所の見学	配布資料の確認（45分）	避難所見学のレポート作成（45分）
10	避難経路の検証１（積雪なし）の資料・写真データの集約と整理	データの準備（45分）	データの再確認（45分）
11	避難経路の検証２（積雪あり）の場合	配布資料の確認（45分）	検証の振り返り（45分）
12	避難経路の検証２（積雪あり）の資料・写真データの集約と整理	データの準備（45分）	データの再確認（45分）
13	火災と救急救命について	配布資料の確認（45分）	講義のレポート作成（45分）
14	防災マップ制作１（積雪なし）	データの準備（45分）	作成データの再確認（45分）
15	防災マップ制作２（積雪あり）	データの準備（45分）	作成データの再確認（45分）
16	防災マップ提出，発表　講評会，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証，授業改善アンケートの実施	提出課題の確認（45分）	発表の振り返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　由水 伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ICTの専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ICTの理解に必要な知識と応用力養成に向けて演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。講義にあたっては、パソコンやモバイル端末などＩＣＴ機器の利用を前提としている。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。
最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。
原則としてＳ評価は全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んえいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：	由水 伸	）	CAP制 ○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本専門演習の学習上の注意点　授業改善アンケート結果反映の説明 専門演習ＩＩＡの内容確認	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	◇ DX - デジタル技術を通したビジネスと生活の変革 背景：DXにいたる道のり　情報通信技術の発展とインターネット 近未来社会とSociety5.0	DXに関する知識の再確認（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	◇ DXを支える技術 ICT、クラウド、AI、IoT、ビッグデータ、RPA、3Dプリント、XR	ICTに関する知識の再確認（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	◇ DXとクラウドコンピューティング 事例研究	クラウドコンピューティングに関する知識の再確認（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	◇ DXとAI 機械学習とディープラーニング　業務の自動化、意思決定 事例研究	AI利用の現状（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	◇ DXとビッグデータ データの収集・分析・活用 顧客の行動分析・市場調査・リスク管理と課題解決　事例研究	ビッグデータとは（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	◇ DXとIoT モノのインターネット、センサーと通信機能 事例研究	IoTに関する知識の再確認（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	◇ DXとRPA ロボティック・プロセス・オートメーション 事例研究	産業用ロボット（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	◇ DXと3Dプリンティング デジタルデータを基に立体物を作製 研究・開発の加速化、少量生産の低コスト化　事例研究	金型について（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	◇ DXとクロスリアリティ XRまたはxR VR、AR、MRの総称 現実世界と仮想世界を融合し体験を創造する技術　事例研究	仮想現実技術の利用状況（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	◇ DXとセキュリティ サイバー攻撃、情報漏洩 ケース別対応例、事例研究	直近の情報漏洩事件（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	◇ ビジネスとDX 生産・流通・販売・事務管理 事例研究	DXの各種事例調査（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	◇ 創作活動とDX 芸術・エンターテイメントでのDX 事例研究	AIの創作物の著作権（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	◇ 日常生活とDX 家庭や地域社会のDX 事例研究	日常生活のDX化の事例調査（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	◇ 各事例研究のまとめと発表 テーマ選択 プレゼンテーション資料の作成	取り組むテーマをいくつか選定（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	◇ まとめ（発表） グループで作成した資料を発表（プレゼンテーション） 討議 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	プレゼンテーション資料の完成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　各教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4．質の高い教育をみんなへ」の関連科目

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　各教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門演習Ⅰを通じて身につけた経済学的思考・研究方法や学問姿勢をもとにして、学生が主体的に課題を設定し、それを学問的に考察・解決する能力を身につける。また、その考察の結果を文章としてまとめる能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
課題解決にむけて他者と経済学的討議ができる。
課題解決のための考察の結果をレポート等の文書としてまとめる演習に取りくめる。

授業全体の内容と概要

日常生活の不思議・疑問から導かれる問題・課題の解決に経済学の視点・概念を活用して取り組む。その上で、その成果をレポート・論文としてまとめる過程について学び、実際にレポート・論文を作成する演習をおこなう。

授業の方法

専門演習Ⅰでの演習をもとに、身近な生活のなかから不思議・疑問を自ら探索し、そこから経済学的な問題・課題を教員と対話しながら抽出する。また、そのテーマについて、経済学の視点・概念の活用や他者とのディスカッションやグループワークを通じて考察する。その上で、その考察成果をレポート・論文としてまとめる過程を演習する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１０％	０％	９０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済学的考察による課題解決への取組み	課題の解決案に経済学の考え方を具体的に活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方を活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方をある程度活用できた。	課題解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめた。	課題解決にむけて経済学の考え方を活用できなかった。
考察での他者の意見の活用	課題に関する積極的な討議や詳細の資料解釈を行い、考察に活用できた。	課題に関する討議や資料の解釈を行い、自分なりに考察できた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、ある程度考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料を考察の参考にできなかった。
考察結果のまとめと報告	考察の結果を論理的に展開して文書にまとめることができた。	考察の結果を整理して文書として自分なりにまとめることができた。	考察の結果を整理して文書としてある程度自分なりにまとめることができた。	考察の結果をある程度文書としてまとめることができた。	考察結果を文書にまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（４５分）	シラバス等の確認とまとめ（４５分）
2	課題（テーマ）の探索１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
3	課題（テーマ）の探索２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
4	課題（テーマ）の探索３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
5	問題と仮説をたてる１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
6	問題と仮説をたてる２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
7	問題と仮説をたてる３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
8	資料の収集と分析１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
9	資料の収集と分析２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
10	資料の収集と分析３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
11	考察と仮説の見直し１	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
12	考察と仮説の見直し２	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
13	考察と仮説の見直し３	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
15	演習課題の講評・解説	これまでの演習課題等を再確認（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
16	後期学生生活・修学の振り返り 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	半期の学生生活について振り返る（４５分）	演習ノートの整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・名誉教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。基本的に専門演習ＩＩＡの内容を継続する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・名誉教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	授業⑨ SPI性格検査実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。
法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「ＳＤＧ８.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。
※不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※補講はオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・演習科目なので、積極的な出席が必要
・私語などの迷惑行為は厳禁
・講義中スマホの操作は厳禁

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	３０％	０％	７０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 個別面談・履修登録チェック 「授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
2	株式会社の経営体制－骨格と役割（１）コンプライアンス　事例研究　ハラスメント 卒業論文要領確認（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
3	株式会社の経営体制－骨格と役割（２）コンプライアンス　事例研究　企業犯罪 卒業論文要領確認（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
4	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）コンプライアンス　事例研究　企業犯罪 卒業論文作成（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
5	株式会社の経営体制－骨格と役割（４）コンプライアンス　事例研究　情報流出 卒業論文作成（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
6	株株式会社の経営体制－骨格と役割（５）コンプライアンス　事例研究　情報流出 卒業論文作成（３）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
7	株式会社の経営体制－責任（１）コンプライアンス　事例研究　企業犯罪 卒業論文中間発表会（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
8	株式会社の経営体制－責任（２）コンプライアンス　事例研究　企業犯罪 卒業論文中間発表会（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
9	株式会社の経営体制－責任（３）コンプライアンス　事例研究　情報流出 卒業論文中間発表講評会	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
10	株式会社の経営体制－責任（４）コンプライアンス　事例研究　情報流出 卒業論文作成（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
11	株式会社の経営体制－責任（５）コンプライアンス　事例研究 卒業論文作成（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
12	株式会社の経営体制－責任（６）コンプライアンス　事例研究 卒業論文作成（３）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
13	株式会社の経営体制－責任（７）コンプライアンス　事例研究 卒業論文作成（４）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
14	株式会社の経営体制－責任（８）コンプライアンス　事例研究 卒業論文発表会（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
15	個別面談・履修登録チェック 株式会社の経営体制－責任（９）コンプライアンス　事例研究 卒業論文発表会（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
16	個別面談・履修登録チェック 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	前期全体の振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。科目を修了して、社会人基礎力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩＩｂは、専門演習ＩＩａと同じ手法で進めるが、専門演習ＩＩａでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワークで地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバックを行う。科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を身につける。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　天野　雅斗　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について。授業改善アンケートの実施。 授業最終回において講評をし，フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
・新たな指導法を確立する。
陸上競技の知識と技能を身につけ指導力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

トレーニング内容を分析してワード・エクセル等で処理する。
トレーニング内容を検証してデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・トレーニング内容の検証
・レース内容の分析　　SDG4 質の高い教育目標　科学的トレーニングの導入
・簡単な動作分析　など
陸上競技の知識と技能と指導力する力を身につける

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め，トレーニングを組み実践する。
各自のトレーニング経過をゼミで発表し，意見交換を行い今後のレースに向けて検証していく。
なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自の状態によってトレーニング内容を変更して，日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニング・レースなどから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。
陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	おおむねに陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解できていない力所がある	全くに陸上競技の知識と技能を身につけて理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス （45分）	学習内容の説明（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング⑤	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング⑥	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施 身に付ける事ができたかどうかフィードバックして検証	パワーポイントでの作成 （45分）	学習内容の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。
・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

データ分析，パワーポイント，ワードでのまとめ方を覚える．
統計処理まで行い，より詳しい分析方法やデータ処理を身につける．

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・ゲーム分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
・途中経過をパワーポイントで発表し，意見交換を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	２５％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	論文発表①	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	論文発表②	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	論文発表③	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	論文発表④	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	プレ測定①	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	プレ測定②	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	プレ測定③	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	プレ測定④	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	プレ測定⑤	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	プレ測定⑥	論文読解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１1回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む）、科目を修了して「身に付く力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業２ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業３ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４ 専門ゼミ発表①　講評・フィードバック	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 専門ゼミ発表②　演習の講評・フィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

こども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べ、卒業論文執筆に専念する。
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５、ＤＰ６、ＤＰ７、ＤＰ９に対応する。

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・（専門演習ＩＩＡから継続）。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・ゼミ生で企画立案、実践、事後評価の流れを踏襲した地域活動への参加を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見収集（前年度の評価反省を活かす）	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	希望テーマに沿った発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	希望テーマに沿った発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	希望テーマに沿った発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	希望テーマに沿った発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	希望テーマに沿った発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括としての評価・ディスカッション、課題へのフィードバック 実施（「身に付く力」の検証）	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。
②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。
③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。
④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①自身の研究テーマに沿い、卒業論文作成を目指す。
②就職活動に向けての取組みを目指す。
③資格取得に向けた知識を習得する。
④卒業までに必要な準備を計画立てて行う。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　西野　克俊　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	就職活動・研究テーマ深化 『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	就職活動・研究テーマ深化 講義のフィードバック（科目を修了して『身に付く力』についての検証）	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを獲得していく。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探求するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を学ぶ。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に着けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できる。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。
質問は各教員が随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆をスムーズに進捗できる。	卒業論文が完成できた。	卒業論文執筆の具体的計画を立てそれに沿って執筆が進んだ。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画どおり執筆が進められており、修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションにおいて、積極的に発表できる。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表でき、且つ、他者の発表に対して、的確な指摘と意見を言うことができた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できると同時に、他者の発表を尊重できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において的確な発表ができる。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表でき、尚且つ、他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、参考資料を挙げながら発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論についての発表ができた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	卒業論文発表会 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（４５分）	卒業論文全体の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論執筆（アカデミック･ライティング）をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

卒論執筆、完成する。
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

専門演習では、アカデミック・シンキングを学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
次の①から④について段階的理解をすすめる。
①学術論文のスタイルを確認する。
　（書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ）
②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて
　図書情報館レファレンスサービスをうけ取寄せる。
③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
　社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
　（定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける ）

授業の方法

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
社会福祉学科Teams「２０２５年度　専門演習Ⅰ履修方法」には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」（PDF）がある。
アカデミック・シンキング基本文献は、該当学年のゼミメンバーによる初回演習にて選書、決定している。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
◯	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、コースパケット利用が可能になる。
コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料、以下のものをまとめたものである。
　準備学習に必要となる教材（論文コピー、報告書など）、課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料）、
　授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報・授業者への相談質問のための案内

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートをすすめる。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、全授業１６回の３分の２以上、１１回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べており、多様な見解を整理した。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理した。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集したが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼確認の理解が十分ではなかった。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成であった。学術論文の引用が明確に示された。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出した。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえるものであった。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれた。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられたが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心･意欲･態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解して、他のメンバーに配慮する行動をおこうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						研究主題にもとづく学術文献、先行研究
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第３版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０１９		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	アカデミック・ライティング1（シラバスの説明、演習ガイダンス、本科目を修了して「身に付く力」を説明）	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック･ライティング２（学術文献の選定）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
3	アカデミック･ライティング３（学術文献の読解）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
4	アカデミック･ライティング４（学術文献の読解）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
5	アカデミック･ライティング５（学術文献の読解）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト資料の整理（４５分）
6	アカデミック･ライティング６（先行研究の整理）	文献資料の読解（４５分）	文献資料の整理（４５分）
7	アカデミック･ライティング７（先行研究の整理）	文献資料の読解（４５分）	文献資料の整理（４５分）
8	アカデミック･ライティング８（研究主題の確定）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
9	アカデミック･ライティング９（研究主題の確定）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
10	アカデミック・ライティング１０（執筆原稿の添削、相談）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
11	アカデミック・ライティング１１（執筆原稿の添削、相談）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
12	アカデミック・ライティング１２執筆原稿の添削、相談）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
13	アカデミック・ライティング１３（執筆原稿の添削、相談）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
14	アカデミック・ライティング１４執筆原稿の添削、相談）	原稿の加筆（４５分）	原稿の修整（４５分）
15	アカデミック・ライティング１５（執筆原稿の添削、相談）	最終原稿の加筆（４５分）	最終原稿の校了（４５分）
16	まとめ（ゼミメンバー卒業論文の概括とフィードバック、「身に着く力」について検証説明、授業改善アンケートを実施）	ゼミ全体報告の準備（４５分）	ゼミ活動の整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５、ＤＰ６、ＤＰ７、ＤＰ９に対応する。

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習ＩＢ」に所属した教員が「専門演習ＩＩＡ」を担当する。
「専門演習ＩＩＡ」に所属した教員が後期の「専門演習ＩＩＢ」を担当する。
教員になることを目指し、特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日的な課題について、各自が関心をもっている者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	４０％	０％	５０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　堀川　厚志　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（活動の目的、方法、活動計画等） 前期の取組の振り返りと後期の活動計画の確認、科目を修了して「身に付く力」の説明	シラバスの確認 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
2	前期の取組の振り返りと後期の活動計画の確認 各自の追究する研究内容、活動計画等の確認１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
3	各自の追究する研究内容、活動計画等の確認２ 文献研究等による情報収集、内容整理	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
4	文献研究等による情報収集、内容整理と発表１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
5	文献研究等による情報収集、内容整理と発表２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
6	文献研究等による情報収集、内容整理と発表３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
7	文献研究等による情報収集、内容整理と発表４	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
8	前半の活動について講評し改善点についてフィードバックする 文献研究、収集情報の整理方法を再確認する	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
9	文献研究等による情報収集、内容整理と発表５	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
10	文献研究等による情報収集、内容整理と発表６	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
11	文献研究等による情報収集、内容整理と発表７	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
12	文献研究等による情報収集、内容整理と発表８	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
13	全体発表会のプレゼン資料の作成	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
14	全体発表会のプレゼン資料の作成	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
15	全体発表会での各自の研究内容の発表（プレゼン資料による発表）意見交流 全体の活動について講評し改善点等についてフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」の検証	発表の準備 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
16	全体発表会での各自の研究内容の発表（プレゼン資料による発表）意見交流 全体の活動について講評し改善点等についてフィードバックする	発表の準備 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ⅡＢ」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４ 専門ゼミ発表①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 専門ゼミ発表② 科目を修了して「身につける力」の検証 講評をし、フィードバックする	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて，社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には，社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル
（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，ＤＰ２，DP３，DP４，DP５に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル，グループ方式による作業方法，データの収集や分析・解釈，プレゼン能力の向上,論文作成など，一連の方法を身に着けることが基本となるが，さらに，下記のことについて達成できる。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので，講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など，様々な授業形態がとられる。
質問は各教員が随時対応し，レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し，意見交換，質問，教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い，主体的・積極的な参加に務めること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１１回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆をスムーズに進捗できる。	卒業論文が完成することができた。	卒業論文執筆の具体的計画を立てそれに沿って執筆が進んでいた。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画どおり執筆が進められており，修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションにおいて、積極的に発表できる。	研究テーマに関するディスカッションにおいて，自分の研究テーマについて，参考資料を明示しながら発表でき，且つ，他者の発表に対して，的確な指摘と意見を言うことができた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて，自分の研究テーマを発表できると同時に，他者の発表を尊重できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて，自分の研究テーマについて，参考資料を明示しながら発表できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて，自分の研究テーマを発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において的確な発表ができる。	卒業論文発表会において，自分の卒論について，テーマ，執筆動機，展望を明確な資料と同時に発表でき，尚且つ，他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において，自分の卒論について，テーマ，執筆動機，展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において，自分の卒論について，参考資料を挙げながら発表できた。	卒業論文発表会において，自分の卒論についての発表ができた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB （科目ナンバリング：SEM134148，SEM434089，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	卒論の進捗状況について、経過を発表する。講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	卒業論文全体の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

立体の作品制作を通じて、基本的な構成原理を理解し、様々な美術表現に必要な基礎的な造形力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方も学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。また自由制作では、作品プレゼンテーションも行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。
必要な材料、用具を事前に指示するので、各自忘れずに用意すること。
「立体構成Ⅰ」の展開講座のため、原則立体構成Ⅰを履修済みの者が対象。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（４０%）、ポートフォリオ点（３０%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０%）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。また遅刻３回で欠席1回と見做す。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形であった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また構成原理を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、立体として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「美の構成学　―バウハウスからフラクタルまで―」』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（４５分）
2	素材について	身近な素材について、考察してくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
3	素材研究１　線材１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
4	素材研究１　線材１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
5	素材研究２　線材２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
6	素材研究２　線材２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
7	素材研究３　線材３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
8	素材研究３　線材３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
9	素材研究４　面１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
10	素材研究４　面１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
11	素材研究５　塊１　彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
12	素材研究５　塊１　彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
13	素材研究６　塊２　塑像１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
14	素材研究６　塊２　塑像１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
15	素材研究７　塊３　塑像２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
16	素材研究７　塊３　塑像２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構成の応用１ （課題説明）	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
18	構成の応用１ （アイデア出し）	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
19	構成の応用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
20	構成の応用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
21	構成の応用３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
22	構成の応用３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
23	構成の応用４	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
24	構成の応用４	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
25	構成の応用５	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
26	構成の応用５	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
27	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
28	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
29	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
30	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
31	講評 授業全体への講評と提出されたポートフォリオへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
32	講評、授業改善アンケートの実施　科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅱ （科目ナンバリング：AEA221039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　正人　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

概要

履修目標

前期で学んだ画材の特性を活かして、更にイラスト表現の多様性を意識したイラスト制作を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

発想力，デザイン感性，積極的な探究心，研究心を養いクオリティの高い作品を制作できるようになる。

授業全体の内容と概要

各テーマを意識した制作意図，制作過程に沿ってイラスト表現の多様性を学ぶ。

授業の方法

各課題に合わせて様々なイラスト表現を研究して，イラストレーションの多様性を実習制作することを通て学ぶ。各課題ごとプレゼン実施，作品提出。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に開講する「イラストレーション基礎Ⅰ」の修得を前提とする。遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みになが らも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における画材の知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅱ （科目ナンバリング：AEA221039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マイワーク３１』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映。科目を修了して『身に付く力』についての説明。 イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・１	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・１	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・２	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
4	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・２	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
5	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・３	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
6	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・３	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
7	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
8	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
9	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
10	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
11	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペンティング手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
16	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペンティング手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
18	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
19	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・２。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）
20	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・２。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
21	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）
22	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
23	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・４。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
24	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・４。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
25	オリジナルイラストレーション制作・１ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
26	オリジナルイラストレーション制作・１ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
27	オリジナルイラストレーション制作・２ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
28	オリジナルイラストレーション制作・２ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
29	オリジナルイラストレーション制作・３ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
30	オリジナルイラストレーション制作・３ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
31	総合プレゼンテーション（各作品についてのプレゼン実施），作品講評，作品提出。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	総合プレゼンテーション（各作品についてのプレゼン実施），作品講評，作品提出。授業アンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業出版や展覧会経験を踏まえ、展示設計・見せ方・運用の観点から実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ＩＩAの制作を継続・集約し、最終審査に耐える完成度へ到達する。
提出物の整合・要点提示・審査対応力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

最終審査を見据え、不足点の洗い出しと優先度付けができる。
中間／最終フィードバックを受けて改善計画を即時に反映できる。
提出仕様（形式・サイズ・点数・データ）を満たし、記録を整えられる。
口頭・スライド・作品の三位一体の説明ができる。

授業全体の内容と概要

制作を継続しつつ、審査要件の充足と整合に比重を置く。
共有（講評）を複数回設け、最終審査の問いに耐える説明を鍛える。

授業の方法

個別相談＋共有（講評）中心。
資料はPowerPoint／Teamsで管理。
アナログ／デジタル双方に対応。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

提出仕様と締切を遵守すること。
記録・出力・著作権・安全への配慮を徹底すること。
機材・材料の手配は各自の責任で行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は８割以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性（計画・行動・記録・改善）	計画→実行→記録→改善のサイクルを自律的に回し、次の行動を自ら設定できる。制作記録が整理され、思考の変化や判断理由が明確である。	計画と実行を概ね自走できる。記録・振り返りも継続され、改善点の把握ができている。	計画や記録にムラがあるが、必要な場面では自分で行動できる。改善は部分的。	行動が受動的になりがちで、計画・記録が点在し、継続が不足している。改善が曖昧。	計画・実行・記録がほとんどできず、自律した学修・制作が成立していない。
協働性（共有・対話・反映）	共有の場で積極的に発言し、他者の示唆を自作に具体的に反映できる。対話の質が高く、ゼミ全体に良い影響を与える。	共有・対話に安定して参加し、要点を受け止めて反映できる。フィードバックの理解も適切。	参加はしているが発言・反映が部分的。関わり方にばらつきがある。	共有の場での発言が少なく、反映も限定的。対話が学修に十分つながっていない。	共有・協働への参加がほとんどなく、他者の意見を取り入れようとする姿勢が見られない。
表現力（意図の説明・作品の見せ方・整理力）	制作意図・背景・方法・結果を簡潔に整理し、言語・ビジュアルともに整合した説明ができる。他者に伝わり、議論を生むレベル。	言語とビジュアルの説明が概ね整理され、意図が明確に伝わる。説明に不足は軽微。	説明はできるが、整理が不十分で要点が散漫。意図や方法との整合に弱さがある。	説明が曖昧で、意図が十分に伝わらない。情報整理が弱く、まとめに難がある。	意図や内容を説明できず、作品との関係が不明瞭。伝達に大きな支障がある。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業出版や展覧会経験を踏まえ、展示設計・見せ方・運用の観点から実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業概要の説明 研究倫理とコンプライアンスの確認	シラバスを呼んでおくこと（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	中間発表のフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
3	中間発表のフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
4	中間発表のフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
5	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
6	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
7	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
8	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
9	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
10	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
11	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
12	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
13	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
14	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
15	報告	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
16	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
18	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
19	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
20	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
21	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
22	最終審査準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
23	最終審査準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
24	最終審査準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
25	最終審査準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
26	最終審査フィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
27	最終審査フィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
28	最終審査フィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
29	振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
30	振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	完成後の考察（４５分）
31	振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
32	講評、授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	X
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社＿デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プロダクトデザイナーに成る事

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2,DP3、DP4に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの本質を見極める力、問題点や改善点を探求する力、それらを見直して自らオリジナルの解答（デザイン）を創造できる力、自分のデザインを第三者に伝える力を身に着ける。

授業全体の内容と概要

現状の問題点摘出の為、マーケットリサーチを行い、気づき、切り口を持って、オリジナルのデザインを行う。それらを第三者に伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける。第三者からのフィードバックを受けて、更にデザイン改良を行う。
写真機材も使用して表現を拡げる。

授業の方法

各種マーカー、PMパッドA3,鉛筆、色鉛筆、サインペン、白鉛筆、PC（フォトショップ、イラストレーター）ICT利用。
写真機材

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の為の最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを充分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	X
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社　デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明 卒制の発表、市場調査	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。（45分）	市場調査を行う。（45分）
2	市場調査、まとめ	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
5	仮説が正しいか、まとめる	仮説をまとめる。（45分）	仮説をまとめる。（45分）
6	卒制発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。（45分）	第三者からの意見を考察する。（45分）
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。（45分）	アイデアを考察。（45分）
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
11	卒制デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
12	デザインプレゼンテーション１	アイデアを考察。（45分）	第三者からの意見を取り入れる。（45分）
13	デザインスケッチ、写真等使用して効果的に構成する。	第三者からの意見を取り入れる。（45分）	アイデアを考察。（45分）
14	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
15	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	まとめ（45分）	まとめ（45分）
16	デザインプレゼンテーション フィードバック、総評	まとめ（45分）	まとめと振り返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	最終卒制作成継続	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
18	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
19	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
20	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
21	卒制中間審査	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
22	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
23	アイデアスケッチ	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
24	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
25	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
26	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
27	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
28	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
29	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
30	プレゼンパネル作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
31	プレゼンパネル作成	まとめ（45分）	まとめ（45分）
32	プレゼンテーション 総評 業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	まとめ（45分）	まとめ（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査委員歴任		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

これまでに修得した技術や知識を礎に、各々の履修者の感性や思いを充分に作品に展開すること。また、将来を見据え美術文化の担い手として社会に貢献できる人材を育成すること。授業の展開の仕方は専門研究ⅡAと変わらないが、繰り返すことで習熟度を高めることを狙いとしている。専門研究ⅡBにおいて制作する作品は新たなものとする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

見る人に感動してもらえる表現力がより豊かな作品を創作できるようにすること。心豊かな社会を実現するために、充分な力量を備えた人となること。

授業全体の内容と概要

これまでに修得した技術や知識を礎に、それらをさらに探求すること。そして社会や人々に関心を寄せ、美術をとおしてできることについて考察し、表現力がより豊かな作品を創作できるようにすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドヴァイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上とするも、何より作者の思いが充分に反映された作品を創り上げること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	30%	70%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをよく意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをある程度に強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを、不充分ながらも意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを意図していない。
技法や材料について	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にほぼ的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にとは言い難いものの、自らの判断で選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を的確に選択して制作していない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等の造形要素を充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を充分にとは言い難いものの、捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査委員歴任		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション―授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をとおす。(45分)	これまでに修得した技法や材料に関する知識等を復習し、新作についての構想を練る。(45分)
2	エッグテンペラを主とした混合技法について1	様々なテンペラメディウムの処方について予習しておく。(45分)	様々なテンペラメディウムの処方の仕方とそれぞれの特長とについて復習する。(45分)
3	エッグテンペラを主とした混合技法について2	様々なテンペラメディウームの処方の仕方とそれぞれの特長とについて復習する。(45分)	本時での、メディウム製作実習について復習する。(45分)
4	ミルクカゼインによる支持体製作について1－カゼイン糊の処方について	カゼイン糊の処方について予習する。(45分)	膠とカゼインとの特長的な差異について復習する。(45分)
5	ミルクカゼインによる支持体製作について2ー木材の切断と組み立てについて1	木材の加工について、これまでの知識や経験について振り返る。(45分)	本時での製作を振り返って検討する。(45分)
6	ミルクカゼインによる支持体製作について3ー木材の切断と組み立てについて2	より良い木材加工の仕方等について検討する。(45分)	蓄積した知識や経験を増幅させられたかについて検討する。(45分)
7	ミルクカゼインによる支持体製作について4ー木材による基底材への布貼りについて1	様々な布の特長について予習する。(45分)	布の伸縮の度合いやカゼイン糊の固着力の差異等について復習する。(45分)
8	ミルクカゼインによる支持体製作について5ー木材による基底材への布貼りについて2	布貼りに必要な用材について予習する。(45分)	確かな布貼りの仕方について復習する。(45分)
9	ミルクカゼインによる支持体製作について6ー地塗りについて1	ミルクカゼインによる地塗り材の処方について予習する。(45分)	ミルクカゼインによる地塗り材の処方について復習する。(45分)
10	ミルクカゼインによる支持体製作について7ー地塗りについて2	地塗りの仕方について予習する。(45分)	地塗りの仕方について復習する。(45分)
11	ミルクカゼインによる支持体製作について8ー地塗りについて3	地塗り面の研磨の仕方について予習する。(45分)	地塗り面の研磨の仕方について復習する。45分)
12	新作の構想の取りまとめと下絵の制作について1	構想を取りまとめるための準備を行う。(45分)	他者の作例等を参照しより的確に構想を取りまとめる。(45分)
13	新作の構想の取りまとめと下絵の制作について2	下絵作成のために画像処理ソフト等も積極的に活用する。(45分)	改善すべき点の有無について検討する。(45分)
14	下絵の支持体パネルへの転写について	自らの表現にふさわしい転写の仕方を検討する。(45分)	エッグテンペラを主とした制作についての段取りを検討する。(45分)
15	エッグテンペラによる下描きについて1	自らが選択したテンペラメディウムの処方について予習する。(45分)	完成した段に効果を発揮させる下描きの仕方について検討する。(45分)
16	エッグテンペラによる下描きについて2	立体感や質感等を念頭に置いた下描きの仕方について検討する。(45分)	立体感や質感等を念頭に置いた下描きを行えたかについて検討する。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	エッグテンペラによる本描きについて1	エッグテンペラ用顔料の透明性と被覆力について予習する。(45分)	エッグテンペラ用顔料の透明性と被覆力を活かした制作についての段取りを検討する。(45分)
18	エッグテンペラによる本描きについて2	エッグテンペラ絵具の乾燥速度に対応した描写の仕方について予習する。(45分)	エッグテンペラ絵具の乾燥速度に対応した描写の仕方について復習し、実際に練習を行う。(45分)
19	エッグテンペラによる本描きについて3	より良いハッチングを行うために必要な事柄について、他者の見識等を収集する。(45分)	より良いハッチングを行うために、実際に繰り返し練習を行う。(45分)
20	エッグテンペラによる本描きについて4	ハッチング以外に、スパッタリング等、様々な技法について予習する。(45分)	ハッチング以外の、スパッタリング等、様々な技法について、繰り返し練習を行う。(45分)
21	中間発表会	これまでの制作を総合的に振り返り、課題となる点を探る。(45分)	本時の中間発表会で得た助言を適切に取捨選択し、これからの制作に活かす。45分)
22	エッグテンペラによる本描きについて5	かたちや色彩等について、前時の発表会での指摘も勘案し検討する。(45分)	仕上げに向けて、改善すべき点等について検討する。(45分)
23	エッグテンペラによる本描きについて6	絵具の乾きを確認し、ニス引きを行い色面を安定化させる仕方について予習する。(45分)	ニスの種類や特性について復習する。(45分)
24	エッグテンペラによる本描きについて7	仕上げに向けて、自作について改善すべき点について明らかにする。(45分)	少しでも進展が見られたか、そして残された課題は何かについて明らかにする。(45分)
25	エッグテンペラによる本描きについて8	仕上げに向けて、自作について改善すべき点について明らかにする。(45分)	少しでも進展が見られたか、そして残された課題は何かについて明らかにする。(45分)
26	エッグテンペラによる本描きについて9	教師や他の学生の助言を受けるために、予め迷っている点や困難に感じている点について検討する。(45分)	他者の助言も十分に勘案し、仕上げに向けての制作の段取りを検討する。(45分)
27	油彩による上描きについて1	油彩絵具の透明性と被覆力とについて復習する。(45分)	油彩絵具の透明性と被覆力とを勘案し、仕上げに向けての制作の段取りを検討する。(45分)
28	油彩による上描きについて2	油彩絵具の色合いや明度や彩度を勘案し、かたちや色彩を確かなものにするために、制作の段取りを検討する。(45分)	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて検討する。(45分)
29	油彩による上描きについて3	足りない点や欠けている点について検討する。(45分)	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて、さらに検討する。(45分)
30	油彩による上描きについて4	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて、細部にわたり検討する。(45分)	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて総合的に検討する。(45分)
31	仕上げ	自らの構想を実現できそうかについて検討する。(45分)	本制作を通して得られた点や獲得しきれなかった点について振り返る。(45分)
32	合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	教師や他の学生からどの点についてアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化させる。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて稼働する各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら実際の案件に携携わることができる能力を身に付け、それを具体化した作品を完成させる。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための研究活動と制作活動を行う。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
生成AIを有効活用し、作業の効率化を図るよう指導する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	作品の設計内容が不特定多数への情報伝達が行え、共感を得られるための工夫が成されており、それが成功している。	作品の設計内容が不特定多数への情報伝達が行え、共感を得られるための工夫が成されている。	作品の設計内容が不特定多数への情報伝達が行える内容を持っている。	作品の設計内容からの情報伝達が不完全である。	作品の設計内容から情報伝達は不可能である。
思考力・判断力・表現力「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	作品の設計内容が不特定多数の興味を引き、リアクションが求められるような演出や技術が用いられ、それが成功している。	作品の設計内容が不特定多数の興味を引き、リアクションが求められるような演出や技術が用いられている。	作品の設計内容が不特定多数の興味を引くよう、技術的な工夫がされている。	作品の設計内容が不特定多数の興味を引くほどの工夫がされていない。	作品の内容に不特定多数の興味を引く要素が無い。
主体性・多様性・協働性「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	展示や発表、さらには実用に際して、ユーザの特性を考えた制作がされており、成功している。	展示や発表、さらには実用に際して、ユーザの特性を考えた制作がされている。	実用に際して、ユーザの特性を考えた制作がされている。	実用に際して、ユーザの特性に対する考えが不十分である。	実用に際して、ユーザの特性が考えられていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	専門研究ⅡAの再確認。（４５分）
2	情報の視覚化① 効果的なプレゼンテーション	専門研究ⅡAの再確認。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
3	情報の視覚化② 効果的なメディアの使い方	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
4	情報の視覚化③ プレゼンテーションツールの設計技術	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
5	情報の視覚化④ プレゼンテーションツールの視覚効果	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	情報の視覚化⑤ プレゼンテーションツールの演出法	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
7	情報の視覚化⑥ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	情報の視覚化⑦ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	情報の視覚化⑧ プレゼンテーションツールの設計	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	情報の視覚化⑨ プレゼンテーションツールの設計	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	情報の視覚化⑩ 設計内容の確認と調整	授業内容の継続。（４５分）	制作環境の整備。（４５分）
12	情報の視覚化⑪ プレゼンテーションツールの制作	制作環境の整備。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	情報の視覚化⑫ プレゼンテーションツールの制作	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	情報の視覚化⑬ プレゼンテーションツールの制作	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	情報の視覚化⑭ プレゼンテーションツールの制作	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	情報の視覚化⑮ プレゼンテーションツールの制作（データ化）	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	情報の視覚化⑯ プレゼンテーションツールの制作（データ化）	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	情報の視覚化⑰ プレゼンテーションツールの制作（データ化）	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
19	情報の視覚化⑱ プレゼンテーションツールの制作（データ化）	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	情報の視覚化⑲ プレゼンテーションの実際～質疑応答	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
21	情報の視覚化⑳ プレゼンテーションの実際～質疑応答	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	情報の視覚化㉑ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
23	情報の視覚化㉒ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	情報の視覚化㉓ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
25	情報の視覚化㉔ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	情報の視覚化㉕ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
27	情報の視覚化㉖ プレゼンテーションツールの完成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	情報の視覚化㉗ プレゼンテーションツールの発表	プレゼン環境の整備。（４５分）	プレゼン内容の分析（４５分）
29	情報の視覚化㉘ プレゼンテーションツールの発表	プレゼン環境の整備。（４５分）	プレゼン内容の分析（４５分）
30	メディアデザインの有用性と将来の展望 現状の把握	全授業内容の整理。（４５分）	全授業内容の整理。（４５分）
31	メディアデザインの有用性と将来の展望 ５年後、１０年後の未来をシミュレーションする	全授業内容の整理。（４５分）	全授業内容の整理。（４５分）
32	専門研究ⅡA・B全内容のまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容の整理。（４５分）	全授業内容の整理。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
自律した制作活動を通じて、研究テーマについて考察する事が出来る。

授業全体の内容と概要
彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究２Bでも、進路も含め、生涯をかけて探求したい活動を見つける事が目標である。

授業の方法
学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
研究ノートを提出する事。
作品を１点以上完成させる事。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を２つ、または１つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週２回（８時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週１回（４時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスをよく読んでおく事（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
2	活動計画	チュートリアル準備（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
3	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
4	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
5	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
6	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
7	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
8	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
9	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
10	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
11	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
12	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
13	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
14	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
15	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
16	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
18	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
19	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
20	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
21	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
22	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
23	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
24	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
25	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
26	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
27	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
28	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
29	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
30	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
31	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
32	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	プレゼンテーション準備（４５分）	講評まとめ（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門研究	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、自己表現のための知識と技術を幅広く習得し多様化する現代社会に於いて、作品制作を通して問題解決能力をより高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得し、オリジナリティに溢れた作品を制作する。

授業全体の内容と概要

探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行い、それを反映させた作品を制作する。

授業の方法

授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見通しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２４回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなし、オリジナリティあふれる作品を制作できたか。美術の基礎基本を強固にし作品の質の向上ができたか。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に十分応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品にやや応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用があまり出来なかった。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用が出来なかった
思考力・判断力・表現力　テーマを最大限に活かせる画材、ジャンル、構図、描画方法を選択できたか。それを活かして作品に適切に用いることが出来たか。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが十分出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが不完全だった	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来なかった。
主体性・多様性・協働性　研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門研究	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスの確認（４５分）	課題（４５分）
2	専門研究ⅡAからの引継ぎ事項について	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
3	研究１　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
4	研究２　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
5	研究３　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
6	研究４　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
7	研究５　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
8	研究６　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
9	中間報告書作成	授業内容継続　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
10	中間報告会１　プレゼンテーション　ディスカッション	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）
11	中間報告会２　修正を再発表	プレゼンテーションの準備　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
12	研究７　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
13	研究８　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
14	研究９　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
15	研究１０　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
16	研究１１　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究１２　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
18	研究１３　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
19	研究１４　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
20	研究１５　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
21	研究１６　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
22	研究１７　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
23	研究１８　作品制作　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
24	研究１５　作品完成　並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
25	展示に向けて（額装）	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
26	展示に向けて（額装）	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
27	キャプション制作	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
28	研究報告書作成	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
29	研究報告書作成　完成	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
30	研究報告書作成　提出	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
31	講評会（フィードバック）プレゼンテーション	授業内容継続　課題（４５分）	授業内容継続　課題（４５分）
32	専門研究Ⅱまとめ 当該科目の第１回目に伝えた身につく力の検証	授業内容継続　課題（４５分）	振り返りと今後の展開を考える（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ＩＩＢ （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーションの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代メディアにおけるイラストレーションに関する知識を深め、様々な表現や技法に対応するための制作及び研究を行う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代メディアで必要とされるイラストレーションについて、その見識を深め、様々なメディアに対応した制作が行える能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための研究活動を行う。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

イラストレーションの工程を踏まえた作品制作を行う。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「イラストレーションを分野として正しく認識できている」	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数へ発信するイラストレーションとして高い完成度を持っている。	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数へ発信するイラストレーションとして完成している。	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数へ発信するイラストレーションを意図して作られている。	作品の設計内容がユーザビリティ、社会性、公共性いずれへの考え方も未完成である。	作品の設計内容がイラストレーションとしての機能を持っていない。
思考力・判断力・表現力「イラストレーションの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	作品制作の工程において、イラストレーションの目的達成の試行錯誤が繰り返されており、優れた結果に結びついている。	作品制作の工程において、イラストレーションの目的達成の試行錯誤が繰り返されて作品の完成に至っている。	作品制作の工程において、イラストレーションの目的達成の試行錯誤が繰り返されているが、作品の完成度は高くない。	作品制作の工程において、イラストレーションの目的達成の試行錯誤が不十分であり、作品の完成度は低い。	作品制作の工程において、イラストレーションの目的が達成されていない。
主体性・多様性・協働性「イラストレーションの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションが成されている。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションの努力が感じられる。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションへの努力が不十分である。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションを考えていない。	視覚情報伝達のプレゼンテーションが成立していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーションの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
2	年間計画の試案作成と添削	年間計画の試案。（４５分）	年間計画の修正。（４５分）
3	研究テーマの選定①	研究テーマの試案。（４５分）	年間計画の完成。（４５分）
4	研究テーマの選定②	研究テーマの試案。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
5	研究テーマの発表	研究テーマの試案。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	取材活動① 必要要件の整理と確認	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
7	取材活動② 情報収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	取材活動③ 情報収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	取材活動④ 情報の整理	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	取材内容の整理と発表 研究テーマの進行状況の確認	授業内容の継続。（４５分）	企画書の試案準備。（４５分）
11	企画書の作成準備① 工程の確認と試案作成	企画書の試案準備。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	企画書の作成準備② コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	企画書の作成準備③ コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	企画書の作成準備④ コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	企画書の作成準備⑤ メディアの選択	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	年間計画の見直し	年間計画の再確認（４５分）	制作環境の整備（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	制作準備①	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	制作準備②	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
19	作品制作工程①	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	作品制作工程②	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
21	作品制作工程③	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	作品制作工程④	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
23	作品制作工程⑤	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	作品制作工程⑥	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
25	作品制作工程⑦	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	作品制作工程⑧	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
27	作品制作工程⑨	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	作品制作工程⑩	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
29	作品制作工程⑪	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
30	プレゼンテーション準備①	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
31	プレゼンテーション～講評	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
32	専門研究ⅡBのまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	授業内容の継続。（４５分）	専門研究２年間の総まとめ。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

広く社会に対して問題意識や課題意識を持ち、広義のデザインによって問題解決または改善を叶えるための能力を高め、多くの人の共感を得られる説得力のあるアウトプットとプレゼンテーション能力の向上を目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業は、自らを起点とした発着想を広げることで、社会に通じる問いをたて、課題を見つけ、解決もしくは改善のために、広義のデザインでアプローチを試みる。そのために必要な知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら、独りよがりで終わらない、見る人の共感を得られるプレゼンテーションを行うことのできる能力を獲得し、社会に接続できる人材となることをめざす。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、人の役に立つ本質的な価値を持ったデザインを考え、それを実現するための広い意味でのデザイン活動を行う。
ＳＤＧｓ．１・２・３・５・９・１０・１１・１２・１４・１５・１６・１７の関連授業。

授業の方法

構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。
調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２６回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	１００%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が適切に用いられており、効果を発揮している。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が適切に用いられている。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が概ね用いられている。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術の用い方が不十分である。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が用いられていない。
思考力・判断力・表現力	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるようなデザインが成されており、それが成功している。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるようなデザインが成されている。	提出された作品に、一部の人の共感を得られるようなデザインが成されており、それが一部に対しては成功している。	提出された作品に、一部の人の共感を得られるようなデザインとなるための努力が見られるが不十分である。	提出された作品に、一部の人の共感を得られるようなデザインとなるための努力がない。
主体性・多様性・協働性	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢を持ち続け、クオリティアップにつながっていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢を持ち続けていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢の必要性を理解していた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢の理解が不十分である。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性への配慮がいずれも成されていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB （科目ナンバリング：SEM234091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　堤　美穂子　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	制作内容の構想整理。（４５分）
2	制作内容の構想と計画	制作内容の構想整理。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
3	制作内容の分析と整理	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
4	メディアの選択	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
5	メディア設定	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	試案① コンセプトの作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
7	試案① コンセプトの作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	試案② 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	試案② 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	デザインのプロトタイプ	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	デザインのプロトタイプ	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	デザインのプロトタイプ	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	デザインのプロトタイプ	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	デザインのプロトタイプ	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	制作① 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	制作② 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
19	制作③ 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	制作④ 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
21	制作⑤ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	制作⑥ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
23	制作⑦ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	制作⑧ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
25	制作⑨ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	制作⑩ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
27	制作⑪ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	制作⑫ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
29	制作⑬ 完成提出	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
30	制作⑭ 完成提出	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
31	制作内容の講評	データの整理管理。（４５分）	展示計画。（４５分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して『身に付く力』の検証 授業改善アンケートの実施	データの整理管理。（４５分）	展示計画。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　指導教員　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。履修学生は，卒業研究に取組むものとして研究方法を自ら選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認，科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括　フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館４階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括として講評をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括 授業最終回において講評をし、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門演習科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（’建築学科・専任講師）	研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
BIMを活用した講義が基本となるため、各自PCを持参すること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。この講座となるゼミの在籍条件は、「一級建築士特別養成コース」に所属していること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門演習科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（ ’建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの確認。 当該科目修了により「身に付く力」の説明。	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括。 「身に付く力」の検証。 授業に係る講評・解説によるフィードバック。	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1.DP2.DP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察･実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井 正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究IV」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井 正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認、目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認　（45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　指導教員　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

「建築研究IV」は，建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が，研究方法を選択し，興味･関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し，研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから，各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し，研究計画を立案し，それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール，実験，作品制作，見学，観察･実測調査等，さまざまな授業形態がとられる。したがって，時間割上はもちろんこと，その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので，各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが，担当教員が決定しなければ受講，ならびに単位修得ができないので，必ず担当教員を決定すること。また，各教員により演習内容，指導方針等が異なるので，別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読･理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後，進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し，研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果わまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究IV （科目ナンバリング：SEM334087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　指導教員　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス　シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認　（45分）
2	担当教員による授業　１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
3	担当教員による授業　２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
4	担当教員による授業　３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
5	担当教員による授業　４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
6	担当教員による授業　５	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
7	担当教員による授業　６	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
8	担当教員による授業　７	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
9	担当教員による授業　８	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
10	担当教員による授業　９	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
11	担当教員による授業　１０	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
12	担当教員による授業　１１	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
13	担当教員による授業　１２	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
14	担当教員による授業　１３	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
15	担当教員による授業　１４	予習課題　（45分）	授業振返り課題　（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振返り作成　（45分）	全体振返り　（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅰ （科目ナンバリング：SPS422064，SPS522059　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

トレーニングは、働きかけの対象である身体機能を良く理解しなければ、効果が得られない場合もある。本講義では、トレーニングに関わる身体の仕組み・働きについて解説し、各種スポーツ、体力づくりに必要なトレーニングの基礎理論を理解させ、女性と運動、中高年における健康に対する構成要素の知識を学び身に付けると共に障害者における運動と健康についても詳しく学習する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要

テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出やビデオを利用して理解を確実なものにする。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。
また、レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。
他にも、課題は講義内で学生に発表を行わせる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目　スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格過程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２５%	３０%	０%	２５%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅰ （科目ナンバリング：SPS422064，SPS522059　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『JATI認定トレーニング指導者テキスト（理論編）』	NPO法人　日本トレーニング指導者協会	大修館書店			
2	『JATI認定トレーニング指導者テキスト（実践編）』	NPO法人　日本トレーニング指導者協会	大修館書店			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 体力トレーニング総論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	長期的トレーニング計画 （トレーニングの進め方・原理、原則、トレーニング処方）	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	トレーニング効果の測定と評価	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	運動と栄養（１）運動と栄養の基礎理論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	運動と心理（１）運動と心理の基礎理論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	持久力トレーニング	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	持久力トレーニングの実技と指導法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	レジスタンストレーニング	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	レジスタンストレーニングの実技と指導法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	パワートレーニング	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	パワートレーニングの実技と指導法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	スピードトレーニング	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	スピードトレーニングの実技と指導法・トレーニング指導者の役割	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	テスト及び解説 試験終了後、フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾂｰﾙ （科目ナンバリング：S0F321114　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（佐藤）、２号館８階（伊藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

４年間をとおして建築表現に必要不可欠なデジタルデバイスによる表現方法を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

基本的なデジタルプレゼンテーションツールを自在に操れることができる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ操作の初歩として，コンピュータOSやその周辺の知識修得とデジカメやスキャナを使用したプレゼンテーションを行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回テキストに沿いながら、担当者のサイトを参照し、そこからデータをダウンロードして課題制作を行う。発表会形式での講評会を実施しフィードバックする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書はもちろん，各自ＵＳＢメモリを携行のこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
デジタルツールによって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
課題の意図を理解して的確に企画を立案できるか。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがほぼできた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度以上できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾂｰﾙ （科目ナンバリング：S0F321114　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（佐藤）、２号館８階（伊藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『今すぐ使えるかんたん Photoshop Elements フォトレタッチ入門』	AYURA	技術評論社	2018	9784297101312	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 コンピュータOS，コンピュータデバイス，コンピュータメディア	オリエンテーション時に指示の資料を熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	基本操作その１／画像の加工	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
3	基本操作その２／案内図の作成	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
4	基本操作その３／Photoshopの原理	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
5	扱う画像の種類と用途	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
6	レイヤの概念	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
7	画像編集の基礎	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
8	画像編集の応用	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
9	文字の入力編集	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
10	スキャナによる画像取込	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
11	パノラマの作成とストリートビュー	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
12	クリスマスカードの製作と年賀状の製作	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
13	他のソフトとPhotoshopとの連携／Jw	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
14	他のソフトとPhotoshopとの連携／Vector	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
15	マンション広告の作成 授業改善アンケートの実施	配布資料・テキスト熟読 (45分)	当日制作課題のデータ整理 (45分)
16	講評会 作品の講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（Ｍ） （科目ナンバリング：ENL042033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文を読み、個々の単語の発音練習を行う。基本的文法事項を復習し、作文練習、会話練習を行い、英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

英語の発音を修得する。基本的文法事項を理解し、簡単な作文と会話ができる。

授業全体の内容と概要

英文を読み、発音を確認し、基本的表現や文型を学び、英語の運用能力の向上を目指す。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い英語運用能力の向上を計り、学生参加型授業を行う。　中間テスト、定期試験の答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点重視、テキスト・辞書持参

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できていた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できてない部分が多少あった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障を少しきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思を伝えることができなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（M） （科目ナンバリング：ENL042033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「English Indicator 1」』	テリー・オブライエン，三原京　他	南雲堂	２０１８	9784523178538	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関するガイダンス。 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 Unit 1 The Royal Family	シラバスを読むこと。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
2	Unit 2 The Beatles Past tense 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
3	Unit 3 Very Cold Progressive forms 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
4	Unit 4 Euro Money Auxiliary verbs 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
5	Unit 5 To Your Health Perfect tense 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
6	Unit 6 Recycling Articles, pronouns 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
7	Unit 7 The UK Nouns: countable, uncountable 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
8	中間テスト	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
9	Unit 8 A Quiet Life Adjectives, adverbs 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
10	Unit 9 My Company Comparisons 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
11	Unit 10 Advertising Infinitives, conjunctions 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
12	Unit 11 Business Trips Prepositions, conjunctions 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
13	Unit 12 Get It Cleaned Causative verbs, perceptive verbsの復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
14	Unit 13 A Storm Passive voice 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
15	Unit 14 The Media Relativesの復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(９０分)	授業中に学んだことを復習する。(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（S） （科目ナンバリング：ENL042033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認				

概要

履修目標

身近な話題を中心とした日常生活の様々な場面を想定し、テキストに沿った文法整理から、会話、発音、語彙を総合的に学習することによってコミュニケーションツールとしての英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

簡単な日常会話や場面表現に用いられる英文の構造解釈において，3マス理論をベースとした文型構造を理解したうえでコミュニケーションツールとして基礎的な英語運用能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

文法，語彙，会話表現の向上をはかり，自分が表現したいことを相手に伝えられるよう3マス理論を習得する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

本講座は講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、中間試験として文型理解度確認テストを実施する。加えて英文日記を１回課し，レポートとして採用する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）選択科目　保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。原則、教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書を購入しない学生は評価の対象としない。試験日を除く全１５回の授業中１２回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には，加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１０%	0%	１０%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９２点以上の得点を挙げた。	定期試験で８４点以上の得点を挙げた。	定期試験で７５点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成している。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定しコミュニケーションをとる土台が出来つつある。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べだし辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台つくりの努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。辞書を使うことはできる。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もできない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（S） （科目ナンバリング：ENL042033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思ったことを英語にできる３ます英語』	川崎あゆみ	株式会社サンマーク出版	2025	9784763142153	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業評価アンケートの結果への対応を説明 英語の構造に関する基本的な考え方	テキストのPP.1-20を読み込む。専用のノートを準備する（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	英語と日本語の違い＆英語の基本構造＆文型①	チームズ＆テキストの指定箇所を読み込む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	英語の基本構造＆文型②	チームズ＆テキストの指定箇所を読み込む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	英語の基本構造＆文型③	チームズ＆テキストの指定箇所を読み込む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	３ます英語って何＆オーストラリア文化談	テキストのpp.22-34の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	１ます目の考え方①＆アメリカ大学文化談	テキストのpp.36-51の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	１ます目の考え方②＆アメリカ大学文化談	テキストのpp.52-64の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	２ます目の考え方①	テキストのpp.66-85の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	２ます目の考え方②	テキストのpp.86-107の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	２ます目の考え方③	テキストのpp.108-136の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	３ます目の考え方①	テキストのpp.138-159の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	令和英語事情②	テキストのpp.160-173の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	令和英語事情③	テキストのpp.174-184の範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	ノートチェック＆不定詞・動名詞・分詞のイメージ①	ノートチェックに備える（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ②＆テストReview 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業評価アンケートの実施	英語構造の再確認（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分）	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（６０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年、建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応するために必要な実践的な英語運用能力を身につけ、外国の人と基本的なコミュニケーションができる力を養うとともに、日本と世界の文化・習慣・価値観の違いを理解して視野を広げ、さらにスチューデントスキル（主体的に学ぶ姿勢）、スタディスキル（効果的な学び方の工夫）、アカデミックスキル（調べる・まとめる・伝える力）を育成することを目指す。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP5に対応する。
建築学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

学習者が自分の伝えたいことを英語で最低限相手に伝えられるよう実践的なコミュニケーションスキルを身につけるとともに、授業を通してスチューデントスキル（主体的に学び、協働する姿勢）、アカデミックスキル（情報を調べ、整理し、適切に表現する力）を育成し、総合的な言語運用能力の向上を図る。

授業全体の内容と概要

身近なトピックを扱ったダイアログを通して「聞く・読む」から「話す・書く」へとつなぐ技能統合を重視した英語運用能力育成を目的とし、口語表現などを学習し,会話でよく使用される重要な表現を想定し相手の気持ちを読み取り,相手に自分の気持ちを伝えるコミュニケーションを学ぶことができる。

授業の方法

授業では、英会話を積極的に取り入れ、学生が実際に話す機会を増やすために、ペアでのロールプレイやグループワークなどを多く取り入れた演習形式で行う。リスニングでは単語の発音をインプットし、リーディングでは英文を声に出して読むアウトプットの作業を行う。また、テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応するか、クラス全体への解答を解説し、学生へのフィードバックを行う。ICT（パソコン・スマホ・タブレットなど）を利用し、無料のストリーミング配信サービスを使えば、テキストの音声など自習用として活用できる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	0%	40%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を超えた学修が認められる。	授業内容をほぼ理解している。	到達目標に達している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に少し不足がある。	到達目標に達していない。
英語表現能力	英語で優れた表現を行うことができる。	英語で表現を行うことができる。	英語で表現を一定程度行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない。
積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する。	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる。	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる。	授業に集中して理解しようとする態度が見られる。	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる。
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている。	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる。	学修範囲を調べている。	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である。	指示された範囲の事前・事後学修が不十分である。
リスニング・スピーキング	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング・スピーキングの２技能を問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの２技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの２技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング・スピーキングの２技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング・スピーキングの２技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年、建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『New Getting Into English』	Joseph Cronin Eric Bray	NAN'UN-DO	２０２１	978-4-523-17918-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 Unit 1 Hi, I'm Rina.	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（90分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（90分）
2	Unit 2 How do you spell that? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
3	Unit 3 What's the time? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
4	Unit 4 Where are you from? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
5	Unit 5 What's your favorite food? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
6	Unit 6 How often do you get your hair cut? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
7	Unit 7 What kinds of music do you like? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
8	Unit 8 Who's older, you or your sister? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
9	Unit 9 How was your weekend? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
10	Unit 10 Have you ever been abroad? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
11	Unit 11 What kinds of movies do you like? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
12	Unit 12 What's the weather going to be like? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
13	Unit 13 What's your favorite coffee shop? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
14	Unit 14 Do you have a part-time job? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
15	Unit 15 How long have you had your phone? Pair Work / Group Work: Situational Conversation Practice (student & study skills)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（90分）
16	Final Exam. 試験終了後，フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験での疑問点などは前もって質問できるように準備しておく。（90分）	間違えた箇所をもう一度復習し理解する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援 （科目ナンバリング：PSG111006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	栁内　景太（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　栁内　景太（社会福祉学科・専任講師）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童相談所等での経歴があり、その経験を生かして指導を行います。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。
②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。
③日常生活と心の健康との関係について理解する。
④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１、DP３、DP４に対応する科目

到達目標

人の基本的な心の仕組みと機能、アセスメント等の支援方法を理解する。

授業全体の内容と概要

心理学のテーマは多岐にわたる。そこで、本授業ではソーシャルワークに深く関連する事項に絞り、人の心の仕組みと働きについて学ぶ。さらに、心理学理論を基礎とした支援方法について理解する。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で進行する。補助教材として、PowerPointによるスライド資料を用いる。毎授業時間の最後に、コメントや質問、要望をMicroft Formsを活用して記入する。提出されたコメント等に対して、次回の冒頭、全体に向けてのフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を著しく妨害する行為が認められた際は、成績評価から減点することがある。
スライド資料は授業前にオンライン上でデータ共有するため、必要な人は各自ダウンロードすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
ただし、保育士養成課程および教職課程に向けては、すべての授業・補講を対面で実施する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程（必修）、精神保健福祉士国家試験受験資格課程（必修）、保育士養成課程（選択）、教職課程・高校公民（必修）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	40%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
心理学と心理的支援の知識	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
表現方法の適切さ	授業で求められる文章表現の基準を極めて上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をかなり上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をやや上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できなかった。
授業への積極的参加	授業に対して、非常によく参加できた。	授業に対して、よく参加できた。	授業に対して、やや参加できた。	授業に最低限の参加ができた。	授業に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援 （科目ナンバリング：PSG111006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	柳内　景太（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　柳内　景太（社会福祉学科・専任講師）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童相談所等での経歴があり、その経験を生かして指導を行います。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜紹介をします。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜紹介をします。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：心理学の歴史と対象について シラバス及び授業改善アンケート結果反映、科目を修了して『身に付く力』についての説明	関連図書を熟読する（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
2	心を探究する方法の発展について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
3	心の生物学的基盤について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
4	感情・動機づけ・欲求について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
5	感覚・知覚について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
6	学習・行動について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
7	認知について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
8	個人差について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
9	人と環境について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
10	生涯発達について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
11	心の発達の基盤について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
12	心の不適応について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
13	心理アセスメントについて	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
14	心理的支援の基本的技法について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
15	心理療法について 授業改善アンケートの実施	示されたキーワードを調べる（９０分）	これまでの内容をまとめる（９０分）
16	６０分の試験後、残り時間で解説を行う 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの内容を整理する（９０分）	これまでの内容を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の応用的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の応用を理解し実践できることを目標とする。生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。
様々な種類のトレーニングに関する応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は２回につき１回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用が良くできている	ウエイトトレーニングの応用がほぼできている	ウエイトトレーニングの応用力がある程度できている	ウエイトトレーニングの応用ができている	ウエイトトレーニングの応用ができない
体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用が良くできている	体幹トレーニングの応用がほぼできている	体幹トレーニングの応用がある程度できている	体幹トレーニングの応用ができている	体幹トレーニングの応用ができない
ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用が良くできている	ラダートレーニングの応用がほぼできている	ラダートレーニングの応用がある程度できている	ラダートレーニングの応用ができる	ラダートレーニングの応用ができない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（前期成績・学生生活など）	前期成績を確認しておく（４５分）	前期成績を把握しておく（４５分）
3	個人面談（前期成績・学生生活など）	前期成績を確認しておく（４５分）	前期成績を把握しておく（４５分）
4	ウエイトトレーニングの応用Ⅰ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
5	ウエイトトレーニングの応用Ⅱ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
6	ウエイトトレーニングの応用Ⅲ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
7	体幹トレーニングの応用Ⅰ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
8	体幹トレーニングの応用Ⅱ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
9	体幹トレーニングの応用Ⅲ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
10	体幹トレーニングの応用Ⅳ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
11	ラダートレーニングの応用Ⅰ	ラダートレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
12	ラダートレーニングの応用Ⅱ	ラダートレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	体力・形態測定結果を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

健康とスポーツ及びトレーニングについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は健康とスポーツ及びトレーニングに関しての調査を行い。後半は健康とスポーツ及びトレーニングに関しての調査アンケートをまとめ、発表と意見交換を行う。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。
授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１０％	０％	８０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	中間報告	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
11	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションも行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	レポート作成 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
3	レポートの発表とディスカッション　1 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
4	レポートの発表とディスカッション　2 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
5	レポートの発表とディスカッション　3 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
6	生涯スポーツの実践発表準備　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
7	生涯スポーツの実践発表準備　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
8	生涯スポーツの実践発表準備　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
9	生涯スポーツの実践発表準備　4	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
10	生涯スポーツの実践発表　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
11	生涯スポーツの実践発表　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
12	生涯スポーツの実践発表　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
13	生涯スポーツの実践発表　4	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
14	生涯スポーツの実践発表　5	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
15	生涯スポーツの実践発表のフィードバック	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不足の事態の際にオンライン授業やオンデマンド授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業やオンデマンド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	トレーニングデータの収集④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	データ解釈のグループワーク④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング、論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	データ解釈のグループワーク⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	エビデンスに基づいたトレーニング、論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	面談	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	データ解釈のグループワーク⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	エビデンスに基づいたトレーニング、論文の読み方⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングの実践⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	面談	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ（科目を修了して「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。
・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施します．
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　篠原　諒介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）（動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する）及び授業改善	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化④	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ フィードバック（動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解すできたかの確認）及び授業改善アンケートの実施、科目を修了して	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学修の基礎になる、文献の読み方、プレゼンテーションの仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員でディスカッションをする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告とディスカッション（１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告とディスカッション（２）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告とディスカッション（３）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告とディスカッション（４）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告とディスカッション（５）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告とディスカッション（６）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告とディスカッション（７）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告とディスカッション（８）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告とディスカッション（９）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告とディスカッション（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告とディスカッション（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（１）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（２）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは数学の歴史的概要と基本的タ－ム及び理論経済学における基本的な用法を学習することによって、論理的思考方法の構築する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，DP２，DP５に対応する。

到達目標

・数学の歴史的外観を理解できる。
・数学の持つ論理性を理解できる。
・背理法、必要条件、十分条件、帰納法、逆・裏・対偶について理解できる。
・数学と近代経済学の関係を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『数学嫌いの人のための数学ー数学原論ー』（東洋経済）『数式を使わない数学の講義』（ワック出版）を基本参考文献とする。その他『Newton』等の科学雑誌を参考資料とする。音読を基本とする購読を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。

授業の方法

・音読を基本とする購読を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。
・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
・学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくない要望には応えられない。
・不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席条件１０回以上をクリアする

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	３０％	７０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学の歴史を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	世界史における数学の位置づけを理解できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
形式論理学について理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	命題、逆、裏、対偶についての知識を取得することができた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
数学と経済学との関連を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	必要条件、十分条件、背理法、帰納法についての基礎的知識を習得できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『数学が嫌いな人のための数学』	小室直樹	東洋経済新報社	２００１年	4-492-27205-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校数学の復習（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
2	数学の論理の源泉ー古代宗教から生まれた数学の論理ー１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
3	数学の論理の源泉ー古代宗教から生まれた数学の論理ー２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
4	論理とは神との論争の技術１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
5	論理とは神との論争の技術２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
6	数学と近代資本主義１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
7	数学と近代資本主義２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
8	数学と近代資本主義３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
9	証明の技術１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
10	証明の技術２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
11	証明の技術３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
12	証明の技術４	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
13	数学と近代経済学１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
14	数学と近代経済学２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
15	数学と近代経済学３　前回までの授業内容の小テストを実施、講評・評価を行いフィードバックする。	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
16	数学と近代経済学４ 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が欧米の歴史と文化の基礎について理解し、合わせて、基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

受講者が欧米の歴史と文化の基礎的な知識を理解、習得し、学んだことを発信できるようになる。合わせて、基礎的なコミュニケーション能力が身に付いている。

授業全体の内容と概要

毎回、各国と地域ごとの政治と社会、文化に関する講義と資料の読解、討論を通して、受講者における欧米の歴史と文化の基礎知識の獲得を図る。
合わせて、レポート作成によって知識を確認し、理解を深める。

授業の方法

１）教員による短い講義（資料、画像、動画を併用）。
２）１）に基づいて、受講生全員による討論。
３）教員によるコメントとフィードバック。
毎回、１）から３）をくりかえしていく。ときどき、簡単な体験学習を取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート作成のための情報収集・整理の能力	多様で正確な情報収集と分析、編集、整理ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集・整理と適切な発信ができた。	情報収集・整理と発信の基本が身に付いた。	指示によって情報収集・整理と発信ができた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論ができ、明確なプレゼンテーション、応答ができた。	適切な議論、プレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが遂行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	欧米の歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	欧米の歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	欧米の歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によって欧米の歴史と文化の基礎が理解できた。	指示による欧米の歴史と文化の理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　横田　肇　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業アンケートの結果反映の説明。シラバスの説明。 この科目で身に付ける力の説明。 欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。（概説）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
2	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （西ヨーロッパ地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
3	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （西ヨーロッパ地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
4	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （西ヨーロッパ地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
5	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （東ヨーロッパ地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
6	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （東ヨーロッパ地域） 既習範囲についてのミニレポートの作成とフィードバック。	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
7	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （北ヨーロッパ地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
8	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （北米地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
9	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （北米地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
10	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （北米地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
11	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （諸地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
12	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （諸地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
13	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 （諸地域）	欧米の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	欧米の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
14	受講者による調査とレポート作成（１）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
15	受講者による調査とレポート作成（２）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
16	レポートに対するコメント等によるフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証。 授業アンケートの実施。	レポート作成の準備（４５分）	レポートの仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・学生自らが主体的に学ぶと共に実践的に学習をする。
・社会福祉実践の現場で、必要な社会的なマナーを学ぶ。
・コミュニケーション能力が向上する。
・基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する科目である。

到達目標

①福祉従事者に求められる態度を理解する。
②他者との共働に必要な要件を身につける。

授業全体の内容と概要

①基本的な社会常識を身に着ける。
②福祉従事者に求められる資質について学ぶ。
「SDGｓ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時事質問を行うので、答えること。
③随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業毎に使用する資料を配布する。
⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①３０分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。
③基本は対面授業だが、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一般的な社会常識を身につける。	成人として、常識をわきまえた行動ができた。	大学生としての常識をわきまえた行動ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
対人技能の基本を身につける。	社会人として求められる人間関係の理解及び福祉従事者として特に留意する点について述べることができた。	社会人に求められる人間関係の理解ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　櫻井　美帆子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目修了後に身につく力についての説明 大学生活を送る上で必要なマナー①	大学生としてふさわしいふるまいにとは何か考える。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
2	大学生活生活をを送る上で必要なマナー② 明るさを備える。誠実さを備える。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
3	大学生活を送る上で必要なマナー③ 良識を持つ。素直な態度を心得る。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
4	大学生活を送る上で必要なマナー④ 清潔感に磨きをかける。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
5	大学生としてのマナー⑤ 事例検討	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
6	大学生としてのマナー⑥ 事例検討	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
7	中間まとめ	１回から６回の内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい内容をまとめる。（４５分）	1回から7回で学んだ事を振り返り、大学生活における自己の課題を明確化する。（４５分）
8	社会人としてのマナー① 社会人意識とは。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。(４５分）
9	社会人としてのマナー② 社交儀礼とは。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
10	社会人としてのマナー③ 社内の人間関係。社外の人間関係。	次回の内容について、自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
11	社会人としてのマナー④ 事例検討	次回の内容について、自分の意見をまとめる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
12	地域活動に参加①	北広島市の歴史や文化、物理的な地域構造、産業構成について、インターネットで調べる。４５分）	体験をとおし得た知見をノートに整理する。（４５分）
13	地域活動に参加②	北広島市の住宅状況、交流の場、住民構成について、インターネットで調べる。（４５分）	体験をとおし得た知見をノートに整理する。（４５分）
14	地域活動に参加③	北広島市の社会資源、ネットワーク構造、権力構造について、インターネットで調べる。（４５分）	地域活動を通して得た学びをレポートにまとめて提出する。（４５分）
15	北広島市の地域アセスメント レポートを添削して返却し、フィードバックする	地域アセスメントの概要を予習する。（４５分）	地域アセスメントの概要を復習する。（４５分）
16	まとめ 講評	１回から１５回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。（４５分）	この授業で学んだ事を振り返り、３年生へ向けた自己の課題を明確化する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
基礎ゼミナールⅠの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。(アカデミックスキル)
・基礎ゼミナールⅠから継続して考えていきながら、学生それぞれが１つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。(スタディスキル)

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（2/3以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持に食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席１６回)	概ねゼミに出席できた。(出席１５～１４回)	休みがちではあるが出席できた。(出席１３～１２回)	欠席が目立つが出席できた。(出席１１～１０回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席９～０回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。「身に着く力」について考察する。ゼミ内での自分の役割について考える（４５分）
2	「食生活の重要性を考えるⅡA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるⅡA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるⅡA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるⅡA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
10	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（４５分）
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施	まとめの準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深め、現在不規則になりがちな生活習慣の改善が必要になる。学生生活における健康維持のための運動の大切さについての基礎知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を身に付ける。
不規則になりがちな生活習慣で留意しなければならない点について、いくつかのテーマを通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことだけでなく、卒業後に訪れるだろう社会人生活における健康づくりについて述べることができる。

授業全体の内容と概要

講義では、健康の意味、特に運動と健康とのかかわりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を習得する。さらに、生き生きとした人生を送るために運動・栄養・休養について、自らの生活習慣を見直す機会を深める。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。
健康に関するキーワードについて調べ学修の発表を行います。
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明」 授業改善アンケート結果反映の説明 本科目を修了して、「身につく力」について説明する。	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
2	健康についての学生調査①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
3	健康についての学生調査②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
4	健康についての学生調査③	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
5	健康についての学生調査④	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
6	健康についての学生調査⑤	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
7	健康についての学生調査⑥	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
8	健康についての学生調査⑦	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
9	健康についての学生調査⑧	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
10	健康についての学生調査⑨	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
11	健康についての学生調査⑩	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
12	健康についての学生調査⑪	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
13	健康についての学生調査⑫	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
14	学生調査研究個人発表①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
15	学生調査研究個人発表②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身につく力」について検証、授業アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科の社学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
学校視察やボランティア活動等への参加
漢字検定等への参加
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際には、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
漢字検定の受検級合格まで毎回必ず検定を受けることを履修の条件とする。（目標準２級）
担当教員が案内する教職啓発活動や学校体験活動に必ず参加することを履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。
部活動の対外試合、法定伝染病、法事等についての欠席で、客観的に証明することが可能で所定の手続きを行ったものについてのみ補講の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　西崎　毅　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業内で別途指示する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 学修計画の作成	基礎ゼミナールⅠでの学修を自己評価すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	教育法規のまとめ①教育基本法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	教育法規のまとめ②学校教育法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	教育法規のまとめ③学校教育法施行規則 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	教育心理のまとめ①心理学のおこり 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	教育心理のまとめ②学習理論等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	教育心理のまとめ③心理療法等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	教育史のまとめ①日本教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	教育史のまとめ②西洋教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	教育史のまとめ③学習指導要領の変遷 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	教育原理のまとめ①教育改革の流れ 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	教育原理のまとめ②現代の教育課題 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	小論文についての学修①小論文の構成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	小論文についての学修②小論文の作成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	小論文についての学修③小論文の評価 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習 学修発表、フィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	後期の学修の総括及び反省 演習のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエーション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP２、DP5に対応する。

到達目標

（1）制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
（2）様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
（3）各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。

①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期の活動においての確認とフィードバック シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	地域課題の理解 ゼミの目的と年間の流れを共有し、地域連携の意義やSDGsとのつながりを簡潔に確認する。あわせて、主体的に学ぶ姿勢を意識しながら、行政・企業・学校などが抱える地域課題の具体例に触れ、今年度の活動イメージをつかむ。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	リサーチ方法の基礎 課題発見のための観察・ヒアリングといった基本的なリサーチ方法を確認し、情報を集めて整理するスタディスキルを意識しながら、チーム編成と役割分担を行う。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	地域フィールドワーク① 地域の施設や企業、行政担当者から話を聞き、現地の状況や、地域が抱える課題やニーズを把握する。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	地域フィールドワーク② 調査内容など写真やメモで記録し、後の分析や共有に活かせるよう、アカデミックスキルとして適切な記録方法を身につける。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	課題設定と企画立案 調査結果をもとに解決すべき課題を明確にし、複数の企画案を比較しながら方向性を検討する。あわせて、企画書づくりに必要な基本構成を学びながら、実現可能な企画へとまとめていく。	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	企画プレゼン① 各チームが企画案を発表し、教員や学生同士で意見を交わしながら改善点を共有する時間とする。	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	デザインリサーチ（事例分析・参考資料収集） パッケージ、ポスター、ピクトグラム、ロゴなどの事例研究 デザインの要素分析（色・形・情報設計）	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	アイデア展開（Creative） スケッチ、ラフ案制作 チーム内でアイデアの取捨選択	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	デザイン制作①（ビジュアル構築） パッケージ、ポスター、ロゴ、POPなど制作開始	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	デザイン制作②（ブラッシュアップ） 制作プロセスの記録（アカデミックスキル）	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	デザイン制作②（ブラッシュアップ） フィードバックを受けて改善	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	デザイン制作④（最終調整） 印刷・出力を見据えたデータ調整 実践に向けた整経確認 作品の意図を言語化する準備	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	成果発表会Ⅰ（プレゼンテーション） 制作物・企画の最終発表 SDGsへの貢献、地域への価値を説明 アカデミックスキル：発表・質疑応答	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	成果発表会Ⅱ（プレゼンテーション） 制作物・企画の最終発表 SDGsへの貢献、地域への価値を説明 アカデミックスキル：発表・質疑応答	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	ゼミ全体の総括 １年間の活動における総括とフィードバック 学生自身の今後の学び・キャリアへの接続 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計の実務経験を活かし、建築や空間表現に関する実践的な視点から、作品の見方や表現方法について指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術学部の建築学科における教養として手を使った演習と、さまざまな美術作品・建築作品に触れ、美的、造形的素養や批判的思考力を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

美術作品や建築作品に触れ、感性を高め、その作品について深く理解できる。
手を使った演習を通して、表現できる。
物事を多角的な視点から問い直す批判的思考ができる。

授業全体の内容と概要

描画、スケッチ、作品制作を通じて手によるスキルアップを行う。
美術作品や建築作品を実際に鑑賞し、それに関連する作品制作を行う。発表会にてお互いの作品を鑑賞し合う。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」、「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」、「SDGs12．つくる責任　つかう責任」の関連科目

授業の方法

資料は適宜指示、配布する。授業形態は、演習、グループワーク、実習などを含む。学生同士で相談などしても良い。課題に対するフィードバックは適宜行う。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具が必要となるため、ガイダンスにて指示する。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術鑑賞を通じて作品を理解し、説明できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作品制作に必要な道具を使って基本的な芸術表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
物事を多角的の捉え、批判的思考ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計の実務経験を活かし、建築や空間表現に関する実践的な視点から、作品の見方や表現方法について指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：授業の説明、シラバス説明、当該科目を修了して身に付く力の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	スケッチチェック、課題説明	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築作品・美術作品　予習・事前準備	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築作品・美術作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築作品・美術作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築作品・美術作品鑑賞3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	建築作品・美術作品鑑賞4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	スケッチチェック、作品発表会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　恵利　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得る能力を身につける。

授業の位置づけ

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

到達目標

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　恵利　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明) 自己紹介 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(４５分)
16	後期学習範囲の総括（「身につける力」の検証） 反省・最終課題の提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック	最終課題提出の準備（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

①福祉に関する専門用語を覚える。
②自分に適した暗記方法を身につける。
③協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
②フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
④内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　大島康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『無縁介護単身高齢社会の老い・孤立・貧困』	山口道宏	現代書館	2012	9784768435205	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術① 科目を修了して『身に付く力』についての説明	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
2	専門演習ⅡAの振り返り	前期のまとめた内容を整理する。（４５分）	発表した内容を振り返る。（４５分）
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術②	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術③	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
5	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術④	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑤	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
7	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑥	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
8	中間まとめ	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験①	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	SPI性格検査の準備を行う。（４５分）	SPI性格検査の振り返りを行う。（４５分）
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験③	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験④	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑤	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑥	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑦	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
16	授業内フィードバック まとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学年・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

マンガ、アニメを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に着け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。
1回程度、ゲスト講師（マンガ研究者、マンガ家、マンガ編集者、マンガ施設関係者等）の参加を予定している。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学年・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか？』	吉岡洋、岡田暁生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	資料を読む（1）文献の読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	資料を読む（2）文献についての調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	資料を読む（3）文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	産業としてのマンガ（1）雑誌文化と新しいビジネスモデル　ゲスト講師への質問を考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	ゲスト講師への質問を考える（45分）
6	産業としてのマンガ（2）雑誌文化と新しいビジネスモデル　ゲスト講師参加	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（1）作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（2）作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	個人発表の準備をする（45分）
9	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（3）作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	個人発表の準備をする（45分）
10	個人発表（1）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
11	個人発表（2）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（3）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（4）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	個人発表（5）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りと、レポートを作成する（45分）
15	まとめ 期末レポートの提出	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付け、そのために必要な学習を自ら行えるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

教育制度や内容について関連事項を含めて説明できる。
教育の諸問題についてその背景を含めて理解することができる。
学習指導案の形式を理解し目的に沿った指導案を作成することができる。
社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育に関する基本的事項についての調べ学修
学習指導案の基本形式を把握し各項目に必要な内容を学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
漢字検定対策
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連内容

授業の方法

テーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。
公務員として求められる一般教養、文章力、語彙力向上のための演習を行う。
資料内容、発表内容等に対して、自己評価を下にしたフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育又は行政に強い関心がある者。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を修得するとともに、関連した事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を修得したが、期待するレベルまで到達することができなかった。
グループワークによる内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をすることがなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら積極的課題を見つけ自発的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもって参加し、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1	（単位認定責任者：　千葉　聡美　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『　『別途購入案内する。』　』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（取組の概要、シラバスの説明、基礎ゼミⅡAの学びの振り返り等 科目を履修して『身に付く力』についての説明	シラバスを読む （４５分）	説明内容を整理する （４５分）
2	教育現場の課題について ブレインストーミングによる課題分析	ネット等で情報収集。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
3	課題の整理と解決の考察 一般教養小テスト	ネット等で情報収集。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
4	前回までの課題をプレゼンテーションにまとめて発表 一般教養小テスト	個々に選択した課題をまとめる。プレゼンテーション準備。 （４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
5	前回までの課題をプレゼンテーションにまとめて発表 一般教養小テスト	個々に選択した課題をまとめる。プレゼンテーション準備。 （４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
6	生徒指導提要を読む 一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
7	生徒指導提要を読む 一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
8	生徒指導提要を読む 一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
9	学習指導案の概要 一般教養小テスト	指導案例に目を通す。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
10	学習指導案と年間指導計画 一般教養小テスト	年間指導計画の素案を作成。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
11	学習指導案と単元計画 一般教養小テスト	ひとつの題材を取り上げ指導計画を立てる（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
12	学習指導案を書く、模擬授業 一般教養小テスト	テンプレートに沿って指導案を書く。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
13	学習指導案を書く、模擬授業 一般教養小テスト	テンプレートに沿って指導案を書く。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
14	全学修内容の振り返りとフィードバック 小論文・面接対策	これまでの資料の読み込み。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
15	全学修内容の振り返りとフィードバック 小論文・面接対策	これまでの資料の読み込み。（４５分）	内容を整理し復習する。 （４５分）
16	全学修内容の振り返りとフィードバック 小論文・面接対策 科目を履修して『身に付く力』についての検証	学修のまとめを作成（４５分）	1年間の学びを整理する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	［プレゼンテーション］　授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ5に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　木村　浩紀　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバス」「ゼミの進め方」「科目を修了して身に付く力」の説明 ○学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法①関係資料の通読	教育の諸問題についてまとめること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
2	○学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
3	○学校の管理運営と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
4	○学校の管理運営と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
5	○教員の身分・服務と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
6	○教員の身分・服務と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
7	○学校の説明責任・地域参画と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
8	○学校の説明責任・地域参画と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
9	○児童生徒の在学関係・生徒指導と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
10	○児童生徒の在学関係・生徒指導と法② 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	今後の進路について考え、整理すること。（４５分）
11	○教育課程・教科書・教育評価と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
12	○教育課程・教科書・教育評価と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
13	○学校保健安全・学校給食と法① ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
14	○学校保健安全・学校給食と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
15	○学校事故と法① ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
16	○学校事故と法② 学修発表 後期の学修の総括及び反省（フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証） 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　薦田　勇智　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前期で準備した内容をもとに、プロジェクトの実施・運営を行う。計画に沿って活動を進め、発生した課題に対応しながら改善を重ねる。進捗を共有し、振り返りを行うことで、チームの協働力や問題解決能力を高め、実践的なスチューデントスキルを身につける。また、活動の成果を整理し、プロジェクトの総括として報告書やプレゼンテーションを作成する過程で、論理的な構成や効果的な表現方法を学び、アカデミックスキルを強化する。さらに、情報の整理や適切なフィードバックを活用することで、より効果的な学習方法を習得し、スタディスキルの向上を目指す。1年間の学びを通じて、計画立案・実行・評価のプロセスを実践的に経験し、主体的に行動する力を養うことを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・計画に基づいて実行し、チームで協力して成果を出すことができる。（スチューデントスキル）
・継続的に進捗を確認し、問題解決や改善点を発見して次の行動に活かせる。（スタディスキル）
・実践を通じて専門的なスキルを活用し、プロジェクトを効果的に推進できる。（アカデミックスキル）
・フィードバックを受け入れ、成果を改善する方法を考え、学びを深めることができる。（スチューデントスキル）
・結果を論理的に整理し、報告書やプレゼンテーションを通じて成果を効果的に発表できる。（アカデミックスキル）
・プロジェクト活動を振り返り、学びの過程と成果を評価し、次の学びに活かせる。（スタディスキル）

授業全体の内容と概要

計画に基づいてプロジェクトを実行し、発生した課題に対応しながら成果を発信・改善する。最終的にはプロジェクトの成果を評価し、報告書やプレゼンテーションを作成して学びをまとめる。

本科目はＳＤＧｓの以下の項目に相当する。
・ＳＤＧｓ４.「質の高い教育をみんなに」

授業の方法

グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったＰＤＣＡサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。
・授業時間外において質問及び相談があれば、Ｔｅａｍｓチャットまたは音声通話にて受け付ける。
・提示した教材は、全ＬＭＳにて公開・配信する。
・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
・本科目内で最低１回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。
・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プロジェクト実行力	計画通りに実行し、問題解決能力を発揮しながら成果を上げた。	計画通りに実行したが、いくつかの課題に直面し改善点があった。	実行は行ったが、計画通りに進まず課題解決に時間がかかった。	実行が遅れ、計画通りに進まないことが多かった。	実行がほとんど行われず、計画の進行が大きく遅れた。
課題対応と改善	発生した課題に迅速に対応し、改善策を適切に実行した。	課題に対して適切に対応し、改善策を実行したが、改善の余地があった。	課題に対応はしたが、改善策の実行がやや不十分であった。	課題対応が遅れ、改善策の実行が不十分だった。	課題に対応せず、改善策がほとんど実行されなかった。
成果発信・プレゼンテーション	成果を論理的かつ明確にまとめ、効果的に発表した。	成果をまとめ発表はしたが、少し改善の余地があった。	情報収集は行われたが、成果をまとめたが、発表が不十分で理解しづらかった。分析が不十分であった。	成果のまとめが不十分で、発表に難点が多かった。	成果のまとめがほとんどされず、発表もほとんど行われなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ・プロジェクトの確認 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
3	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
5	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
6	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
7	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
8	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
9	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
10	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
11	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
12	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
13	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
14	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
15	プロジェクトの実行	プロジェクトの最終確認（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
16	プロジェクトの総括 ・内容のフィードバック、改善点の洗い出し、次年度に向けてアドバイス 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	プロジェクトの結果をまとめる（４５分）	フィードバック、改善点等をまとめてレポートを提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	学生が授業内容や学生生活を相談できる時間として研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深めることにより、学生生活における健康維持のための運動（陸上駅伝）の大切さについての基礎知識を理解する。
陸上競技の知識と技能を身につけさせる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を身につける。
陸上競技（駅伝）を通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことだけでなく、卒業後に訪れるだろう社会人生活における健康づくりについて述べることができる。

授業全体の内容と概要

講義では、走ることにより、健康の意味、特に運動と健康とのかかわりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を習得する。さらに、生き生きとした人生を送るために運動・栄養・休養について、自らの生活習慣を見直す機会を深める。
陸上競技の知識と技能を身につけさせる。SDG4 質の高い教育目標　科学的トレーニングの導入

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。
健康に関するキーワードについて調べ学修の発表を行います。
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上
陸上競技の知識と技能を身につけたかどうか大会等の結果で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を深く理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識をおおむね理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を多少理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を理解できず知識と技能を身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	学生が授業内容や学生生活を相談できる時間として研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケートの実施	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
2	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
3	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
4	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査③	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
5	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査④	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
6	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査⑤	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
7	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査⑥	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
8	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査⑦	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
9	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査⑧	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
10	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査⑨	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
11	陸上（駅伝）と、健康についての学生調査⑩	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
12	陸上（駅伝）と、健康についての学生調⑪	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
13	陸上（駅伝）と、健康についての学生調⑫	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
14	学生調査研究個人発表 リハーサル発表①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
15	学生調査研究個人発表 本番②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
16	総まとめ・講評 身に付く力がついたかどうかフィードバックして検証 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠA、ⅠBで学習したことを基礎とし、絵画制作についての知識や技術をより高められるようにし、そして絵画の果たすべき役割や意義についてより深く学修する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し、制作に反映させる。

授業全体の内容と概要

あえて基礎ゼミナールⅡAの内容を反復し、学修効果を一層高める。出来上がった作品を外部の公募展に応募し、より客観的な評価を受ける機会を設ける。

授業の方法

事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	0％	80%	0％	20%	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について(布や紙等の貼り方を含む)	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明 古今の作品について（構図を主に）	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作 木材の裁断、木工具の取り扱い方について　布や紙等の貼り方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方、布や紙等の貼り方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。(90分)
4	支持体製作 地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作 地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを検討する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラ等での下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	エッグテンペラ等の展色剤の処方について予習する。(90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について予習する。90分)	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について復習する。(90分)
8	油彩による上描き　1 大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き　2 色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き　3 立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。(90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　3	筆触・タッチ・について予習する。(90分)	意図どおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆　5	色価・バルール・に狂いのある個所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。(90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。(90分)	合評会で得られた、他社の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　塩崎　大輔　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地位課題を分析し，解決に必要な情報収集・読解・まとめ・発表を行うための基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

地域課題解決に必要な情報収集能力の基礎を身につける。
地理空間情報を活用する能力を身につける。

授業全体の内容と概要

本授業は北広島市や北海道における先行研究・GISの活用を通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の分析や課題解決のための能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果を分析し，分析結果をレポートにまとめ説明する能力を育成する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

前半はGIS・地理空間情報活用し，地域課題を分析する。
後半は前半で得られた結果をもとに，課題解決の方法を議論する．
最終的にそれらの成果をレポートにまとめる。
なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

■出席について
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

■PCについて
本ゼミは地理情報システムを用いるためPCが必要となる。ノートPCを持っている人は持参すること。なお、ゼミ中に貸し出せるPCは3台までとする。

■その他
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域理解	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
課題分析能力	地域課題を分析し、高いレベルでまとめることができた。	地域課題を分析し、まとめることができた。	地域課題を分析し、まとめることができた。	地域課題を分析することができた。	地域課題を分析することができなかった。
地理情報活用能力	GISを用いて、複数の地理空間情報を高いレベルで活用することができた。	GISを用いて、複数の地理空間情報を活用することができた。	GISを用いて、地理空間情報を活用することができた。	GISを活用することができた。	GISを活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	GISを活用した地域分析①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	先行研究を収集すること。（９０分）
3	GISを活用した地域分析②	先行研究を収集すること。（９０分）	先行研究の内容をまとめること。（９０分）
4	地域に関する先行研究発表①	発表準備をすること。（９０分）	先行研究の内容をまとめること。（９０分）
5	GISを活用した地域分析③	発表準備をすること。（９０分）	先行研究の内容をまとめること。（９０分）
6	GISを活用した地域分析④	発表準備をすること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
7	GISを活用した地域分析⑤	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
8	地域分析結果議論①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	地域分析結果議論②	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	地域課題解決方法議論①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	地域課題解決方法議論②	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	地域課題解決方法議論③	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	地域分析結果報告①	報告の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	地域分析結果報告②	報告の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	地域分析結果報告③	報告の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 全体を講評し、フィートバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動している教師がその経験と実績を活かして実践的な授業を展開する公立学校での教諭経験を生かし、一人ひとりに寄り添い学習を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを制作するために必要となる素養を考え、身につけるための活動を通し、大学での学修に必要な基礎的知識、協働の姿勢、学修態度を学び取るとともに、基本的な技術、技能の習得方法を考え、実践的な姿勢や方法をより一層学び取る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

準備学習、事後学習をしっかりと行い、主体性を持って協同して学ぶ態度をより一層身につける。
大学生活で学ぶ全般と本ゼミに於いて学ぶ技能、技術を統合してイラストレーション制作により一層反映する。
プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など大学で学ぶための素養をより一層身に付ける。

授業全体の内容と概要

授業はイラストレーションを中心とした題目についての講義やディスカッション、課題制作などを行い、イラストレーション全般についての知識や技能を学び取れるよう展開していく。物の見方、形のとらえ方といった美術全般に渡る基礎基本の習得には特に力を入れる。慣れてきた大学生活に於いての不安や戸惑いなどを解消させ、主体的に学修できるよう一人一人との対話を重視した授業を展開する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで行う。必要に応じてDVDなど視聴覚メディアを適宜使用。説明後、課題制作。講評会に於いてフィードバックを行う。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平面立体に拘らず描写力を付けたい人、美術教師を目指す人、画家やイラストレーターを目指す人などを対象とする。授業の内容は履修の学生の素養に合わせ適宜変更する可能性がある。無遅刻無欠席は社会人としての素養であることを理解できていること。毎回画材を持参（F6（またはA3）以上のクロッキー帳またはスケッチブック、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで5種類ほど）、カッター、色鉛筆（あれば水性と油性））主課題時はA3イラストレーションボード持参。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定などに基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学修態度・姿勢	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。協働して学ぶ姿勢が十分身に付いた	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。協働して学ぶ姿勢が身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてある程度身についた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身につかなかった
描写力・技術力	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につき、自分の作品に十分に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につき、自分の作品に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身についた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がある程度身についた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につかなかった。
表現力（プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力）	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身につき、周囲の士気を挙げることができた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層十分に身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がある程度は身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身につかなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動している教師がその経験と実績を活かして実践的な授業を展開する公立学校での教諭経験を生かし、一人ひとりに寄り添い学習を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション［シラバスの説明、当該科目を修了して身につく力について、準備学習・事後学習の説明］	シラバスを読む（４５分）	課題（４５分）
2	マインドマップ	課題（４５分）	課題（４５分）
3	構想１	課題（４５分）	課題（４５分）
4	構想２	課題（４５分）	課題（４５分）
5	エスキース（配色計画）	課題（４５分）	課題（４５分）
6	支持体準備	課題（４５分）	課題（４５分）
7	制作１	課題（４５分）	課題（４５分）
8	制作２	課題（４５分）	課題（４５分）
9	制作３	課題（４５分）	課題（４５分）
10	制作４	課題（４５分）	課題（４５分）
11	制作５	課題（４５分）	課題（４５分）
12	制作７	課題（４５分）	課題（４５分）
13	制作８　完成	課題（４５分）	課題（４５分）
14	制作９　額装	課題（４５分）	課題（４５分）
15	講評会（フィードバック）プレゼンテーション、ディスカッション	課題（４５分）	課題（４５分）
16	当該科目第１回目に示した「身につく力」の検証	課題（４５分）	学んだことをどのように作品に反映させるか検討する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　堤　美穂子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイン思考を理解し、社会における問題意識に対し、デザインによって解を求め、改善にあたる力を獲得することを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

以下の①②を有するデザイナー気質の獲得をめざす。
①自分の違和感や意見をもって他者に説明できると同時に、異なる意見にも耳を傾け、他を尊重した解をもとめようとする統合力。②結論や解決を急ぐのではなく、改善を繰り返すことでより高い理想へと近づこうとする探究心。

授業全体の内容と概要

デザインを、生きる力として身につけるために、問題提起や問いの提供によって物事や社会を心の目で見、多視点で捉えられるようになるなど、人間としての幅を拡張する。またデザイン事例をもとにした観察・議論等によって、デザインに埋め込まれた人間の意図を読み解く力を養う。

授業の方法

引き続き取り組むテーマについて深く考え、見る人に問いを提供できるアウトプットをめざす。活動計画をたててチームでフィールドワークを企画し、エスノグラフィックアプローチを試みる。議論を重ね、改善のプランをたて、プロトタイピングを繰り返して、そのプロセスをプレゼンテーションする。
各回の終わりにリフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分および他者に敬意を払った態度で授業に臨む。他の学生とともに学ぶことへの責任を果たす。常に学ぶことを面白がろうと努力する。理解できなかったことがあれば、その場で積極的に質問する。
毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。
不測の事態が発生した際には、オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針および規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学をサポートする。
講義中の録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	60%	%	40%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
本質的な問題意識、他者への伝達	社会や物事に対する本質的な問題意識をもち、それを他者に説明し共感を得ることができたため、チームが取り組む議題となった	社会や物事に対する本質的な問題意識をもち、それを他者に説明し共感を得ることができた	社会や物事に対する問題意識をもち、それを他者に説明し理解を得ることができた	社会や物事に対する問題意識はあるが、それを他者に説明できなかった	社会や物事に対する問題意識をもつことができなかった
デザイン思考	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて活用・実践することができた	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて考えることができた	デザイン思考を理解したが、本講義で実行するまでには至らなかった	デザイン思考の理解が不十分だった	デザイン思考をまったく理解できなかった
主体性・判断力・統合力	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重した、よりよい解を得るための統合力が発揮できた	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重した、よりよい解を得ようと考え、努力した	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重しようとした	自分の意見を抑え、他者の意見のみ尊重しようとした（または自分の意見のみ尊重し、他者の意見を抑えた）	自分の意見を発言せず、他者の意見に対する意見も発言しなかった
表現力・行動力	グループでの活動にリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、自らのアイディアが活用されるなど、活動の価値の向上に大いに貢献できた	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、アイディア創出や議論の活発化を促すなど自分の役割以上の貢献を果たした	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、自分の役割を果たした	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして参加したが、自分の役割やチームへの貢献が不十分だった	グループでの活動において参加意欲が見られず、自分の役割も果たせなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『誰のためのデザイン？増補・改訂版　―認知科学者のデザイン原論』』	D.A.ノーマン	新曜社	2015		
2	『芸術教養シリーズ29 新私たちのデザイン1 拡張するデザイン思考――創造的に生きるために』	早川克美	藝術学舎	2025		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、 「デザイン思考Ⅰ②」理論 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認、自らの問題意識や生活の中の違和感に目を向ける（45分）	リフレクションの記載。問題意識や違和感を探索する（45分）
2	「デザイン思考Ⅰ②」理論振り返り、「問題意識や違和感を制作テーマに結びつけ考察」個人発表、ディスカッション、グループ分け	フィードバックの確認。問題意識や違和感に気づき、個人発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「問題意識や違和感」の掘り下げ（45分）
3	テーマの再確認、制作に関わる計画・準備	フィードバックの確認。テーマの再確認と計画について考えてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
4	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
5	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
6	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
7	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
8	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
9	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
10	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
11	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
12	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
13	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
14	テーマの再確認、制作作業	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
15	アウトプットの完成をイメージして発表に備える、制作作業、次年度からの研究テーマについて考える	フィードバックの確認。作業に関わる準備、次年度からの研究テーマを計画してくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
16	アウトプット完成、発表、全体振り返り 次年に向けた計画とディスカッション 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	フィードバックの確認。作業に関わる準備をしてくる（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

美術学部の建築学科における教養として手を使った演習と、さまざまな美術作品・建築作品に触れ、美的、造形的素養や批判的思考力を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

美術作品や建築作品に触れ、感性を高め、その作品について深く理解できる。
手を使った演習を通して、表現できる。
物事を多角的な視点から問い直す批判的思考ができる。

授業全体の内容と概要

描画、スケッチ、作品制作を通じて手によるスキルアップを行う
美術作品や建築作品を実際に鑑賞し、それに関連する作品制作を行う。発表会にてお互いの作品を鑑賞し合う。
□SDGs３.すべての人に健康と福祉を　□SDGs１１.住み続けられるまちづくりを　□SDGs１２.つくる責任　つかう責任

授業の方法

資料は適宜指示、配布する。授業形態は、演習、グループワーク、実習などを含む。学生同士で相談などしても良い。課題に対するフィードバックは適宜行う。不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具が必要となるため、ガイダンスにて指示します。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術鑑賞を通じて作品を理解し、説明できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作品制作に必要な道具を使って基本的な芸術表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
物事を多角的の捉え批判的思考ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　赤木　良子　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：授業の説明、シラバス説明 、 当該科目を修了して身に付く力の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	スケッチチェック、課題説明	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築作品・美術作品　予習・事前準備	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築作品・美術作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築作品・美術作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築作品・美術作品鑑賞3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	建築作品・美術作品鑑賞4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	スケッチチェック、作品発表会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術学部の建築学科における教養として手を使った演習と、さまざまな美術作品・建築作品に触れ、美的、造形的素養や批判的思考力を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

美術作品や建築作品に触れ、感性を高め、その作品について深く理解できる。
手を使った演習を通して、表現できる。
物事を多角的な視点から問い直す批判的思考ができる。

授業全体の内容と概要

描画、スケッチ、作品制作を通じて手によるスキルアップを行う。
美術作品や建築作品を実際に鑑賞し、それに関連する作品制作を行う。発表会にてお互いの作品を鑑賞し合う。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」、「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」、「SDGs12．つくる責任　つかう責任」の関連科目

授業の方法

資料は適宜指示、配布する。授業形態は、演習、グループワーク、実習などを含む。学生同士で相談などしても良い。課題に対するフィードバックは適宜行う。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

道具が必要となるため、ガイダンスにて指示する。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術鑑賞を通じて作品を理解し、説明できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作品制作に必要な道具を使って基本的な芸術表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
物事を多角的の捉え、批判的思考ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：授業の説明、シラバス説明、当該科目を修了して身に付く力の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	スケッチチェック、課題説明	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築作品・美術作品　予習・事前準備	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築作品・美術作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築作品・美術作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築作品・美術作品鑑賞3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	建築作品・美術作品鑑賞4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	スケッチチェック、創作課題	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	スケッチチェック、作品発表会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	授業の進捗によって実地指導講師として小中学校の教諭を招聘する		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観、教育観、教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
③現代社会が抱える問題点やその価値観をしっかりと把握する。
④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観を形成し、これからの時代に必要な教育とその方法論を模索する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベート、構成的グループエンカウンターなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものにしているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語ることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは１００%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算５枚以上（２千字以上）。文字数を明記する。書式は問わない。
公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第１３回の講義当日。一日遅れるごとに１点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
より前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1	（単位認定責任者：　　佐藤　雅一　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	授業の進捗によって実地指導講師として小中学校の教諭を招聘する		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『CompTIA IT Fundamentals』	越智徹、佐藤雅一、宮崎龍二、出木原裕順	翔泳社	2015	ISBN978-4-7981-4338-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［オリエンテーション］ シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	［ビギナーズセミナーⅠ①］ 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
3	［ビギナーズセミナーⅠ②］ 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	［コンセンサスゲーム・ディスカッション応用］ グループディスカッションへの取り組み方について解説する。	グループディスカッションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
5	［コンセンサスゲーム・演習課題①］ グループディスカッションの練習を行う。	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	［コンセンサスゲーム・演習課題②］ グループディスカッションの練習を行う。	前回のグループディスカッションの反省点を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
7	［コンセンサスゲーム・プレゼンテーション基礎］ プレゼンテーションの目的や構成などについて解説する。	プレゼンテーションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
8	［コンセンサスゲーム・事例研究①］ 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回の授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
9	［コンセンサスゲーム・事例研究②］ 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回のプレゼンテーションの反省点を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
10	［総合演習①］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	これまでの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
11	［総合演習②］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
12	［総合演習③］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
13	［総合演習④］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
14	［総合演習⑤］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
15	［総合演習⑥（成果発表会）］ 提示された内容について、グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）
16	［まとめ・総評］ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　岡田　武志　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションも行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡田　武志（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　岡田　武志　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	レポート作成 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
3	レポートの発表とディスカッション　1 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
4	レポートの発表とディスカッション　2 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
5	レポートの発表とディスカッション　3 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
6	生涯スポーツの実践発表準備　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
7	生涯スポーツの実践発表準備　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
8	生涯スポーツの実践発表準備　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
9	生涯スポーツの実践発表準備　4	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
10	生涯スポーツの実践発表　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
11	生涯スポーツの実践発表　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
12	生涯スポーツの実践発表　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
13	生涯スポーツの実践発表　4	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
14	生涯スポーツの実践発表　5	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
15	生涯スポーツの実践発表のフィードバック	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプログラム （科目ナンバリング：DES091059　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階（佐藤）・２号館８階（三上）		
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	（佐藤）デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 （三上）漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	（佐藤）事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。 （三上）研究室前の掲示ボード等を参照 。				

概要

履修目標

基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につける。
クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につける。
イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験する。
クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶ。
イラストやマンガで表現することを学ぶ。

授業全体の内容と概要

クリエイティブな内容に触れることで感性を磨き、視野を広げ、表現力を身につけ、人としての成長を促す。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

いろいろな画材を用いてアナログの制作の体験をする。
使用する画材はすべてこちらで用意する。
PowerPointで技法の説明をする場合がある。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

筆記用具のみ持参すること。
授業の始めに説明するので遅刻はしないこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全８回のすべての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけ制作に活かすことができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法をある程度身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができなかった。
表現力	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを充分に身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルをある程度身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学ぶ。	イラストやマンガで表現することを学ぶことができなかった。
主体的な学び	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけ、制作に活かすことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢をある程度身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプログラム （科目ナンバリング：DES091059　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階（佐藤）・２号館８階（三上）		
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	（佐藤）デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 （三上）漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	（佐藤）事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。 （三上）研究室前の掲示ボード等を参照 。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」についての説明 マンガ技法①　つけペンの使い方	シラバスを読んでおくこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
2	マンガ技法②　構図・ペン入れの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
3	マンガ技法③　ペン入れ・ベタぬり	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
4	マンガ技法④　作品発表・講評にてフィードバック 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
5	シラバスの説明・「身に付く力」についての説明 イラスト制作①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
6	イラスト制作②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
7	イラスト制作③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
8	イラスト制作④　作品発表・講評にてフィードバック 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅱ （科目ナンバリング：EDP122067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室にて対応。				

概要

履修目標

こどもと家族を包括的支援の視点から，発達心理学，臨床心理学などの基礎的知見を踏まえ，現代の社会の状況や課題を明確にし，その支援のあり方について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP３，DP４，DP５に対応する科目。

到達目標

・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに，親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

・子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解する。

授業全体の内容と概要

発達心理学Ⅰで学んだ内容を基礎とし，青年期以降の発達的特徴について学ぶ。
そして，こどもの発達に果たす家族，家庭の機能について考える。
子育てや教育に関する各回のテーマに関する記事を自身の関心に従い新聞やニュースから探し，
自を通してから授業に臨み，授業後には関連を自分なりにノートにまとめておくことを期待する。

「SDG.４質の高い高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，テキスト，パワーポイント，配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。そして，PCもしくはスマートフォンを使用する。
学習内容の定着および学習理解度を確認するため、毎時間の終了時に質問や感想（リアクションシート）をMicrosoft　Teams/Formsの諸機能を活用して、提出する。
これに対して授業者より、次回の講義時もしくは個別にコメントを回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分で振り返ることができるようなノートづくりを心がける。
授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
テキストを必ず購入すること。
本授業では、保育園における保育交流を実施する予定である。
保育園側の行事・運営状況により日程が流動的となるため、変更が生じる場合がある。
日程確定および変更は、授業内またはTeamsで随時連絡する。尚、保育交流の日程は流動的である

16回の講義のうち，保育交流（１回），映画鑑賞（１回）を行う。この二つについてレポートすることになり、必ず授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。レポート課題，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート），授業態度を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた.	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	こどもと家族の関係性、その様々なあり方について，資料等も見ずに説明ができ，自分の考えを述べることができる。	こどもと家族の関係性，その様々なあり方について，資料等も見ながら説明ができ，自分の考えを述べることができる。	こどもと家族の関係性，その様々なあり方について，資料等も見ながら説明ができる。	こどもと家族の関係性，その様々なあり方について，資料等も見ながら部分的に説明ができる。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅱ （科目ナンバリング：EDP122067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室にて対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『事例で楽しむ学ぶ子ども家庭支援の心理学』	芝野松次郎	中法法規	２０２３	9784805888438	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く」力の説明を含む），授業改善アンケート結果反映の説明 親子関係・家族関係における発達と実際	発達心理学Ⅰで学んだことを確認しておくこと（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	青年期の発達の特徴と課題①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	青年期の発達の特徴と課題②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	成人期・老年期の発達の特徴と課題	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	子どもの生活・生育環境とその影響 保育交流	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	子どもの心の健康にかかわる問題①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	子どもの心の健康に関わる問題②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	子育てを取り巻く社会的状況① VTR視聴	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	子育てを取り巻く社会的状況②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	ライフコースと仕事・子育て	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	多様な家庭とその理解	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	特別な配慮を必要とする家庭	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	家族・家庭の意義と機能	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	親子関係・家族関係の理解	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	子育て経験と親としての育ち	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	これまでの学習のまとめ，授業改善アンケートの実施， 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	これまでの学修姿勢について自ら振り返り評価する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門演習	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして研究手法と論文作成を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業は、経営学部における学修成果の総括として卒業論文を作成することを目的とする。学生は自ら研究テーマを設定し、先行研究の調査、資料収集、データ分析を行い、客観的根拠に基づいた論理的考察を行う。
この過程を通じて問題発見能力、情報収集能力、分析能力、論理的思考力、学術的文章表現能力を総合的に修得する。
また研究倫理を理解し、適切な引用と資料提示を行うことで、学術研究に必要な基本的態度を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

① 経営学分野の研究テーマを設定し、研究課題を明確化できる（研究設計能力）
② 先行研究や資料を適切に収集し、研究に活用できる（情報収集能力）
③ 客観的根拠に基づいた分析と論理的考察を行うことができる（分析能力）
④ 学術論文の形式に沿った文章を作成できる（論述能力）
⑤ 自主的に研究計画を立て、期限内に卒業論文を完成させることができる（研究遂行能力）

授業全体の内容と概要

本授業では、卒業論文の作成を通じて研究活動の基本的プロセスを学ぶ。
① テーマ設定、② 先行研究調査、③ 研究方法の検討、④ データ収集・分析、⑤ 考察、⑥ 卒業論文執筆の各段階を順に進める。
授業では、研究計画の報告、中間発表、進捗報告、個別指導を通して、卒業論文作成を段階的に進める。
最終的に完成した卒業論文を提出し、研究成果を発表することで研究内容を共有する。

授業の方法

本授業は演習形式で行う。学生は各自の研究テーマに基づき卒業論文作成を進め、授業内では進捗報告、討論、個別指導を行う。
主な学習活動は以下の通りとする。
　① 文献や先行研究の調査、② 研究計画作成、③ 進捗報告、④ 中間発表、⑤ 論文執筆、⑥ 最終発表
Microsoft Teamsを学習支援および連絡手段として利用する。資料共有、課題提出、進捗確認等をオンラインで行う場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

卒業論文では、剽窃・不正引用を厳しく禁止する。引用文献および資料の出典を明確に示すこと。
また研究資料やデータは必ず保存し、必要に応じて提示できるようにしておくこと。

修学サポート（合理的配慮）

学生から事前相談を受けた場合、本学の基本方針に基づき合理的配慮を行う。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマと問題設定	社会的・学術的意義の高い研究テーマを設定し、研究課題が明確で独創性が高い	研究テーマが明確であり、研究課題が適切に設定されている	研究テーマは設定されているが、研究課題の焦点がやや不明確である	研究テーマは設定されているが、研究の目的や意義が十分に示されていない	研究テーマや研究目的が明確に設定されていない
先行研究と資料調査（知識・技能）	先行研究や資料を幅広く収集し、適切に整理・分析して研究に活用している	必要な先行研究や資料を適切に収集し、研究に活用している	先行研究や資料を使用しているが、整理や活用が十分ではない	最低限の先行研究は参照しているが、調査が不十分である	先行研究や資料調査がほとんど行われていない
分析・考察（思考力・判断力）	データや資料の分析が非常に論理的であり、説得力の高い考察が展開されている	データや資料の分析が非常に論理的であり、説得力の高い考察が展開されている	分析や考察は行われているが、論理の一部に不足がある	基本的な分析は行われているが、考察が十分とは言えない	基本的な分析は行われているが、考察が十分とは言えない
論文構成・表現（表現力）	論文構成が非常に明確であり、学術論文として高い文章表現力を有する	論文構成が非常に明確であり、学術論文として高い文章表現力を有する	論文構成は概ね整っているが、説明や文章表現に改善の余地がある	基本的な論文形式は満たしているが、文章表現が十分ではない	基本的な論文形式は満たしているが、文章表現が十分ではない
研究プロセス（主体性・進捗管理・研究倫理	主体的に研究計画を立て、研究倫理を遵守しながら計画以上の成果を達成している	研究計画に沿って主体的に研究を進め、期限内に論文を完成している	指導を受けながら研究を進め、期限内に論文を完成している	研究の進行に遅れがあるが、最低限の形で論文を完成している	研究への取り組みが不十分で、期限までに論文を完成できない

基本情報

科目分類区分	専門演習	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　由水　伸　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして研究手法と論文作成を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（ 過去の授業改善アンケートと結果の説明	シラバスの確認（９０分）	授業内容の確認（９０分）
2	論文の基本構成 本学科指定の卒業論文形式について	様々な論文の検索（９０分）	研究テーマ策定（９０分）
3	研究テーマの選定	研究テーマ策定（９０分）	研究テーマまとめ（９０分）
4	文献や先行研究の調査	テーマに対する文献や先行研究の調査（９０分）	先行研究調査（９０分）
5	先行研究レビュー	先行研究調査（９０分）	先行研究まとめ（９０分）
6	研究方法と仮目次の検討	卒業論文構成の素案（９０分）	卒業論文構成のまとめ（９０分）
7	引用方法と研究倫理	引用の方法（９０分）	引用方法のまとめ（９０分）
8	要旨と参考文献について	既存の論文の要旨と参考文献の確認（９０分）	要旨と参考文献のまとめ（９０分）
9	研究進捗報告と討論	報告資料の準備（９０分）	中間発表用原稿作成（９０分）
10	中間発表	執筆作業（９０分）	執筆作業（９０分）
11	執筆指導	卒業論文の完成チェック（９０分）	指摘事項の振り返りと卒業論文完成（９０分）
12	卒業論文提出	完成した卒業論文の校正（９０分）	論卒業文発表資料作成（９０分）
13	卒業論文発表 ＃卒業論文の修正が必要な場合は再提出を行う	卒業論文発表資料作成（９０分）	卒業論文発表資料作成（９０分）
14	卒業論文発表（予備回） ＃卒業論文の修正が無かった場合は、研究内容のゼミ内での講評会	卒業論文発表資料作成（９０分）	総合的振り返り（９０分）
15	総括	予習課題（９０分）	これまでの取り組みを整理（９０分）
16	まとめ 指導教員による、卒論へのフィードバック実施	これまでの取り組みを整理（９０分）	総合的振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	4　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学での3年数か月に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をもとに経営学部生としての総括として論文を作成する。各自自主的にテーマを設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加えてもらう。客観的に問題を分析・解決する能力の実践を目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解・研究し、明確なテーマに沿って客観的考察を行う。また、そのために必要な資料やデータを収集し文字化する。可能な限り後輩や社会の未来に対し財産となるような取り組みを期待する。

授業全体の内容と概要

「題材」に沿った形でテーマを決定し作成を進める。最終的な成果を論文の形にまとめることが求められる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など持てる能力を全て発揮してもらう。

授業の方法

自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報連相を繰り返すことにより高いクオリティを求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

適宜アナウンスするので、その指示に従うこと。本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出処、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の剽窃を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。これらは積極性を確認する極めて有効な手段であると断じる。尚、不測の事態の際はオンラインで指導する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回/１６回（２６回/３２回）以上。
最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	８０%	0%	0%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜準備・配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して（科目オリエンテーション） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	180分	180分
2	担当教員による指導①	180分	180分
3	担当教員による指導②	180分	180分
4	担当教員による指導③	180分	180分
5	担当教員による指導④	180分	180分
6	担当教員による指導⑤　中間審査①	180分	180分
7	担当教員による指導⑥	180分	180分
8	担当教員による指導⑦	180分	180分
9	担当教員による指導⑧	180分	180分
10	担当教員による指導⑨	180分	180分
11	担当教員による指導⑩　中間審査②	180分	180分
12	担当教員による指導⑪	180分	180分
13	担当教員による指導⑫	180分	180分
14	担当教員による指導⑬	180分	180分
15	担当教員による指導⑭	180分	180分
16	担当教員による最終指導と論文提出期限の確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	180分	180分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　河野　善文　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、本学での3年数か月に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をもとに経営学部生としての総括として論文を作成する。各専門演習担当教員が示した題材をもとに各自自主的にテーマを背設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加えてもらう。学問的に問題解決する力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解・研究し、明確なテーマに沿って客観的考察を行う。また、そのために必要な資料やデータを収集し文字化する。可能な限り後輩や社会の未来に対し財産となるような取り組みを期待する。

授業全体の内容と概要

それぞれの担当教員が提示している「題材」に沿った形でテーマを決定し作成が進められる。最終的な成果を論文の形にまとめることが求められる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など持てる能力を全て発揮してもらう。

授業の方法

自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報連相を繰り返しより高いクオリティを求める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員がアナウンスするので、その指示に従うこと。本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、担当教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出処、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の剽窃を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。これらは積極性を確認する極めて有効な手段であると断じる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

本科目は演習扱いである。したがって８０%を超える出席がない場合評価対象としない。最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　河野　善文　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して（科目オリエンテーション） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む	シラバスの確認（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
2	論文テーマの探索 日常生活の疑問・不思議からテーマを探る	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
3	問いをたてる(1) テーマに関する疑問や気づきから問題・課題の抽出をこころみる	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
4	問いをたてる(2) テーマから抽出した問題・課題の報告と対話	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
5	仮説をたてる(1) 決定したテーマの問いに関して仮説を検討する	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
6	仮説をたてる(2) テーマに関して仮説の報告と対話 中間審査①	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
7	資料収集と考察(1) テーマに関する文献資料等を探索する	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
8	資料収集と考察(2) 文献資料等の読み込みと報告	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
9	仮説の見直し(1) 資料の他者の意見をもとに仮説を見直す	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
10	仮説の見直し(2) 見直した仮説の報告と対話 問いに関する結論をまとめる	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
11	中間審査② 論文概要の作成 テーマに関する問いと結論、参考意見を整理する 論文のアウトラインを考えて報告	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
12	論文執筆	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
13	論文執筆	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
14	論文執筆	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
15	授業に係る講評・解説によるフィードバック	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）
16	最終指導と論文提出期限の確認 これまでの演習ならびに卒論へのコメント 科目を修了して「身に付く力」の検証	前回の演習で指示した内容を予習（180分）	演習内容をノートにまとめる（180分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学部・名誉教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	4　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本学での3年数か月に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をもとに経営学部生としての総括として論文を作成する。各専門演習担当教員が示した題材をもとに各自自主的にテーマを設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加えてもらう。学問的に問題解決する力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解・研究し、明確なテーマに沿って客観的考察を行う。また、そのために必要な資料やデータを収集し文字化する。可能な限り後輩や社会の未来に対し財産となるような取り組みを期待する。

授業全体の内容と概要

それぞれの担当教員が提示している「題材」に沿った形でテーマを決定し作成が進められる。最終的な成果を論文の形にまとめることが求められる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など持てる能力を全て発揮してもらう。

授業の方法

自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報連相を繰り返しより高いクオリティを求める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

アナウンスするので、その指示に従うこと。本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、担当教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出処、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の剽窃を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。これらは積極性を確認する極めて有効な手段であると断じる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営学部・名誉教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	4　（単位認定責任者：　岡島　徳昭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して（科目オリエンテーション） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	180分	180分
2	担当教員による指導①	180分	180分
3	担当教員による指導②	180分	180分
4	担当教員による指導③	180分	180分
5	担当教員による指導④	180分	180分
6	担当教員による指導⑤　中間審査①	180分	180分
7	担当教員による指導⑥	180分	180分
8	担当教員による指導⑦	180分	180分
9	担当教員による指導⑧	180分	180分
10	担当教員による指導⑨	180分	180分
11	担当教員による指導⑩　中間審査②	180分	180分
12	担当教員による指導⑪	180分	180分
13	担当教員による指導⑫	180分	180分
14	担当教員による指導⑬	180分	180分
15	担当教員による指導⑭	180分	180分
16	担当教員による最終指導と論文提出期限の確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	180分	180分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	4　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。
専門領域を通して、総括として論文を作成する。各自自主的にテーマを背設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加え、問題解決に取り組む。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。
法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。
多岐にわたる分野を理解・研究し、客観的考察を行う。そのために必要な資料やデータを収集しまとめる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。
提示している「題材」に沿ってテーマを決定し作成が進められる。最終的な成果を論文の形にまとめる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など用い、客観的考察を行う。

「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「ＳＤＧ８.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

卒業論文を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
自分で決めたテーマに沿った考察を行うため、情報収集・分析・考察を加え、論文をまとめ上げる。
※不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※補講はオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、担当教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出処、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の剽窃を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　青山　浩之　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
2	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 卒業論文要領確認	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
3	卒業論文テーマ作成（１）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
4	卒業論文テーマ作成（２）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
5	卒業論文調べ学習（１）新聞・白書	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
6	卒業論文調べ学習（２）図書館	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
7	卒業論文調べ学習（３）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
8	卒業論文作成（１）卒業論文概要作成	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
9	卒業論文作成（２）卒業論文概要作成	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
10	卒業論文作成（３）卒業論文概要講評	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
11	卒業論文作成（４）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
12	卒業論文作成（５）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
13	卒業論文作成（６）卒業論文発表（１）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
14	卒業論文作成（７）卒業論文発表（２）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
15	卒業論文作成（８）卒業論文講評	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
16	卒業論文作成（９）卒業論文講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、フィールドワークによる調査を推奨する。		
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学での3年数か月に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をもとに経営学部生としての総括として論文を作成することを目的とする。研究テーマについては、原則、学生の任意とするが、担当教官と協議の上、客観的なデータと仮説を実証する調査（検証）のあるテーマとする。科目を修了して、社会人基礎力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

これまで経営学部で学んできたことを活用して、客観的考察を行うことができる。また、そのために必要な資料やデータを収集し、文字化・図表化することで、自分の主張が読み手に伝わる力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

卒業論文は、一人一人の学生に対して個別指導を行う。受講生は、就職活動と重なる時期でもあることから、できる限り早い段階で進路を決定して、卒業論文に掛ける時間を確保することを期待したい。

授業の方法

自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報連相を繰り返しより高いクオリティを求める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

卒業論文の研究テーマ決定以降は、概ね二週間に１度、進捗状況を指導教官まで報告すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4	（単位認定責任者：　石山　玄幸　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、フィールドワークによる調査を推奨する。		
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して（科目オリエンテーション：石山玄幸）シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	180分	180分
2	石山玄幸による指導①	180分	180分
3	石山玄幸による指導②	180分	180分
4	石山玄幸による指導③	180分	180分
5	石山玄幸による指導④	180分	180分
6	石山玄幸による指導⑤　中間審査①	180分	180分
7	石山玄幸による指導⑥	180分	180分
8	石山玄幸による指導⑦	180分	180分
9	石山玄幸による指導⑧	180分	180分
10	石山玄幸による指導⑨	180分	180分
11	石山玄幸による指導⑩　中間審査②	180分	180分
12	石山玄幸による指導⑪	180分	180分
13	石山玄幸による指導⑫	180分	180分
14	石山玄幸による指導⑬	180分	180分
15	石山玄幸による指導⑭	180分	180分
16	石山玄幸による最終指導と論文提出期限の確認。科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック。	180分	180分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	4　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院運動生理学研究室での経験を活かして指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ゼミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基づき、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・学修から得られた幅広く豊かな知識と教養，および自己の倫理観に基づき，果たすべき社会的責任を実現するための方法を適切に選択できる。
・具体的な社会現象や社会問題を入り口に，「あたりまえ」の理解からは読み取れない現代社会の多層性と多様性を，収集したデータに基づき論理的・批判的に理解し，その本質を他者に説明することができる。
・どのような研究課題や社会問題に対しても，その解決のために必要な情報や知識，資源を集め，分析を通じて解決策を提示することができる。

授業全体の内容と概要

全ての回を課題研究でおこなう。毎回、メールにて課題研究の内容を担当教員に提出し、担当教員はメールでフィードバックをおこなう。

授業の方法

個人による研究成果報告とそれに対する教員による講評や解説をメインとするが，教員による講義ならびに履修者に対する個別指導も適宜おこなっていく。
本授業の事前・事後学習は，各９０分の学習を目安とする。なお、各回における受講生からの報告や質問については、Teamsを用いて応答しつつ、受講者全体にフィードバックされるように授業を展開する。また翌週の回においても、重要な報告や質問について解説する時間を設ける。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 ①　チームの一員としてのルールやマナーを守り，周りとの協調性を持って研究に取り組むことができる。 ②　相手の視点に立って，相手の考え方や感情を理解することができる（共感力を有する） ③　研究活動に関わる諸規	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
計画 ①　研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 ②　得られた知識を論理的に組み上げることができる。 ③　問題点（課題）を抽出することができる。 ④　その解決ための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
技能（実施・検証） ①　確固たる技術の基に，実験を遂行することができる。 ②　実験に用いる薬品，器具，機器等を正しく取扱い，管理することができる。 ③　研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
まとめ・考察・発表 ①　研究結果を適切に整理することができる。 ②　得られた結果が示唆する事柄について，先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 ③　研究の成果を発表し，的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	4	（単位認定責任者：　天野　雅斗　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院運動生理学研究室での経験を活かして指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	１８０分	調査・研究データを整理する（１８０分）
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる①	調査・研究データを整理する（１８０分）	論文の目次構成を作成する（１８０分）
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる②	調査・研究データを整理する（１８０分）	論文の目次構成を作成する（１８０分）
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる③	調査・研究データを整理する（１８０分）	論文の目次構成を作成する（１８０分）
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる④	調査・研究データを整理する（１８０分）	論文の目次構成を作成する（１８０分）
6	卒業論文の執筆①	卒業論文を執筆する（１８０分）	議論や難点をリストアップする（１８０分）
7	卒業論文の執筆②	卒業論文を執筆する（１８０分）	議論や難点をリストアップする（１８０分
8	卒業論文の執筆③	卒業論文を執筆する（１８０分）	議論や難点をリストアップする（１８０分
9	卒業論文の執筆④	卒業論文を執筆する（１８０分）	議論や難点をリストアップする（１８０分
10	卒業論文の執筆⑤	卒業論文を執筆する（１８０分）	議論や難点をリストアップする（１８０分
11	卒業論文の執筆⑥	卒業論文を執筆する（１８０分）	議論や難点をリストアップする（１８０分
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる（１８０分）	リライトの内容を確定する（１８０分）
13	草稿をリライトして精度を上げる①	草稿のリライトを行う（１８０分）	草稿のリライトを行う（１８０分）
14	草稿をリライトして精度を上げる②	草稿のリライトを行う（１８０分）	草稿のリライトを行う（１８０分）
15	草稿をリライトして精度を上げる③	草稿のリライトを行う（１８０分）	草稿のリライトを行う（１８０分）
16	卒業論文の完成 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	卒業論文を完成させる（１８０分）	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う（１８０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ゼミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基づき、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習する。
卒業論文の作成にあたり思考・判断・表現力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・学修から得られた幅広く豊かな知識と教養，および自己の倫理観に基づき，果たすべき社会的責任を実現するための方法を適切に選択身につける事ができる。
・具体的な社会現象や社会問題を入り口に，「あたりまえ」の理解からは読み取れない現代社会の多層性と多様性を，収集したデータに基づき論理的・批判的に理解し，その本質を他者に説明することができる能力を身につける。
・どのような研究課題や社会問題に対しても，その解決のために必要な情報や知識，資源を集め，分析を通じて解決策を提示することができる。

授業全体の内容と概要

全ての回を課題研究でおこなう。毎回、メールにて課題研究の内容を担当教員に提出し、担当教員はメールでフィードバックをおこなう。
SDG4 質の高い教育目標に課題研究内容を精査して指導していく。

授業の方法

個人による研究成果報告とそれに対する教員による講評や解説をメインとするが，教員による講義ならびに履修者に対する個別指導も適宜おこなっていく。
本授業の事前・事後学習は，各９０分の学習を目安とする。なお、各回における受講生からの報告や質問については、Teamsを用いて応答しつつ、受講者全体にフィードバックされるように授業を展開する。また翌週の回においても、重要な報告や質問について解説する時間を設ける。
なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。
フィードバックして到達目標が獲得できたか身につける事ができたかどうか評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 ①　チームの一員としてのルールやマナーを守り，周りとの協調性を持って研究に取り組むことができる。 ②　相手の視点に立って，相手の考え方や感情を理解することができる（共感力を有する）。 ③　研究活動に関わる諸規	非常によく到達目標を身につける事ができた	よく到達目標を身につける事ができた	ある程度到達目標を身につける事ができた	どちらかというとよく到達目標を身につける事ができていない	到達目標を身につける事ができていない
計画 ①　研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 ②　得られた知識を論理的に組み上げることができる。 ③　問題点（課題）を抽出することができる。 ④　その解決ための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
技能（実施・検証） ①　確固たる技術の基に，実験を遂行することができる。 ②　実験に用いる薬品，器具，機器等を正しく取扱い，管理することができる。 ③　研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
まとめ・考察・発表 ①　研究結果を適切に整理することができる。 ②　得られた結果が示唆する事柄について，先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 ③　研究の成果を発表し，的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　石井　祐治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 身に付ける力の授業内容とシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス 事前指導 （45分）	調査・研究データを整理する（45分）
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる①	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる②	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる③	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる④	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
6	卒業論文の執筆①	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分）
7	卒業論文の執筆②	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
8	卒業論文の執筆③	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
9	卒業論文の執筆④	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
10	卒業論文の執筆⑤	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
11	卒業論文の執筆⑥	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる（９０分）	リライトの内容を確定する（９０分）
13	草稿をリライトして精度を上げる①	草稿のリライトを行う（９０分）	草稿のリライトを行う（９０分）
14	草稿をリライトして精度を上げる②	草稿のリライトを行う（９０分）	草稿のリライトを行う（９０分）
15	草稿をリライトして精度を上げる③	草稿のリライトを行う（９０分）	草稿のリライトを行う（９０分）
16	卒業論文の完成 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 身に付ける事ができたかどうかをフィードバックして検証	卒業論文を完成させる（９０分）	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　篠原諒介　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ゼミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基づき、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・学修から得られた幅広く豊かな知識と教養，および自己の倫理観に基づき，果たすべき社会的責任を実現するための方法を適切に選択できる。
・具体的な社会現象や社会問題を入り口に，「あたりまえ」の理解からは読み取れない現代社会の多層性と多様性を，収集したデータに基づき論理的・批判的に理解し，その本質を他者に説明することができる。
・どのような研究課題や社会問題に対しても，その解決のために必要な情報や知識，資源を集め，分析を通じて解決策を提示することができる。

授業全体の内容と概要

全ての回を課題研究でおこなう。毎回、メールにて課題研究の内容を担当教員に提出し、担当教員はメールでフィードバックをおこなう。

授業の方法

個人による研究成果報告とそれに対する教員による講評や解説をメインとするが，教員による講義ならびに履修者に対する個別指導も適宜おこなっていく。
本授業の事前・事後学習は，各９０分の学習を目安とする。なお、各回における受講生からの報告や質問については、Teamsを用いて応答しつつ、受講者全体にフィードバックされるように授業を展開する。また翌週の回においても、重要な報告や質問について解説する時間を設ける。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 ①　チームの一員としてのルールやマナーを守り，周りとの協調性を持って研究に取り組むことができる。 ②　相手の視点に立って，相手の考え方や感情を理解することができる（共感力を有する） ③　研究活動に関わる諸規	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
計画 ①　研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 ②　得られた知識を論理的に組み上げることができる。 ③　問題点（課題）を抽出することができる。 ④　その解決ための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
技能（実施・検証） ①　確固たる技術の基に，実験を遂行することができる。 ②　実験に用いる薬品，器具，機器等を正しく取扱い，管理することができる。 ③　研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない
まとめ・考察・発表 ①　研究結果を適切に整理することができる。 ②　得られた結果が示唆する事柄について，先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 ③　研究の成果を発表し，的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというとできている	どちらかというとできていない	できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　篠原諒介　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 及び授業改善アンケート結果反映の説明	調査・研究データを整理する（９０分）	調査・研究データを整理する（９０分）
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる①	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる②	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる③	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる④	調査・研究データを整理する（９０分）	論文の目次構成を作成する（９０分）
6	卒業論文の執筆①	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分）
7	卒業論文の執筆②	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
8	卒業論文の執筆③	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
9	卒業論文の執筆④	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
10	卒業論文の執筆⑤	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
11	卒業論文の執筆⑥	卒業論文を執筆する（９０分）	議論や難点をリストアップする（９０分
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる（９０分）	リライトの内容を確定する（９０分）
13	草稿をリライトして精度を上げる①	草稿のリライトを行う（９０分）	草稿のリライトを行う（９０分）
14	草稿をリライトして精度を上げる②	草稿のリライトを行う（９０分）	草稿のリライトを行う（９０分）
15	草稿をリライトして精度を上げる③	草稿のリライトを行う（９０分）	草稿のリライトを行う（９０分）
16	卒業論文の完成 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	卒業論文を完成させる（９０分）	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	4　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の収集・分析、参考文献の引用の方法を学ぶとともに、探究的な研究活動をとおして卒業後の実務にも生かせる主体的な学びの習慣や方法を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

卒業論文を執筆、完成させ、自分が執筆した論文の内容をプレゼンテーションすることができる。

授業全体の内容と概要

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的にマンツーマンの指導で行い、進行状況によって、全体共有の機会をつくる場合がある。
推進状況によっては、個別に時間を設定して指導することがある。
Microsoft TeamsやForms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習ⅡA・Ｂ」を担当する教員が指導する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

卒業論文の提出をもって、卒業論文の量や質などで評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文の執筆	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など自ら論理的な構成によってまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など自ら論理的な構成に自ら努めながらまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など，指導教員の助言を受けて、まとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など，常に指導教員の支援や指示を受けながらまとめた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など，自らまとめることができなかった。
文献調査やデータ収集・整理	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など自ら文献調査やデータ収集・整理を行ってまとめることができた。	指テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など文献調査やデータ収集・整理を行ってまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の助言を受けて、文献調査やデータ収集・整理を行ってまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の支援や指示を受けて文献調査やデータ収集・整理をほぼ行うことができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の支援や指示を受けても文献調査やデータ収集・整理を行っうことができなかった。
プレゼンテーションによる説明	自ら論文内容に沿ったプレゼンテーションを工夫し，分かりやすく説明できた。	自ら論文内容に沿ったプレゼンテーションを作成し、分かりやすい説明に努めた。	自ら論文内容に沿ったプレゼンテーションを作成し、説明できた。	指導教員にアドバイスを受けながら論文内容のプレゼンテーションを作成し、発表した。	指導教員にアドバイスを受けながらも論文内容のプレゼンテーションの作成ができず，発表もできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	4　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 論文作成の目的、方法、計画の確認、科目を修了して「身に付く力」の説明	提示資料の作成、準備（４５分）	学修内容の確認（４５分）
2	文献研究等による情報収集・内容整理　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
3	文献研究等による情報収集・内容整理　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
4	文献研究等による情報収集・内容整理　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
5	論文内容と構成の検討　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
6	論文内容と構成の検討　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
7	論文の作成、執筆　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
8	論文の作成、執筆　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
9	論文の作成、執筆　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
10	論文の作成、執筆　４	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
11	論文の作成、執筆　５	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
12	論文執筆内容の共有・協議　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
13	論文執筆内容の共有・協議　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
14	論文の作成、執筆及び個別指導　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
15	論文の作成、執筆及び個別指導　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
16	論文の作成、執筆及び個別指導　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	論文の作成、執筆及び個別指導　４	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
18	論文の作成、執筆及び個別指導　５	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
19	論文の作成、執筆及び個別指導　６	指提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
20	論文の作成、執筆及び個別指導　７	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
21	論文の作成、執筆及び個別指導　８	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
22	論文の作成、執筆及び個別指導　９	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
23	論文の作成、執筆及び個別指導　１０	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
24	執筆内容の共有、協議　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
25	論文の修正・加筆　１	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
26	論文の修正・加筆　２	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
27	論文の修正・加筆　２	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
28	プレゼンテーションの準備　１	提示資料の準備、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
29	プレゼンテーションの準備　２	提示資料の準備、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
30	プレゼンテーションの準備　３	提示資料の準備、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
31	論文内容のプレゼンテーションと視聴　１　講評・フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	提示資料の準備、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
32	論文内容のプレゼンテーションと視聴　２　講評・フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	提示資料の準備、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）	研究室等所在	１号館２階　２号館８階		
単位数	4　（単位認定責任者：　専門演習ⅡAB担当教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各指導教員によって異なる。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各指導教員によって異なる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）	研究室等所在	１号館２階　２号館８階		
単位数	4　（単位認定責任者：　専門演習ⅡAB担当教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(履修によって「身に付く力」の説明を含む)	指導教員による	指導教員による
2	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
3	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
4	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
5	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
6	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
7	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
8	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
9	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
10	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
11	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
12	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
13	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
14	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
15	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
16	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導、中間報告会	指導教員による	指導教員による

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
18	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
19	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
20	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
21	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
22	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
23	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
24	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
25	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
26	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
27	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
28	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
29	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
30	課題への取組み、文献検索と論文執筆の個別指導	指導教員による	指導教員による
31	論文執筆の個別指導、論文提出、ゼミ内の発表・講評	指導教員による	指導教員による
32	指導教員による、卒論へのフィードバック実施 「身に付く力」の検証）	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１，ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる内容は個別に通知する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による『身に付く力』についての説明 論文作成の目的、方法、計画の確認	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	指導教員による講評・フィードバック（科目を修了して『身に付く力』についての検証）	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各指導教員によって異なる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各指導教員によって異なる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　畠山　明子　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による 科目を修了して「身に付く力」についての説明	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
2	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
3	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
4	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
5	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
6	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
7	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
8	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
9	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
10	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
11	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
12	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
13	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
14	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
15	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
16	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
18	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
19	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
20	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
21	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
22	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
23	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
24	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
25	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
26	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
27	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
28	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
29	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
30	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
31	指導教員による	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）
32	指導教員による フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	指導教員による（45分）	指導教員による（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　松下　守邦（社会福祉学科・教授）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードにある対応時間、連絡方法などの案内を参照する。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1，DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学生と教員の個別指導が主になるが、ゼミ・グループ４年生、３年生の合同学習をおこなう。
Microsoft Teams/Formsを利用し、情報共有、原稿修正などに活用する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ていねいに卒業論文の仕上げをおこなう。
不測の事態の際には、オンライン授業を行う場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

履修前の事前相談調整をおこない、本学の基本方針及び規程をふまえ、、学生と教員（大学）が同意のもとに修学サポートをおこなう。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

専門演習ⅠAB、専門演習ⅡABの継続指導をふまえ、卒業論文を審査する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　　松下　守邦（社会福祉学科・教授）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードにある対応時間、連絡方法などの案内を参照する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による シラバスと、本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。 学生報告の役割分担を確認する。	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
22	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
23	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
24	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
25	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
26	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
27	論文提出（社会福祉学科提出日）	指導教員による	指導教員による
28	論文修正、加筆	指導教員による	指導教員による
29	論文修正、加筆	指導教員による	指導教員による
30	報告会準備（ゼミ卒論集の作成、要旨報告）	指導教員による	指導教員による
31	報告会準備（ゼミ卒論集の作成、要旨報告）	指導教員による	指導教員による
32	報告会 授業の総括、フィードバック、提出論文個別講評、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明する。	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	4　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに、研究テーマにそった論文執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

卒業論文を完成させ、自身が執筆した論文の内容について、プレゼンテーションによりわかりやすく説明することができる。

授業全体の内容と概要

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的にマンツーマンの指導で行い、進行状況によって、全体共有の機会をつくる。
推進状況によって、個別に時間を設定して指導する。
Microsoft TeamsやForms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習ⅡA」を担当した教員が指導する。
特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもっている者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席数は２２回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自ら論理的な構成により発展的にまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自ら論理的な構成によりまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自らまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、常に指導教員の支援や指示を受けながらまとめた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自らまとめることができなかった。
データ提出	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自ら論理的な構成により発展的にまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自ら論理的な構成によりまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自らまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、常に指導教員の支援や指示を受けながらまとめた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自らまとめることができなかった。
プレゼンテーションにより説明する。	論文内容に沿ったプレゼンテーションを自らわかりやすく作成し、優れた発表ができた。	論文内容に沿ったプレゼンテーションを自らわかりやすく作成し発表できた。	論文内容に沿ったプレゼンテーションを自ら作成し発表できた。	常に指導教員の支援や指示を受けながら論文内容に沿ったプレゼンテーションを作成し発表できた。	論文内容に沿ったプレゼンテーションを作成し発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　堀川　厚志　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに、研究テーマにそった論文執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」の説明 活動の目的、方法、作成執筆計画等の確認	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
2	文献研究等による情報収集、内容整理と構成検討　１	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
3	文献研究等による情報収集、内容整理と構成検討　２	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
4	文献研究等による情報収集、内容整理と構成検討　３	提示資料の作成 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
5	内容整理と構成の共有、協議　①	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
6	内容整理と構成の共有、協議　②	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
7	論文の作成、執筆　１	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
8	論文の作成、執筆　２	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
9	論文の作成、執筆　３	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
10	論文の作成、執筆　４	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
11	執筆内容の共有、協議③	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
12	執筆内容の共有、協議④	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
13	論文の作成、執筆及び個別指導　１	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
14	論論文の作成、執筆及び個別指導　２	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
15	論文の作成、執筆及び個別指導　３	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
16	論文の作成、執筆及び個別指導　４	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	執筆内容の共有、協議⑤	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
18	執筆内容の共有、協議⑥	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
19	論文の作成、執筆及び個別指導　５	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
20	論文の作成、執筆及び個別指導　６	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
21	論文の作成、執筆及び個別指導　７	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
22	論文の作成、執筆及び個別指導　８	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
23	論文の作成、執筆及び個別指導　９	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
24	論文の作成、執筆及び個別指導　１０	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
25	論文の作成、執筆及び個別指導　１１	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
26	執筆内容の共有、協議⑦	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
27	執筆内容の共有、協議⑧ プレゼンテーション資料の作成方法の確認	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
28	プレゼンテーション資料の作成方法の確認 プレゼンテーション資料の作成　１	提示資料の作成、準備 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
29	プレゼンテーション資料の作成　２	提示資料の準備、確認 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
30	プレゼンテーション資料の作成　３	提示資料の準備、確認 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
31	プレゼンテーションによる論文の発表と視聴　１	提示資料の準備、確認 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）
32	プレゼンテーションによる論文の発表と視聴　２ 卒業論文制作活動全体、及び発表について講評し今後に向けてフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」を検証する	提示資料の準備、確認 （４５分）	検討・改善内容の確認 （４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1，DP2，DP3，DP4，DP5に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンテーションすることができる。

授業全体の内容と概要

・プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
・フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
・プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
・質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
・Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
・「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。適宜、取り組んでいる卒業論文をTeams内でword形式にて提出してもらう。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習ⅡA・Ｂ」を担当する教員が指導する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各指導教員によって異なる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 論文作成の目的、方法、計画の確認 科目を修了して「身に付ける力」の説明	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
2	文献研究等による情報収集・内容整理　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
3	文献研究等による情報収集・内容整理　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
4	文献研究等による情報収集・内容整理　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
5	論文内容と構成の検討　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
6	論文内容と構成の検討　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
7	論文の作成、執筆　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
8	論文の作成、執筆　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
9	論文の作成、執筆　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
10	論文の作成、執筆　４	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
11	論文の作成、執筆　５	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
12	論文執筆内容の共有・協議　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
13	論文執筆内容の共有・協議　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
14	論文の作成、執筆及び個別指導　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
15	論文の作成、執筆及び個別指導　２	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
16	論文の作成、執筆及び個別指導　３	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	論文の作成、執筆及び個別指導　４	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
18	論文の作成、執筆及び個別指導　５	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
19	論文の作成、執筆及び個別指導　６	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
20	論文の作成、執筆及び個別指導　７	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
21	論文の作成、執筆及び個別指導　８	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
22	論文の作成、執筆及び個別指導　９	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
23	論文の作成、執筆及び個別指導　１０	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
24	執筆内容の共有、協議　１	提示資料の作成、準備（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
25	執筆内容の共有、協議　２	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
26	論文の修正・加筆　１	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
27	論文の修正・加筆　２	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
28	論文の修正・加筆　３	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
29	プレゼンテーションの準備　１	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
30	プレゼンテーションの準備　２	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
31	論文内容のプレゼンテーションと視聴	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）
32	指導教員による 講評をし、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	提示資料の作成、確認（４５分）	検討・改善内容の確認（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し，その過程で資料の熟読，エヴィデンスの発見と使用，
参考文献の引用の方法を学び，卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1，ＤＰ２，DP３，DP４，DP５対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ，また，自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に，指導教員とのマンツーマンの指導で行うが，担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し，相談，意見交換，質問，教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各指導教員によって異なる。

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各指導教員によって異なる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	4	（単位認定責任者：　　蝦名　美穂　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし，研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による 科目を修了して『身に付く力』についての説明	指導教員による	指導教員による
2	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
3	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
4	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
5	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
6	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
7	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
8	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
9	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
10	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
11	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
12	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
13	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
14	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
15	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
16	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
18	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
19	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
20	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
21	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
22	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
23	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
24	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
25	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
26	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
27	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
28	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
29	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
30	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
31	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
32	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	6　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社　デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プロダクトデザイナーに成る事

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2,DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの本質を見極める力、問題点や改善点を探求する力、それらを見直して自らオリジナルの解答（デザイン）を創造できる力、自分のデザインを第三者に伝える力を身に着ける。

授業全体の内容と概要

現状の問題点摘出の為、マーケットリサーチを行い、気づき、切り口を持って、オリジナルのデザインを行う。それらを第三者に伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける。第三者からのフィードバックを受けて、更にデザイン改良を行う。
写真機材も使用して表現を拡げる。

授業の方法

各種マーカー、PMパッドA3,鉛筆、色鉛筆、サインペン、白鉛筆、PC（フォトショップ、イラストレーター）ICT利用。
写真機材、各種モックアップ作成用素材

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の為の最低出席回数は20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを充分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	6	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソニー株式会社　デザインセンター30年 サムスン電子　デザイン顧問　6年 個人デザイン事務所　3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 卒制のテーマ考察、市場調査 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。（45分）	市場調査を行う。（45分）
2	卒制、自分の課題を見つける	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
4	仮説を修正し、まとめる。そこから卒制のアイデアを考察する。	市場調査を行う。（45分）	市場調査を行う。（45分）
5	1stデザインアイデアスケッチ	仮説をまとめる。（45分）	仮説をまとめる。（45分）
6	1stデザインアイデアスケッチ	グループ意見まとめ。（45分）	第三者からの意見を考察する。（45分）
7	アイデアのまとめ	第三者からの意見を考察する。（45分）	アイデアを考察。（45分）
8	アイデアスケッチ、全体の計画	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
9	アイデアスケッチ、全体の計画	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
10	アイデアスケッチ、全体の計画	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
11	アイデアスケッチ拡充	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
12	アイデアスケッチ拡充	アイデアを考察。（45分）	第三者からの意見を取り入れる。（45分）
13	パネル構成計画	第三者からの意見を取り入れる。（45分）	アイデアを考察。（45分）
14	パネル作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
15	パネル作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
16	レンダリング	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	レンダリング	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
18	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
19	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
20	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
21	モックアップ作成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
22	モックアップ完成	アイデアを考察。（45分）	アイデアを考察。（45分）
23	卒展展示、現場で色々な気付きを確認	現場の確認。（45分）	現場の確認。（45分）
24	最終作品の確認、中間審査会の対応	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
25	作品の完成度をあげる	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
26	作品の完成度をあげる	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
27	作品の完成度をあげる	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
28	パネル、モックアップ、修正、仕上げ	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
29	パネル、モックアップ、修正、仕上げ	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
30	パネル、モックアップ、修正、仕上げ	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
31	最終、作品仕上げ	最終まとめ。（45分）	最終まとめ。（45分）
32	デザインプレゼンテーション フィードバック、総評 科目を修了して『身に付く力』についての検証	最終まとめ。（45分）	総評を通じて振り返る。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	6　（単位認定責任者：　安田　祐造　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査委員歴任		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

これまでに修得した技術や知識を礎に、各々の履修者の感性や思いを充分に作品に展開すること。また、間近に迫った卒業後を見据え、美術文化の担い手として社会に貢献できる人材に仕上げること。授業の展開の仕方については、専門研究ⅡA・ⅡBと変わらないが、学生時代の集大成といえる作品を、これまで以上に主体的に取り組んで完成させてほしい。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

見る人に感動してもらえる表現力がより一層豊かな作品を創作できるようにすること。心豊かな社会を実現するために、充分な力量を備えた人となること。

授業全体の内容と概要

これまでに修得した技術や知識を礎に、それらをさらに探求し結実させること。そして社会や人々に関心を寄せ、美術をとおして貢献できることについて考察し、表現力がより一層豊かな作品を創作できるようにすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドヴァイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html
http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。卒業後の社会において、美術文化の普及と発展に寄与する意欲のある人に履修してほしい。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定にには、日々努力し続け、何より作者の思いが充分に反映された作品を創り上げること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	30%	70%	0％	0％	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをよく意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをある程度に強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを、不充分ながらも意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを意図していない。
技法や材料について	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にほぼ的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にとは言い難いものの、自らの判断で選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を的確に選択して制作していない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等の造形要素を充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を充分にとは言い難いものの、捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　安田　祐造　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での審査委員歴任		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション一授業の進め方について、シラバスの説明	予めシラバスに目をとおす。(45分)	これまでに修得した技法や材料に関する知識等を復習する。(45分)
2	科目を修了して『身に付く力』についての説明　研究計画についての説明	研究計画を立てる。(45分)	研究計画を立てる。(45分)
3	より具体的な研究計画の構築を行う。	研究を進めるために必要な資料や用材について検討する。(45分)	研究を進めるために必要な資料や用材について検討する。(45分)
4	作品の構想について一社会の陰と陽について	社会の陰と陽について、自分なりに身近なところから視野を広げ考察する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの考察をより確かなものとする。(45分)
5	我々を取り巻く環境での諸問題について深く検討し取りまとめる。	我々を取り巻く環境での諸問題について深く検討する。(45分)	我々を取り巻く環境での諸問題について、さらに深く検討を加える。(45分)
6	作品の構想について一構想の取りまとめと下絵(画稿)の準備　1	構想を具体化するために必要な資料等を収集し下絵制作を始める。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	下絵を制作する。制作に用する技法や材料についても検討する。(45分)
7	作品の構想について一構想の取りまとめと下絵(画稿)の準備　2	構想を具体化するために必要な資料等を収集し下絵制作を進める。作品の大きさや形も併せて検討する。(45分)	下絵の制作を進める。制作に用する技法や材料についても検討する。(45分)
8	作品の構想について一構想の取りまとめと下絵(画稿)の準備　3	構想を具体化するために必要な資料等を収集し下絵制作を仕上げる。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	下絵の制作を仕上げる。制作に用する技法や材料についても決定する。(45分)
9	支持体への下絵の転写について	転写について、表現意図に最も相応しい方法を検討する。(45分)	転写後に修正の必要が生じた場合には、適宜それを行う。(45分)
10	下描きについて　1	予め、自らの作品制作に相応しい用材を準備する。(45分)	本描きの際に効果を高められるように下描きの仕方を工夫する。(45分)
11	下描きについて　2	下描きに用いる用材の性質について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	本時の下描きについて振り返る。(45分)
12	下描きについて　3	上層の絵具層に効果をもたらせられるように工夫する。(45分)	本描きに用いる絵具の被覆力や透明性について検討する。(45分)
13	下描きについて　4	立体感や空間感について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	立体感や空間感が表現できているかについて振り返る。(45分)
14	下描きについて　5	上描きした際に支障をきたさないように、下描きに用いる絵具を適切に選択する。(45分)	本描きの際の段取りについて計画する。(45分)
15	下描きについて　6	下描きの仕上げに向けて、細部について検討する。(45分)	仕上げた下描きについて、細部まで入念に検討する。(45分)
16	中間発表会	教師や他の学生からどの点についてアドヴァイスを得たいかを明確にしておく。(45分)	本時の中間発表会で得たアドヴァイスを参照し、これからの制作に反映させられるように計画を立てる。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　1	絵具の被覆力や透明背を勘案し、自らの表現意図に相応しい絵具を予め用意する。(45分)	本時の授業での制作について振り返り、不備等がないかを点検する。(45分)
18	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　2	立体感、空間感、質感、色彩調和について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	立体感、空間感、質感、色彩調和について振り返る。(45分)
19	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　3	立体感、空間感、質感、色彩調和について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	立体感、空間感、質感、色彩調和について振り返る。(45分)
20	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　4	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について検討する。(45分)	明度のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして学習する。(45分)
21	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　5	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について検討する。(45分)	明度のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして学習する。(45分)
22	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　6	大まかな面の把握を心掛けながらも色彩調和について点検する。(45分)	表現の意図にかなった色彩調和を目指しているかを検討する。(45分)
23	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　7	大まかな面の把握を心掛けながらも色彩調和について点検する。(45分)	表現の意図にかなった色彩調和を目指しているかを検討する。(45分)
24	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一大まかな面の把握を主にした制作について　8	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
25	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　9	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
26	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　10	他の技法も取り入れた混合技法について検討する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
27	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　11	他の技法も取り入れた混合技法について検討する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
28	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　12	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所 は、気づき次第に修正する。(45分)
29	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　13	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所 は、気づき次第に修正する。(45分)
30	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　14	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点がないかを点検する。(45分)	これまでの制作を振り返り、総合的な観点から自らの作品を点検する。(45分)
31	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながら一細かな面の把握を主にした制作について　15	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点がないかを点検する。(45分)	これまでの制作を振り返り、総合的な観点から自らの作品を点検する。(45分)
32	合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	教師や他の学生からどの点についてアドヴァイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドヴァイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化させる。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	6　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高め、それを具体化できる能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて稼働する各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら完成度の高いプレゼンテーションが行える能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための作品制作を行う。
「ＳＤＧ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品制作に必要な取材活動や知識や技術の習得に積極的に携わるため、フットワークとコミュニケーションが重要である。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が適切に用いられており、効果を発揮している。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が適切に用いられている。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が用いられている。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術の用い方が不十分である。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が用いられていない。
思考力・判断力・表現力「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されており、それが成功している。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出をするよう努力がされている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出をするよう努力が不十分である。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出がされていない。
主体性・多様性・協働性「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢を持ち続け、クオリティアップにつながっていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢を持ち続けていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢の必要を理解していた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢の理解が不十分である。	作品制作に際しては、積極的に取材活動、社会性や公共性への配慮がいずれも成されていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	6　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	制作内容の構想整理。（４５分）
2	制作内容の構想と計画	制作内容の構想整理。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
3	制作内容の分析と整理	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
4	メディアの設定	授業内容の継続。（９０分）	授業内容の継続。（４５分）
5	制作工程の確認	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	試案①授業内容の継続。（４５分） コンセプトの作成	授業内容の継続。（９０分）	授業内容の継続。（４５分）
7	試案① コンセプトの作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	試案② 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	試案② 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	デザインの実装実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	デザインの実装実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	デザインの実装実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	デザインの実装実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	デザインの実装実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	制作① 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	制作① 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
19	制作② 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	制作② 設計図	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
21	制作③ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	制作③ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
23	制作④ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	制作④ 素材制作及び収集	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
25	制作⑤ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	制作⑤ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
27	制作⑥ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	制作⑥ 構成～データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
29	制作⑦ 完成提出	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
30	制作⑦ 完成提出	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
31	制作内容の講評	データの整理管理。（４５分）	展示計画。（４５分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	データの整理管理。（４５分）	展示計画。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	6　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

研究テーマを設定し、探求活動を行い、その成果を作品等を通じて表現する事ができる。

授業全体の内容と概要

彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。卒業研究では、４年間の学びの集大成となる作品を制作する事。また、進路も含め、その後生涯をかけて探求したい活動にもつながる制作を行う事が目標である。

授業の方法

学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。
研究ノートを提出する事。
作品を１点以上完成させる事。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を２つ、または１つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を１つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週２回（８時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週１回（４時間）以上自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究をした。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　梅田　力　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスをよく読んでおく事（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
2	活動計画	チュートリアル準備（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
3	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
4	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
5	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
6	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
7	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
8	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
9	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
10	先行研究＆制作	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
11	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
12	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
13	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
14	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
15	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
16	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
18	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
19	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
20	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
21	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
22	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
23	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
24	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
25	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
26	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
27	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
28	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
29	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
30	先行研究＆制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 （４５分）	研究ノート記入（４５分）
32	プレゼンテーション、フィードバック 科目を通して身につく力の検証	研究ノート記入（４５分）	研究ノート記入（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	6　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業出版や展覧会経験を踏まえ、展示設計・見せ方・運用の観点から実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

展示に耐える作品の完成と実装（見せ方・導線・キャプション）を唯一の軸とし、卒業制作展での最終成果を整える。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

展示を前提に作品の最終仕上げができる。
展示設計（レイアウト・照明・什器・キャプション）を計画・実装できる。
設営・撤収・アーカイブを安全かつ効率的に運用できる。
展示の狙いと効果を言語・ビジュアルで説明できる。

授業全体の内容と概要

制作の最終段階に加え、展示計画→モック→最終確認→設営→運用→撤収→アーカイブまでを一貫して扱う。
評価は展示に向けた完成度と見せ方を重視する。

授業の方法

個別相談＋共有（講評）を軸に進行。
資料はPowerPoint／Teamsで管理。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

展示の搬入搬出、積み込み積み下ろしは必ず出席すること。
什器・出力・額装・輸送・保険等は、計画的に準備する。
権利処理（キャプション・引用・音源・映像）を事前確認する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は８割以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性（展示完遂の計画・運用・安全）	制作→最終調整→出力／額装→搬入→設営→運用→撤収→アーカイブの全工程を自律運用。安全・権利・費用・時間の制約下で最適化できる。	工程運用は安定し、制約への配慮も適切。	運用は概ね可能だが一部の制約対応が弱い。	運用に抜けがあり、制約対応が不十分。	工程運用が成立せず、展示完遂が危うい。
協働性（展示チーム連携・合意形成）	会場ルールや共同スペースを踏まえ、導線・音・光等の調整を主体的に行い、記録に合意形成が残る。	調整と合意が適切に行える。	調整は部分的。合意の記録が弱い。	調整が遅く、合意が不明瞭。	調整・合意が行えない。
表現力（展示での伝達力・見せ方の整合）	作品・配置・照明・キャプション・配布物が一貫した世界観で伝わり、受け手の動線や視線を設計できている。	見せ方の設計は概ね整合。伝達に支障なし。	要点は伝わるが、展示要素の整合に弱さ。	展示要素の不整合により意図が伝わりにくい。	展示として成立していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館８階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　三上　いずみ　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業出版や展覧会経験を踏まえ、展示設計・見せ方・運用の観点から実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」の説明 卒業制作のテーマと先行研究	シラバスを呼んでおくこと（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
3	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
4	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
5	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
6	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
7	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
8	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
9	卒業制作のテーマと先行研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
10	発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
11	制作の方向性	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
12	制作の方向性	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
13	制作の方向性	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
14	制作の方向性	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
15	展示レイアウト	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
16	展示レイアウト	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	展示レイアウト	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
18	展示レイアウト	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
19	報告	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
20	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
21	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
22	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
23	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
24	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
25	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
26	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	各自制作を進める（４５分）
27	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
28	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
29	展示準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
30	全体の振り返りと今後のキャリアに向けたまとめ 「身に付く力」の検証、授業に係る講評・解説によるフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	制作の振り返り（４５分）
31	振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	全体を振り返り、まとめる（45分）
32	まとめ	学習内容に沿って事前準備を行うこと　（４５分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	6　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、大学生活全般での経験や知識、さらに専門研究Ⅰ及びⅡで習得してきた知識・技能・思考を礎に、作品を通し現代社会における問題を提起し自己表現する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。今まで習得してきた知識や技術を効果的に用い自己の作品で表現する。

授業全体の内容と概要

探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、最適な画材を選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行う。

授業の方法

各自テーマを決め、研究を深め制作していく。フィードバックは講評会で行う。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２４回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなすことができたか。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが十分できた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することができた。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することがややできた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが不完全だった。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが出来なかった。
思考力・判断力・表現力　テーマを最大限に活かせる画材、ジャンルを選択、表現できたか	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが十分に出来た	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来なかった。
主体性・多様性・協働性　研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　浩而　魅諭　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明　当該科目の修了時に身につく力について	シラバスを読む（９０分）	制作内容の構想（９０分）
2	制作内容の構想と計画（展示計画含む）	制作内容の構想（９０分）	授業内容継続（９０分）
3	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
4	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
5	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
6	作品制作　　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
7	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
8	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
9	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
10	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
11	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
12	作品制作　研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
13	作品完成　額装・パネル	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
14	研究報告書制作	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
15	講評会（フィードバック）	授業内容継続（９０分）	授業内容継続（９０分）
16	「身につく力」について検証	授業内容継続（９０分）	データの整理管理。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	6　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーターの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会におけるイラストレーションに沿った企画設計と、それを作画として具体化できる能力を高めることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業に於いては、現代社会に於いて必要とされるイラストレーションについて、特に実践力を高め、様々なメディアに対応した完成度の高いプレゼンテーションが行える能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための作品制作を行う。
「ＳＤＧ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表という工程を踏まえた作品制作を行う。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品制作に必要な取材活動や知識や技術の習得に積極的に携わるため、フットワークとコミュニケーションが重要である。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「イラストレーションを分野として正しく認識できている」	提出された作品に現代メディアに対応したイラストレーションに必要な知識と技術が適切に用いられており、効果を発揮している。	提出された作品に現代メディアに対応したイラストレーションに必要な知識と技術が適切に用いられている。	提出された作品に現代メディアに対応したイラストレーションに必要な知識と技術が用いられている。	提出された作品に現代メディアに対応したイラストレーションに必要な知識と技術の用い方が不十分である。	提出された作品に現代メディアに対応したイラストレーションに必要な知識と技術が用いられていない。
思考力・判断力・表現力「イラストレーションの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されており、それが成功している。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出をするよう努力がされている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出をするよう努力が不十分である。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出がされていない。
主体性・多様性・協働性「イラストレーションの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢を持ち続け、クオリティアップにつながっていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢を持ち続けていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢の必要を理解していた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢の理解が不十分である。	作品制作に際しては、積極的に取材活動、社会性や公共性への配慮がいずれも成されていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	6　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーターの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	制作内容の構想整理。（４５分）
2	制作内容の構想と計画	制作内容の構想整理。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
3	制作内容の分析と整理	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
4	制作内容の設計	授業内容の継続。（９０分）	授業内容の継続。（４５分）
5	制作工程の確認	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	試案① コンセプトの作成と技法研究	授業内容の継続。（９０分）	授業内容の継続。（４５分）
7	試案① コンセプトの作成と技法研究	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	試案② 設計図（アイディアスケッチ）の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	試案② 設計図（アイディアスケッチ）の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	作画の実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	作画の実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	作画の実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	作画の実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	作画の実験	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	制作工程①	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
18	制作工程②	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
19	制作工程③	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
20	制作工程④	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
21	制作工程⑤	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
22	制作工程⑥	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
23	制作工程⑦	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
24	制作工程⑧	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
25	制作工程⑨	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
26	制作工程⑩	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
27	制作工程⑪	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
28	制作工程⑫	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
29	制作工程⑬	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
30	完成発表～提出	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
31	制作内容の講評	授業内容の継続。（４５分）	展示計画。（４５分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	展示計画。（４５分）	展示計画。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	6　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

広く社会に対して問題意識や課題意識を持ち、広義のデザインによって問題解決または改善を叶えるための能力を高め、多くの人の共感を得られる説得力のあるアウトプットとプレゼンテーション能力の向上を目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本授業は、自らを起点とした発着想を広げることで、社会に通じる問いをたて、課題を見つけ、解決もしくは改善のために、広義のデザインでアプローチを試みる。そのために必要な知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら、独りよがりで終わらない、見る人の共感を得られるプレゼンテーションを行うことのできる能力を獲得し、社会に接続できる人材となることをめざす。

授業全体の内容と概要

公共性や社会性を前提とし、人の役に立つ本質的な価値を持ったデザインを考え、それを実現するための広い意味でのデザイン活動を行う。
ＳＤＧｓ．１・２・３・５・９・１０・１１・１２・１４・１５・１６・１７の関連授業。

授業の方法

構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。
調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品制作に必要な取材活動や知識や技術の習得に積極的に携わるため、フットワークとコミュニケーションが重要である。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	１００%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が適切に用いられており、効果を発揮している。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が適切に用いられている。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が概ね用いられている。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術の用い方が不十分である。	提出された作品が、社会に役立つ情報として構築されるために必要な知識と技術が用いられていない。
思考力・判断力・表現力	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるようなデザインが成されており、それが成功している。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるようなデザインが成されている。	提出された作品に、一部の人の共感を得られるようなデザインが成されており、それが一部に対しては成功している。	提出された作品に、一部の人の共感を得られるようなデザインとなるための努力が見られるが不十分である。	提出された作品に、一部の人の共感を得られるようなデザインとなるための努力がない。
主体性・多様性・協働性	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢を持ち続け、クオリティアップにつながっていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢を持ち続けていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢の必要性を理解していた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題の発見や解決・改善に臨む姿勢の理解が不十分である。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性への配慮がいずれも成されていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 （科目ナンバリング：THE234092　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　堤　美穂子　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	制作内容の構想整理。（４５分）
2	制作内容の構想と計画	制作内容の構想整理。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
3	制作内容の分析と整理	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
4	メディアの設定	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
5	制作工程の確認	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
6	試案①授業内容の継続。（４５分） コンセプトの作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
7	試案② コンセプトの作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
8	試案③ 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
9	試案④ 設計図の作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
10	デザインのプロトタイプ①	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	デザインのプロトタイプ② 修正・改良	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	デザインのプロトタイプ③ 修正・改良	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
13	デザインのプロトタイプ④ 修正・改良	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
14	デザインのプロトタイプ⑤ データ作成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
15	仕上げ・完成	授業内容の継続。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
16	完成提出・プレゼンシミュレーション 授業内容のまとめと講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの計画。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	6　（単位認定責任者：　建築学科指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは，大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し，そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なる。履修学生（研究者）は自ら研究テーマを決定，研究内容，研究方法，研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方，そのための研究日程など，緻密な研究計画を立て実行し，最終成果物（論文・設計）として完成させ，提出しなければならない。

授業全体の内容と概要

研究活動は，指導教員のもとに，その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが，建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査，最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

４年生の履修登録時において，卒業要件科目の全単位数を満たすべ く，科目の登録がなされたもの。１年次開講の基礎科目５科目８単位（必修科目），卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し，その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い，期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと，研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと，研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと，研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと，研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと，研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	6	（単位認定責任者：　建築学科指導教員　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	6　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

卒業研究に着手できるのは、4年生前期の履修登録時において、3年生後期GPAに基づき設定された履修可能単位数に半期の最大履修可能単位数28単位を加えた通年取得可能単位数をもって、卒業要件単位数を満たすことができる者。さらに、卒業研究の準備段階の必修科目でもある「建築研究Ⅰ」、「建築研究Ⅱ」の単位を修得している者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	6　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	6　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは，大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し，そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは，研究テーマの決定，研究内容，研究方法，研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方，そのための研究日程など，緻密な研究計画を立て実行し，最終成果物（論文・設計）として完成させ，提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は，指導教員のもとに，その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが，建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査，最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

４年生の履修登録時において，卒業要件科目の全単位数を満たすべく，科目の登録がなされたもの。１年次開講の基礎科目５科目８単位（必修科目），卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し，その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い，期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと，研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと，研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと，研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと，研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと，研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	6　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館４階	
単位数	6　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

卒業研究に着手できるのは、4年生前期の履修登録時において、3年生後期GPAに基づき設定された履修可能単位数に半期の最大履修可能単位数28単位を加えた通年取得可能単位数をもって、卒業要件単位数を満たすことができる者。さらに、卒業研究の準備段階の必修科目でもある「建築研究Ⅰ」、「建築研究Ⅱ」の単位を修得している者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館４階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　佐々木　哲之　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築施工会社，建築設計事務所に勤務していたころ，現場管理，設計業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括講評をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	6　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは，大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し，そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは，研究テーマの決定，研究内容，研究方法，研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方，そのための研究日程など，緻密な研究計画を立て実行し，最終成果物（論文・設計）として完成させ，提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は，指導教員のもとに，その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが，建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査，最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

４年生の履修登録時において，卒業要件科目の全単位数を満たすべ く，科目の登録がなされたもの。１年次開講の基礎科目５科目８単位（必修科目），卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し，その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い，期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと，研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと，研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと，研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと，研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと，研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　長森　正　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括 授業最終回において講評をし、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門演習科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	6　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは，大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し，そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは，研究テーマの決定，研究内容，研究方法，研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方，そのための研究日程など，緻密な研究計画を立て実行し，最終成果物（設計）として完成させ，提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は，指導教員のもとに，その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが，建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査，最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
BIMを活用して作品制作を行うため、PCを持参のこと。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

４年生の履修登録時において，卒業要件科目の全単位数を満たすべく，科目の登録がなされたもの。１年次開講の基礎科目５科目８単位（必修科目），卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。卒業作品の規定をクリアし、かつ、映像作品も制作のこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し，その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い，期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと，研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと，研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと，研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと，研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと，研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門演習科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館6階　小笠原研究室	
単位数	6	（単位認定責任者：　小笠原　健　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	6　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

卒業研究に着手できるのは、4年生前期の履修登録時において、3年生後期GPAに基づき設定された履修可能単位数に半期の最大履修可能単位数28単位を加えた通年取得可能単位数をもって、卒業要件単位数を満たすことができる者。さらに、卒業研究の準備段階の必修科目でもある「建築研究Ⅰ」、「建築研究Ⅱ」の単位を修得している者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　君　興治　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	6　（単位認定責任者：　向井 正伸　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	公共建築設計の経験を活かした実践的な学びの提供		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

卒業研究とは，大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し，そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは，研究テーマの決定，研究内容，研究方法，研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方，そのための研究日程など，緻密な研究計画を立て実行し，最終成果物（論文・設計）として完成させ，提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は，指導教員のもとに，その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが，建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査，最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

４年生の履修登録時において，卒業要件科目の全単位数を満たすべ く，科目の登録がなされたもの。１年次開講の基礎科目５科目８単位（必修科目），卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し，その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い，期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと，研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと，研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと，研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと，研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと，研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	6	（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	公共建築設計の経験を活かした実践的な学びの提供		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括及びフィードバックを実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	6　（単位認定責任者：　建築学科指導教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

卒業研究とは，大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し，そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは，研究テーマの決定，研究内容，研究方法，研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方，そのための研究日程など，緻密な研究計画を立て実行し，最終成果物（論文・設計）として完成させ，提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は，指導教員のもとに，その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが，建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査，最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

４年生の履修登録時において，卒業要件科目の全単位数を満たすべ く，科目の登録がなされたもの。１年次開講の基礎科目５科目８単位（必修科目），卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し，その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い，期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと，研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと，研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと，研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと，研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら，定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと，研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 （科目ナンバリング：THE334088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	6	（単位認定責任者：　建築学科指導教員　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第２回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第２回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ１０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ１１	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ１２	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ１３	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ１４	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ１５	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ１６	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ１７	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ１８	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ１９	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ２０	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅱ （科目ナンバリング：SPS422065，SPS522060　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間の体は、意図的に働きかけることにより、構造的にも機能的にも変化させることができる。本講義ではトレーニングに必要な基礎的理論、トレーニングの方法を概説し、トレーニング計画、筋力トレーニングの基礎、ストレッチングや体力テストの活用について学び身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要

テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出、ビデオを利用し、トレーニング理論、トレーニング計画などについて詳しく説明する。

授業の方法

授業は、板書及び配布物資料を活用しながら講義形式で行い、レポートの提出を求める。
レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	３０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅱ （科目ナンバリング：SPS422065，SPS522060　　）				
授業担当者 （所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『JATI認定トレーニング指導者テキスト（理論編）』	NPO法人　日本トレーニング指導者協会	大修館書店			
2	『JATI認定トレーニング指導者テキスト（実践編）』	NPO法人　日本トレーニング指導者協会	大修館書店			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 測定データの分析とデータの活用法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	運動と栄養（２）対象と目的に応じた栄養摂取	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	運動と心理（２）運動学習と指導法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	バイオメカニクス（１）基礎理論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	バイオメカニクス（２）スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	機能解剖（１）上肢	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	機能解剖（２）脊柱と胸郭	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	機能解剖（３）骨盤と下肢	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	運動と医学（２）スポーツ傷害	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	生活習慣病、傷害の受傷から復帰までの トレーニングプログラム	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	運動生理学（１）呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	運動生理学（２）骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	運動と医学（１）生活習慣病	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	運動と医学（３）救命救急法・トレーニング指導者の実務	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	テスト及び解説 試験終了後、フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 （科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前10時から午後６時まで対応				

概要

履修目標

現実的・実践的なマーケティング論・戦略を学ぶことにより、柔軟なファンエンゲージメント的思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の戦略実現に対応できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用しマネジメント能力を身につけること。

授業全体の内容と概要

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。「SDG4．質の高い教育をみんなへ」の関連科目

授業の方法

教科書および教員作成の資料・および教員指定の動画などを用いた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。中間試験を行わない。課題提出を複数回、ノート提出を1回課し、最終評定に含める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻・15分以上の途中退出は欠席扱いとする。遅刻は2回で欠席1回とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、試験日を含めて１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスを十分に理解し自分のみならずクラスメンバーに対して共有できた。	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略を策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 （科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　信濃　吉彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前10時から午後６時まで対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『この1冊ですべてわかる経営戦略の基本』	手塚　貞治	日本実業出版社	2008	9784534060983	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み教科書のpp.1-14に目を通すこと（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
2	経営戦略とは　pp. 15-39	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
3	戦略策定と環境分析　pp. 40-70　①　ファンエンゲージメントの実相	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
4	戦略策定と環境分析　pp. 40-70　②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
5	戦略策定と環境分析　pp. 71-94　③	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
6	テキスト3章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
7	テキスト3章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
8	テキスト4章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
9	テキスト4章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
10	テキスト5章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
11	テキスト5章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
12	テキスト5章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
13	不確実性　テキスト6章	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
14	不確実性　テキスト７＆ノートチェック	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
15	テスト　リビュー 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
16	単位認定試験＆総括	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務分析論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は「簿記論」の応用として、学生が企業における会計の仕組みと原則を理解し、会計の重要性を認識することを目的としている。科目を修了して、分析対象とする企業の状況が判断できる能力を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

本講義修了時の達成目標は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算）から企業の状況を読み取ることができる能力を身に付けることである。

授業全体の内容と概要

本講義は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の仕組みを学びながら、実際に企業ではどのくらいのお金が動いているのかを実感してもらうことに重点を置く。毎回、各企業における実際の財務諸表を使い、受講生に作業をしてもらいながら演習形式で講義を進める。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、演習問題を実施・提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	３つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	３つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	３つの財務諸表の違いを述べることができた。	３つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務分析論 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　石山　玄幸　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『財務会計・入門　企業活動を描き出す会計情報とその活用法（第12版補訂）』	桜井 久勝・須田 一幸	有斐閣	2019年	9784641221345	
2	『誰でもわかる決算書の読み方１年生』	南伸一	西東社	2021年	9784791631261	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「財務会計論」ガイダンス　シラバスの説明（講義の概要、講義の進め方、評価方法,科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
2	財務３表とは何か　家計簿　将来の人生設計	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
3	損益計算書①　勘定科目について	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
4	損益計算書②　損益計算書の「５　３　５」とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
5	損益計算書③　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
6	貸借対照表①　資産とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
7	貸借対照表②　負債とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
8	貸借対照表③　純資産とは　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
9	キャッシュフロー計算書①　キャッシュフローとは　減価償却とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
10	キャッシュフロー計算書②　営業キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
11	キャッシュフロー計算書③　投資キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
12	キャッシュフロー計算書④　財務キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
13	財務３表のつながり①　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
14	財務３表のつながり②　演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
15	試験対策　演習問題、授業改善アンケートの実施	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けた対策をしておくこと。（９０分）	定期試験後のフィードバックを受けて、財務会計論を総括する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS143154　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の２つが具体化内容である。
①中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科の教科目標と内容を学修する。
②授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

自由科目

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。
・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。
・教科目標である公民的資質をふまえた分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。
下記ルーブリックの合格最低レベル（C）、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
公民科の教科目標と内容を把握し、現代社会の社会的事象等をとらえる概念、理論について、学習指導理論をふまえ、学習指導時案を作成、模擬授業をおこない、授業設計と改善の方法を学修する。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・後期3Qは、学習指導要領にもとづくシナリオ型学習指導案の作成、模擬授業の観察評価をおこなう。
・板書を利用しながら、公民科の学習指導要領の内容について講義形式で学修する。
・模擬授業、ＰＢＬ（Project Based Learning）による主体的実践が評価対象になる。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：教材研究、指導案、ＰＢＬ等の各課題フィードバックは、回収の次の授業にて模範回答例が紹介される機会があるので、次回の課題提出の改善材料として利用をすすめる。
・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。オフィスアワーを利用すると事前の時間予約ができる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」は、順序性のある段階的履修が基本になる。単独科目履修を希望する場合、履修登録前に教員へ相談すること。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の指定テキストは共通のものである。
・授業関連情報コースパケットをマイクロソフト社Teams科目チャネル、過去の科目情報は、大学ＨＰ教員個人ページにあるので利用してほしい。過去の授業情報の閲覧は、要PWのため、履修学生は授業にて申請すること。https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html
・学習は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」（松下佳代：2015）のアウトプットである。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要になる。
・文献読解（分担報告；教材研究、指導案作成を報告する。教材研究における新しい知見、資料を説明記述する）、プレゼンテーション（分・担発表）をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	0%	70%	０％	15%	15%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶことについて、充分ではないが、自分の言葉でいくらか説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しかった。新しく学ぶことについて、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでの関連づけをおこない、独自の視点から論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、十分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しかった。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生（教職課程の教生）としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動ができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動するができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動ができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS143154　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会科　中学生の公民　令和7年度版』	江口勇治、池上彰ほか	帝国書院	2025		中学社会公民検定済教科書（公民046-
2	『詳述公共　新訂版』	中村達也ほか	実教出版	2025		高校検定済教科書（公共007-901）
3	『2026ズームアップ公共資料集　新訂版』	実教出版編修部	実教出版	2026	9784407367928	
4	『公共の授業と評価のデザイン』	藤井剛	清水書院	2023	9784389226077	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　社会編』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	https://www.mext.go.
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　公民編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	https://www.mext.go.
3	『主体的・対話的で深い学びをつくる３６５日全授業　中学校社会　公民的分野』	井上昌善、梅津正美	明治図書	2023	9784185293280	
4	『中学校社会　指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	2022	9784184522336	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	中学社会公民的分野、高校公民科の指導方法と授業設計の基礎理解について（授業改善アンケート結果の反映事項、シラバス概要、本科目の修了により身に付く力等の説明ガイダンス）	シラバスをあらかじめ確認する。（９０分）	テキストを独習する。（９０分）
2	模擬授業実践（中学社会科 公民的分野 学習指導要領の解説）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
3	模擬授業実践（高校公民科 公共 学習指導要領の解説）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
4	模擬授業実践（高校公民科 政治経済、倫理 学習指導要領の解説）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習、指導教諭（南英世氏ＨＰ）資料を確認する。（９０分）
5	模擬授業実践（視聴覚教材）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業1-5回学習整理する。（９０分）
6	模擬授業実践（中学社会科 公民的分野 シナリオ型学習指導時案作成）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習、ＮＩＥＲ評価基準、規準を確認する。（９０分）
7	模擬授業実践（高校公民科 公共 シナリオ型学習指導時案 作成）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	模擬授業実践（高校公民科 政治経済 シナリオ型学習指導時案作成）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	模擬授業実践（高校公民科 倫理 シナリオ型学習指導時案 作成）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業6-9回学習整理する。（９０分）
10	模擬授業評価（学生観察シート 作成）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする（９０分）
11	模擬授業評価（学生自己評価 作成）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。（９０分）
12	模擬授業評価（授業サポーター 分析）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。（９０分）
13	模擬授業評価（授業サポーター 分析）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業１０－１４回学習整理、音声記録文字化と振り返りをする。（９０分）
14	模擬授業評価（学生評価 まとめ）について	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業全体学習整理する。（９０分）
15	課題提出（観察シート、音声記録と作業シート提出）指導方法と評価（振り返り、総括）	テキスト(梅津正美：２０２２)、資料を予習する。（９０分）	授業全体の学習整理する。（９０分）
16	本科目のまとめ（本科目修了により身に付く力を検証する。あわせて授業改善アンケートを実施）	全授業のまとめを準備する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学（S・D・A） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

社会学とはどのような学問であるか、その基本的性格を概観する。
社会学は、高校の科目でみると公民「公共」の学修内容に近い。学術3分類（人文科学、自然科学、社会科学）のひとつ、社会科学に含まれる学問である。社会科学のなかでは、経済学は行動の効率合理性、政治学は国家や権力行使、法学は法規範に焦点をおくとみるならば、社会学はそれらのどれにもとらえられない、社会と人間の側面にこだわる性格を備えるものである。本科目においては、それらの基本的性格を学修する。
社会学は、個人と社会の関係を分析すること、そして常識の批評的理解をおこなうものである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP2に対応する。
建築学科のDP2に対応する。
社会福祉学科のDP2に対応する。

到達目標

社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。
社会でおきているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるものではなく、社会的な関係性のもたらす要因として説明をしようとする方法について、その基本を理解する。

授業全体の内容と概要

「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会学固有の考え方である、社会的行為、相互作用、社会集団、社会構造、社会変動などの概念を使い、私たちの社会でおこっている社会現象を記述説明する知識、技術を学修する。
①社会学の基礎知識を、日常生活を例をあげて説明すること、②文献を読解引用してコメントを述べること、以上の統合的学習をすすめる。

授業の方法

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
既習事項の整理作業（第８回、第１５回）は、社会学用語の理解を、日常生活を例にあげて記述説明をおこなう、作業学習である。
視聴覚教材、社会学文献の読解（第１４回）は、映像資料を視聴し、社会学用語を使って解説、コメント文を作成する。（学習評価技法 バークレイ/メジャー，2016＝2020）
文献読解は、3色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店，2005）の技法を利用する。
「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：各課題のフィードバックは、提出の次の授業にて模範回答例を紹介する機会がある。この後の課題提出の改善材料として利用してほしい。
「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業（講義）は学びの基本である。授業外学修として、図書情報館にある学術文献を調べる、自宅で準備学習（予習や復習）をすることにより、学習時間量を増やすことが大切になる。授業の学びは基礎的学習、さらに授業外学習は関連資料（Teamsファイル資料）読解による応用的学習である。
授業の教材準備（テキスト、ファイル資料）をおこない、参加することが学生評価の対象になる。
課題作成は、学術レポート（アカデミック・ライティング、AW）引用手続により文章作成する。（オリエンテーションにて説明する）
学術倫理（剽窃、ほう助の禁止）を守り、学修する。
テキスト目次構成、章の順番を入れ替えて学修すること、関連資料による発展学習がある。
ノートは、授業の再現資料として利用できるように作るものになる。取材メモとして作成する。
欠席、遅刻の際の対応、教室内の授業マナー（水分補給、入退室、スマホ操作自粛、座席表指定）は、社会人モードで対応する。大学生の受講マナーは、高校までのものとは異なる次元になる。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要である。
【既習事項の整理事項：小作業①、②】、【視聴覚教材、社会学文献の読解】課題は、評価資料となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で例をあげて説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶ学術用語について、充分ではないが、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけながら、論理的に社会的事象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら社会的事象の分析表現することができた。	文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用することは、改善の余地はあるが、おこなった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析表現することは、十分ではないがおこなうことができた。	文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学（S・D・A） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂版　社会学概論』	北川由紀彦	放送大学教育振興会	２０２５	9784595325236	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	２０１９	9784833423113	
2	『学習評価ハンドブック』	バークレイ、メジャー	東京大学出版会	２０２０	9784130513531	
3	『エッセンシャル社会学事典』	日本社会学会	丸善出版	２０２５	9784621311868	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （前年度の本科目、授業アンケート結果反映と、シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」について説明）	シラバスを熟読する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	社会学と社会、社会学の歴史、社会学の思考	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
3	社会学の説明、社会学の説明論理	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
4	社会学の社会調査と計量	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
5	社会学の基本概念 （社会的行為、地位と役割）	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
6	社会学の基本概念 （社会集団、官僚制）	テキストを予習する。	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
7	社会学の基本概念 （社会階層、社会階級）	テキスト、文献資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
8	小作業① （既習事項の整理作業）	授業１回－７回を整理学修する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
9	家族の社会学	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
10	都市の社会学	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
11	労働の社会学	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
12	社会福祉の社会学	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
13	差別の社会学	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
14	視聴覚教材、社会学文献の読解	テキスト、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
15	小作業② （既習事項の整理作業）	授業９回－１４回を整理学修する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
16	授業全体のまとめ （授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明、授業改善アンケート実施）	全授業のテキスト、文献資料を予習する。（９０分）	全体のふりかえりを行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目　基礎科目Ⅱ	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学（M） （科目ナンバリング：SOC021021　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　山本　一彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会の特質を知り、さまざまな場面に生ずる問題を生活者としての視点から把握して、持続可能なよりよい社会はどのようなものであるかを考察するをが身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

「現代社会の状況」について単に知識を習得するだけだなく、さまざまな社会問題を生活者としての自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察できる。

授業全体の内容と概要

まず、社会的存在としての人間という視点に立ち、集団や組織のありようを学ぶ。次に、近代化を遂げた現代社会がどのような問題を持つようになったかを批判的にとらえ、その特質を学び、持続可能な社会を展望する。また、特に、学生世代が該当する現代の青年期問題について考察を加える。

授業の方法

授業は現代社会のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（ＰＢＬ含む）、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はＣとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会学の知識	定期試験における社会学の基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	左記の同部分が８０%以上９０%未満の正答であった。	左記の同部分が７０%以上８０%未満の正答であった。	左記の同部分が６０%以上７０%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が６０%に届かなかった。
思考力・判断力等	「人間と人間の関係」の視点から，さまざまな場面の社会的問題を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準にと留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
社会的問題への分析力・主体性等	授業の核となる「現代の社会状況」の視点で、さまざまな社会問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について主体的分析が概ねできていた。	左記の事項についての主体的分析が一般的水準でできていた。	左記の事項についての主体的分析が最低限の水準に留まっていた。	主体的分析ができているとはいえず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目　基礎科目Ⅱ	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学（M） （科目ナンバリング：SOC021021　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　一彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目のガイダンス 全体概要，目的とねらい，履修上の注意、評価方法,シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、前年度授業アンケートの結果概要説明	シラバス内容を事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習・理解（９０分）
2	Ⅰ.近代社会の確立と社会学 １.社会学成立の時代背景	近代社会とはどのようなものであるかのイメージ化（９０分）	近代社会についての復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.近代社会の確立と社会学 ２.社会学は何を考えるのか？	近代社会の人間関係とはどのような特質をものかについての意識化（９０分）	人間関係の変化のあり方についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.人間と社会集団 １.社会的存在としての人間	「ヒト」という動物がもっている特殊性についての意識化（９０分）	人間が「社会的」であることについての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.人間と社会集団 ２.社会集団の類型	人間がつくる集団にはどのような特質があるかについての事前考察（９０分）	集団類型の原理についての復習・理解（９０分）
6	Ⅱ.人間と社会集団 ３.基礎的生活集団の変化	基礎集団としての家族が現代社会ではどういう特質をもつようになったかの事前考察（９０分）	家族集団のあり方と社会のあり方が密接に関わっていることについての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.全体社会の変動 １.社会変動と近代化	Ⅰ.１.の振り返りを基に近代化とはどのような過程であるかの事前考察（９０分）	社会変動パターンとその要因、近代化としての社会変動についての復習・理解（９０分）
8	Ⅲ.全体社会の変動 ２.近代市民社会の変化 （１）大衆社会への移行	近代化によって成立した市民社会がどのように変化しているかの事前考察（９０分）	現代社会の大衆化状況についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ.全体社会の変動 ２.近代市民社会の変化 （２）個人化・リスク化する現代社会	個人を取り巻く不安定な現代社会の状況についての事前考察（９０分）	リスク社会としての現代社会についての復習・理解（９０分）
10	Ⅲ.全体社会の変動 ３.近代産業社会の変化 （１）産業社会の構造変化	近代化によって成立した産業社会がどのように変化しているかの事前考察（９０分）	現代社会の脱工業化状況についての復習・理解（９０分）
11	Ⅲ.全体社会の変動 ３.近代産業社会の変化 （２）ポスト産業化の中の現代社会	知識集約化する現代産業社会についての事前考察（９０分）	サービス経済が主軸となった現代社会についての復習・理解（９０分）
12	Ⅳ.現代の青年期 １.青年期とアイデンティティー形成	Ⅱ.１.の振り返りを基に社会の中の青年期についての事前考察（９０分）	アイデンティティーとはどのような自己のあり方であるかについての復習・理解（９０分）
13	Ⅳ.現代の青年期 ２.ライフコースの多様化と通過儀礼の喪失	現代社会の中のライフコースとはどのようなものかについての事前考察（９０分）	標準的ライフコースが失われた現代社会でのアイデンティティー形成が困難であることの復習・理解（９０分）
14	Ⅴ.時持続可能な社会に向けて	社会が持続可能となるためには何が問題でどのように対処すればよいかについての事前考察（９０分）	後期近代社会に特有な社会問題についての復習・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重点項目のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解，試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅱ （科目ナンバリング：JLN051039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）・佐藤　恵利 （経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　髙橋　真弥・佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センター等で対応。				

概要

履修目標

基礎の型を学び、抑えるべきポイントを理解し、相手にしっかりと自分の考えを伝えられる表現力を身につける。演習に取り掛かり、それをクラスで共有しコミュニケーションの輪を広げ、楽しくプレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。

到達目標

プレゼンテーションの法則を学び、様々な演習を通じて大学で通用するプレゼンテーションの技術を身に着ける。身に着けた技術は話すことに限定せず、書くことにも応用する。

授業全体の内容と概要

プレゼンテーションの技法やポイントを段階的に学ぶ。発言力や情報せいりしょくを身に着けるための活動を行い、提示される課題に取り組む。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

資料や参考図書を使用し、段階的にプレゼンテーションの型を学ぶ。演習、講義が中心だが、課題についてディスカッションしたり、場面に合わせた敬語等の日本語表現を身に着けるためのグループワーク等も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。プレゼン作成等、教師が許可した時のみ携帯電話の使用ができる。毎時授業内で課題を提示する。一日でも休むと課題評価が得られないので毎回出席すること。
授業中はまじめに取り組み、「日本語でできない」と思わず、なんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業内で提示する課題と、最終プレゼンで評価する。課題や最終プレゼンの評価はプレゼンの型やポイントをしっかり理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかで行う。15分以上の遅刻は欠席とみなす。最低出席日数は10回である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	６０%	%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレゼンテーションのための知識と技能	プレゼンテーションのための知識と技能を完全に身に着け、知識と技術を活用してわかりやすく表現することができた。	プレゼンテーションのための知識と技能を身に着け、それを活用して表現することができた。	わからないことを適切な方法で調べながら、相手により伝わるプレゼンテーションを作成するための知識と技能を身に着けることができた。	適切な知識と技術でプレゼンテーションを作成することができた。プレゼンテーションの型や抑えるべきポイントを完全には理解できなかった。	プレゼンテーションのための知識と技能を身に着けることができなかった。プレゼンテーションの型や抑えるべきポイントを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自身のことばで表現できる。表現の内容がわかりやすく、文法の間違えがほとんどない。大学で通用するしっかりしたプレゼンができた。	自身で考え、自分のことばで表現でき、内容がわかりやすかった。	自身で考え、自分のことばで表現できた。	正しい日本語での表現ができた。	正しい日本語での表現が困難だった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業にも意欲的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、まじめに取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、意欲的でまじめに取り組んでいた。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対しまじめに取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語II （科目ナンバリング：JLN051039　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）・佐藤　恵利 （経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　髙橋　真弥・佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センター等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容確認と受講準備（４５分）	授業内容の復習（４５分）
2	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
3	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
4	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
5	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
6	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
7	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
8	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
9	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
10	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
11	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
12	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
13	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
14	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク、最終プレゼン課題提示	前回の復習（４５分）	授業内容の復習、最終プレゼン作成（４５分）
15	最終プレゼン作成	最終プレゼン作成（４５分）	最終プレゼン作成（４５分）
16	課題発表 総括（「身につく力」の検証） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	最終プレゼンのチェック（４５分）	全体の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	児童・家庭福祉 （科目ナンバリング：SWS112007　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の７掲示ボードを参照				

概要

履修目標

①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。
②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。
③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。
④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。
⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１，DP３，DP４に対応する。

到達目標

①児童が権利の主体と踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解することができる。
②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解することができる。
③児童や家庭福祉に係る法制度について理解することができる。
④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解することができる。
⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解することができる。

授業全体の内容と概要

①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について学ぶ。
②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について学ぶ。
③児童や家庭福祉に係る法制度について学ぶ。
④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について学ぶ。
⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を学ぶ。

授業の方法

スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。定期試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。
２．次の３点を考えながら受講すること。
①大人として子どもとどのように向き合うべきか。
②親としてどのようなサービスが活用できるか。
③子どもとその家族の支援者になるためにどのような努力が必要かの3点を考えながら受講すること。
３．レポート課題は、「子どもと家庭に係わるニュース（新聞・インターネット配信記事等）」を10収集し、それぞれに対して400字程度のコメントをつけたものとし、11回目の授業で提出を求める。
４，不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４５%	４０%	０%	０%	１５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、ほぼ理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、やや理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができなかった。
児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、ほぼ理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、やや理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉に係る法制度について	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができなかった。
児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、ほぼ理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、やや理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	児童・家庭福祉 （科目ナンバリング：SWS112007　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の７掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						授業の中で関連するものを紹介してい
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス。シラバスの説明。授業改善アンケートの結果反映の説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明	テキスト学習　第１章（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
2	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境	テキスト学習　第３章（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
3	児童・家庭福祉の歴史Ⅰ　児童福祉の理念と児童観の変遷	テキスト学習　第２章第１節・第２節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
4	児童・家庭福祉の歴史Ⅱ　児童・家庭福祉制度の発展過程	テキスト学習　第２章第３節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
5	児童・家庭に対する法制度Ⅰ（児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・DV防止法）	テキスト学習　第４章第１節、第５章第５節・第８節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
6	児童・家庭に対する法制度Ⅱ（母子及び父子並びに寡婦福祉法・母子保健法）	テキスト学習　第５章第２節・第７節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
7	児童・家庭に対する法制度Ⅲ（児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法）	文献学習（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
8	児童・家庭に対する法制度Ⅳ（次世代育成支援対策推進法・少子化対策基本法・売春防止法・子ども・子育て支援法・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律）	テキスト学習　第５章第１節・第３節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
9	児童・家庭に対する法制度Ⅴ（子どもの貧困対策の推進に関する法律・子供若者育成支援推進法・いじめ防止対策推進法）	テキスト学習　第５章第４節・第１１節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
10	児童や家庭に対する支援における公私の役割関係及び国、都道府県、市町村の役割。レポート課題提示。	テキスト学習　第４章第２節・第４節（９０分）	ノート整理、レポート作成（９０分）
11	児童・家庭に対する支援における関係機関（児童相談所）の役割。レポート尾の添削をし、返却してフィードバックする。	文献学習（９０分）	ノート整理、文献学習（９０分）
12	その他の児童や家庭(女性、若者を含む）に対する支援にかかわる組織・団体の役割	文献学習（９０分）	ノート整理、文献学習（９０分）
13	児童・家庭に対する支援における関係機関に関連する専門職等の役割	テキスト学習　第４章第５節（９０分）	ノート整理、文献学習（９０分）
14	社会福祉士の役割と児童・家庭に対する支援の実際（多職種連携を含む）	テキスト学習　第６章（９０分）	ノート整理、文献学習（９０分）
15	まとめ（事例研究）及びレポートに対するフィードバック（解説）を行う（授業改善アンケートの実施）	文献学習（９０分）	試験に向けた学習（９０分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、残りの６０分で解説をし、フィードバックをする。 科目を修了して『身に付く力』についての検証』	試験に向けた学習（９０分）	文献学習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本について指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。				

概要

履修目標

デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用が可能な造形力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を理解した上で、求められた課題のコンセプトを平面上に適切に美しく表現することができる造形力を身に付け、今後の作品制作に必要な応用力を高める。

授業全体の内容と概要

平面構成Ⅰで習得した内容を基にして、さらに高度なテーマや複雑なモチーフを用いながら平面を構成する能力を高めるための課題制作を段階を追って積み重ねていく。

授業の方法

各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。
制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。
画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平面構成Ⅰを履修していることが前提である。
制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。
上記のほか、適宜、課題制作前に指示するものを準備すること。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題のコンセプトを理解し、画材を効果的に用いて、平面上に適切に美しく表現できる。	十分に表現出来ていた。	概ね表現出来ていた。	不十分ではあるが、表現出来ていた。	最低限の表現にとどまった。	表現出来ていなかった。
課題のコンセプトを表現するために必要な工程や画材の選択ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。
常にデザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を意識しながらの制作ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211004　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本について指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（９０分）	平面構成Ⅰの内容整理（９０分）
2	平面構成Ⅰの振り返り	シラバスの確認（９０分）	平面構成Ⅰの内容整理（９０分）
3	練習課題①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
4	練習課題①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
5	練習課題②	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
6	練習課題②	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
7	材料研究	シラバスの確認（９０分）	講評内容の整理（９０分）
8	材料研究	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
9	具象的表現①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
10	具象的表現②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
11	具象的表現③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
12	具象的表現④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
13	具象的表現⑤	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
14	具象的表現⑥	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
15	具象的表現⑦	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
16	具象的表現⑧	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	具象的表現⑨	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
18	具象的表現⑩	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
19	具象的表現～講評	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
20	具象的表現～講評	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
21	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
22	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
23	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
24	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
25	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑤	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
26	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑥	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
27	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑦	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
28	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑧	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
29	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑨	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
30	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑩	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
31	全課題の確認・総評	全授業内容のまとめ（９０分）	全授業内容のまとめ（９０分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容のまとめ（９０分）	全授業内容のまとめ（９０分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅱ （科目ナンバリング：FAH211011　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

新古典主義以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

・西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
・作品に関する諸情報を自分の言葉で説明できる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の大まかな流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修　高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	０%	３０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業内容を越えた自主的な学修ができた。	授業内容について自主的な学修ができた。	授業内容について充分な理解ができた。	授業内容について理解できた。	授業内容の理解が不足していた。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	授業内容を超えて文献や資料を自分で調査して、独自の知見を加えて説得的に論じることができた。	自分の考えをもとに文献や資料を自分で調査して、筋の通った論述を展開できた。	授業内容に沿って自分の考えを深めて展開し論述できた。	定期試験において自分の考えを記述することができた。	定期試験において自分の考えを記述できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅱ （科目ナンバリング：FAH211011　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術でめぐる　西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 西洋美術史Ⅰの振り返り	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	ロココ美術	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	新古典主義とロマン主義（１）ダヴィッド	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	新古典主義とロマン主義（２）アングル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	新古典主義とロマン主義（３）ジェリコー、ドラクロワ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	近代絵画のはじまり　クールベ、ミレー、マネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	印象派（１）マネ、モネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	小テスト実施 印象派（２）ルノワール	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	印象派（３）ジャポニスム 小テストの結果について授業内でコメントしてフィードバックする	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	後期印象派と新印象派（１）ゴーギャン、ゴッホ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	後期印象派と新印象派（２）セザンヌ、スーラ、シニャック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	世紀末美術（１）象徴主義　モロー　ルドン	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	世紀末美術（２）ラファエル前派 、分離派	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	世紀末美術（３）アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	20世紀前半の諸潮流　フォーヴィスムとキュビスム　マティス、ピカソなど まとめ　授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	定期試験 試験のフィードバックはTeamsにより模範解答例を提示する	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・２年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB（再） （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナールⅡB再履修者。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・２年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB（再） （科目ナンバリング：BAS002006　　）				
授業担当者 （所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　河田　一郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜くためのスキルを身に付けることができる。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック６級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック５級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック４級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック３級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック２級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック１級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。発表を行ったときは、そのつど授業内でコメントし、フィードバックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	［プレゼンテーション］　授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第１回目で示した達成目標が身についたかどうか、プレゼンを通して確認する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワーク演習 （科目ナンバリング：SWS112025　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）、杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。
２．ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
３．ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
４．ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。
５．精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１，DP３，DP４に対応する。

到達目標

１．ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することができる。
２．ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解することができる。
３．ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養うことができる。
４．ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解することができる。
５．精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力について学ぶ。
２．ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に学ぶ。
３．ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力について学ぶ。
４．ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に学ぶ
５．精神保健医療福祉のソーシャルワークについても学ぶ。
６．個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とする演習形態により学ぶ。
７．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．グループに分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。
　その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。
２．自然災害等などの状況により、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。
３．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．自分の意見等を積極的に発言すること。
２．多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。
３．教科書は必ず購入・持参すること。
４．必要な資料等は適宜配布する。
５．ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程(選択)
スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上をクリアすること。
２．レポート２０％による評価のほか、その他については、８０％は出席４０％、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度４０％とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	０％	８０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門タームおよび実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習 （科目ナンバリング：SWS112025　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）、杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習(共通科目)』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	9784805882436	価格　/ 2,750（本体 / 2,500）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学びが深まるソーシャルワーク演習』	「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会	ミネルヴァ書房	2021	9784623091195	価格　/ 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。科目を履修して身につく力・・・他者とのディスカッション能力、自己開示、他者に対する共感。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
2	基本的なコミュニケーション技術について理解する。 ・言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の 反映、繰り返し、要約等） ・非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り 等)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
3	基本的な面接技術　・面接の構造化について理解する。 ・場の設定(面接室、生活場面、自宅等) ・ツールの活用（電話、E-mail 等）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
4	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・ケースの発見　・インテーク　アセスメント　・プランニング　・支援の実施　・モニタリング ・支援の終結と事後評価　・アフターケア	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
5	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・ケースの発見 ・インテーク	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
6	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・アセスメント	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
7	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・プランニング	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
8	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・支援の実施	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
9	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
10	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。 ・アフターケア	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
11	ソーシャルワークの記録について理解する。 ・支援経過の把握と管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
12	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの構成(グループリーダー・ コリーダー・グループメンバー)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
13	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの展開過程(準備期・開始 期・作業期・終結期)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
14	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
15	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証（グループにおいてロールプレイを実施し及び特定テーマに関するほかグループと	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家としての出版経験を活かし、プロット・ネーム・作画・仕上げ・印刷製本までのプロセスを実務連動で指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生は、ストーリー漫画を読み物として成立させるために必要な構成力・表現力・制作技術を体系的に身につける。
本授業では、漫画Ⅰで学んだ「第三者に伝わる」観点を基礎として、テーマ設定、キャラクターの行動原理、プロット作成、読めるネームの作成を段階的に行い、作品の完成度を高める。さらに、原稿用紙の使い方や表紙の役割、印刷・製本など、作品として仕上げるための実践的工程を学び、ストーリー漫画の基礎力を確実に習得することを目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生は、ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、読み物として成立するプロットを作成できる。
学生は、読めるネーム（視線誘導・情報量・デンポ・見せ場）を作成し、講評を踏まえて改善できる。
学生は、原稿用紙の使い方（タチキリ・ノドなど）を守り、ページとして読みやすい画面を構成できる。
学生は、表紙の設計（タイトル・構図・印象設計）を行い、作品の内容やジャンルを適切に伝えることができる。
学生は、印刷・製本までの工程を体験し、完成物としての品質を整えることができる。

授業全体の内容と概要

ストーリー漫画のテーマ・キャラクター（行動原理）を定め、プロット→ネーム（重視）→下描き→ペン入れ→背景→トーン→仕上げ→印刷→製本へと進める。講評・フィードバックを十分に行い、読み物としての成立を確認する。
漫画課題は制作段階ごとに個別に指導する。
作画はアナログ・デジタルどちらにも対応する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。
授業後にデジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。
段階ごとに個別指導を行う。
課題は発表、添削、講評にてフィードバックする。
不測の事態の際にオンライン/オンデマンドで授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

漫画Ⅰを履修していることが望ましい。
授業冒頭に学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。
デジタル制作の場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。
欠席する場合は事前に連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数２２回以上。
課題を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
読めるネーム（構成・視線誘導・情報整理）	視線誘導・情報配列・テンポが一貫して高い可読性を実現していた。	概ね適切な視線誘導と情報量で読みやすさが安定していた。	主要場面での導線が機能し、理解に支障がほぼ生じなかった。	基本的な導線が成立し、内容を追うことができていた。	導線や情報量が不適切で、可読性が確保できていなかった。
ストーリー設計（テーマ・行動原理・山場）	テーマと行動原理が明瞭で、山場への運びが自然に読ませていた。	テーマと動機が概ね明確で、物語の起伏が十分に伝わっていた。	主要要素が把握でき、読後の理解が成立していた。	基本要素が示され、大筋の理解が可能であった。	要素の欠落や不整合により、成立が不十分であった。
ページ運用と作画（原稿用紙の使い方・コマ設計・表紙）	原稿用紙の規則を守り、表紙・コマ・余白が作品意図に沿って最適化されていた。	規則を概ね順守し、ページとしての視認性が高く保たれていた。	基本を順守し、読み進めに支障がほぼなかった。	最低限の順守により、ページとして成立していた。	規則違反や配置不備により、ページとしての成立が損なわれていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　三上　いずみ　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家としての出版経験を活かし、プロット・ネーム・作画・仕上げ・印刷製本までのプロセスを実務連動で指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明 使用道具の説明 漫画１の内容（行動原理・構成力・伝達力）との連動を説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	必要な道具を準備する（４５分）
2	ストーリー漫画の構成・特徴 読み物として成立させるための必須要素	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
3	プロット①物語のテーマとキャラクターと行動原理	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
4	プロット②主人公の現状と目的と試練と行動原理	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
5	プロット③キャラクターの成長とクライマックスと行動原理	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
6	ミニネーム①セリフとナレーション	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
7	ミニネーム②絵で見せる・構図	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
8	ミニネーム③テンポと間	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
9	ミニネーム④見せ場	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
10	ネーム直し①（読みやすさ）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
11	ネーム直し②（セリフの量と言い回し）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
12	ネーム直し③（描き分け）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
13	ネーム直し④（構図）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
14	下描き①（原稿用紙の使い方・原稿設定・目標の設定）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
15	下描き②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
16	下描き③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	下描き④	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
18	ペン入れ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
19	ペン入れ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
20	背景①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
21	背景②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
22	スクリーントーン①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
23	スクリーントーン②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
24	仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
25	仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
26	表紙の確認（タイトル・作者名） 原稿の提出方法	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
27	原稿提出日 印刷・製本・鑑賞①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
28	印刷・製本・鑑賞②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
29	発表・講評①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
30	発表・講評②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
31	展示	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
32	「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅠ （科目ナンバリング：IRE321072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、建築コンペへの参加を通じて、要望を的確に汲み取り、共感や感動を生むデザインを創出する力を養うことを目的とする。オリジナリティを重視し、正確で美しく表現する技術を身につけるとともに、設計意図を豊かに伝えるプレゼンテーションスキルを向上させる。また、計画的に作業を進める習慣を身につけ、期限内に高い完成度の成果物を提出できる能力を育成する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

与条件や要望、テーマを理解した上で、自らコンセプトを立案・デザインし、図面やパースなどを用いて適切に表現できる。また、その内容をプレゼンテーションを通じて他者へ伝えることができる。さらに、作品制作のスケジュールを自分で管理し、計画的に作業を進め、期限内に成果物の提出ができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、1つの建築コンペの参加を通して、コンセプト立案からデザイン、プレゼンボード作成からプレゼンテーションまでを一貫して実施することにより、実践的なデザインプロセスを学び、表現力と提案力を向上させる。

授業の方法

建築コンペの要項に基づき、各自課題に取り組む。課題検討にあたって考慮すべき事項について、複数回のレクチャーを実施する。また進捗状況確認及びエスキスチェックのためのフォローアップ授業を行う。成果物提出後はプレゼンテーション会を実施し、総評を行いフィードバックする。
学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

より良い作品を制作するために、主体的で積極的な姿勢で参加すること。また、期限内に提出することを念頭に置き、計画的に作業を進めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。成果物の提出及びプレゼンテーションの実施。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザイン力・表現力	要望を汲み取り、共感・感動を生むデザインができた。オリジナリティがあり正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえ共感を生むデザインができた。正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	要望を踏まえたデザインを作成することができなかった。
プレゼンテーション力	デザインした内容を的確に豊かに表現した。共感・感動を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を的確に表現した。共感を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を的確に表現した。要望を汲み取ったプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を表現し、プレゼンテーションができていた。	プレゼンテーションができなかった。他者へ伝えることができなかった。
スケジュール管理	計画的に作業を進め、期限内に完成度の高い成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅠ （科目ナンバリング：IRE321072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を終了して「身に付く力」についての説明 課題説明１	シラバスの確認(45分)	説明内容の確認(45分)
2	課題説明２	デザイン構想（45分）	敷地調査（60分）
3	課題説明３	デザイン構想（45分）	説明内容の確認（45分）
4	デザイン検討１	デザイン構想（45分）	デザインチェック（45分）
5	デザイン検討２	デザイン構想（45分）	デザインチェック（45分）
6	デザイン検討３	デザイン構想（45分）	デザイン表現（45分）
7	エスキスチェック１	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
8	エスキスチェック２	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
9	エスキスチェック３	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
10	成果物作成１	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
11	成果物作成２	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
12	成果物作成３	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
13	成果物提出	デザイン表現（45分）	デザインチェック（45分）
14	プレゼンテーション１	プレゼンテーション構想（45分）	プレゼンテーション復習（45分）
15	プレゼンテーション２	プレゼンテーション構想（45分）	プレゼンテーション復習（45分）
16	授業評価アンケートの実施 総評及び作品講評によるフィードバック、科目を終了して「身に付く力」についての検証	自己評価（45分）	授業全体の振り返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年・社会福祉学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 （科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　小林　大州介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

日本は東洋諸国の中でもいち早く封建的段階から抜け出し、さらに第２次世界大戦後は世界史的にもまれな経済成長を遂げた。近世から現代にかけての日本経済の歴史的発展を多角的に学びを身に付け、日本がどのように「資本主義」の国家として経済発展を遂げてきたのかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。
社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解して説明できる。

授業全体の内容と概要

鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。

授業の方法

PDFを利用した講義形式で行う。教科書は使用せず、基本的には資料配布を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための最低出席回数は１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ：封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治～昭和へ：日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、何が経済発展の要因になったのかを、具体的例示と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展について、理解が見られなかった。
敗戦から経済成長へ：経済的成功と挫折	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯について、理解が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年・社会福祉学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 （科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本経済史』	沢井実	有斐閣	2016	9784641164888	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション、シラバス説明：日本の経済発展とその歴史的前提 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する。	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
2	「近世経済」の成立と展開１－農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
3	「近世経済」の成立と展開２－武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
4	移行期の日本経済１－維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
5	移行期の日本経済２－維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
6	移行期の日本経済３－資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
7	明治～大正時代の日本経済１－生産組織や技術導入による経済成長	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと（９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
8	明治～大正時代の日本経済２－資本と労働	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと（９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
9	明治～大正時代の日本経済３－戦間期の日本経済	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと（９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
10	明治～大正時代の日本経済４－変貌する都市と農村	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと（９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
11	昭和初期～第二次世界大戦期の日本経済	第２次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使 って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
12	敗戦と経済復興１－統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
13	敗戦と経済復興２－高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
15	今日の日本経済の課題 授業に係る解説によるフィードバック	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
16	定期試験（６０分）と試験の解説 講義の講評をおこなう。 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまで授業で学んだ事の総復習をして置くこと（９０分）	講義の全体を良く振り返っておくこと(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS143156, ）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館3階		
単位数	2 （単位認定責任者： 塩崎　大輔 ）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校の社会科教諭及び高等学校の地理歴史科教諭として最低限、身につけなければならない事、すなわち「社会科」・「地理歴史科」という教科の本質的な意義と目的を、詳細に理解する。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

「社会科」・「地理歴史科」の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、実際に教壇に立って授業を行うことができるように、授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

学習指導要領に基づき、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、ICTの利活用、模擬授業（後期）等を学習する。教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期（教育法Ⅱ）では実践的な模擬授業を実施する。主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業実践に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態は講義形式（板書を含む）が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	２５%	２５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現ができた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現ができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS143156，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　塩﨑　大輔　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 模擬授業見学　～指導案と授業展開～	模擬授業見学の準備をしておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
2	模擬授業の実践　～生徒の実態に合わせた授業設計～	模擬授業見学の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
3	模擬授業の実践　～地理的な見方・考え方～	模擬授業見学の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	模擬授業の実践　～国際理解～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
5	模擬授業の実践　～身近な地域～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
6	模擬授業の実践　～歴史的な見方・考え方～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
7	模擬授業の実践　～過去と現在のつながり～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
8	模擬授業の実践　～多面的・多角的に考察する力～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
9	模擬授業の実践　～地理情報システム～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
10	模擬授業の実践　～防災～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
11	模擬授業の実践　～近現代・国際社会～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
12	模擬授業の実践　～近現代・日本～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
13	総合的な学習の時間における地理歴史科　～テーマ～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
14	総合的な学習の時間における地理歴史科　～調査～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
15	地理歴史科における探求学習　～調査～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施 全体を講評し、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	まとめの準備（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 （科目ナンバリング：ESS143160，ESS243107，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　髙井　雅一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

生徒指導・進路指導の意義や役割をはじめ、その考え方、進め方を学ぶ。今日的な課題や対応できる資質能力を身につけ、学校指導体制や関係諸機関との連携の在り方について理解する。

授業の位置づけ

－

到達目標

生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理及び今日的な課題、望ましい指導体制、家庭や関係機関との連携の在り方、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の進め方を理解し、効果的な授業を実践することができる。

授業全体の内容と概要

・生徒指導・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成することを援助するためのものであり、個としての個人適応ならびに社会適応の促進を援助するためのものであることをわかりやすく講義する。
・各テーマにより、グループ学習など自他の意見交換をしながら、自分の意見をまとめて発表できるとともに、協調性を身に着けられるような活動を行う。
「SDG10」人や国の不平等をなくそう問題でいじめ・不登校などの対応など体得する。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・Ｆｏｒｍｓを使い理解度を把握するための小テストを行い、指導する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
・講義で配布するプリント等は、ファイルに整然と保管し、必要時に参照できるようにする。
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のある場合は可。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生徒・進路指導の意義と諸問題についての理解できる	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（９割）	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（８割）	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（７割）	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できた。	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できなかった。
生徒・進路指導の在り方についての思考・判断ができる。	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（９割）	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（８割）	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（７割）	調和のとれた人格を育成するために生徒・進路指導を考えることができた。	調和のたれた人格を育成するための考えや判断ができなかった。
意見発表における主体性を身につける。	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（９割）	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（８割）	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（７割）	生徒が自己実現するためにどう援助するかを自分の意見をまとめることができた	社会で自己実現するための援助するための自分の意見をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 （科目ナンバリング：ESS143160，ESS243107，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　高井　雅一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新生徒指導・進路指導ー理論と方法ー』	林尚示・伊藤秀樹	学文社	２０１８	9784762028298	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	教育図書	２０２２	9784877302740	
3	『中学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	２０１１		
4	『高等学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	２０１２		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 生徒指導・進路指導の意義と役割について	学校で生徒指導がなぜ必要か自分の考えを言えるようにしておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
2	教育課程と生徒指導・進路指導の関連と進め方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
3	生徒指導体制と教育相談体制の考え方の違いについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
4	学校と家庭・地域・関係諸機関との連携と協力について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
5	生徒指導計画と進路指導計画の実践と課題について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
6	校則の意義と改善について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
7	体罰、児童虐待の現状と適切な指導方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
8	問題行動等(1)「いじめの定義」「不登校の多様な要因」「暴力行為」等の現状の理解と対応・指導法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
9	問題行動等（２）事例による対応策の討論・発表について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
10	インターネット・携帯電話の利用の現状と対応について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
11	効果的な職場体験・インターンシップ実施上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
12	アクティブ・ラーニングによるキャリア教育の理論と実践について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
13	キャリアプランの作成とキャリアカウンセリングの考え方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
14	生徒指導・進路指導のアセスメントの意義と目的について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
15	学校安全の現状と現代の労働問題について 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）,終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容の復習。（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年（留学生対象）		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語IV （科目ナンバリング：JLN052041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高橋　真弥（経営学科・非常勤講師）・佐藤　恵利 （経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	本部棟３階国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　高橋　真弥・佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

就職活動はもちろん、在学中のインターンシップやアルバイト、卒業後の就職や進学に必要なビジネス日本語を身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ5に対応する。

到達目標

ビジネスの現場また就職活動というシチュエーションに沿った語彙・重要表現を習得し、正しく使うことができる。日本の独特な就職活動文化を理解する。

授業全体の内容と概要

参考文献を使用して授業を行うが、日本語教材以外では履歴書や求人、送付状など、日本で目にするものを参考資料として使用し、実際に使われている言葉の中から語彙力を身につけていく。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。問題解答時やシチュエーションに合わせたロールプレイ、テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。３０分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業最終日（１６回目）に期末試験を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年（留学生対象）		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語IV （科目ナンバリング：JLN052041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）・佐藤　恵利 （経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	本部棟３階国際交流センター		
単位数	1　（単位認定責任者：　髙橋　真弥・佐藤　恵利　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『外国人のための　ケーススタディで学ぶビジネス日本語 中級』	千駄ヶ谷日本語教育研究所	スリーエーネットワーク	2020年	9784883198535	購入の必要なし
2	『ビジネス日本語マスターテキスト』	Heart & Brain Inc.	IBCパブリッシング	2017年	9784794605184	購入の必要なし
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（９０分）	授業内容復習（９０分）
2	日本の会社で働く～外国人に必要な資格・レベル・ビザ～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
3	履歴書の書き方・内容	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
4	履歴書～実際に書いてみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
5	日本の会社～職種・部署・役職～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
6	挨拶・自己紹介・他己紹介～対面・面接～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
7	電話～出方・かけ方・切り方～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
8	電話～実際にやってみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
9	メール～アポイントメント・書類の確認・送付～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
10	メール～実際に書いてみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
11	手紙～送付状・ＤＭ・FAX～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
12	手紙～実際に書いてみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
13	アポイントメント～社内・社外・方法～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
14	報告（ホウレンソウ）・許可・指示・断る・謝罪・感謝	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
15	総括（「身につく力」の検証）・授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分）	期末試験準備（９０分）	授業内容復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ （科目ナンバリング：DES211015　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザイン概論Ⅰで学んだデザイン史の流れを汲み、現代のデザイン（おもに広告やマーケティング、コミュニケーションを例に）において、著名な人物や事象・事例などを取り上げ、今に続く変遷を辿る。
ある目的を果たすため、または特定の機能を発揮するために作成された広告等のデザインが、どんな時代背景を背負って生まれたかを知り、シーズ型からニーズ型へと変化してきた現在に至るプロダクトおよびサービスのデザインと、それを支えた広告広報デザインの変化についてを理解する。またそれらを、美意識、企み、未来といった切り口で角度を変えて学ぶことで、広義のデザインを大きな流れでとらえる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げた議論によってデザインに関する自分の考えを深め、他者に伝えることができるようになる。

授業全体の内容と概要

今日的なデザインの成り立ちに至るまでに起きたおもな事象とその時代背景について、おもにマーケティングやコミュニケーションを通して学びながら、議論によって自分の考えを深める。

授業の方法

本講義は、毎回の内容に沿ったPowerPointスライドショー提示による講義（問いの提供）と、whitebord等のアプリを使ったワークショップでの議論（議論した内容を発表）の、二部構成となる。
したがってスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後に、PowerPointによるスライドショーはPDFに書き出して、Teamsで学生が共有できる資料として提供する。
ワークショップへの貢献度によって授業内容の理解度を評価するほか、毎回授業後のリフレクション提出の内容も成績評価に加味する。また必要に応じて、取材やプレゼンテーションを伴う内容が設定されることがある。
レポートの作成にあたっては、スマートフォンやタブレット、又はノートPCを利用のこと。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
各回の終わりにリフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について十分に理解できている。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について概ね理解できている。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について不十分ではあるが、理解できている部分がある。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について最低限の理解しかできていない。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について全く理解できていない。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことが十分できている。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、自身の感想や意見を持つことが概ねできている。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、自身の感想や意見を持つことが部分的にはできている。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、自身の感想や意見を持つことが十分できているとは言い難い。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、自身の感想や意見を持つことが全くできていない。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を十分深められている。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を概ね深められている。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を部分的に深められている。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めたとは言い難い。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を全く深められていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ （科目ナンバリング：DES211015　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堤　美穂子（デザイン学科・特任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　堤　美穂子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『https://mingeikan.or.jp』					
2	『柳宗悦：民藝 美しさをもとめて（別冊太陽）』	公益財団法人 日本民藝館	平凡社	2021		
3	『知の編集工学　増補版』	松岡　正剛	朝日新聞出版	2023		
4	『芸術教養シリーズ15 20世紀の文学・舞台芸術 近現代の芸術史 文学上演篇Ⅰ』	森山 直人	幻冬舎	2014		
5	『芸術教養シリーズ16 メディア社会における「芸術」の行方 近現代の芸術史 文学上演篇Ⅱ』	森山 直人	幻冬舎	2014		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明～ガイダンス 「デザイン概論Ⅰでもっとも興味をもった学びとその理由」ホワイトボードに記載する ※ホワイトボードツールの使い方・アクセス初期設定 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認。「デザイン概論Ⅰでもっとも興味をもった学びとその理由」について考えてくる（９０分）	デザイン概論Ⅰの情報と資料整理とリフレクションの記載。（９０分）
2	今日的なデザイン 「『デザイン』という言葉の輸入、柳宗悦～柳宗理の思想・活動」	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
3	今日的なデザイン／民藝運動の今 グループ分け・ワークショップ・発表	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
4	美しいデザインとは何か?「世界の美しさの歴史、宗教と美しさ、変化する美しさ」	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。調査レポートの作成（９０分）
5	美しいデザインとは何か?「日本の美しさの歴史、日本の美意識」	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
6	美しいデザインとは何か?「作り出され大量消費された美しさ（ブーム・トレンド）、ブランディング、IR活動、社会的価値、共感・痛み・心に響くデザイン」	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理（９０分）
7	古来からの美意識が今にどう影響しているか? グループ分け・ワークショップ・発表	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
8	デザインの企み／それはほんとうに自分の考えか?_その1 「プロパガンダのその後」①	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。自己採点（９０分）
9	デザインの企み／それはほんとうに自分の考えか?_その1 「プロパガンダのその後、倫理としての美意識」②	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
10	デザインの企み／それはほんとうに自分の考えか?_その1 「プロパガンダ芸術がもっていた美意識ともっていなかった美意識」 グループ分け・ワークショップ	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理（９０分）
11	デザインの企み／それはほんとうに自分の考えか?_その1 「プロパガンダ芸術がもっていた美意識ともっていなかった美意識」 「見せ方」の危うさ、デザインの責任	フィードバックの確認。情報と資料整理（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
12	デザインの企み／それはほんとうに自分の考えか?_その2 「編集、ナッジ、広告と広報、ブランディング、企業がもつ美意識、IR活動」	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。自己採点（９０分）
13	デザインの企み／それはほんとうに自分の考えか?_その2 「編集、ナッジ、広告と広報、ブランディング、企業がもつ美意識、IR活動」 グループ分け・ワークショップ	フィードバックの確認。シラバスの確認（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
14	レポート作成について 「レポート試験出題・デザイン学生としてのレポート作成法、個別相談」	フィードバックの確認。情報と資料整理（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
15	レポート作成について 「個別相談」	フィードバックの確認。情報と資料整理（９０分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（９０分）
16	レポート作成・仕上げ・提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	レポート仕上げの段階まで作成してくる（９０分）	全体の振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年、社会福祉学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 （科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　小林　大州介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。
とりわけ以下の２点に着目する。
①資本主義（資本制）の成立と展開。農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。
②市場経済化。需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。
社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

①資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。
②市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。

授業全体の内容と概要

Intro. 古代から中世へ
1. 近世（初期近代）
2. 近代
3. 現代

授業の方法

ＰＤＦ資料を中心として行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解する。	教科書を超える内容について詳しく理解している	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後処理からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年、社会福祉学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 （科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する。	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
2	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（オランダ＆イギリス）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
3	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（フランス＆中・東欧）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
14	ＥＵへの道	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
15	まとめ	該当箇所の教科書の読解（90分）	期末試験勉強（90分）
16	定期試験（６０分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施 授業の講評を行う 授業に係る解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業の総まとめ（90分）	これまで学んだ事を見返す（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 （科目ナンバリング：LAW422034，LAW522035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　青山　浩之　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について，基本となる知識を修得する。条文を理解し，適用・解釈できる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。
法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

会社法およびその関連法規について，基本となる知識を修得することを目的とし，条文を理解し，適用・解釈できるようになることを目標とし，さらに法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。会社法は，株式会社の機関を中心に、会社に関する法規制について講義を行う。
「ＳＤＧ１０.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために０回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③課題は，講義の理解を深めるために２回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※補講は公欠などの学生に対して，補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する。
※補講はオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
※確認テストなどはＭｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｆｏｒｍｓの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後，プリント配布はしません。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べる	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できる	事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を理解できる	事例を読み取れず，法律の条文を理解できない
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている，解答は答えている	改善すべき点があるが，解答が一通り答えている	的確ではないが，解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 （科目ナンバリング：LAW422034，LAW522035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　青山　浩之　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ポケット六法　令和８年版』	森田宏樹・小泉直樹・石川健治／編集代表	有斐閣	２０２５	9784641009264	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 会社法総論　－会社法とは	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 株式会社とは	シラバスの確認。株式会社についての調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	会社法の概要 株式自由譲渡の原則・株主有限責任の原則・株主平等の原則 確認テスト１（前年実績）	会社法と株式会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
4	株式会社の機関設計（１） 確認テスト１講義内で解説（フィードバック）	持分会社と株式会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	株式会社の機関設計（２）大会社で公開会社のCASE	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	株式会社の機関設計（３）大会社で公開会社のCASE　しっかり条文を読んでみよう 確認テスト２（前年実績）	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
7	株式会社の機関設計（４）大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制－骨格と役割（１）会計監査人・内部統制システム 確認テスト２講義内で解説（フィードバック）	大会社で株式譲渡制限会社・会計監査人、内部統制システムについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
8	株式会社の機関設計（５）大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制－骨格と役割（２）会計監査人・内部統制システム	会計監査人・内部統制システムについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）株主総会	株主総会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）。特に株主総会決議に瑕疵がある場合についての調べ学習
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（４）株主総会 株式会社の経営体制－責任（１）役員 確認テスト３（前年実績）	株主総会・取締役についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
11	株式会社の経営体制－責任（２）役員 課題１（前年実績） 確認テスト３講義内で解説（フィードバック）	役員についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）、課題作成
12	株式会社の経営体制－責任（３）役取締役の責任 株式会社の経営体制－骨格と役割（１）取締役会 確認テスト４（前年実績） 課題１講義内で解説（フィードバック）	取締役の責任・取締役会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（２）取締役会・代表取締役・表見代表取締役 確認テスト４講義内で解説（フィードバック）	取締役会・代表取締役・表見代表取締役についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人 課題２（前年実績）	指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），課題作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明 課題２講義内で解説（フィードバック）	課題作成。第３回から第１４回まで復習（９０分）。	試験範囲の確認により，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ医学 （科目ナンバリング：AHS422070，SPS522056　　）				
授業担当者 （所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　黒川　泰任　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳神経外傷指導医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、脳損傷、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

運動時の生理、病態生理、外傷・けがなどを、医学的背景から考察・学習し身に付けることを目的とする。。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

医学的知識の背景を元に，スポーツ指導の現場において、対象者の状態や外的環境に対して適切な対応ができ、また緊急時の救急処置ができるようにする。

授業全体の内容と概要

身体運動がヒトの体にどのような影響を与えるか、スポーツが生体に及ぼす影響を、ヒトの状態・性別・年齢・外的環境によってどのように異なるのかを知る。緊急時における対処方法を、具体的に修得する。
「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義は配布資料を使用し、対話・質問形式で行う。また、確認小テストを講義後に行い、解答と講義内容の確認を行う。毎回の小テスト結果は、定期試験得点に加算する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。
首席は表彰される。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

定期試験と、各講義終了時の小テスト、（レポート得点）の合計点で目標到達を判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	0-10%	0%	４０%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動のしくみを科学的に理解する。	討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられた。	運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしていた。	ヒトの運動の特徴がいえた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
効率的な運動方法を理解して、スポーツ指導の現場で活躍できる。	討論を元に、運動のしくみ理解し、科学的知識にもとづいた指導ができた。	科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要だと理解していた。	ヒトの運動を科学的に説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
運動がヒトに及ぼす影響が理解できる。	運動がヒトに及ぼす影響を、科学の立場から理解できた。	運動が良い点も悪い点も、ヒトに大きく影響することが理解できた。	運動と健康の関係を説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
講義態度。	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾け、疑問点や不明点を質問していた。	板書しており、疑問点や不明点があった。	板書はできていた。	講義に参加していなかった。
運動のしくみを科学的に理解したうえで、より高い運動機能の獲得と、けが防止に必要な知識を得て指導できる。	けが防止に必要な科学的知識を得て指導できる。	けが防止に必要な最小限の知識を得る。	けがを防止してより高い運動機能を得ることができるように、指導できる。	運動とけがは表裏一体であると説明できる。	講義に参加していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ医学 （科目ナンバリング：AHS422070，SPS522056　　）				
授業担当者 （所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　黒川　泰任　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳神経外傷指導医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、脳損傷、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『1から学ぶスポーツ生理学【第3版】』	中里浩一，岡本孝信，須永美歌子／著	ナップ	2022	9784905168706	
2	『スポーツ栄養学』	寺田　新	東京大学出版会	2017	9784130527064	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておく（９０分）	運動や競技の指導者の立場になったとき、必要十分な項目を常に考えておく（30分）
2	健康と運動・スポーツ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
3	体力、運動とは何か	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
4	運動の仕組み	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
5	発達と運動	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
6	運動と老化	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
7	運動の医学的背景　1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
8	運動の医学的背景　2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
9	運動と栄養（運動栄養学）1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
10	運動と栄養（運動栄養学）2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
11	運動と栄養（運動栄養学）3	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
12	運動と脱水　1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
13	運動と脱水　2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
14	スポーツ活動中に多いケガ・障害	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
15	救急処置 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（30分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
16	定期試験	試験準備（30分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育課程論 （科目ナンバリング：ESS142152，ESS242098，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育課程の役割・機能・意義をはじめ教育課程編成の基本原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義・重要性・推進方法に関する知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、コメント等によりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○教科書購入は単位認定の条件とする。教職教養として教科書は授業で直接取り扱わない部分も含め各自で読破すること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は原則として１３回。
○部活動の対外試合、法定伝染病、法事等についての欠席で、客観的な証明があり、所定の手続きを経たものについてのみ補講の対象とする。緊急性のない通院は補講の対象とはしない。
○成績評価は、定期試験（６０%）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０%）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述することができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育課程論 （科目ナンバリング：ESS142152，ESS242098，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　西崎　毅　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂新版　教職を目指す人のための教育課程論』	古川治ほか	北大路書房	2019	9784762830624	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815580	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
3	『中学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815597	
4	『高等学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491036397	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 教育課程の意義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育課程編成の思想と構造について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	近代・現代日本の教育課程の歩みについて 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	教育課程の編成と諸要因及びカリキュラム・マネジメントの意義について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	特別支援学校の学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	学校経営とカリキュラム・マネジメントについて 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	各教科、特別の教科「道徳」、特別活動、総合的な学習の時間の関連について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	教育課程と評価について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	カリキュラム開発と学力向上策について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	学習指導要領の改訂の経過と特徴について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	国際学力調査と教育課程改革について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	諸外国における教育課程改革について 授業改善アンケートの実施 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	70分の試験，20分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国史 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、ヨーロッパとイギリスの歴史を概観し、政治・社会、文化の歴史（通史）の基本的な知識を習得する。合わせて、歴史的な見方、考え方の基礎を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科、社会福祉学科、デザイン学科、建築学科のＤＰ２に対応する。

到達目標

１）ヨーロッパとイギリスの歴史と社会・文化についての基礎的知識を獲得し，自分なりの理解がされている。
２）獲得した知識が自身の言葉で的確に説明できる。
３）歴史的な見方、考え方の基礎が身に付いている。

授業全体の内容と概要

ヨーロッパ、特にイギリスの歴史を時代を追って順次講義形式で概説していく。合わせて、日本を含むアジア等の諸国・地域について関連する部分を必要最小限説明していく。

授業の方法

毎回、講義形式でヨーロッパとイギリスの歴史を述べていく。原則、こちらで用意した原稿に沿って口頭で説明していくが、適宜、パワーポイントと板書、配布資料を併用する。授業の最後に当該箇所のまとめと確認を行い、その際、受講者にはミニッツペーパー（コメント）の提出を求める。ミニッツペーパー（コメント）への講評を次回の授業の冒頭で行い、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

教職科目（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
歴史に関しての知識・理解	歴史（イギリス史）に関しての理解が正確、十分になされ、的確に説明ができた。	歴史（イギリス史）に関しての理解がおおよそなされ、おおよその説明ができた。	歴史（イギリス史）の主要な部分の理解がなされ、ある程度説明ができた。	歴史（イギリス史）の主要な部分の理解がなされていた。	歴史（イギリス史）の理解が全くなされていなかった。
文献読解・考察の能力	歴史に関する初歩的な文献が十分に読解でき、明晰な考察ができた。	歴史に関する初歩的な文献の読解と考察がおおよそできた。	歴史に関する初歩的な文献の読解が大体できた。	指示によって歴史に関する初歩的な文献の読解が一定程度できた。	指示による歴史に関する初歩的な文献の読解ができなかった。
論述の能力	課題に対する説明が正確、論理的にでき、明確な文章で表現できた。	課題に対する説明が論理的にでき、明確な文で提示できた。	課題に対する説明がわかりやすく、読みやすい文で提示できた。	指示によって課題に対する説明がわかりやすく提示できた。	指示による課題に対する説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国史 （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横田　肇　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力の説明。	シラバスを読んでおく（９０分）	歴史の基礎的事項の復習（９０分）
2	人類の起源・ヨーロッパの原始時代 古人類の概説。	原始・古代の予習（９０分）	原始・古代の復習（９０分）
3	ヨーロッパの古代（１）古代ギリシャ時代 古代ギリシアの政治・社会・文化の概説。	古代ギリシャ（資料）の予習（９０分）	古代ギリシ（資料）の復習（９０分）
4	ヨーロッパの古代（２）古代ローマ時代 古代ローマの政治・社会・文化の概説	古代ローマ（資料）の予習（９０分）	古代ローマ（資料）の復習（９０分）
5	ヨーロッパの中世（１）イギリスの中世：王政前期　　王政開始期の概説。 既習範囲の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバックを行う。	イギリス王政前期の予習（９０分）	イギリス王政前期の復習（９０分）
6	ヨーロッパの中世（２）イギリスの中世：王政前期 王政成長期の概説。	イギリス王政前期の予習（９０分）	イギリス王政前期の復習（９０分）
7	ヨーロッパの近世（１）イギリスの近世：王政中期 王政発展期の概説。	イギリス王政中期の予習（９０分）	イギリス王政中期の復習（９０分）
8	ヨーロッパの近世（２）イギリスの近世：王政中期 王政全盛期の概説。	イギリス王政中期の予習（９０分）	イギリス王政中期の復習（９０分）
9	ヨーロッパの近世（３）イギリスの近世：王政後期　　王政下降期の概説。 既習範囲の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバックを行う。	イギリス王政後期の予習（９０分）	イギリス王政後期の復習（９０分）
10	ヨーロッパの近世（４）イギリスの近世：王政後期 王政衰退期の概説。	イギリス王政後期の予習（９０分）	イギリス王政後期の復習（９０分）
11	ヨーロッパの近代（１）イギリスの近代 政党政治開始期の概説。	イギリス近代の予習（９０分）	イギリス近代の復習（９０分）
12	ヨーロッパの近代（２）イギリスの近代 政党政治成長期の概説。	イギリス近代の予習（９０分）	イギリス近代の複習（９０分）
13	ヨーロッパの近代（３）イギリスの近代 政党政治定着期の概説	イギリス近代の予習（９０分）	イギリス近代の復習（９０分）
14	今日の世界（１） 第１次世界大戦期の概説。	既習事項の復習（９０分）	既習事項の復習（９０分）
15	今日の世界（２）　　第２次世界大戦期から戦後期の概説。 既習範囲の確認のための小テストを実施し、コメント等によるフィードバックを行う。	既習事項の復習（９０分）	既習事項の復習（９０分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。　この科目で身に付いた力の説明。	既習事項の復習（９０分）	既習事項の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝIV （科目ナンバリング：AEA222009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	橘　春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　橘　春香　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

デザイン現場に於いて円滑で信頼されるコミュニケーション能力として有効なデッサン力を身につける。
イラストレーター・画家等の職業に必要な表現力の土台となるデッサン力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

デッサンの楽しさや重要性について理解し、自分の表現したいものを自由に描くことができるようになる。
卒業後の社会で活かせる専門意識のレベルアップと実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

モチーフの観察の仕方、二次元に於ける表現の仕方を学び、様々なモチーフを描いてみることでデッサン力を養う。

授業の方法

授業形態は実技を行う。必要な場合はプロジェクターを使用し講義を行う。各作品ごとに講評を行う。
提出した作品はフィードバックをし、返却する。
不測時にはオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自画材を必ず持ってくること。
授業時間内の制作に取り組む姿勢、態度を重視する。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確にとらえることができる	見えない部分や内部の構造を理解して描けている	複雑な形を基本の形態におきかえ正しく描けている	輪郭を正しくとらえて描けている	おおよその形の印象をとらえている	形態を把握しきれていない
光を理解し表現することができる	自然な光を表現でき、質感の描き分けもできる	自然な光を表現できる	光の方向が画面内で整理されている	明暗、ハーフトーンが描けている	画面内での光の設定ができていない
構図をバランスよく配置できる	描く前から最終的な絵のイメージを持ち、意図が明確な構図をとることができる	画面全体を認識し、客観的な視点を持って、伝わりやすい構図をとることができる	ある程度バランスのいい構図を作ることができる	画面全体への意識がある	構図への意識がなく、コントロールできていない
空間を表現できる	空間を正確に認識し、それを表現できる知識と高い技術を持っている	空間を正確に認識し、それを表現するための知識と技術を使って表現している	空間を表現しようとする意思があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、自らの持てる技術で表現している	空間への意識があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、空間を表現しようとしている	空間への意識が欠けている
表現力がある	他者に伝わる客観性を持ちながら、観察の感性に優れ、高い技術力で独自の表現を生み出し、積極性を持って作品を生み出せる	客観的な視点を維持しつつ、独自の表現力があり、積極的にデッサンに取り組んでいる	自分の感じたことを表現するための技術を身につけている	観察すること、描くことの面白さに気づき、必要な技術を身につけようと取り組んでいる	デッサンで表現することへの積極性が足りない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝIV （科目ナンバリング：AEA222009　　）				
授業担当者 （所属・職名）	橘　春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　橘　春香　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業の目的や流れを説明 道具の紹介や使い方の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを熟読しておくこと（45分）	道具を用意しておくこと（45分）
2	クイズ 絵しりとり アンケート	道具を準備する（45分）	授業で学んだことを自分でもやってみる（45分）
3	静物デッサン1	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
4	静物デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
5	静物デッサン3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
6	静物デッサン4	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
7	静物デッサン5	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
8	静物デッサン7	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
9	静物デッサン8	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
10	静物デッサン 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
11	石膏像デッサン１	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
12	石膏像デッサン２	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
13	石膏像デッサン３	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
14	石膏像デッサン４	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
15	石膏像デッサン５	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
16	石膏像デッサン 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	人物クロッキー	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく 手をクロッキーする（45分）	人物をクロッキーする（45分）
18	人物デッサン1	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
19	人物デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
20	人物デッサン3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
21	人物デッサン4	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
22	人物デッサン 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
23	細密デッサン1	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
24	細密デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
25	細密デッサン3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
26	細密デッサン 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える（45分）
27	自画像デッサン1	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく 参考資料を探す（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
28	自画像デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
29	自画像デッサン3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
30	自画像デッサン4	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
31	自画像デッサン5	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
32	自画像デッサン 講評・まとめ 授業改善アンケートの記入 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	完成に向けて作品を制作する（45分）	学んだことをおさらいしつつ、自己評価を行う。個人的にもデッサンに取り組む姿勢を維持する（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科　１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論 （科目ナンバリング：CHS121077　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　慶知　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。				

概要

履修目標

この科目は、以下の４つを授業の目的とする。
１　保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育の内容」の関連を理解する。
２　保育所保育指針の各章のつながり、保育の全体的な構造について理解する。
３　子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や歴史的変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。
４　保育の多様な展開について具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

保育所保育指針をもとに保育の全体構造と保育内容について理解できる。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開と保育の多様な展開について理解できる。

授業全体の内容と概要

保育の全体構造と保育内容について学修する。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループワークを取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
リアクションペーパーを活用し質問に対する返答等コメントしてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	２０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
	保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。
	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
	保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明することはできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科　１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論 （科目ナンバリング：CHS121077　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	１　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル	2018	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 科目を終了して〝身に付く力〟についての説明	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	１回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
2	保育の内容と歴史的概観とその社会的背景 保育士の専門性と保育士倫理綱領の解説 保育の現場における安全管理について	保育の歴史的変遷について事前に学習しておく（９０分）	２回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
3	保育者に求められると資質とセルフチェック アンガーマネジメント、子ども観について学ぶ 保育者の専門性と虐待、不適切な保育について	保育者に求められる資質について事前に学習する（９０分）	３回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
4	保育指針より保育の基本を学ぶ 養護と教育を一体的に行う保育と子どもの主体性、環境を通して行う保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	４回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
5	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 生活や遊びによる総合的な保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	５回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
6	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 個と集団による発達を踏まえた保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	６回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
7	家庭、地域、小学校との連携や 多様化する保育ニーズへの対応と 保護者支援、 特別な配慮を必要とする子どもの保育、多文化共生の保育、まとめ	多様化する保育ニーズや小学校との連携について事前に学習しておく（９０分）	７回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
8	試験につての事前説明。定期試験６０分。フィードバック 授業改善アンケートの実施。 『身に付く力』についての検証	講義内容を振り返り復習する（９０分	試験の解説に基づき復習し整理する（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習III （科目ナンバリング：APT323036　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（佐藤）、２号館８階（伊藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「ＣＡＤ演習Ⅰ・Ⅱ」を受けてWindowsの３次元ＣＡＤの応用及びドローイングソフトの基礎を学ぶ。本科目習得者全員が単にＣＡＤを操作できるだけではなく，プレゼンテーションとして表現できるように学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が３次元ＣＡＤで，３次元作図とアニメーションの基本的な操作までできる。

授業全体の内容と概要

テキストとＨＰによる解説により３次元ＣＡＤの操作を学ぶ。３次元ＣＡＤはVectorworksを使用する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は前半，テキストや資料を基に簡易３次元ＣＡＤ系アプリの操作を修得し，後半はBIM系CADにより課題作品の制作に取り組む。最終日には作図した作品をプレゼンテーションする発表会形式で実施し、講評によるフィードバックを行う。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ＵＳＢメモリーは持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
3次元CADの３次元機能を用いて表現ができる。	3次元CADの３次元機能を用いて，的確で美しい３次元表現が 完璧にできた。	3次元CADの３次元機能を用いて，的確で美しい３次元表現が8割方できた。	3次元CADの３次元機能を用いて，的確で美しい３次元表現がほぼ6割方できた。	3次元CADの３次元機能を用いて，３次元表現ができた。	3次元CADの３次元機能を用いて，３次元表現ができなかった。
3次元CADの３次元表現で相手に伝わるプレゼンテーションができる。	3次元CADの３次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが 完璧に作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが 8割方作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが ほぼ6割方作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できなかった。
３次元CADと複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，的確で美しい設計表現が完璧にできた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，的確で美しい設計表現が8割方できた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，設計表現ができた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，設計表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習III （科目ナンバリング：APT323036　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（佐藤）、２号館８階（伊藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスおよび授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 2・３次元CADの基本と柱状体，回転体	CAD演習 II の振返り（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
2	２次元での作図	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
3	２次元モデルの移動，整列，回転	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
4	2次元モデルの複製，反転複写ほか編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
5	３次元モデルの編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
6	３次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
8	光源，ブーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業の作図の継続（45分）
10	トータルな３次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業の作図の継続（45分）
11	設計課題の提示	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
13	エスキスチェック	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
14	作図指導	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
15	３次元設計審査 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備（45分）	感想レポート提出（45分）
16	講評会 講評によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証・授業改善アンケートの実施	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ指導論 （科目ナンバリング：SPS422071，SPS522055　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　髙井　雅一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

スポーツ活動における望ましい指導者像、科学的・合理的な指導方法等を学び身に付けることを目的とする。また、スポーツ指導に必須とされる競技者育成と評価、スポーツ活動と安全管理、ミーティングの方法、指導計画について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

指導者としての心構え・視点、さまざまなスポーツ指導現場に対応する基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

・スポーツ指導者に必要とされるプログラム作成手順、教授技術、指導に関わる評価及び評定について概説する。
・競技者を一番に考え指導のあたり方を認識し、お互いに意見交換をしながら、指導者としてのあるべき姿を身につける。
・「SDG4」質の高い指導を身につけるような授業を展開する。

授業の方法

・各回のテーマに関してのパワーポイントや配布資料で実施し、資料説明とグループワーク・発表等で理解を深める講義を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
・講義中、スマホや飲食物はカバン等に入れておくこと。※スマホや飲料水は指示があれば可。
・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻は３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的・合理的な指導方法を学び理解	指導方法を学び、自分の意見を発表した	指導方法等を学び、自分なりに思考・判断できた	指導方法を学び、自分なりに判断できた	指導方法を学び、理解できた	指導方法を学んでいるが、理解できなかった
指導現場に対応できる基礎能力	指導現場で基礎能力を身につけ、実践できた	指導現場で基礎能力を身につけ、説明できた	指導現場で基礎能力を身につけ、よく理解できた	指導現場で基礎能力を身につけ、理解できた	指導現場での基礎能力を理解できなかった
指導の在り方を確認し、指導者のあるべき姿の理解	指導者のあるべき姿を理解し、実践できた	指導者のあるべき姿を理解し、自分で判断できた	指導者のあるべき姿を十分理解できた	指導者のあるべき姿を概ね理解できた	指導者のあるべき姿を理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ指導論 （科目ナンバリング：SPS422071，SPS522055　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　高井　雅一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Reference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会	２０２４		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） スポーツ指導者とは 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ指導者として大切にしたいことを説明できるようにしておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
2	スポーツ指導者の倫理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	指導者の心構え・視点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	指導計画の立て方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	スポーツ活動と安全管理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	プレーヤーと指導者の望ましい関係について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	ミーティングの方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	世界に頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	トップアスリートを育てるために	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	競技力向上のためのチームマネジメントについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	競技力向上のための情報とその活用について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	ドーピング防止について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容を復習する。（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	権利擁護を支える法制度 （科目ナンバリング：SWS112011　　）				
授業担当者 （所属・職名）	神内　秀之介(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　神内　秀之介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	公益社団法人日本社会福祉士会理事等の経験と多数の企業向け講演会・セミナー開催、「ふくしのよろずや神内商店合同会社」代表として福祉の経営やコンプライアンスなどのコンサルティングを行っている経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基盤となる人権や社会正義、尊厳などの基本 理念と権利擁護に関わる課題と法の関わりについて学ぶとともに，ソーシャルワークにおいて実践的に必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動を体系的に理解し、権利擁護と法の関係について自分の言葉で表現できることを目標とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。

到達目標

①憲法，行政法，民法など権利擁護と法との関係について理解できる。
②ソーシャルワーカーに必要な成年後見制度，日常生活自立支援事業等の知識について説明できる。
③権利擁護活動の実際について理解を示すことができる。

授業全体の内容と概要

権利に関わる基本的理解を基に，ソーシャルワークが対象とする利用者像を想定しながら，権利擁護が求められる社会的背景を理解し、ソーシャルワークにおいて必要となる法知識（憲法，民法，行政法など）を学ぶとともに，権利擁護の仕組みとしての成年後見制度や日常生活自立支援事業，成年後見制度利用支援事業についての知識を習得する。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」，「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は，パワーポイント及び配布資料を活用しながら，ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回，必ず教科書・配付資料（PCデータ化）を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格科目、精神保健福祉士国家試験受験資格科目、保育士養成課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現在の成年後見制度と権利擁度の問題点を理解できた。	成年後見制度の内容と権利擁護の仕組みを理解できた。	権利擁護に関わる法律の仕組みについて理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できなかった。
思考・判断	現状を踏まえわが国の権利擁護制度に内在する課題について考察できた。	成年後見制度の趣旨を権利擁護活動に活かす方法等を考えることができた。	成年後見制度の仕組みから権利擁護活動の実際をイメージすることができた。	成年後見制度，日常生活自立支援事業等について説明できた。	成年後見制度，日常生活自立支援事業等について説明できなかった。
関心・意欲	権利擁護活動におけるソーシャルワーカーの役割について理解を示すことができた。	利用者の能力に応じた権利擁護活動の実際について関心を示すことができた。	利用者の能力に応じた成年後見制度の仕組みについて理解を示すことができた。	権利擁護活動の実際について理解を示すことができた。	成年後見制度の必要性に関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	権利擁護を支える法制度 （科目ナンバリング：SWS112011　　）				
授業担当者 （所属・職名）	神内　秀之介(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　神内　秀之介　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	公益社団法人日本社会福祉士会理事等の経験と多数の企業向け講演会・セミナー開催、「ふくしのよろずや神内商店合同会社」代表として福祉の経営やコンプライアンスなどのコンサルティングを行っている経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・ 社会福祉士シリーズ　権利擁護を支える法制度』	福田幸夫・森長秀 編集	弘文堂	２０２１	978-4-335-61223-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 法とは何か①（法と社会規範，法と道徳の関係，法の体系・種類・機能）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
2	法とは何か②（法の基礎知識，法の解釈，裁判と判例）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
3	ソーシャルワークに関わる法①（憲法の意義，日本国憲法の基本原理，基本的人権）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
4	ソーシャルワークに関わる法②（民法の意義，民法総則，債権－契約，不法行為－など）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
5	ソーシャルワークに関わる法③（婚姻・離婚，親権・未成年後見，扶養，成年後見，相続）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
6	ソーシャルワークに関わる法④（行政法の意義，行政組織，行政行為，行政強制，行政訴訟，国家賠償）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
7	権利擁護を支える仕組み①（権利擁護の意義，福祉サービスの適正利用，苦情解決の仕組み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
8	権利擁護を支える仕組み②（高齢者虐待防止法，児童虐待防止法，障害者虐待防止法）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	権利擁護を支える仕組み③（障害者差別解消法，障害者サービスの利用等に関する意思決定支援ガイドライン）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
10	権利擁護活動における法的諸問題（インフォームド・コンセント，秘密・プライバシー・個人情報，権利擁護活動）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
11	成年後見制度（成年後見制度の意義と仕組み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
12	成年後見制度（後見，保佐，補助の概要，任意後見の概要）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
13	成年後見制度（成年後見制度利用支援事業，成年後見制度の動向）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
14	権利擁護に関わる組織，団体，専門職	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
16	試験（６０分）終了後、解説をしてフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	島田　晶夫・楠本　祐弘・中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

“物”を作るには必ずその物に最も適切な「構造」を考えなければならない。それが出来て初めてデザインするという事になる。デザイン→制作の過程を学び，あわせて，使用する木材の性質，木工の道具と機械類の操作，着色，塗装等も学ぶ。表現したいテーマや目標に対し、発想を展開しデザインする。安全で効率良い制作作業を行う。作品の説明までを一つの作品制作として行うように制作する。素材知識を身につけ、段取りをして物づくりの基本的な効率の良い作業の進め方を身につける。日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。ガラスの素材知識を理解する。ガラス工芸の手法を修得する。テーマを持ってデザイン表現が出来ている。作業を安全に効率よく行える。作品を的確な言葉で説明出来る。陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを学ぶ。あわせて，刃物の危険性も学ぶ。素材特性を理解するよう、作業と素材感の異なる3つの技法を行う。ハードト・ド・ヴェールでは原型･型取りを行い、ガラスを型に流し小皿またはオーナメントを製作する。高温のガラス特性を理解する為にバーナーワーク／吹きガラスを実技する。バーナーワークではガラス棒を溶かしとんぼ玉等を製作。吹きガラスはグラス等を製作する。基本的な焼き物の知識や技術を身につけてもらうため、茶碗・鉢・皿といった身近な物を課題にして成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども作品の制作経過に沿って学ぶ。それと同時に全国の焼き物・各窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

実際に作業を見せて説明し、実技を行う。パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながら進める。バーナーワークは交代で作業する。吹きガラスはパート・ド・ヴェールのスケジュールに照らし合わせ行う。講師による作業のチェックは適宜行う。講評会を行い、作品のプレゼンテーションを行う。課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。作業に適した服装を用意する。安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。
成績を主に作品で評価するため必ず作品提出する事。課題提出期限は厳守。遅刻，欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明，提出の方法は授業時間に指示する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度である。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真剣に取り組んでいる。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。	授業中着席するものの課題や作業をしていない。
知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にすすめ理解度を深めている。	授業内容をほぼすべて理解している。	授業内容の概ねを理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができる。また、安全な作業を展開できる。	授業内容をほぼすべて理解し，安全な作業を展開できる。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけている。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができない。
技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組む。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させる。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	島田　晶夫・楠本　祐弘・中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2	（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	島田晶夫　授業説明　第一課題「象嵌」 シラバスの説明 科目修了後に「身に付く力について」の説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
2	島田晶夫　第一課題のデザイン、制作	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
3	島田晶夫　第二課題「カトラリー」　デザイン	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
4	島田晶夫　第二課題の制作	完成までの計画を立てる事。（４５分）	手工具の使い方の把握。（４５分）
5	島田晶夫　第三課題「枡」 「組み」部分を練習材を用いて実際に作る	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
6	島田晶夫　第三課題の練習	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
7	島田晶夫　第三課題の本番材での加工①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
8	島田晶夫　第三課題の本番材での加工②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
9	島田晶夫　第三課題の本番材での加工③	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
10	島田晶夫　第三課題の細部手直し、組み立て、仕上げ、解説、フィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	指摘事項を確認すること。（４５分）
11	楠本裕弘　シラバスの説明･技法説明を行う。 ［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント 課題説明の後デザイン	シラバスを読んでおくこと。 アイデアの素材収集する。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
12	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　デザイン ［とんぼ玉］　交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	アイデアの検証する。（４５分）
13	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　原型制作 ［とんぼ玉］　交代で作業	作業の段取りをする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
14	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　原型制作 ［とんぼ玉］　交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	原型の修正を行う。（４５分）
15	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　耐火石膏型取り ［とんぼ玉］　交代で作業	原型の修正をする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
16	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　耐火石膏型取り ［とんぼ玉］　交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	石膏型の点検と修正を行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　焼成準備 ［吹きガラス］　グラス制作	グラスのデザインをする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
18	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　焼成準備 ［吹きガラス］　グラス制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	石膏型・カレットの点検を行う。（４５分）
19	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿･オーナメント　仕上げ	作業の段取りをする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
20	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿･オーナメント　講評会	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	自者他者の発表を考察する。（４５分）
21	中島知之　シラバス説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
22	中島知之　基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり・菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	中島知之　手びねりによる作品制作① カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
24	中島知之　手びねりによる作品制作② カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	中島知之　手びねりによる作品制作③ カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	中島知之　手びねりによる作品制作④ カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	中島知之　釉がけ・窯詰め・電気窯による焼成①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	中島知之　釉がけ・窯詰め・電気窯による焼成②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	中島知之　課題作品の批評会	質問事項を考えておく（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	中島知之　総講評会・解説	質問事項を考えておく（４５分）	講義全体をふりかえり，まとめを行うこと（４５分）
31	中島知之　楠本裕弘　島田晶夫 全体的な講評を行う。	これまで学んだ技法等についてまとめておくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	北嶋洋一　　各自の振り返りの発表 授業改善アンケートの実施 授業内容のフィードバック 科目修了後に「身に付く力について」の検証	これまで学んだ技法等についてまとめておく（４５分）	他の発表も参考に更に振り返りをおこなうこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年生		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑII （科目ナンバリング：IRE321073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実務経験を活かした実践的な授業を展開。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、建築コンペへの参加を通じて、要望を的確に汲み取り、共感や感動を生むデザインを創出する力を養うことを目的とする。オリジナリティを重視し、正確で美しく表現する技術を身につけるとともに、設計意図を豊かに伝えるプレゼンテーションスキルを向上させる。また、計画的に作業を進める習慣を身につけ、期限内に高い完成度の成果物を提出できる能力を育成する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5 に対応する科目

到達目標

与条件や要望、テーマを理解した上で、自らコンセプトを立案・デザインし、図面やパースなどを用いて適切に表現できる。また、その内容をプレゼンテーションを通じて他者へ伝えることができる。さらに、作品制作のスケジュールを自分で管理し、計画的に作業を進め、期限内に成果物の提出ができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、1つの建築コンペの参加を通して、コンセプト立案からデザイン、プレゼンボード作成からプレゼンテーションまでを一貫して実施することにより、実践的なデザインプロセスを学び、表現力と提案力を向上させる。

授業の方法

建築コンペの要項に基づき、各自課題に取り組む。課題検討にあたって考慮すべき事項について、複数回のレクチャーを実施する。また進捗状況確認及びエスキスチェックのためのフォローアップ授業を行う。成果物提出後はプレゼンテーション会を実施し、総評を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

より良い作品を制作するために、主体的で積極的な姿勢で参加すること。また、期限内に提出することを念頭に置き、計画的に作業を進めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上 。成果物の提出 及びプレゼンテーションの実施。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザイン力・表現力	要望を汲み取り、共感・感動を生むデザインができた。オリジナリティがあり正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえ共感を生むデザインができた。正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	プレゼンテーションを作成することができなかった。
プレゼンテーション力	デザインした内容を的確に豊かに表現した。共感・感動を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を的確に表現した。共感を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を的確に表現した。要望を汲み取ったプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を表現し、プレゼンテーションができていた。	プレゼンテーションができなかった。他者へ伝えることができなかった。
スケジュール管理	計画的に作業を進め、期限内に完成度の高い成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年生		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑII （科目ナンバリング：IRE321073　　）				
授業担当者 （所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実務経験を活かした実践的な授業を展開。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	課題説明1・シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明・科目を終了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認(30分)	説明内容の確認(30分)
2	課題説明2	デザイン構想（60分）	敷地調査（60分）
3	課題説明3	説明内容の確認(30分)	説明内容の確認(30分)
4	デザイン検討1	デザイン構想（60分）	デザインチェック（60分）
5	デザイン検討2	デザイン構想（60分）	デザインチェック（60分）
6	デザイン検討3	デザイン構想（60分）	デザイン表現（60分）
7	エスキスチェック1	デザインを表現（60分）	デザインチェック（60分）
8	エスキスチェック2	デザインを表現（60分）	デザインチェック（60分）
9	エスキスチェック3	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
10	成果物作成1	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
11	成果物作成2	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
12	成果物作成3	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
13	成果物提出	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
14	プレゼンテーション1	プレゼンテーション構想（60分）	プレゼンテーション復習（60分）
15	プレゼンテーション2	プレゼンテーション構想（60分）	プレゼンテーション復習（60分）
16	総評及び作品総評によるフィードバック、授業改善アンケートの実施、科目を終了して「身に付く力」についての検証	自己評価（30分）	授業全体の振り返り（60分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修
科目名称	CAD演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT322034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（佐藤）、２号館８階（伊藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ＣＡＤ教育の始めとして，学生がコンピュータによる作図が自在に出来るように，基本操作から木造・ＲＣ造設計課題を２次元ＣＡＤで「建築製図」として仕上げられる程度まで修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

学生が２次元ＣＡＤを使い，自分で計画した建築物が手描き図面のように，自由自在に使えるための基本操作と作図手順を行うことができる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて，2次元CADであるjw_cadを用いて，木造およびＲＣ造についての演習を行う。住宅の設計課題に取り組み，自由に作図できるようにjw_cadを習得する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

コンピュータ室にて，２次元ＣＡＤ画面を大型ディスプレイに表示しながら解説する。設計課題では作成したエスキスを個別にプレゼンしてもらい，図面確認と修正指導を行うことでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業はコンピュータ室を使うので座席指定する。ＵＳＢメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
２次元CADの特性を活かした作図ができるか	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することができた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することがほぼできた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することがある程度以上できた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することがある程度できた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することができなかった。
設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案できるか。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがほぼできた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度以上できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができなかった。
JW_CADを駆使して自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修
科目名称	CAD演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT322034　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（佐藤）、２号館８階（伊藤）		
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 インストールと設定，レイヤ・作図・編集等基本操作	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
2	レイヤ・作図・編集コマンド	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
3	木造平面図	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
4	木造立面図	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
5	ＲＣ造マンション平面図の作成１	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
6	ＲＣ造マンション平面図の作成２	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
7	ＲＣ造マンション平面図の作成３	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
8	ＲＣ造マンション敷地図と南側立面図の作成	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
9	2.5Dの作成１	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
10	2.5Dの作成２	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
11	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成１	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
12	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成２	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
13	内部パースの作成（CADデータのインポート）	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
14	内部パースの作成（柱壁の立ち上げ）	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
15	内部パースの作成（着色） 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
16	講評会 講評によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	レクリエーション概論 （科目ナンバリング：AHS522068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人々の健康づくりや体力向上、スポーツの振興、高齢者や障がい児(者)福祉、子育て支援や保育・幼児保育、子どもたちの健全育成や学校教育、ボランティアによる地域づくりなど、幅広い連携体制について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

レクリエーションの意義や歴史・制度について理解を深め、レクリエーション・インストラクターの役割を確認をするとともに、現代社会における、ライフステージごとの課題や乳幼児・児童・障がい児(者)レクリエーションの課題について学び、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解する。また、レクリエーション事業の考え方や展開方法について理解し、且つ安全管理等についても理解する。
次世代を生きる子どもたちになぜレクリエーション活動支援が必要なのかについて知る。

授業全体の内容と概要

レクリエーションの主旨(目的)は心を元気にすることであり、レクリエーション支援者は、人々が自主的、主体的心を元気にできるようになることを目的に、ゲームや歌、ダンスといったレクリエーション活動を用いて手助けする指導者である。主に、福祉分野や教育分野の施設、学校、地域の事業などの現場で高齢者や子どもなどの対象者として心の元気づくりの支援を身に付ける。
レクリエーション講義では、以上の目的を達成するために、①レクリエーション概論②楽しさと心の元気づくりの理論③レクリエーション支援の理論について学ぶ。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的には対面式の授業形態であるが、演習部分ではグループワークの形をとるため、少人数でのグループ形式の授業形態もある。
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	１０%	0%	２０%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
;レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。	レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。
レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。
レクリエーション支援事業の知識と理解	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論 （科目ナンバリング：AHS522068　　）				
授業担当者 （所属・職名）	尾西　則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　尾西　則昭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『レクリエーション支援の基礎』	小西亘	(財)日本レクリエーション協会	2007年	9784931180819	
2	『楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践』	川村皓章	(財)日本レクリエーション協会	2000年	9784931180611	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明と 授業改善アンケート結果反映の説明をする。	事前にシラバスを読んで確認する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
2	レクリエーションの意義及び歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
3	レクリエーション運動の歴史 ビデオ鑑賞	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
4	レクリエーションインストラクターに期待される役割	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
5	人を支えるレクリエーション支援	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
6	高齢者社会の課題とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
7	障がい者とレクリエーション ビデオ鑑賞	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
8	レクリエーションの企画・運営 小テスト①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
9	事業を実施	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
10	レクリエーション事業を評価	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
11	クラブ運営	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
12	レクリエーションリーダーの役割 アイスブレーキング・ホスピタリティトレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
13	レクリエーション活動	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
14	レクリエーション活動の安全管理 小テスト②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
15	事業開催に伴う事務処理 定期試験対策	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする。 本科目を修了して「身に付く力」について検証、 授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(９０分)	解説の内容を確認する。(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄⅠ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　五ノ井　壽一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

観光マネジメントの特性・重要性を講師の経験を通して、理解し身に付けることを目的する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

観光産業の現状と課題を認識することで観光マネジメントの重要性を理解する。

授業全体の内容と概要

観光の概念と特徴を説明し、主な観光産業の歴史・特徴・現状等を紹介し観光学の基礎、観光ビジネスの基本知識を観光サービスの視点から解説していく。

授業の方法

授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
出席率・授業参加度等の平常点、レポートの結果等を総合的に判断する。特に平常点を重視する。期限までにレポートの提出がなかったものは評価の対象としない。また、授業中のスマホ使用は厳にこれを慎むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めていはいた。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。
レポートについて（思考力・判断力・表現力）	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。
授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言い難い取り組みだった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄⅠ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　五ノ井　壽一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『観光サービス論』	安田　亘宏	古今書院	２０１５	9784772231664	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『1からの観光事業論』	高橋一夫・柏木千春	碩学舎	2016	9784502172816	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
2	観光と観光サービス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
3	観光の歴史	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
4	国内旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
5	海外旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
6	訪日外国人旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
7	観光行政	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
8	観光ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
9	旅行業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
10	宿泊業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
11	観光交通ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
12	観光施設ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
13	観光まちづくり	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
14	ニューツーリズム（1）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
15	ニューツーリズム（2） 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
16	まとめ（レポート総評と解説） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	講義を振り返り、質問事項等があれば整理しておくこと（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 （科目ナンバリング：ESS143157，ESS243103，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	加藤　　隆（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　加藤　隆　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	小学校教員及び大学教員として道徳教育指導に携わった		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観や道徳観、教育観、道徳教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。
我が国の道徳教育の歴史と現代の課題について理解することができる。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
③現代社会が抱える問題点やその価値観・道徳観をしっかりと把握する。
④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や道徳教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

我が国の道徳教育の歴史と現代の課題をふまえて、より望ましい道徳教育の在り方や実際の指導法に関する構想力や実践力を身につける。また、そのことを通じて、自身の価値観や人生観、そして道徳観の形成につなげる。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。相互の意見交流、模擬授業などによるアクティブラーニングを行う。適宜、平常点を付与する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中の学ぶ態度については、各自で考えて行動する。道徳教育（学校教育も含めて）は価値や倫理に関わる内容を扱うことになります。各自の道徳観や倫理観に関わるので、テーマに対してそれぞれが自問自答したり、相互に意見交流や実践交流をすることを重視します。数学や科学のような正答ではなく、各自の学びに向かう態度を重視したいと思います。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義はすべて出席するのが基本ですが、単位認定に必要となる出席回数は１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	40%	０％	０％	20%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義やビデオの内容を十分理解し、みずからの教育観に十分役立てた。	講義やビデオの内容をかなり理解し、みずからの教育観にかなり役立てた。	講義やビデオの内容をそれなりに理解し、みずからの教育観にそれなりに役立てた。	講義やビデオの内容を理解しようと努め、みずからの教育観に役立てようと努めた。	講義やビデオの内容を理解しておらず、みずからの教育観に役立てていなかった。
発言	みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につけた	みずからの考えをある程度表現する能力やコミュニケーション能力を身につけた	みずからの考えを表現する能力やコミュニケーション能力に努力の跡が見られた	みずからの考えを表現する能力やコミュニケーション能力にやや課題が見られた	みずからの考えを表現する能力やコミュニケーション能力がほとんど見られなかった
ディベート、構成的グループエンカウンターなど	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、積極的に発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、それなりに発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、発表しようと努めた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて消極的で、ほとんど発表していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 （科目ナンバリング：ESS143157，ESS243103，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	加藤　　隆（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　加藤　隆　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	小学校教員及び大学教員として道徳教育指導に携わった		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『レジュメと参考資料を毎回配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの解説（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、身に付く力として学年、学級経営上のポイントを理解頂きます いま、なぜ、道徳教育なのか	シラバスをきちんと読む（９０分）	第１回講義の復習（９０分）
2	道徳教育とは何か 自分たちが経験した道徳教育	第１回講義の復習と第２回講義の予習（９０分）	第２回講義の復習（９０分）
3	道徳教育は教えられるのか	第２回講義の復習と第３回講義の予習（９０分）	第３回講義の復習（９０分）
4	我が国の道徳教育の歴史（戦前まで）	第３回講義の復習と第４回講義の予習（９０分）	第４回講義の復習（９０分）
5	我が国の道徳教育の歴史（戦後以降）	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	今日の我が国の道徳教育の現状と課題	第５回講義の復習と第６回講義の予習（９０分）	第６回講義の復習（９０分）
7	今日の欧米の道徳教育の現状と課題	第６回講義の復習と第７回講義の予習（９０分）	第７回講義の復習（９０分）
8	道徳教育の指導（教材編）	第７回講義の復習と第８回講義の予習（９０分）	第８回講義の復習（９０分）
9	道徳教育の指導（指導法編）	第８回講義の復習と第９回講義の予習（９０分）	第９回講義の復習（９０分）
10	学習指導案の作成１	第９回講義の復習と第10回講義の予習（９０分）	第１０回講義の復習（９０分）
11	学習指導案の作成２	第１０回講義の復習と第１１回講義の予習（９０分）	第１１回講義の復習（９０分）
12	学習指導案の作成３	第１１回講義の復習と第１２回講義の予習（９０分）	第１２回講義の復習（９０分）
13	模擬授業１	第１２回講義の復習と第１３回講義の予習（９０分）	第１３回講義の復習（９０分）
14	模擬授業２	第１３回講義の復習と第１４回講義の予習（９０分）	第１４回講義の復習（９０分）
15	模擬授業３	第１４回講義の復習と第１５回講義の予習（９０分）	第１５回講義の復習（９０分）
16	最終テスト（持ち込み可） これまでのフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	最終テスト（９０分）	第１６回講義の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	貧困に対する支援 （科目ナンバリング：SWS112012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

概要

履修目標

１．貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
２．貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。
３．貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。
４．貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
※厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室「社会福祉士養成課程カリキュラム(令和２年３月６日)」より

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。

到達目標

１．貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解できる。
２．貧困の歴史と貧困観の変遷について理解できる。
３．貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解できる。
４．貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解できる。

授業全体の内容と概要

１．貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について学ぶ。
２．貧困の歴史と貧困観の変遷について学ぶ。
３．貧困に係る法制度と支援の仕組みについて学ぶ。
４．貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解できる。公的扶助の概念，範囲，歴史的展開，現代社会における機能などについて概説したうえで，わが国における公的扶助制度である生活保護制度の仕組みと生活困窮者に対する自立支援のあり方について学び，併せて最近の保護動向から今後の課題について学ぶ。
５．「SDG１．貧困をなくそう」，「SDG2.飢餓をゼロ」の関連科目

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．社会福祉士等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。
６．スポーツなどの大会などへの参加で授業に欠席する場合は事前にご相談ください。
７．交通機関などの遅休・遅延など生じた場合も事前・事後にご相談ください。
８．何らかの問題が生じた場合などはTeamsのチャット機能や授業のチームに連絡事項を掲載しますので、見ておくようにしてください。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・学生個人、親、教員、スクールカウンセラーからの情報などを得て、対応を行う。
・具体的には「参考資料」、「板書やパワーポイント」の量や文字の大きさ、スピードへの対応を行う。
・体調不良時などはオンラインやオンデマンドの対応も行う。
・講義中の録音、録画、撮影などの対応にも配慮する。
・必要に応じて座席や教室の出入りなどの対応にも配慮する。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程（選択）、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程（精神）

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解できる。	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について考えることができた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
貧困の歴史と貧困観の変遷について理解できる。	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について考えることができた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
貧困に係る法制度と支援の仕組み、貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解できる。	具体的な事例に則して最低生活保障のあり方について考えることができた。	現代における貧困原因を分析しソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	現代における貧困問題に対するソーシャルワーカーの役割について考える姿勢を示した。	現代における貧困原因について考えることができた。	現代における貧困原因について考えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	貧困に対する支援 （科目ナンバリング：SWS112012　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座４ 貧困に対する支援 第２版』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２６年	978-4-8243-0349-3	2,970円（税込）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・初回の授業ということでガイダンスとして、シラバスを示し、授業現在の流れや成績評価について説明を行う。 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 ・科目を修了して『身に付く力』についての説明 ・貧困の概念とは	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
2	貧困の概念－公的扶助の意義と範囲について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
3	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ー貧困状態にある人の生活実態について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
4	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ー貧困状態にある人を取り巻く社会環境について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
5	貧困の歴史から理解するべきこと、学ぶべきこと ー貧困状態にある人に対する福祉の理念について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
6	貧困の歴史から理解するべきこと、学ぶべきこと ー貧困観の変遷について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
7	貧困の歴史から理解するべきこと、学ぶべきこと ー貧困に対する制度の発展過程について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
8	貧困に対する法制度から理解するべきこと、学ぶべきこと ー生活保護法について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
9	貧困に対する法制度から理解するべきこと、学ぶべきこと ー生活困窮者自立支援法について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
10	貧困に対する法制度から理解するべきこと、学ぶべきこと ー低所得者対策・ホームレス対策について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
11	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 「貧困に対する支援における公私の役割関係」「国、都道府県、市町村の役割」「福祉事務所の役割」	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 「貧困に対する支援における公私の役割関係」「国、都道府県、市町村の役割」「福祉事務所の役割」について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 「自立相談支援機関」「その他の貧困に対する支援機関」「専門職種」について 第１回～第１３回までのまとめ	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
14	貧困に対する支援の実際について	シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
15	試験の実施 ※通常試験時間６０分、配慮の必要な学生９０分などで対応	試験勉強をしておくこと（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分
16	授業全体の振り返り、フィードバック（解説） 試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業アンケートの実施 最後の授業ということで、出席状況や成績評価について学生が確	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 （科目ナンバリング：MAN413002，MAN513002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今まで学んできた様々な経営分野の知識を集合体としてとらえマネジメントの本質を理解し実践できる知識を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

経営に関する実践的な思考を実務に生かすため、種々の理論等が理解できる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートをとり，その内容をしっかり理解すること。様々な考え方を利用することによって今まで学んだことがどのようにつながり意思決定やバランシング/ファンエンゲージメントにつながるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。文字資料・動画資料を利用し、教科書に沿って経営学におけるマネジメントの本質をより深く理解してもらう。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。課題に関しては授業内でディスカッション形式で事前確認を行うものとする。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，テキスト・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９２点以上の得点を挙げた。	定期試験で８４点以上の得点を挙げた。	定期試験で７６点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメントカを身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 （科目ナンバリング：MAN413002，MAN513002　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「経営学」』	佐藤　耕紀	同文舘出版株式会社	2021	9784495540890	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業アンケート結果の説明 経営学の基本的な考え方	専用のノートを準備する（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
2	正しく考え、正しく判断する心理学的側面	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
3	価格の仕組みを理解して、増収・増益を目指す	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
4	相乗効果とコストダウン	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
5	ライバルとの競争を勝ち抜く	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
6	目的実現	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
7	分析手法　復習①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
8	分析手法　復習②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
9	ファン・エンゲージメント	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
10	やる気と個性を活かして、強いチームを作る	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
11	DX時代の組織の形を考える①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
12	DX時代の組織の形を考える②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
13	DX時代の組織の形を考える③	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
14	人材マネジメント＆ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験および総括	試験に備える（９０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・全学年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	海外研修プログラム （科目ナンバリング：ENL091065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1　（単位認定責任者：　当該年度引率教員　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

研修先（オーストラリア）においてその文化や言語を学習し、以って帰国後の学習における目的を明確にする。現地におけるホームステイを通し異文化を理解しショートトリップ等から歴史や価値観を学び取ってほしい。学習先はTAFE（オーストラリア国立の目的別単位認定高等教育機関）の移民対応英語クラスを利用。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

英語における日常のコミュニケーションが取れる。またホームステイを通し独特な表現や特有の言い回しなど現地に行かなければ知りえなかった表現を体得する。

授業全体の内容と概要

研修先のTAFE（オーストラリア国立の目的別単位認定高等教育機関）のプログラムを利用し文化・言語を実地に学ぶ。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

TAFE（オーストラリア国立の目的別単位認定高等教育機関）においては通常座学・動画・パワーポイントを利用した個別学習やグループ学習。これに、ショートトリップや見学会・講習会等を通じナチュラルな英語に触れ今後の学習に役立てる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講制限は特に置かないが通算GPAが1.5以下のものおよび参加直前の習得単位が以下の条件に達していないものは参加できない。1年生15単位、2年生45単位、3年生75単位、4年生105単位。なお、参加費が有料となるので注意すること。参加者には卒業認定単位が与えられる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。研修期間中であっても随時チームズのチャットおよび参加者用LINEにて対応する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

急病等の特殊事情を除き、原則全プログラムに参加し終了賞の交付を受けた学生に対してのみ単位認定を行う。グレーディングに関しては現地コーディネーターと本学引率教職員が協議の上決定するものとする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２５％	０％	０％	７５％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性・協働性	プログラムに積極的に取り組み、自分のみならず他の研修参加者と協力して本学の期待に十分こたえた。期待されるレベルを超える成果を残した。	プログラムに取り組み、他の研修参加学生と共に期待されるレベルを十分に達成した。	プログラムに取り組み、個人レベルで期待される十分な成果を残した。	プログラムに取り組み、及第点と思われる成果を残した。	プログラムを消化しきれなかった。積極性や協働性に関しても期待するレベルに遠く及ばなかった。
思考力・判断力・表現力等	プログラムに積極的に取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいて求められるレベルを大きく超えることができた。報連相も欠かすことがなかった。	プログラムに取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいても期待されるレベルを達成することができた。	ポログラムに取り組み、概ね期待されるレベルに到達した。	プログラムに取り組み、苦しみながらもコミュニケーションを図ったが最低限容認できるレベルにとどまった。	プログラムに対する取り組みが不十分であった。コミュニケーションに関しても最低限のレベルをクリアできなかった。
知識・技能	参加前に十分な調査を行い、現地ではそれらを確認しつつ、帰国後のレポートにおいても十分に満足できるものだった。	参加前に調べた内容と実際との差に気付き帰国後のレポートを満足できるレベルで書き上げた。	事前学習が帰国後のレポートに余り反映されていないものの十分に評価できるレポートを提出した。	事前学習が不足のままでのプログラム参加となり、帰国後のレポートもやや評価に欠けるものとなった。	事前学習を行わずプログラムの消化も不十分であり、帰国後のレポートもあまり見る点がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・全学年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	海外研修プログラム （科目ナンバリング：ENL091065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1	（単位認定責任者：　当該年度引率教員　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	事前学習を通して日本に居ながらにしての現地理解に努める。　出国前学習：現地でのプログラムの確認、携行品の確認、授業内容と学習の心構え等確認をする。	自己の目的を再確認し授業に臨むこと。	学習内容に鑑み渡航準備を整える。
2	プログラム内容に沿って研修に参加する。	期間中翌日の準備を怠らない。	期間中毎日の振り返りを必ず行い、研修ノートを作成すること。
3	帰国後、研修報告レポートを提出。　帰国後学習：研修報告書（レポート）の作成、並びに研修報告プレゼンテーションを実施する。	研修ノートを参考に準備を怠らない。	自分なりの総括を行うこと。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	2号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
②保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP4、DP５に対応する。

到達目標

保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業全体の内容と概要

保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を学修する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイントなどで展開し、各回のテーマに沿った解説を行う。フィールドワークで自然の造形美に触れる体験を行う。そこから得たことを生かした課題制作を実技形式で行う。不測時における授業や補講等でオンライン授業を実施する場合がある。（但し、保育士課程は対面による授業をしなくてはならない。）・受講人数や季節、天候、習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更することがある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・指定した用具・用品等、各自が必要とする材料・用材等を持ってくること。・出席を取り終わった後は欠席とする。・毎回出席することが大前提。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程などに基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	６０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力をつける。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を十分につけることが出来た。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力概ねつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を不十分ではあるがつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を最低限つけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力をつけることが出来ていなかった。
造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつける。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を十分につけることが出来た。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を概ねつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を不十分ではあるがつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を最低限つけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつけることが出来ていなかった。
発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来る。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが十分にできていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが概ね出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが不十分ではあるが出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが最低限出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122086　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	2号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明　当該科目を修了して「身につく力」とは 保育の内容における造形表現とは	あらかじめシラバスの確認をしておく（45分）	授業の流れを理解し全体の見通しをもつ（４５分）
2	”保育士”として自己紹介をしよう	幼児の発達特性を予習しておく（４５分）	授業内容の継続（４５分）
3	保育における造形表現の位置付け	授業内容の継続(45分)	授業内容の継続（45分）
4	造形表現のための基本技法①	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
5	造形表現のための基本技法②	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
6	造形表現のための基本技法③	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
7	造形表現のための基本技法④	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
8	造形表現のための基本技法⑤	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
9	造形表現のための応用技法①	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
10	造形表現のための応用技法②	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
11	造形表現のための応用技法③	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
12	造形表現のための応用技法④	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
13	造形表現のための応用技法⑤	授業内容の継続（45分）	授業内容の継続（45分）
14	さまざまな造形表現と保育の環境	授業内容の継続（45分）	講評会に向けて、準備（45分）
15	講評会（フィードバック）	講評会に向け、準備（45分）	講評会の内容を振り返る（45分）
16	授業改善アンケートの実施　当該科目の第1回目に示した「身につく力」について検証	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。（45分）	講評を通じて感じたことを、以後の作品に反映させていくことを考える。（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現IV （科目ナンバリング：AHD322042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前半では，建築図面の基礎的立体表現として陰影とアクソメ図の課題に，後半では3年次に就職活動で必要とされるポートフォリオ作成の基礎的作業をおこなう。その後，立体表現の基本である透視図の課題に取り組む。履修学生は，立体表現の課題では基本的技術を習得し，ポートフォリオ作成では，ファイリングされた作品が自己表現のひとつと認識するとともに，表現の多様性を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

立体表現の基礎技術力ならびに応用力を養うとともに，表現の対象となる有名建築作品，設計者（建築家）の考え方について理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

いくつかの課題ごとに講評会をおこなう。課題製作，原則として授業時間内におこない即日提出とするが，やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８５％	０％	０％	１５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と，可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身につけようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身につけることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身につけることができた。	立体表現の基礎技術を身につけることができなかった。
表現の対象となる有名建築作品，設計者（建築家）の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち，建築作品，設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。
講評会を通して，自分の作品及び他社の作品に対する批評をもとに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し，改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し，改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。
ポートフォリオの作成	本ポートフォリオをさらにブラッシュアップした完成ポートフォリオを作成できる。	本ポートフォリオを作成できる。	元ポートフォリオを作成できる。	作品をファイリングすることができる。	作成した作品のファイリングができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅳ （科目ナンバリング：AHD322042　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	陰影表現１（立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
3	陰影表現２（配置図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	アクソノメトリクスの図法解説	授業資料の確認（45分）	授業資料の復習（45分）
5	アクソノメトリクスの表現１（外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
6	アクソノメトリクスの表現２（内観・外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	アクソノメトリクスの表現３（内観・外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	ポートフォリオ制作１　課題説明　作品返却	授業資料の確認（45分）	返却作品の確認（45分）分
9	ポートフォリオ制作２　元ポートフォリオ提出	元ポートフォリオ準備（45分）	追加作業（45分）
10	ポートフォリオ制作３　本ポートフォリオ提出	本ポートフォリオ準備（45分）	追加作業（45分）
11	透視図１	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）分
12	透視図２	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	講評会　ポートフォリオ	授業資料の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
14	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	可塑的素材を使用した模型の制作　　模型設置用台の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
16	総評（全作品の講評）　授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS243094　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。

授業全体の内容と概要

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを行う。模擬授業では他の学生の授業について検討し、ディスカッションを行う。模擬授業実施後、再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指導案の作成や模擬授業などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。
『中学校美術の教科書1～3年』　（開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など）について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので各自が1冊は購入することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案の作成能力	授業内容を超えて文献や資料を自分で調査して、学習指導案を適切に作成することができた	学習指導要領に沿って、考察をより深めながら適切に学習指導案を作成することができた	自学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた	学習指導案を作成することができなかった
模擬授業などの演習やディスカッションを通した考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学修が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS243094　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　竹内　美帆　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編　平成29年7月―平成29年告示』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽・美術・工芸・書道）編・音楽編・美術編　平成30年7	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆眞、茂木一司、福本謹一	建帛社	2010年	9784767921013	
2	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業についてのオリエンテーション　科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果に関する説明	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	学習指導要領における「鑑賞」：その意義と目的、内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	鑑賞教育の歴史と種類	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	「鑑賞」の教材研究（１）アートカードを使った鑑賞教育	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。（９０分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（９０分）
5	「鑑賞」の教材研究（２）「分析批評」による名画鑑賞の授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。（９０分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（９０分）
6	「鑑賞」の教材研究（３）対話型鑑賞による授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。（９０分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（９０分）
7	ICT機器の活用について	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	学習指導案の作成（１）年間指導計画・学習指導案の構成と作成方法	事前配布プリント教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリント教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	学習指導案の作成（２）学習指導案の構成と作成方法	学習指導案を作成する（９０分）	学習指導案を作成する（９０分）
10	学習指導案の作成（３）制作した指導案の確認　模擬授業へ向けた準備	学習指導案を作成する（９０分）	模擬授業の準備をする。（９０分）
11	模擬授業（１）	模擬授業の準備をする。（９０分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（９０分）
12	模擬授業（２）	模擬授業の準備をする。（９０分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（９０分）
13	模擬授業（３）	模擬授業の準備をする。（９０分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（９０分）
14	模擬授業振り返り　指導案の修正	模擬授業を受けて、指導案を改めて作成する（９０分）	学習指導案を作成する（９０分）
15	まとめ　指導案の提出 授業改善アンケートの実施	これまでの授業の疑問点をまとめておく（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	模擬授業と指導案の講評　フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業の疑問点をまとめておく（９０分）	講評のフィードバックを受けて、授業の内容の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 （科目ナンバリング：SOM112013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での実務経験を踏まえ、社会福祉活動を実践するうえで医療保険制度および保健医療サービスの仕組みについて体系的に講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉活動に必要な医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種の協働について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

保健医療サービスについてその概要と保健医療サービス提供が各専門職の連携をもとになされることを説明できる。

授業全体の内容と概要

保健医療の概況や基本事項を学ぶ。それぞれの専門職種が担う役割をもとに保健医療サービス提供における連携とはどのようなものか理解を深める。

授業の方法

・授業はパワーポイントおよび配布物資料で実施し、資料に基づいて講義形式で行う。また、確認テストを時間内で実施し、フィードバックとして回収後、回答について解説する。
・ICTを活用し、授業に関する質問等については、チャット形式などの支援システムを用いて迅速に対応する。
・「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・教科書は必ず持参すること。
・必要な資料等は適宜配布する。配布した資料は毎回持参すること。
・20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，　精神保健福祉士国家試験受験資格課程，　保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険制度の理解	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について詳細に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について概ね理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について部分的に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
保健医療サービスの概要	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法について把握し、健康増進・保健対策との関連を詳しく説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について概ね説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について部分的に説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。
専門職の役割	保健医療分野における社会福祉士の役割を、患者の権利とチーム医療との関連から詳しく説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について概ね説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について部分的に説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 （科目ナンバリング：SOM112013　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での実務経験を踏まえ、社会福祉活動を実践するうえで医療保険制度および保健医療サービスの仕組みについて体系的に講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座　５　保健医療と福祉　第２版』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2025	978-4-8243-0156-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健医療サービスについて 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前に教科書全体に目をとおしておく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
2	医療保険制度	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
3	医療保険制度（保険給付）	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく（９０分）	配布資料を見直しておく（９０分）
4	医療保険制度（医療費政策）	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく（９０分）	配布資料を見直しておく（９０分）
5	診療報酬	教科書の「診療報酬」を事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
6	保健医療サービスの概要（医療法）	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
7	保健医療サービスの概要（医療・福祉施設と医療計画）	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく（９０分）	前半の授業内容を復習しておく（90分）
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨む（90分）	問題を見直し自己採点しておく（９０分）
9	テスト返却。保健医療サービスの概要（衛生行政活動）	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく（９０分）	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく（９０分）
10	保健医療サービスの概要（健康増進・保健対策）	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
11	専門職の役割（医療ソーシャルワーカー）	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく（９０分）	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する（９０分）
12	専門職の役割（各専門職とチーム医療）	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく（９０分）	配布資料を見直しておく（９０分）
13	専門職の役割（患者の権利・インフォームドコンセント）	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく（９０分）	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する（９０分）
14	保健医療サービスの連携と実際	教科書の「専門職の連携」について事前に読んでおく（９０分）	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する（９０分）
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	提案した福祉課題に今後も取り組んでいく（９０分）
16	６０ 分の試験終了後、残りの ３０ 分で解説をしフィードバックする	定期試験準備を行っておく（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ英語ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（ｻﾌﾞﾒｼﾞｬｰ） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営・名誉教授）、信濃　吉彦（経営・教授）	研究室等所在	1号館１階非常勤講師室（岡島）、2号館6階（信濃）		
単位数	4　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	履修希望学生と協議の上決定する。基本的には研究室前のボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

国際言語である英語の運用能力を高めTOEIC700点突破を目指す。加えて、すべての技能分野および米国の大学システムや文化等に対する理解を深める。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

英語に関する技能・知識に関してTOEIC460点レベルを達成できた。

授業全体の内容と概要

本講座は2名の講師によるオムニバス方式で行う。3年次と4年次を通しての2年間通年科目なので頑張って継続して欲しい。TOEIC700点突破を目指すのでそのつもりで受講していただきたい。語彙の習得、文法事項の整理・学習からTOEIC対策問題への取り組み、英語圏の大学制度や文化まで幅広く学習する。

授業の方法

本講座は通常　対面で行うものとする。特別な事情によりリモートで行う場合もある。各回の授業内容は担当教員の指示に従うこと。また、本講座はVoiceTraの使用を認める場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は、単位認定に関して特別に期間を設けて履修登録を行うので注意すること。ノートを必ず持参し、出来れば辞書も用意すること（高校の時に利用していたモノで十分です）

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数は64回です（２年間）。単位認定に必要となる最低出席回数は、各年度２６回以上、欠席可能回数はセメスター（半期）につき３回までです。自然災害等で出席ができない場合など必ずチームズで連絡すこと。特殊事情によりリモートで行う場合がある。補講対応も実施する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１５％	０％	７０％	１５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性・協働性	プログラムに積極的に取り組み、自分のみならず他の学生と協力して期待されるレベルを超える成果を残した。	プログラムに取り組み、他の学生と共に期待されるレベルを十分に達成した。	プログラムに取り組み、個人レベルで期待される十分な成果を残した。	プログラムに取り組み、及第点と思われる成果を残した。	プログラムを消化しきれなかった。積極性や協働性に関しても期待するレベルに遠く及ばなかった。
思考力・判断力・表現力等	プログラムに積極的に取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいて求められるレベルを大きく超えることができた。	プログラムに取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいても期待されるレベルを達成することができた。	ポログラムに取り組み、概ね期待されるレベルに到達した。	プログラムに取り組み、苦しみながらもコミュニケーションを図ったが最低限容認できるレベルにとどまった。	プログラムに対する取り組みが不十分であった。コミュニケーションに関しても最低限のレベルをクリアできなかった。
知識・技能	TOEICにおいて700点を超える成績を残した。	TOEICにおいて概ね700点前後の成績を残した。	TOEICにおいて550点以上の成績を収めることができた。	TOEICにおいて460点以上の成績を残すことができた。	TOEICにおいて400点を超えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ英語ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（ｻﾌﾞﾒｼﾞｬｰ） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島　徳昭（経営・名誉教授）、信濃　吉彦（経営・教授）	研究室等所在	1号館１階非常勤講師室（岡島）、2号館6階（信濃）		
単位数	4　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	履修希望学生と協議の上決定する。基本的には研究室前のボード等を参照のこと。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる英語の基本』	澤井　康佑	開拓者	2010	9784758915304	1480円＋Tax
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：本コースの目的、システム、学習内容等を確認する（科目を修了して「身に付く力」についての説明を含む）	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
2	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
3	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
4	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
5	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
6	VoiceTraの使い方	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
7	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
8	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
9	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
10	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
11	英語学習サイトの使い方	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
12	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
13	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
14	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
15	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
16	前期総括	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
18	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
19	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
20	アメリカの大学システムと大学生の日常生活	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
21	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
22	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
23	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
24	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
25	TOEICとIELTS　留学に際して英検が駐目な理由	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
26	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
27	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
28	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
29	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
30	英語に関する　質疑応答	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
31	英語に関する　質疑応答	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。（９０分）
32	科目総括（フィードバック）	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。（９０分）	全体の振り返り。（９０分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　小黒　万里子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	全日本合唱コンクール全国大会のピアノ伴奏者等としての経験を活かし，実践を交えた指導を行う。		
オフィスアワー	非常勤教員 入力例：事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で，子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と，身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識，技術である音楽表現ができる。
身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境づくりを実践することができる。

授業全体の内容と概要

保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識，技術を習得する。身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書や板書を用いて説明を行い，実技を通して保育における教材等の活用及び作成と，身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。質問や相談に対して随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習において，しっかりしたイメージをもって授業に臨むよう準備すること。限られた授業時間なので，事後学習として各個人でトレーニングを行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	３０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しいかった。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することが難しかった。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122084　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　小黒　万里子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	全日本合唱コンクール全国大会のピアノ伴奏者等としての経験を活かし，実践を交えた指導を行う。		
オフィスアワー	非常勤教員　入力例：事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂　ユニバーサルデザインの音楽表現』	星山麻木	萌文書林	２０１８年	978-4893472854	
2	『保育者のためのピアノの基礎』	井口太／筒井かほる	朝日出版社		9784255156286	
3	『五線紙（ノート）』					様式は問わない
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 保育の内容「表現」の中の音楽表現について 身に付く力』についての説明	シラバスを確認すること（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
2	音・動き・リズム・ことばの音楽表現①（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
3	音・動き・リズム・ことばの音楽表現②（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
4	音・動き・リズム・ことばの音楽表現③（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
5	音・動き・リズム・ことばの音楽表現④（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
6	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑤（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
7	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑥（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
8	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑦（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
9	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑧（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
10	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑨（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
11	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑩（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
12	てあそび歌，わらべ歌①	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
13	てあそび歌，わらべ歌②	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
14	てあそび歌，わらべ歌③	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
15	音楽表現のまとめ	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分でフィードバックを行います。 授業改善アンケートの実施 『身に付く力』についての検証	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	解説を受けて，講義全体のふりかえりを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222069　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーションボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

彫刻Ⅱでは、木彫の基本的な技法、用具の使いかた、材料についての知識を実践的に学ぶ。
課題はAまたはBのどちらか１つを選択して行う。Aは写実表現。Bは簡易な写実表現＋抽象表現。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、プレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

立体構成１及び２、彫刻１を履修したものが望ましい。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（７０%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０%）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222069　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーションボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理科しておく事（４５分）
2	彫刻を考える	身近な彫刻作品について考えてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
3	木彫 A「りんご」　ドローイング B「たまご」ドローイング 鑿研ぎ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
4	木彫 A「りんご」ドローイング B「たまご」ドローイング 鑿研ぎ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
5	木彫 A「りんご」 B「たまご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
6	木彫 A「りんご」 B「たまご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
7	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
8	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
9	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
10	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
11	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
12	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
13	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
14	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
15	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
16	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
18	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
19	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
20	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
21	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
22	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
23	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
24	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
25	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
26	木彫 A りんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
27	木彫 A りんご　仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
28	木彫 A りんご　仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
31	講評 授業全体への講評とプレゼンテーションへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
32	講評 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身につく力の検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習Ⅰ （科目ナンバリング：EDU144166，EDU244114，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	未定		
単位数	4　（単位認定責任者：　塩崎　大輔　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（1）生徒の発達や学校生活の実態と理解
（2）学校環境（教職員組織、学級編成、施設設備等）の把握と理解
（3）教育課程の理解及び研究
（4）学習指導方法の理解及び研究
（5）特別活動、生徒指導、教育相談の実践及び研究
（6）学校・学級事務、ＰＴＡ活動、地域社会活動の実践及び研究
（7）教師としての勤務や研究活動の理解及び実践
以上の項目を身に付けることができる。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

中学校等での教育実習を経験することにより、教師として必要な最低限度の基礎的知識や技術を修得することができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の現場で、指導教諭のもとで学習指導・生徒指導・学級経営・特別活動の指導・教材研究などに接し、教師として必要な基礎的知識や技術を修得することになる。また、課題となる実習項目も発見することができる。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

中学校等での実践的な教育実習を経験することにより、教師として必要な教育課程の理解及び研究・学習指導方法の理解及び研究・特別活動・生徒始動など基礎的知識や技術を修得する。教育実習後に提出する教育実習日誌とレポートついては、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

中学校等で３週間以上（全授業時間１２０時間以上）の教育実習を行わなければならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	２５%	２５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、しっかりと実習日誌が完成されていた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、実習日誌が完成されていた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、実習日誌がほぼ完成されていた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、実習日誌が完成されていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容がたいへん良い授業であった。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容が良い授業であった。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容がやや良い授業であった。	研究授業において、教材研究が詳細に行われれず、内容が良い授業ではなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習Ⅰ （科目ナンバリング：EDU144166，EDU244114，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	未定		
単位数	4	（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　各教科編（最新版）』					
2	『教育実習の手引（第７版）』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	実習校での教育実習（１）　授業参観（観察）①	授業参観の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（９０分）
3	実習校での教育実習（２）　授業参観（観察）②	授業参観の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（９０分）
4	実習校での教育実習（３）　授業参観（観察）③	授業参観の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（９０分）
5	実習校での教育実習（４） 学級経営の参加①（ショート・ロングホームルーム）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
6	実習校での教育実習（５）学級経営の参加②（生徒指導）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
7	実習校での教育実習（６）放課後の指導①（特別活動）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
8	実習校での教育実習（７）放課後の指導②（特別活動）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
9	実習校での教育実習（８）　授業実習①	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
10	実習校での教育実習（９）　授業実習②	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
11	実習校での教育実習（10）　授業実習③	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
12	実習校での教育実習（11）　授業実習④	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
13	実習校での教育実習（12）　授業実習⑤	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
14	実習校での教育実習（13）　授業実習⑥	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
15	実習校での教育実習（１４）　研究授業	研究授業の準備をしておくこと。（９０分）	究授業の反省や課題をまとめておくこと。（９０分）
16	実習校での教育実習（１５）　研究授業の振り返り フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	研究授業の反省や課題をまとめておくこと。（９０分）	指導教官等の意見等を集約しておくこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 （科目ナンバリング：ACC423024，ACC523026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　岩立　顕一郎　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、管理会計に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

適正な経営の意思決定を行うことができるようにマーケティングと経営戦略に会計を加え、経営の総合力をつける。戦略的な予算を策定することができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

会計情報をもとに経営戦略と予算を策定できる基本能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリント（ケース）を配布し、講義内容の管理会計における位置づけを説明し、本題に入る。双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。
原価計算論を履修済みであることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	30%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＣＶＰ分析を用いた分析を行うことができ、経営戦略を策定できる。	ＣＶＰ分析を用いた経営戦略（販売価格決定、固定費、変動費の設定）ができた。	ＣＶＰ分析を用いて、目標利益を達成するための営業料を算定することができた。	ＣＶＰ分析を正しく行うことができた（損益分岐点の算定）。	固定費と変動費の分析ができた。	固定費と変動費の区分ができず、ＣＶＰ分析を正しく行うことができなかった。
マーケティングと経営戦略を合わせた予算策定	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正な経営戦略と予算編成ができた。	経営戦略を達成するための予算を策定することができた。	SWOT分析と５つの力分析から経営戦略の策定ができた。	ＳＷＯＴ分析と５つの力分析と予算のつながりを適切に理解できた。	ＳＷＯＴ分析・５つの力分析が理解できなかった。
全社戦略を策定することができる	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正なM&A計画を策定することができた。	Ｍ＆Ａ、多角化における資産評価と投資価値の算定を行うことができた。	ＤＣＦ（ディスカウントキャッシュフロー）法を用いて全社戦略を策定することができた。	全社戦略について理解していた	全社戦略について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 （科目ナンバリング：ACC423024，ACC523026　　）				
授業担当者 （所属・職名）	岩立　顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　岩立　顕一郎　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、管理会計に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を終了して「身に付く力」説明含む）、企業経営と管理会計の目的、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
2	管理会計のフレームワーク①	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
3	管理会計のフレームワーク②	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
4	CVP分析①	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
5	CVP分析②	事前にに該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
6	原価計算①	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
7	原価計算②	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
8	ABC・ABM	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
9	戦略評価、DCF法	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
10	短期利益計画	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
11	費用の管理方法①	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
12	費用の管理方法②	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
13	費用の管理方法③	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
14	投資計画・M&A・研究開発	事前に該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
15	これまでのまとめ（総復習）	これまでの資料を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
16	定期試験およびフィードバック（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説） 科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施	総復習（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習Ⅱ （科目ナンバリング：EDU144167，EDU244115，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　塩崎　大輔　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（1）生徒の発達や学校生活の実態と理解
（2）学校環境（教職員組織、学級編成、施設設備等）の把握と理解
（3）教育課程の理解及び研究
（4）学習指導方法の理解及び研究
（5）特別活動、生徒指導、教育相談の実践及び研究
（6）学校・学級事務、ＰＴＡ活動、地域社会活動の実践及び研究
（7）教師としての勤務や研究活動の理解及び実践
以上の項目を身に付けることができる。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

高等学校での教育実習を経験することにより、教師として必要な最低限度の基礎的知識や技術を修得することができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の現場で、指導教諭のもとで学習指導・生徒指導・学級経営・特別活動の指導・教材研究などに接し、教師として必要な基礎的知識や技術を修得することになる。また、課題となる実習項目も発見することができる。
「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

高等学校での実践的な教育実習を経験することにより、教師として必要な教育課程の理解及び研究・学習指導方法の理解及び研究・特別活動・生徒始動など基礎的知識や技術を修得する。教育実習後に提出する教育実習日誌とレポートついては、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）選択科目（高校のみの場合必修）

評価方法・基準

評価前提条件

高等学校２週間以上（全授業時間６０時間以上）の教育実習を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	２５%	２５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	・レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、６割以上の得点取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、しっかりと実習日誌が完成されていた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、実習日誌が完成されていた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、実習日誌がほぼ完成されていた。	教育実習において、指導教諭の指導のもと、実習日誌が完成されていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容的には、たいへん良い授業として成立していた。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容的には、良い授業として成立していた。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容的には、授業として成立していた。	研究授業において、教材研究が詳細に行われれず、内容的には、授業として成立してはいなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習Ⅱ （科目ナンバリング：EDU144167，EDU244115，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『高等学校学習指導要領解説　各教科編（最新版）』					
2	『教育実習の手引（第７版）』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	実習校での教育実習（１）　授業参観（観察）①	授業参観の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（９０分）
3	実習校での教育実習（２）　授業参観（観察）②	授業参観の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（９０分）
4	実習校での教育実習（３）　授業参観（観察）③	授業参観の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（９０分）
5	実習校での教育実習（４） 学級経営の参加①（ショート・ロングホームルーム）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
6	実習校での教育実習（５）学級経営の参加②（生徒指導）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
7	実習校での教育実習（６）放課後の指導①（特別活動）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
8	実習校での教育実習（７）放課後の指導②（特別活動）	教育指導の準備をしておくこと。（９０分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（９０分）
9	実習校での教育実習（８）　授業実習①	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
10	実習校での教育実習（９）　授業実習②	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
11	実習校での教育実習（10）　授業実習③	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
12	実習校での教育実習（11）　授業実習④	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
13	実習校での教育実習（12）　授業実習⑤	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
14	実習校での教育実習（13）　授業実習⑥	教材研究の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
15	実習校での教育実習（１４）　研究授業	研究授業の準備をしておくこと。（９０分）	究授業の反省や課題をまとめておくこと。（９０分）
16	実習校での教育実習（１５）　研究授業の振り返り フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	研究授業の反省や課題をまとめておくこと。（９０分）	指導教官等の意見等を集約しておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	美術科教育法IV （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（芸術）を有し、公立高等学校での教員経験を授業に反映する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生は、工芸領域における技法・鑑賞・評価の観点・年間指導計画を理解し、教材研究→指導案→模擬授業→省察の循環を実践できるようにする。
授業ではICTの効果的活用を統合する。

授業の位置づけ

本科目は教職課程の免許科目であるため、学位授与（DP）との関連付けは行わない。

到達目標

学生は、工芸の技法・鑑賞の観点を授業設計に説明・適用できる。
学生は、年間指導計画を作成し、単元～時間配当と評価の観点を整合できる。
学生は、教科書分析を行い、教材化・安全・時間構成の妥当性を判断できる。
学生は、学習指導案にICT活用と評価規準を適切に組み込める。
学生は、模擬授業の実施と省察により改善案を提示できる。

授業全体の内容と概要

工芸教育の基礎知識・技法・鑑賞、学習指導要領の内容、授業計画（年間指導計画を含む）、教材研究、指導法、評価法を学ぶ。
上級生（4年生）の模擬授業見学を通じて授業改善の視点を獲得する。
授業全体で情報機器および教材の効果的活用を学び、授業設計に活用する。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書・ICTツール・パワーポイント・配布資料・実演映像を用いる講義を基本に、グループワーク／ディスカッション／教科書分析／教材研究（実技）／上級生の模擬授業見学／指導案作成／模擬授業／講評・省察を組み合わせる。課題へのフィードバックは口頭講評・コメント返却・Microsoft Teams/Forms で行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。
欠席した場合には、提供された資料を確認し、その内容を理解した上でレポートを作成し、次回授業までに提出すること。
課題は期日までに提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	４０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	意見を述べることができない。
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（芸術）を有し、公立高等学校での教員経験を授業に反映する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　美術編』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 「授業改善アンケート結果反映の説明」 教科書分析	シラバスをよく読んでおくこと（90分）	授業内容を復習する（９０分）
2	工芸の技法（材料・用具・安全配慮）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
3	工芸の鑑賞（作品の見方・批評の言語化）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
4	年間指導計画の作成（単元配当・評価計画）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
5	ICT機器の活用について（導入／展開／評価での使い分け）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
6	模擬授業見学（４年生）①（観点別記録→省察）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
7	模擬授業見学（４年生）②（観点別記録→省察）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
8	教材研究（紙・木・繊維・金属・土）	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
9	評価の観点	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
10	学習指導案の作成①	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
11	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
12	模擬授業振り返りと改善	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
13	学習指導案の作成②	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
14	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
15	指導案作成の振り返りと改善	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
16	総括フィードバック・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと（90分）	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222019　　）				
授業担当者 （所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　田中　靖之　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

１.ＣＩの理念及びその中核となるＶＩシステムを理解する。
２.ＣＩの基本要素であるシンボルマーク等のデザイン演習を行うことによって、その成り立ちを理解する。
３.ＣＩのデザイン（形・色）演習を通して、その展開デザインの拡がりを理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

ＣＩの主体を類別し、シンボルマーク等の形・色のデザインを実施し、ＶＩの基本形と展開形をレイアウトすることができる。

授業全体の内容と概要

ＣＩの概要とＶＩシステムの全体を把握し、その目的と機能・運用に関して理解し、テーマ選択後にデザイン演習を行う。
「SDG12．つくる責任つかう責任」の関連授業

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、クライアントにプレゼンすることを前提としたデザイン内容となるよう多角的に確認し、さらにフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	６０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＣＩの理念とその中核のＶＩシステム	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を３つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を３つ提示し、客観的なコメントを含め、改善案も提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を３つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を１つ以上提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解できなかった。
シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール（１５以上）を基本に、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを１点仕上げた。	シンボルマークのサムネール（１５以上）を基本とし、、客観的なフィードバックを繰り返し、１点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール（１０以上）を基礎に、１点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数（１０以上）できた。	シンボルマークのデザインができなかった。
デザイン（形・色）演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）及び展開デザインを３つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）及び展開デザインを２つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222019　　）				
授業担当者 （所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　田中　靖之　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 ＣＩの歴史について 科目を修了して「身に付く力」についての説明	「ＣＩ」語句としての認識（４５分）	CI導入企業や自治体の具体例の収集(45分)
2	ＣＩデザインの事例収集とスケッチ	CI導入企業等のシンボルマーク、ロゴタイプの例を調査(45分)	ＣＩデザイン、具体例の収集（４５分）
3	ＣＩＳ（ＶＩＳ）の例・ベーシックとアプリケーション	「ベーシック・アプリケーション」語句としての認識（４５分）	企業のアプリケーションデザイン例を収集(45分)
4	マークデザインのサムネール作成①	シンボルマークの事例収集(45分)	サムネール補足演習（４５分）
5	商標登録と企業戦略	「商標登録」語句としての認識（４５分）	商標登録の実例調査(45分)
6	マークデザインのサムネール作成②	自己で選択した形状のサムネール準備(45分)	サムネール補足演習（４５分）
7	シンボルマークとピクトグラム	「ピクトグラム」語句としての認識（４５分）	ピクトグラムの事例収集(45分)
8	ピクトグラムのアイデア制作	自己で選択したアイテムのサムネール準備(45分)	アイデア制作補足演習（４５分）
9	ＶＩとベーシックカラー	ベーシックカラー事例収集（４５分）	「特別色」と「プロセスカラー」の区別と認識チェック(45分)
10	カラーリング演習	PC又は鉛筆色での用具準備(45分)	カラーリング演習（４５分）
11	ＣＩＳ展開デザインの位置づけと応用例	展開デザインの語句と事例認識（４５分）	具体例としての展開デザインを収集(45分)
12	ＣＩＳ企画のためのアイデアフラッシュ	「アイデアフラッシュ」語句としての認識(45分)	アイデアフラッシュ補足（45分）
13	ＣＩＳ課題演習①－１ ・シンボルマークの位置づけ	「シンボルマーク」事例収集（45分）	シンボルマークのサムネール作業確認
14	ＣＩＳ課題演習①－２ ・シンボルマークの展開使用例とサムネール制作	サムネール案の準備作業(45分)	演習補足（４５分）
15	ＣＩＳ課題演習②－１ ・シンボルカラーの位置づけ	「シンボルカラー」事例収集（４５分）	“色”のもつ意味を確認(45分)
16	ＣＩＳ課題演習②－２ ・シンボルカラーリング演習	パソコン又は色鉛筆での着色チェック(45分)	演習補足（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	ＣＩＳ課題演習③－１ ・セットロゴ位置づけ	「セットロゴ」事例収集（４５分）	セットロゴのパターン(レイアウト)を確認(45分)
18	ＣＩＳ課題演習③－２ ・セットロゴデザイン演習	セットロゴパターン(タテ組、ヨコ組)等のラフデザイン(45分)	演習補足（４５分）
19	ＣＩＳ課題演習④－１ ・タイプフェイスの位置づけ	「タイプフェイス」事例収集（４５分）	PCフォントやアナログレタリングでのラフデザイン(45分)
20	ＣＩＳ課題演習④－２ ・タイプフェイス演習	PCやアナログでの制作準備(45分)	演習補足（４５分）
21	ＣＩＳ課題演習⑤－１ ・ロゴタイプの位置づけ	「ロゴタイプ」事例収集・一般企業（４５分）	演習補足(45分)
22	ＣＩＳ課題演習⑤－２ ・ロゴタイプ演習	「ロゴタイプ」事例収集・自治体(45分)	演習補足（４５分）
23	ＣＩＳ課題演習⑥－１ ・ベーシックカラーの設定	企業例としてのカラー事例収集（４５分）	「特別色」と「プロセスカラー」の使用例の事例確認(45分)
24	ＣＩＳ課題演習⑥－２ ・ベーシックカラーの選択	「特別色」の主体に選定準備(45分)	演習補足（４５分）
25	ＣＩＳ課題演習⑦－１ ・フォーマット＆レイアウトの意義	レイアウト事例収集（４５分）	レイアウトのサムネール準備(45分)
26	ＣＩＳ課題演習⑦－２ ・フォーマット＆レイアウト演習	レイアウト作成準備(45分)	演習補足（４５分）
27	ＣＩＳ課題演習⑧－１ ・レイアウトバリエーション	アドバイス項目のチェック（４５分）	レイアウトの微調整作業(45分)
28	ＣＩＳ課題演習⑧－２ ・レイアウト調整	レイアウトアイテム等の最終チェック(45分)	演習補足（45分以上）
29	ＣＩＳ今後の課題と未来展望	アドバイス項目のチェック（45分）	CISに対する個人的見解の整理(45分)
30	課題作品の提出	作品の最終チェックなどの(45分)	演習補足（45分以上）
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく（45分）	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 （科目ナンバリング：AEN322057　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館３階		
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近年，ユニバーサルデザインに関する情報の量は目覚しく増大し，その考え方を反映したものが数多く開発・生産・販売されている。履修学生は「ものつくり」をとおして共生社会実現のための理解を深めるため，指定した単位空間を対象にその実測調査をおこない，そこから既存施設の問題点を明らかにし，ユニバーサルデザインの視点から改修計画を提案・発表する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

疑似体験により介助される側，介助する側としての両立場を理解する。生活空間のあり方に対して自分なりの考えを見つけるきっかけとなり，身の回りにある製品・商品および空間に対しての理解，ユニバーサルデザインの視点からの建築空間・都市空間の評価，改善計画の提案とその発表する能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

前半は疑似体験を通して，身体障がい者並びに高齢者の身体機能の低下を体感し，生活活動に対する心理状態を推測し，理解の一助とする。後半はユニバーサルデザインの考え方を製品・商品に積極的に取り入れている企業への現地調査を実施する。さらに，不特定多数の利用者が対象となる空間の実測とその改修計画に取り組みユニバーサルデザインの視点とともにジェンダーレスの視点において提案をおこない，プレゼンテーション後，作品ごとに講評をおこなう。
{SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

疑似体験は，体験者・介助者・観察者の三者の視点でおこなう。ユニバーサルデザインを考えた製品・商品の調査には，企業を直接訪問し，ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた製品に対する理念，開発から実現へのプロセスを理解する。プレゼンテーション・提案など，指定された課題は全て提出すること。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

製品調査に際しては大学外での現地調査となるため，建築を学ぶ学生として行動・言動・マナーなど各自責任ある態度が求められる。また積極性と自発的な行動力を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

演習科目であり原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，ユニバーサルデザイン製品の現地調査は必修とし，授業・演習には積極的に取り組むこと。FW,見学会レポート（レポート），既存施設図および改修計画図・模型（レポート）課題作品），課題に取り組む姿勢等（その他）で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	６０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し，実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し，実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解ができた。	レポートが提出できなかった。
指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面作成をおこない，現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。
ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 （科目ナンバリング：AEN322057　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　安藤　淳一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，ユニバーサルデザインとは	シラバス事前確認（90分）	受講の注意の確認（90分）
2	「ユニバーサルデザイン」の考え方	配布資料確認（90分）	講義内容の振り返り（90分）
3	疑似体験プログラム（A.高齢者）（B.右片麻痺）	配布資料確認（90分）	体験データのまとめ（90分）
4	疑似体験プログラム（C.車椅子）	配布資料確認（90分）	体験データのまとめ（90分）
5	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査１	配布資料確認（90分）	チェックリストのまとめ（90分）
6	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査２	チェックリストの確認（90分）	チェックリストのまとめ（90分）
7	実測調査　対象の実測	実測用道具の確認（90分）	実測データの整理（90分）
8	実測調査　収集データのまとめ	データ不足箇所の確認（90分）	実測データの整理（90分）
9	実測図作成１　平面図	実測データの確認（90分）	図面確認（90分）
10	実測図作成１　平面図	図面確認（90分）	図面確認（90分）
11	実測図作成２　展開図	実測データの確認（90分）	図面確認（90分）
12	実測図作成２　展開図	図面確認（90分）	図面確認（90分）
13	ユニバーサルデザイン製品製造メーカー　講習	見学会場の確認（90分）	配布資料・講習内容の振返り（90分）
14	ユニバーサルデザイン製品製造メーカーショールーム見学	製造メーカーの商品確認（90分）	見学レポート作成（90分）
15	改修計画案の検討　平面計画	改修条件の確認（90分）	検討内容の振返り（90分）
16	改修計画案の検討　平面計画	改修条件との整合性確認（90分）	検討内容の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	改修計画案の検討　断面計画	改修条件の確認（90分）	検討内容の振返り（90分）
18	改修計画案の検討　断面計画	改修条件との整合性確認（90分）	検討内容の振返り（90分）
19	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
20	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
21	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	図面の完成度確認（90分）
22	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	図面の完成度確認（90分）
23	改修計画案の作図２　展開図A.B	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
24	改修計画案の作図２　展開図A.B	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
25	改修計画案の作図３　展開図C.D	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
26	改修計画案の作図３　展開図C.D	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
27	改修計画案の内部模型製作	制作道具・材料の確認（90分）	制作模型の進捗状況確認（90分）
28	改修計画案の内部模型製作	平面図・展開図の確認（90分）	制作模型の完成度確認（90分）
29	改修計画案　提出	提出準備（90分）	提出物の再確認（90分）
30	改修計画案　グループ別発表	発表準備（90分）	発表内容の振返り（90分）
31	総評（全作品の講評）	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）
32	総評（全作品の講評）授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高) （科目ナンバリング：EDU144168，EDU244116，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑 大輔　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（1）使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
（2）社会性や対人関係能力に関する事項
（3）生徒理解や学級経営等に関する事項
（4）教科等の指導力に関する事項
以上の項目で、個々の不足している知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

教員に求められる必要不可欠な資質能力、更に本学が掲げる教員養成理念に基づく必要な資質を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

大学４年間のそれぞれの学習内容、理解度を把握するための教職課程履修カルテ等に基づく担当教員の指導により、個々の能力・技能等の課題を理解し、その不足している知識や技能等を補うため自己目標を設定し、課題解決に向け取り組みを行う。授業の内容は、教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感，教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を養うため、教職経験者を含めた複数教員の協力方式による効果的な授業（ロールプレーイング・フィールドワーク・ワークショップ等）を展開する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。教職に関する科目の担当複数教員を中心に実践的な授業（ロールプレーイング・フィールドワーク・ワークショップ等）を展開する。また、内容によって、教科に関する科目の担当教員や教職の現場経験者、更に地元教育委員会等の連携により授業を運営する。また、学生は進んで学校ボランティア・学校サポーター等に参加して教育経験を得る。なお、課題として提出するレポート等ついては、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業の参加態度、発表内容、レポート等を総合的に評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	２５%	２５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的まとめ、進んで発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的まとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見をやや論理的まとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的まとめ発表することができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに進んで参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義をやや理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高) （科目ナンバリング：EDU144168，EDU244116，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑 大輔　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　各教科編（最新版）』					
2	『高等学校学習指導要領解説　各教科編（最新版）』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明、資料の配布、各授業の到達目標の提示、学生個々の課題提示、学生の自己目標設定）、前年度の授業改善アンケート結果反映の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	Ⅰ　使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項 １．教職現場経験者（中学校・高等学校・特別支援学校）による「理想の教師像」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
3	２．講義を参考にしたグループ討議「理想の教師像・私の教師像について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
4	Ⅱ　社会性や対人関係能力に関する事項 １．「教育現場でのいじめや不登校，特別支援教育等の現状と課題について」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
5	２．講義を参考にしたグループ討議「課題解決に向けての教師としてのアプローチについて	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
6	３．場面に応じた教師としての話し方（挨拶・言葉遣い等）及び日常的に発生する学級内の問題解決について <ロールプレーイング>	ロールプレーイングについて学習しておくこと。　（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
7	４．「地元学校における現地調査」<フィールドワーク>	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	フィールドワークの内容をまとめておくこと。（９０分）
8	５．「福祉施設等における現地調査」<フィールドワーク>	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	フィールドワークの内容をまとめておくこと。（９０分）
9	Ⅲ　生徒理解や学級経営等に関する事項 １．講演「生徒が所属感，効力感を感受する学級経営について」（教育委員会指導主事又は地元学校校長等）	学級経営について、学習しておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
10	２．講演を参考にした意見発表と集団討議「私の学級経営方針について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
11	Ⅳ　教科等の指導力に関する事項 １．教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
12	２．教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
13	Ⅴ 学生個々の課題解決の実施 １．学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡ等の参加	参加準備をしておくこと。（９０分）	今回の体験をまとめておくこと。（９０分）
14	２．学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡ等の参加	参加準備をしておくこと。（９０分）	今回の体験をまとめておくこと。（９０分）
15	３．学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡ等の参加	参加準備をしておくこと。（９０分）	今回の体験をまとめておくこと。（９０分）
16	まとめ（レポート課題等）の解説 全体を講評し，フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	まとめの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 （科目ナンバリング：SOC112014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・量的調査、質的調査の方法論を習得し、あわせて数学的分析方法を理解する。
・ソーシャルワーク技法における評価技法を理解する。
・統計法及び社会調査における倫理規定について理解し、ソーシャルワーカーの倫理綱領との共通点を理解する。
・社会調査の歴史を理解し、科学的調査技法の発展のプロセスを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

・量的調査、質的調査の技法と分析方法を習得する。
・個人情報保護法下における調査倫理を理解する。
・データ分析におけるＩＴ機器と統計ソフトの活用方法を習得する。

授業全体の内容と概要

・社会調査とソーシャルワークの関係の紹介（調査事例を用いる）。
・量的調査、質的調査の技法の紹介。
・調査倫理と個人情報保護法について関連法規を紹介して関係性を分析。
・データ分析方法と統計ソフトの紹介。

授業の方法

１５回の講義において教員がプリント・資料を用意して講義形式で行う。また、データ分析においては基礎解析などの数学の基本が必要になるので数学の基本的講義も行う。課題として高校数学の復習を課す。
学生からの質問等に随時対応する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

社会福祉学科全コースが履修可能である。
チャット等に「欠席理由」の連絡がない場合、公欠等の連絡なく欠席した場合は無条件で欠席とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	１０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析（ＫＪ法、ＭＧＴＡ法）についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法と質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 （科目ナンバリング：SOC112014　　）				
授業担当者 （所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明	基礎数学の復習（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
2	量的調査の概要	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
3	量的調査技法１（テーマの設定）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
4	量的調査技法２（仮説の設定）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
5	量的調査技法３（質問文の作成）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
6	量的調査技法４（サンプリング）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
7	量的調査技法５（プリテストと本調査、その注意点）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
8	量的調査技法６（データ解析法　ＩＴ機器の活用法）	前回プリントの読み込み1次関数2次関数の復習（９０分）	配布プリントの熟読　量的調査全体の復習（９０分）
9	質的調査技法１（フィールドの設定）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
10	質的調査技法２（フィールドにおけるサンプリング）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
11	質的調査技法３（フィールドにおける記録と聞き取り）。レポート提示。	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
12	質的調査技法４（質的分析　グランデッドセオリーアプローチを中心に）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
13	質的調査技法５（質的調査事例の紹介１） レポートの添削をし、返却してフィードバックする。	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読　事例の熟読（９０分）
14	質的調査技法６（質的調査事例の紹介２）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読　事例の熟読（９０分）
15	調査倫理と個人情報保護法との関連（授業改善アンケートの実施）	前回プリントの読み込み（９０分）	講義全体の総復習（９０分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、残りの３０分で解説し、フィードバックする。 科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体の総復習（９０分）	自己総括（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	展開科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑIII （科目ナンバリング：IRE322074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士事務所ならびに特定建設業者、宅地建物取引業者であるデバロッパーでの勤務経験あり、リクルーターを担当。 前職の専門学校勤務時の就活担当としての実績を踏まえ就活サポートが可能。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建設業界の各企業の実務担当者を招き、直接、業務内容等の建設業界の現状を理解することで、在学中の学習意欲の向上と就職意識の醸成を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

建設業界は非常に幅広い業界であり、各分野ごとの建設業としての業務や立場を理解でき、就職活動に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

建設業界の設計事務所・建設会社業者・設備業者・ハウスメーカー・デベロッパーなどの様々な業種に勤務する実務担当者から、実際の業務について経験をまじえて実体験の講演を実施。
また、講義後には、感想文などのアンケートを実施し、その内容による成績評価を行う。

授業の方法

各企業担当者を外部講師として招き、それぞれの業界について講義を実施する。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義後、振返りアンケートを実施するが、期限までに未提出の場合は、欠席扱いとする。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。
外部講師が講義を実施するため、補講は実施しない。
就職意識アンケートを講座の最初と最後に実施するので、必ず回答すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１００%	０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建設業界について、必要な知識を修得できる。	建設業界について必要な知識を修得できていた。	建設業界についてに必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界について必要な知識を知ることができた。	建設業界についての知識を知る意志がなかった。
建設業界における各業種について、必要な知識を修得できる。	建設業界における各業種について必要な知識を修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を知ることができた。	建設業界における各業種について必要な知識を知る意志がなかった。
建設業界への就職活動について、必要な知識を修得できる。	建設業界への就職活動について必要な知識を修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知ることができた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知る意志がなかった。

基本情報

科目分類区分	展開科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑIII （科目ナンバリング：IRE322074　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士事務所ならびに特定建設業者、宅地建物取引業者であるデバロッパーでの勤務経験あり、リクルーターを担当。 前職の専門学校勤務時の就活担当としての実績を踏まえ就活サポートが可能。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。 授業の進め方について説明。 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健） 科目を修了して「身に付く力」についての説明 企業１（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	企業２（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	企業３（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	企業４（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	企業５（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	企業６（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	企業７（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	企業８（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	企業９（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	企業１０（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	企業１１（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	企業１２（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	企業１３（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	企業１４（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	企業１５（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	企業１６（外部講師による建設業界についての講義） 授業に係る講評によるフィードバック、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	鋼構造 （科目ナンバリング：BSM323027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

構造用鋼から圧延された鋼板および各種の形鋼を、高力ボルトや溶接などの接合手段によって組み上げた構造または建築物を鉄骨構造という。
鉄骨構造建築物の柱、梁、継手、柱梁接合部、柱脚などの断面設計法について演習を通して修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

鋼材の種類と記号を学び、引張材、圧縮材など部材設計の基本事項を修得し、簡単な計算例を通してボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鋼材の種類と記号を学び、設計荷重、鋼材の許容応力度、ボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計法を中心に講義・演習を中心に行う。また引張材、圧縮材など部材設計の基本についても講義・演習を行う。

授業の方法

授業は配布物とプロジェクターを中心に講義形式で行う。授業では課題解説・演習等をおり交ぜて行うが、基本的に予習課題を事前学修し重要箇所について確認しながら進めていく。
不測時における授業や補講等でオンラインを実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積重ねの講義内容であるので、毎回出席しなければ分からなくなるので欠席に注意する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	３０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鋼材の種類と記号	鉄骨構造・鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴をほぼ簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できなかった。
引張材、圧縮材など部材設計の基本事項	引張材、圧縮材、曲げ材などの許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度についてほぼ簡単に説明できた。	許容応力度について説明できた。	許容応力度について簡単に説明できなかった。
設計荷重、鋼材の許容応力度、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計	複雑な接合設計について簡単に説明ができた。	接合設計について簡単に説明ができた。	接合設計についてほぼ簡単に説明ができた。	接合設計について説明ができた。	接合設計について簡単に説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	鋼構造 （科目ナンバリング：BSM323027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識（第四版）』	橋本篤秀	市ケ谷出版社	2016	9784870711563	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 鋼構造の概要	シラバスを確認する（９０分）	授業内容の復習（９０分）
2	鋼材の基礎	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	鉄骨の構造設計	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	引張材の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
5	引張材の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
6	圧縮材の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
7	圧縮材の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
8	圧縮材の力学（３）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
9	曲げ材の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
10	曲げ材の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
11	曲げ材の力学（３）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
12	接合部の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
13	接合部の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
14	接合部の力学（３）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説し、フィードバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験の準備（９０分）	定期試験内容の復習（９０分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体内容の再確認及び理解（９０分）	授業内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	障がい者ｽﾎﾟｰﾂII （科目ナンバリング：SPS523082　　）				
授業担当者 （所属・職名）	荒井　秀樹（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　米野　宏　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、パラスポーツ（障がい者スキー）の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

初級障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度を身につけさせる。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

障がい者スポーツ指導員として必要な知識、技能、態度が身についていること。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、身体障害のほかに知的障害、聴覚障害、視覚障害者とスポーツ活動について学ぶ。後半は実践を通してパラスポーツのルールや競技の特性を理解しながら、指導する際の留意点等を学ぶ。
「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

教室において、理論的学習を行い、理解を深めるためにビデオ視聴も実施する。
体育館や屋外スポーツ施設において、障がい者スポーツの紹介と実技体験を行う。
レポートなどの解説のフィードバックを実施する。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。実技もあるので、運動しやすい服装と屋内用シューズを用意してほしい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

障がい者スポーツ指導員資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールと競技特性の理解	ルールや競技特性を深く理解し審判法も幅広く得られた。	ルールや競技特性を理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を良く知ることができた。	ルールや競技の特性をある程度理解できた。	ルールの知識がほとんど得られなかった。
障害の種類と区分の理解	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も広く把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解できた。	障害の種類や区分の知識がある程度得られた。	障害の種類や区分の知識がほとんど得られなかった。
パラリンピックの現状と課題の理解	パラリンピックについての知識や現状の理解が得られ、課題解決の意識も強く持てた。	パラリンピックについての知識や現状の理解が得られ、課題も理解できた。	パラリンピックについての知識や現状の理解が得られた。	パラリンピックについての知識がある程度得られた。	パラリンピックについての知識がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	障がい者ｽﾎﾟｰﾂII （科目ナンバリング：SPS523082　　）				
授業担当者 （所属・職名）	荒井　秀樹（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1　（単位認定責任者：　米野　宏　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在、パラスポーツ（障がい者スキー）の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『障がい者スポーツ指導教本』	日本障がい者スポーツ協会	ぎょうせい	２０１８	9784324112502	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
2	障がいに応じたスポーツの工夫①陸上競技（演習） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
3	障がいに応じたスポーツの実施①陸上競技（実技） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
4	障がいに応じたスポーツの工夫②卓球・STT（演習） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
5	障がいに応じたスポーツの実施②卓球・STT（実技） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
6	障がいに応じたスポーツの工夫③スキー（演習） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
7	障がいに応じたスポーツの実施③スキー（実技） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
8	障がいに応じたスポーツの工夫③スキー（実技） （担当：荒井）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
9	障がいに応じたスポーツの実施④ソフトボール（実技） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
10	障がいに応じたスポーツの工夫⑤フットベースボール（演習） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
11	障がいに応じたスポーツの実施⑤フットベースボール（実技） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
12	障がいに応じたスポーツの工夫⑥フライングディスク（演習） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
13	障がいに応じたスポーツの実施⑥フライングディスク（実技） （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
14	障がいに応じたスポーツの工夫⑦その他（演習） 学外実習 （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
15	障がいに応じたスポーツの実施⑦その他（実技） 学外実習 （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）
16	学外実習 まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ICTスキル演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代のビジネス環境では、PCを利用して情報を収集・加工・共有し、業務を効率的に進める能力が不可欠である。本授業では、文字、画像、音声、動画などのデジタルメディアの基本的な仕組みを理解するとともに、それらを活用したコンテンツ制作を実習形式で学ぶ。また、生成AIの活用方法やデータベースによるデータ管理の基礎を習得する。さらに情報セキュリティ、知的財産権、情報倫理について理解し、社会において適切にICTを活用できる基礎的能力の育成を目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

①文字、画像、音声、動画などのデジタル情報の基本的な仕組みを理解できる。
②複数のメディアを組み合わせたマルチメディアコンテンツを制作できる。
③データベースソフトを用いて簡単なデータ管理アプリケーションを作成できる。
④生成AIの基本的な活用方法を理解し、ICTを安全かつ適切に利用できる。

授業全体の内容と概要

本授業では、デジタル情報の基本構造を理解しながら、実習を通してICT活用能力を段階的に身につける。まず文字・画像・音声・動画などのデジタル化の仕組みを学び、それらを組み合わせたコンテンツ制作を行う。続いて生成AIの活用方法を学び、総合的なマルチメディアコンテンツ制作を行う。後半ではデータベースソフトを用いたデータ管理の基礎を学び、簡単な業務アプリケーションの作成を行う。最後に情報セキュリティや知的財産権、情報倫理について理解を深める。

授業の方法

授業は講義とPCを使った演習で構成する。
PCによる課題作成はチュートリアル（導入レッスン）に従って作業を進めたのち、完成作品を提出する。
生成AI、情報セキュリティ、知的財産権と情報倫理の回は、レポート提出が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・単位認定に必要な出席回数は１３回以上である点、注意が必要。
・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
・公欠は公欠届け、病気の場合は通院の証明書類があれば、学内の取り決めに従った対応を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談ある場合は、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回以上。
30分未満の遅刻・早退は出席0.5回分として扱い、30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
課題・作品またはレポートの提出が多数あります。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	30%	70%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ICT理解 用語や基本的な概念の理解度	自ら率先して調査することで、デジタル情報の仕組みを正確に説明できる。	デジタル情報の仕組みを正確に説明できる基本概念を理解している	おおよその基本概念を理解している	理解が部分的である。	理解していない。
コンテンツ制作 画像・音声・動画データの編集、ファイル形式の選択、データの圧縮・変換・整理能力	データーの特性を正確に理解し、適切な方法で市場公開レベルの作品にまとめることができる。	複数メディアを効果的に統合し、作品に仕上げられる。	基本的なものは制作できる。	最低限の制作を行える。	制作が不可能。
データーベース活用 データ構造、	業務で実用可能なレベルのデーターベース作成、維持、保守ができる。	データーベース構造を理解し制作できる。	基本的なデーターベースは作成できる。	指示されたものは作成できる。	作成が不可能。
情報倫理と知的財産権 ネットモラル・マナーと安心安全な利用、SNSのリスク管理、個人情報の適切な取り扱い、著作権・肖像権	ネットモラルやマナーに対する深い理解があり、適切な情報発信ができる。また、実際のトラブルケースに対する適切な対応策を示せる。	ルールを守り、安全な利用ができる。トラブル防止の知識も十分にある。	基本的なルールは理解している。	指示されたルールは守るが、自主的なリスク回避の意識が低い。	ルールを理解できていないため、不安が伴う。
演習課題・レポート（実技の達成度）	全ての課題、レポートが高いレベルで完成されている。	全ての課題、レポートが十分なレベルで完成されている。	全ての課題、レポート一応完成されている。	未提出の課題、レポートがあり、督促を受けて提出に至った。	未提出の課題、レポートがあり、督促しても提出がされない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ICTスキル演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバス確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、受講上の注意事項　授業全体の流れ、授業改善アンケート結果反映の説明、座席指定	シラバス確認をする （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
2	文字と画像（講義） ・文字と画像のデジタル化　　・文字コードとフォント ・画像形式と種類、データ圧縮　・編集ソフト、デジタルカメラ	自分のPCの動作確認 （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
3	画像制作（演習） ・文字と画像を組み合わせたコンテンツ作成 ・ポスター作成	様々な画像形式について調べる（９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
4	音声（講義） ・音声のデジタル化の仕組み　・A/D、D/A変換、種類と形式 ・録音機器	圧縮音源についてについて調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
5	音声編集（演習） ・録音と編集、書き出し ・波形編集ソフト	波形編集ソフトについて調べる（９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
6	動画（講義） ・動画のデジタル化の仕組み ・動画と音声の取り扱い　・撮影機器	動画のサイズ（HD、FHD）のつがいについて調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
7	動画編集（講義） ・動画編集とソフトの使い方	動画編集ソフトについて調べる（９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
8	生成AI活用（講義と演習） ・文章作成　・資料作成　・画像生成 ・AIの注意点（著作権、誤情報）　・レポート課題の提出	生成AIの種類と特徴について調べる （９０分）	◆レポートの作成と提出 （９０分）
9	総合制作(1)（演習） ・総合的なコンテンツの作成（チュートリアル） ・オリジナルコンテンツの立案と設計　・素材収集、作成開始	動画を使ったオリジナルコンテンツの案を検討する （９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
10	総合制作(2)（演習） ・総合的なコンテンツの作成（作業回）	課題作成の続き （９０分）	課題作成の続き （９０分）
11	総合制作(3)と発表（演習） ・コンテンツの作成（完成と提出） ・発表資料作成	課題作成の続きと発表スライドの作成（完成していれば） （９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
12	データ管理とデーターベース（講義と演習） ・データーベースと利用目的 ・Filemaker Proの使い方　・DBコンテンツ（アプリ）の立案と設計	データーベースの利用目的について調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
13	データーベース制作(1)（演習） ・Filemaker Proを使った業務アプリ作成 （チュートリアル）	Filemaker Proとはどのようなソフトなのか調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
14	データーベース制作(2)（演習） ・Filemaker Proを使った業務アプリ作成 （チュートリアル：完成と提出）	DXについて調べる （９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
15	情報セキュリティ（講義） ・脅威の種類と被害の実態と防止策　・PCとセキュリティ、検出方法　・レポート課題の提出	直近のセキュリティ事件について調べる （９０分）	◆レポートの作成と提出 （９０分）
16	知財・倫理（講義） ・知的財産権とは　・情報と倫理」 ・レポート課題の提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	著作権侵害に関わる事件について調べる （９０分）	◆レポートの作成と提出 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ICTスキル演習Ⅰ（B） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代のビジネス環境では、PCを利用して情報を収集・加工・共有し、業務を効率的に進める能力が不可欠である。本授業では、文字、画像、音声、動画などのデジタルメディアの基本的な仕組みを理解するとともに、それらを活用したコンテンツ制作を実習形式で学ぶ。また、生成AIの活用方法やデータベースによるデータ管理の基礎を習得する。さらに情報セキュリティ、知的財産権、情報倫理について理解し、社会において適切にICTを活用できる基礎的能力の育成を目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。

到達目標

①文字、画像、音声、動画などのデジタル情報の基本的な仕組みを理解できる。
②複数のメディアを組み合わせたマルチメディアコンテンツを制作できる。
③データベースソフトを用いて簡単なデータ管理アプリケーションを作成できる。
④生成AIの基本的な活用方法を理解し、ICTを安全かつ適切に利用できる。

授業全体の内容と概要

本授業では、デジタル情報の基本構造を理解しながら、実習を通してICT活用能力を段階的に身につける。まず文字・画像・音声・動画などのデジタル化の仕組みを学び、それらを組み合わせたコンテンツ制作を行う。続いて生成AIの活用方法を学び、総合的なマルチメディアコンテンツ制作を行う。後半ではデータベースソフトを用いたデータ管理の基礎を学び、簡単な業務アプリケーションの作成を行う。最後に情報セキュリティや知的財産権、情報倫理について理解を深める。

授業の方法

授業は講義とPCを使った演習で構成する。
PCによる課題作成はチュートリアル（導入レッスン）に従って作業を進めたのち、完成作品を提出する。
生成AI、情報セキュリティ、知的財産権と情報倫理の回は、レポート提出が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・単位認定に必要な出席回数は１３回以上である点、注意が必要。
・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
・公欠は公欠届け、病気の場合は通院の証明書類があれば、学内の取り決めに従った対応を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談ある場合は、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回以上。
30分未満の遅刻・早退は出席0.5回分として扱い、30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
課題・作品またはレポートの提出が多数あります。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	30%	70%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ICT理解 用語や基本的な概念の理解度	自ら率先して調査することで、デジタル情報の仕組みを正確に説明できる。	デジタル情報の仕組みを正確に説明できる基本概念を理解している	おおよその基本概念を理解している	理解が部分的である。	理解していない。
コンテンツ制作 画像・音声・動画データの編集、ファイル形式の選択、データの圧縮・変換・整理能力	データーの特性を正確に理解し、適切な方法で市場公開レベルの作品にまとめることができる。	複数メディアを効果的に統合し、作品に仕上げられる。	基本的なものは制作できる。	最低限の制作を行える。	制作が不可能。
データーベース活用 データ構造、	業務で実用可能なレベルのデーターベース作成、維持、保守ができる。	データーベース構造を理解し制作できる。	基本的なデーターベースは作成できる。	指示されたものは作成できる。	作成が不可能。
情報倫理と知的財産権 ネットモラル・マナーと安心安全な利用、SNSのリスク管理、個人情報の適切な取り扱い、著作権・肖像権	ネットモラルやマナーに対する深い理解があり、適切な情報発信ができる。また、実際のトラブルケースに対する適切な対応策を示せる。	ルールを守り、安全な利用ができる。トラブル防止の知識も十分にある。	基本的なルールは理解している。	指示されたルールは守るが、自主的なリスク回避の意識が低い。	ルールを理解できていないため、不安が伴う。
演習課題・レポート（実技の達成度）	全ての課題、レポートが高いレベルで完成されている。	全ての課題、レポートが十分なレベルで完成されている。	全ての課題、レポート一応完成されている。	未提出の課題、レポートがあり、督促を受けて提出に至った。	未提出の課題、レポートがあり、督促しても提出がされない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ICTスキル演習Ⅰ（B） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	由水　伸（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　由水　伸　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバス確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、受講上の注意事項　授業全体の流れ、授業改善アンケート結果反映の説明、座席指定	シラバス確認をする （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
2	文字と画像（講義） ・文字と画像のデジタル化　　・文字コードとフォント ・画像形式と種類、データ圧縮　・編集ソフト、デジタルカメラ	自分のPCの動作確認 （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
3	画像制作（演習） ・文字と画像を組み合わせたコンテンツ作成 ・ポスター作成	様々な画像形式について調べる（９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
4	音声（講義） ・音声のデジタル化の仕組み　・A/D、D/A変換、種類と形式 ・録音機器	圧縮音源についてについて調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
5	音声編集（演習） ・録音と編集、書き出し ・波形編集ソフト	波形編集ソフトについて調べる（９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
6	動画（講義） ・動画のデジタル化の仕組み ・動画と音声の取り扱い　・撮影機器	動画のサイズ（HD、FHD）のつがいについて調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
7	動画編集（講義） ・動画編集とソフトの使い方	動画編集ソフトについて調べる（９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
8	生成AI活用（講義と演習） ・文章作成　・資料作成　・画像生成 ・AIの注意点（著作権、誤情報）　・レポート課題の提出	生成AIの種類と特徴について調べる （９０分）	◆レポートの作成と提出 （９０分）
9	総合制作(1)（演習） ・総合的なコンテンツの作成（チュートリアル） ・オリジナルコンテンツの立案と設計　・素材収集、作成開始	動画を使ったオリジナルコンテンツの案を検討する （９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
10	総合制作(2)（演習） ・総合的なコンテンツの作成（作業回）	課題作成の続き （９０分）	課題作成の続き （９０分）
11	総合制作(3)と発表（演習） ・コンテンツの作成（完成と提出） ・発表資料作成	課題作成の続きと発表スライドの作成（完成していれば） （９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
12	データ管理とデーターベース（講義と演習） ・データーベースと利用目的 ・Filemaker Proの使い方　・DBコンテンツ（アプリ）の立案と設計	データーベースの利用目的について調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
13	データーベース制作(1)（演習） ・Filemaker Proを使った業務アプリ作成 （チュートリアル）	Filemaker Proとはどのようなソフトなのか調べる （９０分）	授業内容の復習をする （９０分）
14	データーベース制作(2)（演習） ・Filemaker Proを使った業務アプリ作成 （チュートリアル：完成と提出）	DXについて調べる （９０分）	◆課題の完成と提出 （９０分）
15	情報セキュリティ（講義） ・脅威の種類と被害の実態と防止策　・PCとセキュリティ、検出方法　・レポート課題の提出	直近のセキュリティ事件について調べる （９０分）	◆レポートの作成と提出 （９０分）
16	知財・倫理（講義） ・知的財産権とは　・情報と倫理」 ・レポート課題の提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	著作権侵害に関わる事件について調べる （９０分）	◆レポートの作成と提出 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生理・病理 （科目ナンバリング：SNE122104　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　堀川　厚志　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

知的障害児に対する教育を効果的に行うために必要な心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容を理解し、指導上の基礎的な配慮事項等を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

知的障害児者の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容がわかる。
知的障害児に対する指導上の基礎的な配慮事項や指導の在り方について、少人数で検討、協議して考えを整理することができる。

授業全体の内容と概要

基本的な内容としては、知的障害に関する定義、原因、医学的分類、状態像の把握（アセスメント、心理検査）、関連障害（染色体異常、代謝異常、自閉スペクトラム症等の発達障害）、認知処理過程（感覚、知覚、記憶等）、身体と運動発達、言語の獲得等について、一般的な定型発達との比較及び教育的な対応の視点から説明する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、プレゼンテーションツールによるスライド資料の提示と資料提示による講義形式を主とする。
配布資料は予習復習ができるように、事前にTeamsにアップし閲覧可能としておく。
授業の初めには、授業目的と履修生に期待する内容が焦点化できるように、明確に提示にする。
一授業の前半には、前時に提示した資料内容の振り返りと確認を実施する。
資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。
一授業の終了前には、Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、内容確認や重要ポイントの小テストを実施し、理解とその定着を図る。
学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内容に関するプレゼン資料の提示や、レポート課題の出題、毎時間の小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。
中間時期に提示する課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を部分的に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生理・病理 （科目ナンバリング：SNE122104　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　堀川　厚志　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本第4版』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2025	978-4-86371-713-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、知的障害の概要について）	シラバスを読む （９０分）	内容を振り返る （９０分）
2	知的障害の用語と定義について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	用語の使用と定義を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
3	知的障害の原因と医学的分類について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	原因と医学的分類を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
4	知的障害児のアセスメントについて ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	アセスメントについて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
5	知的障害児に対する教育的な活用を考慮した心理検査について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	心理検査について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
6	知的障害に関連した障害（染色体異常）について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	染色体異常について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
7	知的障害に関連した障害（代謝異常）について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	代謝異常について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
8	知的障害に関連した障害（自閉スペクトラム症等の発達障 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする害）について	自閉スペクトラム障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
9	知的障害児の認知特性について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	認知特性について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
10	知的障害児の知覚特性について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	知覚特性について調べる （９０分））	重要事項を整理する （９０分）
11	知的障害児の知能について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	知能について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
12	知的障害児の記憶について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	記憶について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
13	知的障害児の身体と運動について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	身体と運動について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
14	知的障害児の言語の理解と表出について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	言語について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
15	知的障害児の言語の獲得について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする ※修了にあたって「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施	言語について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
16	定期試験 （６０分間の筆記テスト、終了後１５分間の解答の解説実施）	全内容・資料を整理する （９０分）	全内容を振り返る （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222023　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

デザインの基本工程を理解し、各メディアのコンテンツを制作する際に必要とされる知識や技術を身に付ける。そして、一つのプロジェクトを俯瞰し、全体の指揮をシミュレーションすることができる。

授業全体の内容と概要

日常生活や社会生活において必要とされる様々な情報の中から一つを選び、それを公開するための全体計画を立案する。その後、自らが志向とするグラフィックデザイン系メディアコンテンツの制作を行う。
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

情報メディアをデザインすることの意義を再確認するための指導を行う。
その後に情報を公開するための全体計画を“効果的な視覚メディアを用いてプレゼンテーション”するための制作をデジタル環境で行う。
後半においては自らが強く志向するメディアを選択し、そこに投下するためのコンテンツを制作する。
メディアの取材や情報の選定は、フィールドワークによる現地取材、他媒体に公開される内容の調査・整理を行うことを前提とする。
制作に必要なアプリケーション等の指導は個別に行う。
ChatGPTやCANVAなどの生成AIを積極的に活用させる。
質問には随時対応する。
不測時の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。
グラフィックデザインⅠと同様にAdobe IllustratorとPhotoshopによる課題制作を行うので、履修者は基本操作を身につけていなければならない。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「グラフィックデザインを情報メディアとして捉え、適切な情報形態を整えることができる」	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ、その特性を理解した上で効果的な情報の投下が可能な能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ情報の投下ができる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する知識と技術が不十分であり、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインの知識と技術が身につかなかった。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインのメディアにおいて、質の高い視覚情報の構築ができる」	適切なメディアの選択や完成度の高い表現を行う技能を身につけ、質の高い実践ができるレベルに到達した。	適切なメディアの選択や表現を行うための技能を身につけ、実践が可能なレベルに到達した。	メディアの選択や表現を行う技能は身につけているが、それを適切に応用することができていない。	適切なメディアの選択や表現を行う技能が不完全なため、メディアの選択や表現が不十分である。	メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「社会性、公共性に配慮しつつ、適切な情報形態を以ってのプレゼンテーションが行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、完成度の高いメディアの特性を理解した適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222023　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス「情報とは何か？」 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（９０分）	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく（９０分）
2	「視覚化すべき情報の選択」	シラバスの確認く（９０分）	「情報の選択」を終えておく（９０分）
3	新たな技術の検証①	シラバスの確認（９０分）	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと（９０分）
4	新たな技術の検証②	シラバスの確認（９０分）	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成（９０分）
5	デザインを実装するためには？①	シラバスの確認（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
6	デザインを実装するためには？②	シラバスの確認（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
7	「企画立案」① 企画書の作成	シラバスの確認（９０分）	企画書完成に必要な準備を終えておく（９０分）
8	「企画立案」② 企画書の作成	シラバスの確認（９０分）	次週授業開始時までに完成提出できるよう進度の調整を行う（９０分）
9	「企画立案」③ 企画書の作成	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく（９０分）	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく（９０分）
10	「企画立案」④ 企画書の完成	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく（９０分）	ラフ案（３案）を計画しておく（９０分）
11	「コピーとビジュアルの作成」① ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく（９０分）	ラフ案作成に必要な準備を終えておく（９０分）
12	「コピーとビジュアルの作成」② 再ラフ案	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
13	「コピーとビジュアルの作成」③ 再々ラフ案	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）
14	「コピーとビジュアルの作成」④ 最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）
15	「コピーとビジュアルの作成」⑤ 最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）
16	「コピーとビジュアルの作成」⑥ 最終ラフ作成～提出	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	「コピーとビジュアルの作成」⑦ プレゼンテーションと講評	プレゼンテーションの準備（９０分）	他者の作例を研究する（９０分）
18	「コピーとビジュアルの作成」⑧ プレゼンテーションと講評～今後の展開	他者の作例を研究する（９０分）	他者の作例を研究する（９０分）
19	メディア化にあたっての留意点について	制作すべきメディアを決めておく（９０分）	制作すべきメディアを決めておく（９０分）
20	コピーとビジュアルの用法の試案	デザイン計画（９０分）	デザイン計画（９０分）
21	「メディアコンテンツの制作」① ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく（９０分）	ラフ案の制作（９０分）
22	「メディアコンテンツの制作」② 修正作業	ラフ案の制作（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
23	「メディアコンテンツの制作」③ 再ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（９０分）	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（９０分）
24	「メディアコンテンツの制作」④ 修正作業	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
25	「メディアコンテンツの制作」⑤ 再々ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（９０分）	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（９０分）
26	「メディアコンテンツの制作」⑥ 制作	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
27	「メディアコンテンツの制作」⑦ 制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
28	「メディアコンテンツの制作」⑧ 制作	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（９０分）
29	「メディアコンテンツの制作」⑨ 制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（９０分）	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（９０分）
30	「メディアコンテンツの制作」⑩ 完成	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（９０分）	次週授業開始時までに完成提出できるよう進度の調整を行う（９０分）
31	メディアコンテンツの発表	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく（９０分）	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく（９０分）
32	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	グラフィックデザインについて正しい認識を持てたかを確認（９０分）	グラフィックデザインについて正しい認識を持てたかを確認（９０分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築生産 （科目ナンバリング：BSM323029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築生産に必要な内外装工事や施工管理およびそれに至る工事契約や積算について理解を深め、また、建築士試験の施工および建築施工管理技士試験に対応した学力の修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ1、ＤＰ3、ＤＰ4に対応する。

到達目標

建築施工に重要な各工事に着目し生産技術を学ぶことで、設計や施工の実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。

不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。
この講座の履修は、「建築施工」の履修者に限る。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築生産」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築生産 （科目ナンバリング：BSM323029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健） 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	工事契約と品質保証	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	工事監理	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	施工業務	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	内外装の仕上げ工事：防水と屋根工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	内外装の仕上げ工事：左官工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	内外装の仕上げ工事：タイル工事・石工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	内外装の仕上げ工事：塗装工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	内外装の仕上げ工事：ガラス工事・建具工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	内外装の仕上げ工事：内装工事・断熱工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	建築物の維持管理（改修工事）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	建築物の維持管理（設備工事）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	積算	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	建築廃棄物の有効利用法（リサイクル法）ほか	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う）、振返に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営学科スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：DMB543120　　）				
授業担当者 （所属・職名）	森　靖明（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　森　靖明　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割を理解し、学習指導の基本・実務的事項を身に付けることを目的とする。また、保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について修得する。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

授業全体の内容と概要

カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学校教育の動向、中学校及び高等学校の保健体育科の学習内容に関してはパワーポイント及び学習指導要領解説を用いながら行い、授業づくりについてはグループワークを行いながら検討し、最終的に模擬授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後１０分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。６回以上欠席した者は単位認定不可。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

復習を中心に毎回の授業内容を自分で保健体育の授業づくりに応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。授業づくりに係る学習指導案作成、教材作成と模擬授業を実践できる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％（指導案）	５０％（模擬授業）	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中学校及び高等学校保健体育科教育の目的・目標と評価との関わりについて理解する。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を基に明確に整理することができていた。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら必要な情報を選択することができていた。	保健体育科の目標と評価の観点について、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら説明できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について列挙できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について想起することができていなかった。
中学校及び高等学校保健体育科教育に関わる学習指導の基本・実務的事項について理解する。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに係る必要な情報と関連づけながら根拠を持って説明し、学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに係る必要な情報を列挙しながら学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、学習指導要領解説から学年ごとに抜き出して整理することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について列挙することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について想起することができていなかった。
保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術を用いて授業実践できる。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案や教材を作成して模擬授業を実践できるとともに、他者の授業に対しても批判的視点で評価することができていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できるとともに、他者の授業および教材と比較し、違いについて理解できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案および教材を使用して模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして学習指導案を作成、模擬授業を実践できていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営学科スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法II （科目ナンバリング：DMB543120　　）				
授業担当者 （所属・職名）	森　靖明（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　森　靖明　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』	文部科学省	東山書房	平成３０年	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領解説－保健体育編－』	文部科学省	東山書房	平成３１年	9787-4-8278-15689-9	
3	『新しい保健体育』	戸田　芳雄他	東京書籍	2021	978-4487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤　隆他	大修館	2022	978-4469663198	
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス、保健科教育の意義と目的	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	保健科教育の変遷	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	「保健」の担当教師に求められる能力	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	保健科教育の内的･外的条件	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	保健科教育の目標	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	「保健」の学習内容	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	保健学習を効果的にすすめるための教材作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	保健学習の評価	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	学習指導案の作成　学習指導の様式と指導計画	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	学習指導案の作成Ⅰ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	学習指導案の作成II	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	学習指導案の作成III	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	模擬授業Ⅰ　－中学校および高等学校(保健)－	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	模擬授業II　－中学校および高等学校(保健)－	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	模擬授業III　－中学校および高等学校(保健)－	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	模擬授業IV　－中学校および高等学校(保健)－、　講義のフィードバック 授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」の検証	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123024　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。
②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。
③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。
⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

①包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、その時代背景を踏まえて説明できる。
②「地域福祉ガバナンス」について、その必要性について理解する。
③地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、説明できる。
④災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割を理解する。

授業全体の内容と概要

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。
②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。
③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。
⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。
⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式となるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。ただし、保育士養成課程学生については対面での補講等を実施する。
⑥地域福祉実践を行う外部講師による講義も予定している。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、その時代背景を踏まえて説明できる。	時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、具体的に説明・記述できた。	時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、おおむね説明・記述できた。	時代背景を踏まえた包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②「地域福祉ガバナンス」について、その必要性について理解する。	「地域福祉ガバナンス」の必要性について、具体的に説明・記述できた。	「地域福祉ガバナンス」の必要性について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより「地域福祉ガバナンス」の必要性について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより「地域福祉ガバナンス」の必要性について、おおむね説明・記述できた。	「地域福祉ガバナンス」の必要性について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、説明できる。	地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、具体的に説明・記述できた。	地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、おおむね説明・記述できた。	地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割を理解する。	災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、具体的に説明・記述できた。	災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、おおむね説明・記述できた。	災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ （科目ナンバリング：SWS123024　　）				
授業担当者 （所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座　６　地域福祉と包括的支援体制　第2	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２６年	978-4-8243-0348-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、地域福祉と包括的支援体制Ⅰの復習①	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰの復習②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	地域福祉ガバナンスと多機関協働①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	地域福祉ガバナンスと多機関協働②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	地域福祉ガバナンスと多機関協働③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	地域を基盤としたソーシャルワークの展開①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り、地域を基盤としたソーシャルワークの展開②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	地域を基盤としたソーシャルワークの展開③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	災害時における総合的かつ包括的な支援体制①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	災害時における総合的かつ包括的な支援体制②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	災害時における総合的かつ包括的な支援体制③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習IV （科目ナンバリング：APT323022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　野村　和也（建築学科・特任講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

RCラーメン構造で特殊建築物の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイヤグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」
狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭においた設計を指導する。

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習Ⅳ （科目ナンバリング：APT323022　　）				
授業担当者 （所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　野村　和也（建築学科・特任講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「コンパクト建築設計資料集成　第３版」　日本建築学会編』	村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山　繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果の反映について説明 自分の考えた設計主旨や計画をきちんと作図でき、またダイアグラム、パースなどの種々の方法で表現したり、人に伝えることができる力を身につける目的であることを説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	1設計課題①　建築物の計画 （課題説明） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	即日課題用RCラーメン構造について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
3	中間指導②　全体計画とランドスケープ （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	即日課題用RCラーメン構造について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	中間指導③　ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	即日課題用RCラーメン構造について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	中間指導④　平面計画と断面構成 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	即日課題用RCラーメン構造について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
6	課題提出・講評会 発表に対し、各学生への講評を行い、フィードバックする。	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
7	最終指導　プレゼンテーションの指導 これまでの学習内容に対し、総講評を行い、来期の卒業制作への助言も含めた説明をし、フィードバックする。 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）
8	2設計課題①　建築物の計画 （課題説明） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導②　全体計画とランドスケープ （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導③　ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導④　平面計画と断面構成 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑤　平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑥　模型とプレゼンテーション （模型の造り方　レイアウトチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑦　プレゼンテーション （レイアウトチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行うことでフィードバックする。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会 発表に対し、各学生への講評を行い、フィードバックする。	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導　プレゼンテーションの指導 これまでの学習内容に対し、総講評を行い、来期の卒業制作への助言も含めた説明をし、フィードバックする。 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂと栄養 （科目ナンバリング：SPS422072，SPS522057　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
この科目では「スポーツと栄養」についての理解と実践方法を学ぶ。また、スポーツ選手の栄養・食事管理・コンディショニング維持に必要な知識を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・基本的な栄養学について理解をするとともに日常の食材や食品から栄養のバランスや摂取量を判断できる能力も養い，コンディショニングの維持が実際にできるようにする。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

スポーツ種目別の栄養・食事内容の特徴、身体組成の測定方法、また，トレーニング期、調整期、試合前後それぞれのステージにおける食事の特徴や、アスリートと一般人における食事の相違点などについて解説する。
SDG４．「質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

板書を中心に、実際のスポーツチームの栄養管理方法等のDVDなども取り入れながら講義形式で実施する。
実際に食事調査に関しても実際にグループワークで行い、そこから見えてくる問題に対して取り上げ解説する。小テストは５回実施し、回収後フィードバックとして回答解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・単位認定に必要となる出席回数は全体授業数の３分の２回以上とする。また遅刻3回で欠席1回とみなす。
日本体育協会講習会科目#12,#36使用。「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅲ」のワークブックから問題を出す。詳細については授業中に指示する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は全体授業数の３分の２以上とする。定期試験、出席、レポート提出を上表の基準で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(理解力)	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を深く理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を概ね理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を多少理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について深く考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について概ね考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について多少考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業に意欲的に参加する事ができた。	授業に概ね意欲的に参加する事ができた。	授業に休ほぼ意欲的に参加する事ができた。	授業に意欲的に参加する事が少なかった。	授業に意欲的に参加する事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂと栄養 （科目ナンバリング：SPS422072，SPS522057　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し終了したときに「身に着く力」の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 スポーツと栄養（５大栄養素・栄養のバランス）(#12)	シラバスを読む。教科書の学習内容部分を数回読んでおく事（９０分）	シラバスを確認する。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について考察する。（９０分）
2	炭水化物・穀物・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
3	たんぱく質・筋肉づくり・主菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
4	脂質の栄養学的意義	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
5	食物繊維・野菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
6	スポーツと栄養（食事の摂り方・水分補給）(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
7	コンディショニング維持とビタミン	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
8	コンディショニング維持とミネラル	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
9	アスリートの栄養摂取と食生活①(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
10	アスリートの栄養摂取と食生活②(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
11	アスリートの栄養摂取と食生活③(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
12	アスリートの栄養摂取と食生活④(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
13	外食と栄養のバランス	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
14	減量と食事	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。（９０分）	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）
15	まとめ(授業最終回において講評し、フィードバック実施、第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施)	今までの小テストについて確認をしておく。（９０分）	整理したノートから試験範囲をまとめる。「身に着く力」について再度考察する。（９０分）
16	授業改善アンケートの実施 定期試験実施日 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	試験準備（９０分）	試験の振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法III （科目ナンバリング：DMB543121　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　髙井　雅一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法IIIに関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

－

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の各領域の特性に応じた指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態を視野に入れた効果的な授業を設計することができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。
・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につけるとともに、多様な評価方法の在り方を理解する。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。〔SDG4〕質の高い教育活動を進めていくための指導計画案の作成。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリントと等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等一連の活動を行う。
・データーを共有しながら、パソコンを使用し、仲間と相談しながら作成する。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類はファイル等の整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（９割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（８割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（７割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程について理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（９割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（８割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（７割）	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（９割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（８割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（７割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	知識と指導技術が身についておらず指導案の作成ができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法III （科目ナンバリング：DMB543121　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　高井　雅一　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法IIIに関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１９	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育　』	戸田芳雄　他	東京書籍	２０２４	9784487123711	
4	『現代高等保健体育　』	衛藤　隆　他	大修館書店	２０２４	9784469663198	
5	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	２０２０	9784491041384	

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ中学体育２０２４』	髙橋　健夫　他	大修館書店	２０２４		
2	『ステップアップ高校スポーツ2024』	髙橋　建夫　他	大修館書店	２０２４		
3	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１８		
4	『高等学校学習指導要領平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１９		
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		２０１９		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 今、求められている体育教師とは	理想の体育教師像とはどのような教師なのか考えてくる	まとめられる体育教師像で、自身が不足していることをまとめる
2	体育授業で取り上げる内容・領域について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
3	体つくり運動の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
4	器械運動の特性と情報機器を活用した授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
5	陸上競技の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
6	水泳の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
7	球技(1)ネット型の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
8	球技(2)ゴール型の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
9	教球技(3)ベースボール型の特性と授業づくりの手順について	前時に予行した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
10	武道(1)柔道の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
11	武道(2)剣道の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
12	ダンスの特性と情報機器を活用した授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
13	体育理論の指導内容と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
14	指導案の作成方法について（その１）	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
15	指導案の作成方法について（その２） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容を復習（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122112　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別支援教育の教師を目指すため、視覚障害の特性の理解と、学習上・生活上の困難を改善・克服する教育についての基本的知識を習得し、視覚障害教育に携わる者の意欲・態度等の基本的資質について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

視覚障害の特性を、眼疾患や心理面、歴史、職業、学校制度から基本的な理解ができる。また、視覚障害による学習上・生活上の困難さの理解を基に、視覚障害者が社会参加・自立できるための教育について基礎的知識を習得することができ、視覚障害教育に携わる者としての知識・意欲・態度の資質を養うことができる。

授業全体の内容と概要

１.前半を「視覚障害者の心理・生理・病理」、後半を「視覚障害教育」を中心に構成する。
２.「心理・生理・病理」では、視覚障害児の眼疾患や視知覚の状況、心理面の理解等を学び、「教育論」では、学習上・生　活上の困難さを改善・克服するための点字や歩行、触察など自立活動を中心に、歴史やキャリア教育等、視覚障害教育の課題等についても学ぶ構成をする。
３.具体的な理解を図るため、歩行や触察等の疑似体験や視覚教材視聴等の構成とする。
ＳＤＧ４．「質の高い教育を教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１.講義では、各項目の特徴を明らかにすることを重視し、振り替えしシートで講義内容を整理する。
２.講義ではできない体験や点字など時間をかけて復習することが必要なものについては課題とし、内容の定着を図る。
３.自立活動や指導の実践については、簡単な演習や映像・スライド等で理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１.振り返りシートは講義後（当日）に提出、課題については提出日の講義前に提出すること。
２.「歩行」・「触察」時にアイマスクやお金を使用するので、衛生面上、必ず各自で準備すること。
３.「歩行」時は服装や靴など動きやすいものを準備すること。
４.不測の事態が生じた際の授業等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１１　回以上。
・試験結果や課題の提出状況、発表等の講義での取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２５%	０%	４０%	２５%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
準備・課題学習	課題学習等に努め、基本的・応用的理解が身についているとともに、自主的な学習にも取り組んだ。	課題学習等に努め、基本的・応用的な理解が身についた。	課題学習等に努め、基本的理解が身についた。	課題学習等に努め、提出した。	課題学習等への取り組みが不十分で、空白部分多かったり、未提出が多かった。
視覚障害者（眼疾患等）や視覚障害教育（指導内容・方法等）についての理解	視覚障害教育について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。	視覚障害教育について、良く学び、基本的理解が十分身についた。	視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まり、基本的理解が身につくようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられるようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられなかった。
視覚障害教育への関心・意欲・態度	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に著しくみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に十分にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が、みられるようになった。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122112　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　木村　浩紀　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『視覚障害教育に携わる方のために（五訂版）』	香川　邦生ほか	慶應義塾出版	2016年	978-4-7664-2367-9	
2	『新・視覚障害教育入門』	青柳まゆみ・鳥山由子	ジアース教育新社	2021年	978-4-86371-533-2	
3	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2022年	978-4-86371-548-6	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」 「授業改善アンケート結果反映の説明」」「講義の進め方」 ・視覚障害者の生活と視覚認知	シラバスの確認。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
2	目の構造・機能と視覚障害 ・視覚認知 ・目の構造と機能	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
3	視機能の役割と視覚障害児における眼疾患 ・目の機能 ・視機能の障害	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
4	視覚障害児の眼疾患と視知覚・触知覚の発達 ・主な眼疾患 ・視知覚・触知覚の発達	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
5	視覚障害者の心理と社会性の発達 ・視覚障害の疑似体験（触察）（アイマスク使用） ・弱視児の見え方	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
6	視力検査の実際と視機能検査 ・視覚障害者の程度の把握 ・視力検査等の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
7	視覚障害児の心理（発達）検査と指導との関連 ・視知覚検査の実際 ・指導との関連	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
8	心理・生理・病理のまとめ（フィードバックと身に付く力の検証） ・試験（６０分）	前半の復習。（９０分）	講義内容の整理。（９０分）
9	視覚障害教育の歴史 ・視覚障害教育の歴史 ・北海道の視覚障害教育の歩み	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
10	視覚障害教育の対象と教育の場 ・就学基準 ・教育の場と各学校の現状	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
11	視覚障害教育の教育課程と指導上の配慮事項 ・教育課程 ・指導上の配慮事項	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
12	点字の歴史と点字の概要 ・点字の歴史 ・点字の概要と仕組み	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
13	点字の読み書きの実際 ・点字の読み書き ・指導の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
14	視覚障害児における自立活動（歩行等） ・自立活動の指導 ・歩行指導	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
15	歩行指導の実際とキャリア教育 ・歩行指導の実際（介添え等）（アイマスク使用） ・進路と三療 ・授業改善アンケートの実施	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
16	視覚障害教育のまとめ（フィードバックと身に付く力の検証） ・試験（６０分） 授業改善アンケートの実施	後半の復習。（９０分）	講義全体の振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインし、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノ,コトの見方、考え方、発想法、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２2回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザイン提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実習,実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 造形面の確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 人に優しいか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン再考 コンセプトは大丈夫か	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン修正 ディテールアップ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング 全体の構図チェック	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング サブモックを作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング モックの作成方法を検討	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング モックの確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリング サブモックを作成仕上げ向かう	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリング サブモックを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最終チェック	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾁﾝｸﾞ方法論 （科目ナンバリング：SOP523083　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　博（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	体育棟1階スポーツ指導室	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　博　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。 2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。 その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。 異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。		
オフィスアワー	体育棟前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

指導対象者（選手及びチーム）がその目標を達成する為に、スポーツ指導者（コーチ）としてどのようにアプローチすべきかの基本的な考え方や具体的な方法について学習し、身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①スポーツ指導者として必要な基本理念を理解する
②目標設定についての具体的な方法について理解する
③ティーチングとコーチングの違いを理解し、それぞれの基本となる概念を理解する
④具体的手法を用いて、目標達成に向けて適切な指導が実施出来る

授業全体の内容と概要

講義により基本的な考え方を学び、実習でティーチング及びコーチングを実践する
「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用し、講義形式で実施する。
レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。
実習は講義内で学生に発表を行わせる。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自身が取り組んでいる（取り組んでいた）競技の経験と照らし合わせての学習が効果的と考える。
もしくは身近な何らかの課題において、目標達成に向けてどうアプローチするかを参考にして学習する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	４０%	０%	0%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学習した知識・技能を確実に修得した	学習した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学習した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取学習まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾁﾝｸﾞ方法論 （科目ナンバリング：SOP523083　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　博（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	体育棟1階スポーツ指導室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　伊藤　博　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。 2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。 その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。 異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。		
オフィスアワー	体育棟前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ダブル・ゴール・コーチ』	Jim・Tompson	東洋館出版社	2021	9784491035901	
2	『ポジティブ・コーチング』	Raymond M.Nakamura	サイエンティスト社	2001	9784914903855	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 スポーツ指導者としての心構え 講義で身につく「教える力」「引き出す力」について	事前にシラバスを読んでおく（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	コーチとは何か	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	ティーチングとコーチング	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	目標設定	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	ティーチング　概念	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	ティーチング　具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	ティーチング　事例	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	ティーチング　実習	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	コーチング　概念	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	コーチング　具体的手法①	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	コーチング　具体的手法②	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	コーチング　具体的手法③	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	コーチング　事例	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	コーチング　実習	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	補足・まとめ フィードバック	今までの学習について事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	期末試験（60分）解説（30分） 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	期末試験準備（90分）	期末試験内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法IV （科目ナンバリング：DMB543122　　）				
授業担当者 （所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　髙井　雅一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法IVに関連する諸事項を講義・実習する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

－

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解するとともに、具体的な授業を想定した効果的な授業設計や学習指導案の作成を行うことができる実践的な力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独特の役割をわかりやすく理解させる。
・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることがで・き、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。「SDG4」質の高い授業は、対象生徒にあった内容を工夫スタ指導案を作成するところからのスタートが大切であることを理解させる。
・模擬授業を実践し、指導技術・内容（情報機器の活用を含む）を再確認するために自分の意見を述べながら、意見交換し改善点を見つける。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・模擬授業では、ビデオ機器等を活用し、指導内容の確認などを実践する。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布したプリントや模擬授業の指導案等は、ファイル等の整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（９割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（８割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（７割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程などについて理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論をの認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（９割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（８割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（７割）	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（９割）	の授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（８割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（７割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	授業を行うための知識と指導技術が身につかなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法IV （科目ナンバリング：DMB543122　　）				
授業担当者 （所属・職名）	高井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　高井　雅一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法IVに関連する諸事項を講義・実習する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１９	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄　他	東京書籍	２０２４	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤　隆　他	大修館書店	２０２４	9784469663198	
5	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ中学校体育２０２４北海道編』	髙橋　健夫　他	大修館書店	２０２４		
2	『ステップアップ高校スポーツ２０２４』	髙橋　健夫　他	大修館書店	２０２４		
3	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１８		
4	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１９		
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省	大修館書店	２０１９		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 学校における体育科の役割について	本時の課題について教科書等を参考に自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
2	選択制授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	指導案の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	模擬授業の進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	模擬授業（選択制授業）の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	模擬授業（選択制授業）の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	情報機器を活用した模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	情報機器を活用した模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	体育理論の模擬授業の指導案作成と授業展開について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	体育理論の模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	模擬授業の振り返り	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	模擬授業のまとめ	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	体育におけるスポーツ障害について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容を復習（９０分）	本日の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域政策論 （科目ナンバリング：ECP422045，ECP522044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	川村　裕樹(北広島市役所　経済部長)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　川村　裕樹（信濃　吉彦）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在実際に地域政策を担当している方々から直接講義を受ける画期的な内容		
オフィスアワー	事前連絡をもとに各回授業後調整の上、非常勤講師室等で対応する。				

概要

履修目標

少子高齢化に伴う人口減少が進む中、地域社会を取り巻く環境は日々変化している。各分野の課題を見出し、解決するには、現状を把握し将来につながる政策立案を行う必要がある。本講では、まちづくりの概念、政策立案、展開する際のポイント、北海道ボールパークFビレッジが持つ可能性などを実務担当者から講和を聞き、考究し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

まちづくりに対する興味・関心が高まり、課題の発掘、解決に向けた政策立案力を身に付けることを期待する。

授業全体の内容と概要

札幌近郊都市の北広島市の歴史と変遷を理解し、道央圏における今後の北広島市について学ぶ。また、北海道のシンボルとなる北海道ボールパークFビレッジを通じた今後のまちづくりについて各分野幅広く考察する。

授業の方法

対面講義形式で行うものとする。本講座は試験の代わりに学期末レポートの提出を各学生に義務づける。詳細に関しては別途連絡するものとする。最終レポートにおいて剽窃行為を行った場合は評価の対象としない。レポートは必ず学科指定の表紙を用い、参考文献を必ず列挙すること。また、授業中は積極性を奨励し、発言や質問は随時受け付ける。
学期末にはレポートの他、レポートの内容をベースにした個別のプレゼンテーションも実施し最終評定に加える。基本的にグループプレゼンは認めない。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	４０%	３０%プレゼン

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域政策の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容を概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解していなかった。
地域政策への関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問したり、発言するなど模範的な授業態度であった。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。理解を深めるため真剣に聴いていた。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいなかった。
具体的な市町村等を対象に、地域が抱えている問題を克服するための政策を立案・提言	問題認識が適切で、目標設定や実現に向けた戦略が極めて優れていた。	問題認識が適切で、目標設定や戦略が優れていた。	問題認識が適切で、目標と戦略が設定されていた。	問題認識はやや弱いが、目標と戦略は設定されていた。	問題認識が弱く、目標や戦略も説得力に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域政策論 （科目ナンバリング：ECP422045，ECP522044　　）				
授業担当者 （所属・職名）	川村　裕樹(北広島市役所　経済部長)	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　　川村　裕樹（信濃　吉彦）　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在実際に地域政策を担当している方々から直接講義を受ける画期的な内容		
オフィスアワー	事前連絡をもとに各回授業後調整の上、非常勤講師室等で対応する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバスを中心に説明（本講の目的・内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点、科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスによく目を通しておく（９０分）	授業内容に関連した作文を作成（９０分）
2	地域政策へのアプローチ　北広島市について まちづくりの目標	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
3	地域政策へのアプローチ　北広島市について まちづくりの目標	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
4	地域政策へのアプローチ　北広島市について 福祉・健康分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
5	地域政策へのアプローチ　北広島市について 教育・文化分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
6	地域政策へのアプローチ　北広島市について 安全・安心分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
7	地域政策へのアプローチ　北広島市について 都市基盤・生活環境分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
8	地域政策へのアプローチ　北広島市について 産業・観光分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
9	地域政策へのアプローチ　北広島市について 行財政分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
10	地域政策へのアプローチ　北広島市について 北海道ボールパークFビレッジについて	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
11	地域政策へのアプローチ　北広島市について 北海道ボールパークFビレッジについて	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
12	地域政策へのアプローチ　北広島市について 北海道ボールパークFビレッジについて	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
13	地域政策の立案①　将来に向けた課題の抽出・整理	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
14	地域政策の立案②　課題に対する方向性の整理　政策立案	講義内で予告した内容を調べておくこと(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
15	まとめ①　政策発表と質疑・コメント、フィードバック	レポートの作成(９０分)	講義内での指定課題に取り組むこと(９０分)
16	まとめ②　政策発表と質疑・コメント、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	レポートの作成(９０分)	レポート提出理解を深める(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ﾆｰｽﾞの理解とその支援 （科目ナンバリング：SNE142161，SNE242109，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）　木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（特別な教育的ニーズの理解と支援）についてオムニバスで指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、特別支援教育を推進するために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

該当なし

到達目標

特別支援教育制度の概要と特別支援学校の教育課程並びに個別の教育支援計画の作成の意義や学習指導要領、特別支援教育コーディネーターの設置義務とその役割等、特別支援教育の推進について理解することができる。併せて、各障害の特性に即した自立活動の在り方について理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、特別支援教育の意義や目的、実践等について、主体的・対話的で深い学びを通して、理解を深められるよう、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、具体的な事例をとおして理解を深められるよう、教科書とともにパソコンや映像等の視聴覚教材などのＩＣＴを活用し総合的に構成する。
「ＳＤＧs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業は、パワーポイント及び教科書、配布物(レジメ)を活用して実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。グループワークにてグループ発表を行うとともに、レポート提出（1回）を行う。なお、グループ発表やレポートにはコメントにてフィードバックする。
ＩＣＴ活用に関しては、授業についての質問などをチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程登録者を対象にした科目であり、全学科同一クラスで授業を行う。
２０分以上の遅刻は欠席、遅刻３回で欠席１回とみなす。
教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。
履修に当たっては無断でのスマホ使用や私語禁止などの注意事項は必ず厳守すること。
また、授業において円滑に授業を行う上で座席指定することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容について理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容について理解ができなかった。
特別支援教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で思考・判断・表現が十分でなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業に一定程度関心をもって参加できた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ﾆｰｽﾞの理解とその支援 （科目ナンバリング：SNE142161，SNE242109，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）　木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（特別な教育的ニーズの理解と支援）についてオムニバスで指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　第4版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2025	978-4-86371-713-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校学習指導要領　小学部・中学部（平成29年4月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領　高等部（平成31年2月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2019	978-430312427	
3	『特別支援教育基本用語１００』	上野一彦・緒方明子・柘植正義	明治図書	2014	978-4181085	
4	『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04229-4	
5	『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04231-7	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について　（藤根）	教科書から「インクルーシブ教育システム」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認する（９０分）
2	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	特別支援教育の理念と基本的な考え方及び特別支援教育の対象について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	個別の教育支援計画の意義と活用について　（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	特別支援学校の教育の概要と教育課程の編成並びに指導について　（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	自立活動の目標と内容について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
8	特別支援教育コーディネーターの役割と求められる資質について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	特別支援学校のセンター的な役割について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	小学校、中学校等における特別支援学級と通級による指導における特別支援教育について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	各障害に応じた教育１ －視覚障害、聴覚障害について－（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	各障害に応じた教育２ －知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱について－（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	各障害に応じた教育３ －重複障害、言語障害、情緒障害について－（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	各障害に応じた教育４ －発達障害について－（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	障害のある子どもへのアセスメント　科目を修了して「身に付く力」の検証、講評・フィードバック　授業改善アンケートの実施（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
16	定期試験（６０分の試験後、残りの３０分で解説）	教科書等で講義内容を整理する（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) II （科目ナンバリング：SWS122027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・上原　正希（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW，CW、PSWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

高齢、障がい、地域・行政、児童といった社会福祉各領域の事例を検証することによって、クライエントの主訴の読み取り、ニーズに合致した支援方法を考察することにより、ソーシャルワーク実践を考察する視点を養う。あわせてロールプレイングを通して面接技法における要点を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3，DP4，DP5に対応する科目

到達目標

事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要

事例検討を中心に、相談援助演習Ⅰで学んだことを、グループワーク、ロールプレイ等を通して、実践に近い形で学び、体得する。

授業の方法

3~4グループに分かれ（1グループ20名以内）事例検討、ロールプレイ、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイス的な講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。また、附属の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この科目の単位が取得できない場合、次年度の相談援助実習及び相談援助実習指導III・IVは履修できないので注意すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数20回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク実践事例の理解。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加し、付随した課題に明確な回答を与え、且つ、その理由を説明できた。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加できた。	ソーシャルワーク実践事例の読み込みが的確であった。	グループディスカッションに積極的に参加できた。	ディスカッションへの参加も消極的で、事例に付随した課題にも回答できなかった。
ロールプレイングへの積極的参加	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つＣＬ、ＳＷ各々の役割をこなし、ＯＳＣＥ項目の平均4点以上をキープできた。（５段階評価）	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つＣＬ、ＳＷ各々の役割をこなし、ＯＳＣＥ項目の平均3点以上をキープできた。（５段階評価）	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つＣＬ、ＳＷ各々の役割をこなしていた。	ロールプレイングに積極的に参加してきた。	ロールプレイングへの積極的参加ができなかった。。
チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点、といった応用課題を理解する	チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点各々について明確に言語で説明できた。	チームワーク、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	チームワーク、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	左記の言語全てを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122027　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・上原　正希（社会		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　杉本　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW，CW、PSWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「ソーシャルワーク演習ワークブック」』	相澤譲治　植戸貴子	（株）みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	前期科目の復習（４５分）	テキストの読み込み（４５分）
2	ソーシャルワークプロセスの再確認	前期科目の復習（４５分）	テキストの読み込み（４５分）
3	事例研究１「倫理と組織：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
4	事例研究１「倫理と組織：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
5	事例研究２「高齢者介護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
6	事例研究２「高齢者介護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
7	事例研究３「知的障がい者：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
8	事例研究３「知的障がい者：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
9	事例研究４「児童虐待：ニーズの把握とグループ討」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
10	事例研究４「児童虐待：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
11	事例研究５「ＤＶ：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
12	事例研究５「ＤＶ：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
13	事例研究６「ストレングス：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
14	事例研究６「ストレングス：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
15	事例研究７「障がい児：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
16	事例研究７「障がい児：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（90分）	事例検討結果の検証（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	事例研究８「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
18	事例研究８「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
19	事例研究９「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
20	事例研究９「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
21	事例研究１０「権利擁護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
22	事例研究１０「権利擁護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
23	事例研究１１「地域：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
24	事例研究１１「地域：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
25	応用演習（チームワーク）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
26	応用演習（リーダーシップ）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
27	応用演習（スーパービジョン）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
28	応用演習（ソーシャルワークの視点）	テキストの読み込み（90分）	講義中の自己の振り返り（90分）
29	各学生の気づき（グループ討議）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
30	振り返りと相談援助実習に向けて	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
31	実習事例検討（利用者理解とコミュニケーション）	テキストの読み込み（４５分）	全体を通しての振り返り（４５分）
32	実習事例検討（アセスメントと生活場面面接） フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	テキストの読み込み（４５分）	全体を通しての振り返り（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境Ⅱ （科目ナンバリング：AEN323024　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

外界の厳しい自然環境から人間生活を護り、快適な室内環境を実現するために、「建築環境Ⅰ」の内容に引き続き、建築伝熱、建築音響、湿気・結露の物理的基礎、及びその建築計画上の方法を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

建築計画上の物理的基礎として、熱貫流の３つの過程、音波の基本的性質や音の強さ、湿り空気の性質を理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。
室内と外部の温度差を生じる伝熱理論、室内の湿り空気や結露問題、音波の性質や吸音・遮音について、その基礎的取扱いからその建築計画上の方法までを学ぶ。
さらに演習問題を通して理解を深める。

授業の方法

授業は、パワーポイントおよび教科書を用いて講義し、専門知識の確認をした後に演習問題を行う。学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業はオンライン会議を開いてPCやモバイル端末などで見えるようにし、復習に活用できるように録画もする。
不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・授業資料はPDFで配信するため、ノートPCまたはタブレット端末を毎回持参すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４５%	１５%	０%	４０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築伝熱の理解	外気から室内までの熱貫流抵抗と熱貫流量を計算できた。	熱貫流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱貫流率と熱伝達率、熱貫流率の関係を理解できた。	熱貫流の３つの過程を理解できた。	熱貫流の３つの過程を理解できなかった。
建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。
湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境Ⅱ （科目ナンバリング：AEN323024　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新建築環境工学　改定４版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
2	熱環境－１　伝熱の基礎　熱エネルギーの流れ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
3	熱環境－２　固体中の熱伝導・熱伝達と熱貫流	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
4	熱環境－３　熱伝導率や熱伝達率と熱貫流率の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
5	熱環境－４　熱貫流量の計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
6	熱環境－５　建物外表面の熱授受と熱損失評価	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
7	音環境－１　音の性質と伝播、音の表し方と単位、音の大きさと聴感	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
8	音環境－２　室内音響　室内音響計画、室内音響の評価、室内音響設計	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
9	音環境－３　壁・床の遮音対策、音響透過損失	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
10	音環境－４　建築音響の材料と構造	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
11	音環境－５　騒音とその防止　騒音の測定と評価、騒音の伝播、騒音防止計画	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
12	湿気と結露－１　湿り空気、露点温度と結露、空気線図	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
13	湿気と結露－２　壁の透湿と結露、定常透湿計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
14	湿気と結露－３　表面結露と内部結露、断熱と温度・湿度の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
15	湿気と結露－４　結露の発生と防止対策 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222123　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「写真表現Ⅰ」履修者が履修条件となります。
表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。
カメラ機材、ストロボ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
個人用のSDメモリーカード(64GB）を用意の事。
出来れば個人的にカメラを用意する事をお勧めします。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

「写真表現Ⅰ」履修者が履修条件となります。
単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。
写真に対する評価が出来る。	写真の品評、評価が完璧に出来る。	写真の品評、評価が良く出来る。	写真の品評、評価が出来る。	写真の品評、評価がやっと出来る。	写真の品評、評価が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222123　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。 写真とは？深く考察 歴史的な作品を鑑賞	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	写真機材の特性、使い方（より深く考察する）	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解１	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解2、ストロボ等を使用して光と影を理解する。	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	自分の目指す写真アイデアを出す。コンテ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	次改善作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	作品中間審査１、品評会	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	作品中間審査２、フィードバック	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	最終作品撮影（実際のポスターデザイン）	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	最終作品撮影、プリントアウト	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	最終作品プレゼンテーション 総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・大島　康雄（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子(社会福祉学科・准教授)・杉本　大輔（社会福	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、様々な社会活動を経験した自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、各教員の研究室で対応する。				

概要

履修目標

１．ソーシャルワーク実習の意義について理解する。
２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。
３．ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．ソーシャルワーク実習の意義について理解することができる。
２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解することができる。
３．ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワーク実習の意義について学ぶ。
２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。
３．ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を学ぶ。

授業の方法

１．授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜、質疑応答を交える。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
６．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．自分の意見等を積極的に発言すること。
２．多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。
２．教科書は必ず持参すること。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
５．ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
６．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．出席回数は最低１０回なければ試験を受験することはできない。
２．その他については、出席状況１５%、ボランティア・レポート(3回）１５%、小テスト10%の評価となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークの各領域における職場について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の職場についてその特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政各領域の職場理解について、具体的に説明でき、且つ、その特徴と違いを説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の職場について具体的に説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークの各領域における職種について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について、その具体的業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種いついて、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について具体的に説明でき、且つその特徴の違いを説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。
ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的方法と課題、公的法制度と利用者の自立について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・大島　康雄（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子(社会福祉学科・准教授)・杉本　大輔（社会福	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、様々な社会活動を経験した自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、各教員の研究室で対応する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク実習・実習指導（社福専門）』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2023年	9784335612275	価格　/ 2,750（本体 / 2,500）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映。シラバスの説明。 身につく力・・・ソーシャルワーク各領域についての基礎的な知識。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	ソーシャルワーク実習では、なにを学ぶのか ソーシャルワーク実習Q&A	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	ソーシャルワーク実習における実習計画書の作成のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	ソーシャルワーク実習における記録のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	ソーシャルワーク実習におけるケース研究のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	ソーシャルワーク実習の実習先について概論	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	障害分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	障害領域のソーシャルワーク実践とは～障害領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	児童分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	児童領域のソーシャルワーク実践とは～児童領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	高齢分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	高齢領域のソーシャルワーク実践とは～高齢者領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	地域分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	地域分野のソーシャルワーク実践とは～地域分野のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	実習に行った先輩の実習報告～児童分野・高齢分野・障害分野・地域分野の実習より 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	【定期試験】６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をする） 身に付いた力の検証・・・ソーシャルワーク各領域についてのレポート添削、講評・評価。 「試験の講評・解説」「レポート等の添削・返却」「Ｅメールや Microsoft Teams・Forms、学内システム利用によるフィード	テスト勉強をしていくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２学年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,実技	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122109　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育）について実技を含めた指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

肢体不自由教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえた個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。教育を効果的に行うために必要な基本的知識と、障害の状況等に応じた指導の在り方等の知識を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

肢体不自由教育の現状を踏まえ、児童生徒の実態把握の方法と評価、障害の状態に応じた教育課程や指導内容・方法、健康保持や自立活動のための医療機関との連携、医療的ケア等について構成する。
「SDG3　すべての人に健康と福祉」「SDG４　質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジメ）で実施し、資料にて説明した後、車椅子操作、形態食作成や摂食指導、自立活動の一部を実技として行う。また具体的な事例のＶＴＲ教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
○不測の事態が生じた際は、授業や補講等をオンライン及びオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	１０%	１０%	%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由教育の基礎的な知識・技能の修得	肢体不自由教育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	肢体不自由教育について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由教育について、一定程度の理解をすることができた。	肢体不自由教育について一部理解することができた。	肢体不自由教育について、理解ができなかった。
肢体不自由教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断を深め、個人やグループで工夫して表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で、思考・判断に課題がみられ、表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらか関心を持って参加することができた。	授業に関心が薄く、積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２学年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,実技	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122109　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育）について実技を含めた指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『特別支援教育の基礎・基本』』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	２０２１年	978-4-86371-543-6	
2	『『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』』	文部科学省	海文堂出版	２０１７	978-4-303-12424-3	
3	『『特別支援学校学習指導要領解説総則編』』	文部科学省	開隆堂出版	２０１８	978-4-304-04229-4	
4	『『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』』	文部科学省	開隆堂出版	２０１８	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『肢体不自由教育の基本とその展開』』	日本肢体不自由教育研究会	慶応技術大学出版会	２００８	978-4-7664-1409-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明とオリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを把握しておくこと（９０分）	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる（９０分）
2	肢体不自由教育の歴史 肢体不自由疑似体験	指定した教科書の「肢体不自由児の基礎知識」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	肢体不自由教育の現状	指定した教科書の「肢体不自由児のある子供に応じた教育課程編成」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	特別支援教育に関わる法令	指定した教科書の「学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	教育課程と学習指導要領１	指定した教科書の「学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	教育課程と学習指導要領２	指定した教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	個別の教育支援計画と個別の指導計画	指定した教科書の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	自立活動の変遷と区分	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	自立活動の指導計画	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	自立活動の実際（身体の動き他）	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	自立活動の実際（摂食指導）	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
12	医療的ケアと訪問教育	指定した教科書の「訪問教育」及び「医療的ケア」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
13	キャリア教育と進路指導	指定した教科書の「進路指導と進路状況」を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	個に応じた授業づくり（やりたい気持ちに寄り添う）	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
15	個に応じた授業づくり（集団の中の個別化） 授業改善アンケートの実施	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配布資料に基づき復習しておくこと（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説しフィードバックする。） 科目を修了して『身に付く力』を自己検証	全１５回の講義内容について整理しておくこと	試験の結果を見直す

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規III （科目ナンバリング：APT323031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日本の都市は遥か昔より火災との戦いであった。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが，これは今も同様で，都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは学生が建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を学生が理解でき，都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規III （科目ナンバリング：APT323031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基準法関係法令集　2025年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2025		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 建築設備等１	建築法規Ⅱの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築設備等２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	構造計算１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	構造計算２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	防火区画・防火構造１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	防火区画・防火構造２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	防火区画・防火構造３	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	避難施設等１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	避難施設等２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	内装制限１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	内装制限２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	雑則・その他２ 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験（60分）・試験解説（30分）をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外) ・ ３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (科目ナンバリング：TOS422040)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館１階　非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 五ノ井　壽一 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標
観光産業の中核を担うホテル産業の基本理念とホテルビジネスの仕組みやあり方を理解することをし身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標
ホテル産業の基礎知識と日常行われている実務を体系的に理解する。

授業全体の内容と概要
日本国内外におけるホテル産業の基礎知識とホテルの発生から近代産業に至る発展過程を紹介し理解を深めていく。

授業の方法
授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
平常点（出席率・授業態度）およびレポートの成果を総合的に判断する。特に平常点を重視します。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ホテル産業についての認識・理解	ホテル産業の基本理念を十分認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を体系的に理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を概ね理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を部分的にではあるが理解できた。	ホテル産業について理解するには至っていないが、ある程度認識することはできた。	ホテル産業について認識することができなかった。
レポートについて	極めて優れたレポートと到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥協を認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を達成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限を満たした。	合格を認められる最低限のレポートに達しておらず到達目標を充足しなかった。
受講態度・その他	質疑応答など的確であり、極めて真面目に受講した。	ノート試験など、真面目に受講した。	妥当と思われる受講態度をしめした。	妥当と思われる最低限の受講態度を満たした。	妥当な受講態度が見受けられず、遅刻・欠席も多かった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外) ・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (科目ナンバリング：T0S422040　　)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館１階　非常勤講師室	
単位数	2　(単位認定責任者：　五ノ井　壽一　)			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ホテル・ビジネス・ブック』	仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信	中央経済社	２０１６	9784502181412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基本 ホテル経営教本』	鈴木博・大庭 祺一郎	柴田書店	2012	9784388152872	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
2	ホテルの語源及び特色	ホテルについて情報を収集しておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
3	ホテルの誕生と発展	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
4	ヨーロッパ・アメリカにおけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
5	日本におけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
6	ホテルの分類（ヨーロッパ・アメリカ・日本）	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
7	ホテルの経営形態	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
8	ホテルの収益構造	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
9	ホテルの情報システム	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
10	ホテルの組織と総支配人の役割	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
11	宿泊部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
12	料飲部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
13	セールス＆マーケティング部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
14	管理部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
15	人事システムとキャリアデザイン 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
16	まとめ（レポート総評と解説） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	講義を振り返り質疑応答があれば整理しておくこと（９０分）	総評・解説を受けて講義全体を振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222124　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。
イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることや、具体的な作品の考察とそれについてのディスカッションを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、自分の創作活動を幅広い社会の中に位置づける意識を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。
芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることや、具体的な作品の考察を通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッション、反転授業も取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。
作品考察においては、各学生が一つ作品（短い作品）を選び、その作品について調べ、発表を行うほか、その他の学生も同じ作品を授業までに読んでくること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	２０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄ漫画概論 II （科目ナンバリング：AEA222124　　）				
授業担当者 （所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究　欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	SNS時代のイラスト・マンガ（１）　イラスト／コミックエッセイの隆盛	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	SNS時代のイラスト・マンガ（２）　デジタル環境と変化するメディア特性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	作品考察（１）：『電脳MAVO』より水野清香「家族喧嘩」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	作品考察（２）『電脳MAVO』よりムライ「鳥の眼」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	作品考察（３）高野文子「田辺のつる」（１９８０）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	作品考察（４）高野文子「田辺のつる」（１９８０）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	作品考察（５）こうの史代「古い女」（２００６）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	作品考察（６）こうの史代「古い女」（２００６）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	作品考察（７）個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	作品考察（８）個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	作品考察（９）個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	AI時代のイラスト・マンガ（１）生成AIが提起する諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	AI時代のイラスト・マンガ（２）著作権に関わる諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ 期末レポートの提出	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	期末レポートの解説・フィードバック 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	これまでの授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導 （科目ナンバリング：SNE144163，SNE244111，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、木村浩紀 （社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川厚志　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員として必要な人間関係を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する知識を深めるため、特別支援学校の児童生徒や教職員及び社会福祉施設の利用者と職員から貴重な時間提供を受けた中で、介護等体験が実施されることを理解し、積極的、主体的に体験に臨むための知識や態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

特別支援教育の意義を理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童生徒の特徴がわかり、適切なかかわり方を理解する。
社会福祉施設の役割を理解するとともに、社会福祉施設や利用者の特徴がわかり、適切なかかわり方について理解する。

授業全体の内容と概要

介護等体験の制度と趣旨及びその目的について指導する。
特別支援学校の校種や教育の概要及び社会福祉施設の役割、介助・介護の実際、体験の際に守るべき基本的なマナーを指導する。
体験を想定した心構えや実際にどう行動するかなどについて思考・考察・意見交換等の活動を行う。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、プレゼンテーションスライドの資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
配布資料は、予習復習ができるように、事前にTeamsにアップし閲覧可能としておく。
授業の初めには、授業目的と履修生に期待する内容が焦点化できるように、明確に提示にする。
一授業の前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中には課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。
一授業の終了前には、内容の確認小テスト等を実施し、重要ポイントを確認する。
Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、小テスト等を実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小学校・中学校の教員免許状を取得するための必修科目である。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び尿かの成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（小学校・中学校教員免許状修得）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定必要な最低出席回数は６回以上。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
介護等体験についての知識・技能	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、体験する上での自己課題や心構えなどを自ら整理することができた。	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、自分の考えを整理できた。	介護等体験の意義や内容について一定程度の理解ができた。	介護等体験の意義や内容について一部理解ができた。	介護等体験の意義や内容について理解ができなかった。
介護等体験についての思考・判断・表現	介護等体験について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	介護等体験について思考・判断し、自ら表現することができた。	介護等体験について、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	介護等体験について、思考することができた。	介護等体験にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に参加することができた。	授業にいくらかの関心をもって参加できた。	授業に関心がなく参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導 （科目ナンバリング：SNE144163，SNE244111，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、木村浩紀 （社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　堀川厚志　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック　新フィリア』	全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟（編）	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-522-6	
2	『第５版　よくわかる社会福祉施設　教員免許志願者のためのガイドブック』	社会福祉法人全国社会福祉協議会	図書印刷	2020	978-4-7935-1277-3	
3	『五訂版　教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』	現代教師養成研究会(編)	大修館書店	2020	978-4-469-26876-8	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映、科目を修了して「身に付く力」についての説明 介護等体験制度の歴史、目的、意義等について	シラバスを確認する 介護等体験制度を調べる （９０分）	介護等体験制度の意義等をまとめる （９０分）
2	特別支援学校における介護等体験の意義、内容等について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	特別支援学校で体験する意義を考える （９０分）	内容を整理する （９０分）
3	特別支援学校の児童生徒の特徴、教育の概要、授業での働きかけ、教育的な配慮等について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	特別支援学校の校種、教育概要を知る （９０分）	特別支援学校の教育等をまとめる （９０分）
4	特別支援学校における介護等体験実施に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて	特別支援学校の校種、教育概要を知る （９０分）	特別支援学校の教育をまとめる （９０分）
5	社会福祉施設における介護等体験の意義、内容等及び社会福祉施設の概要、利用者、活動等について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	社会福祉施設について調べる （９０分）	社会福祉施設についてまとめる （９０分）
6	社会福祉施設の種類、概要、利用者、活動等について 利用者とのかかわりと配慮等について ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	社会福祉施設について調べる （９０分）	社会福祉施設についてまとめる （９０分）
7	社会福祉施設における介護等体験に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする ※授業改善アンケートの実施	社会福祉施設について調べる （９０分）	社会福祉施設についてまとめる （９０分）
8	介護等体験の意義、内容についてのまとめと定期試験（５０分間筆記試験、解答説明１０分）講評とフィードバック、科目を修了して「身に付く力」について検証	意義、内容について調べ、自己課題を明確にする （９０分）	自己課題をまとめる （９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規Ⅳ （科目ナンバリング：APT323032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

広範な建築関係法令の中で，学生は建築基準法を取り巻き「建築行政」を構成する各法律がどのような役割を持ち，社会の中でどう機能し，運営されているのかを認識する。そして建築関係法令のうち都市整備の基幹である都市計画法，何かと話題で今後も改正が予想される建築士法，ユニバーサルデザイン・バリヤフリーの観点からの新ハートビル法，その他，関係法令を実務的視点も含めて理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

都市計画法の建築基準法に関連する規定や，建築士法および建設業法の建築基準法に関連する規定，その他の建築関連法規に関する規定を理解することができる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画法他の建築基準法に関連する規定の理解	都市計画法他の建築物の一般構造その他に関する規定を正確に理解することができた。	都市計画法他の建築物の一般構造その他に関する規定を８割方正確に理解することができた。	都市計画法他の建築物の一般構造その他に関する規定を６割方正確に理解することができた。	都市計画法他の建築物の一般構造その他に関する規定を理解することができた。	都市計画法他の建築物の一般構造その他に関する規定を理解することができなかった。
建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規の理解	建築士法，建設業法等の建築基準法に関連する規定を正確に理解することができた。	建築士法，建設業法等の建築基準法に関連する規定を８割方正確に理解することができた。	建築士法，建設業法等の建築基準法に関連する規定を６割方正確に理解することができた。	建築士法，建設業法等の建築基準法に関連する規定を理解することができた。	建築士法，建設業法等の建築基準法に関連する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規Ⅳ （科目ナンバリング：APT323032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　佐藤　善太郎　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基本建築関係法令集2025年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2025		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 都市計画法１- 建築基準法と都市計画法	建築法規Ⅱの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市計画法２-都市形成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	都市計画法３-開発	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	都市計画法４-地域・区域	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	都市計画法５-都市の構成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築士法１-建築士の役割	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築士法２-業務と倫理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建設業法１-施工管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建設業法２-生産管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	新ハートビル法-やさしいまちづくり	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	消防法１-消防設備	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	消防法２-防災計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	品確法・耐震改修法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	都市再開発法・その他	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	民法-建築関係抜粋 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験（60分）・試験解説（30分）をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論 （科目ナンバリング：SWS122043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解する。精神障害者の特徴、生活状況、精神保健福祉法、障害者総合支援法、年金･医療・生活保護など各種制度を理解し、マネジメントを把握する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４に対応する。

到達目標

①精神保健福祉領域の基礎知識をもとに，自分なりの考えを述べることができる。

授業全体の内容と概要

精神障害者を取り巻く課題を学び、グループワークやディスカッションを行う。板書やプリントの確認問題を行いながら学習を行う。確認問題は解説を行う。また、事例検討に関しては、事後の状況を説明し制度と生活支援がイメージできるようにフィードバックを行う。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目である。

授業の方法

教科書は必ず持参すること。小テスト，レポートの内容や提出方法は，授業内にて指示する。精神疾患や障害のある人の社会生活にとって，制度やサービスがもつ意義を絶えず問い直しながら，学習を進めてほしい。ＩＣＴ活用（双方向型授業・自主学習支援など）、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

授業態度、単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	40%	２０％	２０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	１５回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	１４回授業に参加し、積極的に学習ができた。	１３回授業に参加し、積極的に学習ができた。	１２～１０回授業に参加し、積極的に学習ができた。	９回以下授業に参加し、積極的に学習できなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が６０点以上である。	確認テストで平均１００～９０点を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が８９～８０点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が７９～７０点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が６９～６０点以上を獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が５９点以下しか獲得できなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に５回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に４回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に３回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に２回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習や質問、意見を出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論 （科目ナンバリング：SWS122043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉制度論』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8255-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
2	精神障害者に関する制度・施策の理解Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
3	精神障害者に関する制度・施策の理解Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
4	精神障害者の医療に関する制度Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
5	精神障害者の医療に関する制度Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
6	精神障害者の医療に関する制度Ⅲ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
7	精神障害者の生活支援に関する制度Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
8	精神障害者の生活支援に関する制度Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	事前に教科書を確認（90分）
9	精神障害者の生活支援に関する制度Ⅲ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
10	精神障害者の経済的支援Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
11	精神障害者の経済的支援Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
12	精神障害者と生活困窮Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
13	精神障害者と生活困窮Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
14	精神保健福祉領域の近年の動向Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
15	まとめ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
16	確認テスト及びテストの解説 授業改善アンケートの実施 「試験の講評・解説」「レポート等の添削・返却」「Ｅメールや Microsoft Teams・Forms、学内システム利用によるフィードバック」等。	テストの事前学習（９０分）	テストの振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝII （科目ナンバリング：AEA222041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本の技術や社会人としての素養をより一層身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける。
学生が、制作をして行く上で、他者と主体的に協議する力を身に付ける。
学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすれば良いかに気付き、考える。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来る様になるための基本を身につけられるよう、教師は経験を生かし実践的な授業を展開する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで展開する。各課題の説明の後実技。こまめな机間巡視により学生一人一人への個別指導を重視する。講評会に於いてフィードバックを行う。プレゼンテーション、ディスカッションを適宜行う。受講人数や受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

イラストレーションⅠの履修・習得を履修の前提とする。学習用具を毎回持参（F6（またはA3）以上のスケッチブック（またはクロッキー帳）、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで５種類くらい）、カッター、ミリペンやボールペンなど、色鉛筆、アクリル絵の具（ターナーU－３５など）、最終課題A３イラストレーションボード２枚）課題制作、提出は実際の仕事の納期を意識すること。授業は積み重ね型で構成しているので欠かさず出席することが大前提。不測の時の授業、補講などにオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作を的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作をある程度的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作を的確に行えなかった
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての要素（他者と主体的に協働する姿勢）	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を十分身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養をほぼ身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養をある程度は身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を大体身に付けられなかった
依頼作品（課題）について	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度は的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確にできなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝII （科目ナンバリング：AEA222041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス、授業改善アンケート結果反映、当該科目を修了して身につく力について）の説明	シラバスを読む（45分）	課題（45分）
2	スタイルの発見	課題（45分）	課題（45分）
3	支持体と画材	課題（45分）	課題（45分）
4	支持体と画材	課題（45分）	課題（45分）
5	手描きのパースペクティブ	課題（45分）	課題（45分）
6	手描きのパースペクティブ	課題（45分）	課題（45分）
7	書籍、雑誌の挿絵	課題（45分）	課題（45分）
8	書籍、雑誌の挿絵	課題（45分）	課題（45分）
9	商品パッケージ	課題（45分）	課題（45分）
10	商品パッケージ	課題（45分）	課題（45分）
11	ファッションとフォルム	課題（45分）	課題（45分）
12	ファッションとフォルム	課題（45分）	課題（45分）
13	時間を描く	課題（45分）	課題（45分）
14	時間を描く	課題（45分）	課題（45分）
15	背景、小道具による描写	課題（45分）	課題（45分）
16	背景、小道具による描写	課題（45分）	課題（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	手描きの作品の取り扱いと入稿	課題（45分）	課題（45分）
18	手描きの作品の取り扱いと入稿	課題（45分）	課題（45分）
19	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
20	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
21	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
22	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
23	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
24	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
25	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
26	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
27	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
28	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
29	依頼（課題）制作	課題（45分）	課題（45分）
30	依頼（課題）制作　完成　提出	課題（45分）	課題（45分）
31	講評会（フィードバック）プレゼンテーション　ディスカッション	課題（45分）	課題（45分）
32	授業改善アンケートの実施、当該科目の第１回目で示した身につく力の検証	課題（45分）	学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・後藤啓倫（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（後藤）		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

概要

履修目標

経営学を学ぶ上で必要となる、国際的な感覚と基礎知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

国際的な場面で起きる様々な出来事に対して、自分なりの意見や考え方をしっかりとした理由付けの元、構築し自分の将来に役立てることができる。

授業全体の内容と概要

本講座は３人の教員によるオムニバス形式の講義である。配布物や板書が多いのできちんとノートにまとめ，その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによって国際関係ががどのようにつながり発展しているのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。学習範囲の記事や資料を多用し、現在の国際社会を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に担当教員が指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の４点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為および4点セットを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとし、状況によっては評価対象外とすることがある。各担当者の最終授業において必ず小テストを実施する。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。各教員の講義で最大許容欠席は2回までとする。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。最終評定は３回のテストの合計とノート提出に平常点を加味して行う。但し、同一教員での欠席は最大2回までとし、3回以上欠席した学生は評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	テストで９０点以上の得点を挙げた。	テストで８０点以上の得点を挙げた。	テストで７０点以上の得点を挙げた。	テストで６０点以上の得点を挙げた。	テストで６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、意思決定や国際問題への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や国際理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら国際理解に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談にも常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメントカを身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・後藤啓倫（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（後藤）		
単位数	２　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション国際政治（1）　（後藤担当） 国際関係の成立ヨン：シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	専用のノートを準備し、高校「世界史」近現代部分を復習する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化すなわち授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
2	国際政治（2）　（後藤担当） 第一次世界大戦	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	国際政治（3）　（後藤担当） 第二次世界大戦	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	国際政治（4）　（後藤担当） 冷戦の始まり	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	国際政治（5）　（後藤担当） 冷戦の展開	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	国際政治（6）　（後藤担当） 冷戦後の国際政治	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	国際政治（7）　（後藤担当） グローバル化と国際政治	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える（９０分）
8	国際政治（8）　（後藤担当） まとめとテスト	分からない単語について調べ、テストの準備をする（９０分）	テストの問題を復習する（９０分）
9	経済のグローバル化（1）　（河野担当） 国境を越えるヒト・モノ・カネと情報	「経済のグローバル化」とは何か、グローバル化の言葉の意味を調べてノートにまとめる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
10	経済のグローバル化（2）　（河野担当） 日本経済のグローバル化 グローバル化の問題	日本経済のグローバル化の歴史について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
11	経済のグローバル化（3）　（河野担当） 情報のグローバル化とその問題	情報のグローバル化の問題を調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
12	経済のグローバル化（4）　（河野担当） 演習課題の講評 まとめと小テスト	経済のグローバル化についてこれまでのノートをまとめる（９０分）	小テストの復習（９０分）
13	国際パートナーシップ（信濃担当）	国際化とグローバリズムについて考えをまとめる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
14	多国籍企業に求められるCSR（信濃担当）	グローバルビジネスにおける障害に関して考えをまとめる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
15	経営のグローバル化　（信濃担当） 政治上のグローバル化とビジネス上のグローバル化 授業評価アンケートの実施	グローバリズムについて自分の考えをまとめてノートに記す（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える（９０分）
16	経営と共生社会　（信濃担当） 結果の平等と機会の平等 まとめと小テスト＋総括に関する説明 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	義務と権利・責任について自分の考えをまとめ、小テストに備える（９０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ （科目ナンバリング：PSS122037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）・上原　正希(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　近藤　亜弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健の課題と支援Ⅰでの学習をもとに、精神保健の予防と支援の実際、差別や偏見に関する問題、精神保険に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携、諸外国やWHOなどの精神保健活動の現状について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①精神保健に関する予防の考え方について理解する。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

①精神保健に関する予防の考え方について理解する。
②精神保健に関する諸問題に対する対策を理解する。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs8.働きがいも経済成長も」「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式が主だが、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の講義前に事前課題をMicrosoft Formsにて発信を行う。必ず確認してから、授業に臨むこと。
③毎回の確認小テストをMicrosoft Formsを通して発信する。。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングして管理を徹底すること（特段の理由が無い限り再配布はしない）。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（１０点）、第１６回目に実施する定期試験（９０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	%	10%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神保健に関する予防の考え方について理解する。	精神保健に関する予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて予防の考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方についておおむね説明できた。	予防の考え方について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策についておおむね説明できた。	精神保健に対する対策に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について種の役割と連携についておおむね説明できた。	地域精神保健に関する偏見と差別等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね説明できた。	世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についてキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ （科目ナンバリング：PSS122037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）・上原　正希(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　　近藤　亜弥　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『適宜紹介します。』』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『適宜紹介します。』』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の課題と支援Ⅰの授業内容の復習 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	精神保健の予防の考え方	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	精神保健に関する発生予防と対策①（アルコール問題、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	精神保健に関する発生予防と対策②（うつ病と自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	精神保健に関する発生予防と対策③（子育て支援と暴力、虐待予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	精神保健に関する発生予防と対策④（認知症高齢者に対する支援）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健に関する発生予防と対策⑤（社会的ひきこもりに対する支援）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健に関する発生予防と対策⑥（災害時の精神保健に対する対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題（関係法規、精神保健における偏見）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健に関する専門職①（国の機関と役割、精神保健に関する関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健に関する専門職②（地域精神保健に係わる行政の役割）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健に関する専門職③（啓発団体、セルフヘルプグループと市民団体）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	諸外国の精神保健活動の現状及び対策（世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施 授業全体のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 （科目ナンバリング：CIE323037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

古典的測量から現代の測量迄の建築測量関連としての教養的測量を修得し、建築に関る狭い範囲の測量のみならず測量を体系的に広がりを持った理解ができるようになる。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

建築に必要な基本的測量知識の修得ができる。

授業全体の内容と概要

初めて測量学を学ぶことを前提にして、社会における測量の役割を理解し、実務に合わせた最新測量技術を用いた測量から地図の作成から建築工事測量までの基礎を講義する。

授業の方法

授業は教科書と配布資料を中心にプロジェクターを利用した講義形式で行う。
建築工事測量の演習も実施して理解を深める。フィードバックとして演習の解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

関数電卓持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
測量全般の基礎理解	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得し、他の人に説明できた。	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得できた。	基本的な測量内容や用語について理解し、他人に説明できた。	基本的な測量内容や用語について理解できた。	基本的な測量内容や用語について理解できなかった。
測量機器全般の基礎理解	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作でき、他の人に説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できなかった。
測量データの理解	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができ、他の人に指導できた。	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができ、他人に説明できた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 （科目ナンバリング：CIE323037　　）				
授業担当者 （所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　長森　正　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説わかる測量』	猪木幹雄・中田勝行・那須充	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 概論、測量の役割	シラバス資料を確認して，授業内容を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
2	地球の形と地図の表し方	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
3	測量の基本（１）　基準点・三角測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
4	測量の基本（２）　距離測量・補正演習	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
5	測量の基本（３）　水平角・鉛直角	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
6	測量の基本（４）　単角法・倍角法・方向法	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
7	衛星測位	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
8	トラバース測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
9	水準測量（１）　水準測量の基本	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
10	水準測量（２）　昇降式・器高式	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
11	地形測量・平板測量・建築工事測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
12	測量実技演習（１）水準測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
13	測量実技演習（２）水平角・鉛直角	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
14	写真測量演習	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行いフィードバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験の準備（９０分）	定期試験問題を理解し復習する（９０分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理する９０分）	授業内容全体について資料を整理する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽII （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

概要

履修目標

グローバルビジネスⅠの知識をベースに経営学を学ぶ上で必要となる、さらなる国際的な感覚・常識等を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

グローバルビジネスⅠで得た知識に加えて、国際的な場面で起きる様々な出来事に対して、自分なりの意見や考え方をしっかりとした理由付けの元、構築し自分の将来に役立てることができる。

授業全体の内容と概要

本講座は２人の教員によるオムニバス形式の講義である。配布物や板書が多いのできちんとノートにまとめ，その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによって国際関係ががどのようにつながり発展しているのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。テキストを中心にPCを多用し、現在の国際社会を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に担当教員が指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グローバルビジネスⅠを取得していない学生は履修できない。出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の４点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為および4点セットを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとし、状況によっては評価対象外とすることがある。前半と後半に分け試験を実施する。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１２回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。各教員の講義で最大許容欠席は2回までとする。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大６０%に換算する。最終評定は２回のテストの合計とノート提出に平常点を加味して行う。但し、両担当教員それぞれの授業において最大欠席回数は2回までとし、3回以上欠席した学生は再履修とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	各テストの合計で９０点以上の得点を挙げた。	各テストの合計で８０点以上の得点を挙げた。	各テストの合計で７０点以上の得点を挙げた。	各テストの合計で６０点以上の得点を挙げた。	各テストの合計で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、意思決定や国際問題への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や国際理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら国際理解に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談にも常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメントカを身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽII （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『The Japanese Economy―日本の経済（改訂版）』	小林 佳代	ＩＢＣパブリッシング	2021	9784794606525	
2	『はじめての国際経営』	中川　功一　他	有斐閣	2015	9784641150171	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	グローバルビジネスとは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読み、要点をノートにまとめて確認する（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
2	戦後日本経済の歴史（1） ・日本経済の成長 教科書 The Japanese Economy, Part One:	教科書の授業範囲を読み、わからない単語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
3	戦後日本経済の歴史（2） ・日本経済の停滞 教科書 The Japanese Economy, Part One:	教科書の授業範囲を読み、わからない単語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
4	戦後日本経済の歴史（3） ・日本経済の停滞 教科書 The Japanese Economy, Part One:	教科書の授業範囲を読み、わからない単語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
5	グローバル化と日本の経営・経済（1） ・日本の貿易構造と国際経済摩擦 教科書 The Japanese Economy, Part Three	教科書の授業範囲を読み、わからない単語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
6	グローバル化と日本の経営・経済（2） ・経済のグローバル化と日本企業の対応 教科書 The Japanese Economy, Part Three	教科書の授業範囲を読み、わからない単語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
7	グローバル化と日本の経営・経済（3） ・経済の国際化と経済連携 教科書 The Japanese Economy, Part Three	教科書の授業範囲を読み、わからない単語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業ノートを読みなおし、整理してまとめる（９０分）
8	前半のまとめ 課題等へのコメント（フィードバック） テスト①	前半の授業ノートをみなおす（９０分）	テストの問題を復習する（９０分）
9	国際マーケティングとは　第7章　pp.114-130①	教科書の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業の板書・資料を読みなおし、整理して授業ノートにまとめる（９０分）
10	国際マーケティングとは　第7章　pp.114-130②	教科書の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業の板書・資料を読みなおし、整理して授業ノートにまとめる（９０分）
11	海外子会社の経営　第6章　pp.94-109①	教科書の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業の板書・資料を読みなおし、整理して授業ノートにまとめる（９０分）
12	海外子会社の経営　第6章　pp.94-109②	教科書の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業の板書・資料を読みなおし、整理して授業ノートにまとめる（９０分）
13	ものづくりの国際展開　第8章　pp.132-147①	教科書の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業の板書・資料を読みなおし、整理して授業ノートにまとめる（９０分）
14	ものづくりの国際展開　第8章　pp.132-147①	教科書の授業範囲を読み、わからない用語の意味を調べてノートに書く（９０分）	授業の板書・資料を読みなおし、整理して授業ノートにまとめる（９０分）
15	トランスナショナル経営　第5章　pp.78-92 ・授業改善アンケートの実施	グローバリズムについて自分の考えをまとめてノートに記す（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補いテストに備える（９０分）
16	後半のまとめ 課題等へのコメント（フィードバック） テスト② 科目を修了して「身に付く力」についての検証	義務と権利・責任について自分の考えをまとめ、小テストに備える（９０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：AEA222045　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業は、キャラクターデザインⅠで構築したキャラクターと世界観を基盤として、広告的視点から「見たくなる」チラシ表現を設計することを目的とする。
学生は世界観を“必要十分”の要素へ整理し、物語性・対立軸・視覚要素を統合することで、Ａ４両面チラシおよびＡ２拡大ポスターの制作を通して、世界観構築力と広告デザイン力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

世界観を広告に必要な要素へ取捨選択し、要点を短く言語化できる。
チラシの情報設計（表面／裏面）ができる。
キャッチコピーを目的に応じて選定・決定できる。
Ａ４両面チラシの構造（訴求ビジュアル・階層設計・文字組）を理解し、自力で構築できる。
Ａ２拡大ポスターとして展示可能な品質で仕上げることができる。

授業全体の内容と概要

本授業は、キャラクターデザインⅠで作ったキャラクターと世界観をもとに、Ａ４両面チラシとＡ２ポスターへまとめる内容である。世界観の中から「広告で必要なところだけ」を選び、読みやすい文章・わかりやすい構成・伝わる見せ方へ整理していく。あわせて、著作物の扱いなど基本的なルールも確認する。
不測時にはオンラインまたはオンデマンドで授業を行う場合がある。
「SDGs１２．つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

板書、パワーポイント、資料配布、実演を用いた実技中心の授業である。
各回で短い構造説明を行い、その後制作に集中し、最後に共有・フィードバックを行う。
作品にはコメント・講評等によりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

キャラクターデザインⅠを履修していることが望ましい。
デジタル制作の場合はノートＰＣ・タブレット等を持参すること。
アナログ制作の場合は必要な画材を持参すること。
遅刻・欠席時は必ず事前連絡を行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数１１回以上。
課題はすべて期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界観の必要十分性	世界観の核（舞台・対立・象徴）が過不足なく統合され、広告表現として高い説得力があった。	主要要素が整理され、広告として十分な世界観が構築されていた。	要素の連動に部分的な弱さはあるが、世界観の骨格が成立していた。	情報の過不足があり、世界観が広告目的に十分適応していなかった。	世界観の整理ができず、作品として成立しなかった。
広告設計力（情報構造・コピー・視覚設計）	構造・コピー・文字組・階層が高い精度で統合され、強い訴求力があった。	情報設計が整理され、視覚的にも安定した構成ができていた。	情報構造に一定の意図があり、広告として成立していた。	余白・段組・コピーに不整合があり、読み手への訴求が弱かった。	情報構造が崩壊し、広告として機能していなかった。
作品の統合と完成度（Ａ４両面＋Ａ２）	表裏のトーン・色・構成が完全に統一され、高い完成度を示した。	表裏の統一が概ね達成され、展示に十分耐える品質だった	視覚的まとまりはあるが、一部に粗さが残った。	統一性に欠け、作品の魅力が十分に引き出されなかった。	作品として成立しておらず、展示水準に達していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：AEA222045　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・「身に付く力」について Ｉで制作したログラインを再調整し、世界観の不足を洗い出す。	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	映画チラシの構造分析 表面＝訴求ビジュアル、裏面＝情報設計の型を理解する。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	世界観の必要十分①（舞台・対立軸） 地理・時代・対立の最小要素を整理。 広告に必要かで判断する。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	世界観の必要十分②（プロップ） 象徴道具１～２点を決定し、由来を短文化。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	ストーリー要約（チラシ用） １００～１５０字のあらすじ／３キャラ紹介文３０～５０字。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	タイトル＆ロゴ（見せ方） 書体選定の根拠メモ、ロゴ配置の比較。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	キャッチコピー（見たくなる） 訴求軸を１つに絞り、５案→１案へ絞り込み。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	表面ビジュアル（チラシ表）ラフ １のポスターを広告的に再編。ロゴ／コピー位置を検討。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	裏面レイアウト（１ｓｔ） ＳＴＯＲＹ／ＣＨＡＲＡＣＴＥＲ／ＷＯＲＬＤ欄の段組設計。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	裏面清書（２ｎｄ） 階層・余白・罫線・図解の整理。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	統合調整 表裏のトーン統一。色校メモの作成。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	印刷準備（ＪＰＧ） Ａ４両面３００ｄｐｉ 塗り足し３mmの確認。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	印刷（学内） Ａ４両面と表面Ａ２を出力。誤差チェック。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	パネル作成・折り作業／フィードバック Ａ２掲示用パネル制作。名称・クレジット確認。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	展示・発表 ３分プレゼン（コピーの効き・世界観の一貫性）。	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	講評にてフィードバック 「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	展開科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅰ （科目ナンバリング：SEM324058　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１級建築施工管理技士一次(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

国家資格である「１級建築施工管理技士」の学科試験（午前試験）に対応できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「１級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の事前準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努めるものとする。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。
この講座の履修条件として、建築施工ならびに建築生産の講座を履修していることとする。
１級建築施工管理技士学科試験（学科）を受験することを前提とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を勘案し、総合的に判断する。単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。また、定期試験は実施せず、日常授業の８回の小テスト（課題）の結果成績を勘案して総合評価する。
なお、再試験を実施するが、小テストの総合成績と再試験成績の上位成績を最終評価とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１００％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
１級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	１級建築施工管理技士技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に向けて取り組む意志があった。	１級建築施工管理管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていなかった、または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	展開科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅰ （科目ナンバリング：SEM324058　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『１級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	２０２３		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原　健）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	構造力学－問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	計画原論・一般構造－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	計画原論・一般構造－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	建築材料－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	建築材料－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	躯体工事①－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	躯体工事①－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	躯体工事②－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	躯体工事②－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	仕上工事①－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	仕上工事①－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	仕上工事②－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	仕上工事②－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	設備工事・その他－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	設備工事・その他－解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅠ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）河野　善文（経営学科・教授）石山　玄幸（経営学科・教授）岩立　顕	研究室等所在	2号館6階　1号館2階　1号館3階　2号館8階		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること				

概要

履修目標

本講座は、3年次以降に開講されるビジネスリサーチ演習の準備講座である。学生諸君は経営分析や企業リサーチ等をイメージしてその基礎的事項に関して強化・訓練をしてもらう。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

本講義を履修した学生には調査・分析・報告を社会人として恥ずかしくないレベルで行えるようになってもらいたい。特に学部で学んだ知識等を実践で生かすことができるようになるため、調査・分析・報告の流れを知識と経験の両面から学んでもらう。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

担当教員の指示に従い、個人レベルやペアレベル、小グループ等さまざまな状況・状態で問題解決にあたってもらう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

4名の教員がオムニバスに担当する。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は全16回の講義中１２回以上とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各教員が課したレポートやペーパー類はもちろん、調査内容や自分の意見は理由と共に文字化してノートまたはPC内に保存すること。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は１２回以上とする。また、提出期限を過ぎてから提出された課題に関しては全て0点として最終評定に加える。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４０％	４０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段の考え方に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、企業調査において必要となる知識や手段とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら調査・分析に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学におけるマーケティング力の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
知識・技能	提出物の合計で９０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で８０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で７０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で６０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で６０点以上の評価を得ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅠ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）河野　善文（経営学科・教授）石山　玄幸（経営学科・教授）岩立　顕	研究室等所在	2号館6階　1号館2階　1号館3階　2号館8階		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 授業計画シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読み、わからない用語を調べる（９０分）	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
2	ビジネスリサーチとは	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
3	資料の収集と整理について	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
4	論理的に考えるとは	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
5	地域経済リサーチ(1) ・県民経済計算とは	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
6	地域経済リサーチ(2) ・資料収集（県民経済計算データ）と文献情報のメモ	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
7	地域経済リサーチ(3) ・資料をもとに考察	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
8	地域経済リサーチ(4) ・概要（アウトライン）の作成	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
9	プレームワークについて	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
10	質問力について	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
11	政府統計の活用方法について	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
12	課題の説明	講義内で予告した演習内容について調べておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
13	報告活動の重要性①　質の高い報告書を作成またプレゼンするための技術的な側面をプレゼンテーションのクオリティに特化して学んでもらう。	講義内またはチームズで予告した内容について調べ理解しておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
14	報告活動の重要性②　いくつかのプレゼンテーション実例から自分の目指すプラットフォームの構築を目指す。	講義内またはチームズで予告した内容について調べ理解しておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
15	報告活動の重要性③　駄目なプレゼンと良いプレゼンの違いを学ぶ。また、そのための情報収集やエビデンスの重要性を理解する。	講義内またはチームズで予告した内容について調べ理解しておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)
16	総括ならびに最終課題に関する説明を行う。 科目を修了して「身に付く力」の検証、授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業アンケートの実施	講義内またはチームズで予告した内容について調べ理解しておくこと(９０分)	授業講義内での指定した課題に取り組むこと(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画IV （科目ナンバリング：AEA223067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鴨　修平　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が，漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

漫画の基礎テクニックの向上と、その応用を学習し実践することで漫画制作における表現の選択肢を広げる。
現代における多様な表現技法を学習し，漫画雑誌だけを発表の場としない柔軟な考えを身につけ，芸術文化の推進に率先垂範できる能力を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

漫画の作業工程を理解し実際に制作する中で、読者の立場から作者の立場に視点を変化することができる。

授業全体の内容と概要

いくつかの課題を通して基礎的なテクニックの確認と補強をしながら、雑誌投稿などを想定した漫画作品の制作を各自で行う。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書またはTeamsから資料を配布して学習内容や課題の説明をする。その後各自で制作の実技を行う。適宜講師と打ち合わせを行いながら制作を進める。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。
不測の事態でない場合でも、対面授業からオンライン授業に変更することがある。オンラインで実施する際は事前に告知する。
提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「漫画III」を受講していることが望ましい。
デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。
主にTeamsを用いて学習内容を説明するため、Teamsを閲覧できるデバイスを持参すること。持参できない場合は講師と相談。
３回の遅刻で１回の欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２２回以上。
授業内で示した作業スケジュールを遵守し，期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現（知識と理論の理解）	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。 作品を提出できなかった。
漫画制作（ストーリー創作技術）	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割等のテクニックを理解できず、作品を創作できなかった。
漫画制作（作画技術）	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅳ （科目ナンバリング：AEA223067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　鴨　修平　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が，漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
2	課題１「好きなモノのプレゼンイラスト」	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
3	ストーリーのネームと実技・ 課題２「童話を元にしたネーム制作」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
4	ストーリーのネームと実技・ 課題２「童話を元にしたネーム制作」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
5	ストーリーのネームと実技・ 課題２「童話を元にしたネーム制作」３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
6	ストーリーのネームと実技・ 課題２「童話を元にしたネーム制作」４	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
7	ストーリーのネームと実技・ 課題２「童話を元にしたネーム制作」５	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
8	ストーリーのネームと実技・ 課題２「童話を元にしたネーム制作」６	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
9	背景表現　パースの説明と実技・ 課題３「背景と人物の作画」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
10	背景表現　パースの説明と実技・ 課題３「背景と人物の作画」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
11	原稿の制作手順の説明・ 課題４「漫画原稿制作」１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
12	課題４「漫画原稿制作」２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
13	課題４「漫画原稿制作」３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
14	課題４「漫画原稿制作」４	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
15	課題４「漫画原稿制作」５	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
16	課題４「漫画原稿制作」６	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題５「ストーリー漫画制作」プロット１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
18	課題５「ストーリー漫画制作」プロット２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
19	課題５「ストーリー漫画制作」ネーム１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
20	課題５「ストーリー漫画制作」ネーム２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
21	課題５「ストーリー漫画制作」下書き１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
22	課題５「ストーリー漫画制作」下書き２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
23	いがらしゆみこ特別講座１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
24	いがらしゆみこ特別講座２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
25	課題５「ストーリー漫画制作」ペン入れ１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
26	課題５「ストーリー漫画制作」ペン入れ２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
27	課題５「ストーリー漫画制作」ペン入れ３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
28	課題５「ストーリー漫画制作」背景・ベタぬり・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
29	課題５「ストーリー漫画制作」スクリーントーン	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
30	課題５「ストーリー漫画制作」仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
31	授業に係る講評・授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
32	課題の添削・返却 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 （科目ナンバリング：MAT322054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学生が微分積分の基礎知識を養う力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

基本的な数学の知識から学び、微分積分の基礎知識までを修得する。さらに、それらのことを通して、答えだけではなく、計算過程（思考過程の説明）も大切であることを理解し、習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・一次関数、極限値、導関数、微分法の公式、べき・三角関数・指数関数・対数関数などの微分、不定積分、置換積分法、部分積分法など、豊富な練習問題を計算することによって、微分積分の知識の定着を図る。「ＳＤＧ4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布物資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。また、課題及び演習の解答は時間内に行うようにする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。予習・復習を怠らないこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	２０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
微分積分の基礎知識の修得	極限及び微分積分の基礎知識が１００%理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が９０%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が８０%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が７０%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が７０%も理解できなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を１００%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を９０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を８０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を７０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を７０%も記述したレポートにならなかった。
微分積分を学ぶために必要な基礎数学の知識の修得	基礎数学の知識が１００%理解できた。	基礎数学の知識が９０%以上理解できた。	基礎数学の知識が８０%以上理解できた。	基礎数学の知識が７０%以上理解できた。	基礎数学の知識が７０%も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 （科目ナンバリング：MAT322054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　横山　哲也　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	整数と計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	展開・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	平方根・一次関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	極限値・連続関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	導関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	べきの微分	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	微分法の公式１（極限値）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	微分法の公式２（導関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	初等関数の微分１（三角関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	初等関数の微分２（指数関数・対数関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	不定積分１（原始関数と不定積分）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	不定積分２（初等関数の積分）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィートバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁ演習Ⅰ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）青山　浩之（経営学科・教授）河野　善文（経営学科・教授）石山　玄	研究室等所在	2号館6階　1号館3階　1号館2階　他		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること				

概要

履修目標

本講座は実地に調査・研究・分析・報告を行うビジネス学習上の重要である。学生諸君は経営分析や企業リサーチ等を実際に経験し調査からプレゼンテーションへと繋がる運用に関して実践してもらう。　ビジネスリサーチⅡの単位を取得していない学生は履修できない。

授業の位置づけ

経営学部の全てのDPに対応する科目

到達目標

本講義を履修した学生には調査・分析・報告を社会人として恥ずかしくないレベルで行えるようになってもらいたい。特にプレゼンテーション力に重きを置きます。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

担当教員の指示に従い、個人レベルやペアレベル、小グループからゼミ単位等さまざまな状況・状態で問題解決にあたってもらう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この科目はビジネスリサーチⅡの単位未修得者は履修できない。複数名の教員がケースごとに担当する。原則、実地調査等の学外活動は欠席できない。トータルの最低出席回数は１２回以上とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

各教員が課したレポート類はもちろん、調査内容や自分の意見は理由と共に文字化してノートまたはPC内に保存すること。原則、実地調査等の学外活動は欠席できない。トータルの最低出席回数は１２回以上とする。また、提出期限を過ぎてから提出された課題に関しては全て0点として最終評定に加える。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	４０%	４０%	%	２０%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
思考力・判断力・表現力	積極的に調査・分析に取り組み、実社会において必要となる知識や手段を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段の考え方に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、企業調査において必要となる知識や手段とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら調査・分析に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学におけるマーケティング力の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
知識・技能	提出物の合計で９０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で８０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で７０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で６０点以上の評価を受けた。	提出物の合計で６０点以上の評価を得ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,演習,実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁ演習Ⅰ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）青山　浩之（経営学科・教授）河野　善文（経営学科・教授）石山　玄	研究室等所在	2号館6階　1号館3階　1号館2階　他		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション オリエンテーション、シラバスの説明。 科目終了後に身につく力について説明	事前学習・調査（９０分）	分析・理解（９０分）
2	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	分析・理解（９０分）
3	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	分析・理解（９０分）
4	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	分析・理解（９０分）
5	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	分析・理解（９０分）
6	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
7	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
8	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
9	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
10	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
11	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
12	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
13	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
14	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
15	ケースバイケースで担当教員の指示に従うこと	事前学習・調査（９０分）	
16	講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	事前学習・調査（９０分）	

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	総合的な学習の時間の指導法 （科目ナンバリング：ESS143162，ESS243110，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するための指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

総合的な学習の時間の意義や目標等をはじめ、指導計画の作成や指導と評価の考え方、実践上の留意点について理解できる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業進行上、シラバスに記載したテーマが前後することがあるが、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○教科書購入は単位認定の条件とする。教科書は授業で直接取り扱わない部分も含め本科目の学修として各自で読破すること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○部活動の対外試合、法定伝染病、法事等についての欠席で、客観的に証明することが可能な所定の手続きを行ったものについてのみ補講の対象とする。緊急性のない通院は補講の対象とはしない。
○成績評価は、定期試験（６０%）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０%）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述することができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	総合的な学習の時間の指導法 （科目ナンバリング：ESS143162，ESS243110，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815900	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』	文部科学省	学校図書	2018	9784762505362	
2	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815795	
3	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	学習指導要領の変遷並びに総合的な学習の時間の創設及び改訂の趣旨について シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	総合的な学習の時間の意義について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	総合的な時間の目標について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	各学校において定める目標及び内容について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱いについての配慮事項について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	総合的な学習の時間の全体計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	総合的な学習の時間の単元計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	探究的な学習の指導上の留意点について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	総合的な学習の時間の評価について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	総合的な学習の時間を充実させるための校内組織体制の整備について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	総合的な学習の時間を充実させるための環境整備及び外部との連携について 授業改善アンケートの実施 課題・発表のフィードバック 講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	７０分の試験，２０分の解説	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（A） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　横山　哲也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学生が高等学校において職業教育を指導する立場の時，職業についての基礎知識・技能を重んじ，個性に応じた進路を選択させる能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

職業についての基礎知識・技能を重んじ，個性に応じた進路を選択させる能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

職業の考え方，職業と社会，個人と職業，職業の選択，職業を生きる，進路指導，職業適性及び検査等について理解し，その指導法を学ぶ。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。また、課題の提出後講義中に解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
個性に応じた進路指導方法の修得	個性に応じた進路指導方法について完璧に理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解した。	個性に応じた進路指導方法についてほぼ理解した。	個性に応じた進路指導方法について大体理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解しなかった。
職業の考え方や選び方についての理解	講義の内容から職業の考え方や選び方について完璧に理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方についてほぼ理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について大体理解した。	職業の考え方や選び方について理解しなかった。
職業適性や検査法の理解	講義の内容から職業適性や検査法について完璧に理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について理解した。	講義の内容から職業適性や検査法についてほぼ理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について大体理解した。	職業適性や検査法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（A） （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　横山　哲也　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	職業の意味１（労働分担の原理）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	職業の意味２（欲求の層構造）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	職業と社会	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	個人と職業	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	職業選択１（自己と職業のかかわり）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	職業選択２（レディネス）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	自己理解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	職業適性の概念	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	職業適性検査について	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	職業適性検査の実施１（筆記）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	職業適性検査の実施２（器具）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	職業適性検査の採点・評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	進路指導に関する活動１（位置づけ）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	進路指導に関する活動２（組織）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習（90分）	総理解（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：SWS123223，HLS322051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

インテリアデザインは，建築の専門科目のなかでも学びの対象が実生活に近いものである。したがて履修学生は，インテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること，また人間の生活行動やそれぞれの機能，人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解すること，そして実践に結び付けていくことができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

一にセンスアップ，二にセンスアップ，三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要

インテリアの実作や現物に触れることによって，インテリアデザインの現状を把握する。また，インテリア空間の計画に必要な知識となる事項についてPPを用いて解説をおこなう。

授業の方法

前半は，講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート（演習1）をとり授業終了後提出，演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出する。後半は，インテリア関係メーカーのショールームの見学（フィールドワーク）を行い，商品や実作に触れインテリアデザインの実態を経験し，そこから得た知見をレポートとしてまとめる。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席して，講義を聴かなければ意味がない。旅行，外出の際は，スケール・カメラまたはクロッキーブックを所持し，参考になるものを記録するという姿勢が大事である。ショールームなどの視察と調査後は，各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，授業内で行う演習の評価点（平常点）と見学会レポート（レポート）が単位認定（成績評価）の過半を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	４０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることから優れたデザインからセンスを磨く。	レポートがすべて提出され見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおかた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に不参加またはレポートが提出できなかった。
インテリアデザインに関する知識を豊富に修得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため，知識を修得したことが確認することができなかった。
人間の生活行動やそれぞれの機能，人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：SWS123223，HLS322051　　）				
授業担当者 （所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認（90分）	授業内容の確認（90分）
2	人間工学　家具への応用	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
3	人間工学　行動・動作	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
4	光と色	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
5	内装材・塗装	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
6	構法と納まり	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
7	家具デザイン	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
8	建具・金物	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習（教科書確認）（90分）	模型作成（90分）
10	見学会１　家具メーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
11	見学会２　テキスタイルメーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
12	見学会３　住宅総合メーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
13	見学会４　家具卸会社　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
14	見学会５　住宅設備メーカー　工場	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
15	模型課題　提出・発表	発表準備（90分）	発表内容の振返り（90分）
16	総評（提出課題・レポートの確認と講評），授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻IV （科目ナンバリング：AEA223071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科･准教授）		研究室等所在	アトリエ棟彫刻室	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（課題Ⅰ）では形として目で見ることはできないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。
（課題Ⅱ）では西洋・東洋・日本の美術史を参考に、自身と関連のある作家を調べ、その類似点と相違点を考えながら制作を行い、今後の制作活動に役立てる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

美術史に残る作品から受けている影響と、自身の持つ感覚的な特徴を理解している。また、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。

授業全体の内容と概要

（課題Ⅰ）では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ（粘土を素焼きにしたもの）として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。
（課題Ⅱ）では美術史を参考に、自身と関連のある作家を調べ、その類似点と相違点を考えながら制作を行い、今後の制作活動に役立てる（素材は粘土、金属、ミクストメディア、ファウンドオブジェ等）。

授業の方法

（課題Ⅰ）抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。
（課題Ⅱ）自身の表現のルーツにある感覚、影響を受けた作品を調べて発表をし、意見を述べ合う。その上で、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってからは、作業に適した服装で受講すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関して的確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品にある程度反映させることができている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅳ （科目ナンバリング：AEA223071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科･准教授）		研究室等所在	アトリエ棟彫刻室	
単位数	2	（単位認定責任者：　梅田　力　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明　科目を修了して『身に付く力』についての説明 シラバスの説明 （課題Ⅰ）についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
2	（課題Ⅰ）についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞②。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
7	粘土にて制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
8	粘土にて制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
9	粘土にて制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
10	粘土にて制作④。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
11	粘土にて制作⑤。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
12	粘土にて制作⑥。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
13	粘土作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点①。	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（４５分）
14	粘土作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点②。	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（４５分）
15	（課題Ⅱ）についてのオリエンテーション。美術史を引用した作品についてパワーポイントにて解説①。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
16	（課題Ⅱ）についてのオリエンテーション。美術史を引用した作品についてパワーポイントにて解説②。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
18	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
21	各自が使う素材の収集①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
22	各自が使う素材の収集②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
23	実制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
24	実制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
25	実制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
26	実制作④。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
27	実制作⑤。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
28	実制作⑥。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
29	実制作⑦。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
30	実制作⑧。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
31	作品の完成･プレゼンテーションへのフィードバック及び採点①。	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（４５分）
32	作品の完成･プレゼンテーションへのフィードバック及び採点②。 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身につく力の検証	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ II （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　阿部 裕樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本講義では、アントレプレナーシップにおけるイノベーションの重要性を理解し、実践的な視点を養うことを目指します。具体的には、①イノベーションの概念とその役割を学ぶ、②市場や技術の変化を捉え、新たなビジネス機会を創出する思考力を養う、③成功事例や失敗事例を分析し、実践に活かせる知識を習得することを目的とします。これにより、受講者は変化の激しい社会において、自ら課題を発見し、価値を生み出す力を身につけることができます。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

イノベーションの本質について理解し、将来、自らイノベーションを起こすことで、社会に価値を提供できるような考え方、発想を持てるようにする。選ばれた天才のみが発明できるのではなく、身近なレベルでもイノベーションを起こすことが可能であることを理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは単に技術的な発明だけでなく、既に存在するものを組み合わせて新しい価値を創出することも可能である。古典的な理論から始まり、主流となった破壊的イノベーション、そして最新のオープンイノベーション等の概念について体系的に学習することで、イノベーションの多様な在り方について理解する。また、イノベーションを起こす際のマネジメント理論についても習得する。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し，資料にて説明をして基礎理論を習得したあと，事例を動画で視聴することで，より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと，考えたことを改めて認識する機会とし，気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは，ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し，試験と合わせて最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグルーバルの視点から説明することができた	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの意味について説明することができた	イノベーションの意味について理解していた	イノベーションの意味について全く理解していなかった
イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの理論について説明することができた	イノベーションの理論について理解していた	イノベーションの理論について全く理解していなかった
イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業像を具体的にイメージすることができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ Ⅱ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　阿部 裕樹　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	イノベーションとは何か？	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	DX（デジタル・トランスフォーメーション）概論	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	シュンペーターの新結合	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	ドラッカーの「７つの機会」	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	知識創造理論（SECIモデル）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	破壊的イノベーション（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	破壊的イノベーション（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	オープンイノベーション	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	イノベーション実現のための戦略（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	イノベーション実現のための戦略（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	イノベーションを起こすマネジメント（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	イノベーションを起こすマネジメント（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（ﾃｷｽﾀｲﾙ） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

テキスタイルデザインの知識を深め、スクリーンプリント技法の特徴を理解し、技法を活かした作品を制作する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

テキスタイルデザインの特徴を理解し説明できる。
スクリーンプリント技法の基本工程を理解し実施できる。
自身のテーマに基づくデザインを計画し作品として表現できる。
講評を踏まえて表現を改善できる。

授業全体の内容と概要

スクリーンプリント技法の特徴を理解し、目的に基づくデザイン計画を立てて制作する。
完成作品は展示・発表を行い講評でフィードバックを受ける。
素材選択・制作工程を通してSDGs12「つくる責任つかう責任」への理解も深める。

授業の方法

板書・スライド・資料配布・実演を併用し、スクリーンプリント技法を実習する。
調査・ラフ・計画・制作・発表のプロセスを通して学ぶ。
完成作品は講評にてフィードバックする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作工程が連続するため遅刻・欠席は制作の進行に支障をきたす。
必要な道具と生地は各自で準備し、作業説明開始時刻に必ず出席すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は２２回以上。
自分の作業日は欠席しないこと。
欠席する場合は事前に連絡すること。
作品を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	調べた内容を自分の言葉で深く説明でき、作品にも生かせている。	テキスタイルの特徴をしっかりと説明できる。	基本的な特徴を説明でき、作品に少し生かせている。	テキスタイルについての説明ができる。	説明ができない。
技法の扱い	技法をとても上手に扱い、仕上げも丁寧で高い完成度になっている。	技法を正しく扱い、作品としてしっかり仕上げられた。	技法をだいたい理解して扱うことができた。	指示を受けながら技法を使って作品を作ることができた。	技法を使って作品を作ることができなかった。
作品とづくり改善	テーマがよく伝わる作品を作り、講評のアドバイス以上の工夫ができた。	テーマに合った作品を作り、講評のアドバイスをしっかり反映できた。	テーマに沿って作品を作り、言われた改善を取り入れられた。	作品を作り、改善点を理解できた。	作品が作れない、または改善ができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（ﾃｷｽﾀｲﾙ） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・「身に付く力」について テキスタイルデザインとはなにか	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	スクリーンプリント技法について テキスタイル作品の調査	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	目的を設定する	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	作業計画を立てる	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	ラフデザイン①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	ラフデザイン②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	素材研究①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	素材研究②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	技法研究①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	技法研究②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	デザイン決定①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	デザイン決定②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	原画作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	原画作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	版下作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	版下作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	版下作成③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	版下作成④	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	製版①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	製版②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
21	刷り①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	刷り②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	落版①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	落版②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	作品加工①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	作品加工②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	展示準備①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	展示準備②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	展示・発表（講評でフィードバック）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（金工） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

金属の加工技法を活かして、美しい作品を制作する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

金属の加工技法を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

工芸実習Ⅳ（金属）では、銅板（または真鍮板）を使って指輪制作（ろう付け技法）と、銅板レリーフ（打ち出し技法）、及び鉄の加工技法（溶接・溶断）を使ったオブジェ制作の３課題を通じて、実践的に金属の表現力を磨く。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（７０%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０%）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金属表現の基本的な特性の理解（知識・理解）	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の特性を活用した作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法が理解できず、作品が制作できなかった。
技術を応用したデザインの能力（思考力・表現力・判断力等）	習得した技術を生かした独自性のある美しいデザインをする事が出来た。	習得した技術を生かした独自性のあるデザインをする事が出来た。	習得した技術を使って自分なりにデザインをする事が出来た。	習得した技術を使ってデザインをする事が出来た。	習得した技術を使ってデザインをする事が出来なかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（金工） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（４５分）
2	金属工芸について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
3	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
4	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
5	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
6	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
7	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
8	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
9	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
10	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
11	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
12	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
13	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
14	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
15	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
16	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
18	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
19	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
20	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
21	オブジェ制作（鉄） ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
22	オブジェ制作（鉄） ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
23	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
24	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
25	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
26	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
27	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
28	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
29	オブジェ制作（鉄） 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
30	オブジェ制作（鉄） 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
32	講評 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（染色） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　中島　義博　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

孔版の２技法、スクリーンプリントと合羽摺り（ステンシル）を利用して、染色パネルを制作する。隣接する技法の組み合わせによって、生ずる効果を知り、合わせて染料と顔料の違いを学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。
版と型、スキージと刷毛の使用法と効果の違いを知る。２つの技法を習得し、制作ができる。
用具、用材の実践的知識を身につけ正しく使用できる。

授業全体の内容と概要

異なる技法と道具の組み合わせに挑戦する。版を使ってプリントし、その上から型を通して刷毛染め施して完成する。

授業の方法

視聴覚メディアと板書，作例によって効果と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとにオリジナル作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

工具類、染料の使用に対応した服装の用意。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席と課題作品の完成，提出を求める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
孔版とは何かを知る。	孔版とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	孔版とは何かを詳しく知っていた。	孔版とは何かを知っていた。	孔版とは何か、最低限のことを知っていた。	孔版とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
顔料と道具を正しく使用できる。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できた。	顔料と道具をある程度正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（染色） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　中島　義博　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
2	課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
3	実作業による作例	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
4	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
5	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
6	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
7	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
8	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
9	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
10	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
11	版下修正	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
12	製版準備	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
13	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
14	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
15	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
16	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
18	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
19	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
20	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
21	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
22	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
23	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
24	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
25	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
26	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
27	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
28	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
29	パネル製作	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
30	パネル貼り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
31	作品発表、講評、改善点のフィードバック	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身についた力についての検証	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（版表現） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	鳴海　伸一（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階版画教室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鳴海　伸一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員／版画学会会員		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室・アトリエ棟で対応。				

概要

履修目標

本講義では基本版種となる凹凸孔平、各版の知識と理解を深め、デザインの発想やイラストなどの表現の幅を広げ、自己の才能と可能性を探求・追求する事を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

版の知識と技術を深め、自身で正確で安全な制作が可能な実力を養う。
また、その版表現によって個性のある作品成果を目標とする。

授業全体の内容と概要

本講義では主要４版種の中から、「銅版画」と「リトグラフ」の小作品を制作する。美術家やイラストレーター、クリエイター、メディアアーティストを目指す方々の印刷技術の理解にも有意義な実技である。
作品づくりをとおして制作の喜びと楽しさ、難しさを実体験する。

授業の方法

「描画」ー「製版」ー「刷り」と作業を進める。油性描画材、腐蝕液、溶剤、油性インクなど版画ならではの専用画材を扱い、プレス機を用いて各版種ひとり1作品を制作する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作の特性上、汚れてもよい服装や保護具を着用のこと。
制作過程で乾燥・化学反応などの待機時間や日数を要し、設備の台数制限から作業の順番待ちが発生します。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	70%	０％	０％	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
版の原理と制作工程を理解しようとしている。	知識と技術が伴って安全かつ正確な制作ができている。他版種にも関心を寄せ、作品発表につなげている。	知識だけではなく、実技としてほぼ正しい制作工程が可能である。	助言をもとに、制作工程を理解し、製版と向き合っている。	凹凸孔平の基本版種の原理を図として理解できている。	版表現に興味がもてず、原理を理解しようとしていない。 版が完成していない。
扱っている道具、材料の特性を理解しようとしている。	道具、材料を応用的に用いることが出来、経済的な制作とメンテナンスができる。	授業内容に準じた内容で道具と材料を自身で的確に扱い使用することができている。	材料の特性を理解し、助言をもとに効率的な制作ができる。	授業内容に沿った内容で道具、材料の特性を理解し、助言をもとに制作ができる。	自身が扱っている道具や材料に関心をよせていない。道具を大切に扱えていない。
安全で正確な制作工程を理解している。	教室の安全維持、環境維持に積極的に取り組んでいる。	換気、環境、設備の理解と保護具の着用など安全に配慮した制作ができる。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	無頓着で雑な制作を行い、工程を把握しようとしていない。
作品の仕上リに成果が反映されている。	授業外の技法にも挑戦し、研究的な手法を身につけている。楽しんで制作ができている。	授業内の技法を理解し、画面の中に効果的に表現されている。	画題、サインなどが明記され、版表現の魅力を感じ取っている。	本刷りがされ、裁断も行われシート作品として完成している。	本刷りがされていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（版表現） （科目ナンバリング：AEA223075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	鳴海　伸一（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階版画教室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　鳴海　伸一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員／版画学会会員		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室・アトリエ棟で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明とガイダンス／版画について 授業改善アンケート結果反映の説明 科目終了後に「身に付く力」についての説明	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
2	シラバスの説明とガイダンス／版表現の魅力と能性	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
3	凹版画制作①／エッチング－下絵制作－	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）
4	凹版画制作①／エッチング－下絵制作－	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）
5	凹版画制作②／エッチング－下絵と転写－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
6	凹版画制作②／エッチング－下絵と転写－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
7	凹版画制作③／エッチング－腐蝕製版－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
8	凹版画制作③／エッチング－腐蝕製版－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
9	凹版画制作④／エッチング－腐蝕製版と刷り－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
10	凹版画制作④／エッチング－腐蝕製版と刷り－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
11	凹版画制作⑤／エッチング－刷り－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
12	凹版画制作⑤／エッチング－刷り－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
13	凹版画制作⑥／エッチング－刷りとアクアチント－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
14	凹版画制作⑥／エッチング－刷りとアクアチント－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
15	凹版画制作⑦／エッチング－仕上げと著名－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
16	凹版画制作⑦／エッチング－仕上げと著名－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	平版画制作①／リトグラフ－下絵制作－	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）
18	平版画制作①／リトグラフ－下絵制作－	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）
19	平版画制作②／リトグラフ－転写と描画－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
20	平版画制作②／リトグラフ－転写と描画－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
21	平版画制作③／リトグラフ－第１製版－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
22	平版画制作③／リトグラフ－第１製版－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
23	平版画制作④／リトグラフ－第２製版－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
24	平版画制作④／リトグラフ－第２製版－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
25	平版画制作⑤／リトグラフ－刷り－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
26	平版画制作⑤／リトグラフ－刷り－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
27	平版画制作⑥／リトグラフ－刷りと裁断－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
28	平版画制作⑥／リトグラフ－刷りと裁断－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
29	平版画制作⑦／リトグラフ－仕上げと著名－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
30	平版画制作⑦／リトグラフ－仕上げと著名－	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
31	まとめ／鑑賞と講評 授業改善アンケートの実施	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
32	まとめ／鑑賞と講評 授業内容のフィードバック 科目終了後に「身に付く力」についての検証	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅱ （科目ナンバリング：CHS123090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の新信書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児（３歳未満児）期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り，乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

３歳未満児の心身諸機能の発達など，乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

３歳未満児の保育について，心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・演習を中心とした授業を行っていく中で，実際の保育現場の事例をあげ，子どもや保護者，保育者の様子をイメージしながら，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。
「乳児保育Ⅰ」を履修した後に受講すること（教科書は引き続き使用する）。
遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅱ （科目ナンバリング：CHS123090　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の新信書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	２０１９	9784810314731	乳児保育Ⅰで使用する教科書と同じです
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） オリエンテーション　子どもと保育士等との関係の重要性 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
4	子どもの体験と学びの芽生え	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
5	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
7	３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
8	３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
9	子ども同士の関わりとその援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
11	集団での生活における配慮	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
12	環境の変化や移行に対する配慮	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
14	個別的な指導計画と集団の指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
15	計画実践発表とまとめ・レポート	教科書を読み、学修しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
16	レポートに関する解説のフィードバック（「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく。（４５分）	解説を受け、講義全体をふりかえること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅱ （科目ナンバリング：APT323061　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士二次試験（製図試験）」における技量の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを向上させていく。

授業の方法

実際に一級建築士二次試験（製図試験）で使用するA２サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題は与えられた期限内にすべて提出することを前提条件として、定期試験にて成績評価を行う。
平行定規盤および製図道具は各履修者が用意して毎回持参すること。
配布したテキストおよびプリントは毎回持参すること。
この講座の履修は、建築プロファッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数22回以上。
課題はすべて期限内に提出していること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	０%	20%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験（製図試験）の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅱ （科目ナンバリング：APT323061　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。　授業の進め方について説明。 テキスト・課題１の配布。 科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1～記述・製図のトレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題1～課題提出 課題1～課題文の説明	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	３時間以内の解法図法の映像視聴	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	一級製図作図のポイントの映像視聴	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	課題1～添削指導 課題2～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	課題2～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	課題2～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	課題文の読み取り方の映像視聴	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	課題2～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	課題2～課題提出 課題3～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	課題2～添削指導 課題3～記述・製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題3～課題提出 課題4～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
18	課題4～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
19	課題3～添削指導 課題4～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
20	課題3～添削指導 課題4～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
21	課題4～記述・製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
22	課題4～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
23	課題4～課題提出 課題5～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
24	課題5～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
25	課題4～添削指導 課題5～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
26	課題4～添削指導 課題5～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
27	課題5～課題提出 課題6～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
28	課題6～記述・製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
29	課題6～課題提出 課題7～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
30	課題7～プラン作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
31	定期試験（一級建築士製図試験に準ずる）	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
32	定期試験（一級建築士製図試験に準ずる） 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	作図準備をする(90分)	授業の復習(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅱ （科目ナンバリング：CHS123085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　小黒　万里子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	全日本合唱コンクール全国大会のピアノ伴奏者等としての経験を活かし，実践を交えた指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

保育士として弾き歌い，伴奏付，ピアノ奏法等「音楽表現Ⅰ」の学習を更に深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術を実践的に習得することができる。

授業全体の内容と概要

個人のレベルを重視して，現場で役立つ力を身につけられるようピアノ、歌、弾き歌い、手遊び等の実技をレッスンする。「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

ピアノ，歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い，実技課題の学習確認と合わせてレッスンする。教科書や板書を用いて説明し、実技を通した実践形式で行う。質問や相談等は随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ピアノ，歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い，実技課題の学習確認と合わせて採点する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	３０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することができた。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することができた。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅱ （科目ナンバリング：CHS123085　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　小黒　万里子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	全日本合唱コンクール全国大会のピアノ伴奏者等としての経験を活かし，実践を交えた指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 長音階の構成と運指	シラバスを確認すること（４５分）	教科書を読んでおくこと（４５分）
2	メジャーコード	メジャーコードを調べる（４５分）	視唱力を充実させる（４５分）
3	初見視唱力をより充実させる	メジャーコードを調べる（４５分）	視唱力を充実させる（４５分）
4	短音階の構成と運指	表現方法をイメージする（４５分）	曲と表現を研究する（４５分）
5	個々に応じた曲を与え、よい表現をめざす	表現方法をイメージする（４５分）	曲と表現を研究する（４５分）
6	マイナーコード	マイナーコードを調べる（４５分）	視唱力を高めること（４５分）
7	マイナーコードとマイナーセブンスコード	マイナーセブンスコードを理解すること（４５分）	アンサンブルの練習（４５分）
8	前時の学習を深める	和音を調べること（４５分）	和音アレンジについて調べること（４５分）
9	片手練習からアレンジ	民謡や子守歌を調べておく（４５分）	民謡や子守歌を調べておく（４５分）
10	各国の民謡、子守歌を歌う	民謡や子守歌を調べておく（４５分）	民謡や子守歌を調べておく（４５分）
11	両手練習（メロディーと伴奏）	伊独の歌曲を聞いておく（４５分）	伊独の歌曲を聞いておく（４５分）
12	伴奏付けと簡単なアレンジの基本	アレンジの基本を理解しておくこと（４５分）	日本の歌曲の詩を理解する（４５分）
13	各拍子の理解と実践	各拍子を調べておくこと（４５分）	初見視唱ができるように工夫すること（４５分）
14	初見視唱で、いろいろな子供の歌	各拍子を調べておくこと（４５分）	初見視唱ができるように工夫すること（４５分）
15	弾き歌いのレパートリーを増やす	弾き歌いできる曲を練習しておくこと（４５分）	弾き歌いによる表現力を高めること（４５分）
16	定期試験（実技）を実施後、フィードバックを行う。 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	実技試験の準備をしておくこと（４５分）	解説・フィードバックを受けて講義全体をふりかえること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅱ （科目ナンバリング：FAH221081　　）				
授業担当者 （所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

様式の変遷、モティーフの意味、技法や風土と表現の関係などさまざまな角度から東洋日本美術にアプローチすることにより、その特質や魅力を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．様式、モティーフ、技法、風土性など美術に向き合うさまざまな視点があることを理解する。
２．東洋日本美術の特質や魅力を把握する。
３．初めて目にする作品に対しても自らさまざまな視点を立ててアプローチすることができる。

授業全体の内容と概要

さまざまな視点やテーマから東洋日本美術の特質や魅力にアプローチする。

授業の方法

受講生は各回の授業で扱う代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各テーマの美術について講義する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

東洋・日本美術史Ⅰを履修していなくても受講に差し支えない（東洋・日本美術史Ⅱのみの受講も可）。
毎回の作品コメントと受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。
各回授業の冒頭で、その時間に取り上げる代表作品に関する感想を一人ずつ発表してもらうので遅刻しないこと。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程　高・美術　必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしてこないことが何度かあった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	不十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅱ （科目ナンバリング：FAH221081　　）				
授業担当者 （所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本美術史』	山下裕二・髙岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『入門　日本美術史』	山本陽子	筑摩書房	2024	978-4480076533	
4	『日本美術史ハンドブック』	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 釈迦の生涯と仏教の主題	シラバスを読む。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
2	「仏涅槃図」と「阿弥陀聖衆来迎図」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
3	あの世を描く―地獄と極楽	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
4	庶民のほとけ―観音、地蔵、不動明王	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
5	信仰の造形―仏像彫刻	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
6	ひとを描く―肖像画	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
7	形式と表現―絵巻	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
8	形式と表現―屏風絵	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
9	絵を読む―「洛中洛外図屏風」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
10	絵は語る―「湯女図」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
11	技法と表現―木版画	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
12	葛飾北斎と「冨嶽三十六景」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
13	描かれた動物たち	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
14	伊藤若冲と「動植綵絵」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
15	描かれたもののけ	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
16	レポートの発表とフィードバック 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 （科目ナンバリング：CHS123076　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

１．保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
２．保育の全体計画の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
３．計画・実践・省察・評価，改善の過程についてその全体構造を動態的にとらえ，理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP5に対応する。

到達目標

保育の計画と評価の基本，保育所における保育の計画，保育の計画の作成と展開，保育所における保育の評価について理解し、保育の内容を具体的に説明する。

授業全体の内容と概要

保育の計画と評価の基本，保育所における保育の計画，保育の計画の作成と展開，保育所における保育の評価など保育の内容について学修する。保育の計画と作成では、思考・考察、他者との意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。
授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れ、質疑応答の時間を設定する。
提出された課題・作品はコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能も活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は、授業時間に説明する。
遅刻した場合、入室は可能だが２０分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	３０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育計画の知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の計画について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の計画について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解することができなかった。
計画を立案するための思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の内容を踏まえた計画作成について十分に考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成についておおむねに考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について多少考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育の計画作成と評価について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことをおおむね説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを多少説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 （科目ナンバリング：CHS123076　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画第2版』	神永直美	萌文書林	２０１８	9784893472397	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	２０１７	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育の計画と評価の基本（１）カリキュラムの基礎理論	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育の計画と評価の基本（２）保育所における保育の計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	保育の計画と評価の基本（３）保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育の計画と評価の基本（４）計画，実践，省察・評価，改善の過程の循環による保育の質の向上	保育計画の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	保育所における保育の計画（１）保育所保育指針と幼稚園教育要領	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す１回目の課題を作成する（９０分）。
7	保育所における保育の計画（２）保育の全体的な計画と指導計画	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	保育所における保育の計画（３）全体的な計画の編成	発達心理等発達過程を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す２回目の課題を作成する（９０分）。
9	保育所における保育の計画（４）指導計画（長期的・短期的）の作成と作成上の留意事項	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	育の計画の作成と展開（１）保育の全体的な計画の編成と展開	計画作成の方法をよく読んでおく（９０分）。	授業終了時に示す３回目の課題を作成する（９０分）。
11	保育の計画の作成と展開（２）指導計画の実際の作成と展開	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する９０分）。
12	保育所における保育の評価（１）保育の省察及び記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
13	保育所における保育の評価（２）保育士及び保育所の自己評価	教科書の評価頁を事前に読んでおく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	保育所における保育の評価（３）保育の計画の再編成	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す４回目の課題を作成する（９０分）。
15	保育所における保育の評価（４）生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	保育の計画で学んだ事を整理しておく（９０分）	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	定期試験６０分。試験終了後に解説を行い、提出された課題の総合評価をフィードバックする（「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(９０分)	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 （科目ナンバリング：SOM123091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮崎　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮崎　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践および看護教育の実務経験から子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境つくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

保育における保健の観点から保育環境や支援のあり方について学ぶ。
子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策を学び、体制つくり、活動計画・評価等の一連について理解を深める。また、子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。
子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。
子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。

授業全体の内容と概要

子ども保健の基本的な考え方を理解し、子どもの健康と安全な生活のための支援方法を学ぶ。
子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策、体制つくりの活動計画・評価の一連等の理解を深めるとともに、心身の状態や発達に即した適切な対応についての保健活動を具体的に学習する。

授業の方法

講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。
テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（2回）を行う。その都度、コメントを返す。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するので講義に持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	４０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもを取り巻く社会状況の把握と衛生・安全管理	体験した安全管理の活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて活発に討議し非常によい発表ができた。	体験した安全管理のための活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて概ね討議・発表できた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況について部分的に討議・発表できた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況を助言により討議・発表できた。	助言しても討議・発表ができなかった。
子どもの健康状態の把握	子どもの健康状態の把握の方法を詳しく調べ、正しく計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、概ね計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、部分的に計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法について、助言により計測できた。	助言しても計測できなかった。
子どもの体調や心身の状態把握の方法	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について詳しく説明できた。	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について概ね説明できた。	子どもの発達と、体調や心身の状態把握、その対応方法について部分的に説明できた。	子どもの体調や心身の状態把握、その対応について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 （科目ナンバリング：SOM123091　　）				
授業担当者 （所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践および看護教育の実務経験から子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境つくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『子どもの健康と安全　改訂第２版』	大西文子	中山書店	2022	978-4-521-74977-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもを取り巻く社会状況と子ども保健 科目を修了して〝身に付く力〟についての説明	履修を終えている「子どもの保健」の概要を理解しておく（９０分）	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく（９０分）
2	事故防止及び健康安全管理１ 保育環境と衛生・安全対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する（９０分）
3	事故防止及び健康安全管理２ 子どもの事故、危機回避と体つくり	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（９０分）
4	子どもの健康に関する適切な対応１ 保健的対応・対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをノートにまとめ、出された課題を調べておく（９０分）
5	子どもの健康に関する適切な対応２ 健康状態の把握　計測・測定	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（９０分）
6	子どもの健康に関する適切な対応３ 病児の状態把握の方法と対応	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する（９０分）
7	子どもの健康・安全にかかわる実施体制	指定した参考図書・配布資料を読んでおく９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（９０分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括する 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	子どもの保健の課題に今後も取り組んでいく（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA223047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインやアートのコンテンツとして映像を捉え、その基本的な撮影・編集技術を学び、制作工程に携わることで、その表現の可能性を知ることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

映像制作の過程を通じて，作品の完成度を高めるために必要な要素は何か？　に気付かせ，それを実践できる。
映像メディアの必要性，映像ならではの表現を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像表現Ⅰの内容を踏まえ、映像の制作工程とチームワークについて学ぶ。同時に、映像制作のアプリケーションとしてAfterEffectsの操作講習を行い、履修者全員に必要最低限の技術を身に付けさせる。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

映像表現Ⅰで用いたPowerPointと提出されたストーリーボードを用いて、知識の再確認を行う。
その後に実技として、作品制作のためのグループを編成し、役割分担を行い、映像制作の工程に沿ったスケジュールを作成し作品の制作を進行する。
毎週、グループ毎に進行確認のミーティングやディスカッションを行い、その報告はメールにて提出する。
ロケハンやロケのための現地調査・取材は時間外でも良しとする。
これと並行して、前半の５週を目途にAfterEffectsの操作講習を行う。
質問には随時対応し、技術的な指導も適時行う。
制作完了後は上映会にてプレゼンテーションし、意見交換を行わせた後に全体講評を行う。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

映像制作の実技になるので、全授業を通じてチームワークとなる。もちろん、完成作品についての評価はチーム毎になるので、役割分担の際には公平な仕事量を心掛けることが重要。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「映像の撮影・編集に関する基本的な技術を身につけている」	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が十分に修得できており、制作時に効果的な応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できており、制作時に応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術は修得できているが、制作時に応用するまでには至らなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が不完全であり、制作時に用いることができなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力「映像作品制作において、グループ内の役割について、その必然性を理解し、自らに与えられた役割を果たすことができる」	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を運用することができた。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を運用するよう努力した。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解していたが、知識と技術の運用は十分ではなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解できず、知識と技術の運用ができなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を果たすことができず、、携わることができなかった。
主体性・多様性・協働性「グループ制作作業における全工程を把握し、その中での与えられた工程に取り組む際に他の学生と積極的に意見交換をしながら、作品の質を高めるよう心掛けることができた」	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルを超えて活動していた。	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルに達していた。	制作グループ内で、与えられた作業には取り組んでいたが、積極性や協働性に於いては求められるレベルには達していなかった。	制作グループ内で、作業への取り組みが消極的であり、協働性については極めて限定的であった。	制作グループ内で、全ての作業に対し取り組みが不十分であり、責任感に乏しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA223047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　北嶋　洋一　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～ 科目を修了して『身に付く力』についての説明 ①「ストーリーメイク　「リアリズム，オボテュニズム，デウス	シラバスを一読しておくこと（４５分）	グループ設定について代表者が取り纏め、次週の授業開始時までに提出（４５分）
2	After Effects　の操作講習①　「入力～出力」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
3	After Effects　の操作講習②　「編集」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
4	After Effects　の操作講習③　「エフェクト」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
5	After Effects　の操作講習④　「試作」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
6	After Effects　の操作講習⑤　「試作」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
7	映像制作（180sec～）①　テーマ　～　コンセプト	グループ内での役割分担と仕事内容について、明確にしておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
8	映像制作（180sec～）②　シナリオ　～　設計	映像表現Ⅰの授業内容を再確認すること（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
9	映像制作（180sec～）③　素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
10	映像制作（180sec～）④　素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
11	映像制作（180sec～）⑤　素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
12	映像制作（180sec～）⑥　編集	設計図の再確認と修正（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
13	映像制作（180sec～）⑦　編集	設計図の再確認と修正（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
14	映像制作（180sec～）⑧　編集	設計図の再確認と修正（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
15	映像制作（180sec～）⑨	微調整や修正のためのミーティングをしておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
16	映像制作（180sec～）発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	プレゼン用のコンセプトシートを纏めておく（４５分）	他のグループへの意見や感想を纏めて、既定の日時までに提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習III （科目ナンバリング：AEN323064　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士一次（学科）試験」に合格できる学力の修得を目標とする。
この講座では、特に一級建築士一次試験５科目のうち、「IV・施工分野」の傾向と対策を行う。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された一級建築士試験の過去問題に対し、出題者の意図を探り，解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

一級建築士学科試験（学科IV・施工分野）に出題される過去問題を毎回、小テストを実施し、その解説書に基づいて、復習を行う。

授業の方法

授業では、配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。なお、事前に小テストの出題範囲を予習してくること。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この一級建築士資格試験対策は，３年次までの専門科目の集大成の総まとめとして、建築業界最高峰の国家資格である「一級建築士試験」に挑戦するものである。
よって、覚悟を以って取り組むこと。
なお、毎回、テキストを必ず持参すること。
この講座の履修は、建築プロファッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。また、定期試験にて成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
契約約款・施工計画の定義を理解	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をすべて正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をほぼ正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習III （科目ナンバリング：AEN323064　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『一級建築士学科IV施工（2026年度版）』	日建学院	(株)建築資料研究社	2025		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果反映の説明 契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テスト 科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	仕上げ工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	仕上げ工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	改修工事・設備工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事・設備工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	複合問題対策の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	複合問題対策の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	定期試験（一級建築士試験に準ずる）	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	定期試験の解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,実技	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を含む。) （科目ナンバリング：SPS522062　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）・守屋　俊甫(経営学科・特任講師)	研究室等所在	２号館７階（天野）・守屋（未定）		
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	数年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

身体運動におけるメカニズムについての理論的学習に加え、スポーツ活動の実践を通して、グループワーキングなどにより、主体的に指導方法を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

学校の体育やスポーツ指導現場で必要な運動の見方や考え方を学び、その質的評価ができる。

授業全体の内容と概要

前半は、人体の解剖学的な学びに加え、力・重心・モーメントなどの運動力学的な基礎知識を学ぶ。後半は、具体的な運動をテーマに実践やグループワーキングを通して方法学を学ぶ。

授業の方法

基本的には教室において、板書またはパワーポイントで理論的学習を行うが、授業の後半は、運動場において、実践的な活動の中で運動方法を学ぶ。さらに、理解を深めるためにグループワークやビデオ視聴もする。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	３０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動における解剖学的、生理学的な基礎知識の理解	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換,血液についての生理学的知識が専門的なレベルで得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が比較的多く得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識はおおよそ得られた。	人体の筋、骨格の基礎的知識や基礎的な生理的機能が理解できた。	人体の筋、骨格の基礎的知識がほとんど無い。生理学的基礎知識もほとんど得られなかった。
スポーツバイオメカニクスに関する知識と理解	身体運動の力学的な知識はとても豊かで運動の分析も多種できた。	身体運動の力学的な知識は比較的豊かで分析もおおよそできた。	身体運動の力学的な基礎的知識が備わり応用もできた。	身体運動の力学的な基礎的知識はあるが応用までには至らなかった。	身体運動の力学的な知識がほとんど理解できなかった。
バイオメカニクス的原則に則った運動の実践と指導法の理解	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解もとても深い。	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解も比較的できた。	理論に則った考えでき、運動はおおよそ実践でき、指導のポイントも理解できた。	理論に則った考えでの運動はあまりできないが、指導のポイントは理解できた。	理論に則った考えでの運動が実践や指導のポイントも理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義,実技	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を含む。) (科目ナンバリング：SPS522062　　)				
授業担当者 (所属・職名)	天野　雅斗（経営学科・准教授）・守屋　俊甫(経営学科・特任講師)	研究室等所在	２号館７階（天野）・守屋（未定）		
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	数年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公宥	杏林書院	２０１７	978-4-7644-1079-4c3047	
2	『スポーツバイオメカニクス２０講』	阿江通良	朝倉書院	２０１７	978-4-254-69040c3075	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明 運動学とは （担当：米野）	事前にシラバスを読んで確認する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
2	人体の構造（骨格・骨格筋） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
3	バイオメカニクスの基礎（エンジンとしての筋） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
4	バイオメカニクスの基礎（エネルギー供給） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
5	バイオメカニクスの基礎（運動の指令と調節） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
6	バイオメカニクスの基礎（運動の力学と法則） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
7	バイオメカニクスの実際（立つ） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
8	バイオメカニクスの実際（歩く） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
9	バイオメカニクスの実際（走る） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
10	バイオメカニクスの実際（跳ぶ①） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
11	バイオメカニクスの実際（跳ぶ②） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
12	バイオメカニクスの実際（投げる） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
13	バイオメカニクスの実際（打つ） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
14	バイオメカニクスの実際（蹴る） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
15	バイオメカニクスの実際（その他の運動） （担当：天野、守屋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施 （担当：米野）	ノートに記載されたすべての内容を再度復習する（９０分）	課題の内容を確認し、準備する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅱ(人間関係) （科目ナンバリング：CHS122079　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、保育実践の内容を理解することである。そのための具体的内容は、保育者の専門性である、①養護と教育にかかわる保育の内容を展開するための知識、技術、判断力を修得すること、②保育の内容５領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を総合的にとらえ、人は社会と関わり生活していくための「人間関係」の重要性について、子どもの理解を深めることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を実践することができる。テキスト課題「考えてみよう」を具体的に識別して列挙することができる。

授業全体の内容と概要

授業の概要は、幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題となる。
授業内容の取扱いは、①保育の実践に必要となる知識、理論、②保育現場でおこり得る事例、③事例を考える際の問題点、④事例の対応方法、の４観点から構成される。
「SDGs４．．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

テキストのワークシート「事例　考えてみよう」（６６例）を利用し、ケース学習をすすめる。「保育の現場で実際に起こり得る事例」について、ケース学習（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）、グループワークをおこない、授業展開する。授業では視聴覚教材を利用する。課題レポートのコメントはフィードバックされる機会がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「保育内容演習Ⅱ（人間関係）」は、保育の内容（５領域）から「人間関係」を抽出する科目である。・保育の内容を統合する理解の視点がもとめられる。

・配布資料はファイリングし、授業内容、資料の欠落することのないように留意する。

・授業は学生のみなさんと担当教員による協同学習となるので、主体的に参加、授業貢献する。

・大学交付学生用メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。
・パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進める。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための出席要件は、授業第１回から第８回までに計６回以上の出席が必要になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	３０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、知識・技能を修得する。（知識・技能）	領域（人間関係）について、深く理解ができた。	領域（人間関係）について、おおむね理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識に欠ける部分はあるが、理解することができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識を著しく欠いており、理解することが難しかった。
保育内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、展開することができる。（思考力・判断力・表現力）	領域（人間関係）について、充分に思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、おおむね思考して、表現することができた。	領域（人間関係）について、基本的な思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、思考をして、表現することが難しかった。
保育者として、保育内容の理解に関心と意欲を持ち、積極的、協同的に参加することができる。（関心・意欲・態度）	領域（人間関係）について、保育者の役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割をおおむね理解して、自ら行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割について、基本的な行動をすることができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、自分の役割を考えながら、行動することができた。	領域（人間関係）について、自分の役割を理解して、行動することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅱ(人間関係) （科目ナンバリング：CHS122079　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係　第２版』	寺見陽子	教育情報出版	２０２３	9784909378552	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針解説(2018) 』	厚生労働省	国立国会図書館	２０２３		https://warp.da.ndl.go.jp/info:
2	『学生のレポートに学ぶ保育の本質』	中田基昭・横井紘子	東京大学出版会	２０２５	9784130513708	
3	『保育を支えるネットワーク： 支援と連携　保育学講座5 』	日本保育学会	東京大学出版会	２０１６	9784130522052	
4	『日本の保育の歴史』	汐見稔幸	萌文書林	２０１７	9784893472557	
5	『子どもの経験から振り返る保育プロセス』	秋田喜代美	幼児教育映像制作委員会	２０１０		DVD教材

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 幼児教育の基本・乳幼児期の発達①（心理学的接近と教育学的接近） 授業改善アンケート結果反映と本科目を修了して「身に付く力」を説明する。	シラバスを熟読する。（４５分）	今回の学習内容を復習する。（４５分）
2	幼児教育の基本・乳幼児期の発達②（視聴覚教材の視聴）	テキストⅠ、Ⅱ章と演習課題を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
3	子どもと保育者①（社会学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
4	子どもと保育者②（保育学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト，視聴覚教材を復習する。（４５分）
5	遊びと人間関係・家庭生活と子ども①（社会学的接近と社会心理学的接近）	テキストⅢ、Ⅳ章と演習課題を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
6	遊びと人間関係・家庭生活と子ども②（視聴覚教材の視聴）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
7	幼児教育と課題　まとめ①（エピソード記述法）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
8	幼児教育と課題　まとめ②（保育学） 授業の総括とフィードバック、科目を修了して「身に着く力」について検証、授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（４５分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（４５分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅳ （科目ナンバリング：BSM323065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科　教授）	研究室等所在	2号館６階		
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

将来受験する一級建築士試験（学科Ⅳ構造）に合格するための受験対策を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された一級建築士試験の学科Ⅳ各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

各自単元ごとに小テストを実施し、自己採点した上で、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、必要であれば、次回にその解説・フィードバックを行う。解説は原則的に学生自身が行い、相互に理解を深める。
事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

建築プロフェッショナル専攻の一級建築士特別養成コース学生のみ履修可能。
毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	70%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「力学（つりあい、反力、応力）、断面の性質、座屈、変形」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	理解することができなかった。
「構造設計」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「各種構造」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「地盤・基礎、その他の構造等」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅳ （科目ナンバリング：BSM323065　　）				
授業担当者 （所属・職名）	赤木　良子（建築学科　教授）		研究室等所在	2号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『一級建築士学科Ⅳ構造（2025年度版）』』	日建学院	㈱建築資料研究社	2025		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業ガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明 第1章　力の釣り合い・反力	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
2	第1章　力の釣り合い・反力　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
3	第2章　静定構造物の応力・第3章　断面の性質	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
4	第2章　静定構造物の応力・第3章　断面の性質　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
5	第4章　応力度・座屈・変形・第5章　不静定構造物の応力	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
6	第4章　応力度・座屈・変形・第5章　不静定構造物の応力　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
7	第6章　振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章　構造設計・構造計画	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
8	第6章　振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章　構造設計・構造計画　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
9	第8章　木質構造・第9章　鉄骨構造	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
10	第8章　木質構造・第9章　鉄骨構造　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
11	第10章　鉄筋コンクリート構造・第１１章　鉄骨鉄筋コンクリート構造	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
12	第10章　鉄筋コンクリート構造・第１１章　鉄骨鉄筋コンクリート構造　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
13	第１２章　地盤と基礎構造・第１３章　その他の構造等	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
14	第１２章　地盤と基礎構造・第１３章　その他の構造等　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
15	定期試験／授業改善アンケートの実施	試験範囲全体の復習（45分）	試験内容の確認（45分）
16	定期試験の解説、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝIV （科目ナンバリング：DES223029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２0回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	0％	80%	0％	20%	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ （科目ナンバリング：DES223029　　）				
授業担当者 （所属・職名）	林　春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
3	ブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ マーケット動向や見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 アイデアは反映されているか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン修正 モックアップ作成開始	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング モック作成、効果的な方法考察	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング モック作成、何を表現するか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング モック作成、材料を検討	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング モック作成、考えていたのと造形は合っているか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリング モック作成　完成に近づける	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリング モック作成完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 モックアップ撮影 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト考察	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 表現として効果的か	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評　授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅱ （科目ナンバリング：CHS122087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	札幌市公立小学校の学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。その経験を生かし、保育に携わるものが身につけるべき心構えや、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にし、実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

造形表現Ⅰで習得した技術の向上を目指し、創作的表現活動に取り組む。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP4,DP5に対応する。

到達目標

「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現の知識、技術を習得する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業全体の内容と概要

「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現を学修する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。

授業の方法

授業は口頭、板書、プロジェクター、配布物資料などにより講義形式で行うと共に、課題制作など実技形式で行う。フィードバックは講評など口頭で行う。不測時における授業や補講等でオンライン授業を実施する場合がある。・受講人数や季節、天候、習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更することがある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定した用具・用品など、各自が準備した材料・用材を持ってくること。
出席を取り終わった後は欠席とする。
受講人数や実施する季節、天候、受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。（都度説明しますのでご理解ください）
受講人数を見て、グループでの活動を主体にすることもある。基本的に毎回出席することが大前提となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
毎回出席することは大前提

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	６０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
五感を大切にした造形活動について理解することが出来る。	五感を大切にした造形活動について理解することが十分に出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することがほぼ十分に出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することがある程度出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することが最低限出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することが出来ていなかった。
色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をつけることが出来る。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力を十分につけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をほぼ十分につけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をある程度つけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力を最低限つけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をつけることが出来ていなかった。
保育の造形表現の可能性について考えていく力をつけることが出来る。	保育の造形表現の可能性について考えていく力を十分につけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をほぼ十分につけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をある程度つけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力を最低限つけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をつけることが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅱ （科目ナンバリング：CHS122087　　）				
授業担当者 （所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　浩而　魅諭　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	札幌市公立小学校の学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。その経験を生かし、保育に携わるものが身につけるべき心構えや、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にし、実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 授業の説明 「身につく力」の説明	予めシラバスを確認しておく。（４５分）	授業の流れを理解し、全１６回の見通しを持つ。（４５分）
2	”保育士”として自己紹介しよう	自分の持ち味は何か、客観的に見つめておく。特技など披露出来るものは小道具を持参するなどしてよい。心に残った絵本などの紹介として現物を持参してもよい。（４５分）	人の心を動かす話し方について感じ取ったことなどをまとめておく。（４５分）
3	保育における造形表現の位置づけ	保育における造形表現の位置づけについて自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	保育における造形表現の位置づけについて新たにわかったことや感じたことをまとめておく。（４５分）
4	保育における造形表現において、五感を意識した活動の大切さについて	五感とは何か、どんな造形表現が考えられるか自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	保育における造形表現において、五感を意識した活動の大切さについて気づいたことをまとめておく。（４５分）
5	造形表現のための基本技法①	発想力について調べておく（４５分）	活動から、感じ取ったことをまとめておく。（４５分）
6	造形表現のための基本技法②	感覚を伝えるに当たって、感情や情景などを表現する語彙を増やしておく。（４５分）	感覚を色と形を使って人に伝える、言葉も使って、の活動から、保育の実践でどう生かしておけるかイメージトレーニングをしてまとめておく。（４５分）
7	色彩の基本について	中学校の頃の美術の教科書や資料集を読んで色彩に関する知識をまとめておく。（４５分）	色彩が日常の生活でどのように生かされているのか見つめ直してみる。気づいたことをまとめておく。（４５分）
8	造形表現のための基本技法③	混色の基本について中学校の教科書や資料集で確認しておく。（４５分）	色のイメージを大切にした商品名、他の候補は無いか考えてみる。（４５分）
9	課題制作１	学習を振り返って自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	感覚をどう制作に生かすことが出来るか、さらなる可能性を考えてみる。（４５分）
10	課題制作２	思いを色と形によって表現することについて自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	思いを色と形によって表現することの具体的な方法を更に探っていき、課題制作に生かせるよう準備をする。（４５分）
11	課題制作３	計画の具体的イメージをかためておく。（４５分）	自分の思い描いた通りに出来たか客観的に作品をみつめる。足りないところは補う（４５分）
12	課題制作４	聴覚について調べておく。造形表現にどう関係しているのか自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	聴覚に心地よさを感じ得る造形、その表現からさらに聴覚に新たな気づきをもたらし心を豊かにする可能性について自分なりの考えをまとめてみる。（４５分）
13	課題制作５	自分のイメージを作り出すことが出来そうな素材を予め集めておく。（４５分）	自分がイメージした世界を表現するための工作の可能性について深く考える。課題制作に生かせる形でまとめてみる。（４５分）
14	課題制作６	思いを表現することが出来る細工はどうすればよいのか、調べてみる。（４５分）	課題作品が完成していなければ、完成させておく。（４５分）
15	講評会　フィードバック	自分の作品についてどう発表するか考えておく。（４５分）	他の学生の作品に触れ、多様な価値観、表現の幅を感じ取る。（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 「身につく力」の検証	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。（４５分）	合評を通じて感じたことを、以後の制作に反映させていくことを考える。実際の保育現場でどう生かしていくかを考えてまとめておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅱ （科目ナンバリング：APT324067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は，建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の２次試験製図課題の傾向を探り，実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び，多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し，出題者の意図を探り，計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し，作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには，とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き，その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数１１回以上)と，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計与条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅱ （科目ナンバリング：APT324067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの確認。　授業の進め方と課題提出までのスケジュール、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	建築士試験想定製図課題の設計	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会、総括によるフィードバック、科目を 修了して「身に付く力」についての 検証、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現 （科目ナンバリング：CHS122088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　　太田　俊一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の３つを授業の目的とする。
１．学生自らが「学生主体の学び」を意識し、子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術を習得する。
２．本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を習得する。
３．子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を通して、スチューデントスキル・スタディスキル・アカデミックスキルを習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

（知識領域）子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術を関係づけながら習得できる。
（態度領域）子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を、他と協調して習得できる。
（技能領域）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について理解し、工夫して実演できる。

授業全体の内容と概要

子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術，子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術，子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について実践を通して学修する。「ＳＤＧ４： 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
児童文化財（人形劇やペープサート等）の制作を行い、発表してお互いを評価しあう時間も設定する。
課題や作品、レポート及び中間試験レポートはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
児童文化財制作（人形劇やペープサートを予定）のため、各自でクレヨン、マジック、絵具等教材の用意が必要。
遅刻の場合は入室できるが、２０分以上の遅刻は欠席となる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２０%	２０%	２０%	２０%	２０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童文化財に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	児童文化財について基礎的な知識を深く理解できた。	児童文化財について基礎的な知識をおおむね理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を多少理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	子どもの発達と児童文化財の関連について十分に考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連についておおむね考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について多少考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりやすく説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりおおむね説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを多少説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現 （科目ナンバリング：CHS122088　　）				
授業担当者 （所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　太田　俊一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	２０１９	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 児童文化財についての基礎的な知識や技能 科目を修了して『身に付く力』についての説明	指定した教科書を事前に読むこと（４５分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
2	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター１	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
3	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター２	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
4	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター３	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
5	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング１	素話の意味を理解しておく（４５分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
6	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング２	素話の実演方法を理解しておく（４５分）。	授業終了時に示す課題を作成する（４５分）。
7	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング３	昼間テストに向け発表練習をしておく（４５分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
8	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境１ 中間テスト（制作発表）	昼間テスト（発表）の準備をしておく（４５分）。	８回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
9	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境２　　中間テストの評価解説	望ましい保育環境について事前学習する（４５分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境３	望ましい保育環境について事前学習する（４５分）。	１０回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
11	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開１	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
12	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開２	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
13	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開３	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
14	学生による言語表現の展開１	言語発表の準備、練習をしておく（４５分）。	授業終了時に示す課題を作成する（４５分）。
15	学生による言語表現の展開２・まとめ・レポート提出	授業を通して学んだ事を整理しておく（４５分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（４５分）。
16	提出されたレポート、課題の総合評価 児童文化財についての基礎的な知識や技能をフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	１５回の内容を振り返り復習する(４５分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(４５分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123110　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育及び重複障害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

共生社会の創造のための教養として肢体不自由者及び重複障害者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方等の実践的な知識を取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての実践的な知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育の対象となる肢体不自由教育及び重複障害のある子供の教育の現状を押さえ，児童生徒の実態に応じた教育課程や指導内容・方法について事例研究や映像教材等も活用しながら構成する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配付資料で教科書の内容を確認するとともに、その回の内容に応じた思考・考察、意見交換、討議等の活動を行う。また、教育の実際場面の動画を視聴しレポートにまとめたり、指導事例に基づいて指導案を作成し模擬授業を行う等で、総合的に教育の方法を取得させる。レポーや模擬授業についてはコメントによりフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。
また，重複障害児指導事例集等の事例に基づく指導案の作成と模擬授業の実施及びレポート提出を求めるので，授業を欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	４０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育の理解	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一部理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、理解できなかった。
肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法における思考・判断・表現	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を深く思考し、模擬授業を通して自ら工夫して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して自ら表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して一部表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現するための必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123110　　）				
授業担当者 （所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育及び重複障害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　２０２０』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明及び肢体不自由者・重複障害者の教育の概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておくこと （９０分）	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見通しを立てる（９０分）
2	重複障害児の教育の意義	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	重複障害児の教育の内容と方法	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	肢体不自由者のコミュニケーション支援 コミュニケーション手段と支援	教科書の「各教科等 の指導の工夫」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例（１） 「知的障害」及び「視覚障害」との重複	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例（２） 授業つくりを考える	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の書き方」	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の作成」「モデル授業」 事前提出された指導案の添削・返却	配布資料に基づき指導案を作成に着手（９０分）	モデル授業を観察して指導案を修正する（９０分）
9	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（１） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０分）	ディスカッションを受けて指導案を修正する（９０分）
10	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（２） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０分）	ディスカッションを受けて指導案を修正する（９０分）
11	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（３） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０分）	ディスカッションを受けて指導案を修正する（９０分）
12	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（４） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０ 分）	ディスカッションを受けて指導案修正する（９０ 分）
13	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（５） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０ 分）	ディスカッションを受けて指導案を修正する （９０ 分）
14	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（６） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０ 分）	ディスカッションを受けて指導案を修正する （９０ 分）
15	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（７） 模擬授業 事前提出された指導案の添削・返却 授業改善アンケートの実施	模擬授業の指導案作成とグループ内で役割確認（９０ 分）	ディスカッションを受けて指導案を修正する（９０分）
16	肢体不自由教育の指導案作成のポイントと評価の方法・まとめ	指導案や模擬授業の振り返り(９０分)	検討の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅱ （科目ナンバリング：PSS522067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）・上原　正希(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　近藤　亜弥　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健の課題と支援Ⅰでの学習をもとに、精神保健の予防と支援の実際、差別や偏見に関する問題、精神保険に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携、諸外国やWHOなどの精神保健活動の現状について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

①精神保健に関する予防の考え方について理解する。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

①精神保健に関する予防の考え方について理解する。
②精神保健に関する諸問題に対する対策を理解する。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs8.働きがいも経済成長も」「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式が主だが、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の講義前に事前課題をMicrosoft Formsにて発信を行う。必ず確認してから、授業に臨むこと。
③毎回の確認小テストをMicrosoft Formsを通して発信する。。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングして管理を徹底すること（特段の理由が無い限り再配布はしない）。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（１０点）、第１６回目に実施する定期試験（９０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	%	10%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神保健に関する予防の考え方について理解する。	精神保健に関する予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて予防の考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方についておおむね説明できた。	予防の考え方について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策についておおむね説明できた。	精神保健に対する対策に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について種の役割と連携についておおむね説明できた。	地域精神保健に関する偏見と差別等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね説明できた。	世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についてキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅱ （科目ナンバリング：PSS522067　　）				
授業担当者 （所属・職名）	近藤　亜弥（社会福祉学科・講師）・上原　正希(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2　（単位認定責任者：　　近藤　亜弥　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『適宜紹介します。』』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『適宜紹介します。』』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の課題と支援Ⅰの授業内容の復習 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	精神保健の予防の考え方	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	精神保健に関する発生予防と対策①（アルコール問題、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	精神保健に関する発生予防と対策②（うつ病と自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	精神保健に関する発生予防と対策③（子育て支援と暴力、虐待予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	精神保健に関する発生予防と対策④（認知症高齢者に対する支援）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健に関する発生予防と対策⑤（社会的ひきこもりに対する支援）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健に関する発生予防と対策⑥（災害時の精神保健に対する対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題（関係法規、精神保健における偏見）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健に関する専門職①（国の機関と役割、精神保健に関する関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健に関する専門職②（地域精神保健に係わる行政の役割）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健に関する専門職③（啓発団体、セルフヘルプグループと市民団体）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	諸外国の精神保健活動の現状及び対策（世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施 授業全体のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122107　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

特別支援学校学習指導要領等を基準として，知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性及び発達段階等を踏まえた教育課程の編成や個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的な知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。知的障害教育の歴史的変遷と現状を知り、児童生徒の実態把握の方法、教育課程や指導内容・方法、評価等を具体的な事例や映像等の視聴覚教材を活用し、総合的に構成する。「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、テーマに関する説明をした後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。
ＩＣＴ活用に関連して、授業についての質問などはチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとすることができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122107　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　藤根　収　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　第4版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2025	978-4-86371-713-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
3	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
4	『教育の情報化に関する手引（追補版）』	文部科学省		2020		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、知的障害教育の概要	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	知的障害児教育の歴史① ～戦前の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
3	知的障害児教育の歴史② ～戦後の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
4	知的障害の理解と教育の制度について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
5	学習指導要領と教育課程編成の基本的な考え方について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
6	実態把握の方法と個別の指導計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
7	個別の指導計画と授業づくりについて　～ＩＣＴの活用を含む～	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
8	知的障害のある子どもの日常生活の指導と遊びの指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
9	知的障害のある子どもの作業学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
10	知的障害のある子どもの生活単元学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
11	知的障害のある子どもの教科別の指導などについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
12	知的障害のある子どもの自立活動の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
13	知的障害のある子どもの就学と交流及び共同学習について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
14	知的障害のある子どもの授業におけるＩＣＴの活用等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
15	知的障害教育におけるキャリア教育、カリキュラム・マネジメント、学習評価について 講評及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝIV （科目ナンバリング：AEA223043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

概要

履修目標

大型オリジナルイラストのためのイラストの多様性，表現方法を学び，完成度の高い作品造りを目指す。イラスト，デザイン，アートのみならず様々なものから積極的な探求心，研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し，独自のイラスト表現を確立。各自に合うコンペなどへの応募も検討する。

授業全体の内容と概要

個々のイラスト表現を模索して，オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で画材表現，イラスト表現を身につける。ビジュアル本制作に於いて各自のイラストの方向性の研究。

授業の方法

イラストレーターの仕事について，イラスト表現の多様性等について講義を行った後，各自の過去のイラスト作品の研究を行う。その後で，実技にて作品制作を行っていく。また各自作品ビジュアル本を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みにながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けた。
イラストの多様性・実践的制作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的制作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的制作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝIV （科目ナンバリング：AEA223043　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日５・６講目、金曜日５・６講目対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。 オリエンテーション（イラストレーターの仕事について，制作への心構え，制作意識について，イラスト表現の多様性についてなど講義）	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	制作への心構え，制作意識について，イラスト表現の多様性についてなど講義）	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	各自過去のイラスト作品を持参して，各自のオリジナリティを探求。テーマ性，イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。（４５分）	作への取り組みを進めること。（４５分）
4	各自過去のイラスト作品を持参して，各自のオリジナリティを探求。テーマ性，イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。（４５分）	各自のイラスト表現の方向性を固めて制作への取り組みを進めること。（４５分）
5	オリジナルイラストのコンセプト確定（テーマ性，媒体など）。画材。タッチ表現の決定。	イラストの構想，テーマ，コンセプトなどを練っておくこと。（４５分）	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。（４５分）
6	オリジナルイラストのコンセプト確定（テーマ性，媒体など）。画材。タッチ表現の決定。	イラストの構想，テーマ，コンセプトなどを練っておくこと。（４５分）	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。（４５分）
7	大型作品への取り組みについて。水張り作業，下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。（４５分）	アイデア出し，ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
8	大型作品への取り組みについて。水張り作業，下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。（４５分）	アイデア出し，ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
9	着色作業１。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
10	着色作業１。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
11	着色作業２	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	着色作業２	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	着色作業３	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	着色作業３	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	着色作業４	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
16	着色作業４	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	着色作業５	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
18	着色作業５	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
19	着色作業６	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
20	着色作業６	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
21	プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
22	プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
23	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作（絵本的表現の習得）。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。
24	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作（絵本的表現の習得）。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。（４５分）
25	ビジュアル本制作ー１。絵コンテ，ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。（４５分）
26	ビジュアル本制作ー１。絵コンテ，ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。（４５分）
27	ビジュアル本制作ー２。製本作業１	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
28	ビジュアル本制作ー２。製本作業１	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
29	ビジュアル本制作ー３。製本作業２	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
30	ビジュアル本制作ー３。製本作業２	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
31	ビジュアル本制作ー４，製本完成。プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	ビジュアル本制作ー４，製本完成。プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。授業改善アンケートの実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習III （科目ナンバリング：SEM324070　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科III「建築構造」にターゲットを絞り，その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科IIIに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	６０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くできた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。
各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習III （科目ナンバリング：SEM324070　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。静定構造物・反力・応力 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての 説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	静定ラーメン・静定トラス	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	断面の性質	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	応力度と許容応力度	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	座屈・変形	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	地震力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	風圧力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	荷重・外力融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	地盤・基礎構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	木構造―耐力壁・接合法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	ＲＣ造―構造設計・各部の設計	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	S造―構造設計・接合部	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	その他構造―壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック造・組積造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築材料―木材・セメント・骨材・コンクリート	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築材料―金属・ガラス・材料融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケート の実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅠ （科目ナンバリング：PIP223048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　真紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

アニメーション制作の基礎、およびアニメーションにおいて動きを描くための基本原則や表現方法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

アニメーションにおける動画の基本原則を理解し、動画を作成できる。

授業全体の内容と概要

ウォルト・ディズニー・スタジオのアニメーターであるフランク・トーマスとオリー・ジョンストンが共著書『Disney Animation / The Illusion of Life』（1981）にまとめたアニメーションの１２の基本原則を元に、物理原則に沿った動きを理解し、キャラクターを生き生きと動かす表現力を修得する。動画は、紙と鉛筆による手描きで行い、カメラで撮影する。

授業の方法

授業は動画の基本原則について映像や配布物資料などで説明した後、課題制作に取り組む。作画に必要な画材（主にアニメーションタップ、ライトボックスA4程度）については、初回の授業で詳細説明を受けた後、各自で準備（購入など）する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内で課題制作に取り組むことができるよう、画材は毎回持参すること。課題作品提出は必須。
制作に必要な画材（アニメーションタップ、ライトボックスなど）は購入するなどして各自で必ず準備すること。価格の目安としては計3000円程度。動画撮影のために、各自でスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にアプリケーションのダウンロードを必要とする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
動画の基本技術	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本・本質を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解せず、作画ができなかった。
基本原則の表現力	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く豊かな表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、それに適した動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を学び、動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を元に、動画を描くことができなかった。
動画撮影	すべての課題において、手描きの作画を正確な方法でカメラで撮影して動画を作成し、十分な撮影技術を身につけた。	すべての課題において、手描きの作画を正確な方法でカメラで撮影して動画を作成できた。	課題において、手描きの作画を棚カメラで撮影して動画を作成できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成できた。	動画の撮影ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅠ （科目ナンバリング：PIP223048　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　梅田　真紀　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Disney Animation : The Illusion of Life』	Frank Thomas, Ollie Johnston	Abbeville Press	1981	0896592332	
2	『The Animators Survival Kit: A Manual of Methods, Principles and Formulas for Classical, Computer, Games,	Richard Williams	Faber and Faber	2001	0571202284	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 アニメーションとは何か	シラバスを読んでくること（90分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（90分）
2	アニメーションの基本原則について アニメーションの基本知識 動きの考察	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
3	【動きの観察１】　Slow In and Slow Out	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
4	【動きの演習１】　振り子の動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
5	【動きの演習１】　フィードバック	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
6	【動きの観察２】　Squash and Stretch	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
7	【動きの演習２】　バウンドするボールの動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
8	【動きの演習２】　バウンドするボールの動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
9	【動きの演習２】　フィードバック	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
10	【動きの観察３】　Anticipation	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
11	【動きの演習３】　予備動作を含む人物の動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
12	【動きの演習３】　予備動作を含む人物の動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
13	【動きの演習３】　フィードバック	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
14	【動きの観察４】　Follow Through and Overlapping Action	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
15	【動きの演習４】　あとに続く動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
16	まとめ　課題に対する解説・フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 をまとめておくこと(90分)	フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅳ （科目ナンバリング：SEM324071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科Ⅳ「建築施工」にターゲットを絞り，その傾向と対策演習を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科Ⅳに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	６０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅳ （科目ナンバリング：SEM324071　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　向井　正伸　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。施工計画・ネットワーク工程表 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての 説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	安全衛生管理・材料管理・工事管理業務	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	渉外諸手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	土工事・基礎地業工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	鉄骨工事・コンクリートブロック工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	木工事・防水・屋根工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	左官工事・タイル・張石工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	塗装工事・建具・ガラス工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	内装・断熱工事・設備工事・ユニット工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	用語・機械-工法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築積算・測量	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	工事契約-請負契約・契約図書	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説、授業改善アンケートの実施、総括によるフィードバック、科目を修 了して「身に付く力」についての検証	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾆﾒｰｼｮﾝII （科目ナンバリング：PIP223049　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　真紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

アニメーションの制作工程において必要な基本知識、およびデジタル制作技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

アニメーション制作に必要なデジタル技術を理解し、動画を作成できる。

授業全体の内容と概要

作品の企画から最終的な書き出しまで、アニメーションの制作工程を演習を通して学ぶ。
演習を通して、CLIP STUDIO PAINT、Adobe Premiere Proなどのアニメーション制作に必要なソフトウエアの基本技術を身につける。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布物資料などで学習内容の説明をした後、制作過程、演習課題の進捗状況について個人指導を行う。
制作は、第1C室のPC・ソフトウエアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコン、タブレットなどを持参しても良い。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業での取り組みを重視し、制作工程における提出物、および完成作品において評価する。
第1C室で使用できるアニメーションソフトウエアはCLIP STUDIO PAINTである。
CLIP STUDIO PAINT以外の私物のソフトウエアを使用しても良いが、アニメーション機能があるものに限る。
私物のタブレットやノートPCを使用する場合は、デバイスを授業に持参できるものに限る。
各制作工程チェックのため提出物が複数ある。授業内で提示された課題は、準備・事後学習の時間を使って次の授業までに必ず仕上げてくること。アニメーション制作の特性でもあるが、課題は作業量が多いため、覚悟の上履修すること。
「アニメーションＩ」を履修・修得していることが望ましい。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
制作過程	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求し、洗練させた。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、努力した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。	プロセスに沿った制作がほとんどできなかった。
授業外学修（準備学習・事後学習）の取り組み	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨み、授業のアドバイスを受けて、改善することができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題にある程度取り組むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題に取り組む努力をした。	準備学習、事後学習に全く取り組むことができなかった。
完成作品	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の高い作品を仕上げた。	アニメーションの技術力・表現力が認められる作品を仕上げた。	アニメーションの技術や表現を活かした作品を完成させた。	作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅡ （科目ナンバリング：PIP223049　　）				
授業担当者 （所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　真紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 アニメーション制作について	シラバスを読んでくること（９０分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（９０分）
2	プリプロダクション①　企画・テーマ・コンセプト	作品の企画を考える（９０分）	作品の企画をまとめる（９０分）
3	プリプロダクション②　あらすじ	作品の企画をまとめる（９０分）	あらすじを考える（９０分）
4	プリプロダクション③　脚本	あらすじを仕上げる（９０分）	脚本を進める（９０分）
5	プリプロダクション④　絵コンテ	脚本を仕上げる（９０分）	絵コンテを進める（９０分）
6	Adobe Photoshop・Premiere Proの基本操作 プリプロダクション⑤　アニマティック	絵コンテを仕上げる（９０分）	アニマティックを進める（９０分）
7	プリプロダクション⑥　キャラクターデザイン	アニマティックを仕上げる（９０分）	キャラクターデザインを進める（９０分）
8	CLIP STUDIO PAINTの基本操作 プロダクション①　背景デザイン	キャラクターデザインを仕上げる（９０分）	背景デザインを進める（９０分）
9	プロダクション②　レイアウト	背景デザインを仕上げる（９０分）	レイアウトを進める（９０分）
10	プロダクション③　動画	レイアウトを仕上げる（９０分）	動画を進める（９０分）
11	プロダクション③　動画	動画を進める（９０分）	動画を進める（９０分）
12	Adobe Premiere Pro・After Effectsの基本操作 ポストプロダクション①　撮影	動画を仕上げる（９０分）	撮影を進める（９０分）
13	ポストプロダクション②　編集	撮影を仕上げる（９０分）	編集を進める（９０分）
14	Adobe Auditionの基本操作 ポストプロダクション③　録音	編集を仕上げる（９０分）	録音を進める（９０分）
15	ポストプロダクション④　書き出し	録音を仕上げる（９０分）	作品を完成させる（９０分）
16	講評、課題に対する解説・フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 を（９０分）	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学II （科目ナンバリング：GGR122128， ）				
授業担当者 （所属・職名）	鈴木　正章（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鈴木　正章　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自然地理学Ⅰに引き続き、地形学を中心に自然地理学の理解を深めることと我々の生活の身の回りに発生する自然災害について理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

変動帯とよばれている日本列島にはなぜ地震や火山活動が多いのかその理由が説明することができるようになる。地形図の読図や空中写真判読から地形の様子が理解できるようになる。自然災害に対する防災について考えることが出来るようになる。

授業全体の内容と概要

日本列島はなぜ地震や火山が多いのかプレートの運動、火山分布や活断層の運動の仕方などから説明する。また、活断層がどのようような活動するのか阿寺断層の地図作業をとおして説明する。それらによってもたらされる自然災害について講述する。

授業の方法

①授業の具体的な形態：講義形式、②進行方法：おもにパワーポイントと板書、③使用する教材：配布資料及びビデオ、④課題に対する説明：地図作業を課題として予定しているので、12色程度の鉛筆の用意、⑤要望への対応等：集中講義期間中随時対応します。⑥不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①受講者数の制限：なし、②受講条件：なし、③履修上必要な知識・学力等：本学の学生であれば全て可、④遅刻・欠席等のルール等：クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、⑤受講の心構え：受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取組むこと。なお、高等学校で使用した地図帳が資料として参照できることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(地理歴史)必須科目。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１５%	１５%	４０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動と運動する原因について明でた。その結果として何のような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果として何のような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。
世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。
活断層についての理解。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	活断層とは何か？説明できた。	活断層とは何か？説明できなかった。
火山活動と噴火様式についての理解	火山の噴火現象について説明でき、それに由来する噴出物について何のような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それに由来する噴出物について何のような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物について何のような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。	火山の噴火現象について説明できた。	火山の噴火現象について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学Ⅱ （科目ナンバリング：GGR122128,　　）				
授業担当者 （所属・職名）	鈴木　正章（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鈴木　正章　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義内容と授業計画のガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	本授業のシラバスの熟読しておくこと。（９０分）	世界の地震や火山がどのような所に多いのかまとめておくこと（９０分）
2	プレートテクトニクス（１）	大陸移動説について調べておくこと。（９０分）	大陸移動説を提唱したウエェゲナーの業績についてまとめておくこと。（９０分）
3	プレートテクトニクス（２）	プレートのことについてインターネットなどで調べておくこと。（９０分）	プレートと地殻やマントルの違いについて整理しておくこと。（９０分）
4	日本列島の地質構造（プレートの運動との関係）	日本列島および周辺にはどのプレートが分布しているのか調べておくこと。（９０分）	日本列島の地質構造とプレートの関係をまとめておくこと。（９０分）
5	日本列島の生い立ち	日本列島の地質について調べておくこと。（９０分）	日本列島の生成過程についてまとめておくこと。（９０分）
6	活断層とは（断層，断層の運動と種類，活断層の定義）	断層にはどのような種類があるのか調べておくこと。（９０分）	活断層とどのような断層なのかまとめておくこと（９０分）
7	日本の活断層の分布と特徴	日本列島の活断層の分布図を観て分布する特徴を考えてみよう。（９０分）	日本列島の活断層の分布の特徴を整理しておくこと。（９０分）
8	阿寺断層（１）（活断層としての特徴）	阿寺断層の日本列島における位置を調べておくこと。（９０分）	地図作業を通して阿寺断層がどのよう性質をもつ断層なのかまとめておくこと。（９０分）
9	阿寺断層（２）（活断層としての運動の仕方）	河岸段丘のことについて調べておくこと。（９０分）	活断層の運動の仕方を整理しておくこと。（９０分）
10	火山活動とは	火山の定義について調べておくこと。（９０分）	世界の火山の分布の特徴とプレートの関係を整理しておくこと。（９０分）
11	火山の噴火現象	様々な火山の噴火の様子をインターネットで調べておくこと。（９０分）	火山ごとの噴火の様子の違を整理しておくこと。（９０分）
12	火山の噴火様式	火山噴火の様式について調べておくこと（９０分）	火山ごとに噴火様式の違う理由を整理しておくこと（９０分）
13	日本列島における火山の特徴	火山フロントとは何か 調べておくこと。（９０分）	日本列島に活動的な火山が多い理由をまとめておくこと。（９０分）
14	日本列島における自然災害Ⅰ	日本列島でこれまで経験した地震災害について調べておくこと。（９０分）	日本列島で地震災害が多い理由につてまとめておくこと（９０分）
15	日本列島における自然災害Ⅱ	日本列島でこれまで経験した火山災害について調べておくこと。（９０分）	日本列島で火山災害が多い理由につてまとめておくこと（９０分）
16	まとめ及び講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 （まとめのテスト） 授業改善アンケートの実施	これまでの授業のまとめをしておくこと。（９０分）	これまで授業のまとめをして整理しておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	水泳 （科目ナンバリング：HSS522072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）・篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

水中運動は、水の特性である水温・浮力・水圧・抵抗など陸上環境と違う環境の中で運動を行うため、年齢を問わずに健康づくりに有益な効果をもたらす運動として多くの人に親しまれている。特に水泳においては技能の獲得が必要なことから、基本泳法のスキルを身につけることを第１の目標とする。また、指導者育成の観点から、水泳および水中運動の指導力を身につけることを第２の目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能を習得する。

授業全体の内容と概要

クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、横泳ぎの泳法及び各泳法のスタート・ターンを習得する。
最終日にクロール・平泳ぎ５０m完泳の実技試験を実施する。
また、水泳事故防止のため健康・安全配慮に関して学習する。

授業の方法

水泳の４泳法におけるＤＶＤを視聴することで特性や特徴などの理解を深め正しい泳法をイメージする。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではＩＣＴ機器の活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

連絡はTeamsを利用します。
注意事項及び詳細に関しては、掲示及びオリエンテーションで説明。
大学近郊のプールを利用し、集中授業として実施予定。
怪我等で見学をする場合は診断書の提出をしてもらう場合もある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１3回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	５０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４泳法の理解	４泳法を良く理解できた	４泳法をほぼ理解できた	４泳法をある程度理解できた	４泳法を理解できた	４泳法を理解できなかった
４泳法の実践	４泳法の実践が良くできた	４泳法の実践がほぼできた	４泳法の実践がある程度できた	４泳法の実践ができた	４泳法の実践ができなかった
４泳法の指導	４泳法の指導が良くできた	４泳法の指導がほぼできた	４泳法の指導がある程度できた	４泳法の指導ができた	４泳法の指導ができなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	水泳 （科目ナンバリング：HSS522072　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）・篠原　諒介（ 経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　　戸佐　晃一　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	２０２４	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	水泳の基本Ⅰ 水の特性、水中運動処方（講義）	水泳の基本を確認しておく（４５分）	水泳の基本を理解しておく（４５分）
3	水泳の基本Ⅱ 水泳の基本泳法について、安全管理（講義）	水泳の基本を確認しておく（４５分）	水泳の基本を理解しておく（４５分）
4	水泳の基本Ⅲ 水慣れ・水中運動・クラス分け	水泳の基本を確認しておく（４５分）	水泳の基本を理解しておく（４５分）
5	クロールの基本 （バタ足・手の掻き・面かぶりクロール）	クロールの基本を確認しておく（４５分）	クロールの基本を理解しておく（４５分）
6	クロールの完成 （正しい泳法・呼吸法の習得・長い距離を泳ぐ）	クロールを確認しておく（４５分）	クロールを理解しておく（４５分）
7	平泳ぎの基本 （手の掻き・キック）	平泳ぎの基本を確認しておく（４５分）	平泳ぎの基本を理解しておく（４５分）
8	平泳ぎの完成 （正しい泳法の習得・長い距離を泳ぐ）	平泳ぎを確認しておく（４５分）	平泳ぎを理解しておく（４５分）
9	背泳ぎの基本 （背面キック・手の掻き）	背泳ぎの基本確認しておく（４５分）	背泳ぎの基本理解しておく（４５分）
10	背泳ぎの完成 （正しい泳法の習得）	背泳ぎの確認しておく（４５分）	背泳ぎを理解しておく（４５分）
11	バタフライの基本 （手の掻き・キック）	バタフライの基本確認しておく（４５分）	バタフライの基本を理解しておく（４５分）
12	バタフライの完成 （正しい泳法の習得）	バタフライを確認しておく（４５分）	バタフライを理解しておく（４５分）
13	横泳ぎ・立泳ぎ	横泳ぎ・立泳ぎを確認しておく（４５分）	横泳ぎ・立泳ぎを理解しておく（４５分）
14	スタート・ターン	スタート・ターンを確認しておく（４５分）	スタート・ターンを理解しておく（４５分）
15	クロール・平泳ぎ実技試験 授業改善アンケートの実施	クロール・平泳ぎの正しい泳法を確認しておく（４５分）	クロール・平泳ぎの正しい泳法を理解しておく（４５分）
16	まとめ フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	授業内容全体を振り返り確認しておく（４５分）	授業内容を理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講III （科目ナンバリング：0EN323080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　柿沼　博彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か，デザインとは何か，その本質を知り，スタディスキルを向上させ今後の授業・社会生活に役立てる。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め，イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは何か，なぜイノベーションが必要なのかを講義する。
鉄道の視点から見たデザイン（車両・駅舎など）を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。
SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

時間厳守，筆記具（黒板，口述の内容を各自メモ）
月１回程度の頻度で課題を報告

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
レポートや課題作品の提出を課す。出席（率）や受講する姿勢，授業態度等も評点に連動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	２０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か，デザインとは何か，そして双方の関係を理解することが社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション，デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係が新たものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション，デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション，デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから，ものの見方，考え方に役立てる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方，考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方，考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講III （科目ナンバリング：0EN323080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　柿沼　博彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『イノベーションへの挑戦　ハンディを個性に変える思考法』	柿沼博彦	中西出版	２０１５年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か？ その本質を知り、モノの見方，考え方を知る 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
2	・イノベーションとは何のこと? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
3	・様々なイノベーションの創生プロセス（１回） 破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
4	・様々なイノベーションの創生プロセス（２回） 破壊的イノベーション　シュンペーターのイノベーション？	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
5	・様々なイノベーション　中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・３つのドライバー（技術革新・心理変化・社会構造）	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの種 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
8	・これからのイノベーション環境（グローバル化・多様性・・AI時代のイノベーションを考える）	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。（９０分）	講講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特異性（公共・安全・サービス）について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
13	車両システムと形のデザイン　設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
14	・駅舎のシステムのデザイン① 駅舎の変遷と機能（BF.UD） 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
15	・駅舎のシステムのデザイン② 新千歳空港駅（デンマーク国鉄とのコラボ）	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
16	・駅舎のシステムのデザイン③都市計画と駅舎のデザイン・全体のまとめ（イノベーション）とデザインの共通性・矛盾と回避合う能力を磨く（知性の時代）・解説・フィードバック・授業改善アンケートの実施・社会で求められる能力（直観+論理）科目を修了して「身に付く力」についての検証	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・１５回の講義の振り返りをしておくこと。（９０分）	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導III （科目ナンバリング：SWS123031　　）				
授業担当者（所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標

各領域の相談援助実習を終了した後、実習中の振り返り（利用者との関り、他職種・他機関連携、地域連携）を行うことによって、実習中の行為がＳＷ実践の具体的技法とどのような関連するか、ＳＷ諸理論とどのように関連するか、あるいは逸脱しているかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

専門職として求められる資質、専門的知識・技術、倫理、自己に求められる問題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、現場実習での具体的援助経験を、専門性を踏まえて概念化し理論化できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

「相談援助実習III・IV」と「相談援助実習」は３つの授業に分かれているが、1対のものと理解すべきである。「相談援助実習指導III」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導IV」は事後指導と考える。「相談援助実習」での課題への取り組みを振り返り、それをレポートおよび報告書にまとめる。また「相談援助実習指導IV」の最終講義において「相談援助実習」の報告（各領域１名程度）、「相談援助実習指導Ⅱ」（２年生向け）での報告会（各領域から1名程度）を行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域・行政の各実習領域に分かれ、各々の担当教員が講義を行う。講義方法は各担当教員に一任されているが、各領域の制度、法規、実践事例、そして実習後の振り返りをメインに行う。講義資料は各担当教員が用意するが、実習後の振り返りについては学生自身が発表者になりプレゼンを行う（方法については担当教員に一任されるが、最低限レジメの配布は行うこと）。年間を通して実習終了後のレポート、報告書の提出を課題として義務付けている。学生からの要望・課題については、可能な範囲で随時対応していく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各領域担当教員の指示に従うこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	３０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関りをＳＷ理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的論で説明でき、且つ、具体的技法との関連を説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、その各々の場面を通しての自己覚知ができる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と、失敗事例を振り返り、それを具体的理論によって説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例を振り返り、それを具体的理論で説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の他職種・他機関連携をＳＷ理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なＳＷ理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なＳＷ理論に昇華できる。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・機関と連携したかを説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なＳＷ理論と結び付けて説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の地域連携についてＳＷ理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的業務をＳＷ理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できる。	実習中の地域連携について説明でき、具体的にどんな機関と連携し、どのようなＳＷ実践を行ったかを説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をＳＷ理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について、どんな機関と連携したかを説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導III （科目ナンバリング：SWS123031　　）				
授業担当者（所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　事後学習（振り返り①） 身につく力・・・ソーシャルワーク実習において体得した実践技法。	実習の振り返り（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
2	事後学習（振り返り②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
3	事後学習（振り返り③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
4	事後学習（自己覚知①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
5	事後学習（自己覚知②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
6	事後学習（自己覚知③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
7	事後学習（他職種・他機関連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
8	事後学習（他職種・他機関連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
9	事後学習（他職種・他機関連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
10	事後学習（地域連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
11	事後学習（地域連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
12	事後学習（地域連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
13	事後学習（ソーシャルワーク実践理論①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
14	事後学習（ソーシャルワーク実践理論②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
15	事後学習（ソーシャルワーク実践理論③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
16	身につく力の検証・・・グループ内ディスカッション、及び全体発表会の実施。 「試験の講評・解説」「レポート等の添削・返却」「Ｅメールや Microsoft Teams・Forms、学内システム利用によるフィードバック」等。	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　山腰　雅樹　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、基本的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要

制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS等の基礎的な知識・技術について習得する。

授業の方法

授業では資料やHTMLコード等をディスプレイに表示（画面共有）して解説を行いながら演習を行う。
授業内容は録画し、振り返り可能とする。
資料はオンライン、PDFで閲覧可能とする。
質問等は講義中でも個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

Figmaアカウント必須。（取得していない場合は授業内で取得を行う）
欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。
週に1日、連続して2回分の授業を行う為、遅刻・欠席すると次の授業の理解・進行が厳しくなるので注意すること。
不測の事態が起きた際はオンラインで参加することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	0%	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222031　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　山腰　雅樹　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 制作ツールのインストール・設定 WEBサイトの仕組み 科目を修了して「身に付く力」についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	主なHTMLタグについて マークアップ作業を行う準備	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	HTML基礎演習	主なHTMLタグについて再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	CSSの基礎知識 CSS基礎演習①	HTMLの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	CSS基礎演習②	CSSの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	マークアップ基礎演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	マークアップ基礎演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	デザインツールの基礎知識	インターネット上で公開されているサイトを確認し、WEBにおけるデザインイメージを把握しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	コンポーネント制作演習①	デザインツールについて再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	コンポーネント制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	コンポーネント制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
12	総合制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
13	総合制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
14	総合制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
15	総合制作演習④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
16	課題制作 フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと・該当資料を確認しておくこと（90分）	演習内容を振り返り知識を定着させること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　柿沼　博彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か，デザインとは何か，その本質を知り，スタディスキルを向上させ今後の授業・社会生活に役立てる。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め，イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは何か，なぜイノベーションが必要なのかを講義する。
鉄道の視点から見たデザイン（車両・駅舎など）を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。
SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

時間厳守，筆記具（黒板，口述の内容を各自メモ）
月１回程度の頻度で課題を報告

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
レポートや課題作品の提出を課す。出席（率）や受講する姿勢，授業態度等も評点に連動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	２０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か，デザインとは何か，そして双方の関係を理解することが社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション，デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係が新たものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション，デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション，デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから，ものの見方，考え方に役立てる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方，考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方，考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　柿沼　博彦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『イノベーションへの挑戦　ハンディを個性に変える思考法』	柿沼博彦	中西出版	２０１５年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か？ その本質を知り、モノの見方，考え方を知る 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
2	・イノベーションとは何のこと? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
3	・様々なイノベーションの創生プロセス（１回） 破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
4	・様々なイノベーションの創生プロセス（２回） 破壊的イノベーション　シュンペーターのイノベーション？	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
5	・様々なイノベーション　中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・３つのドライバー（技術革新・心理変化・社会構造）	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの種 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
8	・これからのイノベーション環境（グローバル化・多様性・・AI時代のイノベーションを考える）	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。（９０分）	講講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特異性（公共・安全・サービス）について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
13	車両システムと形のデザイン　設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
14	・駅舎のシステムのデザイン① 駅舎の変遷と機能（BF.UD） 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
15	・駅舎のシステムのデザイン② 新千歳空港駅（デンマーク国鉄とのコラボ）	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
16	・駅舎のシステムのデザイン③都市計画と駅舎のデザイン・全体のまとめ（イノベーション）とデザインの共通性・矛盾と回避合う能力を磨く（知性の時代）・解説・フィードバック・授業改善アンケートの実施・社会で求められる能力（直観+論理）科目を修了して「身に付く力」についての検証	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・１５回の講義の振り返りをしておくこと。（９０分）	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習Ⅰ （科目ナンバリング：SWS124032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	6　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実践現場における２３日１８０時間以上の職場・職種・ソーシャルワーク実習を通して、選択した実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについての理解を深め、さらに、他職種・他機関連携、地域連携などを通してジェネリックソーシャルワークに対する理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目

到達目標

・価値、職業倫理とワーカーの行動・態度の関係の理解、並びに価値の実現に関して具体的に理解する。
・利用者自身の抱えるニーズを様々な社会資源との関係で分析・評価し援助計画を立てる能力を習得する。
・援助過程を通して必要な専門的援助関係を構築し深める技術を習得する。
・利用者とその関係者の問題解決能力を高め、利用者と社会環境の調整を図る技術を習得する。
・地域社会、当該施設・機関の特性を評価し、その組織化を促進する技術を習得する。
・当該領域において用いられる社会資源の知識とそれを開発し、活用するための技術を習得する。
・恣意的な観察及び記録作成ができる。
・自己理解を深め自己の意識・感情のコントロールができる。その領域の特殊技法等を理解する。

授業全体の内容と概要

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」と「ソーシャルワーク実習」は３つの授業に分かれているが、一対のものと理解すべきである。「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」は事前学習、「ソーシャルワーク実習」は実践現場実習、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」は事後学習と考える。したがって「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」および「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」の履修が必要不可欠である。「ソーシャルワーク実習」では、ソーシャルワーク理解を基本として、特に「ソーシャルワーク指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の事前学習において、しっかりと現場実習の目的や課題を持ち、その達成に向けて社会福祉実践現場（施設・機関）で２３日間（１８０時間）以上にわたる現場実習を行うこととなる。
「ＳＤＧ１．貧困をなくそう」「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」「SDG５．ジェンダー平等を実現しよう」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」「SDG１１．住み続けられるまちづくりを」「SDG１６．平和と公正をすべての人に」「SDG１７．パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

各領域の担当教員の指導、および配属された実習先の指導者の指示に従うこと。実習期間中は担当教員が訪問指導によって、質疑応答や相談に応じる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習にあたる「相談援助実習指導Ⅲ」の履修態度によっては、実習配属がなされない場合があるので各領域担当教員の指導を厳守すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

２３日間１８０時間以上の実習日程をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかかわり方を理解できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。	実習現場の職場の特性を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかかわり方」を説明でき、且つ、そのかかわり方をＳＷ理論で説明できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかかわり方」を説明でき、且つ実践できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかかわり方」を説明できた。	実習現場における「職種」について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをＳＷ理論で説明でき、ジェネリックソーシャルワークに消化できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをＳＷ理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅰ （科目ナンバリング：SWS124032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	6　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	職場実習１　シラバスの説明 身につく力の説明・・・ソーシャルワーク現場における実践力。	オリエンテーション時に配布されたプリントの熟読（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
2	職場実習２	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
3	職場実習3	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
4	職場実習４	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
5	職場実習５	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
6	職種実習１	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
7	職種実習２	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
8	職種実習３	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
9	職種実習４	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
10	職種実習５	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
11	ソーシャルワーク実習１	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
12	ソーシャルワーク実習２	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
13	ソーシャルワーク実習３	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
14	ソーシャルワーク実習４	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
15	ソーシャルワーク実習５	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
16	実習全体の総括 身につく力の検証…現場におけるスパービジョン及びケース研究発表会 「試験の講評・解説」「レポート等の添削・返却」「Ｅメールや Microsoft Teams・Forms、学内システム利用によるフィード	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　山腰　雅樹　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、制作現場に即した実践的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要

制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得する。

授業の方法

授業では資料やHTMLコード等をディスプレイに表示（画面共有）して解説を行いながら演習を行う。
授業内容は録画し、振り返り可能とする。
資料はオンライン、PDFで閲覧可能とする。
質問等は講義中でも個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

Figmaアカウント必須。（取得していない場合は授業内で取得を行う）
欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。
週に1日、連続して2回分の授業を行う為、遅刻・欠席すると次の授業の理解・進行が厳しくなるので注意すること。
不測の事態が起きた際はオンラインで参加することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	0%	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222032　　）				
授業担当者 （所属・職名）	山腰　雅樹（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　　山腰　雅樹　　）		CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 WEB制作にまつわる環境の基礎知識 サーバ・ドメインの基礎知識 科目を修了して「身に付く力」についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	jQueryの基礎知識 jQuery基礎演習①	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	jQuery基礎演習②	jQueryの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	レギュレーションについて（CSS・画像・フォント）	HTMLとCSSの基本について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	CSSのpositionについて CSSのFlexbox（flex）について	レギュレーションについて再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	CSSのグリッドレイアウト（grid）について	CSSのposition・Flexbox（flex）について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	レイアウト制作演習①	前回までの内容について再確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	レイアウト制作演習②	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	ページ制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
12	総合制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
13	総合制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
14	総合制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
15	総合制作演習④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
16	課題制作 フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと・該当資料を確認しておくこと（90分）	演習内容を振り返り知識を定着させること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技III(ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ) （科目ナンバリング：HSS522075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

共生社会の実現に寄与できる人材となるため、さまざまな情報の中から必要と思われる知識を幅広く理解・体得する科目である。さらに、教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず、作戦をいかした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、施設等の安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力が身につく。

授業全体の内容と概要

バドミントンの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

バドミントンという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をグループワークで指摘し合いディスカッションをして技術の改善に反映できるように工夫し進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。その他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	１０％	２０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解	基本技術を良く理解できた	基本技術をほぼ理解できた	基本技術をある程度理解できた	基本技術を理解できた	基本技術を理解できなかった
基本技術の実践	基本技術の実践が良くできた	基本技術の実践がほぼできた	基本技術の実践がある程度できた	基本技術の実践ができた	基本技術の実践ができなかった
戦術に関する理解	戦術に関して良く理解できた	戦術に関してほぼ理解できた	戦術に関してある程度理解できた	戦術に関して理解できた	戦術に関して理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技III(ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ) （科目ナンバリング：HSS522075　　）				
授業担当者 （所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	２０２４	9784469365638	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	基本技術の理解と実践①　グリップ、オーバーヘッド	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
3	基本技術の理解と実践②　アンダーハンド・プッシング、ハイクリアー	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
4	基本技術の理解と実践③　ドリブングリアー、ドロップカット	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
5	基本技術の理解と実践④　スマッシュ・ヘアピン・サービス	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
6	基本技術の確認	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
7	バドミントンのフットワーク	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
8	戦術に関する理解と実践①　シングルス	バドミントンの戦術を確認しておく（４５分）	バドミントンの戦術を理解しておく（４５分）
9	戦術に関する理解と実践②　ダブルス	バドミントンの戦術を確認しておく（４５分）	バドミントンの戦術を理解しておく（４５分）
10	審判法とゲーム運営	バドミントンのルールを確認しておく（４５分）	バドミントンのルールを理解しておく（４５分）
11	ゲーム　シングルス①	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ゲーム　シングルス②	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ゲーム　シングルス③	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ゲーム　ダブルス①	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ゲーム　ダブルス② 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	実技試験 フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	実技試験の準備をしておく（４５分）	試験内容を練習しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習 II （科目ナンバリング：SWS124033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実勢についての指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実践現場における８日間６０時間時間以上の職場・職種・ソーシャルワーク実習を通して、選択した実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについての理解を深め、さらに、他職種・他機関連携、地域連携などを通してジェネリックソーシャルワークに対する理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科の、DP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

・価値、職業倫理とワーカーの行動・態度の関係の理解、並びに価値の実現に関して具体的に理解する。
・利用者自身の抱えるニーズを様々な社会資源との関係で分析・評価し援助計画を立てる能力を習得する。
・援助過程を通して必要な専門的援助関係を構築し深める技術を習得する。
・利用者とその関係者の問題解決能力を高め、利用者と社会環境の調整を図る技術を習得する。
・地域社会、当該施設・機関の特性を評価し、その組織化を促進する技術を習得する。
・当該領域において用いられる社会資源の知識とそれを開発し、活用するための技術を習得する。
・恣意的な観察及び記録作成ができる。
・自己理解を深め自己の意識・感情のコントロールができる。その領域の特殊技法等を理解する。

授業全体の内容と概要

本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を終えた学生のみが、残り６０時間の実習を学習するものである。したがって「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を何らかの理由で実施できなかった、あるいは中途で諦めた学生は履修できない。併せて「ソーシャルワーク実習指導III・IV」の単位を取得できなかった学生も履修はできない。

°「ＳＤＧ１．貧困をなくそう」「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」「SDG５．ジェンダー平等を実現しよう」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」「SDG１１．住み続けられるまちづくりを」「SDG１６．平和と公正をすべての人に」「SDG１７．パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

各領域の担当教員の指導、および配属された実習先の指導者の指示に従うこと。実習期間中は担当教員が訪問指導によって、質疑応答や相談に応じる。場合によってはICTを活用した実習指導もありうる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習にあたる「相談援助実習指導III」の履修態度によっては、実習配属がなされない場合があるので各領域担当教員の指導を厳守すること。
不測の事態がある場合、オンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

８日間６０時間以上の実習日程をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかかわり方を理解できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。	実習現場の職場の特性を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかかわり方」を説明でき、且つ、そのかかわり方をSW理論で説明できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかかわり方」を説明でき、且つ実践できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかかわり方」を説明できた。	実習現場における「職種」について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明でき、ジェネリックソーシャルワークに消化できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅱ （科目ナンバリング：SWS124033　　）				
授業担当者 （所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）・大島　康雄（社会	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	現場実習１ 身につく力の説明・・・ソーシャルワーク現場における実践力	オリエンテーション時に配布されたプリントの熟読（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
2	職場実習２	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
3	職場実習3	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
4	職場実習４	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
5	職場実習５	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
6	職種実習１	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
7	職種実習２	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
8	職種実習３	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
9	職種実習４	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
10	職種実習５	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
11	ソーシャルワーク実習１	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
12	ソーシャルワーク実習２	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
13	ソーシャルワーク実習３	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
14	ソーシャルワーク実習４	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
15	ソーシャルワーク実習５	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）
16	実習全体の総括 身につく力の検証・・・実習におけるスーパービジョン及びケース研究発表会 「試験の講評・解説」「レポート等の添削・返却」「Ｅメールや Microsoft Teams・Forms、学内システム利用によるフィード	前回プリントの読み込み（９０分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ （科目ナンバリング：SWS123041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。

授業全体の内容と概要

①ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークについて学ぶ。
②ソーシャルアクションについて学ぶ。
③各分野における精神保健福祉士の実践展開について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ （科目ナンバリング：SWS123041　　）				
授業担当者 （所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 ソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	コミュニティワークについて①（精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	コミュニティワークについて②（地域における精神保健福祉の向上）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	ソーシャルアクションについて①（基本的視点・体制整備）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	ソーシャルアクションについて②（政策提言・政策展開）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	多職種連携について①（意義・目的・留意点など）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	多職種連携について②（チームビルディング・チーム形態と特徴）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	多職種連携について③（連携における精神保健福祉士の役割）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	ソーシャルアドミニストレーションについて①（概念・意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	ソーシャルアドミニストレーションについて②（組織と精神保健福祉士の関係性）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	ソーシャルアドミニストレーションについて③（実践モデル・組織運営管理の実際）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	実践展開について①（学校・教育分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	実践展開について②（産業分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	実践展開について③（司法分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	実践展開について④（災害・その他）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証） 授業評価アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅴ(ﾗｸﾞﾋﾞｰ) （科目ナンバリング：HSS522077　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し自らの技術向上のみならず作戦をいかした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意できる教員としての指導能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

ラグビーの基礎技術の習得及びルールを学び、ゲームが出来るように授業を進める。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

ラグビーという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をフィードバックしながら技術に反映できるように工夫し進めていく。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。その他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動技能（基本技能）	ラグビーの各技能に優れ充分にできた。	ラグビーの各技能が７割程度できた。	ラグビーの各技能が５割程度できた。	ラグビーの各技能が３割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。
競技知識（ルールの理解）	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。
社会的行動（挑戦する姿勢）	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅴ(ﾗｸﾞﾋﾞｰ) （科目ナンバリング：HSS522077　　）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　佐藤　和裕　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	２０１９	4469365603	
2	『ラグビー上達テクニック』	林　雅人	実業之日本社	２００９	4408452548	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	基本技術の理解と習得（ボールコントロール・パス）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
3	基本技術の理解と習得（ボールコントロール・キック）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
4	本技術の理解と習得（タックル）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
5	基本技術の理解と習得（スクラム）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
6	基本技術の理解と習得（ラインアウト）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
7	基本技術の理解と習得（モール・ラック）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
8	応用技術の理解と習得	ラグビーの応用技術を確認しておく（４５分）	ラグビーの応用技術を理解しておく（４５分）
9	戦術に関する理解と実践　攻撃編	ラグビーの攻撃について　確認しておく（４５分）	ラグビーの攻撃について　理解しておく（４５分）
10	戦術に関する理解と実践　守備編	ラグビーの守備について　確認しておく（４５分）	ラグビーの守備について　理解しておく（４５分）
11	試合形式による審判法の実践	ラグビーのルールについて　確認しておく（４５分）	ラグビーのルールについて　理解しておく（４５分）
12	試合形式による戦術の理解と実践　攻撃編	ラグビーの攻撃の戦術について確認しておく（４５分）	ラグビーの攻撃の戦術について理解しておく（４５分）
13	試合形式による戦術の理解と実践　守備編	ラグビーの守備の戦術について確認しておく（４５分）	ラグビーの守備の戦術について理解しておく（４５分）
14	試合形式（少人数でのゲーム）	少人数でのゲームについて確認しておく（４５分）	少人数でのゲームについて理解しておく（４５分）
15	試合形式（ゲーム）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	総合評価、到達度確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	ラグビーの特性やルールについて確認しておく（４５分）	指導における留意点を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾀﾞﾝｽ （科目ナンバリング：HSS522079　　）				
授業担当者 （所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　是枝　亮　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学校教育においてダンス教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。まずは履修者自身がダンスを楽しむ素養を身に付け、親しみを持てるようにする。その過程において、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

ダンスに親しみ、楽しめむことができる。ダンスの基本の動き、音楽に合わせた動きの表現を理解し発表できるようになる。

授業全体の内容と概要

ダンスの基本の動き、音楽に合わせた動きの表現を中心に学び、最終的には課題に応じた創作ダンスの発表ができるようにする。

授業の方法

毎回の授業の中で、様々なダンスの動きや表現を学習する。
単なる模倣ではなく、個人やグループでテーマやモチーフを表現したダンスを創作していく。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装で参加すること。
その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１1回以上。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	３０%	０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ダンスに対する姿勢	音楽に合わせて自然と身体を動かしたり、自己の持つ考えや決められたモチーフついて表現することに楽しみを覚え、授業を通じてダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて身体を動かしたり、決められたモチーフついて表現することを楽しむことがあり、ダンスに対して親しみを持てる場面もあった。	音楽に合わせて表現することを楽しみ、発表会等に向けて表現や創作をすることができた。	音楽や表現を楽しみ、身体を動かすことができた。	音楽に合わせた動きや表現に、積極的に取り組むことができなかった。
グループでの創作および発表	グループでの創作において、主体的にテーマに対する斬新なアイデアや大胆な動きの提言し、印象的な作品の創作につなげることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアを考え、主体的に作品創作をすることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアについての話し合いに十分参加できた。	グループでの創作や、他者の前での発表ができた。	グループでの創作や、他者の前での発表が十分できなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとるこがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾀﾞﾝｽ （科目ナンバリング：HSS522079　　）				
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1　（単位認定責任者：　是枝　亮　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引』』	文部科学省	東洋館出版社	2013　年	9784491029771	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス・レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認　（４５分）	ガイダンス内容の　理解（４５分）
2	からだほぐし、ダンスへの導入	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
3	ダンスへの導入　リズムに合わせて動く	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
4	ダンスへの導入　誰かと一緒に動く	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
5	ダンスへの導入　動きから作品へ	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
6	即興による表現　他者との関係	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
7	即興による表現　ものを使った表現	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
8	即興による表現　他者との関係	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
9	即興による表現　空間を活かした表現	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
10	作品創作への導入　イメージ・表現・動き	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
11	作品創作への導入　テーマ・モチーフ	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
12	作品創作	作品創作の準備　（４５分）	進捗の振り返りと　確認（４５分）
13	作品創作	発表会へ向けた創作（４５分）	進捗の振り返りと　確認（４５分）
14	作品創作	発表会へ向けた創作（４５分）	進捗の振り返りと　確認（４５分）
15	発表会	発表会への準備　（４５分）	作品の振り返り　（４５分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（４５分）	身に付いた事の確認　（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 （科目ナンバリング：HSS522080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）　岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階（三嶋）　１号館２階（岡田）		
単位数	1　（単位認定責任者：三嶋　康嗣　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

柔道の技術（礼法、基本動作、対人技能の投技・固技等）を自から身につけ、安全に配慮しながら指導できるよう、指導法を身につける。練習方法と審判法、試合運営法を習得し、安全かつ健康を保持増進し、嘉納治五郎先生の精神である「人格の完成をはかり、社会に貢献できる」する素養を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。
基本動作、対人的技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。
また、安全指導のあり方を学習する。

授業全体の内容と概要

基本動作、基本的な技術を実践し習得する。
安全指導への注意点を学び実践する。
試合運営の方法を習得する。

授業の方法

授業は実技のため、各人の技量が必要となってくる。基本的な動作（礼法・受身・技）を習得し、安全に注意を払いながら指導できるようにしていく。また、審判法やルールを理解し、円滑に試合運営ができるようにする。欠席・見学は無いよう体調管理に気を付け技の習得につとめる事。習得状況の確認試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

初回講義を欠席した場合は履修を認めない。
柔道衣を正しく清潔に着用する。柔道衣はIJF規格若しくは全日本柔道連盟規格に適合するものを用意する。
武道の精神である、礼節を大切に励行する。
ルールで決められている、危険な物は身につけない（時計・指輪・ピアス・ミサンガ等）。
体調の悪い時は、事前に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	０%	０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
柔道に対する関心・意欲・態度・判断	日本古来の武道である柔道の精神を理解し、自ら意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	指示された事を普通に行い、安全に注意を払っていた。	指示されたことが理解できず、意欲もなく安全に注意を配っていなかった。	指示どおりにおこなわず、意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	礼法・受身・技の理合いを理解し、各項目において特に優れている技能を有する事ができた。	各項目において技能が7割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が5割程度習得できている事がた。	各項目において技能が3割程度しか習得できていなかった。	各項目において技能が習得できていない、やる気がなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	審判規定を完全にマスターし、審判やゲームの運営をスムーズに実施することができた。	審判規定をマスターし、審判やゲームの運営を助言を受けながら実施することができた。	審判規定を最低限マスターし、審判やゲームの運営を行うことができた。	審判規定を理解することができず、部分的にしか審判やゲームの運営をすることができなかった。	審判規定を習得できず、審判やゲームの運営を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 （科目ナンバリング：HSS522080　　）				
授業担当者 （所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）　岡田　武志（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館２階（三嶋）　１号館２階（岡田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　三嶋　康嗣　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『柔道上達BOOK』	小俣幸嗣	成美堂出版	2004		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業の進め方、柔道の教育的意義、武道の歴史）シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読み確認をおこなう（４５分）	ガイダンスの内容を理解する（４５分）
2	柔道衣の着方、礼法、指導のあり方と基本動作と受身（後受身、横受身、横転受身）	事前に柔道衣の着方、礼法、受身を学習する(４５分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(４５分)
3	基本動作、受身の復習（前回受身）、安全な投げ方、固技（袈裟固）	事前に基本動作の知識や投げ方の学習をする(４５分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(４５分)
4	投技（膝車、支釣込足）、固技（横四方固）	事前に膝車、支釣込足、横四方固の学習を行う(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
5	投げ技（体落、大腰）、固技（上四方固）、固技のゲーム	事前に体落、大腰、上四方固の学習を行う(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
6	投技（小内刈、大内刈、大外刈）、固技（縦四方固）、固技のゲーム	事前に小内刈、大内刈、大外刈、縦四方固の学習を行う(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
7	投技、固技の復習、約束練習、固技の簡易試合	事前に今まで習得した技の復習を行っておく(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
8	投技（背負投、一本背負投）、約束練習、かかり練習、固め技の簡易試合	事前に背負投、一本背負投の投げ方を学習する(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
9	かかり練習、約束練習、自由練習の練習法	事前に練習方法の学習を行う（４５分）	本日の授業内容を復習し、さまざまな練習法を習得する（４５分）
10	投技（払腰、内股）、固技（絞技と関節技の原理と安全指導）	事前に払腰、内股、絞技、関節技の学習をする(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（４５分）
11	投技１１・固技６つの復習、約束練習	事前に、今までに学習した技を復習しておく（４５分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（４５分）
12	試合の方法、審判法、かかり練習、自由練習	事前に試合の方法、審判法を学習する（４５分）	本日の授業内容を復習し、審判法の習得に努める（４５分）
13	試合の運営法、技の判定基準、約束練習、かかり練習、自由練習	事前に審判法の復習及び試合の運営方法を学習する（４５分）	本日の授業内容を復習し、審判法、試合運営法を習得する（４５分）
14	簡易試合を通じ、試合の運営方法、審判法、技の判定基準、役割、役割分担を学ぶ	事前に13時間目の復習をしておく（４５分）	試合の運営法を習得し、安全に試合が運営できるか理解し工夫をする（４５分）
15	ミニ大会を実施、運営法を学ぶ	スムーズに大会を行えるよう手順を学習する（４５分）	技術、指導法、審判法を習得し、安全に授業を行えるようにする（４５分）
16	実技試験、到達度確認、授業に係る講評・解説によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施	実技試験の為の用具等の準備を行う（４５分）	指導における留意点を復習し、円滑に授業が行えるようまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

①教科書をもとに、実習事前・実習中・実習事後の学習方法を理解する。
②事前には、実習の目的と構造（実習および実習指導の意義や目的、実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価、実習の構造、実習におけるリスクマネジメント）、実習先に向けた準備（情報収集の方法、実習記録の書き方、精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解）、実習先決定後の準備（実習先決定後の学習の内容と方法、実習計画の作成、事前訪問／事前打ち合わせ）を行い、実習中には、実習スーパービジョン、実習中の評価、実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題から学び、事後には、実習後に行う評価、事後学習の目的と方法、実習成果の報告（実習報告会）を通じて振り返りを行う。
「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」、「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

①教科書の主要な内容をまとめたレジュメを作成し報告することを通して、実習前・中・後に必要となる準備を行う。報告の分担は授業開始後に決定する。
②実習配属先が決定後、実習に向けた事前学習・実習計画書の作成を通して、自らの実習課題を設定すること。事前学習・実習計画書は個別指導を実施する。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams／Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②実習準備を行うことから出席を重視する。やむを得ず遅刻や欠席をするときには事前に連絡をすること。
③講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師による講義等も実施の予定である。実習生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。成績は、レジュメの作成・報告（２０点）、事前学習・実習計画書の作成（５０点）、平常点（３０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122047　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習【精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１年	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 オリエンテーション、講義ー演習ー実習の循環	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造①（実習および実習指導の意義と目的）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造②（実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造③（実習における教育評価、実習の構造）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	実習先決定に向けた準備①（情報収集の方法、実習記録の書き方）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	実習先決定に向けた準備②（精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	実習先決定後の準備①（実習先決定後の学習の内容と方法）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	実習先決定後の準備②（実習計画の作成、事前訪問／事前打ち合わせ）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	実習中の学習①（実習スーパービジョン、実習中の評価）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	実習中の学習②（実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
11	実習後の学習①（実習後に行う評価、事後学習の目的と方法）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	実習後の学習②（実習成果の報告）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	実習の実際①（実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	実習の実際②（精神科医療機関における実習）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	実習の実際③（障害福祉サービス事業所における実習）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	実習の実際④（行政機関における実習）、まとめ 科目を終了して『身に付く力』についての検証 実施した授業のフィードバック	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅱ （科目ナンバリング：CHS123094　　）				
授業担当者 （所属・職名）	中瀬　陽一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　中瀬　陽一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉法人での実務経験をもとに実践に必要な知識と能力を身につける。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応する。				

概要

履修目標

以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。
①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。
②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP５に対応する。

到達目標

①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解することができる。
②施設養護及び家庭養護の実際について理解することができる。
③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解することができる。
④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。
⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。
②施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。
③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。
④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。
⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。
SDG１．「貧困をなくそう」の関連授業

授業の方法

授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等を行い、それに基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

保育士を目指す者として積極的に参加し、専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し保育士を目指す者としての自己覚知を重視すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、ほぼ理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、やや理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができなかった。
施設養護及び家庭養護の実際について	施設養護及び家庭養護の実際について、理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、ほぼ理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、やや理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができなかった。
社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、やや理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができなかった。
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、やや理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができなかった。
社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、やや理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅱ （科目ナンバリング：CHS123094　　）				
授業担当者 （所属・職名）	中瀬　陽一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　　中瀬　陽一　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉法人での実務経験をもとに実践に必要な知識と能力を身につける。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク実践の事例分析第20号』	北川清一・内田実希・藤本拓己	ソーシャルワーク研究所	2024	21889767	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認及びレポートの提出に関する説明を含む）、社会的養護における子どもの理解 授業改善アンケートの結果反映説明（履修によって「身に付く力」の説明を含む）	社会的養護とは（９０分	演習の記録と自己覚知（９０分）
2	社会的養護の内容①日常生活支援	日常生活とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
3	社会的養護の内容②治療的支援	治療とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
4	社会的養護の内容③自立支援	自立とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
5	社会的養護の実際①施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
6	社会的養護の実際②家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
7	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントとは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
8	記録及び自己評価	記録のあり方について（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	保育の専門性とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
10	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の知識・技術について（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
11	社会的養護における家庭支援	家庭支援について（９０分）	レポート作成（９０分）
12	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と展望について（９０分）	レポート作成（９０分）
13	社会的養護に関わる事例研究	事例研究（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
14	社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ	ロールプレイの準備（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
15	まとめ（授業改善アンケートの実施）	文献学習（９０分	文献学習（９０分
16	フィードバックとしてレポートに対する解説を行う 「身に付く力」の検証	文献学習（９０分	文献学習（９０分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅴ(表現) （科目ナンバリング：CHS122082　　）				
授業担当者 （所属・職名）	笠見　康大（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　笠見　康大　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての専門性を有している。この実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「表現」の領域から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

領域「表現」の理念を基に，子どもの多様な表現についての理解を深めながら、適切な環境設定や関わり方について具体的に述べることが出来る。

授業全体の内容と概要

保育における領域「表現」を学修する。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
最後に「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。
なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
製作に必要な物はオリエンテーション時に説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「表現」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「「表現」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。
思考力判断力表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅴ(表現) （科目ナンバリング：CHS122082　　）				
授業担当者 （所属・職名）	笠見　康大（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　笠見　康大　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての専門性を有している。この実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 子どもの姿に学ぶ 保育における領域「表現」のねらいと内容	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育内容「表現」と他領域の関係 表現とICT	指針「表現」を事前学習しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育室における表現① 保育室における表現②	環境保育について事前学習しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	保育室における表現③ 屋外における表現①	表現の基礎について事前学習しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	屋外における表現② 屋外における表現③	発達過程を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	地域・行事における表現① 屋外における表現②	保育の阻害環境について事前学習しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題を作成する（９０分）。
7	屋外における表現③ 幼児期からみた連携プログラム	ここまでに学んだことを整理しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	児童期からみた連携プログラム 授業最終回で講評し、フィードバックする（「身に付く力」の検証）	「表現」の意義を事前学習しておく（９０分）。	８回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123093　　）				
授業担当者 （所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育全般と発達障害）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

障害のある子どもの保育に携わる保育士に必要なさまざまな援助技能を、シミュレーション学習をとおして習得するとともに、子ども１人ひとりの発達課題と生活課題を明らかにすることによって保育場面で援助技能を適切に活用して援助することを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

障害のある乳幼児の障害特性を知るとともに、障害のあるなしにとらわれない視点から保育実践を行うことのできる保育士になるために、必要な知識・技術について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

統合保育場面や家族支援の事例に基づき、ロールプレイ等のシミュレーション学習を通して、遊びや対人関係の援助、日常生活動作等に関する具体的な保育技術、保育計画の立案や面接・記録の技法の実際を学び、保育士としての心構えを取得する。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で教科書の内容を確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着をはかる。また、DVD で具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のVTR 教材を視聴した後に、事例に基づいたレポート作成を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・指定教科書は必ず持参して授業を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	20%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害児保育Ⅱの理解	障害児保育Ⅱについて、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	障害児保育Ⅱについて、必要な知識・技能を理解することができた。	障害児保育Ⅱについて、一定程度の理解ができた。	障害児保育Ⅱについて、一部理解することができた。	障害児保育Ⅱについて、理解ができなかった。
障害児保育Ⅱの思考・判断・表現	障害児保育Ⅱについて、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	障害児保育Ⅱについて、思考・判断し、自ら表現することができた。	障害児保育Ⅱについて、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	障害児保育Ⅱについて、思考することができた。	障害児保育Ⅱにかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業へのいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123093　　）				
授業担当者 （所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育全般と発達障害）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『実戦事例を通して具体的なかかわりを学ぶ　保育現場における特別支援』	松井剛太・七木田敦編著	教育情報出版	2023年	978-4-909378-49-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、障害児保育Ⅱの概要 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを確認しておくこと　（９０分）	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる（９０分）
2	保育場面の事例を通して学ぶ①（アセスメント）	教科書の「障害のある子どもの保育とは」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	保育場面の事例を通して学ぶ②（保育計画の立案）	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	保育場面の事例を通して学ぶ③（保育計画の立案２）	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	保育場面の事例を通して学ぶ④（ロールプレイ 個別援助）	教科書の「かかわりの基本・ていねいなかかわり」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	保育場面の事例を通して学ぶ⑤（ロールプレイ 集団援助）	教科書の「学習に障害のある子どもの保育」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	家族支援の事例を通して学ぶ①（アセスメント）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	家族支援の事例を通して学ぶ②（面接場面のロールプレイ）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	家族支援の事例を通して学ぶ③（保護者会運営のロールプレイ）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	スーパービジョンとチームワーク①（所内ケース検討会議のロールプレイ）	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	スーパービジョンとチームワーク②（所内ケース検討会議のロールプレイ）	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
12	ＤＶＤの視聴及びレポートの作成	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ＤＶＤ視聴時のメモを元に整理する。（９０分）
13	他機関連携の事例を通して学ぶ①（児童相談所・保健所）	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	他機関連携の事例を通して学ぶ②（早期療育システム）	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
15	障害児保育にかかわる保育士の資質について総合的に検討する。 「授業改善アンケートの実施」	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
16	定期試験「６０分の試験終了後、残り３０ 分で解説をし、フィードバックする」 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(９０分)	試験の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ生理学 （科目ナンバリング：SPS522054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

運動・スポーツによる身体機能の変化について理解し、競技スポーツおよび健康増進のために必要な運動処方や理論を指導する知識を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する科目。

到達目標

人間の筋・神経・呼吸・循環における生理学的基礎知識を説明できる。運動・スポーツにおける生理学的変化を理解し、健康維持や運動能力向上に効果的な運動処方を指導できる。

授業全体の内容と概要

前半は、骨格筋の収縮、呼吸に伴うガス交換や酸素摂取の基礎知識を学ぶ。後半はホルモン、体脂肪、体温、栄養と身体機能の関係について学び、さらには老化と身体機能、運動と生活習慣病との関係も理解させる。「SDG3．すべての人に健康と福祉を」「SDG5．ジェンダー平等を実現しよう」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマについてパワーポイント及び配布物資料で講義する。また、スポーツ現場で起こる生理的要因が影響するシーンを題材にしてグループディスカッションを行い理解を深める。双方向授業を展開するためにMentimeterやMicrosoft Teams を活用したExcelやPower Pointでの意見集約・共同作業を行う。また、確認テストをMicrosoft Formsで時間内に実施し学生全体の理解度を把握し、指導する。フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で１回の欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	４０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても修得できた。	学習した知識・技能をおおむね修得できた。	学習した知識・技能を一定程度修得できた。	学習した知識・技能を最低限容認できるレベルで修得できた。	学習した知識・技能を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ生理学 （科目ナンバリング：SPS522054　　）				
授業担当者 （所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門運動生理学』	和田正信	杏林書院	２０１５	9784764411593	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	スポーツ生理学について シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ生理学とはどのような分野であるかを予習し理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
2	筋収縮とエネルギー 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
3	筋線維の種類と特徴 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
4	筋の収縮様式と筋力 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
5	神経系の役割 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
6	運動と循環 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
7	運動と呼吸（ガス交換、酸素解離） 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
8	運動と呼吸（酸素摂取量） 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
9	運動とホルモン 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
10	身体組成と肥満 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
11	運動と体温 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
12	運動と疲労 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
13	運動と栄養 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
14	老化と身体機能 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。（９０分）
15	運動と生活習慣病 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	学習内容の復習をしておくこと。（９０分）
16	試験 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	試験範囲を復習し、スポーツ生理学の専門知識を説明できるようにしておくこと。（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅰ （科目ナンバリング：CHS123099　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）　湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（吉江）　１号館３階（湯浅）		
単位数	4　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育士として保育園での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

１．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
４．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

保育所実習、児童福祉施設等実習を通して、保育士を志す者としての自己覚知ができ、継続課題を見出す。

授業全体の内容と概要

保育所実習（１０日以上）、保育所以外の児童福祉施設等実習（１０日以上）を通して、保育士の役割や機能、計画と記録について学修する。専門職としての保育士の役割と職業倫理について学修する。「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

前期に保育所実習（１０日以上：２単位）と後期に保育所以外の児童福祉施設等（１０日以上：２単位）の実習合計４単位を履修する。実習先の保育士から指導を受け、また実習期間中は大学の担当教員の訪問指導を受けることができ、質問や相談の時間を設定し、実習先の指導者からのコメント等をフィードバックする。実習中であってもMicrosoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①レポート、課題、その他（実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等）を基準に則り評価する。
②正当な理由なき遅刻や欠席及び保育者の資質に欠けると判断された学生は、実習をとりやめとする。
③実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価（単位認定）しない。
④実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためのレポート提出１回課す。なお，詳細（レポート課題・提出方法等）は授業時間に指示する。
⑤保育実習履修要件として２年次後期の実習選考試験の合格及び次の科目を取得している事を原則とする。
「児童・家庭福祉」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「保育内容演習Ⅰ～Ⅲ」等詳細は年度初めのオリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等を評価方法の基準に則り総合的に評価する。
※評価基準は、「保育実習指導のミニマム・スタンダード」（全国保育士養成協議会）に則り評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１０%	１０%	２０%	１０%	１０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか，何ができるか)	保育の専門知識の活用について十分に理解した。	保育の専門知識の活用について概ね理解した。	保育の専門知識の活用について理解した。	保育の専門知識の活用について多少は理解した。	保育の専門知識の活用について充分に理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること，できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを，記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを，記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを，記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを，記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを，記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識，スキルを使いこなす活用，応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅰ （科目ナンバリング：CHS123099　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）　湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（吉江）　１号館３階（湯浅）		
単位数	4　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育士として保育園での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド　第二版』	石橋裕子・林幸範編著	同文書院	２０２０	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『実習の手引き』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 シラバス及び科目の履修を通して「身に付く力」の説明を含む（吉江・湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる（４５分）
2	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
3	保育所保育指針に基づく保育の展開（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
4	子どもの観察とその記録による理解（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
5	子どもの発達過程の理解（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
6	子どもへの援助や関わり（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
7	保育の計画に基づく保育内容（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
8	子どもの発達過程に応じた保育内容（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
9	子どもの生活や遊びと保育環境（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
10	子どもの健康と安全（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
11	全体的な計画と指導計画及び評価の理解（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
12	記録に基づく省察・自己評価（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
13	保育士の業務内容（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
14	職員間の役割分担や連携・協働（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
15	保育士の役割と職業倫理（吉江）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
16	保育所実習のまとめ、フィードバック 科目を履修して「身に付く力」の検証（吉江）	実習の総括と課題の明確化を行い、実習最終日に備える（４５分）	日誌を全日程完成させ提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	施設実習オリエンテーション（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
18	施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
19	施設の役割と機能（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
20	子どもの観察とその記録（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
21	個々の状態に応じた援助や関わり（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
22	計画に基づく活動や援助（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
23	子どもの心身の状態に応じた生活と対応（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
24	子どもの活動と環境（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
25	健康管理、安全対策の理解（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
26	支援計画の理解と活用（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
27	記録に基づく省察・自己評価（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
28	保育士の業務内容（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
29	職員間の役割分担や連携（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
30	家庭・地域社会に対する理解と連携（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
31	保育士の役割と職業倫理（湯浅）	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）
32	施設実習のまとめ フィードバック 科目を履修して「身に付く力」の検証（湯浅）	実習の総括と課題の明確化を行い、実習最終日に備える（４５分）	日誌を全日程完成させ提出する（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講III （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	1　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術・デザインに関する幅広いビジネス経験を持つ教員が、経験を基に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術分野全般の学びを以て、地域社会や産業界に貢献するとは如何なることなのか？　様々な課題やテーマに携わりながら実地で学び、必要とされる知識や能力、心構えを身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP3、DP5に対応する。

到達目標

授業で取り組んだ課題について、正しく理解し、意見や感想、改善点などを持つことができる。
応用能力を以て、更なる展開を構築できる。

授業全体の内容と概要

学内外で生じる様々な美術に関する実務案件に取り組み、求められる工程［取材～計画～設計～実行～発表］に沿って課題を達成し、成果を挙げる。

授業の方法

課題の説明を行う。この時に必要ならば外部担当者にも同席いただき、資料の提供を求める。
提供する資料は、全てPDFとし、これを共有できる環境を整備する。
必要な場合は、各自が取材活動を行い、案件に取り組むための知識を充実させる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、計画の進行状況をチェックする。
パソコンやアプリなど、技術的なサポートは行わないが、各自が社会的汎用性は持っていなければならない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	100%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解している」	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解し、実践するための能力を備えている	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解している	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性をほぼ理解している	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解が不十分である	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解していない
思考力・判断力・表現力「個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことができる」	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことができ、成果を挙げるだけの能力を身に付けている	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことができる	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことの重要性を理解し、努力している	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことの重要性は理解しているが、それを自薦するレベルには到達していない	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことの重要性を理解できていない
主体性・多様性・協調性「主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることができる」	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることができ、成果を挙げるだけの能力を身に付けている	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることができる	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求め、行動することの重要性を理解し、努力している	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることの重要性は理解しているが、それを自薦するレベルには到達していない	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることの重要性を理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講III （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	1	（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術・デザインに関する幅広いビジネス経験を持つ教員が、経験を基に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」の説明 ガイダンス	シラバスを一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	ミーティング「課題の確認」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	ミーティング「準備計画の作成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	案件に関する取材活動①	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	案件に関する取材活動②	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	案件に関する取材活動③	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	案件に関する取材活動④	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	中間発表と確認	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	ミーティング「作業計画の作成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	制作①「設計」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	制作②「設計」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	制作③「設計」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	制作④「完成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	制作⑤「完成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	プレゼンテーション～講評	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容の確認と振り返り（４５分）	授業内容の整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	1　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術・デザインに関する幅広いビジネス経験を持つ教員が、経験を基に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術分野全般の学びを以て、地域社会や産業界に貢献するとは如何なることなのか？　様々な課題やテーマに携わりながら実地で学び、必要とされる知識や能力、心構えを身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP3、DP5に対応する。

到達目標

授業で取り組んだ課題について、正しく理解し、意見や感想、改善点などを持つことができる。
応用能力を以て、更なる展開を構築できる。

授業全体の内容と概要

学内外で生じる様々な美術に関する実務案件に取り組み、求められる工程［取材～計画～設計～実行～発表］に沿って課題を達成し、成果を挙げる。

授業の方法

課題の説明を行う。この時に必要ならば外部担当者にも同席いただき、資料の提供を求める。
提供する資料は、全てPDFとし、これを共有できる環境を整備する。
必要な場合は、各自が取材活動を行い、案件に取り組むための知識を充実させる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、計画の進行状況をチェックする。
パソコンやアプリなど、技術的なサポートは行わないが、各自が社会的汎用性は持っていなければならない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	100%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解している」	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解し、実践するための能力を備えている	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解している	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性をほぼ理解している	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解が不十分である	共生社会を実現する人材をめざすため、主体性を以て多様な人々や社会との関りを持つことの重要性を理解していない
思考力・判断力・表現力「個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことができる」	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことができ、成果を挙げるだけの能力を身に付けている	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことができる	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことの重要性を理解し、努力している	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことの重要性は理解しているが、それを自薦するレベルには到達していない	個人や団体など様々な社会の求めに応じて、計画的に課題に取り組むことの重要性を理解できていない
主体性・多様性・協調性「主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることができる」	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることができ、成果を挙げるだけの能力を身に付けている	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることができる	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求め、行動することの重要性を理解し、努力している	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることの重要性は理解しているが、それを自薦するレベルには到達していない	主体的に課題に取り組み、他者と協力して問題解決や展開を求めることの重要性を理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	１　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術・デザインに関する幅広いビジネス経験を持つ教員が、経験を基に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」の説明 ガイダンス	シラバスを一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	ミーティング「課題の確認」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	ミーティング「準備計画の作成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	案件に関する取材活動①	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	案件に関する取材活動②	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	案件に関する取材活動③	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	案件に関する取材活動④	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	中間発表と確認	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	ミーティング「作業計画の作成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	制作①「設計」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	制作②「設計」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	制作③「設計」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	制作④「完成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	制作⑤「完成」	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	プレゼンテーション～講評	授業内容の確認と進度のチェック（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容の確認と振り返り（４５分）	授業内容の整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 （科目ナンバリング：SOP122057　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

社会心理学は私たちの日常生活をあつかう学問である。この授業では、「私たちが社会からどのような影響をうけているのか」、「私たちが社会をどのように理解しているのか」について学習する。
理解するためのアプローチは大きく２つがある。一人ひとりの人間の心の仕組みに関心を向ける「心理学的社会心理学」と、集団に関心をおいてマクロな構造や社会的変化をあつかう「社会学的社会心理学」（中村陽吉：2006）である。
ここでは、社会学的理解と心理学的理解の２つの観点から、社会意識、実験社会心理学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3，DP４、DP５に対応する。

到達目標

①社会心理学の基本になる学術用語の説明ができる。
②社会心理学の応用領域における日常生活について、概念である学術用語、理論等を用いて課題を把握して考察ができる。

評価基準の５指標は、履修目標をこえた（S）、履修目標をほぼ達成できた（A）、履修目標と到達目標の間であった（B）、到達目標をみたす、合格最低レベル（C）、到達目標に達することができなかった不合格（F）の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性と絶対性が勘案される規定があるので留意する。

授業全体の内容と概要

「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会心理学における自己選択、自己決定について学習する。日常生活において私たちの思考や行動が「適応的無意識」のなかで大量の情報処理を瞬時におこなっている、その情報の解釈過程について考察する。

授業の方法

「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担報告について説明をおこなう。
文献精読は縮約（大野晋『日本語練習帳』岩波書店、1999）、三色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005）、論理的な文章；段落と全体の要旨把握（遠藤・渡辺：2021）の技法をもとに、プレゼンテーション、グループワーク、文献読解（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）の授業構成になる。
「使用教材」：授業はテキスト、副教材（プリント資料、映像資料）を紹介しながら、自己研究についての社会心理学基礎を学修する。
「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
履修学生は、文献精読、報告作業を担当する。
個別報告とレポート作成提出は、協同学習として役割と時間を遵守する。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定には、次の3要件を満たす必要がある。
① 出席要件：全授業回数の 3 分の 2 以上（最低 10 回）に出席すること。
② 文献精読の分担報告を行うこと。本文およびソースノートの要旨をまとめ、新しい知見や学術用語について、具体例を挙げて説明・記述する。各自、計 2 回実施する。
③ 学修のまとめとして、レポートを作成・提出すること。テキストに線を引き、書き込みながら読み進める「アクティブ・リーディング」を実践し、その確認のため、各自テキスト作業を終えた後、提出の準備を進める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	６０%	０%	０%	0

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	文献の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明した。	文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。	文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。	文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶことについて、充分ではないが、自分の言葉で説明をおこなうことができた。	文献の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。
収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 （科目ナンバリング：SOP122057　　）				
授業担当者 （所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　松下　守邦　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	２０１４	9784167901554	文春文庫S13-1
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『自分とは何か-「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	２０１１	9784769912415	
2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	２０１２	9784163756004	
3	『THINK BIGGER』	S・アイエンガー	NewsPicksパブリッシング	２０２３	9784910063348	
4	『新　心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	２００６	9784892428401	
5	『現代文解釈の基礎』	遠藤嘉基・渡辺実	筑摩書房	２０２１	9784480510730	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果反映と、本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。学生報告の役割分担を確認する。	シラバスを熟読する（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	自我の３側面（C・H・クーリー）、「人間の自我は、他の人間の認識や評価を想像し、それによって生じる自己感情からなっている」（船津衛：2011）、社会学における自己認識、移民の社会的移動と地位達成（永吉希久子：2020）。	配布資料を読んで予習をする。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
3	運命、偶然と選択、自分自身、自分の置かれた環境とセルフ・コントロール、自己決定権の自己認識	テキスト第1講Ⅰ～Ⅳを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
4	宗教と幸福度、個人主義的文化と集団主義的文化の自己認識	テキスト第2講Ⅰ～Ⅵを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
5	恋愛結婚と取り決め婚、日本人とアメリカ人の自己認識	テキスト第2講Ⅴ～Ⅷを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
6	バーナム効果、認知不協和、就職活動の自己認識	テキスト第3講Ⅰ～Ⅱを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
7	他者の自己評価、多面評価とフィードバック、社会資本の変化とエコーチェンバー効果がもたらす自己認識	テキスト第3講III～Ⅳを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	マシュマロテスト、ヒューリスティック、提示方法バイアス、確認バイアス、感情の自己認識	テキスト第4講Ⅰ～Ⅳを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	視覚文化、流行、単純接触効果、広告と自己認識	テキスト第5講Ⅰ～IIIを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
10	プライミング、投票行動と自己認識	テキスト第5講IV～VIを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
11	選択条件、選択行動、マジカルナンバー、ロングテールと自己認識	テキスト第6講Ⅰ～IIIを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
12	退職金積立制度、医療保険制度、選択の多様性、選択の飽和と自己認識	テキスト第6講IV～VIを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
13	医療における治療方針の選択行動、父権主義、絶対的価値、相対的価値と自己認識	テキスト第7講Ⅰ～IIIを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
14	選択的決定、非選択的決定、心理的反発、アクラシア、自己決定の委譲と自己認識	テキスト第7講IV～VIIを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
15	三元（選択、偶然、運命）の連立、直感、熟考、選択死と自己認識	テキスト最終講の予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
16	自己研究の心理学的理解と社会学的理解の総括 授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証、授業改善アンケートを実施する。	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 （科目ナンバリング：POL123133，POL422050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際社会の抱える諸問題の歴史と現状および国際政治を把握するための基礎的な理論を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

①国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。
②国際政治に関する理論を理解し説明することができる。
③国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができる。

授業全体の内容と概要

国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日、世界の国々はますます相互に依存し合うようになっている。この授業では、国際社会が抱える諸問題について、歴史的な経緯と国際政治の理論をもとに学んでいく。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会）の選択科目、教職課程（公民）の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。	国際政治の歴史的な展開を高いレベルで理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開をある程度理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。	国際政治に関する理論を高いレベルで理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を正確に理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論をある程度理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができなかった。
国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができる。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて高いレベルで考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて十分に考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いてある程度考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 （科目ナンバリング：POL123133，POL422050　　）				
授業担当者 （所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	国際関係の成立	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	第一次世界大戦	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	第二次世界大戦―ヨーロッパ	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	第二次世界大戦―アジア	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	冷戦の始まり	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	冷戦の展開	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	冷戦後の国際政治―湾岸戦争	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	冷戦後の国際政治―９・１１アメリカ同時多発テロ	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	日米関係の歴史	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	国際政治理論からみた日米関係	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	東アジアの国際情勢（朝鮮半島）	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	東アジアの国際情勢（中国）	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	国際政治の理論	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分の試験終了後、残りの解説３０分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、経営学科２０２５年度入学以前		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 （科目ナンバリング：ECP123134，ECP422030，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小早川　俊哉（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き（特に要因）を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより，将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようになる。　日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP２、DP３、DP４に対応する科目
経営学部のDP２、DP３、DP４に対応する科目

到達目標

国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。
国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。
地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、APEC・EUの経済統合の大枠を理解する。

授業全体の内容と概要

グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合（EU・ユーロ圏）の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。
「SDGIO. 人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

①授業のポイントを記したレジュメ（プリント）をキャンパスクロスの資料に格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。
②開始５分程は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は，パワーポイントを使用し、レジュメの空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。　質問には随時対応する。
③復習を兼ねて、授業中のメモと書籍などを参考にノートにまとめることを推奨する。
④中間試験（論述）を採点後返却する際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の積極性（質問、質問への解答など）は、その場で確認することで成績に反映させる。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。
講義で使用したパワーポイントは、単元終了後にteamsのファイルに格納する。

資格指定科目

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１／１６回以上（１６回目は定期試験）。
積極的な授業参加（発言する，質問する，回答する，メモを取る，など）を平常点とする。
論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	３０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎理論を理解する。	どの国の経済政策が，どのように，日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	日本の経済状況と経済政策の関連を説明することができた。	総需要と総供給の関連を理解できた。	財政政策，金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策，金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替について理解できた。	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合について理解できた。	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として，通貨統合のメリットとデメリットを説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、経営学科２０２５年度入学以前		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 （科目ナンバリング：ECP123134，ECP422030，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小早川　俊哉（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　小早川　俊哉　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（特に、科目を終了して「身に付く力」についての説明を含む）、授業改善アンケート結果反映の説明、及びオリエンテーションとして市場メカニズムについて	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる　（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	総需要と総供給（GDP、GNI、など）及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
3	経済活動と物価（インフレーションと景気）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
4	財政政策（政府の役割を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
5	金融政策（中央銀行の役割・機能を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
6	ポリシー・ミックス（財政政策と金融政策の関係性）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う（９０分）中間試験のため見直しを行う（９０分）
7	経済学の基本的考え方についての復讐と中間テスト（小試験）	中間試験の準備をする　　（９０分）	自身の解答を振り返る　（９０分）
8	中間小試験のフィードバックとして、答案を採点後返却すると共に解答の仕方など個別に指導する。　貿易理論（比較優位など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える（９０分）
9	外国為替理論（中央銀行のスタンスなど）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
10	貿易と外国為替（為替リスク、多国籍企業の行動）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
11	経済統合Ⅰ（FTA・EPA、ASEAN、など概要）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
12	経済統合Ⅱ（統合の深化およびメリットとデメリット）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
13	経済統合Ⅲ（CPTTP、APEC、EU、など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス 試験範囲の提示と共に、中間試験での各自へのフィードバックの再確認と「何が身に付いたか」の自問自答 授業改善アンケートの周知	ポリシー・ミックスを復習してくる　（９０分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う　（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする(９０分)	試験の振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 （科目ナンバリング：MOF424026，MOF524028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介	研究室等所在	1号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。				

概要

履修目標

昨今の世界経済における金融の役割は非常に大きくなっている。貿易額を見ても、実物取引よりも金融取引の方がはるかに規模が大きい。こうした金融のダイナミクスは取引の電子化により、世界経済の変転を加速しつつある。世界経済に大きな影響を与える金融のメカニズムについて、その歴史とシステムを良く理解し、今後の世界経済を分析する目を養う事を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

日本の金融システムを理解し、現状の世界経済を分析・説明出来る。

授業全体の内容と概要

１．金融の歴史
２．日本の金融
３．金融システムの理解
４．金融システムとマクロ経済学の関係の理解

授業の方法

パワーポイントによる講義・必要に応じて板書。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は教科書を使用せず、板書と配付資料によって行うので、必ず出席する事。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金融の歴史について	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史や、日本の金融史を網羅的に把握している。	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史を把握している。	貨幣の発生から金融システムの成立に至る歴史を把握している。	金融システムの成立について、把握している。	金融システムの成立について、理解が見られない。
金融システムについて	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題について網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割について理解している。	金融システムに関する理解が見られない。
金融とマクロ経済について	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して、網羅的に理解している。	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して理解している。	景気循環やインフレ、デフレに関して理解している。	金融と景気循環の関係を理解している。	金融と景気の関係に関して理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 （科目ナンバリング：MOF424026，MOF524028　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　小林　大州介　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション：本講義の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する。	シラバスを良く読み、金融に関するネットニュースや新聞を良く読んでおく。（９０分）	今後のスケジュールをよく確認しておく。（９０分）
2	「金融」とは何か	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
3	金融システム発達の歴史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
4	日本の金融システム１：日本の金融史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
5	日本の金融システム２：日本の金融システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
6	「貨幣」とは何か：交換と貯蔵	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
7	資産と金融１：不確実性の回避手段としての金融	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
8	資産と金融２：金融市場と資産価格	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
9	銀行の役割と「利子」	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
10	イノベーションと金融：資金はどこから来るのか？	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
11	マクロ経済学から見た金融の役割１：金融と景気	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
12	マクロ経済学から見た金融の役割２：マクロ経済システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
13	バブル経済と金融：日本の経験を踏まえて	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
14	昨今の金融ニュースを読む：日本と世界の情勢	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
15	講義全体のまとめ	これまで講義で学んだ事を復習し、まとめておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
16	定期試験（６０分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施 授業を通しての講評を行う 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験の準備をする（９０分）。	これまで講義で学んだ事を復習する（９０分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 （科目ナンバリング：PHE122138, ）				
授業担当者 （所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾崎　有紀 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方についての知識を得る。また、現代的な問題に照らしてこれらの考え方を自ら評価することで、社会における倫理的問題について主体的に思索していく能力を身につける。この際、学生主体の学びを意識し、実践的に学習する。また、これらのことによって、大学生に求められる一般常識や態度を学習面及び生活面で活用できるスチューデントスキル、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できるスタディスキルを取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方について説明することができる。具体的な問題に照らして各立場の考え方についての自らの見解を述べ、他者と議論し、協調することができる。大学生に求められる一般常識や態度を学習面及び生活面で活用でき、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できる。

授業全体の内容と概要

はじめに、規範倫理学について考えるきっかけを与えるため、倫理学における有名な問題である「トロッコ問題」を紹介する。続いて、規範倫理学における主要な立場である功利主義と義務論の考え方について概説する。この知識に基づいて「トロッコ問題」について再考することで、倫理的問題について主体的に思索するための機会を設ける。「トロッコ問題」のような古典的な問題に加え、現代的な問題への応用も扱う。

授業の方法

授業は板書とパワーポイント資料を用いた講義形式で行う。また、グループワーク（１回）、レポート課題（１回）を実施する。レポート課題については、フィードバックとして、回収後に講評を行う。不測時における授業や補講等で、オンラインにて授業を実施する場合がある。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語を禁止する。レポートは、「関連文献が適切に押さえられているか」、「論理的な破綻がないか」、「オリジナルな考察が見られるか」、の３点から評価する。優先順位もこの順とする。講義で扱っていない内容や、自分の主観的な考えのみを書いたものには点数を与えない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
規範倫理学に関する基礎概念の習得	規範倫理学に関する基礎概念を深く理解でき、これらを自ら具体的な事例に適用することができ、実践に応用することができた。	規範倫理学に関する基礎概念を深く理解でき、これらを自ら具体的な事例に適用することができた。	規範倫理学に関する基礎概念をよく理解できた。	規範倫理学に関する基礎概念を理解できた。	規範倫理学に関する基礎概念を理解できなかった。
規範倫理学の主要な説についての知識の習得	規範倫理学の主要な説について深く理解でき、自ら批判的に考察することができた。	規範倫理学の主要な説について深く理解でき、自らの見解を持つことができた。	規範倫理学の主要な説についてよく理解できた。	規範倫理学の主要な説について理解できた。	規範倫理学の主要な説について理解できなかった。
具体的な事例における道徳的判断についての考察	自ら具体的な事例を考え、そこにおける道徳的判断について考察することができた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断について深く考察できた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断についてよく考察できた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断について考察できた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断について考察できなかった。
ディスカッションにおける発表	ディスカッションにおいて積極的に質の高い発表ができ、ディスカッションにおいて中心的役割を演じた。	ディスカッションにおいて積極的に質の高い発表ができた。	ディスカッションにおいて積極的に発表できた。	ディスカッションにおいて発表できた。	ディスカッションにおいて発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 （科目ナンバリング：PHE122138, ）				
授業担当者 （所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾崎　有紀 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『道徳形而上学原論』	イマニュエル・カント	岩波書店	1960	4-00-336251-9	
2	『功利主義』	J．S．ミル	岩波書店	2021	978-4003900048	
3	『科学者の社会的責任』	藤垣裕子	岩波書店	2018	978-4-00-029679-3	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（45分）	講義内容の復習（９０分）
2	トロッコ問題	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
3	ベンサムの功利主義	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
4	洗練された功利主義（１）	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
5	洗練された功利主義（２）	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
6	カントの義務論（１）善意志	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
7	カントの義務論（２）義務	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
8	カントの義務論（３）道徳的法則	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
9	カントの義務論（４）仮言的命法と定言的命法	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
10	カントの義務論（５）自律	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
11	カントの義務論（６）自由	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
12	因果関係と自由意志	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
13	作品鑑賞	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
14	科学者の社会的責任（１）ラッセル＝アインシュタイン宣言とパグウォッシュ会議	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
15	科学者の社会的責任（２）「責任」概念の現代的分析	主題について事前に調べておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）
16	レポートに対するフィードバック・授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業内容について復習しておく（９０分）	講義内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント （科目ナンバリング：SWS124139　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・市内包括連携施設職員ほか	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

概要

履修目標

１．福祉施設などの経営を取り巻く環境について理解する。
２．社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて理解する。
３．多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について理解する。
４．組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて理解する。
５．課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

１．福祉施設などの経営を取り巻く環境について理解することができる。
２．社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて理解することができる。
３．多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について理解することができる。
４．組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて理解することができる。
５．課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．福祉施設などの経営を取り巻く環境について学ぶ。
２．社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて学ぶ。
３．多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について学ぶ。
４．組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて学ぶ。
５．課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を学ぶ。
６．社会福祉施設の施設長など職員からお話を聞く授業等で学ぶ。
７．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義及び演習形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．適宜質問を促し、質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．社会福祉施設の施設長などの職員からお話を聞く授業等がある。
５．施設に訪問することもあります。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．社会福祉士等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。
６．スポーツなどの大会などへの参加で授業に欠席する場合は事前にご相談ください。
７．交通機関などの遅休・遅延など生じた場合も事前・事後にご相談ください。
８．何らかの問題が生じた場合などはTeamsのチャット機能や授業のチームに連絡事項を掲載しますので、見ておくようにしてください。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・学生個人、親、教員、スクールカウンセラーからの情報などを得て、対応を行う。
・具体的には「参考資料」、「板書やパワーポイント」の量や文字の大きさ、スピードへの対応を行う。
・体調不良時などはオンラインやオンデマンドの対応も行う。
・講義中の録音、録画、撮影などの対応にも配慮する。
・必要に応じて座席や教室の出入りなどの対応にも配慮する。

資格指定科目

サブメジャー(社会福祉施設経営者養成プログラム)科目

評価方法・基準

評価前提条件

１．必要な資料等は適宜配布する。
２．授業は15回ですので、最低10回は出席しなければ評価はできません。
３．その他については、出席状況と質問や発言、グループワークなどの活動状況で８０%、２０%はレポートで評価する。
４．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
　　但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	０%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
総合的かつ包括的な支援について理解する。	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
多職種連携の意義と内容について理解する。	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科４年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント （科目ナンバリング：SWS124139　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・市内包括連携施設職員ほか		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明）、これからの社会福祉法人・施設の役割と経営のあり方 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	・今日の社会福祉施設長に求められるものとは ・社会福祉施設の経営管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	・社会福祉施設におけるサービスの質と権利擁護 ・社会福祉施設のサービス管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	・地域共生社会の実現における社会福祉施設の役割と実践	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	・社会福祉施設の財務管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	・社会福祉施設の人事労務管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	・社会福祉施設におけるリスクマネジメント ・レポート課題課題の発表	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	・今日の社会福祉施設長に求められるものとは ・社会福祉施設の経営管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	・社会福祉施設におけるサービスの質と権利擁護 ・社会福祉施設のサービス管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	・地域共生社会の実現における社会福祉施設の役割と実践	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	・社会福祉施設の財務管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	・社会福祉施設の人事労務管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	・社会福祉施設のまとめ１	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	・社会福祉施設のまとめ２	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	・レポート提出 ・授業改善アンケートの実施 ・まとめ（事例研究）及びレポートに対するフィードバック（解説）を行う ・授業全体の解説	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)
16			)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療II （科目ナンバリング：PSS123035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

１．精神医学，精神医療の歴史を説明する。２．脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3．代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解，とくに主要な精神疾患の症状，経過，治療等についての理解を深める。

授業の方法

講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において，前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必ず予習をして、積極的に質問して，わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
筆記試験で規定の成績を得たもの。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅱ （科目ナンバリング：PSS123035　　）				
授業担当者 （所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座　第１巻　精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会　編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション　シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
2	代表的な精神障害①　成人の人格および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
3	代表的な精神障害②　精神遅滞	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
4	代表的な精神障害③　心理的発達の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
5	代表的な精神障害④　小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
6	代表的な精神障害⑤　神経系の疾患（てんかんを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
7	治療法①　身体的療法　薬物療法とその副作用	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
8	治療法②　身体的療法　電気ショック療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
9	治療法③　精神療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
10	治療法④　環境・社会療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
11	治療法⑤　精神科リハビリテーション	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
12	病院精神医療（身体合併症医療，インフォームドコンセントを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
13	精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
14	地域精神医学	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
15	まとめ	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説し、フィードバックする 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと（９０分）	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導III （科目ナンバリング：SWS123049　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
②精神保健福祉領域における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱを修了していることを前提とする。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導III （科目ナンバリング：SWS123049　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	総まとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証、授業評価アンケートの実施 実施した授業のフィードバック	個人の振り返りをしておくこと（９０分）	実習資料・日誌などの整理を行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習III （科目ナンバリング：SWS124052　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	3　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。
② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。
③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
②実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。

授業の方法

①各機関により、実践的な知識、経験の習得を目的とした学び。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。
②精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを前提とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低実習時間は９６時間以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習III （科目ナンバリング：SWS124052　　）				
授業担当者 （所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	3　（単位認定責任者：　西野　克俊　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 科目を修了して『身に付く力』についての説明	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
2	利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
3	利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
4	利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含。）とその評価	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
5	施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
6	地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
7	施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
8	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 フィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証	自己学習と目標設定（９０分）	１日の振り返り・記録作成（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク実習 （科目ナンバリング：SWS124056　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　上原　正希　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

概要

履修目標

１．日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。
２．スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。
３．教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。
４．子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
※スクールソーシャルワーク教育課程認定に関する規程第６条第３項第二号及び第４項第二号関係に定める科目の教育内容

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解し、説明でき、実践できる。
２．スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養い、説明でき、実践できる。
３．教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解し、説明でき、実践できる。
４．子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、説明でき、実践できる。

授業全体の内容と概要

１．日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的について学ぶ。
２．スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を学ぶ。
３．教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的を学ぶ。。
４．子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について学ぶ。
５．３・４年次において、社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習を単位取得もしくは単位取得見込みの学生に対し、更に将来、教育の分野でスクールソーシャルワーカーとして就職を希望する学生に対して本実習を開講する。
６．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
７．最低１０日（８０時間）以上の実習を行うことになり、ジェネリック実習は社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習で、すでに習得していることを前提に、スペシフィック・ソーシャルワーク実習と位置づけ授業が行われる。
８．実習科目であり、大学生と大学教員、また実習先でのスーパーバイザーやクライエントなど、多くの方の悩みやスキル、経験から学ぶ。

授業の方法

１．授業形態は「実習形式」である。
２．週1回の実習巡回時に資料を適宜配布し、ポイントとするべきことは説明を行う。
３．週1回の実習巡回時に適宜質問を促し、対応する。
４．自然災害等などの状況により、講義・演習、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．必要な資料等は適宜配布する。
２．３・４年次に社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習を履修し、単位を取得済みもしくは単位取得見込みの学生が履修できる。
３．将来、教育の分野でスクールソーシャルワーカーとして勤務することを強く願う、意欲のある学生に開講される。
４．実習科目であり、大学生と大学教員、また実習先でのスーパーバイザーやクライエントなど、多くの方の悩みやスキル、経験から学ぶことから、守秘義務を守る必要性があることから、知りえた情報は外部に漏らさない等、気をつけなくてはならない。
５．実習中は部活やアルバイトはできないことから、事前に部活の顧問やバイト先に相談すること。
７．単位の取得後、社会福祉士もしくは精神保健福祉士国家試験の受験・合格をした後、大学を通し日本ソーシャルワーク教育学校連盟に対し、手続きを行い、その結果として「スクールソーシャルワーク養成課程における認定証」が認定される。
８．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
９．大学のペーパレス化に伴い、教科書など指定した場合は、必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・学生個人、親、教員、スクールカウンセラーからの情報などを得て、対応を行う。
・具体的には「参考資料」、「板書やパワーポイント」の量や文字の大きさ、スピードへの対応を行う。
・講義中の録音、録画、撮影などの対応にも配慮する。
・必要に応じて座席や教室の出入りなどの対応にも配慮する。

資格指定科目

スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程課程

評価方法・基準

評価前提条件

・実習１０日間(８０時間）を実施することで、単位取得となる。
・別途、実習に行くにあたりスペシフィックな視点が必要なことから、事前・事後学習の科目がある。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	０%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識・技術】実習前に、スクールソーシャルワーカーについての知識を習得する。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習前に、スクールソーシャルワークについておおむね知識を習得できた。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識を習得ができた。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。
【知識・技術】実習修了時、スクールソーシャルワークについての知識を習得する。	実習修了時、スクールソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習修了時、スクールソーシャルワークについての知識をおおむね習得できた。	実習修了時、スクールソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習修了時、スクールソーシャルワークについての知識を習得できなかった。	実習修了時、スクールソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。
【知識・技術】実習修了後、スクールソーシャルワークについての技術を習得する。	実習修了後、スクールソーシャルワークについての技術を非常に習得できた。	実習修了後、スクールソーシャルワークについての技術をおおむね習得できた。	実習修了後、スクールソーシャルワークについての技術を習得できた。	実習修了後、スクールソーシャルワークについての技術を習得できなかった。	実習修了後、スクールソーシャルワークについての技術を大きくできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習 （科目ナンバリング：SWS124056　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　　上原　正希　　）		CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	資格、実務経験、社会的な活動として、社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、医療法人が経営する医療機関や老人保健施設でケアワーカー、ソーシャルワーカーとしての実務経験があり、また、社会福祉士・精神保健福祉士や保育士・教員、看護師・保健師・助産師を養成する他大学や看護学校での勤務、社会的な活動としては、ソー		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照してください。その他の時間でも対応ができることもありますので、事前にチャットなどで空き時間などを確認いただき、双方の空き時間で対応をさせていただきます。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門　スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格　/ 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・初回の授業ということでガイダンスとして、シラバスを示し、授業現在の流れや成績評価について説明を行う。 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明 ・科目を修了して『身に付く力』についての説明 ・実習１０日間（８０時間）を実施することで、単位取得とな	事前課題を別途指定する。 シラバスの確認と学習内容を確認し、事前にTeamsにアップした資料や、教科書を事前に読み、修得目標を立てる（９０分）	事後課題を別途指定する。授業内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
2	実習１０日間（８０時間）	翌日の実習で学ぶべき目標等を日誌に書きこんでおく（９０分）	その日実習で学んだことを日誌に書きこんでおく。実習内容の振り返りと自身の修得目標達成度を測定する（９０分）
3	実習終了後、授業改善アンケートの実施。 授業全体の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業全体のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと（９０分）	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（９０分）
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅱ （科目ナンバリング：CHS124100　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実習生受入経験を活かし、保育実習の総合的な学びに対する指導、助言を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下を授業の目的とする。
１．保育実習の意義と目的を理解し，保育について総合的に学ぶ。
２．実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ，保育実践力を培う。
３．保育の観察，記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
４．保育士の専門性と職業倫理について理解する。
５．実習の事後指導を通して，実習の総括と自己評価を行い，保育に対する課題や認識を明確にする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５対応する。

到達目標

保育実習による総合的な学び，保育実践力の育成，計画と観察，記録，自己評価，保育士の専門性と職業倫理について理解と実践ができる。

授業全体の内容と概要

保育実習Ⅱ（保育所）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び，保育実践力の育成，計画と観察，記録，自己評価，保育士の専門性と職業倫理について学修する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

保育実習先施設に出勤し、保育実習指導担当保育士の指示のもと、日々の目標にそって実習を行う。
実習期間中、担当教員による訪問指導を行い、課題の明確化や相談の時間を設定し、実習指導者との面談内容等のフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能も活用し、個別に実習相談や意見交換等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

保育実習手引きに記載している実習生心構えを基本として，保育実習に積極的に取り組むこと。
遅刻・欠席・早退は、その分実習日数の延長となる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０日間以上の実習を行うこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１０%	１０%	２０%	１０%	１０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の専門的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の専門的知識の活用について十分に理解した。	保育の専門的知識の活用についておおむね理解した。	保育の専門的知識の活用について理解した。	保育の専門的知識の活用について多少は理解した。	保育の専門的知識の活用について理解することができなかった。
保育技術獲得に向けた思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育実習による総合的な学びを、記録を通して積極的に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通しておおむね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通して多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通して表すことができなかった。
パフォーマンス（知識、スキルを使いこなす活用、応用）	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化におおむね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅱ （科目ナンバリング：CHS124100　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実習生受入経験を活かし、保育実習の総合的な学びに対する指導、助言を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育実習の手引き』					学内テキスト
2	『新訂知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』	石橋裕子・林幸範	同文書院	２０２０	9784810314755	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	２０１７	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。履修によって「身に付く力」の説明を含む。保育所の保育内容の各領域とその全体を実践に照らして理解を深める。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
2	保育士倫理要綱に照らし合わせた実践を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
3	実践における指導技術を身につける。養護と教育が一体となって行われる保育について理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから養護と教育の一体性について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
4	保育計画，年間・月間・週間及び１日の指導計画の体系と立案の方法を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから「保育の計画」について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
5	保育士の指導のもと乳幼児の保育を担当し，保育実践を総合的に学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
6	乳幼児の集団を全体的にとらえる視点と，個別の発達の方向付けを具体的に学習する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから集団と個別性について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
7	子どもの発達の課題や保育所の生活に慣れにくい状態などへの具体的な対応方法を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから子どもの発達課題について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
8	家族とのコミュニケーションの方法，子育て支援の実際を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから家族との関わりについて振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
9	保育所の社会的役割と責任について学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから保育所の役割について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
10	子どもの心身の状態や活動の観察を通して保育者の援助を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてからアセスメントの重要性を振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
11	環境を通して行う保育、生活や遊びを通して行う保育を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから環境保育について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
12	入所している子どもの保護者に対する子育て支援について学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから子育て支援について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
13	関係機関や地域社会との連携・協働について理解を深める。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）。	実習を終えてから地域との連携について振り返り１日の日誌を完成させる（４５分）。
14	作成した指導計画に基づく保育の実践と評価を体験する。	指導計画に基づくシミュレーションの実施（４５分）。	実習の総括と課題の明確化を行い、反省会の準備をする（４５分）。
15	多様な保育の展開と保育士の業務についてまとめ、職業倫理を理解する。実習先における評価・反省会の実施	保育士の専門性について再度理解する（４５分）。	保育士の職業倫理についてまとめる（４５分）。
16	実習のまとめ・レポートの実施（「身に付く力」の検証） 授業最終回において講評をし、フィードバックする	実習全日程の振り返りをまとめる（４５分）。	日誌を全日程完成させ提出する（４５分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習III （科目ナンバリング：CHS124101　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
既習の今日科目や保育実習の経験を踏まえ児童福祉施設における保育を実際に実践し、保育士としての必要な資質、能力、技術を習得し深めるとともに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要な能力を養う。

授業の位置づけ

社会福祉学科の ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
・保育士としての職業倫理を理解し、児童福祉施設等において保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。(スタディスキル)

授業全体の内容と概要

児童福祉施設等において１０日間以上の実習を行う。保育全般に参加し、子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。指導計画を立案し、実際に実践し、家庭とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。学内において、実習の事前・事後指導を行う。SDG4.「質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。「保育実習Ⅱ」か「保育実習III」のいずれかを必ず選択すること。正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめとする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価（単位認定）しない。保育実習実施後，発表の場を設け原稿用紙（４００字）約３枚程度のレポート提出を１回課す。発表会終了後、実習全体のまとめとしての原稿用紙（４００字）約４枚程度のレポート提出を１回課す。なお、詳細（レポート課題・提出方法等）は授業時間に指示する。実習期間中は訪問指導を行い、質問等には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート、課題、その他（実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等）を上記の基準で評価する。「保育実習III」は保育士資格を取得するための必修科目である。「保育実習Ⅱ」か「保育実習III」のいずれかを必ず選択すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

レポート，課題、その他（実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等）を下記の基準で評価する。実習は１０日以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１０%	１０%	２０%	１０%	１０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか，何ができるか)	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について十分に理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について概ねに理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について多少は理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること，できることをどう使うか)	児童福祉施設等における保育技術の展開について十分に考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について概ね考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について多少は考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	施設実習による総合的な学びを記録で十分に表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で概ね表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で多少表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識，スキルを使いこなす活用，応用)	施設実習にこにおいて自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	施設実習にこにおいて自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	施設実習にこにおいて自己評価と課題の明確化取り組むことができた。	施設実習にこにおいて自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	施設実習にこにおいて自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習III （科目ナンバリング：CHS124101　　）				
授業担当者 （所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2　（単位認定責任者：　湯浅　頼佳　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド　第二版』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2018	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『実習の手引き』					
2	『学内テキスト』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 この科目を履修し終了した時に「身に着く力」の説明授業改善アンケート結果反映の説明 児童福祉施設等における援助プログラムを理解する	シラバスを読む。座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	シラバスを確認する。実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる。「身に着く力」について考察する。（４５分）
2	児童福祉施設等における援助プログラムの立案をする	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
3	児童福祉施設等における援助プログラムにもとづく援助実践を行う	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
4	児童福祉施設等における保育士の職務と技術を習得する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
5	児童福祉施設等における保育士と他職種との連携を理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
6	児童福祉施設等における利用児・者の権利擁護をすすめる取り組みについて，具体的な対応方法を学ぶ	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
7	児童福祉施設等における種別ごとの特徴と種別を越えて共通する課題が存在することを実践を通して学習する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
8	児童福祉施設等における権利擁護と守秘義務を理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
9	実習の計画と記録（１）実習における計画	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
10	実習の計画と記録（２）実習における実践	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
11	実習の計画と記録（３）実習における観察	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
12	実習の計画と記録（４）実習における記録	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
13	実習の計画と記録（５）実習における評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
14	実習の総括と自己評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
15	実習の総括と課題の明確化	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（４５分）	実習を終えてから振り返りを行い、１日の日誌を完成させる（４５分）
16	実習の総括と振り返り 授業最終回において講評し、フィードバック実施 第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施	実習の総括と振り返りを行い、反省会の準備をする（４５分）	反省会の振り返りを行う。日誌を全日程完成させ提出する。「身に着く力」について再度考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 （科目ナンバリング：CHS124102　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通じて理解した課題を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力が身につく。自己課題の明確化及び保育の実践に際して必要となる基礎的資質・能力が身につく。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

保育士として必要な専門的知識、技術、職業倫理観について振り返ることができる。保育実習後の自己課題に気づき、保育士に求められる資質・能力が何かを認識できる。

授業全体の内容と概要

保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得について振り返る。さらに、保育実習等体験学習を通し、自己課題を明確にして保育士に求められる資質・能力とは何かを認識する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

演習を中心とした授業を行っていく中で，実際の保育現場の事例をあげ，子どもや保護者，保育者の様子をイメージしながら，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。
遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。
学外の保育現場等へ出向くこともあるため、社会人としてふさわしい態度を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の実践方法の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育実践について基礎的な知識を深く理解できた。	保育実践について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解できた。	保育実践について基礎的な知識を多少理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題をおおむね明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して多少自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 （科目ナンバリング：CHS124102　　）				
授業担当者 （所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　吉江　幸子　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション（履修により「身に付く力」の説明を含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
2	学びの振り返り①保育士の意義、役割についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
3	学びの振り返り②保育士の職務内容、子どもに対する責任、倫理についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
4	学びの振り返り③社会性、対人関係能力についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
5	学びの振り返り④子どもやその家庭の理解についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
6	学びの振り返り⑤職員間、関係機関との連携についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
7	学びの振り返り⑥保育や子育て家庭に対する支援の展開に関する討論	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
8	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク① 課題について	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
9	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク② 要因、背景について	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
10	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク③ 課題解決の内容と方法	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
11	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループ発表、評価	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
12	これまでの学修を踏まえ、自己の課題の明確化	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
13	これまでの学修を踏まえ、目指す保育士像について明確化	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
14	自己の課題、保育士像に向けて取り組むべき具体的手段や方法の明確化	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
15	保育士としての資質、能力についての研究発表とまとめ	資料を読み、学修しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
16	レポートに関する解説しフィードバックする（「身に付く力」の検証） 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく。（９０分）	解説を受け、講義全体をふりかえること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習 （科目ナンバリング：SNE122103，SNE124115　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	２号館7階		
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別支援学校教諭を希望する学生が、講義等をとおして得た教育内容・方法の理論や技術を教育現場で体験的に理解するとともに、教職に対する新たな課題の発見をとおして自己認識を高める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

教育実習をとおして、教育実習校の組織・教員間の協働意識・児童生徒の安全指導・保護者との連携等を理解することができる。

授業全体の内容と概要

①教育実習校の教育活動・教育課程・学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談の理解　②教育実習校における授業参観，参観をとおした生徒理解と実習授業の実践　③学習指導案の作成と研究授業における指導　④教職に対する使命感・責任感と自己の理解
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

特別支援学校において教育実習を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育実習生としての心得を守るとともに，教育実習校の指示に従うこと。
不測の事態が起きた際の授業等をオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数を満たしていること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育実習校の教育活動の理解	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を積極的に習得し，主体的な実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を積極的に習得し，実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を習得し，実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能をほぼ習得し，実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を習得した実習が実施できなかった。
教育実習校での実習授業	授業参観等をとおして児童生徒理解を積極的に図り，的確な思考力・判断力のもと学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をとおして児童生徒理解を図り，思考力・判断力のもと学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をとおして児童生徒理解を図るようこころがけ，思考力・判断力を大切に学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をとおしての児童生徒理解は十分ではなかったが，学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をとおして児童生徒理解を図ることができず，学習指導案に基づいた授業が展開できなかった。
教職に対する自己認識	教職に対する使命感・責任感を持って 新たな課題を発見するなど，自己認識を高めることができた。	教職に対する使命感・責任感を持って 課題発見に取り組むなど，自己認識を高めることができた。	教職に対する使命感・責任感を持って取り組むなど，自己認識を高めよう努めることができた。	教職に対する責任感を持って取り組むなどの姿勢ができた。	教職に対する責任感を持って取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習 （科目ナンバリング：SNE122103，SNE124115　　）				
授業担当者 （所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）、千葉　聡美（社会福	研究室等所在	２号館7階		
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）			CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　第4版２０２０』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2025	9784863717138	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	１～３２回 ・講話等講（校長・副校長・教頭・主幹教諭・教務主任・生徒指導主事・学務主任等） ・授業参観，授業交流（全授業時間60時間中，授業参観17時間，担当授業12時間，研究授業1時間）	教育実習に係る諸事項についての計画的，継続的な準備（各４５分）	教育実習に係る諸事項についての計画的，継続的な整理（各４５分）
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事後指導) （科目ナンバリング：SNE123126　　）				
授業担当者 （所属・職名）	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階（木村）・２号館７階（千葉）		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特殊教育から特別支援教育に転換した趣旨を的確に把握し、特別支援学校教育実習の意義を認識するとともに、常に教育実習を見据えて、特別支援学校における教師の役割について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

特別支援学校の教育の概要について理解し、障害のある子どもの教育指導の在り方について基礎的な知識・技能・態度を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

特別支援学校の教育の概要及び授業の実際について理解できるようにするとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解をはかるようにする。また、テーマに関する事項に関して思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的な授業は、パワーポイント及び配布物資料で実施する。
実際に教育実習に行く予定の学校の授業を想定した模擬授業を受講者に行っていただく。
模擬授業の感想・意見を発表し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

特別支援教育実習（事前指導　４年）を併せた２単位の取得が必要である。
教職科目（特別支援教育）であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１　回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できなかった。
授業テーマに関するレポートの記述・発表	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、　ほぼ時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、　時間内に記述・発表ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事後指導) (科目ナンバリング：SNE123126　　)				
授業担当者 (所属・職名)	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（　社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階（木村）・２号館７階（千葉）		
単位数	1　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	２０１５		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」 「授業改善アンケート結果反映の説明」」「講義の進め方」	関連する資料の収集に努めること。（９０分）	オリエンテーションの重要事項を整理すること。（９０分）
2	学習指導方法の研究（１） ・教育課程の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
3	学習指導方法の研究（２） ・生徒指導の研究生徒 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
4	学習指導方法の研究（３） ・特別活動・学校行事の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
5	模擬授業の実際Ⅶ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
6	模擬授業の実際Ⅷ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
7	模擬授業の実際Ⅸ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
8	模擬授業の実際Ｘ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
9	学習指導方法の研究（４） ・キャリア教育の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
10	学習指導方法の研究（５） ・「保護者や地域との連携」の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
11	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
12	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
13	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
14	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
15	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
16	特別支援教育実習（事後学習）のまとめ（フィードバックと身に付く力の検証） ・教職員としての心構え 授業改善アンケートの実施	調査や報告内容を整理しておくこと。（９０分）	講義内容を整理すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅱ （科目ナンバリング：HUG122126, ）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2 （単位認定責任者： 塩崎　大輔 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人文地理学の基礎を理解するともに、地理空間情報の基礎を知り，地域や教育に活用できる考え方の基礎を身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ４、ＤＰ5に対応する。

到達目標

１．人文地理学的な見方・考え方を修得する。
２．地理空間情報及びGISの基礎知識を習得する。

授業全体の内容と概要

近年身近に普及している地理空間情報とGIS（地理情報システム）の基礎と活用方法を学ぶ。その知識を応用し、教育に活かす力を身に付けることを目標とする。またその過程でオープンデータとして公開されている統計情報を活用するスキルを身に付ける。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。またPCを利用し、GISソフトを活用した作業を行い、その成果についてディスカッションを行う。作業を行う過程で、政府統計の総合窓口e-Statや地理情報分析支援システムMANDARAの活用法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（地理歴史）必修科目　（社会）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
地理空間情報・GISスキル	右の記述を高いレベルで実現していた。	地理空間情報およびGISを活用し、、たいへんわかりやすく説明ができた。	地理空間情報およびGISを活用し、説明することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができなかった。
資料収集・活用	統計情報等の資料収集を行い、高いレベルで活用し、説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用し説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用することができた。	統計情報等の資料収集を行った。	統計情報等の資料収集を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅱ （科目ナンバリング：HUG122126, ）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	身の回りのGIS	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	地理空間情報とGIS	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	統計情報とオープンデータ	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	統計情報の収集	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	統計情報の編集	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	統計情報の可視化	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
8	GISの基礎①　測地系と座標系	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	GISの基礎②　地図の作成	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	GISの基礎③　地理空間情報の可視化・地図化	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	GISの基礎④　地理空間情報の整理	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	GISの基礎⑥　地理空間情報の統合	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	GISの基礎⑤　地理空間情報の活用	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	次回成果発表の準備学修。（９０分）
14	地理空間情報の活用成果発表①	成果発表の準備学修。（９０分）	次回成果発表の準備学修。（９０分）
15	地理空間情報の活用成果発表②	成果発表の準備学修。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施 全体を講評し、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	まとめの準備。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 （科目ナンバリング：SWS124119　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小早川　俊哉（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

①福祉概念の変遷を時代背景と共に理解する。
②其々の時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解する。
③第二次世界大戦後の我が国の福祉の変遷を理解する。
④現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP3，DP4、DP5に対応する科目

到達目標

①福祉に関する自身の考えを論理的に述べる力を獲得する。
②時代背景と社会の在り方を理解することから、社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方の関連性を理解する。
③ファシリテーターとしてグループワークを取りまとめることができる。

授業全体の内容と概要

①これまでに学んできたことを基盤として、更なる福祉観の醸成を図る。
②１つのテーマを講義、グループワーク、プレゼンテーションを通して、背景（要因・理由）とその内容（考え方・概念）を論理的に考察する。
③現代の課題をテーマとした際は、社会背景（要因・理由）から解決策を考察する。
「SDGｓ．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①２コマを１パッケージとして（１６コマ÷２コマ＝８パッケージ）展開する。
②１コマ目を講義、２コマ目は講義を基本にグループワークと結論をプレゼンする。
③テーマにより、２コマ目のプレゼンをディベートに置き換える。
④講義のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsあるいはキャンパスクロスのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

これまでに学んできたこと、例えば社会保障、社会福祉の原理と政策など，他の授業との関わりに注意する。
授業中の積極性（質問、質問への回答、課題提供、ファシリテーションなど）は、その場で確認することで成績に反映させる。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回／１６回以上
積極的な発言・質問・回答、課題提供、ファシリテーション、プレゼンテーションなどと、平常点（授業への真摯な取り組み）の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	００%	２０%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉に関する自身の考えを論理的に述べることができた。	自身の福祉観を構築することができた。	論理性に時代背景、社会背景が含まれていた。	福祉に関する自身の考えを論理的に述べることができた。	福祉に関する自身の考えを述べることができた。	福祉に関する自身の考えを述べることができなかった。
時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた。	具体的な関連性を例を使い説明することができた。	時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた	社会システムが変化することが理解できた。	時代背景とは何かを理解することができた。	時代背景とは何かを理解することができなかった。
現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	昨今、なぜソーシャルポリシーが必要なのかを説明できた。	現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	ソーシャルポリシーの概念を理解できた。	現代の福祉的社会課題を提示することができた。	現代の福祉的社会課題を提示することができなかった。
社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方を関連付けられる。					

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 （科目ナンバリング：SWS124119　　）				
授業担当者 （所属・職名）	小早川　俊哉（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　　小早川　俊哉　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、特に授業修了において「身に付く力」につい説明、授業改善アンケート結果についての説明、オリエンテーションとしてヨーロッパの中世以前の歴史的時代背景と福祉体制（講義）	シラバスの読み込みとレジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	上記ヨーロッパの歴史的時代背景と福祉体制の関連についてのグループワーク、プレゼン、討議	前回講義の復習（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
3	ヨーロッパ中世から第二次世界大戦までの社会的背景と福祉体制の変遷について（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
4	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議	グループワーク、プレゼンの準備（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
5	日本の近代までの社会的背景と福祉体制の変遷（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
6	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議	グループワーク、プレゼンの準備（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
7	幕末から明治維新後の社会的背景と福祉概念の変遷（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
8	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議	グループワーク、プレゼンの準備（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
9	戦前日本の社会背景と福祉概念について（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
10	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議	グループワーク、プレゼンの準備（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
11	戦後日本の社会背景と福祉概念について（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
12	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議	グループワーク、プレゼンの準備（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
13	現代日本の社会的背景と福祉概念の変遷（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議	グループワーク、プレゼンの準備（９０分）	グループワーク、プレゼン、討議をまとめる（９０分）
15	現代日本の福祉的課題と対策について；給付付き税額控除を含む（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	これまでの学びをまとめる（９０分）
16	上記講義についてのグループワーク、プレゼン、討議および本授業を通して「自身の福祉観」を発表する 授業内でフィードバック	自身の福祉観と本授業を通して得たものを各自確認	これまでに得たものと今後の課題を確認

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年，社会福祉学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法 （科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館1階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々国家が遵守すべき法である。国際社会
の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め，国際社会のルールについて学び、身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。
社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め，更に高度な知識を得るための
基礎をつくる。

授業全体の内容と概要

国際法の存在意義について考え，国際法に関する基礎知識の習得を目指す。
「SDG　16.　平和と公正をすべての人に」の関連科目。

授業の方法

板書、プリントなどを用い、講義形式・学生参加型授業を実施する。　レポートの解説等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業（定期試験を含む）のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	０%	0%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績９割以上。用語･理論共によく理解していた。	試験の成績８割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績７割以上。用語･理論をある程度理解していた。	試験の成績６割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績６割未満。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力･表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力･表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力･表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年，社会福祉学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法 （科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館1階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめての国際法　第3版』	尾崎　哲夫著	自由国民社	2016年	9784426122775	
2	『よくわかる国際法　第2版　やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ』	大森　正仁編著	ミネルヴァ書房	2014年	9784623069781	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関するガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読むこと。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
2	国際公法と国際私法	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
3	国際法の主体と法源	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
4	国際法の歴史	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
5	条約、条約の改定・修正	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
6	国際紛争と法的解決	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
7	日米間の条約と問題点	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
8	北方領土問題の歴史的経緯と法的問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
9	国家領域「領土」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
10	日本の領土問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
11	国会領域「領海」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
12	領空と国際空域 宇宙空間	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
13	国際連合の成立とその役割	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
14	国際法と個人の関係①	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
15	国際法と個人の関係②	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまで学んだことを確認（９０分）	試験の内容を復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌Ⅰ （科目ナンバリング：HUG122130，　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　　塩崎　大輔　　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

海外の事例と身近な事例を通して地誌学の基礎概念や方法論に触れ、議論することができる知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP４、DP５に対応する。

到達目標

地誌学の基礎を身につける。
東南アジアの事例から、地域と経済の関係を考えることができる。

授業全体の内容と概要

本授業では東南アジアを対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また東南アジアというグローバルな視点から日本との関係を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まずマレーシアを中心とした東南アジアの地理的条件および産業を学び、アジア通貨危機と世界金融危機によってどのような影響を受けたのかを解説する。そして東南アジア諸国における港湾の発達、知的クラスターの形成、そうして生み出された知的財産家の保護に焦点をあて説明する。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」および「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。教科書を中心にスライド資料及び映像資料を交えながら講義を進める。そのため、教科書を必ず用意すること。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなっかた。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌Ⅰ （科目ナンバリング：HUG122130,　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新版 東南アジアの経済発展と世界金融危機: アジア通貨危機からコロナショックまで』	橋本 雄一	古今書院	2024	4772253599	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地誌学概論	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	東南アジアの地理的条件	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	マレー半島の歴史	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	東南アジアの産業政策	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	グローバル化と金融	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	アジア通貨危機の概要と発生	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	アジア通貨危機と東南アジア経済	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	金融と土地利用　～住宅バブル～	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
10	CDOとCDS	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	世界金融危機の概要と発生	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
12	世界金融危機と東南アジアへの影響	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	東南アジアにおけるインフラ整備と地域開発	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	東南アジアにおける知的クラスターの形成	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	これからの地理教育における地誌の課題	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 全体を講評し、フィートバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌Ⅱ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩崎　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	2　（単位認定責任者：　塩崎　大輔　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

身近な地域の地誌を学ぶことによって、その地域性を理解し、また地域を多面的多角的に議論する能力を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。

到達目標

１．北海道の地域性を説明することができ、他地域の地域性を学ぶ力を身につける。
２．地域をマイクロスケールからミクロスケールで見ること学び、多面的多角的な視点を養う。

授業全体の内容と概要

本授業では北海道と対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また，北海道や市町村といったローカルな視点で地域を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まず北海道の自然条件と歴史に着目し、その地域性を俯瞰する。そして北海道の市町村レベルで地域の形成過程を見ていく。そうした中で近年スキーリゾート開発が進み、インバウンド観光が盛んとなったニセコエリアを対象とし、ミクロな地域の変容を解説する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」および「ＳＤＧ１１．住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。スライド資料を中心に映像資料を交えながら講義を進める。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	５０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌Ⅱ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	北海道の地理的条件①　気候と地形	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	北海道の地理的条件②　土地成因	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	北海道の地理的条件③　北海道の開発	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	北海道とアイヌ文化	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
6	北海道の農業	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	北海道の工業	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
8	北海道の商業	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
9	広域中心都市の形成	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	港湾都市の形成と再開発	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	災害とまちづくり	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	自然環境の保全と共存	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
13	ニセコエリア①～インバウンド観光と新たなまちづくり～	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	ニセコエリア②～土地利用変化～	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	ニセコエリア③～近年のスキーリゾート開発～	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 全体を講評し、フィートバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅱ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。
３．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。
３．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について学ぶ。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について学ぶ。
３．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について学ぶ。
４．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用した場合、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１．資料は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８５%	０%	０%	０%	０%	１５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、ソーシャルワークの理論と方法、医学概論、高齢者福祉、障害者福祉の5科目の重要な部分について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅱ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明） 国家試験の現状について 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	基礎力テスト(ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
5	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの理論と方法　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの理論と方法　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	基礎力テスト(ソーシャルワークの理論と方法　) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
8	福祉士試験共通対策基礎講座～医学概論　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	福祉士試験共通対策基礎講座～医学概論　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	基礎力テスト(医学概論) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
11	福祉士試験共通対策基礎講座～高齢者福祉　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	福祉士試験共通対策基礎講座～高齢者福祉　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	基礎力テスト(高齢者福祉) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
14	福祉士試験共通対策基礎講座～障害者福祉　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	福祉士試験共通対策基礎講座～障害者福祉　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	基礎力テスト(障害者福祉) 基礎力テストのフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。
３．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の4科目の重要な部分について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。

到達目標

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。
３．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について学ぶ。
２．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について学ぶ。
３．社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について学ぶ。
４．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用した場合、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１．資料は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０%の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８５%	０%	０%	０%	０%	１５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の社会調査の基礎、地域福祉と包括的支援体制、福祉サービスの組織と経営、刑事司法と福祉の４科目の重要な部分について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅳ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者 （所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明） 国家試験の現状について 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	福祉士試験共通対策基礎講座～社会調査の基礎　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	福祉士試験共通対策基礎講座～社会調査の基礎　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	基礎力テスト(社会調査の基礎) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
5	福祉士試験共通対策基礎講座～地域福祉と包括的支援体制　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	福祉士試験共通対策基礎講座～地域福祉と包括的支援体制　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	基礎力テスト(地域福祉と包括的支援体制) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
8	福祉士試験共通対策基礎講座～福祉サービスの組織と経営　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	福祉士試験共通対策基礎講座～福祉サービスの組織と経営　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	基礎力テスト(福祉サービスの組織と経営) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
11	福祉士試験共通対策基礎講座～刑事司法と福祉　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	福祉士試験共通対策基礎講座～刑事司法と福祉　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	基礎力テスト(刑事司法と福祉) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）
14	福祉士試験共通対策基礎講座～まとめ　前編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	福祉士試験共通対策基礎講座～まとめ　後編	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	基礎力テスト(まとめ) 基礎力テストのフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(９０分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			